

平成30年度発掘調査報告

(第1分冊)

名越ヶ谷遺跡

大倉幕府周辺遺跡群

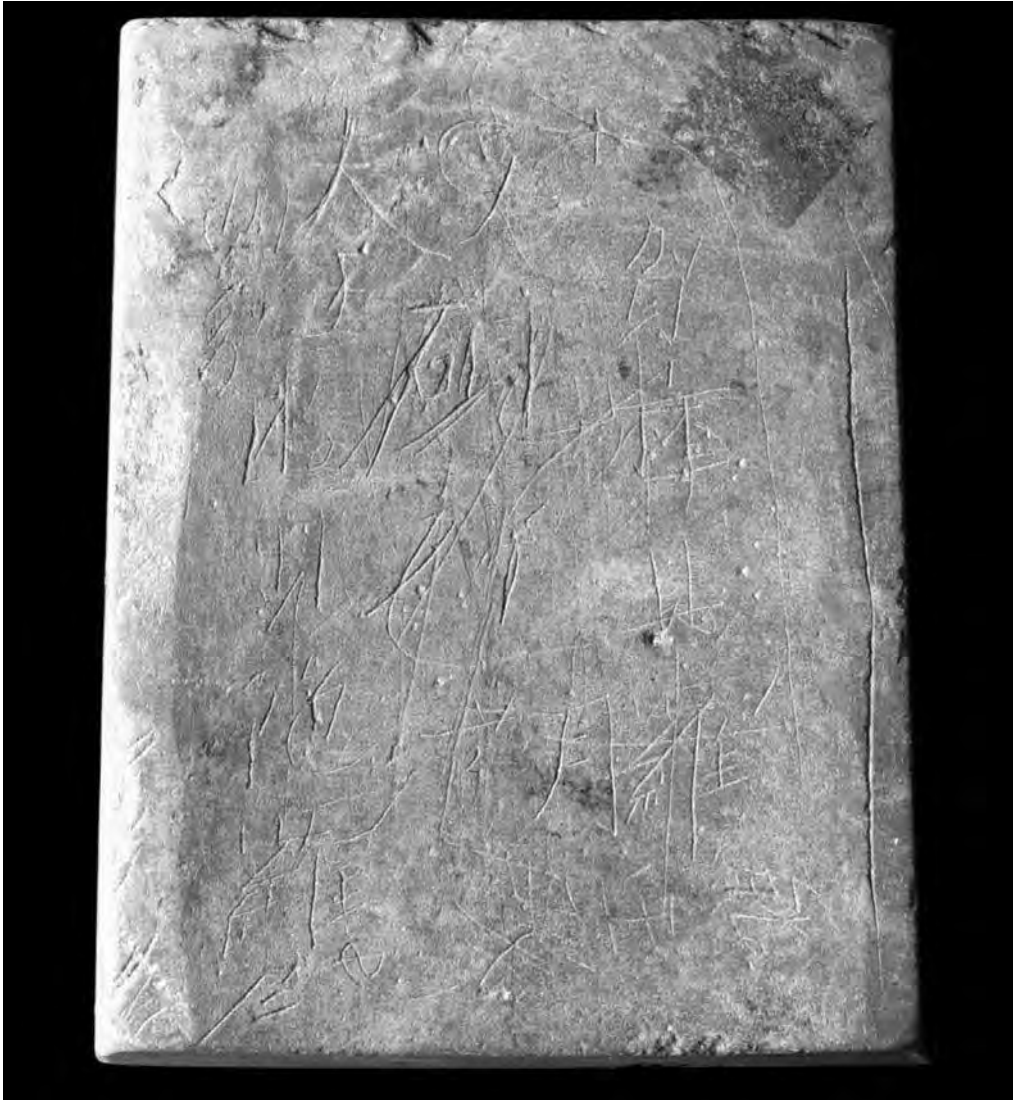
下馬周辺遺跡

川越重頼邸跡

桑ヶ谷療病院跡

平成31年3月

鎌倉市教育委員会



大倉幕府周辺遺跡群（二階堂字荏柄 3 番 6 外地点） 2 面土坑 0 2 出土の硯（裏面）



桑ヶ谷療病院跡（長谷三丁目 630 番 1 地点） 調査地点と周辺を望む（南から）

## ご あ い さ つ

本市は、市域の6割以上が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。そのため、家屋や店舗の新築や建替え等に伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が行われることも多くあります。このように、私たちが日々の生活を送っていく上でやむを得ず失われる埋蔵文化財について、記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅の建築等に係る発掘調査を実施しています。本書は平成17～23・25・26・29年度に実施した、個人専用住宅の建築等に伴う発掘調査28か所の調査記録を掲載しています。

本書に収めたひとつひとつの調査成果は、武家政権発祥の地であり、今もその歴史を継承し、文化を発信する鎌倉の貴重な文化遺産です。これらの成果を広く知っていただくとともに、研究資料として活用されることを願って止みません。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたっては、関係者の皆様に深い御理解を賜るとともに、さまざまな御協力をいただきましたことを心からお礼を申し上げます。

平成31年3月29日  
鎌倉市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は平成 30 年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書(第 1 分冊)である。
- 2 本書所収の調査地点及び所収分冊は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

# 第1分冊 目次

ごあいさつ	I
例言	II
目次	III
本誌掲載の平成17～23、25・26・29～30年度発掘調査地点一覧	IV
平成30年度調査の概観	V
調査地点位置図	VII
<b>1 名越ヶ谷遺跡 (No. 231) 大町三丁目 1230 番 4、7、10 外地点</b>	
第一章 調査地点の位置と歴史的環境	4
第二章 調査の経過	4
第三章 検出した遺構と遺物	9
第四章 まとめ	9
<b>2 大倉幕府周辺遺跡群 (No. 49) 二階堂字荏柄 3 番 6 外地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	23
第二章 調査の方法と経過	27
第三章 基本土層	29
第四章 発見された遺構と遺物	31
第五章 調査成果のまとめ	250
<b>3 下馬周辺遺跡 (No. 200) 由比ガ浜二丁目 113 番 5、9 地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	322
第二章 調査の概要	327
第三章 発見された遺構と遺物	333
第四章 まとめ	351
<b>4 川越重頼邸跡 (No. 270) 浄明寺五丁目 423 番 1、4 地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	375
第二章 発見された遺構と遺物	381
第三章 まとめ	400
<b>5 桑ヶ谷療病院跡 (No. 294) 長谷三丁目 630 番地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	432
第二章 発見された遺構と遺物	449
第三章 まとめ	456

第1～4分冊掲載の平成17～23・25・26・29～30年度発掘調査地点一覧

第1分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目1230番4、7、10	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	城館跡	5.00	平成18年2月13日 ～平成18年2月28日
2	大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)	二階堂字荏柄3番6外	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	67.00	平成18年10月30日 ～平成19年1月15日
	大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)	二階堂字荏柄3番6外	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	54.00	平成20年2月28日 ～平成20年4月23日
3	下馬周辺遺跡 (No.200)	由比ガ浜二丁目113番5、9	自己用店舗併用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	12.00	平成21年10月13日 ～平成21年11月13日
4	川越重頼邸跡 (No.270)	浄明寺五丁目423番1、4	個人専用住宅 (地盤の表層改良)	城館	45.00	平成22年7月1日 ～平成22年8月26日
5	桑ヶ谷療病院跡 (No.294)	長谷三丁目630番1	店舗併用住宅 (鋼管杭工事)	病院跡 遺物散布地	107.00	平成23年1月28日 ～平成23年4月28日

第2分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
6	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目2354番1、6	個人専用住宅 (表層改良工事)	城館跡	43.20	平成23年7月22日 ～平成23年10月3日
7	小町大路東遺跡 (No.233)	大町一丁目1147番	個人専用住宅 (表層改良工事)	都市	70.00	平成25年5月23日 ～平成25年9月6日
8	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目160番17	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	45.00	平成26年1月14日 ～平成26年4月11日
9	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目160番8、10	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	49.00	平成26年5月22日 ～平成26年9月19日
10	田楽辻子周辺遺跡 (No.33)	浄明寺一丁目590番2	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	41.06	平成30年2月16日 ～平成30年4月26日

第3分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
11	大倉幕府跡 (No.253)	雪ノ下三丁目648番3	集合住宅併用個人住宅 (柱状改良工事)	官衙	38.00	平成21年11月24日 ～平成22年2月19日
12	大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)	二階堂字荏柄76番4	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	42.00	平成19年2月26日 ～平成19年3月29日
13	横小路周辺遺跡 (No.259)	二階堂字稲葉越856番5	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	41.00	平成21年11月4日 ～平成21年12月28日
14	若宮大路周辺遺跡群 (No.242)	小町一丁目65番26	自己用店舗併用住宅 (鋼管杭工事)	都市	20.00	平成21年11月4日 ～平成21年11月24日
15	若宮大路周辺遺跡群 (No.242)	小町二丁目19番外	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市	35.00	平成21年4月6日 ～平成21年5月12日
16	若宮大路周辺遺跡群 (No.242)	小町二丁目43番2	店舗併用個人住宅 (柱状改良工事)	都市	36.00	平成20年7月29日 ～平成20年9月22日
17	北条時房・顕時邸跡 (No.278)	雪ノ下一丁目234番2外	個人専用住宅 (基礎工事)	城館跡	12.00	平成20年6月13日 ～平成20年7月11日
18	川越重頼邸跡 (No.270)	浄明寺五丁目318番1の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	城館跡	74.00	平成21年6月30日 ～平成21年9月30日

第4分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
19	北条小町邸跡 (No.282)	雪ノ下一丁目421番1	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	27.00	平成22年3月29日 ～平成22年5月21日
20	西瓜ヶ谷遺跡 (No.213)	山ノ内字西瓜ヶ谷980番3外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	54.00	平成21年2月16日 ～平成21年3月16日
21	山ノ内上杉邸跡 (No.170)	山ノ内字東管領屋敷179番39	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	33.00	平成20年10月15日 ～平成20年11月28日
22	安国寺跡 (No.174)	山ノ内字東管領屋敷147番9外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	社寺跡	46.00	平成22年2月12日 ～平成22年5月7日
23	田楽辻子周辺遺跡 (No.33)	浄明寺一丁目652番8	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	67.00	平成20年10月10日 ～平成21年1月29日
24	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町六丁目1708番23外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	21.00	平成22年5月14日 ～平成22年6月30日
25	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座一丁目919番19	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	28.00	平成20年6月27日 ～平成20年7月16日
26	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座一丁目893番9	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	13.00	平成20年7月24日 ～平成20年8月1日
27	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座六丁目742番4外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	45.00	平成21年7月21日 ～平成21年8月26日

## 平成 30 年度調査の概観

平成 30 年度の緊急調査実施件数は 5 件であり、調査面積は 281.79 m<sup>2</sup>であった。これを前年度の 5 件、274.56 m<sup>2</sup>と比較してみると件数は同じものの、調査面積は 7.23 m<sup>2</sup>の微増となる。1 件あたりの調査面積は平均で 56.35 m<sup>2</sup>（前年度は 54.91 m<sup>2</sup>）であり、前年度より増加となった。

調査原因は 5 件とも個人専用住宅の建設である。これらの工種別内訳は、基礎工事が 1 件、鋼管杭工事が 1 件、柱状改良工事が 3 件となっている。今年度も鋼管杭工事や柱状改良工事が発掘調査の主体的な原因になっている傾向が顕著である。以下、各地点の調査成果の概要を紹介する。（調査面積及び調査期間等については「平成 30 年度調査地点一覧」を参照。）

### 1 田楽辻子周辺遺跡 (No. 33)

浄明寺一丁目に所在し、杉本寺から南西へ約 200m に位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀中頃から 15 世紀にかけての生活面が確認でき、石敷、掘立柱建物跡、溝、土坑、井戸等を確認した。遺物はかわらけ、国産陶器、瓦、鉄製品、石製品等が出土している。昨年度からの継続調査。詳細は本誌第 2 分冊の報告を参照されたい。

### 2 若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)

市内中心部の雪ノ下一丁目に所在し、鶴岡八幡宮から南西へ約 296m に位置している。鋼管杭工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀後半から 14 世紀初頭の生活面を確認し、土塁状遺構、板壁建物、囲炉裏等を検出した。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、木製品、金属製品、石製品、骨角製品が出土している。

### 3 若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)

市内中心部の大町一丁目に所在し、本覚寺から南へ約 101m に位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀後半から 14 世紀前半の堅穴建物群、河川に向かう地形の落ち込み等を確認した。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、ガラス製品、石製品等が出土している。

### 4 横小路周辺遺跡 (No. 259)

二階堂に所在し、荏柄天神社の南約 84m に位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀前半の整地面を確認し、かわらけ溜り、柱穴等を検出した。また、古代から中世の溝、地形の落ち込みを検出した。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、須恵器等が出土している。

### 5 長谷小路周辺遺跡 (No. 236)

長谷一丁目に所在し、高德院の南東約 334m に位置している。基礎工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、関東大震災前後の廃棄坑、焼土を確認した。中世では 13 世紀後半から 14 世紀初頭の生活面を確認し、方形土坑、柱穴を検出した。出土遺物はかわらけ、国産陶器、鉄製品、銅銭、土師器が出土している。

平成30年度発掘調査地点一覧

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1	田楽辻子周辺遺跡 No.33	浄明寺一丁目590番2	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	41.06	平成30年2月16日 ～ 平成30年4月26日
2	若宮大路周辺遺跡群 No.242	雪ノ下一丁目161番43	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市遺跡	65.00	平成30年7月17日 ～ 平成30年10月26日
3	若宮大路周辺遺跡群 No.242	大町一丁目1083番1	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市遺跡	94.56	平成30年7月9日 ～ 平成30年9月14日
4	横小路周辺遺跡 No.259	二階堂字荏柄26番イの一部	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	31.97	平成30年10月16日 ～ 平成30年12月11日
5	長谷小路周辺遺跡 No.236	長谷二丁目274番1の一部、 274番2、275番6	個人専用住宅 (基礎工事)	都市遺跡	49.20	平成30年12月17日 ～ 平成31年1月25日

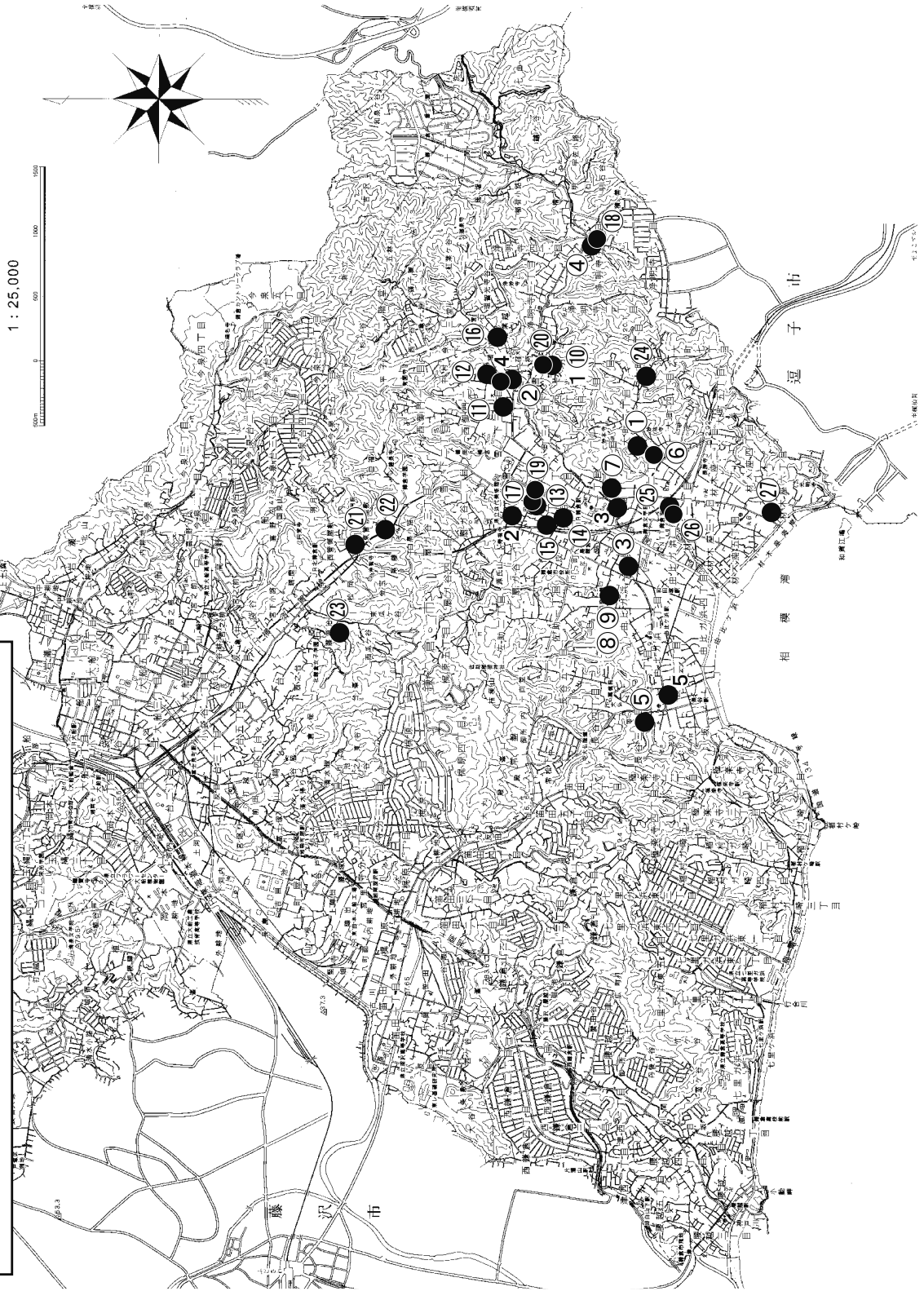


# 鎌倉市全図

平成30年度の緊急発掘調査地点(1～5)  
第1～4分冊掲載の平成17～23・25・26・

29～30年度発掘調査地点(①～⑳)

※遺跡名は一覧表を参照



名越ヶ谷遺跡 (No.231)

大町三丁目1230番4、7、10地点

## 例 言

1. 本書は鎌倉市大町三丁目1230番4・7・10地点に所在する、個人専用住宅の新築に先だち行われた、名越ヶ谷遺跡(県遺跡台帳No.231)の発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は2006年2月13日から同年2月28日にかけて、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
3. 本書使用の遺構図及び遺物実測図、原稿執筆は福田 誠 が担当し、編集も福田が行った。
4. 本書に使用した遺構写真は森孝子が、遺物写真は福田が撮影を行った。
5. 発掘調査の体制は以下の通りである。  
主任調査員 森 孝子 福田 誠 (鎌倉市教育委員会嘱託)  
調 査 員 渡邊美佐子  
作 業 員 (社)鎌倉市シルバー人材センター
6. 発掘調査資料(記録図面・写真・出土遺物)は、鎌倉市教育委員会が一括保管している。

## 目 次

第一章 調査地点の位置と歴史的環境	4
第二章 調査の経過	4
第三章 検出した遺構と遺物	9
第1節 層序	
第2節 遺構と遺物	
第四章 まとめ	9

## 挿図目次

図1 調査地点位置と周辺の遺跡	5
図2 位置図・第1面平面図	6
図3 第2面平面図・第3面平面図	7
図4 土層断面図	8
図5 出土した遺物	11

## 図版目次

図版1 出土した遺物	11
図版2 第1面の調査(1)	12
図版3 第1面の調査(2)	13
図版4 第2・3面の調査	14
図版5 土層断面	15

## 表

遺物観察表	7
-------	---

## 第一章 歴史的環境と調査地点の位置

遺跡地は相模湾に面した鎌倉の沖積平野を取り囲む標高100m前後の丘陵の東方、名越ヶ谷の開口部に位置する。この谷は約600万年前の新生代第三紀に形成された凝灰砂岩と泥岩が、逆川等の浸食作用で削られ形作られたものである。縄文時代前期の海進期(約5,000～6,000年前)には、海面が現在より約10m近く上昇し入り込んだ海水により鎌倉湾が形成され、現在の鶴岡八幡宮付近まで海岸線が迫っていたと考えられる。縄文時代後期の海退期(約4,000年前)よりしだいに平野部分の陸地化が進み、弥生時代(約2,000年前)にはさらに乾燥がすすみ、海岸線付近では堆積した砂によって砂丘が形成されていった。砂丘の背後(北側)にはラグーン(後背湿地)が形成され、旧市内を流れる最大の河川である滑川をはじめ逆川、二階堂川、扇川、佐助川などが流れ込んでいた。このころから砂丘や河川によって作られた自然堤防上に点々と人々が居住を始めたと考えられている。

奈良時代には鎌倉郡の郡衙(郡役所)が置かれ、政治経済の重要な位置を占めていたと考えられる。平安期の鎌倉は、源頼義が石清水八幡宮を勧請した元八幡宮、八幡太郎義家の生まれた甘縄の館、亀ヶ谷の義朝の居館等の存在が知られ、源頼朝が鎌倉に入る1180年以前から源氏相伝の地であった。調査地点は大町三丁目1230番4・7・10地点に所在する。遺跡名の名越とは鎌倉の東南部一帯を指していたようで頼朝入府以前、名越は鎌倉の外であったと考えられている。鎌倉郷の東側にあった荏草郷の内にあり頼朝の入府以降、鎌倉に併合されていったものと思われる。名越ヶ谷の南には、後に整備される名越切通しを経て三浦さらに上総へ通じる幹線(旧東海道)が通り交通の要所、鎌倉の出入り口防御の要として重要な位置を果たしていたと考えられる。入り組んだ名越ヶ谷にはいくつかの支谷があり、その内の名越大谷には名越ヶ谷遺跡、山王ヶ谷には山王堂跡、釈迦堂口には北条時政邸跡と推定される遺跡が存在している。このように谷間奥には枝分かれした支谷が開け、釈迦堂の切通しを抜けると大倉から朝比奈へ抜けられる。このように重要な位置を占めていた名越は鎌倉時代初期から拓け、北条時政邸、名越北条氏の居館をはじめ多くの御家人たちが居住していたと思われる。

調査地点は下馬交差点から東、名越坂へ抜けていた大町大路の途中、現在の名越四ツ角を北方向の名越ヶ谷に曲がり約150m、大寶寺に至る途中に位置する。

周囲には安養院(浄土宗)、妙法寺・安国論寺・大寶寺(日蓮宗)が点在している。名越ヶ谷の入口付近に当たる名越四角周辺では、現在17地点ほど調査が行われている(図1)。

当遺跡の南側、⑪・⑫地点では、東側を南北に流れ下る逆川に向かい急激に落ち込む地形と西岸の護岸が見つかっている。⑨、⑩では数多くの柱穴と井戸等が確認されており、武家屋敷あるいは寺院の存在を指摘し、更に現在の市道に面する西側が表、逆川に面する東側が裏と想定している。

## 第二章 調査の経過

発掘調査は平成18年2月13日から、表土掘削及び機材の搬入を開始し同年2月28日まで行った。

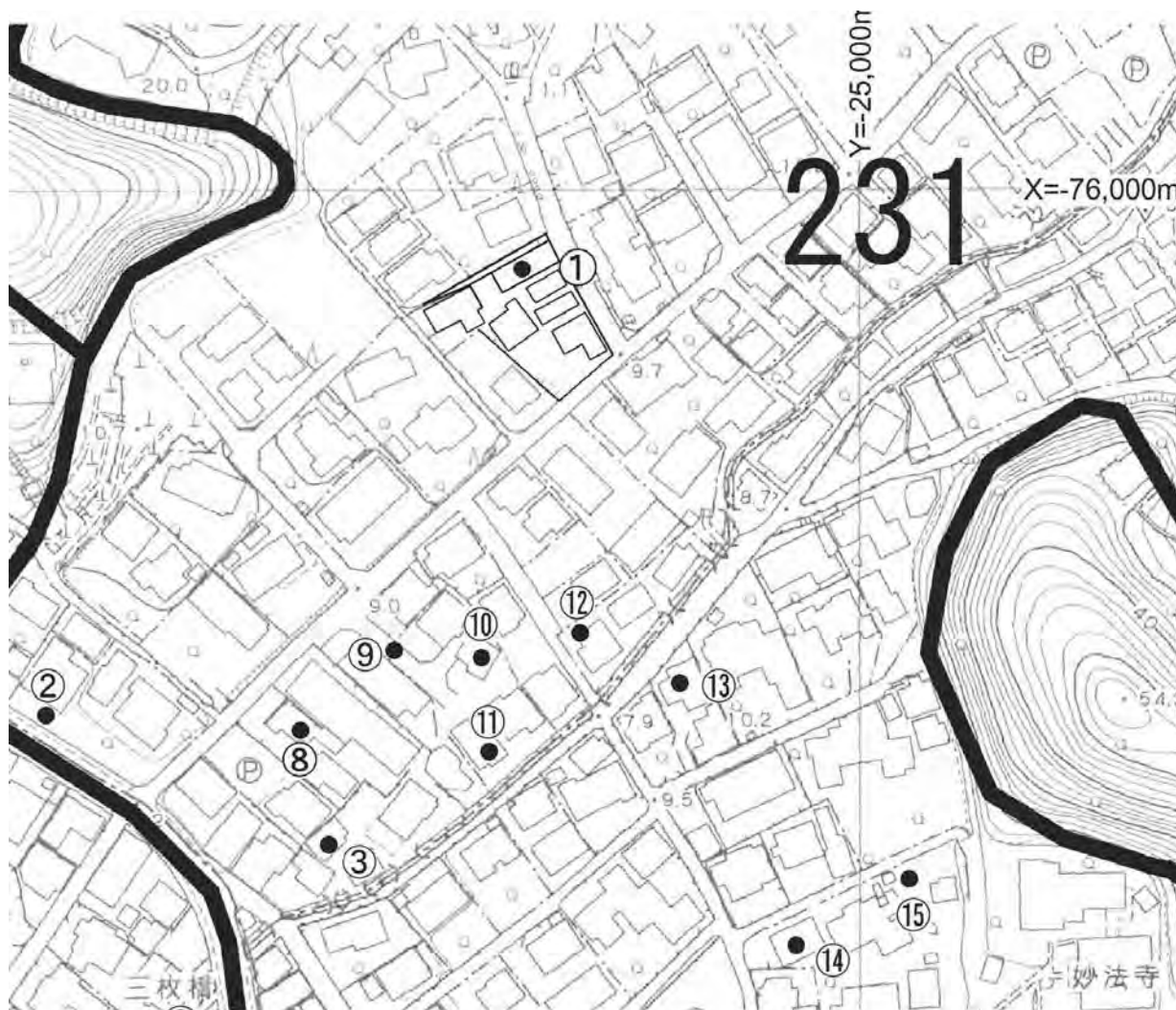
基礎の深く入る部分で埋蔵物に悪影響が及ぶことが危惧され緊急調査となったもので、試掘調査を行っていないため、近隣で行われた調査の結果を基に、建物範囲の内側にL字形の調査区を設定し東西方向を1区、南北方向を2区とした。

1区は幅100cm、長さ270cm。2区は幅100cm、長さ200cmで設定したものである。トレンチ面積の合計は約5.0㎡で、建築予定範囲の軸方向にあわせて設定したが、いずれも狭いものであり十分な調査が行

われたとは言い難い。

遺跡は北緯 $35^{\circ} 18' 52''$ 、東経 $139^{\circ} 33' 27''$  に位置し、グリットの基準とした原点1 (X=-76014.714 Y=-25,077946)、原点2 (X=-76016.779 Y=-25081.362)、原点3 (X=-76017.300 Y=-25076.375)は、市内4級基準点のB005(X=-76153.4805 Y=-25049.8502)とB006(X=-76182.7517 Y=-25033.4407)を基に設定したものである。設定した南北グリッド方位は、N- $244^{\circ} 17' 25''$  -Eである。

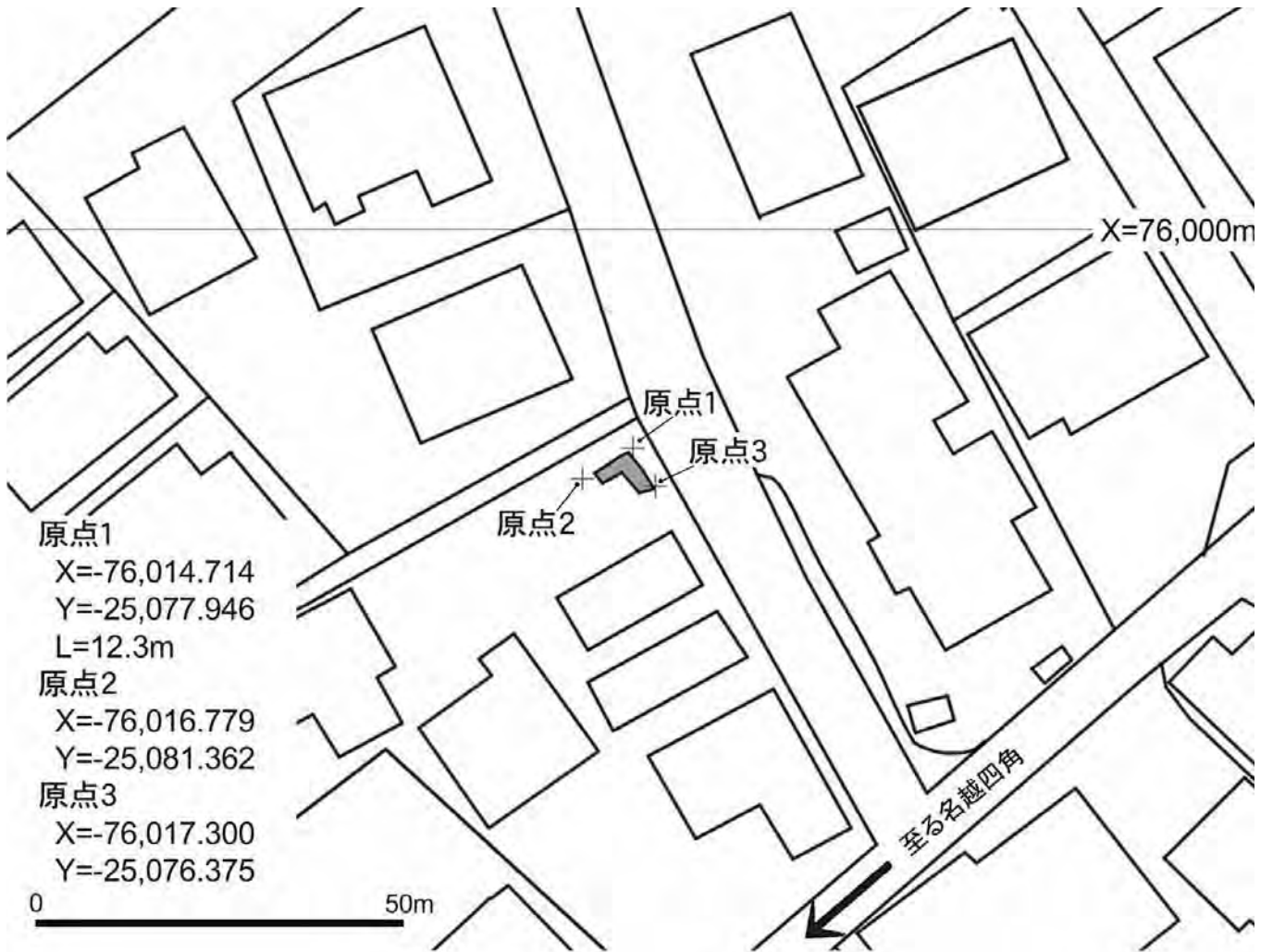
調査中に使用したレベルは、大町四丁目1872番1に設置してある3級水準点(No.53229)、11.168mを移動したもので、調査地の脇に移動した仮原点のレベルは、12.30mである。排土は、調査終了時に再び埋め戻すために周囲に山積みにした。2月28日までに器材の搬出も含め、全ての調査を終了した。検出した遺構・遺物の詳細は次章に譲る。



名越ヶ谷遺跡 231

No.	地番	調査年	報告書名	刊行年
1	大町三丁目1230番4.7.10	2006.2	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書35』「大町三丁目1230番4.7.10地点」	2019.3
2	大町三丁目1217番1	1993.7	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1』「大町三丁目1217番1地点」	1995.3
3	大町三丁目2353番2外	2007.12	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34』「大町三丁目2353番2外地点」	2019.3
8	大町三丁目2354番1.6	2011.7	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書35』「大町三丁目2354番1.6地点」	2018.3
9	大町三丁目2356番3	2000.8	『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』「大町三丁目2356番3地点」	2001.12
10	大町三丁目2356番11	2001.1	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』「大町三丁目2356番11地点」	2003.3
11	大町三丁目2356番10	2001.4	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』「大町三丁目2356番10地点」	2003.3
12	大町三丁目1826番9	2000.8	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-2』「大町三丁目1826番9地点」	2002.3
13	大町四丁目1880番6外	1993.5	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1』「大町四丁目1880番6外地点」	1995.3
14	大町四丁目1888番	1998.12	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2』「大町四丁目1888番地点」	2000.3
15	大町四丁目1888番の一部	2007.7	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-2』「大町四丁目1888番の一部地点」	2012.3

図1 遺跡位置と周辺の遺跡



遺跡位置図

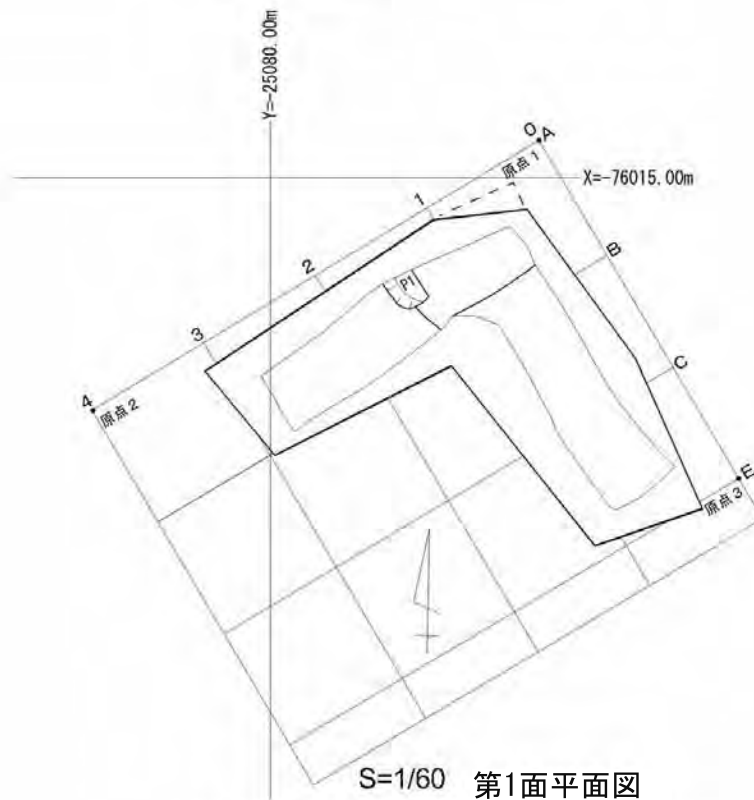
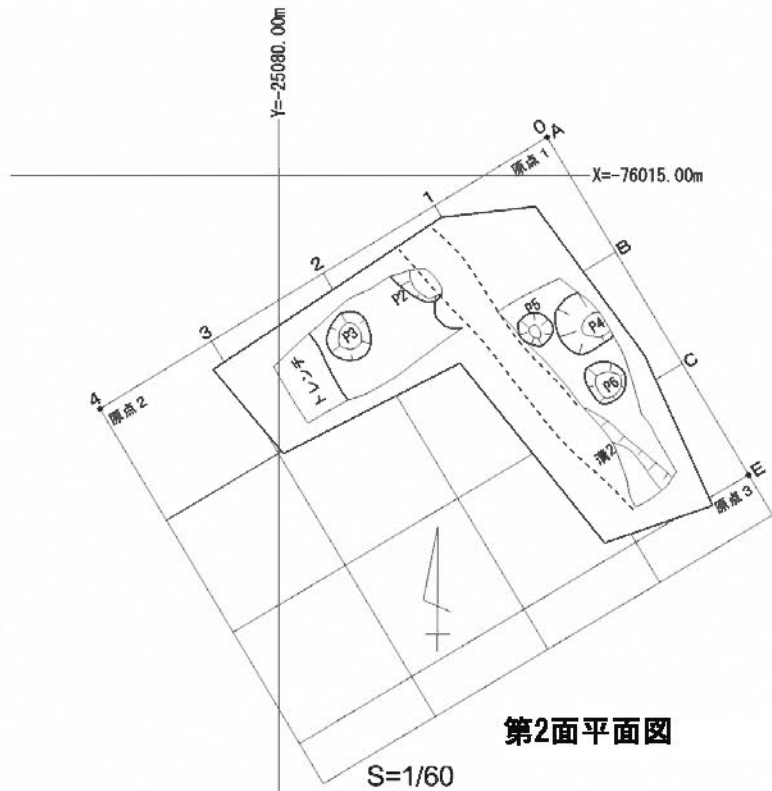
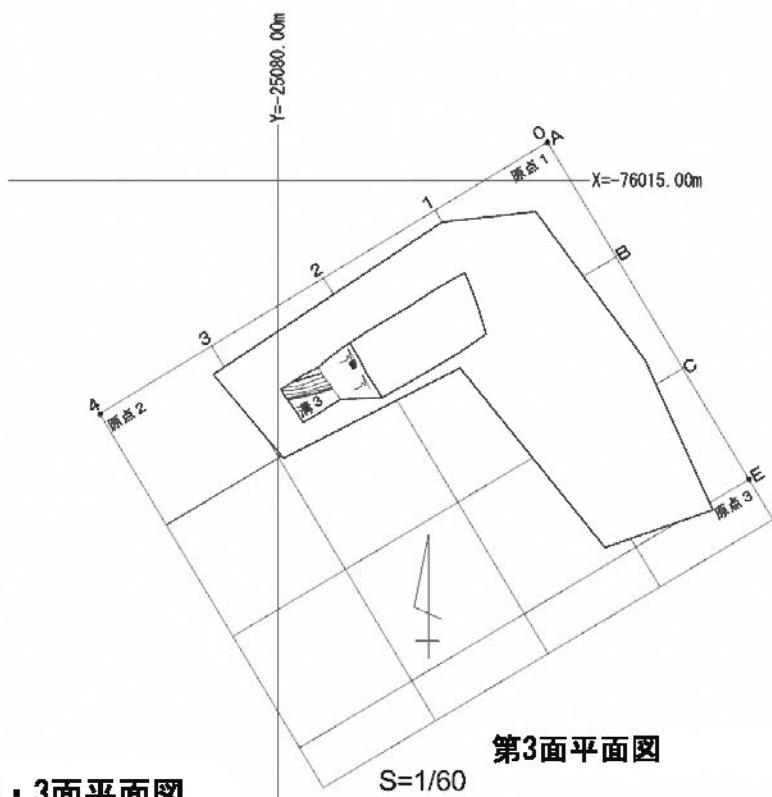


图2 位置图・第1面平面图



第2面平面図



第3面平面図

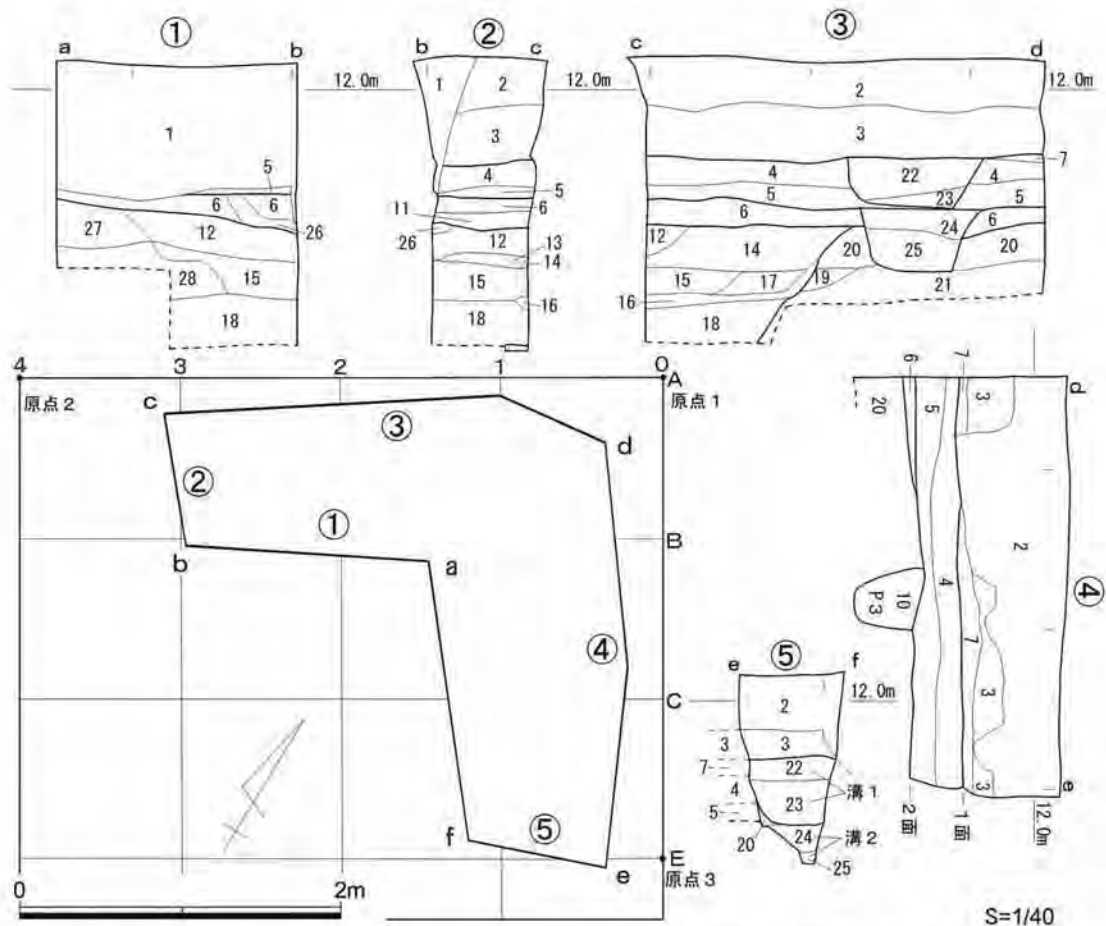
図3 第2・3面平面図

遺物観察表

( ) は復元法量・単位cm

番号	出土層位・遺構	種別	機種	口径	器高	底径	観察表
-1	I区1面	褐釉	壺	-	-	-	体部片 胎土:0.5mm大の砂粒混じりのきめ細かい素地 色調:淡茶褐色 焼成:良好焼き締まる
-2	I区1面	土器	かわらけ(大)	-	-	-	底部片 胎土:極細かい石英とクサリ礫を含むきめ細かい粉質の素地 色調:明赤褐色 焼成:良好
-3	I区1面Pit1	土器	かわらけ(小)	-	-	(4.6)	底部片 胎土:極細かい緻密な素地 色調:淡赤灰色 成形:糸切り 焼成:良好、焼き締まる
-4	I区溝3	土師器	坏	-	-	-	口縁部片 胎土:極きめ細かい素地に白色に微砂を含む 色調:赤褐色 焼成:良好 内面暗文 外面ヘラ削り
-5	I区溝3	土師器	甕(瓶?)	-	-	-	底部片 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-6	II区トレンチ	土師器	長甕	-	-	-	底部片 胎土:1mmまでの石英、クサリ礫、長石粒を多く含む 色調:淡茶褐色 底面、二次焼成を顕著
-7	II区溝3	土師器	坏	-	-	-	底部片 胎土:きめ細かい素地に微細な雲母、石英、クサリ礫 色調:淡赤褐色 成形:外面ヘラ削り器壁薄い
-8	表探	常滑	壺	-	-	-	口縁部片 胎土:1mm大の長石を多く含むザックリした素地 色調:淡茶褐色 焼成:良好 常滑9型式
-9	表探	土器	かわらけ	-	-	-	口縁部片 胎土:細かい素地に微細な雲母、白針、クサリ礫を含む 色調:明赤灰色 焼成:良好





1. 土丹層(造成土)
2. 茶色粘質土層(造成土)
3. 茶褐色粘質土層 土丹粒、加々粒、炭化物含む
4. 土丹地業層
5. 茶褐色シルト層 やや締まりなく砂が混入している
6. 暗茶褐色粘質土層 鉄分を多く含み強く締まった粘土
7. 暗茶褐色粘質土層 砂利を含んだ締まりない土
8. 暗茶褐色粘質土層 (pit) 5~10cm大の土丹含み、締まりない土
9. 暗茶褐色粘質土層 (pit) 2~3cm大の土丹と炭化物含む
10. 暗茶灰色粘質土層 (pit4) 腐植した木片多く含む締まりのない土
11. 黒茶褐色粘質土層 黒色シルトが混在して入る締まりの良い土
12. 茶灰色粘質土層(溝3) 焦茶色粘土が塊で混入する締まりよい土
13. 茶灰色粘質土層(溝3) 茶灰色の粘性の強いが締まりがない土
14. 茶灰色粘質土層(溝3) 土丹粒混じりの粘性強くやや締まる
15. 茶灰色粘質土層(溝3) 粘性の強いが締まりがない土、土師器片多く出土する
16. 黒灰茶色粘質土層(溝3) 黒色砂混入、粘性弱い土
17. 茶灰色粘質土層(溝3) 粘性が弱く土丹粒が多い
18. 黒色粘質土層(溝3) 締まりなく、径1cm大の土丹粒が多く混入する
19. 黒灰茶色粘質土層(溝3) 黒色砂が混入する粘性が弱い土
20. 黒茶色粘質土層 粘性ある締まりよい土
21. 茶灰色粘質土層 粘性が強く土丹、遺物を多く含む
22. 茶褐色粘質土層(溝1) 土丹粒、土丹を多く含む
23. 茶褐色粘質土層(溝1) 土丹粒少なく、拳大の土丹を多く含む
24. 茶褐色粘質土層(溝2) 粘性、締まりのある土
25. 茶褐色粘質土層(溝2) 土丹を若干含み粘性、締まりある土
26. 茶色粘土層 褐鉄を多く含む砂が混入する
27. 茶灰色粘質土層 土丹粒、黒色粘土粒が混入、締まりのよい土
28. 茶灰色粘質土層 径10cm大の土丹が入る締まりない土

図4 土層断面図

## 第三章 検出した遺構と遺物

### 第1節 層序

表土には30cmの厚さの茶色粘質土層(2)が広がる。この茶色粘質土層を掘り下げると、茶褐色粘質土層(3)の遺物包含層になる。L字形の調査地の外、南西側に地表から約60cmの厚さで造成された土丹層(1)が広がる。この場所では調査地内で確認された表土層と遺物包含層は削平されたのか確認できない。

土丹層(1)と包含層(3)を除くと第1面の土丹地業層(4)を検出した。遺構レベル海拔11.60m、層の厚さは15~20cmで、丁寧に土丹を叩き締めていた。第1面を25~30cm掘り下げると遺構レベル海拔11.25mで暗茶褐色粘質土層(6)の第2面を検出した。地表から約95cm。この第2面の下約10cm、11.15mで第3面、黒茶褐色粘質土層(20)を検出した。第3面の下、建築建物の基礎の入る海拔10.75mの茶灰色粘質土層(21)まで掘り下げた。3面では中世遺物の出土は無く、溝3から古代の遺物が出土している。

### 第2節 遺構と遺物

#### a. 第1面(図2・4・5、図版1・2・3・5)

表土から約60cm掘り下げると第1面(土丹地業面)を検出した。海拔11.60mで広がり、柱穴1と北~南方向に延びる溝1を断面でのみ確認した。

表採で、常滑編年9型式の甕口縁部片(図5・図版1-8)、法量不明のかわらけ(図5・図版1-9)が出土した。第1面からは褐釉壺体部片(図5・図版1-1)、かわらけ大(図5・図版1-2)、柱穴1からかわらけ小(図5・図版1-3)が出土した。

#### b. 第2面(図3、図版1・4・5)

第2面は海拔11.25m前後、暗茶褐色粘質土層が広がり、柱穴2~6と溝2を検出する。柱穴に規則性は無い。溝2は幅約80cm、深さ30cmの断面U字形の南北方向に延びる溝である。

第2面では遺物の出土は無い。

#### c. 第3面(図3・5、図版1・4・5)

第3面は、海拔11.15m前後で広がるようである。調査地西側で溝3の落ち込みを確認した。海拔11.25mの3面から掘り込まれた溝3は、調査の限界を越えて海拔10.40mより深く落ち込む。溝は恐らく南北方向に延びると思われる。溝の幅は不明である。

第3面の溝3から土師器(図5・図版1-4~7)が出土している。いずれも細片の為に法量は不明であるが坏、長甕(甗?)である。坏は赤褐色できめ細かな雲母を含み、内面に暗文が廻る。長甕(甗?)は砂粒が多く、竈に用いられたものと考えられる。

## 第四章 まとめ

幅1m程のL字形の調査区、調査期間も短かく試掘調査並みの調査であった。厚い土丹地業層を掘り下げるのに手間取ってしまったが、遺構の残りは比較的良好であった。

調査地を南北に延びる溝(溝1・2)と、西側に大きく落ち込む溝3溝が確認され、僅かだが柱穴も検出されている。また中世の遺物の他に古代(古墳時代)の遺物も確認されていることから、調査地点の名越ヶ谷遺跡は中世以前から人々が生活を営み、中世に鎌倉の商業地域であった「町屋」に近接する地域に含まれ、大いに賑わったと考えられる。

#### 参考文献

『鎌倉廃寺事典』 貫達人・河副武胤編有隣堂 1980年

『鎌倉市史』社寺編 鎌倉市教育委員会 吉川弘文館 1959年

『としよりのはなし』鎌倉市教育委員会 1971年

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会 2002年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11(第1分冊)』 鎌倉市教育委員会 1995年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11(第1分冊)』 鎌倉市教育委員会 1995年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会 2000年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会 2002年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』 鎌倉市教育委員会 2003年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会 2012年3月

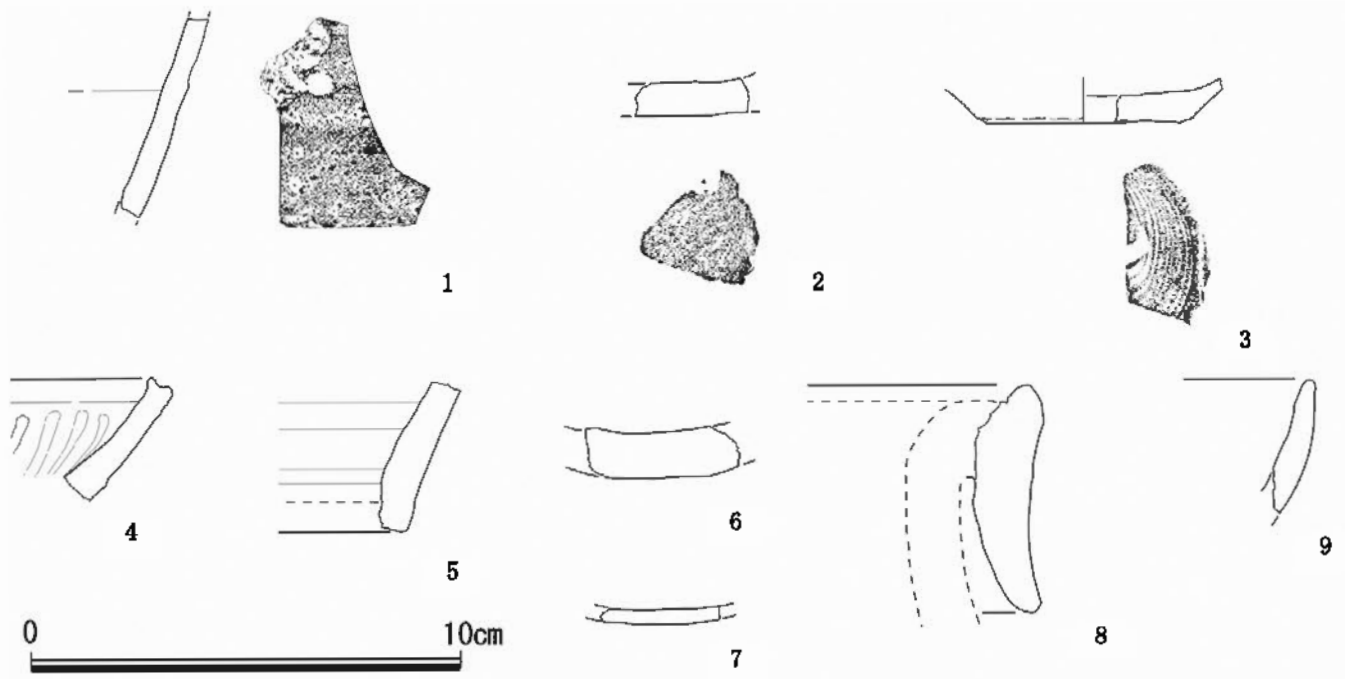
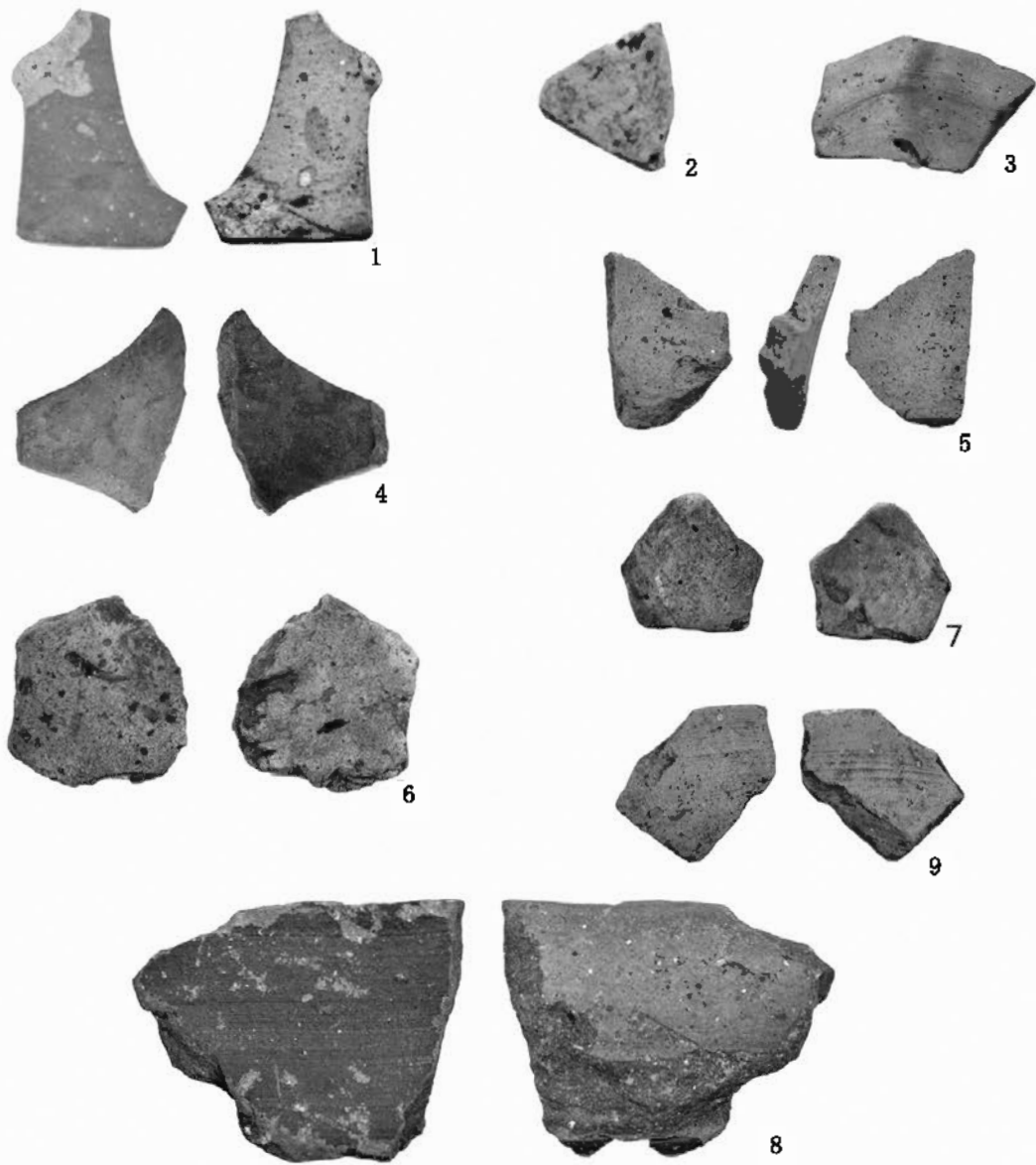


図5 出土した遺物

図版1





I 区 1 面 南壁



1 面全景 北東から



1 面全景 北東から



I 区 1 面 南東から



I 区 1 面 東から

1 面全景 (1)



I 区 1 面 南西から



I 区 1 面 西から



II 区 1 面 全景 東から



II 区 1 面 全景 西から

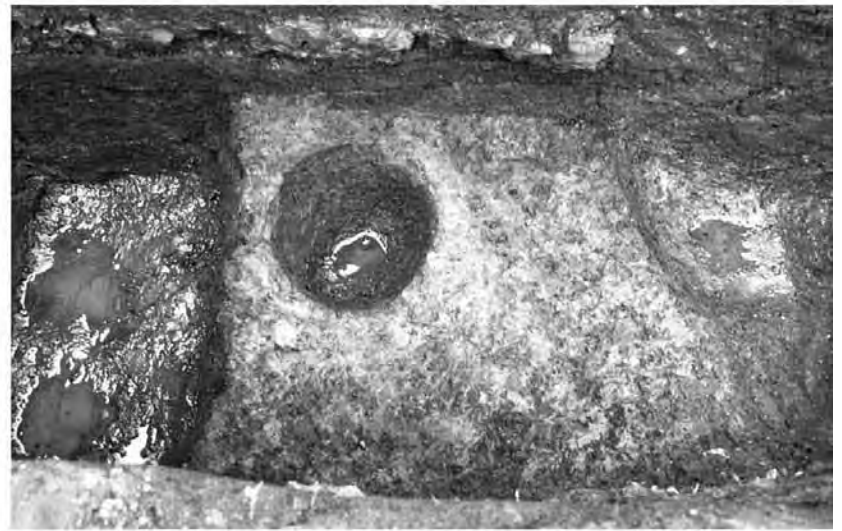
1 面 全景 (2)



I区2面 東から



I区2面 南から



I区2面 南から



II区2面 北から



I区3面

2・3面



I 区西壁 ③

I 区西壁 ②



II 区東壁 ④

II 区南壁 ⑤



土层断面





おおくらばくふしゅうへん  
大倉幕府周辺遺跡群 (No. 49)

二階堂字荏柄 3 番 6 外地点

## 例 言

1. 本報告は、鎌倉市二階堂字荏柄3番6外において実施した、大倉幕府周辺遺跡群（鎌倉市No.49）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として、鎌倉市教育委員会が実施した。調査は建築計画の変更に伴い2回に分け、平成18年10月30日～平成19年1月15日（地点Ⅰ＝67㎡）および平成20年2月28日～同年4月23日（地点Ⅱ＝54㎡）に実施した。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。
  - 主任調査員 原 廣志（地点Ⅰ）、山口正紀（地点Ⅱ）（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
  - 調査員 須佐直子、須佐仁和、梅岡ケイト、岡本夏菜、中川建二  
（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
  - 作業員 金丸義一、丹野正弘、永井隆三郎、沼上三代治、伴 一明、舟田峰夫、  
宝珠山秀雄（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）
  - 整理作業参加者 赤堀祐子、遠藤綾子、岡田慶子、岡本夏菜、押木弘己、神田倫子、佐藤千尋、  
須佐仁和、田中 聡、梅岡ケイト、畑野 愛、原 廣志、松吉里永子、  
三瓶祐子、吉田麻子、吉田桂子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
4. 本報告の作成は、以下の分担で行った。
  - 報告書執筆・編集 押木
  - 遺構挿図作成 岡本、押木
  - 遺構写真図版作成 押木
  - 遺物写真撮影 須佐（仁）、押木
  - 遺物挿図作成 岡本、吉田（桂）
  - 遺物写真図版作成 岡本、神田、佐藤、松吉
  - 遺物観察表作成 岡本
5. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略号は、現地調査時には地点Ⅰを「OU」、地点Ⅱを「OUⅡ」とし、整理作業時に市教育委員会の統一基準に従って前者を「OB0618」、後者を「OBS0719」へと変更し、出土品への注記などに使用した。

## 凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 遺構図は任意の測量方眼に基づいて提示し、図2に世界測地系座標値（第Ⅸ系：東日本大震災後の補正值）との関係を示した。
3. 挿図に示した方位標は国土座標北（Y軸）で、真北はこれより0° 09′ 25″ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水系高は、海拔値を示す。

# 目次

## 本文目次

### 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の立地 .....23

第2節 周辺の調査成果 .....26

### 第二章 調査の方法と経過

第1節 調査に至る経緯 .....27

第2節 調査の方法 .....28

第3節 調査の経過 .....28

### 第三章 基本土層 .....29

### 第四章 発見された遺構と遺物

第1節 1面上の遺物 .....31

第2節 1面の遺構と遺物 .....47

第3節 2面上の遺物 .....84

第4節 2面の遺構と遺物 .....105

第5節 3面上の遺物 .....147

第6節 3面の遺構と遺物 .....164

第7節 4面上の遺物 .....191

第8節 4面の遺構と遺物 .....204

第9節 5面上の遺物 .....224

第10節 5面の遺構と遺物 .....225

### 第五章 調査成果のまとめ

第1節 各遺構面の年代観と変遷 .....250

第2節 周辺調査成果との関連 .....251

## 挿図目次

図1 周辺の発掘調査地点 .....24

図2 調査区配置図 .....27

図3 基本土層図 .....30

図4 表土などの出土遺物 .....31

図5 1面上出土遺物(1) .....32

図6 1面上出土遺物(2) .....33

図7 1面上出土遺物(3) .....34

図8 1面上出土遺物(4) .....35

図9 1面上出土遺物(5) .....36

図10 1面上出土遺物(6) .....37

図11 1面上出土遺物(7) .....38

図12 1面上出土遺物(8) .....39

図13 1面上出土遺物(9) .....40

図14 1面全体図 .....48

図15 1面 溝01・02、柱穴列1～3 .....49

図16 1面 土坑(1) .....50

図17 1面 土坑(2) .....51

図18 1面 土坑(3) .....52

図19 1面 土坑(4) .....53

図20 1面遺構出土遺物(1) .....54

図21 1面遺構出土遺物(2) .....55

図22 1面遺構出土遺物(3) .....56

図 23	1 面遺構出土遺物 (4) ……………	57	図 62	2 面遺構出土遺物 (4) ……………	128
図 24	1 面遺構出土遺物 (5) ……………	58	図 63	2 面遺構出土遺物 (5) ……………	129
図 25	1 面遺構出土遺物 (6) ……………	59	図 64	2 面遺構出土遺物 (6) ……………	130
図 26	1 面遺構出土遺物 (7) ……………	60	図 65	2 面遺構出土遺物 (7) ……………	131
図 27	1 面遺構出土遺物 (8) ……………	61	図 66	2 面遺構出土遺物 (8) ……………	132
図 28	1 面遺構出土遺物 (9) ……………	62	図 67	2 面遺構出土遺物 (9) ……………	133
図 29	1 面遺構出土遺物 (10) ……………	63	図 68	2 面遺構出土遺物 (10) ……………	134
図 30	1 面遺構出土遺物 (11) ……………	64	図 69	2 面遺構出土遺物 (11) ……………	135
図 31	1 面遺構出土遺物 (12) ……………	75	図 70	2 面遺構出土遺物 (12) ……………	136
図 32	1 面遺構出土遺物 (13) ……………	76	図 71	2 面遺構出土遺物 (13) ……………	137
図 33	1 面遺構出土遺物 (14) ……………	77	図 72	2 面遺構出土遺物 (14) ……………	138
図 34	1 面遺構出土遺物 (15) ……………	78	図 73	2 面遺構出土遺物 (15) ……………	139
図 35	1 面遺構出土遺物 (16) ……………	79	図 74	2 面遺構出土遺物 (16) ……………	140
図 36	1 面下～2 面上出土遺物 (1) ……………	80	図 75	2 面遺構出土遺物 (17) ……………	141
図 37	1 面下～2 面上出土遺物 (2) ……………	81	図 76	2 面遺構出土遺物 (18) ……………	142
図 38	1 面下～2 面上出土遺物 (3) ……………	82	図 77	2 面遺構出土遺物 (19) ……………	143
図 39	1 面下～2 面上出土遺物 (4) ……………	83	図 78	2 面遺構出土遺物 (20) ……………	144
図 40	1 面下～2 面上出土遺物 (5) ……………	84	図 79	2 面遺構出土遺物 (21) ……………	145
図 41	2 面直上出土遺物 (1) ……………	85	図 80	2 面遺構出土遺物 (22) ……………	146
図 42	2 面直上出土遺物 (2) ……………	86	図 81	2 面遺構出土遺物 (23) ……………	147
図 43	2 面直上出土遺物 (3) ……………	87	図 82	2 面遺構出土遺物 (24) ……………	148
図 44	2 面直上出土遺物 (4) ……………	88	図 83	2 面遺構出土遺物 (25) ……………	149
図 45	2 面直上出土遺物 (5) ……………	89	図 84	2 面下～3 面上出土遺物 (1) ……………	150
図 46	2 面直上出土遺物 (6) ……………	90	図 85	2 面下～3 面上出土遺物 (2) ……………	151
図 47	2 面直上出土遺物 (7) ……………	91	図 86	2 面下～3 面上出土遺物 (3) ……………	152
図 48	2 面直上出土遺物 (8) ……………	92	図 87	2 面下～3 面上出土遺物 (4) ……………	153
図 49	2 面直上出土遺物 (9) ……………	93	図 88	2 面下～3 面上出土遺物 (5) ……………	154
図 50	2 面直上出土遺物 (10) ……………	94	図 89	2 面下～3 面上出土遺物 (6) ……………	155
図 51	2 面直上出土遺物 (11) ……………	105	図 90	2 面下～3 面上出土遺物 (7) ……………	156
図 52	2 面全体図 ……………	106	図 91	2 面下～3 面上出土遺物 (8) ……………	157
図 53	2 面 道路状遺構、溝 01・02 ……………	107	図 92	2 面下～3 面上出土遺物 (9) ……………	158
図 54	2 面 溝 1、土坑 ……………	108	図 93	3 面直上出土遺物 ……………	159
図 55	2 面 褐釉壺出土状況 ……………	108	図 94	3 面全体図 ……………	165
図 56	2 面 土坑 (1) ……………	109	図 95	3 面 道路状遺構、溝 01・02 ……………	166
図 57	2 面 土坑 (2) ……………	110	図 96	3 面 木組み遺構 ……………	167
図 58	2 面 土坑 (3) ……………	111	図 97	3 面 掘立柱建物 1 平面図 ……………	168
図 59	2 面遺構出土遺物 (1) ……………	112	図 98	3 面 掘立柱建物 1 断面図 ……………	169
図 60	2 面遺構出土遺物 (2) ……………	126	図 99	3 面 掘立柱建物 2・3 ……………	170
図 61	2 面遺構出土遺物 (3) ……………	127	図 100	3 面 土坑 (1) ……………	171

図 101	3面 土坑 (2) .....	172	図 128	4面 柱穴列 1・2 断面図 .....	209
図 102	3面 土坑 (3) .....	173	図 129	4面 土坑 .....	210
図 103	3面 土坑 (4) .....	174	図 130	4面 土坑・溝状遺構 .....	211
図 104	3面遺構出土遺物 (1) .....	182	図 131	4面直上・4面遺構出土遺物 .....	212
図 105	3面遺構出土遺物 (2) .....	183	図 132	4面遺構出土遺物 (1) .....	217
図 106	3面遺構出土遺物 (3) .....	184	図 133	4面遺構出土遺物 (2) .....	218
図 107	3面遺構出土遺物 (4) .....	185	図 134	4面遺構出土遺物 (3) .....	219
図 108	3面遺構出土遺物 (5) .....	186	図 135	4面遺構出土遺物 (4) .....	220
図 109	3面遺構出土遺物 (6) .....	187	図 136	4面遺構出土遺物 (5) .....	221
図 110	3面遺構出土遺物 (7) .....	188	図 137	4面遺構出土遺物 (6) .....	222
図 111	3面遺構出土遺物 (8) .....	189	図 138	4面遺構出土遺物 (7) .....	223
図 112	3面遺構出土遺物 (9) .....	190	図 139	4面下～5面上出土遺物 .....	224
図 113	3面遺構出土遺物 (10) .....	191	図 140	5面全体図 .....	226
図 114	3面下～4面上出土遺物 (1) .....	192	図 141	5面 溝 1・2 平面図 .....	227
図 115	3面下～4面上出土遺物 (2) .....	193	図 142	5面 溝 1・2 断面図 .....	228
図 116	3面下～4面上出土遺物 (3) .....	194	図 143	5面 掘立柱建物 1 平面図 .....	229
図 117	3面下～4面上出土遺物 (4) .....	195	図 144	5面 掘立柱建物 1 断面図 .....	230
図 118	3面下～4面上出土遺物 (5) .....	196	図 145	5面 掘立柱建物 1 断面図、土坑 1・3 .....	231
図 119	3面下～4面上出土遺物 (6) .....	197	図 146	5面遺構出土遺物 (1) .....	232
図 120	3面下～4面上出土遺物 (7) .....	202	図 147	5面遺構出土遺物 (2) .....	233
図 121	3面下～4面上出土遺物 (8) .....	203	図 148	5面遺構出土遺物 (3) .....	234
図 122	3面下～4面上出土遺物 (9) .....	204	図 149	5面遺構出土遺物 (4) .....	235
図 123	4面全体図 .....	205	図 150	5面遺構出土遺物 (5) .....	236
図 124	4面 掘立柱建物 1・2 平面図 .....	206	図 151	5面遺構出土遺物 (6) .....	237
図 125	4面 掘立柱建物 1・2 断面図 .....	207	図 152	5面遺構出土遺物 (7) .....	238
図 126	4面 掘立柱建物 3 .....	208	図 153	周辺調査地の遺構展開図 .....	249
図 127	4面 柱穴列 1～3 平面図 .....	209			

## 表目次

表 1	周辺調査地点一覧 .....	25	表 8	3面下～4面上 出土遺物観察表 .....	191・197～201
表 2	表土～1面上出土遺物観察表 .....	41～47	表 9	4面直上・4面遺構 出土遺物観察表 .....	210
表 3	1面遺構 出土遺物観察表 .....	64～74	表 10	4面遺構 出土遺物観察表 .....	212～216・223
表 4	1面下～2面上 出土遺物観察表 .....	94～104	表 11	4面下～5面上 出土遺物観察表 .....	225
表 5	2面遺構 出土遺物観察表 .....	112～125	表 12	5面遺構 出土遺物観察表 .....	238～241
表 6	2面下～3面上 出土遺物観察表 .....	159～164	表 13	出土遺物カウント表 .....	242～249
表 7	3面遺構 出土遺物観察表 .....	174～181			

## 写真図版目次

**図版 1** 1. 地点 I 1面全景(南から) 2. 地点 I 1面土坑 8(東から) 3. 地点 I 1面土坑 41(北から) 4. 地点 I 1面土坑 41 出土遺物(四葉硯) 5. 地点 I 1面土坑 42(北から)

**図版 2** 1. 地点 I 1面土坑 42 遺物出土状況(北から) 2. 同上 土製円盤アップ 3. 地点 I 1面 遺物出土状況(西から) 4. 同上 ローアングル(西から) 5. 地点 I 1面 ピット 34(西から) 6. 地点 I 1面ピット 9 遺物出土状況(東から) 7. 地点 I 1面 遺物出土状況(西から) 8. 地点 I 1面泥岩ブロック集中範囲(南から)

**図版 3** 1. 地点 I 2面全景(南から) 2. 地点 I 2面溝 1(南から) 3. 地点 I 2面土坑 35(北から) 4. 地点 I 2面ピット 23(東から)

**図版 4** 1. 地点 I 3面全景(東から) 2. 地点 I 3面掘立柱建物 1(北から) 3. 地点 I 3面掘立柱建物 1 Pニ-2(東から) 4. 地点 I 3面 礎石・遺物出土状況(北から) 5. 地点 I 3面 遺物出土状況(東から)

**図版 5** 1. 地点 I 4面全景(東から) 2. 地点 I 4面柱穴群(南から) 3. 地点 I 4面土坑 2(東から) 4. 地点 I 4面掘立柱建物 1 P12(東から) 5. 地点 I 4面掘立柱建物 1 P10(西から)

**図版 6** 1. 地点 I 調査区壁土層断面(南から) 2. 地点 I 5面全景(南から) 3. 地点 I 5面溝 1断面(南から) 4. 地点 I 5面溝 1 下駄出土状況(東から) 5. 地点 I 5面溝 1(北から)

**図版 7** 1. 地点 II 表土掘削作業(北東から) 2. 地点 II 1面道路状遺構(北から) 3. 地点 II 1面道路状遺構・溝 02(北から) 4. 地点 II 1面全景(西から)

**図版 8** 1. 地点 II 1面全景(東から) 2. 地点 II 1面道路状遺構・柱穴列(北から) 3. 地点 II 1面柱穴列 1・溝 01(北から) 4. 地点 II 1面柱穴列 2・溝 02(北から) 5. 地点 II 1面土坑 011 かわらけ出土状況(東から)

**図版 9** 1. 地点 II 1面道路状遺構下①(北から) 2.

地点 II 1面柱穴列 1・3(北から) 3. 地点 II 1面清掃作業(北から)

**図版 10** 1. 地点 II 2面土坑 02(南から) 2. 同上 遺物出土状況(南から) 3. 地点 II 2面土坑 06(南から) 4. 地点 II 2面土坑 08 合わせ口かわらけ(北から) 5. 地点 II 1面道路状遺構下②(北から) 6. 地点 II 2面作業風景(北から)

**図版 11** 1. 地点 II 2面道路状遺構(北から) 2. 地点 II 2面溝 02 遺物出土状況(かわらけ) 3. 地点 II 3面木組み遺構断面(西から) 4. 地点 II 2面下～3面道路状遺構断面(北から) 5. 地点 II 2面道路状遺構下～3面溝 01断面(北から)

**図版 12** 1. 地点 II 3面全景(東から) 2. 地点 II 3面道路状遺構(北から) 3. 地点 II 3面下整地土(南から) 4. 地点 II 3面西半部(北から)

**図版 13** 1. 地点 II 3面道路状遺構下(北から) 2. 地点 II 4面全景(西から)

**図版 14** 1. 地点 II 4面溝状遺構 03(東から) 2. 地点 II 4面土坑 01断面(南から) 3. 地点 II 4面土坑 03断面(西から) 4. 地点 II 4面土坑 04断面(西から) 5. 地点 II 4面ピット 040(北から) 6. 地点 II 4面ピット 093(北から)

**図版 15** 1. 地点 II 5面全景(西から) 2. 地点 II 5面溝 2(北から) 3. 地点 II 5面掘立柱建物 1(西から) 4. 同上(東から)

**図版 16** 1. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴イ-1(北から) 2. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴ロ-2断面(北から) 3. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴ロ-2(北から) 4. 地点 II 5面掘立柱建物 1-ロ-3(北から) 5. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴ロ-4(北から) 6. 地点 II 5面上 板材出土状況(北から) 7. 地点 II 調査区北壁断面(南から)

**図版 17** 1. 地点 II 5面上 焼土検出状況(北から) 2. 地点 II 5面 掘立柱建物 1 柱穴ロ・ハ列(北から) 3. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴ロ-2 柱材 4. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴イ-1 柱材

**図版 18～63** 出土遺物

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 第1節 遺跡の立地

大倉幕府周辺遺跡群は鎌倉中心市街地の北東部に所在し、治承四年（1180）以降、頼朝以下源氏三代将軍が居住した大倉御所（幕府）推定地の東西と南を「コ」字状に取り囲む形で展開している（図1）。現在、御所推定地は「大倉幕府跡」の遺跡名で登録され、その西限は横浜国立大学附属小・中学校校地の東辺とされているが、かつては県道の「筋違橋」から校地内を縦断して西御門の谷戸へ抜ける道路が存在していたことから、これを幕府西限の名残とする理解がある。現在、清泉小学校南西角の市道上には「大蔵幕府旧跡」の碑が建つが、今までのところ推定地中心部での発掘例は皆無に近く、御所本体の存在を裏付ける考古学的知見は得られてない。推定地内では鎌倉時代初期の地表面に達するまでに3m以上の深さを測るケースが多く、荏柄天神社参道付近と比べ相対的に低い土地であったことが明らかとなりつつあることから、史料考証に基づいた従来の評価を疑問視する向きもある。ただ、図1-地点⑨では御所東辺とされる東御門川の前身とも見なせる鎌倉時代初期の南北大溝2条が検出されるなど御所の傍証となり得る発見もある。限定的かつ断片的な発掘成果しかない現時点では、土地の高低差のみを根拠に従来の考証結果を覆すことは性急に過ぎるだろう。資料の増加に伴い、地道に検討を積み重ねる努力が必要であろう。前述した鎌倉初期の南北大溝などは発掘によらない地中レーダー探査等でも検知できる可能性があるため、遺跡保存のためにも、地下の基礎的な情報を得ておく視点も求められよう。

本地点は「関取場跡」の石碑から国史跡永福寺跡へと向かう市道の南側に位置し、荏柄天神社参道の西側に面している。永福寺に向かう市道は『吾妻鑑』寛喜三年（1231）や建長三年（1251）の火災記事に登場する「二階堂大路」の後身と見なせ、開通時期に関する記録は残っていないものの、永福寺創建にあたり礎石や木材・瓦といった膨大な量の資材が運搬されたことを想起すれば、本格的造営に先立つ建久初年（1190）頃には一定規模の道路が開通していたと考えるのが自然であろう。

建保七（1219）年正月に起きた三代将軍実朝の横死を受け、同年（承久元年に改元）七月には摂関家から幼少の三寅（九条頼経）が将軍継嗣として迎えられ、北条義時「大倉亭」の郭内南方に新造なった邸宅が居所とされた。義時の大倉亭は史料検討を通じて二階堂大路の東にあったと考証され、嘉禄元年（1225）十二月に宇津宮辻子新御所に移転するまでの間、仮御所が郭内に所在したとされている（秋山2010・高橋2016）。現代の地理感覚からすると二階堂大路の東という理解では字句通りに受け止め難いところがあるので、東＝南辺と意識して考えるべきだろうか。ちなみに、頼経の将軍任命は新御所移転の翌年、嘉禄二年（1226）正月のことである。

荏柄天神社は、社伝によると長治元年（1104）に開かれ、大倉御所の鬼門を守る社として崇敬されたという。同社に直接関連する発掘事例はないが、図1-地点25などでは参道と同方向で延びる溝や柱穴列が検出されており、中世の土地割に一定の影響を与える地位にあったことが窺い知れる。開創が社伝どおりならば頼朝入部を遡る古社ということになり、後述する古代「荏草郷」からの集落動向を考える上で重要な手掛かりとなろう。

奈良～平安時代の当地区に目を向けると、正倉院文書の「相摸国天平七年封戸租交易帳」（735）（a）や、承平年間（931～938）成立の『和名類聚抄』（b）に見える鎌倉郡「荏草（えがや）郷」が、現存する小字名「荏柄」に通じるとされている。bは鎌倉郡所在郷として他に、鎌倉・尺度・沼浜・埼玉・梶原・



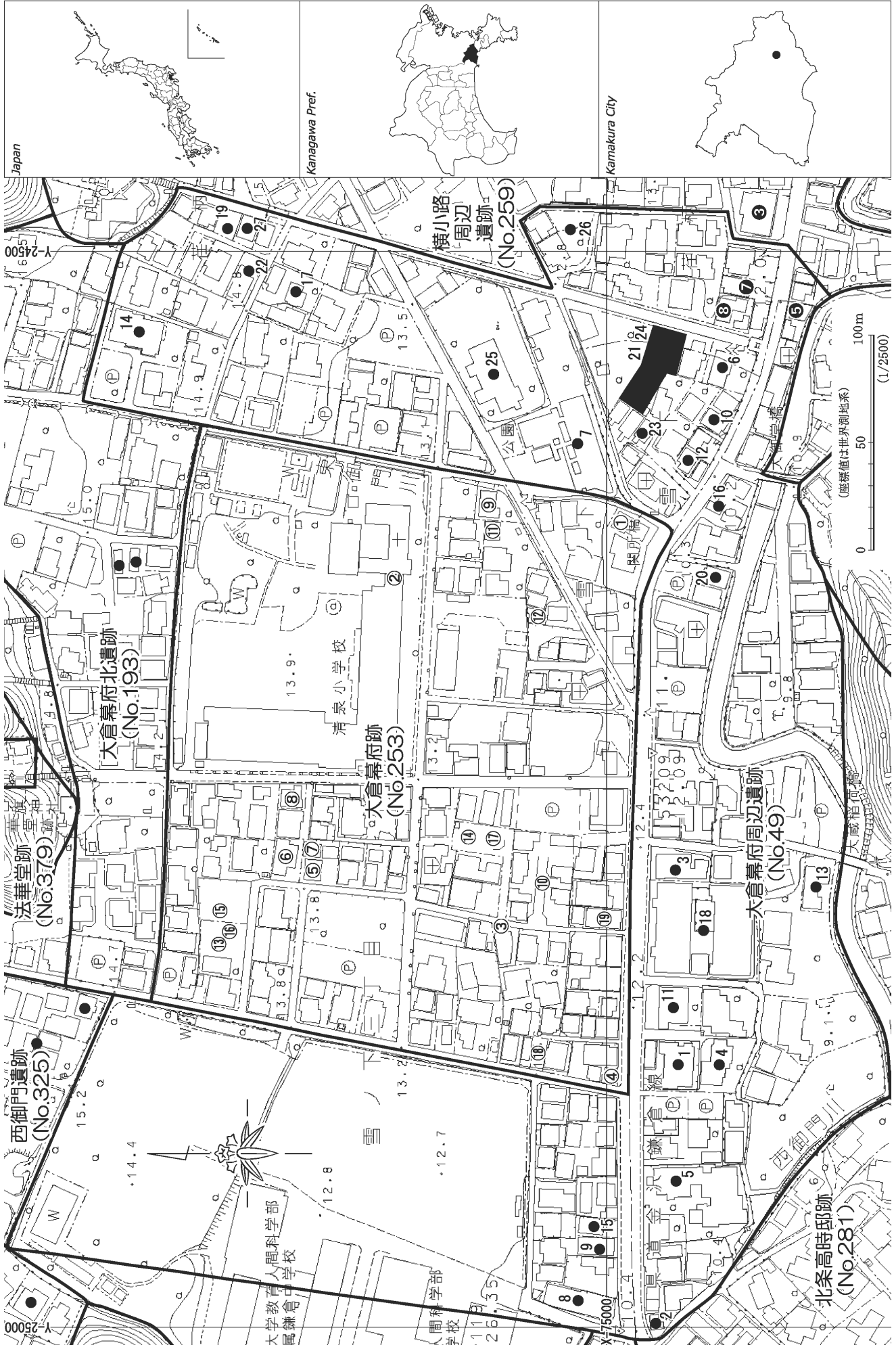


図1 周辺の発掘調査地点

表 1 周辺調査地点一覧

⑤・⑦・⑧は横小路周辺遺跡として報告

No.	地番	調査年度	面積 (㎡)	所収報告書（正式報告のみ）
<b>大倉幕府周辺遺跡群 (No. 49)</b>				26・⑤・⑦・⑧は横小路周辺遺跡の旧範囲内
1	雪ノ下四丁目 620 番 1	1980 年度	280	未報告
2	雪ノ下四丁目 600 番	1980 年度	トレンチ	未報告
3	雪ノ下四丁目 581 番 2	1981～1982 年度		未報告
4	雪ノ下四丁目 620 番 2	1983 年度	240	未報告
5	雪ノ下四丁目 610 番 2	1983 年度	620	未報告
6	雪ノ下四丁目 565 番 4	1989 年度	56	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 7』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1991
7	二階堂字荏柄 38 番 1	1991 年度	1000	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 1993
8	雪ノ下三丁目 606 番 1	1991 年度	350	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9 (第 3 分冊)』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1993
9	雪ノ下三丁目 607 番	1992 年度	140	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 10 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1994
10	雪ノ下字天神下 562 番 29	1994 年度	30	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 12 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 福田 誠ほか 1996
11	雪ノ下四丁目 620 番 5	1996 年度	252	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 1998
12	雪ノ下字大倉耕地 562 番 16	1999 年度	78	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 菊川 泉 2001
13	雪ノ下四丁目 580 番 10	1999 年度	129	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか 2001
14	二階堂字荏柄 58 番 4 外	2000 年度	281	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか 2002
15	雪ノ下三丁目 607 番 1	2001 年度	44	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 降矢順子ほか 2004
16	雪ノ下四丁目 567 番 7	2002 年度	25	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 2004
17	二階堂字荏柄 27 番 3 の一部	2002 年度	54	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 22 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 原 廣志 2006
18	雪ノ下四丁目 581 番 5	2003 年度	1630	『大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書』有限会社 鎌倉遺跡調査会 齋木秀雄ほか 2007
19	二階堂字荏柄 76 番 7 外	2005 年度	33	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 30 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 伊丹まどかほか 2014
20	雪ノ下四丁目 570 番 1	2006 年度	32	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 30 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 2014
21	二階堂字荏柄 3 番 6 外	2006 年度	67	本報告 (第 1 期調査 = 地点 I)
22	二階堂字荏柄 76 番 4	2006 年度	42	未報告
23	雪ノ下字天神前 562 番 30	2007 年度	26	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 32 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 沖元 道 2016
24	二階堂字荏柄 3 番 6 外	2007～2008 年度	54	本報告 (第 2 期調査 = 地点 II)
25	二階堂字荏柄 38 番 2	2011～2012 年度	1552	未報告
26	二階堂字荏柄 12 番 8	2016 年度	64	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2018
27	二階堂字荏柄 76 番 12	2018 年度	40	未報告
⑤	二階堂字横小路 110 番 3	1996 年度	18	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 野本賢二 1998
⑦	二階堂字荏柄 10 番 6	1998 年度	96	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 16 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 福田 誠ほか 2000
⑧	二階堂字荏柄 10 番 1	2000 年度	40	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 19』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか 2003
<b>大倉幕府跡 (No. 253)</b>				
①	雪ノ下四丁目 569 番	1989 年度	162	『大倉幕府周辺遺跡群』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団 馬淵和雄 1990
②	雪ノ下三丁目 707 番 1	1990 年度	30	未報告
③	雪ノ下三丁目 651 番 8	1997 年度	15	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 15 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 汐見一夫 1999
④	雪ノ下三丁目 618 番 4	2000 年度	24	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 汐見一夫 2002
⑤	雪ノ下三丁目 701 番 14	2002 年度	45	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 滝澤晶子 2005
⑥	雪ノ下三丁目 701 番 3	2002 年度	81	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄ほか 2005
⑦	雪ノ下三丁目 701 番 1	2003 年度	16	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 鍛冶屋勝二 2005
⑧	雪ノ下三丁目 704 番 3 外	2005 年度	56	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 27 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 福田 誠 2011
⑨	雪ノ下三丁目 637 番 4	2006 年度	68	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 27 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 熊谷 満 2011
⑩	雪ノ下三丁目 629 番 1	2007 年度	170	『大倉幕府跡発掘調査報告書』株式会社 博通 宮田 眞 他 2011
⑪	雪ノ下三丁目 637 番 6 外	2007 年度	25	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 伊丹まどか 2018
⑫	雪ノ下三丁目 635 番 2 外	2008 年度	47	『大倉幕府跡発掘調査報告書』有限会社 鎌倉遺跡調査会 熊谷 満ほか 2012
⑬	雪ノ下三丁目 693 番 8	2009 年度	33	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 31 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2015
⑭	雪ノ下三丁目 648 番 3	2009 年度	38	未報告
⑮	雪ノ下三丁目 694 番 18	2009 年度	42	『大倉幕府跡 (No. 253) 発掘調査報告書』株式会社 博通 滝澤晶子ほか 2013
⑯	雪ノ下三丁目 693 番 1	2009 年度	56	『大倉幕府跡 (No. 253) 発掘調査報告書』株式会社 博通 滝澤晶子ほか 2013
⑰	雪ノ下三丁目 648 番 8	2010 年度	54	未報告
⑱	雪ノ下三丁目 618 番 8、 653 番 10	2013 年度	29	『大倉幕府跡 (No. 253) 発掘調査報告書』株式会社 博通 滝澤晶子ほか 2017
⑲	雪ノ下三丁目 628 番 1	2014 年度	73	『大倉幕府跡 (No. 253) 発掘調査報告書』株式会社 博通 宮田 眞ほか 2018
<b>横小路周辺遺跡 (No. 259)</b>				
⑤	二階堂字荏柄 9 番 1	1987～1988 年度	500	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 6』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1990

地点番号は、図 1 に対応

大島の各郷名を掲げている。奈良時代の鎌倉郡衙（郡家）は今小路西遺跡（御成小学校地点）の調査で発見されており、a・bに加え、綾瀬市宮久保遺跡出土の天平五年銘木簡にも記載されている「鎌倉郷」を郡衙周辺に当てる見方が有力である。「荏草郷」比定地の当地周辺でも古代遺物が発見されることは珍しくなく、後節で述べるように、天神社参道沿いの微高地上には一定規模の集落が展開していたことが考えられる。

## 第2節 周辺の調査成果

大倉幕府周辺遺跡群では、現在までに30地点で発掘調査が実施され、この中には横小路周辺遺跡として報告された字荏柄の3地点も含まれる（図1・表1）。地点7では旧二階堂大路に並行する大規模な溝が検出され、鎌倉時代初期から近世にかけて20数回もの造り替えが確認されている。位置的に見て二階堂大路の北側溝と考えて大過なく、鎌倉時代前期には北岸に沿った形で柱穴が並ぶことから、板塀など遮蔽施設が付帯する時期もあったと考えられる。また図1の範囲から東に外れてしまうが、横小路周辺遺跡の一地点でも調査区の南端部で南東に落ち込む斜面堆積が確認されており（野本1999）、この北辺ラインが旧二階堂大路と概ね並行することから、これも大路北側溝の延伸部であった可能性を指摘できる。

先述したように大倉御所推定地の東側一帯は微高地となっており、中世基盤層の検出レベルも高い。こうした幕府中枢近くの微高地上では、頼朝入部後のごく早い段階から武家の宿館や寺院地として土地利用が進んでいったことが発掘調査の結果により明らかとされている。地点7・25では鎌倉時代前半の土器（かわらけ）一括廃棄土坑が複数基検出され、特に地点25での古相かわらけの一括出土を受けて、近年では在地土器編年の再構築に向けた取り組みが活発化している（八重樫・高橋2016など）。ただ、地点25については正式報告書が未刊行であるため、土器が示す各年代における土地利用の実態は詳らかとなっていない。

微高地エリアでは、古代以前に遡る遺構・遺物の検出事例も多い。詳しい報告はないが、地点7・25では古墳時代～平安時代の竪穴住居や掘立柱建物・井戸に加え、幾筋かの蛇行する旧河道が確認されている。地点25では中世基盤層下から大型の薬研堀が発見され、出土した灰釉陶器の碗から10世紀後半以降の開削であることが指摘でき（押木2016）、具体的な年代とともに、堀の性格や開削主体者の実像が注目される。この他、図1の東範囲外となるが横小路周辺遺跡（市立第二小学校地点＝向荏柄遺跡）で平安時代の竪穴住居7軒が、地点⑫では中世基盤層の下で2間×2間以上の総柱式掘立柱建物1棟が検出されるなど、古代「荏草郷」を構成する施設が点在していた状況が把握されつつある。

県道金沢鎌倉線の南側では、地点11・18で弥生時代中期後葉～後期後半の竪穴住居が数多く分布し、近在の未報告地点でも同時期の住居が多数確認されているという。鎌倉平野部では最も古く、まとまりをもった住居展開といえ、微高地上を居住域とし、周囲の低地帯を水田生産域に置いた拠点集落として評価できる。地点18では古墳時代前期初頭の方形周溝墓が単基で確認され、居住域から墓域への土地利用の変化のみならず、地域を統括する首長墓の萌芽をも窺うことができる。

本章は、拙稿2018の第一章を一部改変した上で転載した。

### 参考文献

- ・野本賢二ほか 1999「横小路周辺遺跡（No.259）二階堂字横小路93番11地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

- ・秋山哲雄 2010『都市鎌倉の中世史』吉川弘文館
  - ・押木弘己 2016「相模国における古代末期の土器様相」『鎌倉かわらけの再検討—大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から』鎌倉かわらけ研究会
  - ・高橋慎一郎 2016「御所と邸宅」『現代語訳吾妻鑑』別巻 吉川弘文館
  - ・八重樫忠郎・高橋一樹編 2016『中世武士と土器』高志書院
  - ・特定非営利活動法人鎌倉考古学研究所 2016『「二階堂地域を学ぶⅠ」資料集』
- この他、表 1 に掲載した調査報告書は割愛した。

## 第二章 調査の方法と経過

### 第 1 節 調査に至る経緯

本調査は、個人専用住宅の建設に先立つ埋蔵文化財の記録保存を目的として実施した。建築計画では建物の基礎工事として鋼管杭を打ち込み、また地下室を築造する設計にもなっていたことから、鎌倉市教育委員会では周辺での埋蔵文化財の調査成果を踏まえ、建築工事に先立ち事前の発掘調査が必要との判断を示した。この結果を受け、平成 18 年 10 月 30 日～平成 19 年 1 月 15 日に 67 m<sup>2</sup>を対象とする発掘

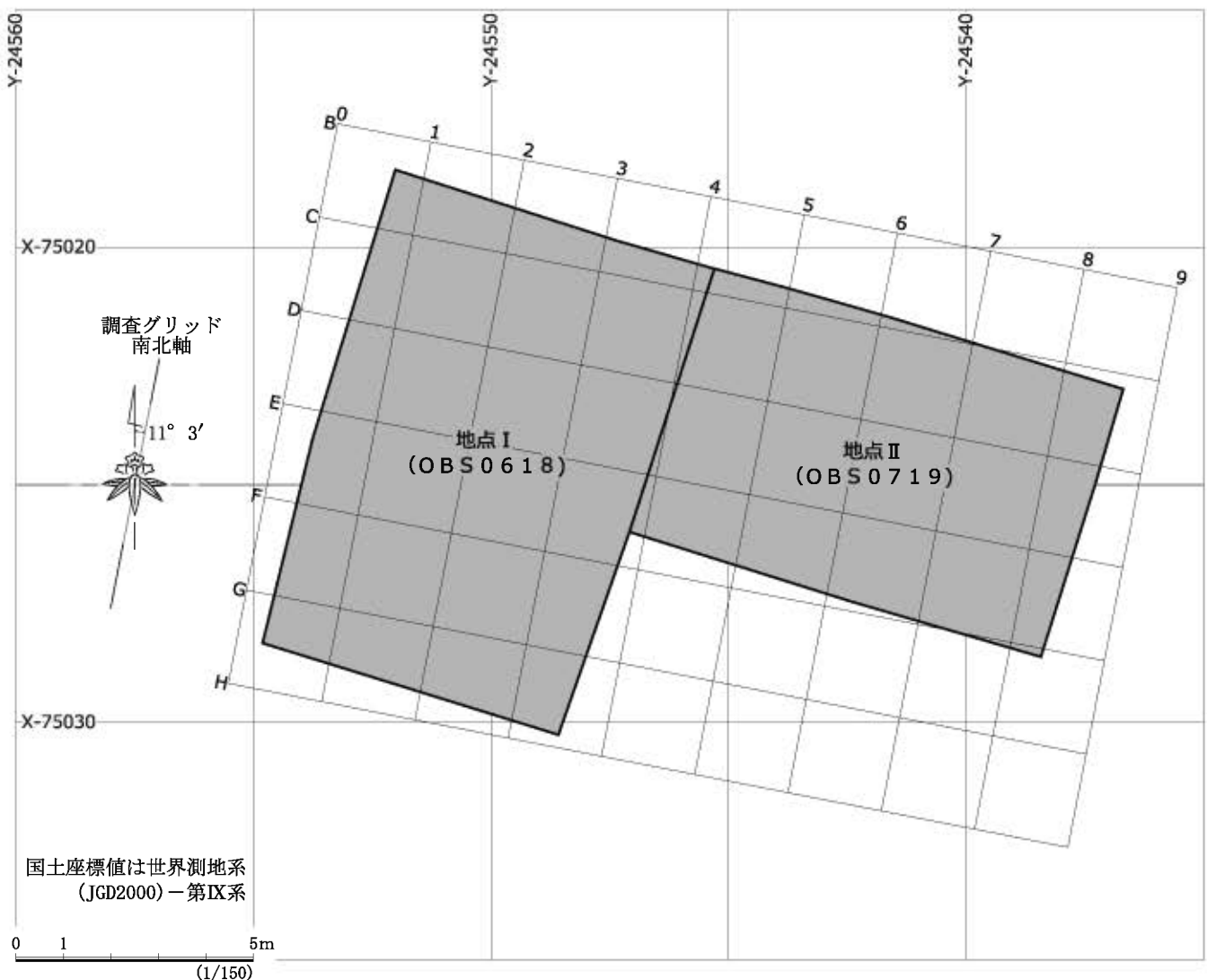


図 2 調査区配置図

調査を実施し（地点Ⅰ）、この後、建築計画の変更に伴い、新たに鋼管杭を打ち込む 54 m<sup>2</sup>について追加調査を平成 20 年 2 月 28 日～同年 4 月 23 日に行った（地点Ⅱ）。

なお、地点Ⅰの調査面積については、『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 23 平成 18 年度発掘調査報告（第 1 分冊）』（鎌倉市教育委員会 2007-Ⅷ頁）で 122.40 m<sup>2</sup>と記していたが、誤りである（地点Ⅰ・Ⅱの合計値を示した可能性がある）。

## 第 2 節 調査の方法

地点Ⅰ・Ⅱともに表土掘削は重機によって行い、遺物包含層以下は人力での掘削に移行して順次遺構の確認と掘削、次いで写真撮影・測量図作成などの記録作業を進めた。

測量に当たっては図 1・表 1 の地点⑧で使用した 2 m 単位の測量方眼（グリッド）を用い、本地点の調査範囲に合わせて南北軸（x 軸）にアルファベット A～H を、東西軸（y 軸）には算用数字 0～9 を付した。各グリッドの名称は、北西角の x・y 軸を基点に「B-0 グリッド」などと呼称した。平面図の作成には光波測距儀で測定した座標値を方眼紙にプロットする方法を取った。

上記地点⑧では任意の測量方眼と鎌倉市 4 級基準点 E180・E181 との関係から国家座標系への合成も済んでいたことから、地点Ⅰ・Ⅱ調査区についても改めて国家座標系の測量図に合成する作業を行い、本報告においては世界測地系座標値（JGD2011）に変換した成果図を掲載した（図 2）。

## 第 3 節 調査の経過

以下、現地作業の進捗状況について、調査日誌にもとづいて概要を述べる。

地点Ⅰの表土掘削は平成 18 年 10 月 24 日に実施し、同月 30 日には調査用具の搬入と現場環境の整備を行って本格的に調査に着手した。重機掘削後、遺物包含層以下は人力による掘削に移行し、順次写真撮影と図面作成に当たった。11 月中旬には第 1 面の記録を終え、以下、12 月上旬に第 2 面、12 月中旬に第 3 面、12 月下旬には第 4 面の記録を終えた。明けて平成 19 年には第 4 面下の確認トレンチを掘削し始め、拡張等を経て 1 月中旬には第 4 面下（第 5 面）の記録を終了した。1 月 15 日には調査用具の撤収を行って現地での作業工程を全て終了した。

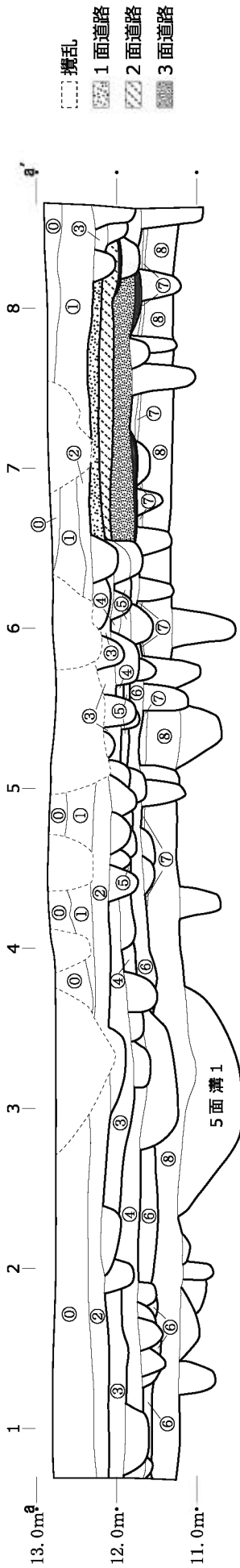
地点Ⅱの表土掘削は平成 20 年 2 月 27 日に実施し、同日から翌日にかけて調査用具の搬入と現場環境の整備を行って本格的に調査に着手した。調査手順は地点Ⅰと同様に進め、3 月上旬には第 1 面の記録を終えた。次いで 3 月下旬に第 2 面、4 月初頭に第 3 面、同月中旬には第 4 面の記録を終えて第 5 面に向けて掘削を開始した。第 5 面は中世基盤層の上面で、4 月下旬には掘削・記録作業を終え同月 23 日に調査用具を撤収して現地での調査工程は完了した。

整理作業は平成 26 年度の後半から着手した。途中、調査担当者が不在となったため作業は一時中断したが、平成 28 年度の後半に再開した後は他遺跡の整理作業と並行しながら断続的に作業を進めた。平成 30 年度には報告書の執筆・編集作業を始め、同年度末の本書刊行に至る。これら一連の整理作業は、鎌倉市教育委員会文化財課分室において行った。

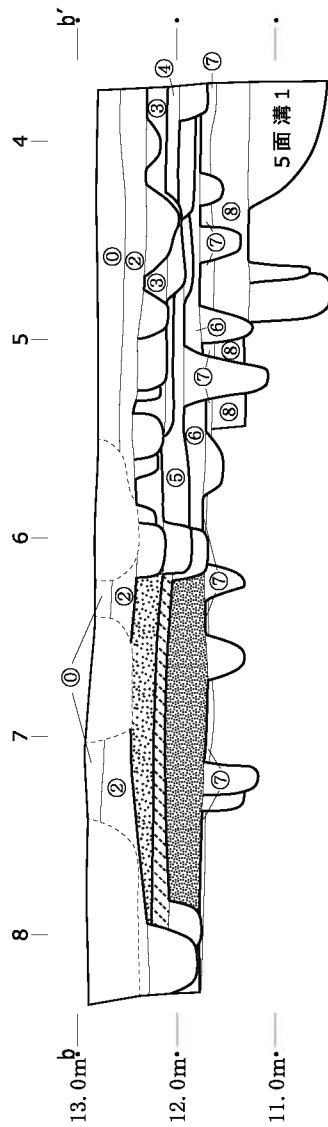
### 第三章 基本土層

本地点は滑川北岸の沖積微高地に立地する。現地表面の標高は12.8～13.0 m前後で、北東角が最も高く、南および西に向けて若干下がる地形となっている。前章でも述べたように、本地点の5面は中世基盤層で、地元の遺跡調査者が「ネチャ」と呼ぶ夾雑物の少ない黒褐色粘質土が堆積している。今回は地表面より1.8 m下の標高11.2 m前後で検出された。その後、中世を通じて泥岩ブロック（土丹）による盛土造成が繰り返され、下層より4面→3面→2面→1面という順で、整地および生活面としての土地利用がなされていた（図3）。3面から1面までは地点Ⅱの東部で南北方向に延びる道路状遺構が検出され、この部分の整地は泥岩粒を主体とし、他のエリアに比べて堅固に構築されていた。1面は標高12.0～12.3 m前後で検出され、これより上位には褐色の砂質土が堆積し、近世～近代の形成層と考えられている。

近在の遺跡では中世の整地面が10枚強も積み重ねられ、全体の厚さでは2 m近くにまで及ぶ地点もある。こうしたところでは中世基盤層自体が低く、大雨時の冠水などの影響を受けやすい土地であったと考えられる。そのため、頻繁に土地の嵩上げを繰り返した結果が、上記の堆積状況となって現代まで残されたのであろう。本地点は、本来の地形が微高地であった故に、盛り土の頻度が比較的少なかったものと考えられる。



0 1 2m  
(1/80)



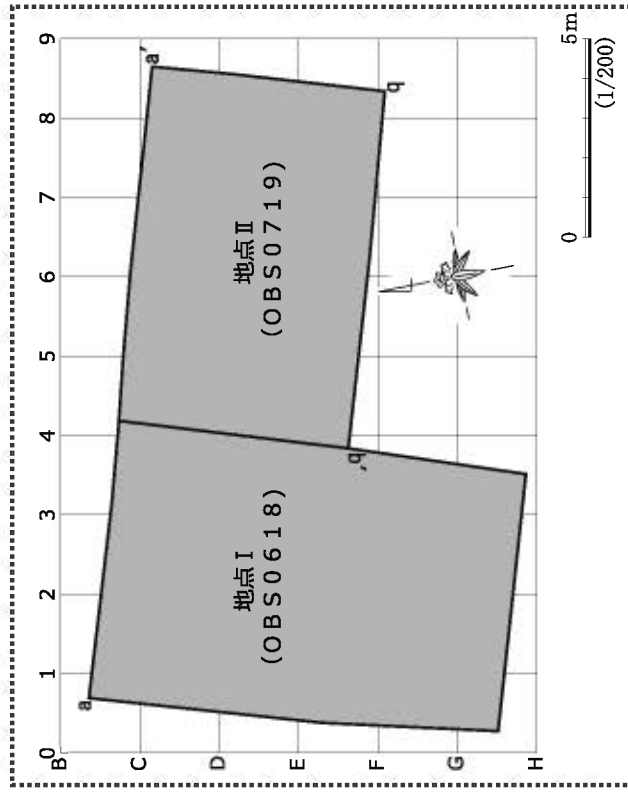
13.0m  
12.0m  
11.0m

b'

4 5 6 7 8

5面溝1

0 1 2m  
(1/80)



0 5m  
(1/200)

基本土層説明

- ① 褐色土
  - ② 明褐色土
  - ③ 褐色土
  - ④ 褐色土
  - ⑤ 灰褐色土
  - ⑥ 褐色土
  - ⑦ 暗褐色土
  - ⑧ 明褐色土
- 表土。  
 1 ~ 3 cm大の泥岩粒多量。かわらけ片やや多く、炭粒少量。縮まりあり。  
 砂質土。泥岩粒、かわらけ片、炭粒多量。縮まりややあり。  
 粘質土。泥岩粒、かわらけ片多量、炭粒少量。縮まりあり。  
 粘質土。2 ~ 5 cm大の泥岩粒多量、かわらけ片、炭粒少量。縮まりあり。  
 弱粘質土。5 cm大の泥岩ブロック少量、かわらけ片、炭粒微量。縮まりあり。  
 粘質土。泥岩粒多量、かわらけ片、炭粒少量。縮まりややあり。  
 粘質土。泥岩粒、褐鉄粒多量。縮まりややあり。  
 粘質土。10 ~ 30 cm大の泥岩ブロック多量。縮まりあり。

図3 基本土層図

# 第四章 発見された遺構と遺物

上述のように、今回の発掘調査では中世基盤層の上面を含む5枚の中世遺構面が検出された。以下、最上層の1面から順に、発見された遺構と出土遺物について概要を述べる。なお、地点Ⅰ・Ⅱではそれぞれ独自の遺構番号を付したため、土坑・ピットの類では各遺構面で同じ番号が2例発生してしまっている。本報告では番号改変の煩を避け、地点Ⅰ検出分についてはオリジナルの番号を掲載し、地点Ⅱの検出遺構については番号の冒頭に「0」を付し、「土坑01」や「ピット01」などと表現することにした。地点Ⅱでも「ピット列1」など整理時点で遺構群の名称を付した事例については、その限りではない。

## 第1節 1面上の遺物（図4～13、表2）

図4には主に表土掘削時の出土遺物を、図5～13には1面を検出するまでの出土遺物を掲載した。図4上段のかわらけは全てロクロ成形品で、体部～口縁が直線的もしくは外反気味に開くものが主体となり、14世紀後半～15世紀前半頃に位置付けられる。他に小片ながら瀬戸の灰釉平碗や鍔付き瓦質

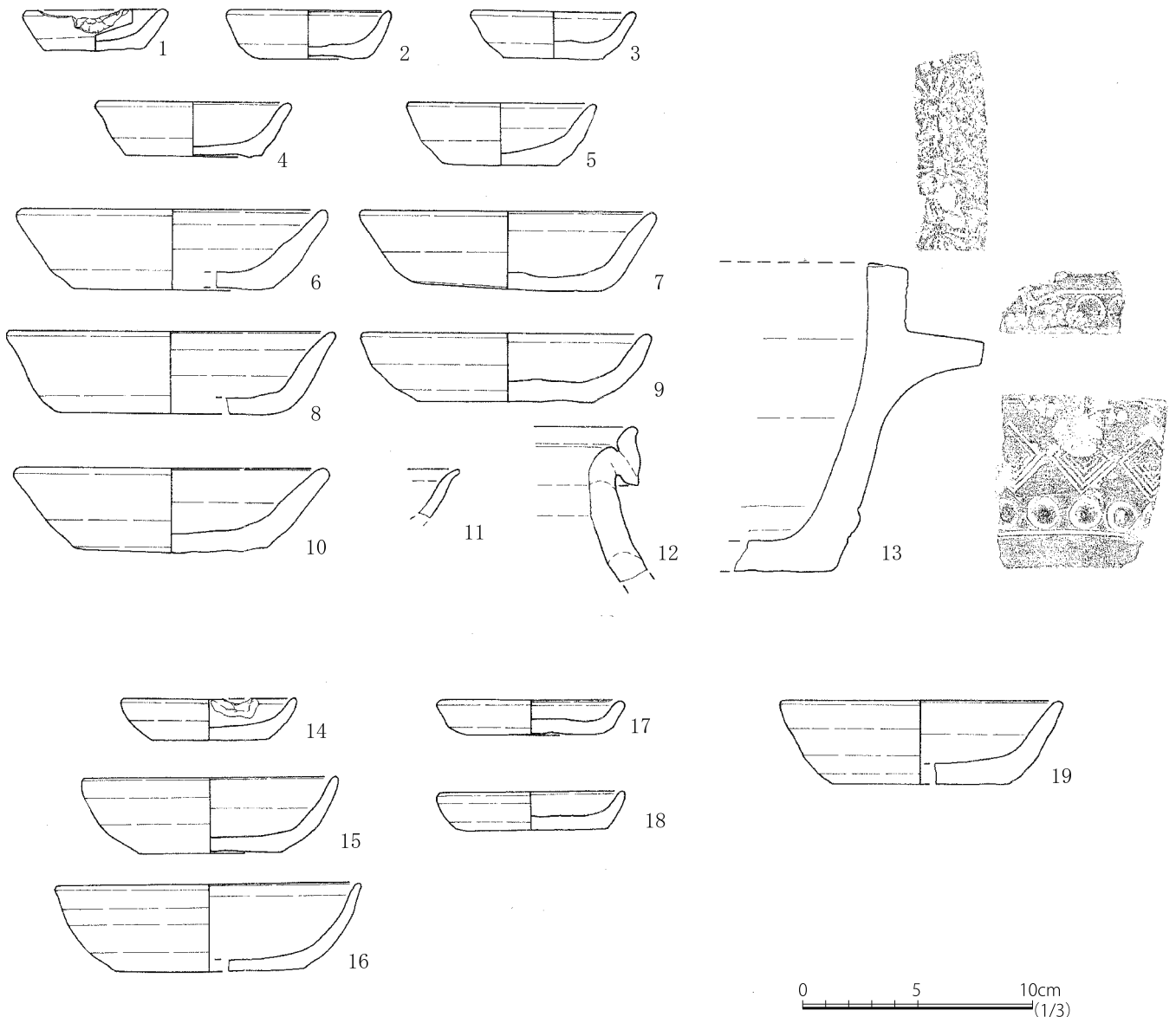


図4 表土などの出土遺物



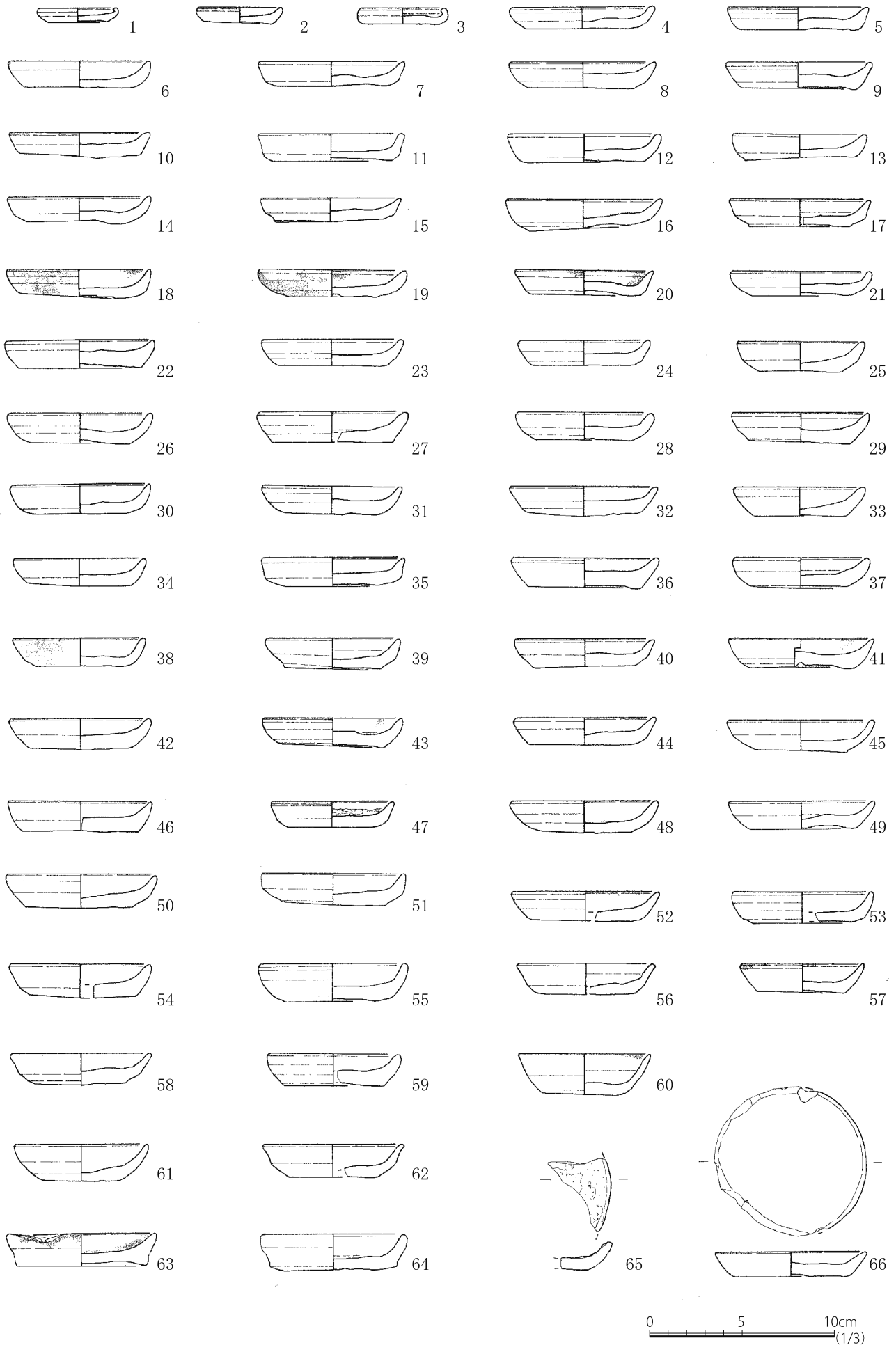


图5 1面上出土遺物(1)

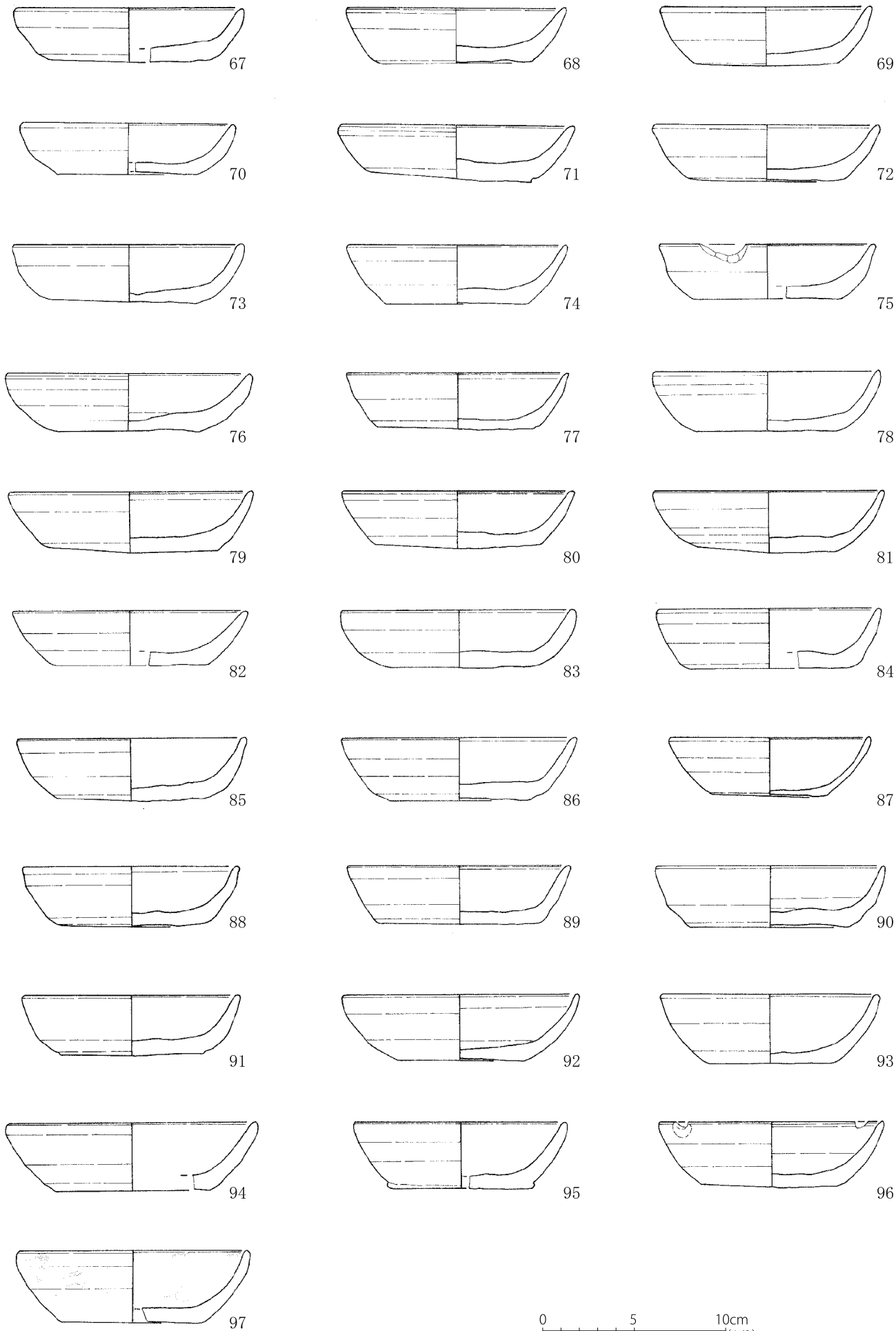


图6 1面上出土遺物(2)

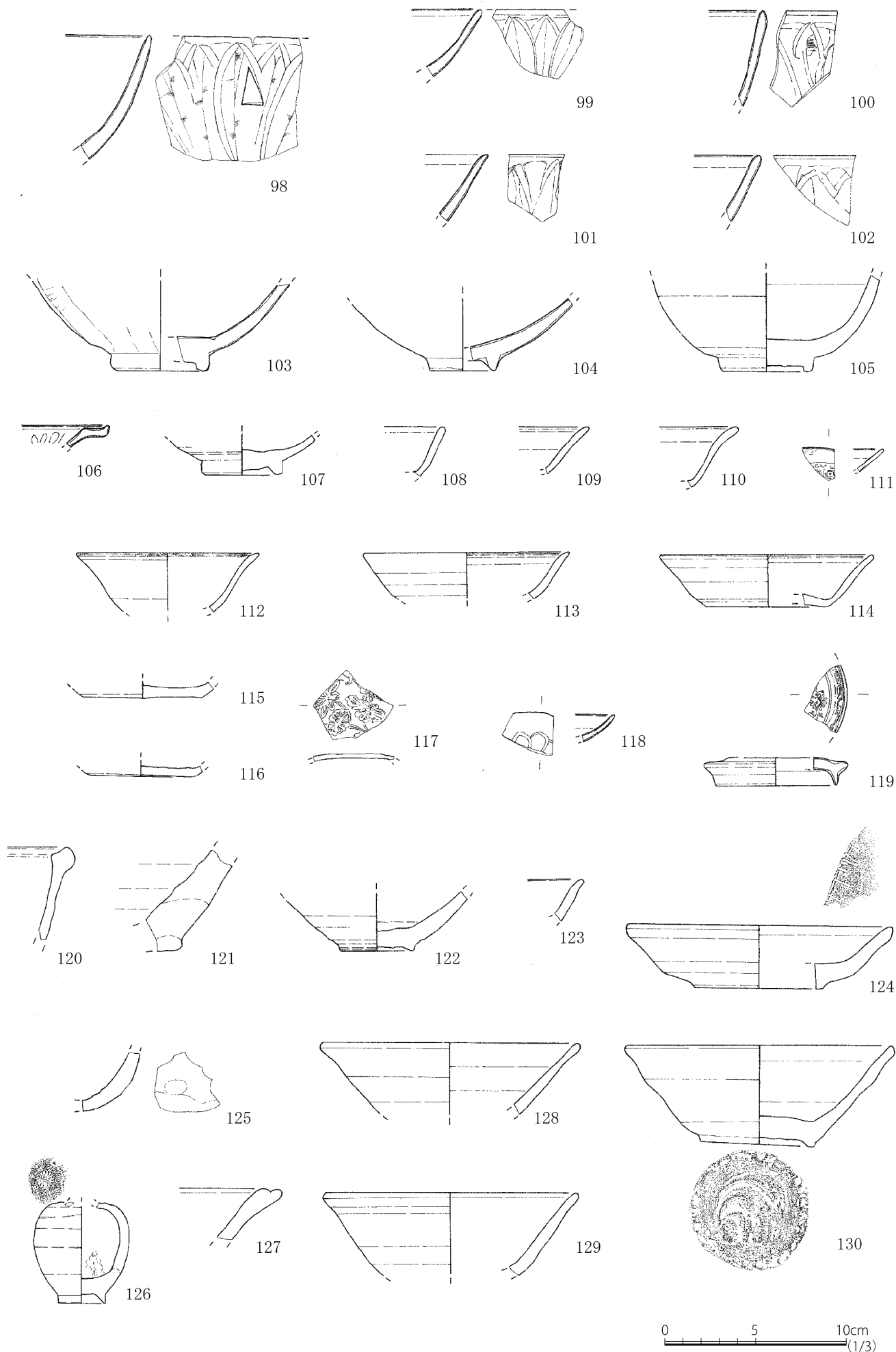


图7 1面上出土遺物(3)

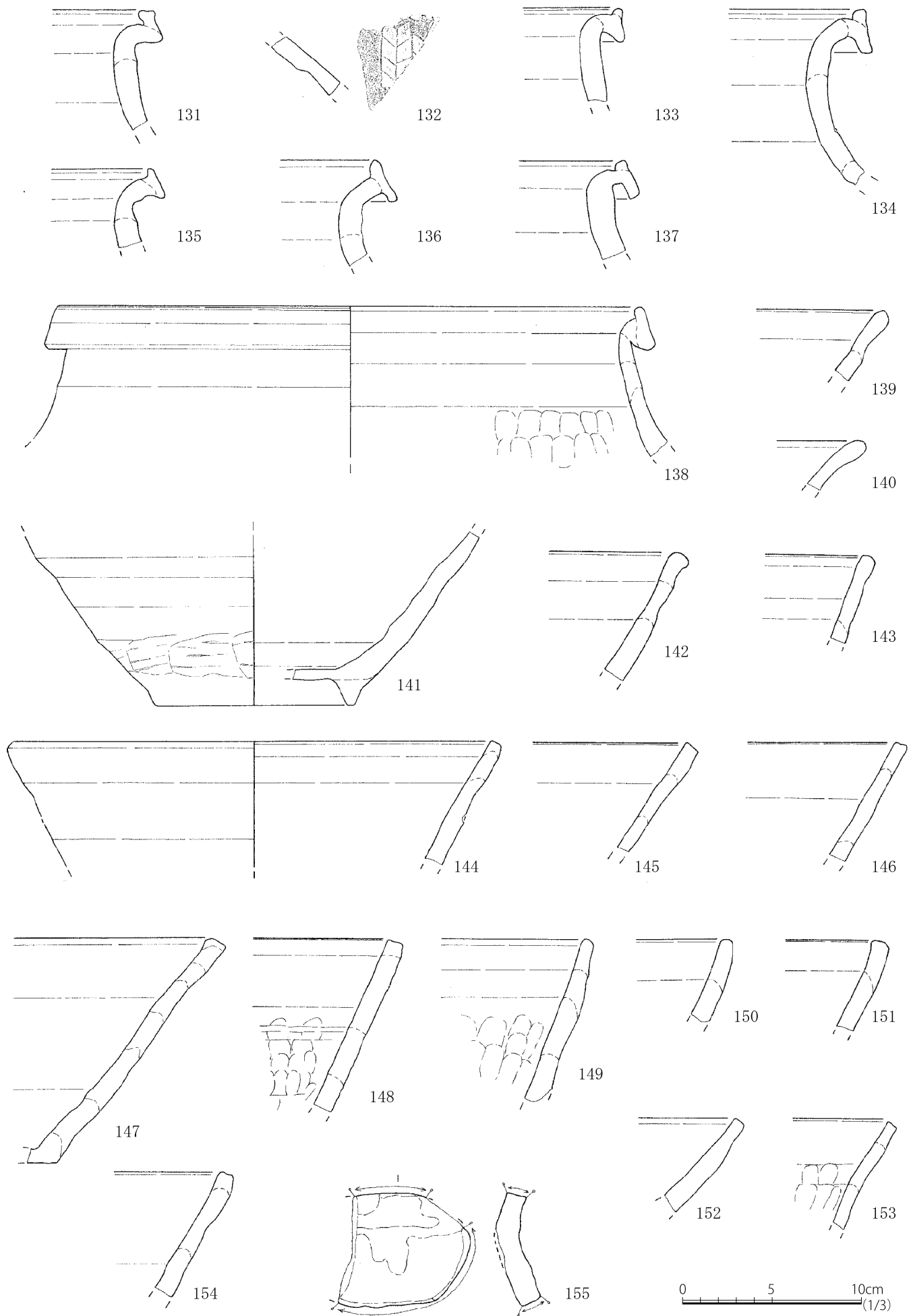


图8 1面上出土遺物(4)

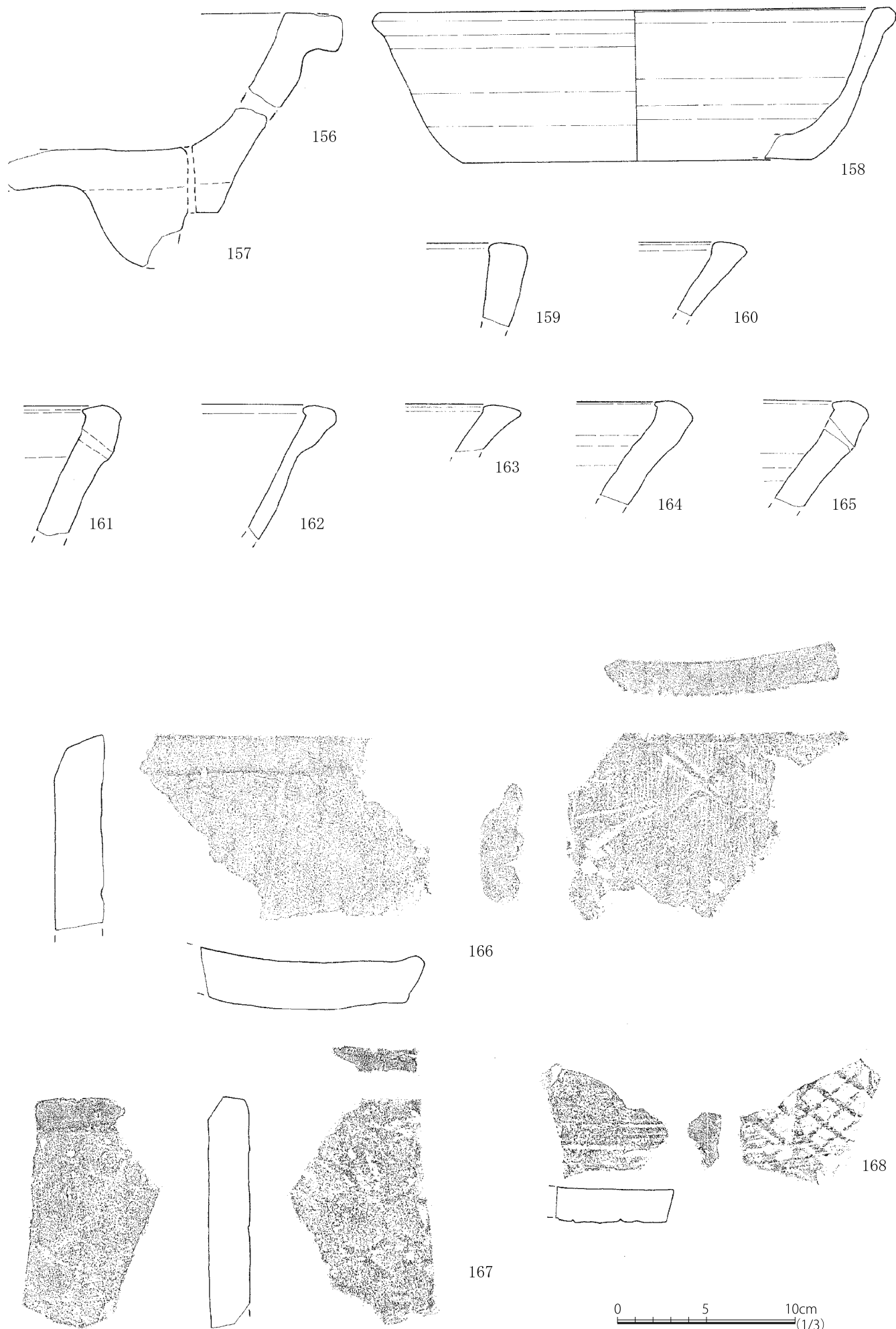
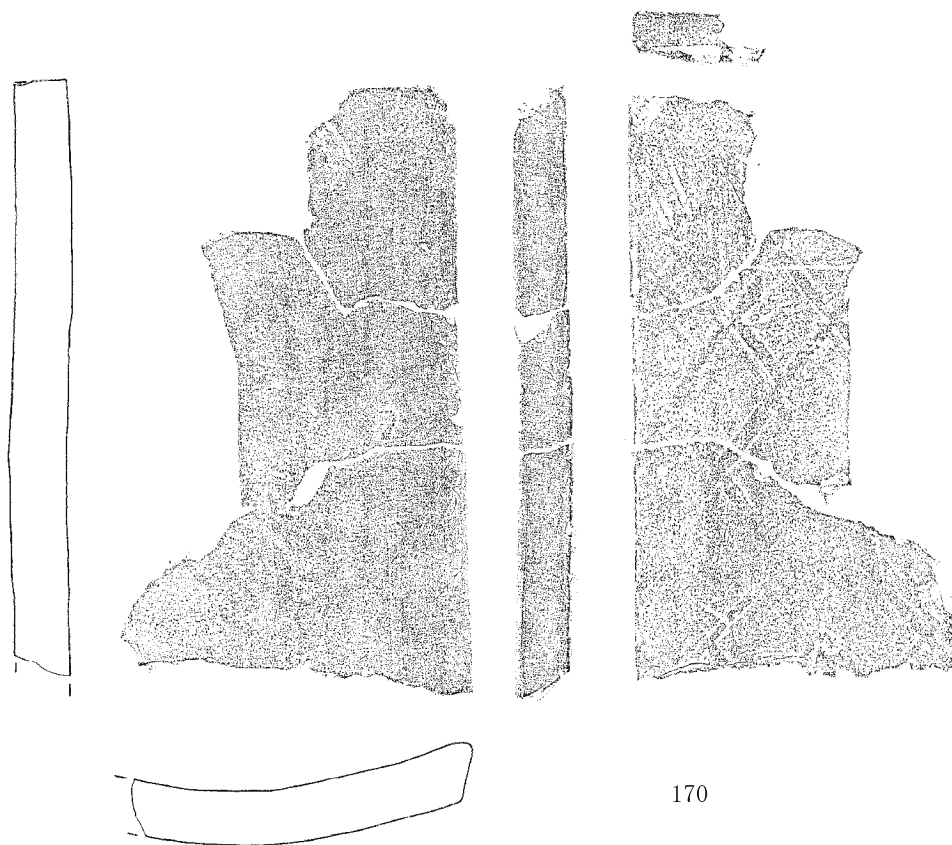


图9 1面上出土遺物(5)



169



170

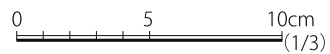


图 10 1 面上出土遺物 (6)

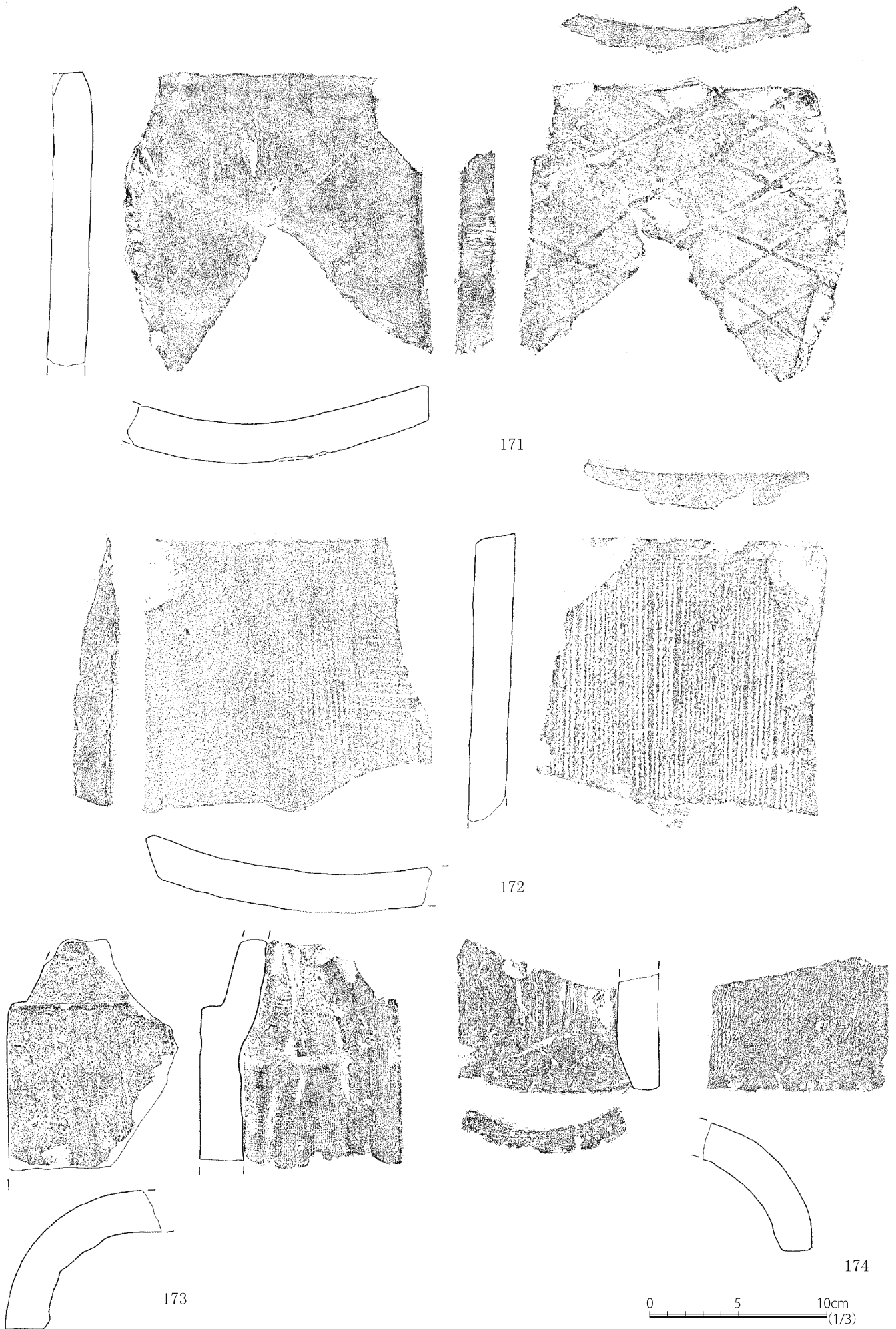


图 11 1 面上出土遺物 (7)

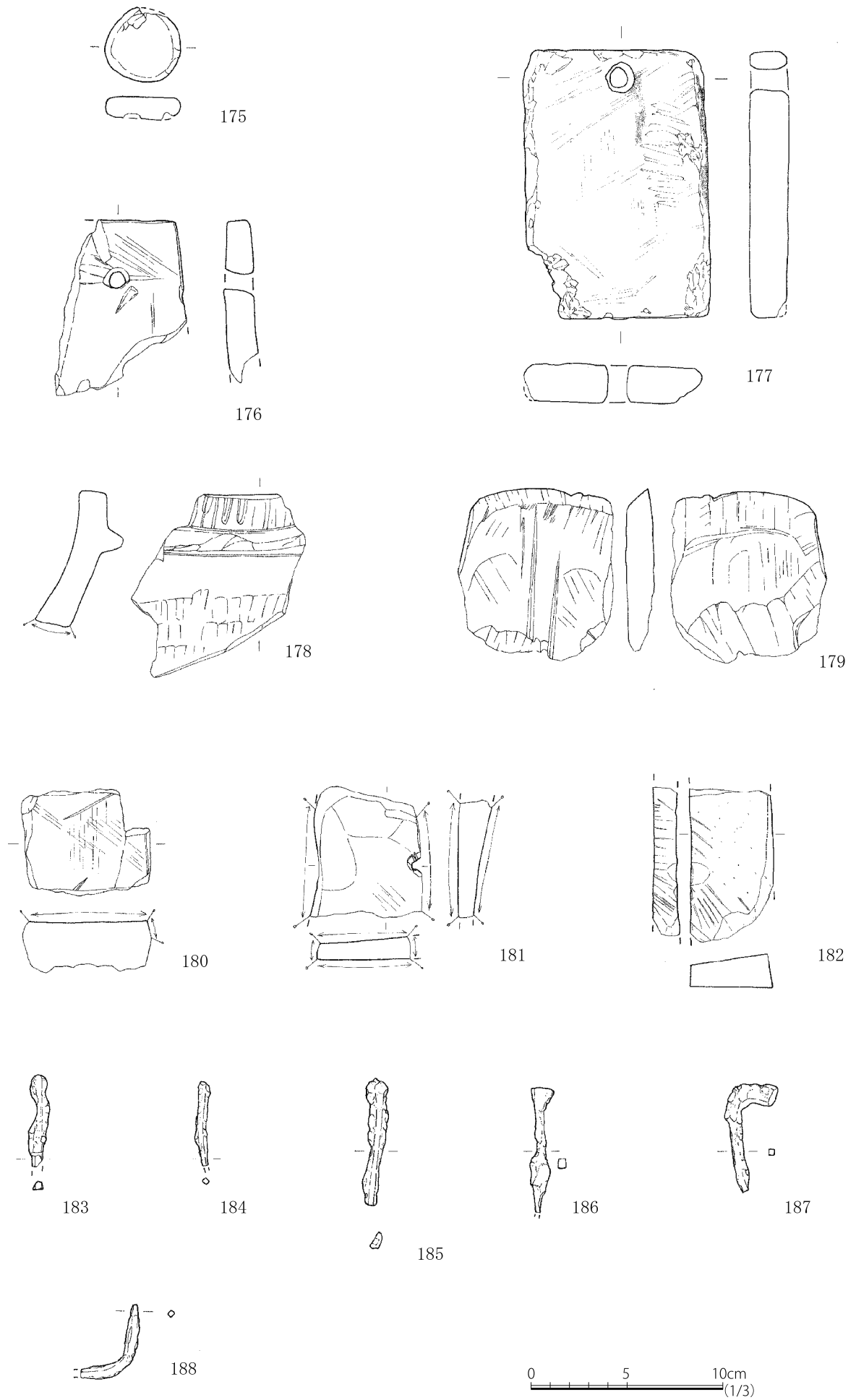
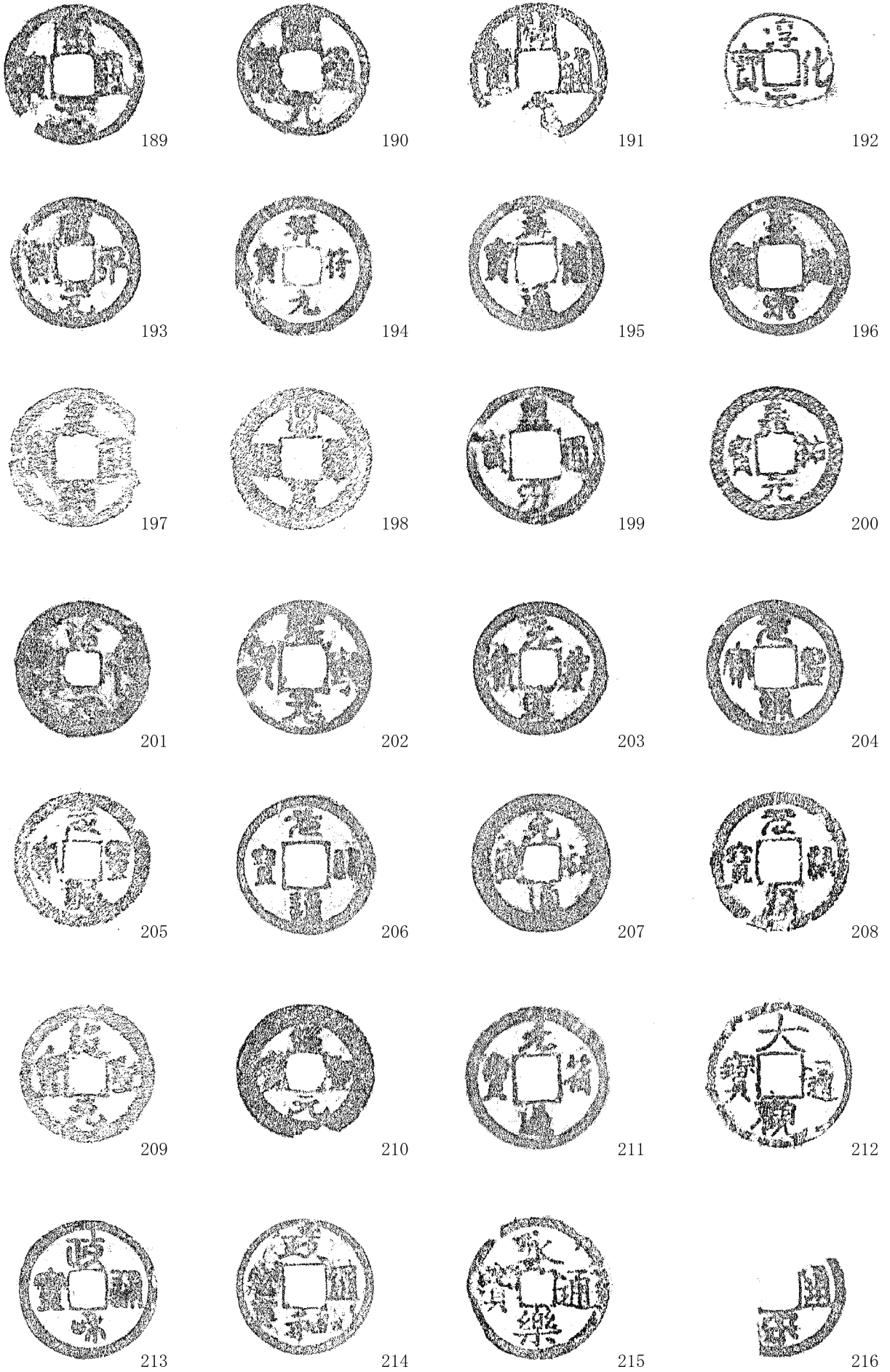


图 12 1 面上出土遺物 (8)





0 1 2cm  
(1/1)

图 13 1 面上出土遗物 (9)

表2 表土～1面上 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		フタ	フタ状	板状	スコ状		
図4 表土などの出土遺物												
1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.0	4.4	1.8	完形	○		○		橙	白針 口縁部一部打ち欠き
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.9)	(5.0)	2.1	ほぼ完形 歪み大	○		○		黄橙	白針 口縁煤付着
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.3)	2.0	1/4	○		○		黄橙	白針
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(5.9)	2.4	1/2	○		○		橙	白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.1	3.7	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
6	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(8.7)	3.5	1/3	○				黄橙	白針
7	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.3	3.5	ほぼ完形	○		○		橙	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.1)	(10.1)	3.6	1/5	○		○		黄橙	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(7.6)	3.0	1/4	○		○		橙	白針
10	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	8.5	3.7	3/4	○		○		黄橙	白針
11	陶器	瀬戸 碗か皿か	—	—	[2.2]	口小片					刺-フ 灰	
12	陶器	常滑 甕	—	—	[6.8]	口小～ 胴片					茶	6型式
13	瓦質土器	火鉢	—	—	[13.5]	口小～ 底小					黒灰	河野IVC類(D2類) 連珠文貼り付け+亀甲文押印
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.0)	1.8	1/4	○		○		黄橙	0面土坑04 白針 口縁部打ち欠き
15	土器	ロクロ かわらけ・大	(10.9)	(6.2)	3.3	1/2	○		○		黄橙	0面土坑04 雲母
16	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(8.4)	3.8	1/8	○		○		黄橙	0面土坑04 雲母
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.5)	1.5	1/4	○		○		黄灰	0面土坑06 白針
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	6.6	1.6	1/3	○		○		黄灰	0面土坑06 白針
19	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(7.6)	3.7	1/4	○		○		橙	0面土坑010 白針
図5 1面上出土遺物(1)												
1	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.3)	(3.0)	0.8	1/2	○		○		黄橙	内折れ
2	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.6	3.8	0.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
3	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.7	4.0	0.9	4/5	○		○		黄灰	内折れ
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.4)	1.2	1/3	○		○		黄灰	白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.6)	1.3	1/2	○		○		黄灰	白針
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.2	1.5	1/3	○		○		黄橙	白針
7	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.1	1.4	1/3	○				黄橙	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.4	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.4	1.4	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.7	1.3	1/4	○		○		暗灰黄	白針 内外全体が黒色に変色
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.5	1.5	4/5	○		○		黄橙	白針
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.6	1.6	4/5	○		○		黄灰	白針
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	6.0	1.5	ほぼ完形	○				黄橙	白針
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.3	完形	○		○		黄灰	白針 外面全体が黒色に変色
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.1	1.3	2/3	○		○		橙	白針
16	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	5.3	1.6	4/5	○		○		黄橙	白針 砂質
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.8)	1.5	1/3	○				黄橙	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		行 <sup>°</sup>	対行状	板状	スノ状		
18	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.8	1.5	4/5	○		○		黄灰	白針 内外面煤付着
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(5.0)	1.4	1/4	○		○		橙	白針 内外面黒色に変色
20	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.2	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 内外面一部煤付着
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.6)	1.2	1/2	○		○		橙	白針
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.9)	1.5	1/2	○		○		橙	白針
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.1)	1.5	2/3	○		○		橙	白針
24	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.8)	1.4	1/2	○		○		黄灰	白針
25	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(4.6)	1.6	1/4	○		○		橙	白針
26	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.5)	1.5	1/3	○		○		橙	白針
27	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.6)	1.7	1/4					黄橙	1面土坑19 白針
28	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.4)	1.5	1/3	○		○		橙	白針
29	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.1	1.6	4/5	○		○		橙	白針
30	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.2)	1.6	1/3	○		○		黄灰	白針
31	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.2)	1.6	1/4	○		○		黄灰	白針
32	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.3)	1.7	2/3	○				黄橙	白針、砂質
33	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.1)	(5.0)	1.6	1/4	○		○		橙	白針
34	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.7	1.6	4/5	○				黄橙	白針、砂質
35	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.2)	1.6	1/3	○		○		橙	白針
36	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.3)	1.6	1/3	○				黄灰	白針
37	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.3	1.7	4/5	○		○		橙	白針
38	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.6	1.5	1/3	○		○		黄橙	白針 内外面一部黒色に変色
39	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.4	1.7	4/5	○		○		橙	白針
40	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.5	1.5	3/4	○		○		黄灰	白針、砂質
41	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.8)	1.6	1/3	○		○		黄橙	白針 内外面煤付着 外底面の中央に非貫通孔
42	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.7	4/5	○		○		黄橙	白針
43	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.7	1.5	完形					橙	白針 内外面一部黒色に変色
44	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.9	1.5	2/3	○		○		黄灰	白針
45	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.2	2.2	4/5	○		○		黄灰	白針
46	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.4)	1.7	1/2	○		○		黄橙	白針
47	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.9)	1.4	1/6					灰褐	埴塼として使用か
48	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.9	1.8	4/5	○		○		黄橙	白針、砂質 外面一部煤付着
49	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.9	1.5	3/4	○		○		橙	白針
50	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.9	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
51	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.8	1.7	4/5	○		○		黄橙	白針
52	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.9)	1.6	1/4	○				黄橙	1面土坑19 白針
53	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.7)	1.7	1/2			○		橙	白針 砂質
54	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.0	1.9	口小～ 底1/2	○				黄橙	白針
55	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.9)	1.9	3/4	○		○		橙	白針

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テラ	テラ状	板状	スコ状		
56	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(4.9)	1.7	口小～ 底1/2			○		黄橙	白針
57	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.8	1.6	完形	○		○		橙	白針 口縁一部煤付着
58	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.1	1.7	1/2	○		○		橙	白針
59	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.6)	1.8	1/3	○		○		橙	白針
60	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(4.5)	2.2	口小～ 底2/3	○				黄灰	白針 口縁部、外底部煤付着
61	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(3.9)	2.0	4/5	○		○		橙	白針
62	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.0)	1.8	1/8	○				黄橙	白針
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(7.2)	1.7	1/6	○		○		黄橙	白針 口縁部一部煤付着、打ち欠き
64	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(7.1)	2.0	1/3	○		○		橙	白針
65	土器	かわらけ転用品	—	—	[1.5]	口小片					暗茶褐	取瓶として転用か
66	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.5	1.3	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部擦痕あり

図6 1面上出土遺物(2)

67	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(8.9)	3.0	1/3	○		○		黄橙	白針 内外底黒く変色
68	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.3	3.0	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑19 白針
69	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.5)	(8.0)	3.3	1/3	○		○		黄橙	白針
70	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(7.8)	2.8	2/3	○		○		橙	白針
71	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.8	2.9	4/5	○		○		橙	1面土坑19 白針、砂質
72	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.7)	3.1	1/3	○		○		黄灰	白針
73	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.1	3.1	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
74	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(7.9)	3.2	2/3	○		○		橙	白針
75	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.7)	(8.4)	3.0	1/4	○		○		橙	白針 口縁一部打ち欠き
76	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(6.8)	3.2	1/3	○		○		黄橙	白針
77	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.9)	3.0	口小～ 底完存	○		○		黄橙	白針、内面調整が粗い 内外面黒色に変色
78	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(7.9)	3.3	1/3	○		○		黄灰	白針
79	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	9.3	3.3	3/4	○				橙	1面土坑19 白針、砂質
80	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.2)	3.2	1/3	○		○		黄橙	白針 内底面煤付着
81	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	7.5	3.4	4/5	○		○		橙	白針
82	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.4)	3.0	1/4	○		○		黄橙	白針
83	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(8.0)	3.2	1/6	○		○		橙	白針
84	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(8.9)	3.3	1/2	○				黄橙	白針
85	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.2	3.4	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針、砂質
86	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	7.8	3.4	口小～ 底完存	○		○		橙	白針、砂質
87	土器	ロクロ かわらけ・大	11.0	6.2	3.2	4/5	○		○		黄橙	白針
88	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.7)	(6.0)	3.3	1/3	○		○		橙	白針
89	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	9.0	3.2	1/3	○		○		黄橙	白針
90	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.6	3.3	2/3	○		○		黄灰	白針
91	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(7.9)	3.3	2/3	○		○		黄灰	白針
92	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(6.9)	3.6	1/3	○		○		淡橙	白針

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テ*	テラ状	板状	ス/コ状		
93	土器	ロクロかわらけ・大	(11.8)	(6.6)	3.8	口小～底完存	○		○		黄灰	白針
94	土器	ロクロかわらけ・大	13.6	8.6	3.8	1/3	○				黄橙	白針
95	土器	ロクロかわらけ・大	(11.6)	(8.0)	3.6	1/6	○		○		黄灰	白針
96	土器	ロクロかわらけ・大	(12.2)	(7.8)	3.6	1/4	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き、煤付着
97	土器	ロクロかわらけ・大	(12.5)	(7.8)	4.0	1/3	○		○		黄灰	白針 内外面煤付着

図7 1面上出土遺物(3)

98	磁器	龍泉窯系青磁鎗蓮弁文碗	—	—	[6.9]	口小片					灰緑透明	大宰府Ⅱ類
99	磁器	龍泉窯系青磁鎗蓮弁文碗	—	—	[3.7]	口小片					青灰半透明	大宰府Ⅱ類
100	磁器	龍泉窯系青磁鎗蓮弁文碗	—	—	[5.3]	口小片					灰緑半透明	大宰府Ⅱ類
101	磁器	龍泉窯系青磁鎗蓮弁文碗	—	—	[3.7]	口小片					明灰緑不透明	大宰府Ⅱ類
102	磁器	龍泉窯系青磁鎗蓮弁文碗	—	—	[3.7]	口小片					灰青緑不透明	大宰府Ⅱ類
103	磁器	龍泉窯系青磁鎗蓮弁文碗	—	(4.6)	[4.9]	体片～底1/2					灰緑半透明	大宰府Ⅲ-1類 黒色粒
104	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	(3.4)	[4.0]	体片～底1/2					緑灰不透明	大宰府Ⅰ-1類
105	磁器	龍泉窯系青磁無文碗	—	(4.8)	[5.4]	体片～底2/3					暗灰緑不透明	
106	磁器	龍泉窯系青磁折縁皿	—	—	[1.2]	口小片					灰緑不透明	大宰府Ⅲ-3b類
107	磁器	白磁口禿碗	—	(3.9)	[2.2]	体片～底完存					青灰透明	大宰府Ⅸ類
108	磁器	白磁口禿皿	—	—	[2.7]	口小片					灰緑半透明	大宰府Ⅸ類
109	磁器	白磁口禿皿	—	—	[2.5]	口小片					青灰透明	大宰府Ⅸ類
110	磁器	白磁口禿皿	—	—	[3.3]	口小片					灰白透明	大宰府Ⅸ類
111	磁器	白磁口禿印花皿	—	—	[1.3]	口小片					白透明	大宰府Ⅹ類か 内面型押し
112	磁器	白磁口禿皿	—	—	[3.3]	口小片					灰白半透明	大宰府Ⅸ類 口唇部煤付着
113	磁器	白磁口禿皿	(11.3)	—	[2.6]	口1/4					灰青透明	大宰府Ⅸ類
114	磁器	白磁口禿皿	(11.6)	(6.7)	2.9	底1/3					白透明	大宰府Ⅸ類
115	磁器	白磁口禿皿	—	(6.6)	[1.0]	底1/2					灰白不透明	大宰府Ⅸ類
116	磁器	白磁口禿皿	—	(5.3)	[7.0]	底1/3					灰青透明	大宰府Ⅸ類
117	磁器	白磁合子蓋	—	—	—	天井部					白透明	
118	磁器	青白磁口禿皿	—	—	[1.5]	口小片					灰青透明	白磁Ⅹ類の可能性もあり
119	磁器	高麗青磁蓋	(6.7)	最大径(8.0)	[1.5]	1/6					青灰透明	壺蓋か 天頂部に菊花文+唐草文の象嵌
120	陶器	泉州窯系黄釉盤	—	—	[5.1]	口小片					黄灰	
121	陶器	褐釉壺	—	—	[5.5]	底小片					灰褐	
122	陶器	瀬戸天目茶碗	—	(4.0)	[3.3]	体片～底1/2					黒褐	黒色粒・白色粒
123	陶器	瀬戸縁釉小皿	—	—	[2.3]	口小片					灰緑	
124	陶器	瀬戸卸皿	(14.7)	(7.1)	3.5	1/8					緑灰	
125	陶器	瀬戸碗カ	—	—	—	体片					暗茶褐	
126	陶器	瀬戸耳付小壺	—	(2.5)	[5.5]	体片～底1/2					灰	菊花文押印 小壺Ⅰ類
127	陶器	瀬戸片口鉢	—	—	[2.8]	口片～体片					灰黒	長石
128	陶器	尾張型山茶碗	(14.4)	—	[3.9]	1/8					灰	白色粒
129	陶器	尾張型山茶碗	(14.0)	—	[4.6]	口片1/6					灰	長石

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	ナラフ状	板状	スコ状		
130	陶器	尾張型 山茶碗	14.6	6.4	5.5	完形					灰	高台に穀痕
図8 1面上出土遺物(4)												
131	陶器	常滑 甕	—	—	[6.8]	口小～ 胴片					赤褐	長石
132	陶器	常滑 甕	—	—	—	口小～ 胴片					灰褐	長石
133	陶器	常滑 甕	—	—	[5.2]	口小～ 胴片					暗茶褐	長石
134	陶器	常滑 甕	—	—	[9.8]	口小～ 胴片					灰	長石
135	陶器	常滑 甕	—	—	[4.4]	口小～ 胴片					茶褐	長石
136	陶器	常滑 甕	—	—	[6.0]	口小～ 胴片					暗褐	長石
137	陶器	常滑 甕	—	—	[5.6]	口小～ 胴片					褐	長石
138	陶器	常滑 甕	(32.6)	—	[8.4]	口小～ 胴片					赤褐	長石
139	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[3.9]	口小片					赤褐	長石
140	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[2.8]	口片～ 体片					灰	長石
141	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	(11.0)	[9.7]	体片～ 底1/3					灰	長石
142	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[7.2]	口小片					灰	長石
143	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.9]	口小片					灰	長石
144	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(27.1)	—	[7.0]	口1/6					灰	長石
145	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[6.1]	口小片					茶褐	長石
146	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[6.7]	口小片					灰	長石
147	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[12.6]	口片～ 底片					暗赤褐	長石
148	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[9.7]	口小～ 体片					明茶褐	長石
149	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[9.1]	口小～ 体片					暗茶褐	長石
150	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[4.6]	口小片					褐	長石
151	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.1]	口小片					明茶褐	長石
152	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.3]	口片～ 体片					灰	長石
153	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[6.1]	口小片					暗赤褐	長石
154	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[7.0]	口小片					暗灰褐	長石
155	陶器	常滑 転用研磨具	長さ 6.2	幅 [6.7]	厚さ 1.5	甕胴部片					暗灰	長石
図9 1面上出土遺物(5)												
156	土器	火鉢	—	—	[5.4]	口1/3					灰橙	1面土坑29 河野ⅡE類(C3類) 157と同一個体だが接合せず
157	土器	火鉢	—	—	[8.8]	底小片					灰橙	河野ⅡE類(C3類)156と同一個体 脚部に4ヶ所の穿孔
158	瓦質土器	火鉢	(29.2)	(19.8)	8.5	1/3					黄灰	河野ⅡA類(C1類) 二次焼成を受ける
159	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.7]	口小片					黄橙	白色粒
160	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.1]	口小片					黄橙	河野Ⅰ類(A類) 黒色粒・白色粒
161	瓦質土器	火鉢	—	—	[7.3]	口小～ 体片					暗灰	河野Ⅰ類(A類) 黒色粒・白色粒
162	瓦質土器	火鉢	—	—	[7.6]	口小～ 体片					灰橙	河野Ⅰ類(A類) 黒色粒・白色粒
163	瓦質土器	火鉢	—	—	[2.7]	口小片					黄橙	河野Ⅰ類(A類) 黒色粒・白色粒
164	瓦質土器	火鉢	—	—	[5.8]	口小片					灰	河野Ⅰ類(A類) 黒色粒・白色粒
165	瓦質土器	火鉢	—	—	[6.0]	口小片					灰	河野Ⅰ類(A類) 黒色粒・白色粒
166	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.7	狭端面 片側辺					灰	永福寺女瓦CorD類

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	ナラシ	板状	スコ状		
167	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					灰白	永福寺女瓦CorD類
168	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.8	広端面 片側辺					橙	永福寺女瓦B類 黒色粒・白色粒
図10 1面上出土遺物(6)												
169	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					黒灰	永福寺女瓦CorD類 黒色粒・白色粒 歪み大
170	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	狭端面 片側辺					黄橙	永福寺女瓦CorD類
図11 1面上出土遺物(7)												
171	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					灰黒	永福寺女瓦CorD類 黒色粒・白色粒
172	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					暗灰	永福寺女瓦A類 白色粒
173	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.4	玉縁～ 筒部					灰	永福寺男瓦A類 黒色粒・白色粒
174	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.3	筒部					暗灰	永福寺男瓦A類 黒色粒・白色粒
図12 1面上出土遺物(8)												
175	土製品	かわらけ転用 円盤	直径 4.0	—	厚さ 1.2	ほぼ完形					黄橙	
176	石製品	滑石鍋転用 温石	長さ [8.0]	幅 [6.5]	厚さ 1.6	一部欠損					灰黒	
177	石製品	滑石鍋転用 温石	長さ 14.1	幅 9.6	厚さ 2.1	一部欠損					黒灰	一部煤付着
178	石製品	滑石鍋転用 用途不明	長さ [9.0]	幅 [8.2]	厚さ 1.7	不明					灰黒	加工途中か
179	石製品	滑石鍋転用 用途不明	長さ [9.0]	幅 [8.0]	厚さ 1.5	不明						加工途中か
180	石製品	砥石	長さ [6.6]	幅 [5.5]	—	不明					暗灰褐	中砥
181	石製品	砥石	長さ [6.7]	幅 5.5	厚さ 1.6	両端欠損					黄灰	中砥 上野産 穿孔
182	石製品	砥石	長さ [7.9]	幅 4.4	厚さ 1.7	両端欠損					白	中砥 伊予産
183	鉄製品	釘	長さ [4.7]	幅 0.3	厚さ 0.4	下端欠損					—	
184	鉄製品	釘	長さ [4.4]	幅 0.4	厚さ 0.4	下端欠損					—	
185	鉄製品	釘	長さ 6.6	幅 0.2	厚さ 0.3	完形					—	
186	鉄製品	釘	長さ [6.5]	幅 0.4	厚さ 0.5	下部欠損					—	
187	鉄製品	釘	長さ 7.7	幅 0.3	厚さ 0.4	完形					—	
188	鉄製品	釘	長さ [5.5]	幅 0.3	厚さ 0.3	上端欠損					—	
図13 1面上出土遺物(9)												
189	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	開元通寶(真書) 中国唐代 621年初鑄
190	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	開元通寶(真書) 中国唐代 621年初鑄
191	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	開元通寶 中国唐代 621年初鑄
192	銅製品	銭	直径 2.0	孔径 0.6	厚さ 0.1	一部欠損					—	1面土坑012 淳化元寶 中国北宋代 990年初鑄
193	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	咸平元寶(真書) 中国北宋代 998年初鑄
194	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	祥符元寶(真書) 中国北宋代 1009年初鑄
195	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	天禧通寶(真書) 中国北宋代 1017年初鑄
196	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	皇宋通寶(真書) 中国北宋代 1038年初鑄
197	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	皇宋通寶(真書) 中国北宋代 1039年初鑄
198	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	皇宋通寶(篆書) 中国北宋代 1039年初鑄
199	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.8	厚さ 0.1	完形					—	皇宋通寶(真書) 中国北宋代 1038年初鑄
200	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	嘉祐通寶(真書) 中国北宋代 1056年初鑄
201	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	治平元寶(真書) 中国北宋代 1064年初鑄

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ナマリ状		
202	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形			—	熙寧元寶(真書) 中国北宋代 1068年初鑄
203	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形			—	元豐通寶(行書) 中国北宋代 1078年初鑄
204	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形			—	元豐通寶(篆書) 中国北宋代 1078年初鑄
205	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形			—	元豐通寶(篆書) 中国北宋代 1078年初鑄
206	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形			—	元祐通寶(篆書) 中国北宋代 1086年初鑄
207	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形			—	元祐通寶(行書) 中国北宋代 1086年初鑄
208	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形			—	元祐通寶(篆書) 中国北宋代 1086年初鑄
209	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形			—	紹聖元寶(真書) 中国北宋代 1094年初鑄
210	銅製品	銭	直径 2.9	孔径 0.12	厚さ 0.6	完形			—	紹聖元寶(行書) 中国北宋代 1094年初鑄
211	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形			—	元符通寶(行書) 中国北宋 1098年初鑄
212	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形			—	大觀通寶 中国北宋代 1107年初鑄
213	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形			—	政和通寶(篆書) 中国北宋代 1111年
214	銅製品	銭	直径 2.1	孔径 0.1	厚さ 0.1	完形			—	政和通寶(分楷) 中国北宋代 1111年
215	銅製品	銭	直径 2.2	孔径 0.4	厚さ 0.1	完形			—	永樂通寶(真書) 中国明代 1408年初鑄
216	銅製品	銭	直径 2.2	孔径 0.5	厚さ 0.1	完形			—	口宋通口(真書)

火鉢（河野 1993- IV C 類）が出土しており、総体として 14 世紀以降の遺物が中心となる。

図 4 下段のかわらけも全てロクロ成形品で、内湾器形のものなど上段より古相の特徴が見て取れる。

図 5 以下は 1 面上包含層の出土遺物である。かわらけはロクロ成形品が占め、内湾基調の個体が主体となる中、小皿では低平な資料が大半を占めており身深器形の個体は僅少である。大皿は口径 11 cm 台後半～ 12 cm 台のものが中心で確実な中型品の存在は認められない。舶載品以下の陶磁器類は小片資料が大部分を占め、大宰府分類の龍泉窯系青磁碗Ⅱ・Ⅲ類（蓮弁文碗）や、白磁碗・皿Ⅸ類（口禿碗・皿）が中心となる。国産陶器類のうち、瀬戸製品は断片的な資料のみで年代の特定が難しいが、常滑産の甕は 5～6b 型式で占められている。瓦質火鉢は河野分類のⅠ・Ⅱ類が占め、瓦は永福寺Ⅱ期以降の製品が含まれる。総体としては 13 世紀後半～ 14 世紀前半という、鎌倉で最も質・量的に厚みを増す時期の遺物構成であることが指摘できよう。

## 第 2 節 1 面の遺構と遺物

### 1 面の検出遺構（図 14～19）

1 面は標高 12.0～12.2 m 前後で検出され、図 14 に遺構全体図を示した。西半部（地点Ⅰ）では全域で土坑およびピットが検出されたが、明確な柱並びは確認できていない。東半部（地点Ⅱ）では南北に延びる道路状遺構 1 条と溝 2 条、これに並行するピット列 3 列などを確認した。道路状遺構は N16° E と、現行の荏柄天神社参道と概ね同方向で延びる。幅は約 4 m を測り、調査区外に続く中、5.8 m の長さを確認した。東西両側辺には幅 40cm、深さ 30cm ほどの小規模な溝が取り付く（溝 01・02）。ピット列は道路状遺構の東側で 1 列（列 2）、西側で 2 列（列 1・3）を確認し、列 3 が列 1 を切って構築されていた。列 1 は溝 01 の肩を切っており、列 3 が溝 01 の西に、列 2 が溝 02 の東方に各々 20～30cm 離れて展開していたことから、列 2・3 は同時期に存在していた可能性がある。各列とも 100～120 cm 間隔で並ぶ



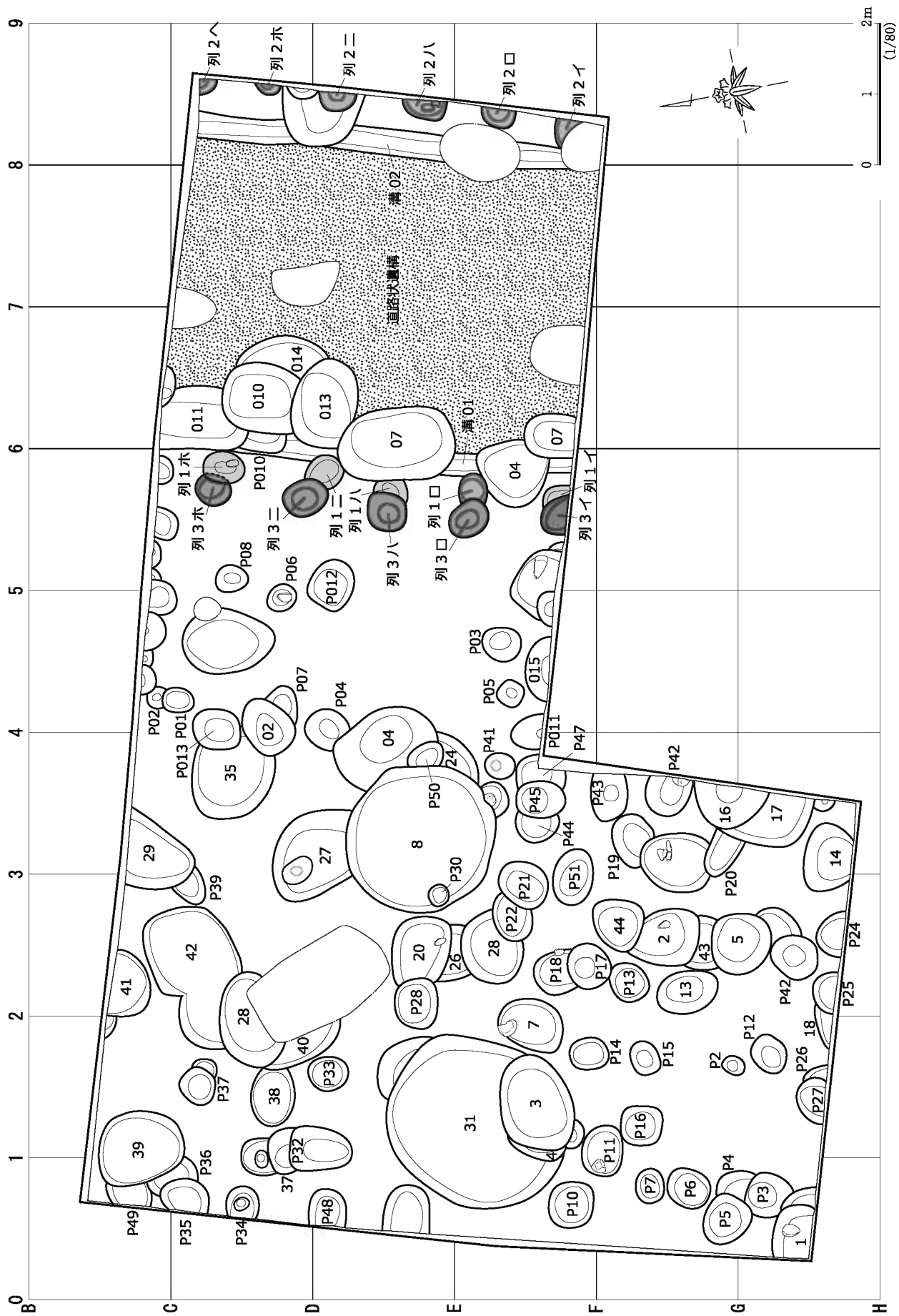
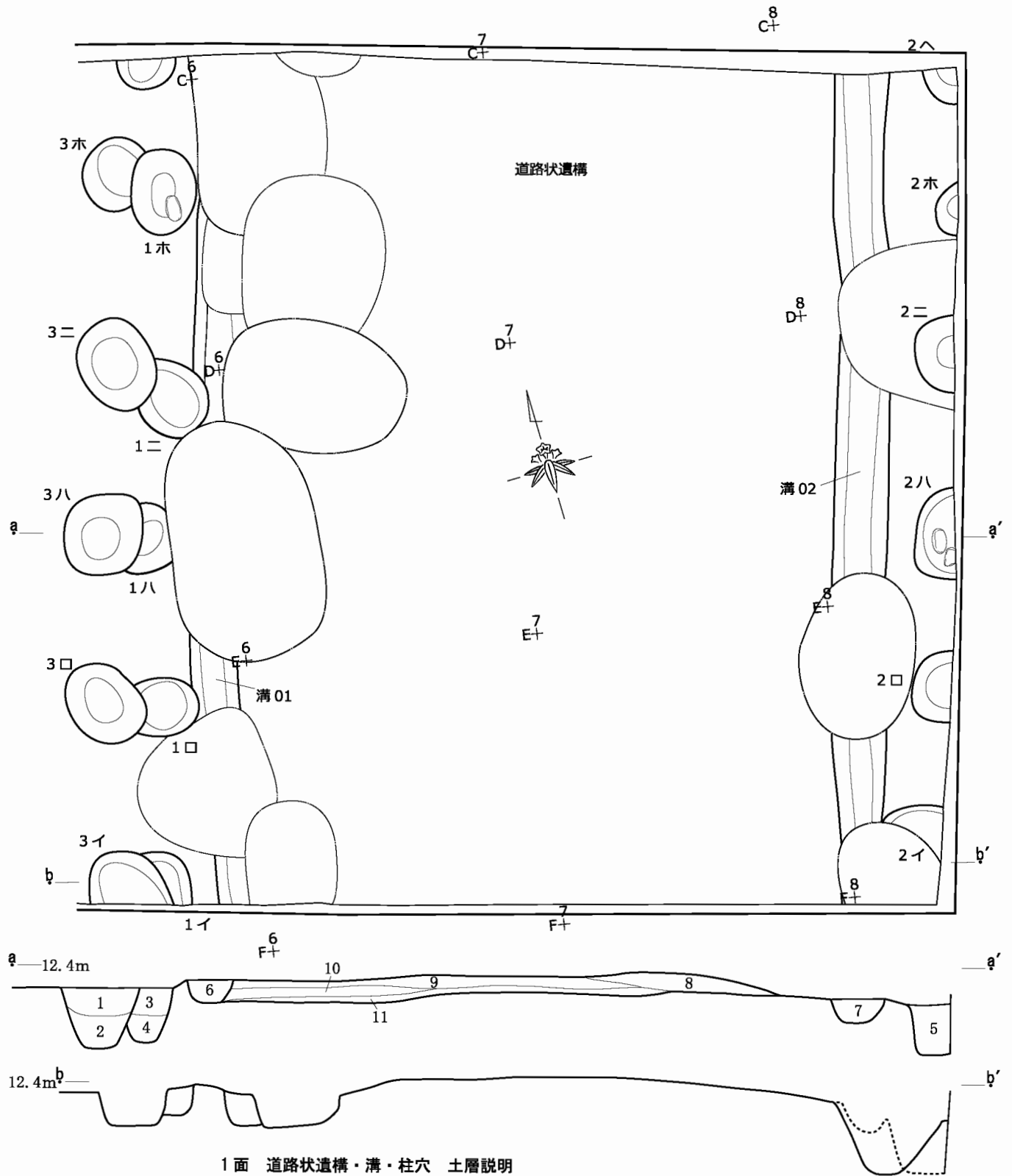


图 14 1 面全体图

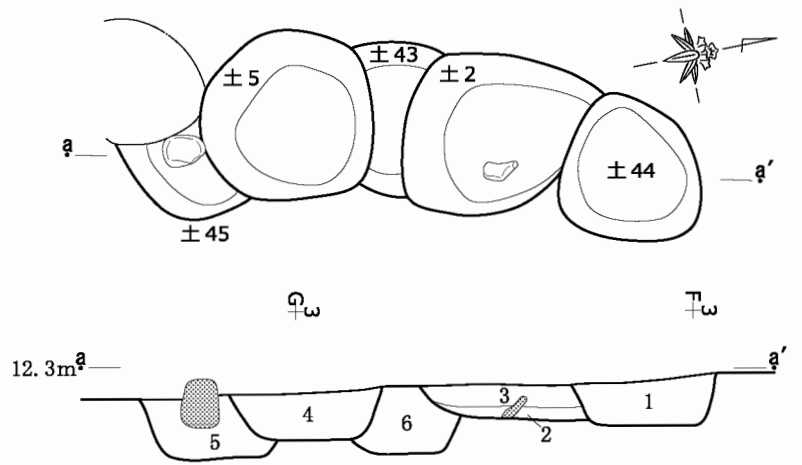
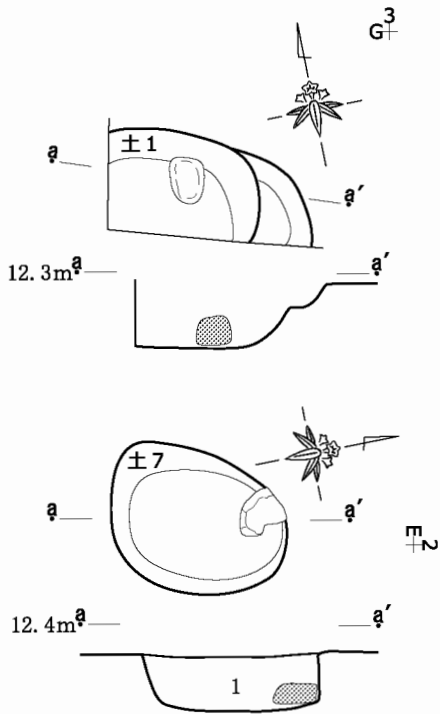


1面 道路状遺構・溝・柱穴 土層説明

P3-ハ	1	褐色土	粘質土。泥岩ブロック多量、炭粒ごく少量。縮まりあり。
	2	褐色土	粘質土。泥岩粒やや多く炭粒ごく少量。縮まりややあり。
P1-ハ	3	褐色土	粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりややあり。
	4	褐色土	粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。縮まりややあり。
P2-ハ	5	褐色土	粘質土。泥岩ブロックやや多く炭粒少量。縮まりなし。
溝01	6	褐色土	粘質土。泥岩粒少量。縮まりなし。
溝02	7	褐色土	粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりなし。
道路状遺構	8	褐色土	粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりなし。
	9	褐色土	泥岩ブロックによる整地層。縮まり強い。
	10	灰褐色土	砂質土。泥岩粒ごく少量、小礫混入。縮まりややあり。
	11	褐色土	粘質土。泥岩粒多量。縮まりあり。

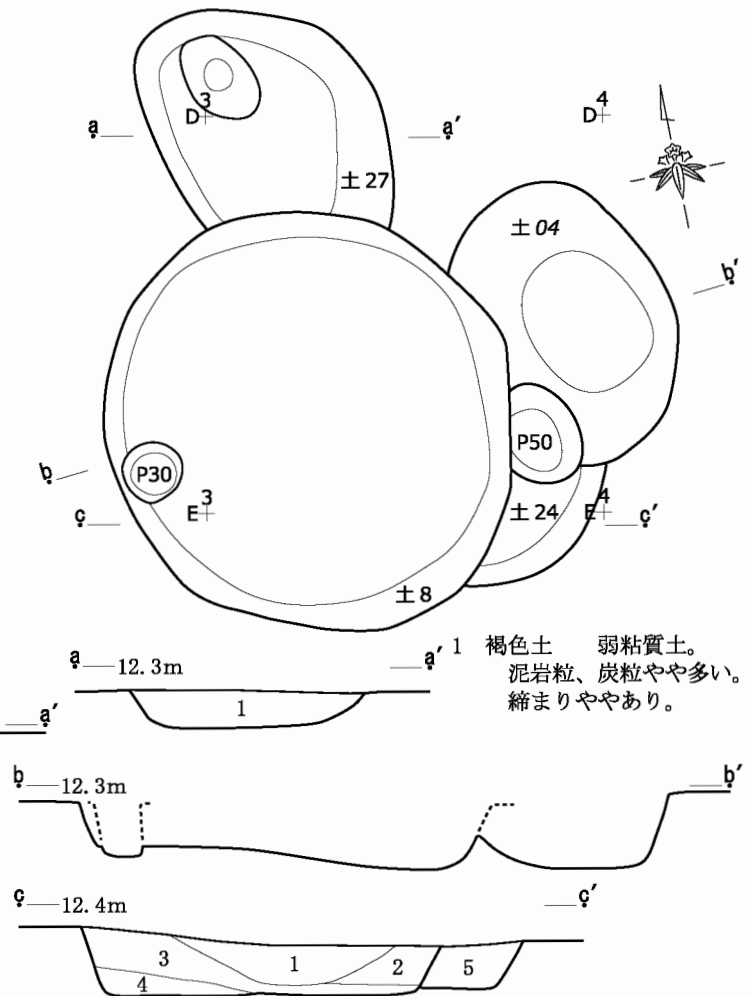
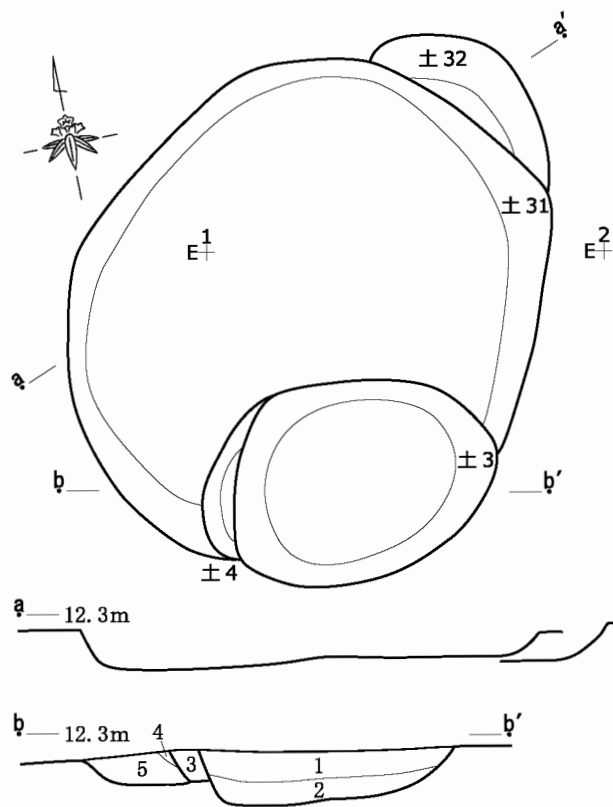


図15 1面 溝01・02、柱穴列1~3



- 土坑 44 1 暗褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒やや多い。縮まりややあり。
- 土坑 2 2 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。縮まりなし。
- 土坑 3 3 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量。縮まりなし。
- 土坑 4 4 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量。縮まりなし。
- 土坑 45 5 褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。縮まりなし。
- 土坑 46 6 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒多量。縮まりなし。

1 褐色土 砂質土。泥岩粒ブロック多量。縮まりなし。

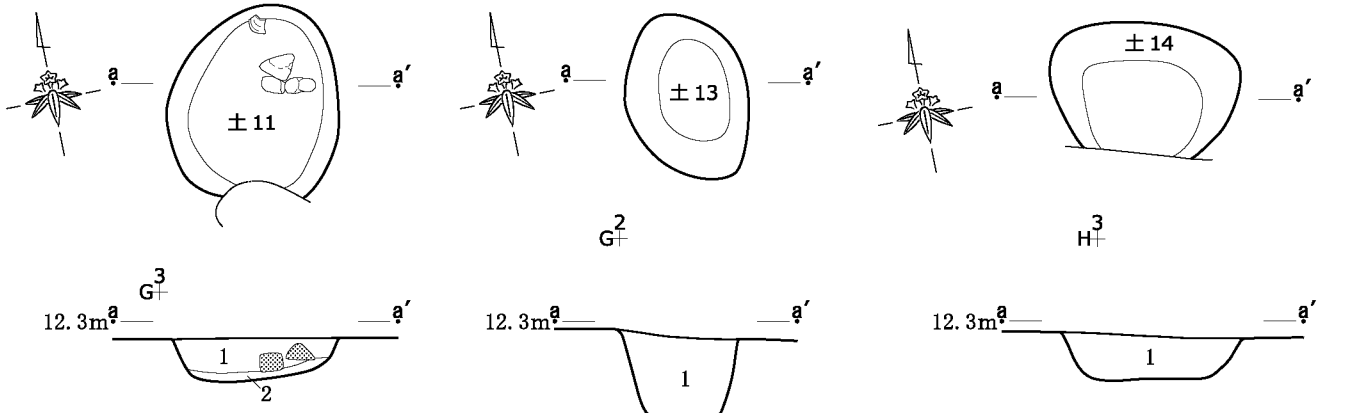


- 土坑 3 1 褐色土 砂質土。泥岩ブロック多量。縮まりなし。
- 土坑 3 2 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒やや多い。縮まりなし。
- 土坑 04 3 褐色土 砂質土。泥岩ブロック多量、炭粒やや多い。縮まりなし。
- 土坑 31 4 褐色土 砂質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりなし。
- 土坑 31 5 明褐色土 砂粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒少量。縮まりなし。

- 土坑 8 1 褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。縮まりなし。
- 土坑 8 2 褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりややあり。
- 土坑 8 3 褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック多量、炭粒やや多い。
- 土坑 8 4 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量。縮まりややあり。
- 土坑 24 5 明褐色土 砂粘質土。泥岩粒、炭粒やや多い。縮まりなし。



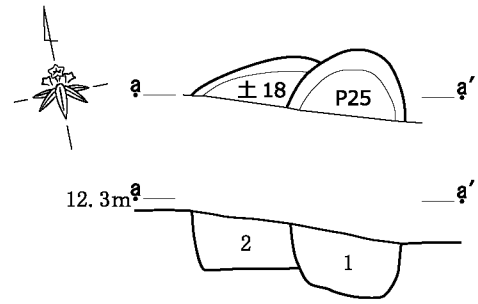
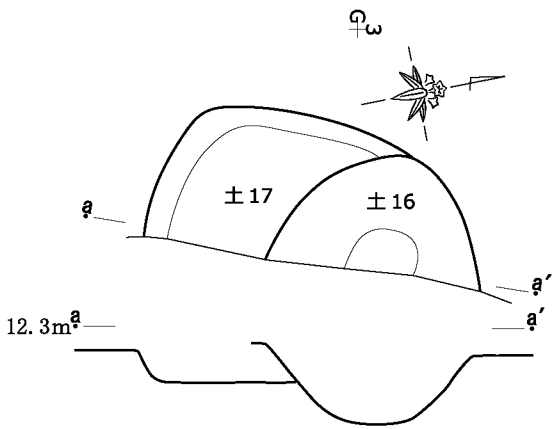
図 16 1面 土坑 (1)



1 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。締まりなし。  
 2 褐色土 粘質土。泥岩粒多量。締まりなし。

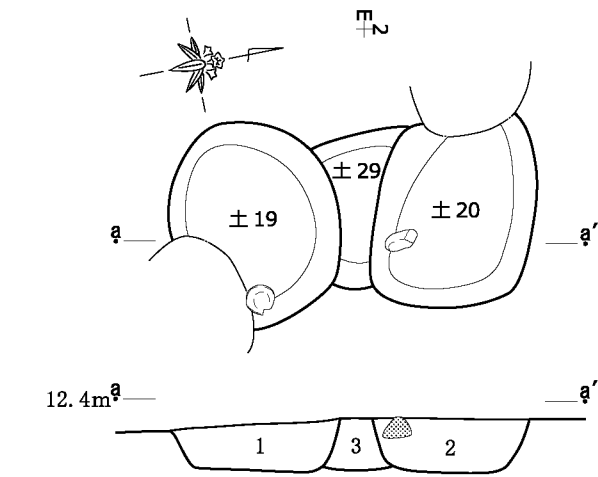
1 褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック多量。締まりなし。

1 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒多量。締まりなし。



Pit25 1 褐色土 粘質土。泥岩粒ブロック多量。締まりなし。

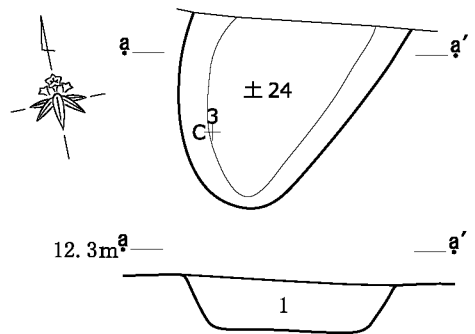
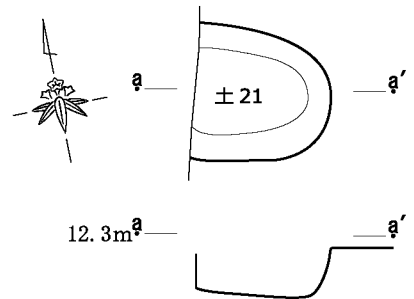
土坑 18 2 褐色土 粘質土。泥岩粒ブロックやや多い。締まりややあり。



土坑 19 1 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒やや多い。締まりなし。

土坑 20 2 褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒少量。締まりなし。

土坑 26 3 褐色土 弱粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒少量。締まりなし。



1 明褐色土 砂質土。拳大の泥岩ブロック、褐鉄粒多量。炭粒少量。締まりややあり。

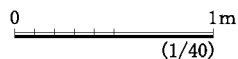
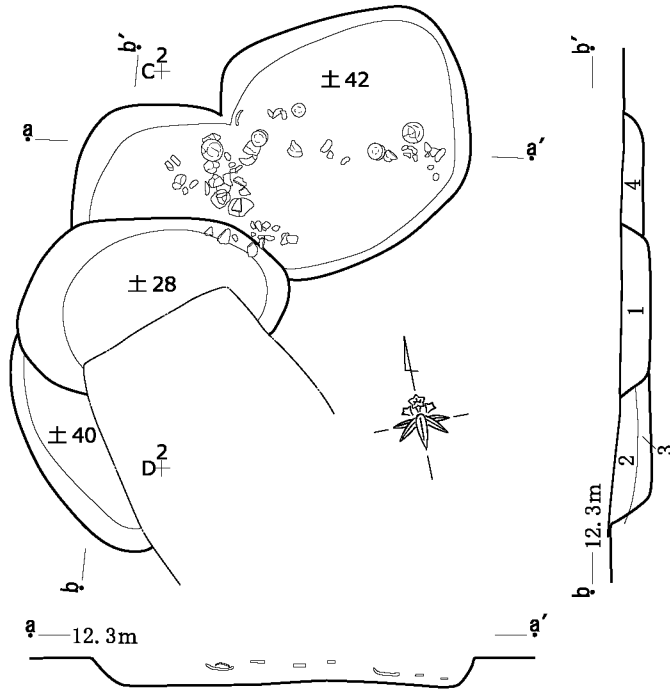
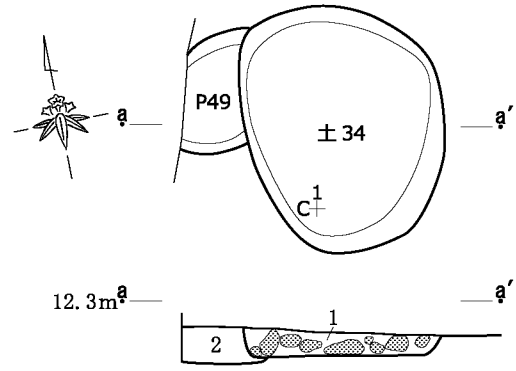


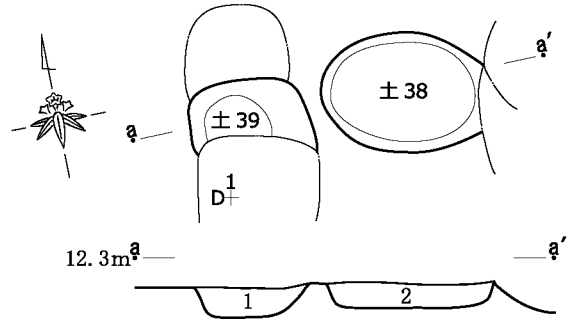
図 17 1面 土坑 (2)



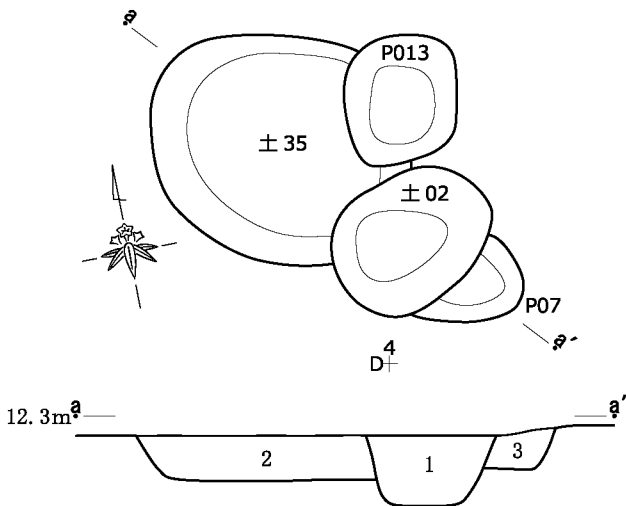
- 土坑 28 1 明褐色土 砂質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりややあり。  
 2 明褐色土 砂質土。泥岩粒やや多い。縮まりなし。  
 土坑 40 3 褐色土 弱粘質土。泥岩粒やや多い。縮まりなし。  
 土坑 42 4 暗褐色土 砂質土。炭粒多量。縮まりなし。



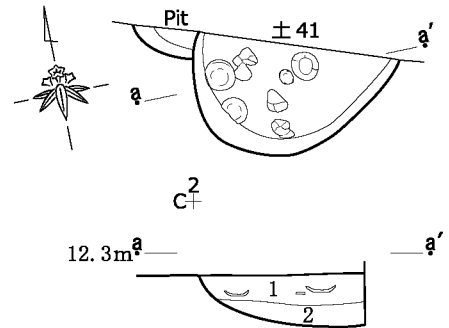
- 土坑 34 1 褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量、砂岩ブロック、炭粒少量。縮まりややあり。  
 Pit49 2 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。縮まりややあり。



- 土坑 39 1 褐色土 粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒微量。縮まりなし。  
 土坑 38 2 褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりなし。



- 土坑 02 1 褐色土 弱粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒少量。縮まりなし。  
 土坑 035 2 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。縮まりなし。  
 Pit07 3 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒多量。縮まりなし。



- 1 暗褐色土 砂質土。炭粒多量。縮まりなし。  
 2 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。



図 18 1 面 土坑 (3)

ものの広狭一定していない箇所もある。こうした中、列 2・3 は概ね対極の位置にあり、一定の計画性  
 の元に構築されたものと見なせる。列 2 以東の空間構成は調査範囲外のため不明であるが、現時点では  
 道路の両脇に板塀などの簡易な遮蔽施設が構築されていたものと理解したい。各ピットの深さは 40cm

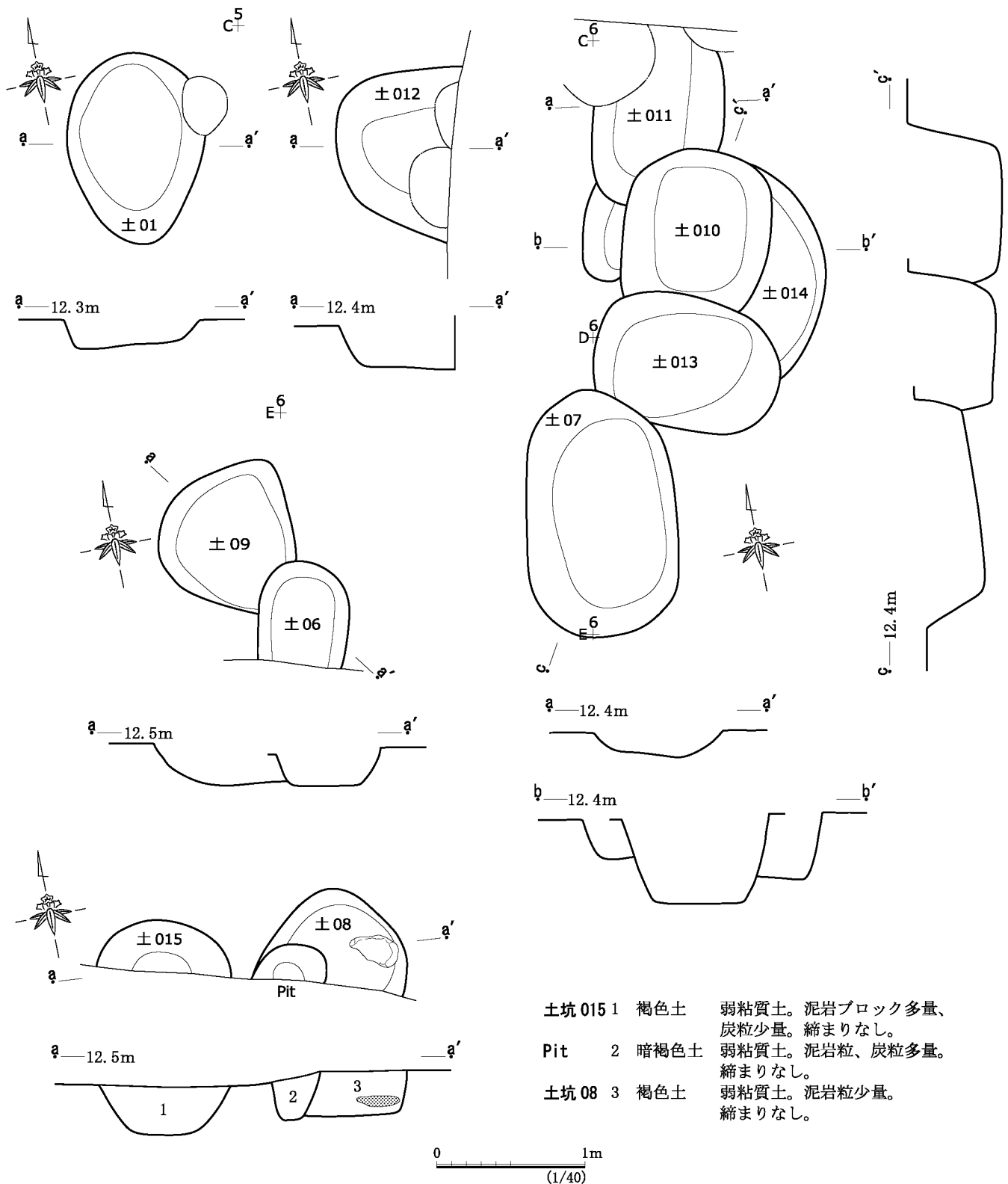


図 19 1 面 土坑 (4)

前後で、埋土は褐色粘質土を基調とする (図 15)。

図 16 ~ 19 には 1 面で検出された土坑の個別図面を掲載した。底面が広く浅い断面皿形のものが多く、直径 2 m を超える円形プランを呈するものも見られた。土坑については、用途を限定できるものはない。各遺構の形状・サイズ・埋土などは各図を参照されたい。

#### 1 面遺構の出土遺物 (図 20 ~ 35、表 3)

図 20 ~ 35 には 1 面遺構からの出土遺物を掲載した。個々の特徴については図面と遺物観察表 (表 3) を参照されたい。遺物全体の様相としては 1 面上包含層と近似した様相を呈し、かわらけは大皿・小皿

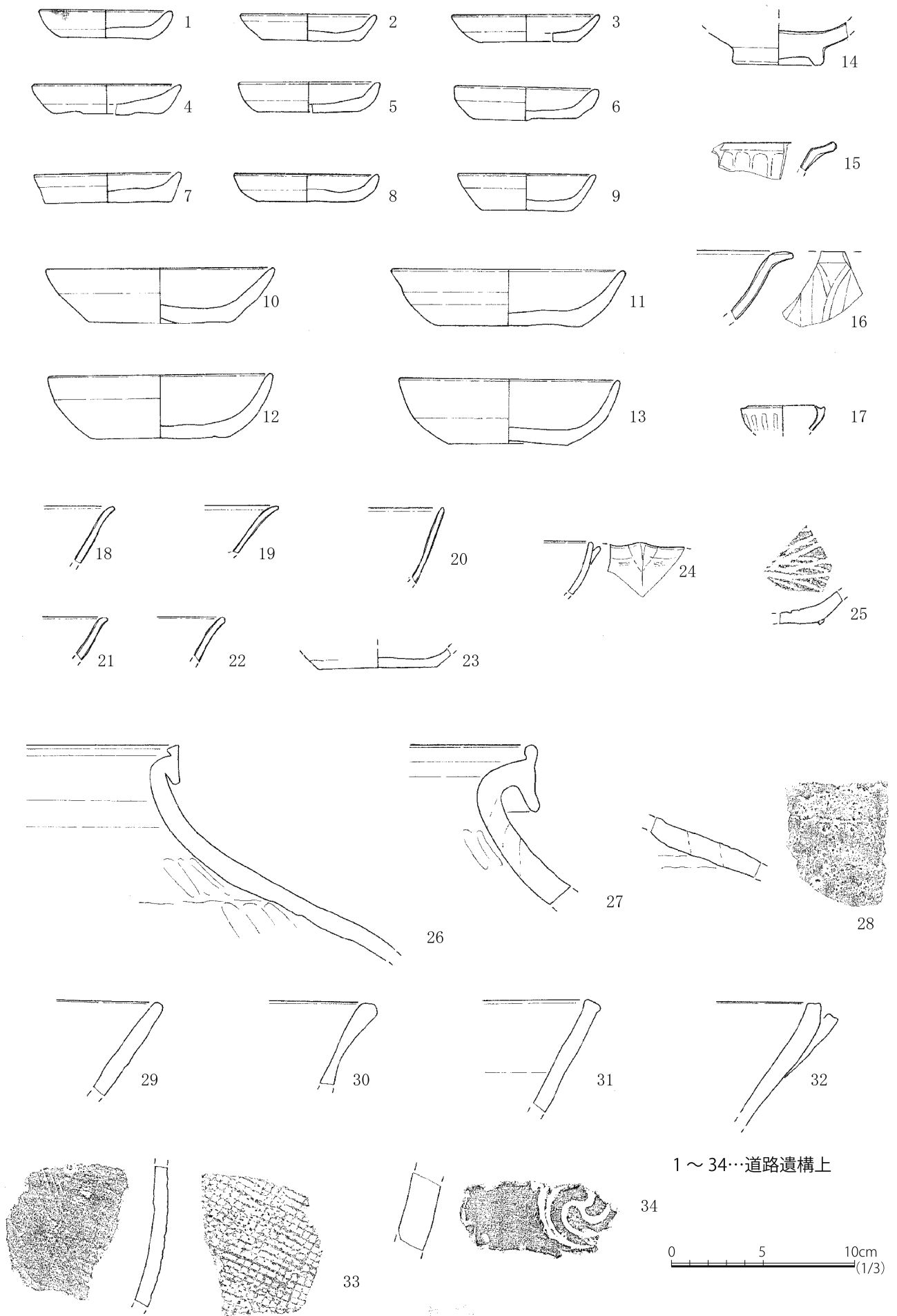
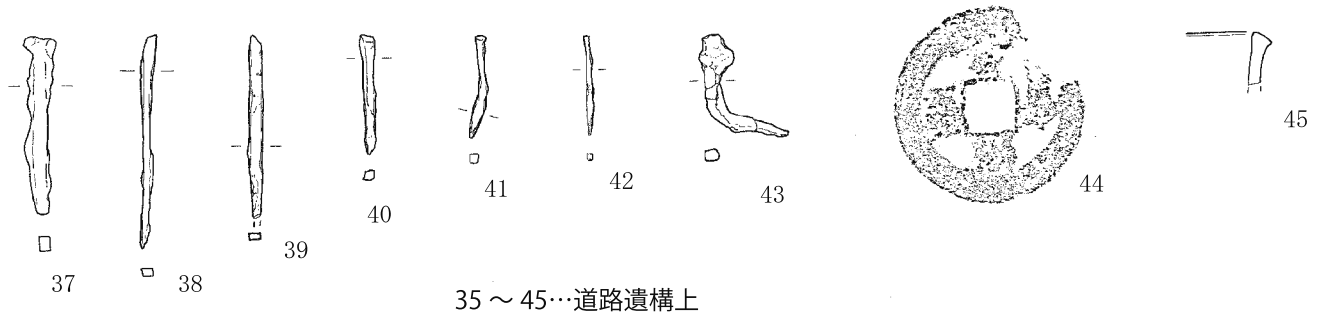
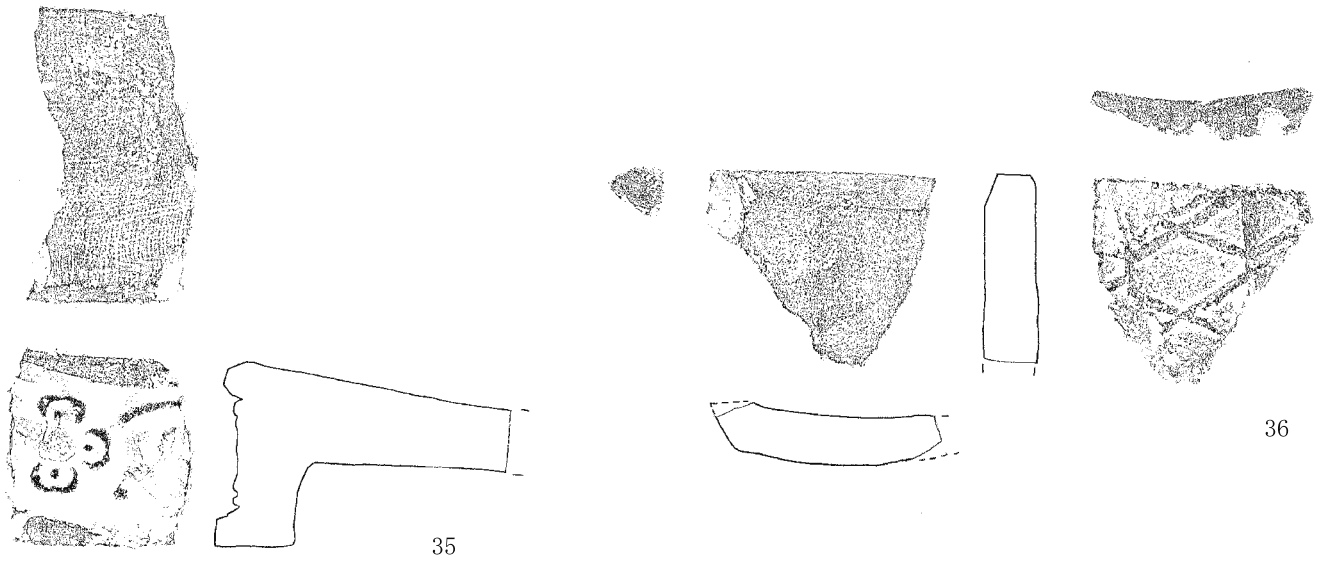
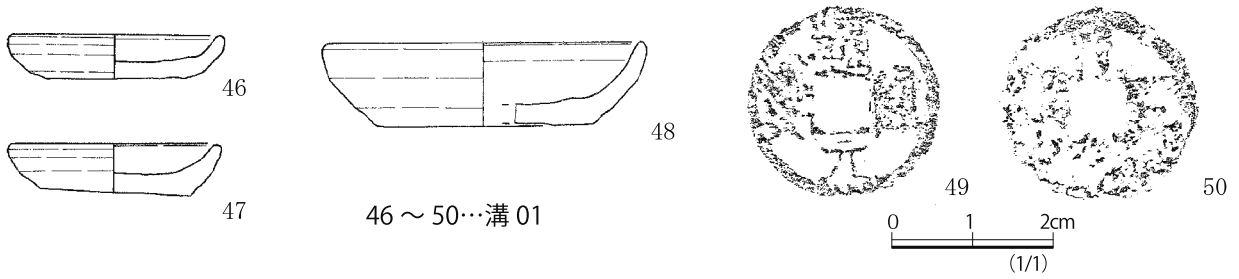


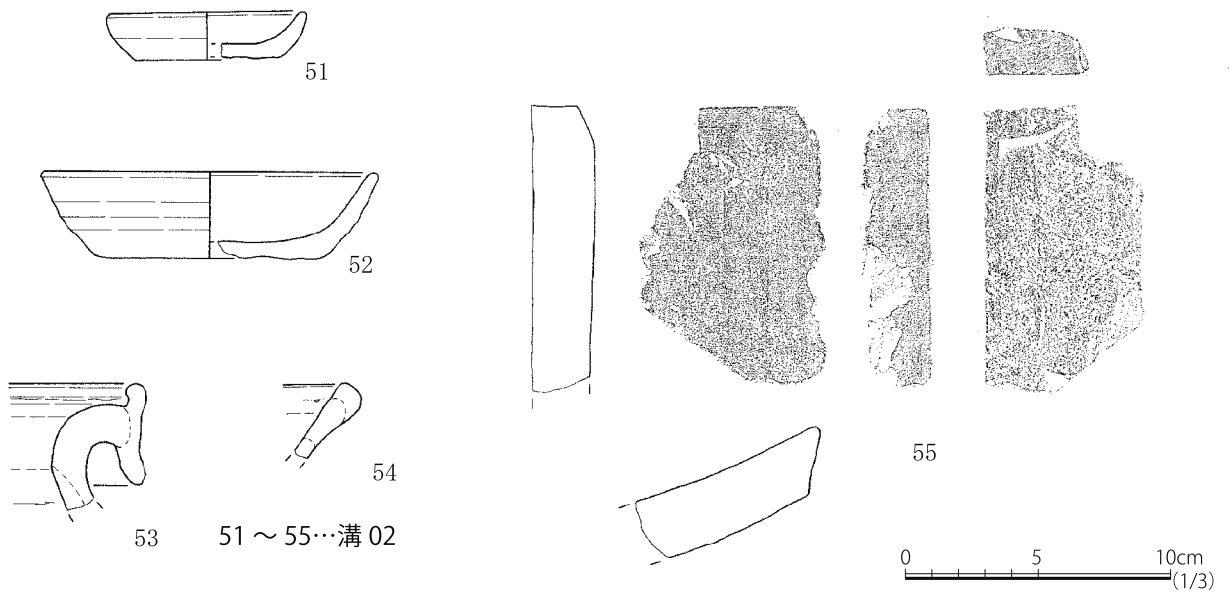
图 20 1 面遺構出土遺物 (1)



35 ~ 45...道路遺構上



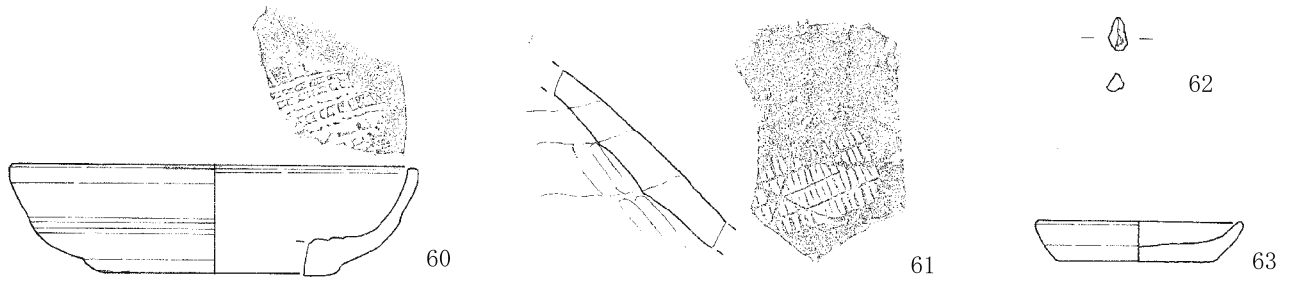
46 ~ 50...溝 01



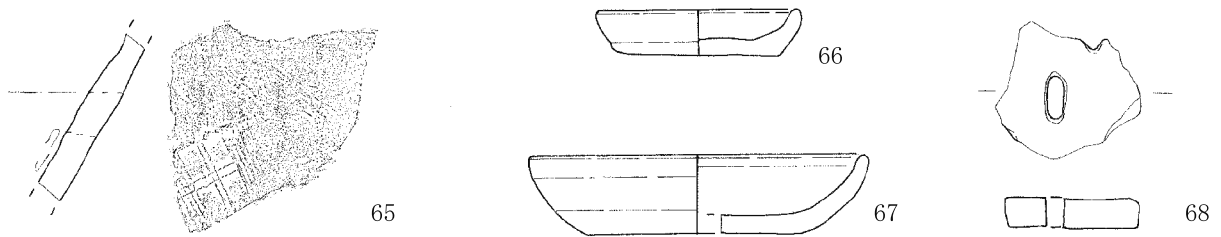
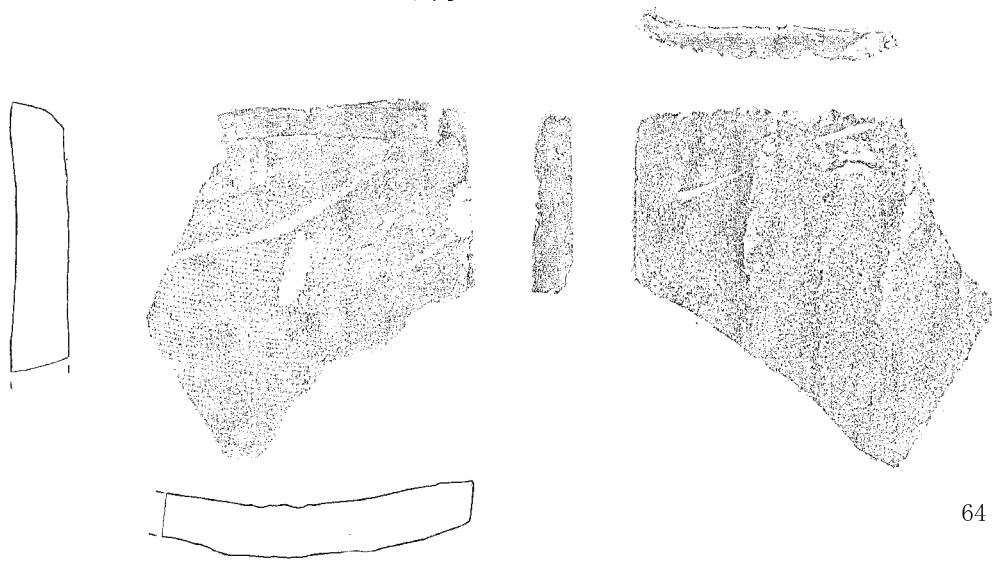
51 ~ 55...溝 02

图 21 1 面遺構出土遺物 (2)

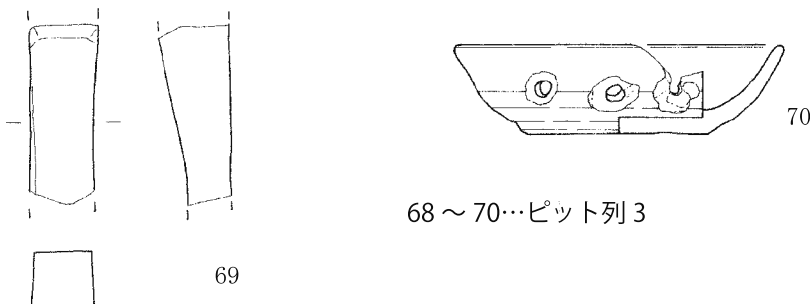




56～62…ピット列1



63～67…ピット列2



68～70…ピット列3

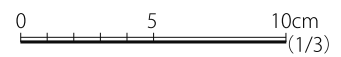


図22 1面遺構出土遺物(3)

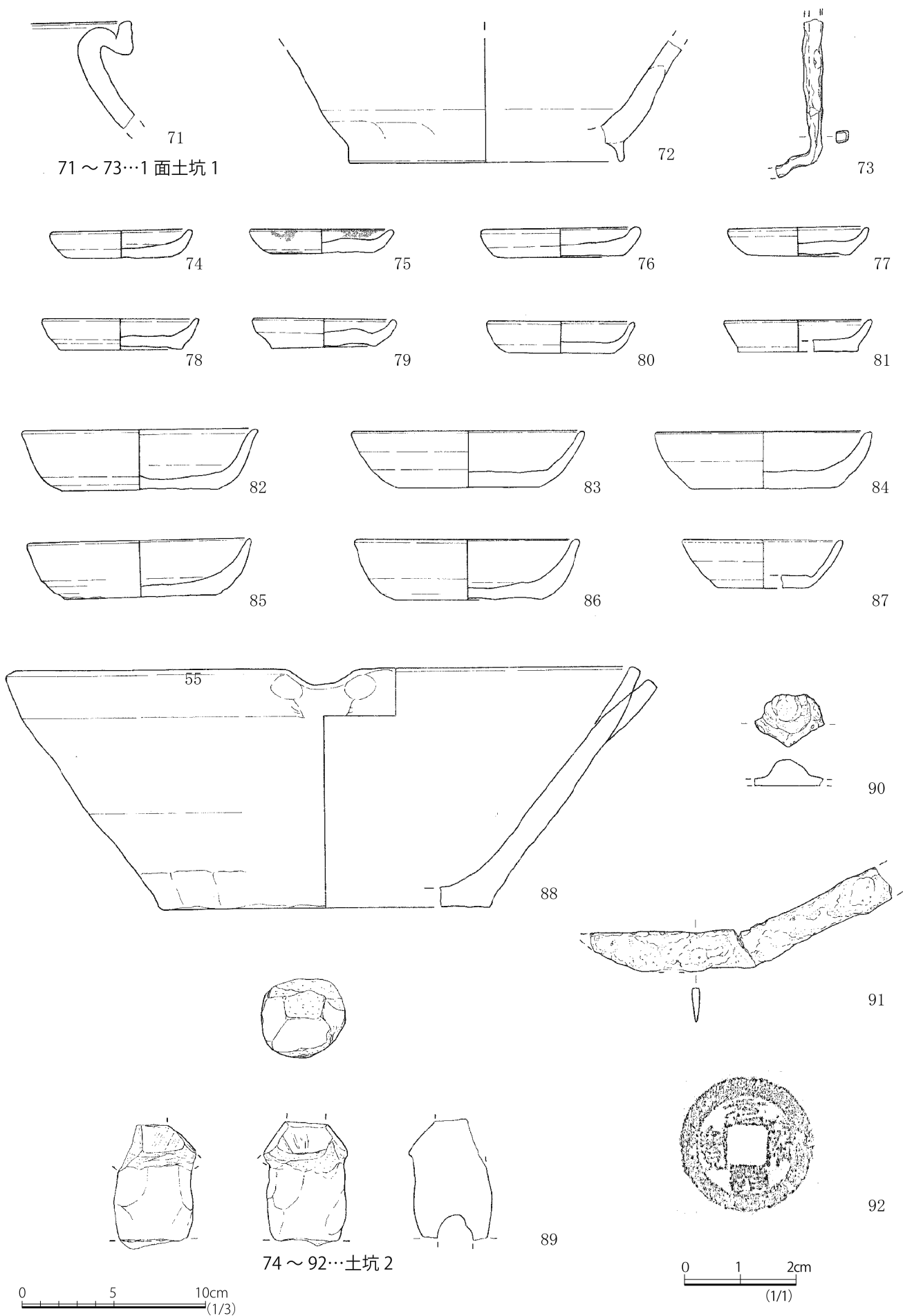
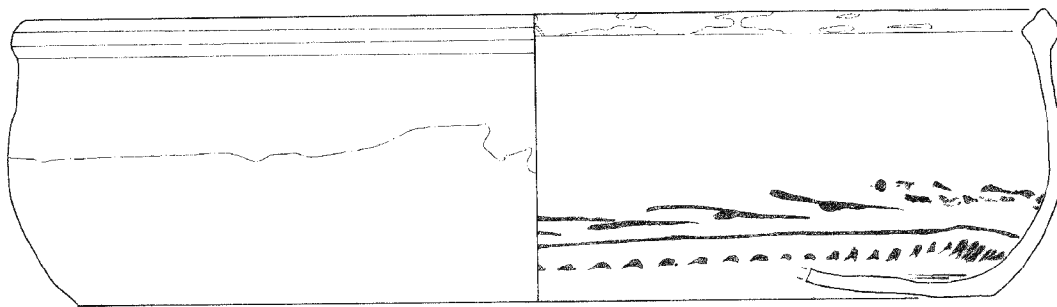
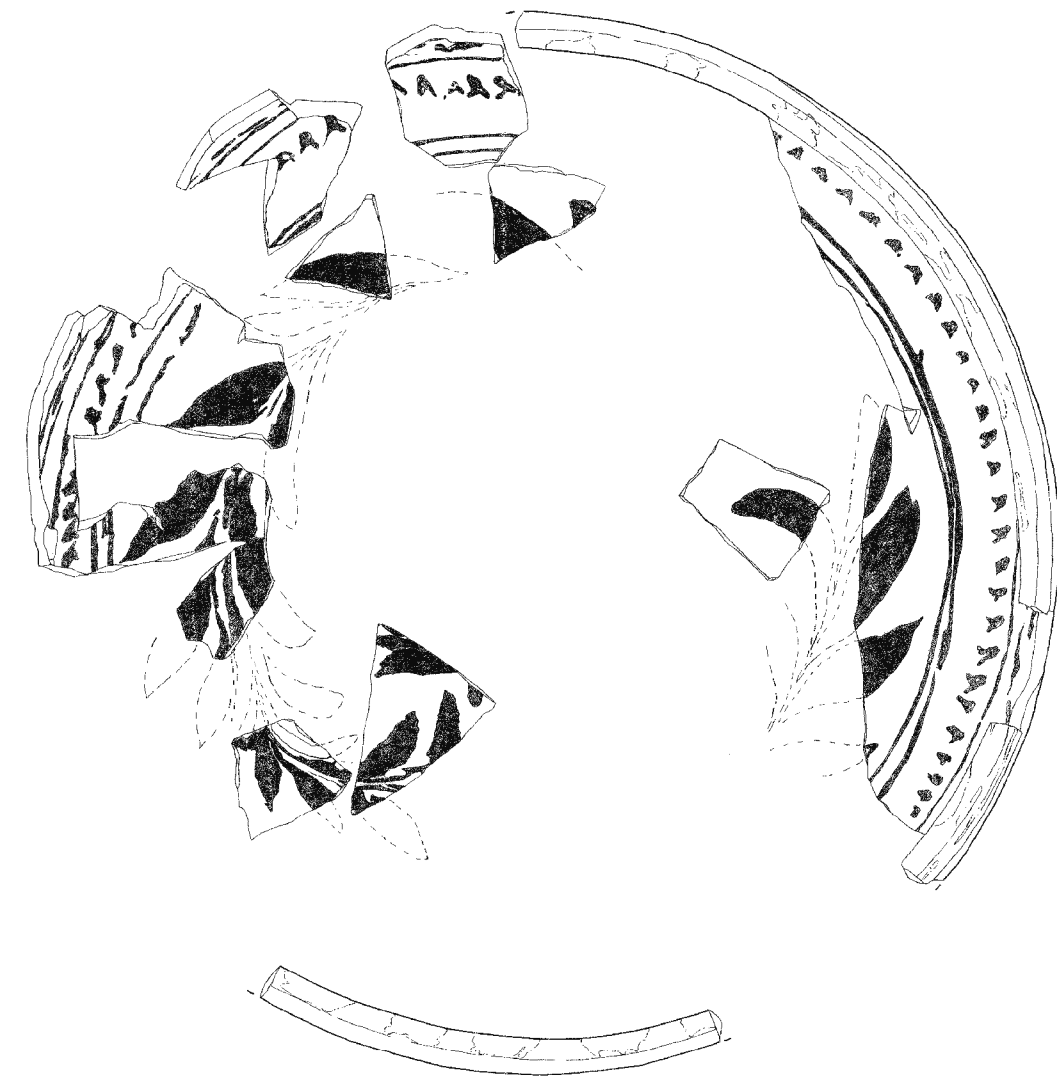


图 23 1 面遺構出土遺物 (4)



93

93...土坑 2

0 5 10cm  
(1/3)

图 24 1 面遺構出土遺物 (5)

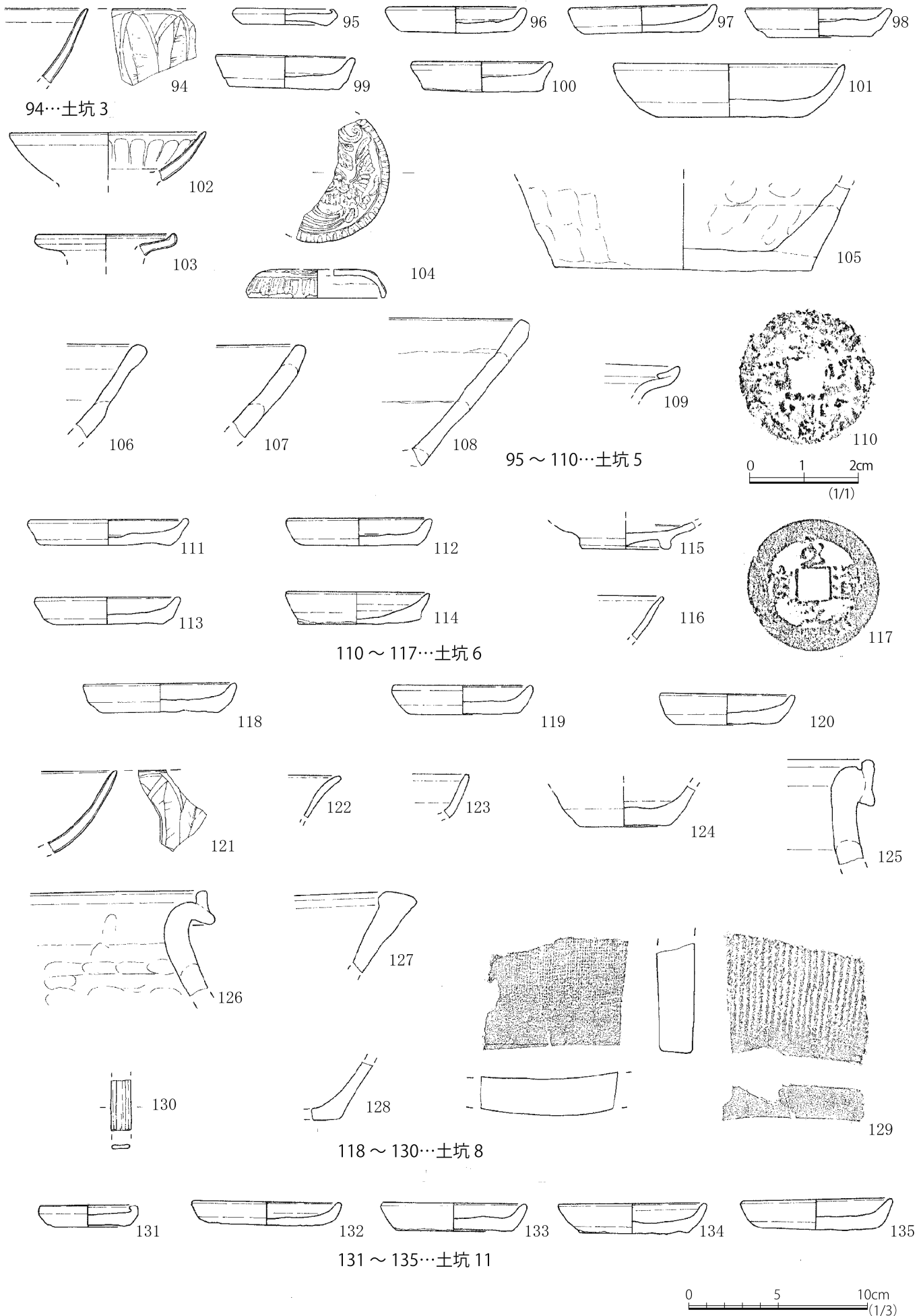
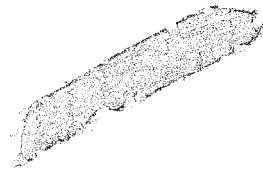
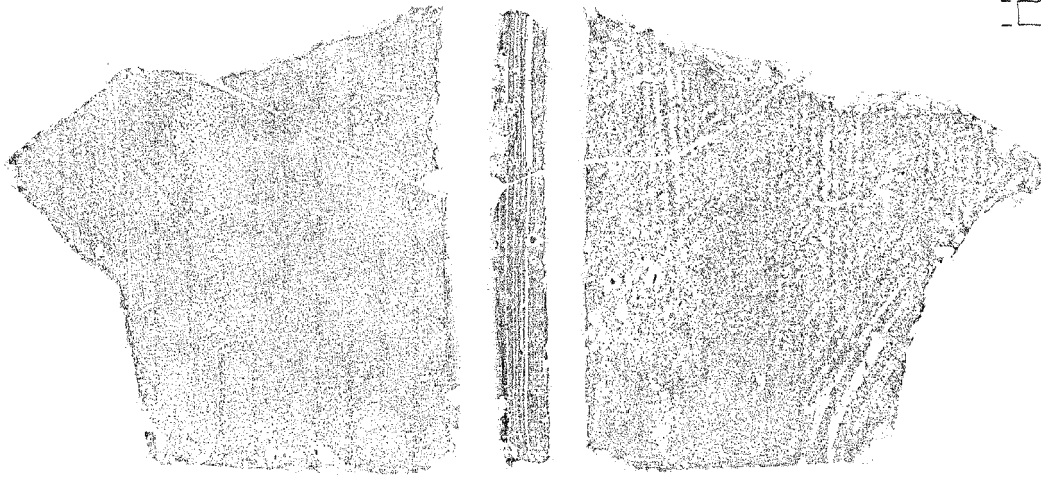
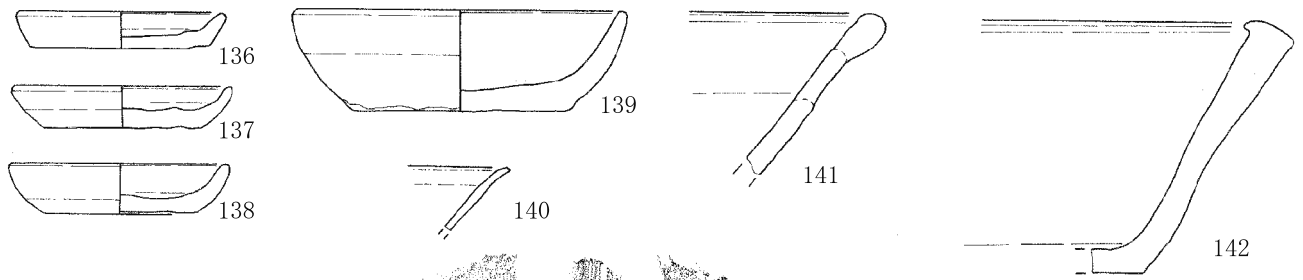


图 25 1 面遺構出土遺物 (6)

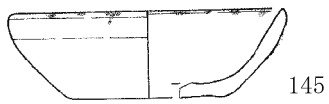
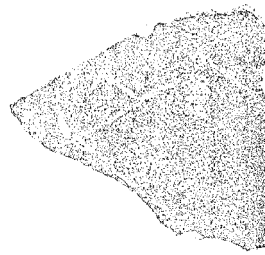


143

136 ~ 143...土坑 12



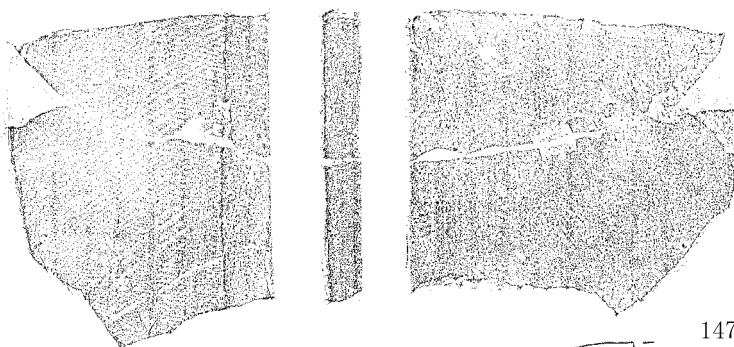
144



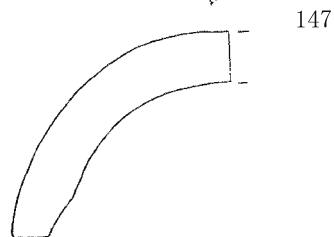
145



146



144 ~ 147 土坑 13



147

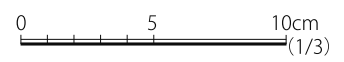


图 26 1 面遺構出土遺物 (7)

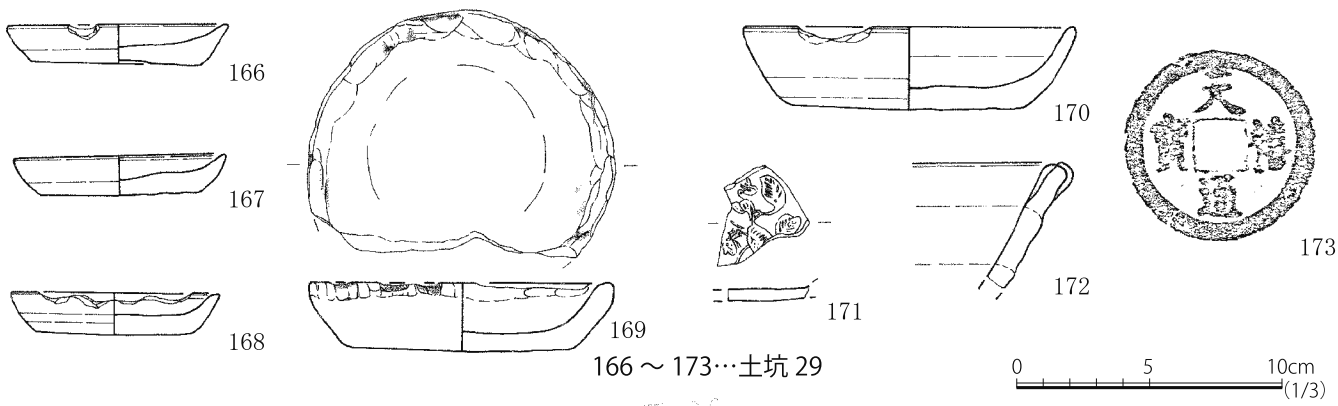
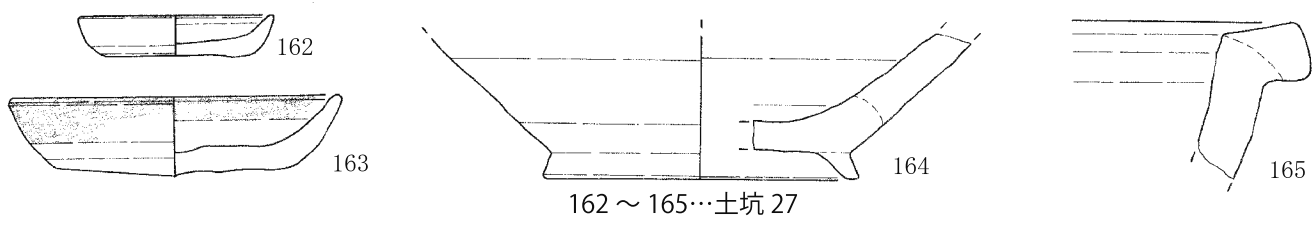
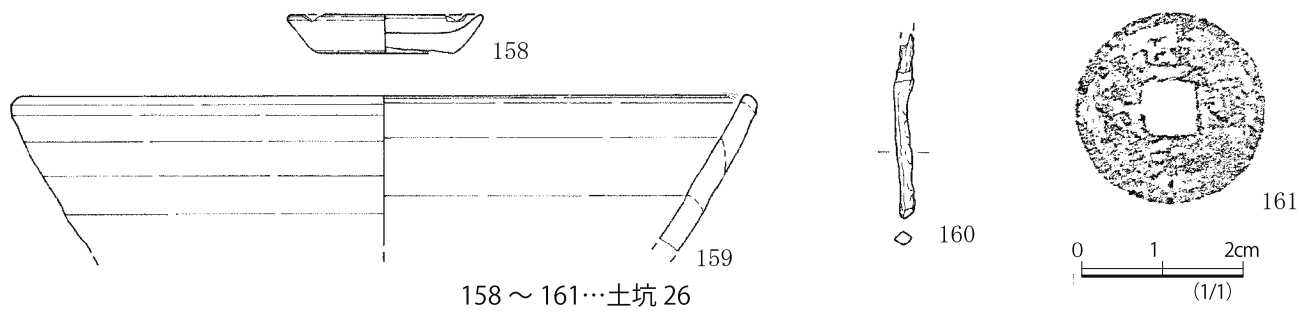
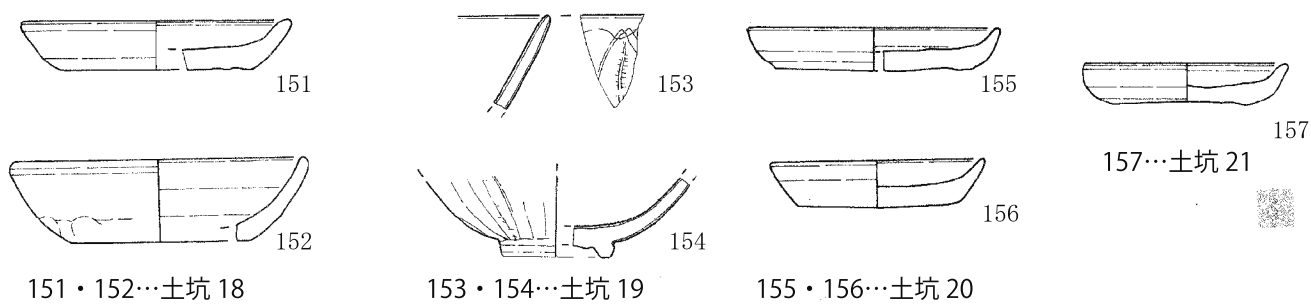
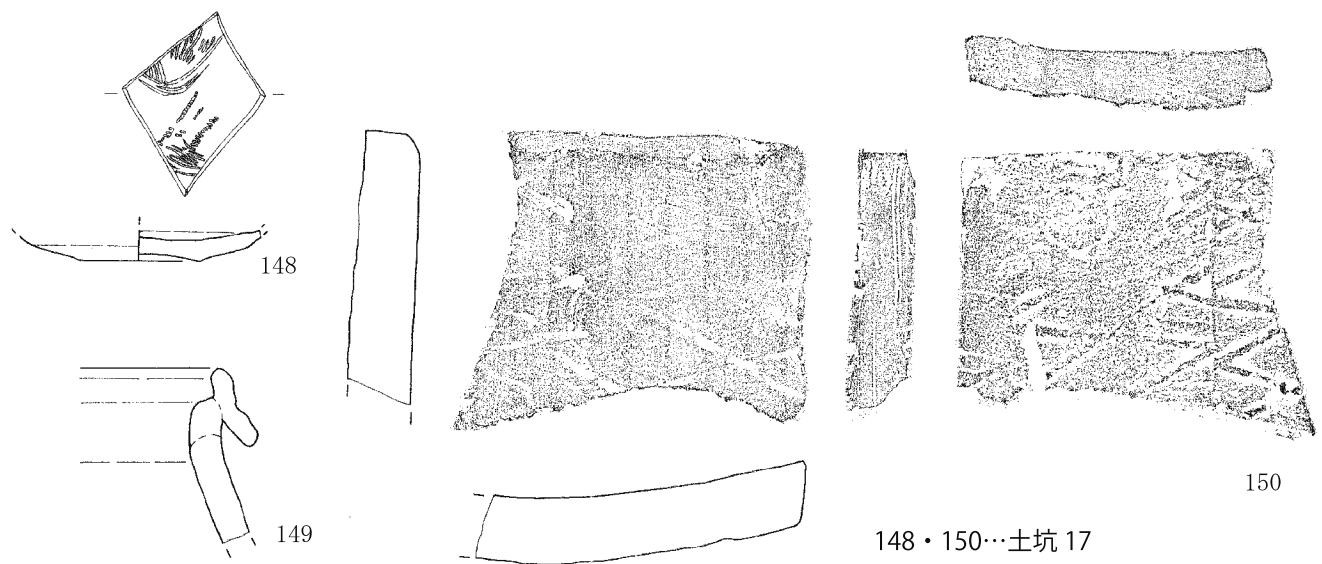


图 27 1 面遺構出土遺物 (8)

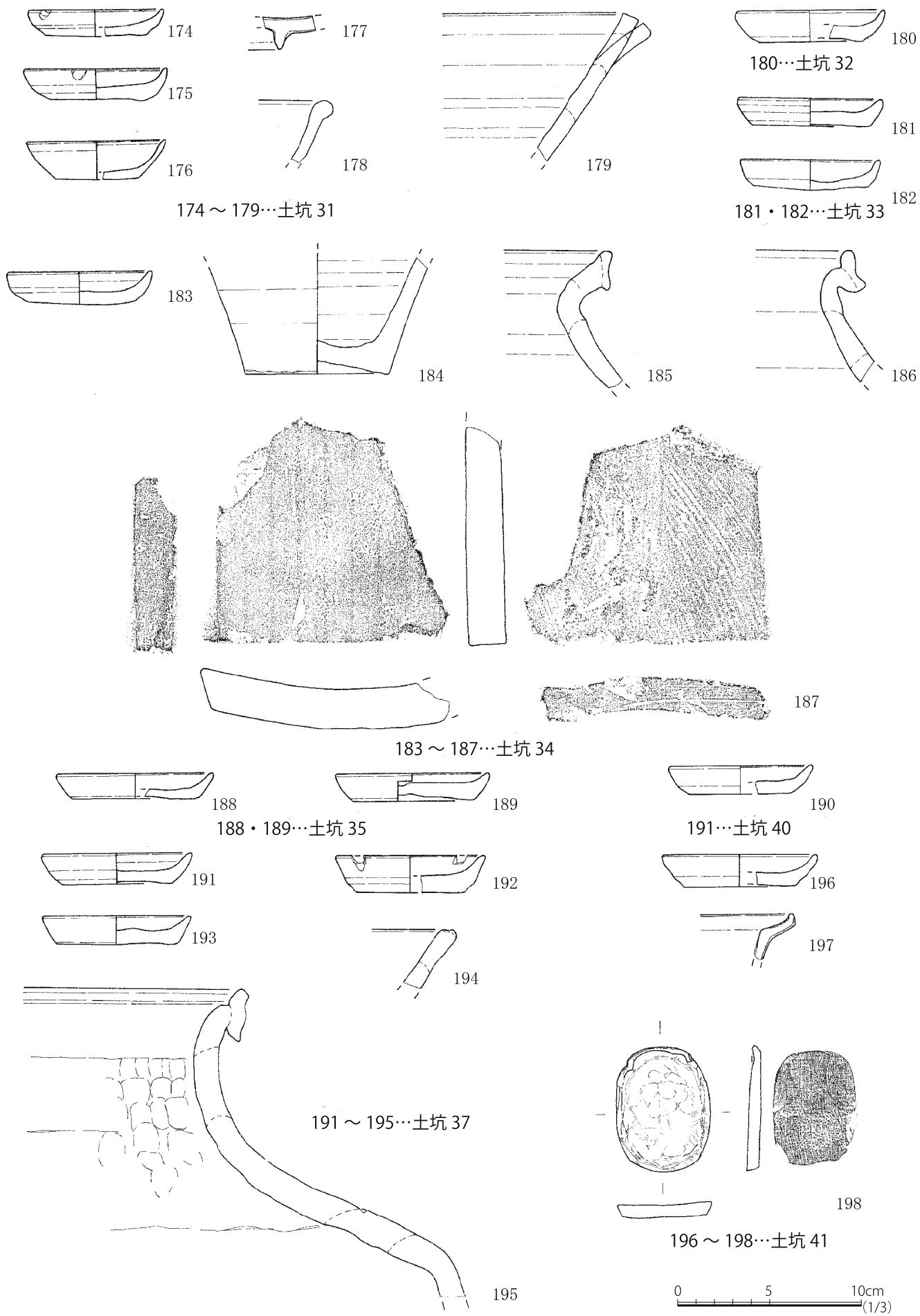


图 28 1 面遺構出土遺物 (9)

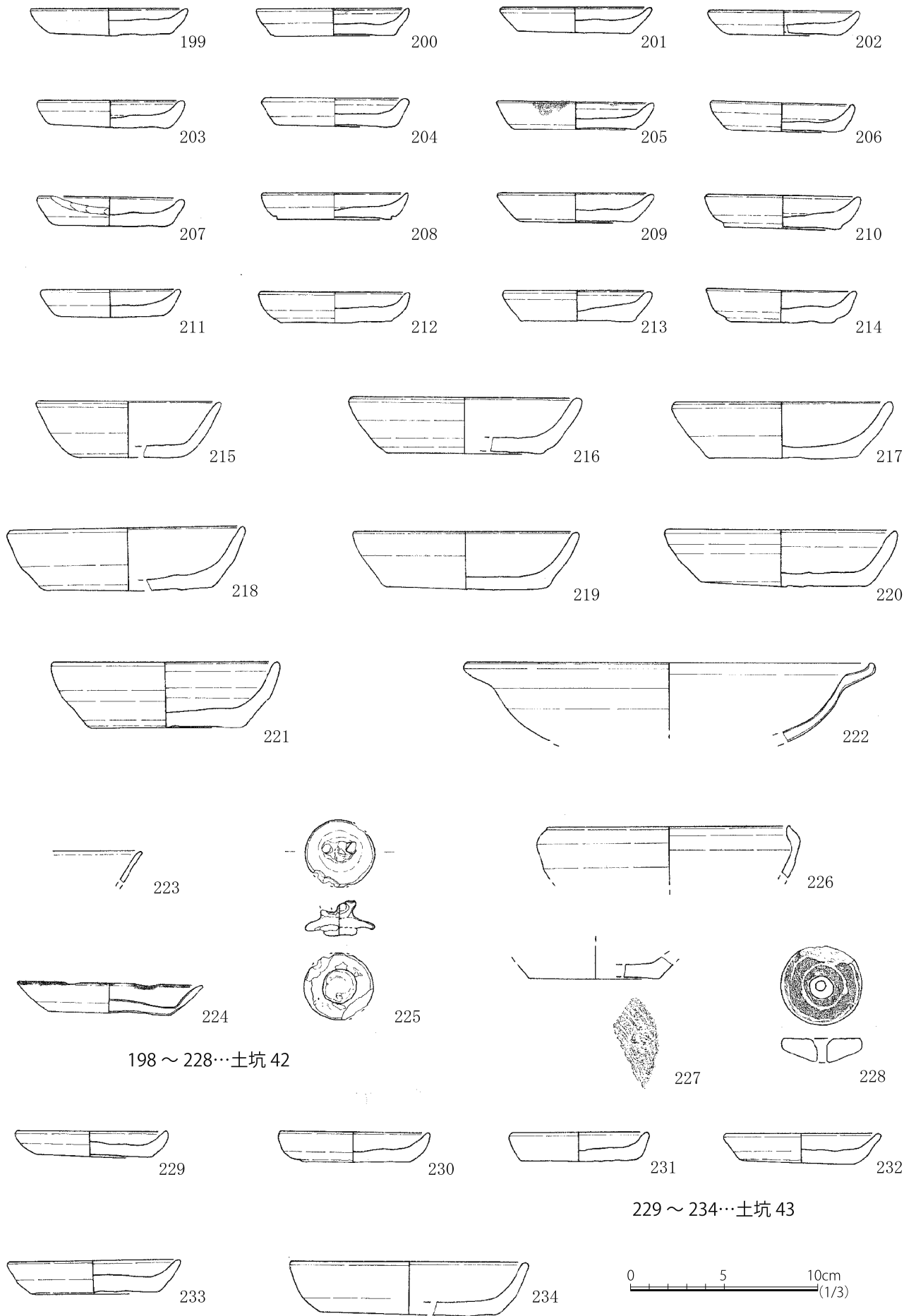


图 29 1 面遺構出土遺物 (10)



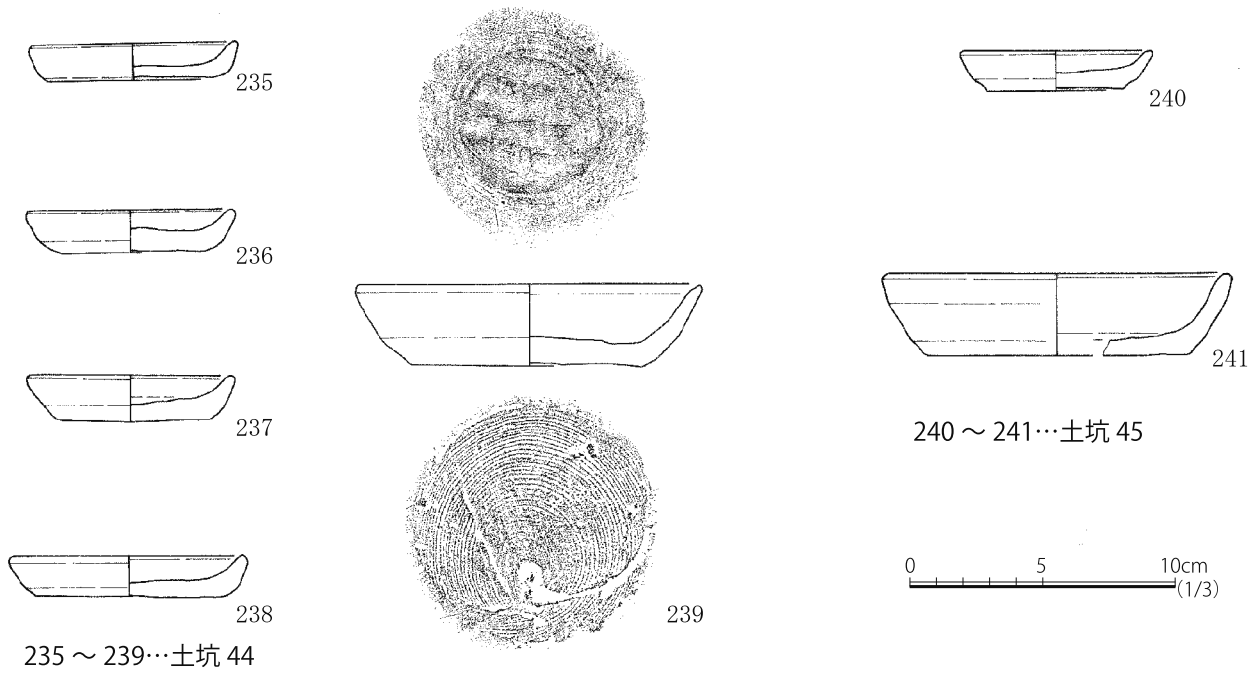


図 30 1面遺構出土遺物 (11)

表 3 1面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	ナテ状	板状	スコ状		
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.2)	(5.2)	1.5	1/3	○		○		黄橙	1面道路遺構上 白針 口縁部煤付着
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	5.4	1.4	完形	○		○		黄灰	1面道路遺構上 白針
3	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(5.4)	1.5	1/4	○		○		橙	1面道路遺構上 白針
4	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.6	1/4	○		○		黄橙	1面道路遺構上 白針
5	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	(5.8)	1.6	1/3	○		○		橙	1面道路遺構上 白針
6	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.9	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面道路遺構上 白針
7	土器	ロクロかわらけ・大	(8.0)	(7.0)	1.6	1/2	○		○		黄橙	1面道路遺構上 白針
8	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	5.7	1.5	3/4	○		○		黄橙	1面道路遺構上 白針
9	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	(5.0)	2.0	1/3	○		○		黄橙	1面道路遺構上 白針
10	土器	ロクロかわらけ・小	(12.4)	(8.0)	3.1	1/6	○		○		黄橙	1面道路遺構上 白針
11	土器	ロクロかわらけ・大	(12.7)	(8.0)	3.1	口小～ 1/2底小	○		○		黄橙	1面道路遺構上 白針
12	土器	ロクロかわらけ・大	(12.2)	(7.8)	3.5	1/3	○		○		黄橙	1面道路遺構上 白針
13	土器	ロクロかわらけ・大	(12.1)	(6.6)	3.5	1/3	○		○		橙	1面道路遺構上 白針
14	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	(4.6)	[2.4]	底ほぼ完 存					緑灰 不透明	1面道路遺構上 大宰府I類
15	磁器	龍泉窯系青磁折縁皿	—	—	[1.6]	口小片					青灰 半透明	1面道路遺構上 大宰府坏III-3 b類
16	磁器	龍泉窯系青磁折縁鉢	—	—	[3.7]	口小片					緑灰 透明	1面道路遺構上 大宰府坏III-4類
17	磁器	青白磁合子身	(3.7)	—	[1.4]	1/3					水青 透明	1面道路遺構上
18	磁器	白磁口禿皿	—	—	[3.1]	口小片					乳白 透明	1面道路遺構上 大宰府IX類
19	磁器	白磁口禿皿	—	—	[2.6]	口小片					淡青白 透明	1面道路遺構上 大宰府IX類
20	磁器	白磁口禿皿	—	—	[4.1]	口小片					乳白 透明	1面道路遺構上 大宰府IX類
21	磁器	白磁口禿皿	—	—	[2.3]	口小片					乳白 透明	1面道路遺構上 大宰府IX類
22	磁器	白磁口禿皿	—	—	[2.4]	口小片					乳白 透明	1面道路遺構上 大宰府IX類

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	ナラシ	板状	スコ状		
23	磁器	白磁 口禿皿	—	(6.4)	[1.0]	底 1/4					淡青灰 透明	1面道路遺構上 大宰府IX類
24	陶器	瀬戸 入子	—	—	[2.9]	口小片					灰	1面道路遺構上 輪花形
25	陶器	尾張型 特殊山茶碗	—	—	[1.8]	底小片					暗茶褐	1面道路遺構上 内面にヘラによる線刻
26	陶器	常滑 甕	—	—	[11.8]	口小～ 胴片					茶褐	1面道路遺構上 6型式 長石
27	陶器	常滑 甕	—	—	[8.6]	口小～ 胴片					暗茶褐	1面道路遺構上 6型式 長石
28	陶器	常滑 甕	—	—	—	口小～ 胴片					暗褐	1面道路遺構上 長石
29	陶器	常滑 片口鉢 I 類	—	—	[5.2]	口小～ 体片					茶褐	1面道路遺構上 長石
30	陶器	常滑 片口鉢 I 類	—	—	[4.5]	口小～ 体片					灰	1面道路遺構上 長石
31	陶器	常滑 片口鉢 II 類	—	—	[6.1]	口小～ 体片					暗茶褐	1面道路遺構上 長石
32	陶器	常滑 片口鉢 II 類	—	—	[6.8]	口小～ 体片					橙	1面道路遺構上 長石
33	陶器	東播系 甕	—	—	—	胴片					灰	1面道路遺構上
34	瓦質土器	火鉢	—	—	—	体片					灰橙	1面道路遺構上 体部外面に巴文の押印

図21 1面遺構出土遺物(2)

35	瓦	軒平瓦	瓦当幅 7.0	内区幅 4.0	顎面幅 3.0	瓦当部					灰	1面道路遺構上 永福寺 I 01f 上外区幅1.5 下外区幅1.0 唐草文
36	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	狭端面 片側辺					灰	1面道路遺構上 永福寺女瓦D類
37	鉄製品	釘	長さ 6.6	幅 0.4	厚さ 0.5	完形					—	1面道路遺構上
38	鉄製品	釘	長さ 8.1	幅 0.4	厚さ 0.3	完形					—	1面道路遺構上
39	鉄製品	釘	長さ (6.9)	幅 0.5	厚さ 0.3	下端欠損					—	
40	鉄製品	釘	長さ 4.5	幅 0.4	厚さ 0.4	完形					—	
41	鉄製品	釘	長さ 3.9	幅 0.4	厚さ 0.4	完形					—	
42	鉄製品	釘	長さ 3.7	幅 0.4	厚さ 0.4	完形					—	
43	鉄製品	釘	長さ 5.7	幅 0.5	厚さ 0.5	完形					—	
44	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	一部欠損					—	1面道路遺構上 紹聖元寶 中国北宋代 1094年初鑄
45	陶器	須恵器 壺	—	—	[1.9]	口小片					暗灰	1面道路遺構上
46	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.3)	1.6	1/3	○	○			黄橙	1面溝01 雲母
47	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.9	2/3	○	○			黄灰	1面溝01 白針 内外面一部黒色に変色
48	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.4)	3.1	1/3	○	○			黄橙	1面溝01 白針
49	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	1面溝01 開元通寶 中国唐代 621年初鑄
50	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.2	完形					—	1面溝01 銭銘不明
51	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.4)	1.7	1/4	○	○			橙	1面溝02 白針 内面煤付着
52	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(8.8)	3.3	1/3	○	○			橙	1面溝02 白針
53	陶器	常滑 甕	—	—	[4.8]	口小～ 胴片					暗褐	1面溝02
54	陶器	常滑 片口鉢 I 類	—	—	[2.8]	口小片					灰	1面溝02 白色粒
55	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.4	狭端面 片側辺					灰	1面溝02 永福寺女瓦D類

図22 1面遺構出土遺物(3)

56	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.0)	1.6	1/6	○	○			黄灰	1面P01-イ 白針 外面黒色に変色
57	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.5	1/6	○				黄橙	1面P01-ロ 白針、砂質
58	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.0)	1.7	1/4	○	○			黄橙	1面P01-ロ 白針、砂質
59	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.7	1.7	ほぼ完形	○	○			橙	1面P01-ロ 白針

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サワラ状	板状	スコ状		
60	陶器	瀬戸 御皿	(15.2)	(9.0)	4.1	1/8					灰	1面P01-ハ
61	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					暗茶褐	1面P01-ハ 長石
62	ガラス	小片	縦 1.2	横 0.7	厚さ 0.7	不明					水青	1面P01-ニ
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.5	4/5	○		○		黄橙	1面P02-イ 白針
64	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	狭端面 片側辺					暗灰	1面P02-イ
65	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					暗茶褐	1面P02-ロ 長石
66	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.2	1.7	4/5	○		○		黄橙	1面P02-ホ 白針
67	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.4)	3.0	1/4	○		○		黄橙	1面P02-ホ 白針
68	土器	ロクロ 穿孔かわらけ	長さ [5.0]	幅 5.0	厚さ 1.3	完形	○		○		黄橙	1面P03-イ 焼成前に3ヶ所の穿孔 側面は打ち欠きか
69	石製品	砥石	長さ [6.7]	幅 2.4	厚さ 2.1	両端欠損					灰白	1面P03-ハ 中砥 伊予産
70	土器	ロクロ かわらけ・大	12.0	6.7	3.3	4/5	○				黄灰	1面P03-ニ 側面に3ヶ所の穿孔 口縁部の一部打ち欠き

図23 1面遺構出土遺物(4)

71	陶器	常滑 甕	—	—	[5.9]	ロ片～ 胴片					灰褐	1面土坑1 長石
72	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	(16.0)	[6.7]	1/6以下					灰	1面土坑1 長石
73	鉄製品	釘	長さ [9.5]	幅 0.5	厚さ 0.4	上端部欠 損					—	1面土坑1
74	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.0	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
75	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.6)	1.3	1/2	○		○		黄橙	1面土坑2 白針 口縁部煤付着
76	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.9	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
77	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.4	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
78	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.7	1.6	完形	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
79	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.6	3/4	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
80	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.8	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
81	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.7)	1.6	1/3	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
82	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.6)	3.3	1/4	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
83	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	7.8	3.1	2/3	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
84	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(8.0)	3.1	2/3	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
85	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(8.4)	3.1	1/3	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
86	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.0)	3.3	1/2	○		○		黄灰	1面土坑2 白針
87	磁器	白磁 口禿皿	(8.6)	(4.8)	2.6	1/3	○		○		灰白 半透明	1面土坑2 大宰府Ⅸ類
88	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(34.0)	(18.2)	13.1	口小～ 底1/6					暗赤褐	1面土坑2 長石
89	土製品	泥塔	最大径 2.9	—	高さ [4.5]	不明					橙	1面土坑2 宝塔形 白針
90	鉄製品	蓋	縦 [2.9]	横 [3.3]	厚さ 1.8	不明					—	1面土坑2
91	鉄製品	刀子	長さ [16.7]	幅 2.0	厚さ 0.4	不明					—	1面土坑2
92	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	1面土坑2 元祐通寶 中国北宋代 1086年

図24 1面遺構出土遺物(5)

93	陶器	泉州窯系 黄釉鉄絵盤	(38.2)	(34.4)	10.8	1/4以下					黄褐	2面土坑2
----	----	---------------	--------	--------	------	-------	--	--	--	--	----	-------

図25 1面遺構出土遺物(6)

94	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	—	[4.3]	口小片					灰緑 半透明	1面土坑3 大宰府Ⅱ類
95	土器	ロクロ かわらけ・極小	5.6	4.8	0.9	完形	○		○		灰橙	1面土坑5 内折れ 白針

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ*	対ナリ状	板状	スコ状		
96	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	6.5	1.5	2/3	○		○		黄橙	1面土坑5 白針
97	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	6.7	1.5	3/4	○		○		橙	1面土坑5 白針
98	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.6	3/4	○		○		橙	1面土坑5 白針
99	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	6.5	1.8	1/2	○		○		黄橙	1面土坑5 白針
100	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.6	1.6	ほぼ完形			○		黄橙	1面土坑5 白針
101	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.9)	(8.7)	3.0	1/2	○		○		黄橙	1面土坑5 白針 口唇部に擦痕
102	磁器	龍泉窯系青磁 皿	(11.1)	—	[2.7]	口片1/4~ 体片					暗灰緑 不透明	1面土坑5
103	磁器	龍泉窯系青磁 瓶	(7.7)	—	[1.2]	口片1/4					灰緑 半透明	1面土坑5 黒色粒
104	磁器	青白磁 合子蓋	(7.6)	天頂径 (6.4)	1.6	1/3					青灰 透明	1面土坑5 天頂部鳳凰+体部蓮弁
105	陶器	常滑 壺	—	(14.5)	[4.8]	胴片~ 底1/8以下					灰褐	1面土坑5 長石 内面やや摩耗
106	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[5.2]	口小片					灰	1面土坑5 長石
107	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.2]	口小片					灰~黄橙	1面土坑5 長石
108	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[8.3]	口小~底 片					灰褐	1面土坑5 長石
109	土製品	伊勢系 土鍋	—	—	[1.9]	口小片					灰橙	1面土坑5
110	銅製品	銭	直径 2.6	孔径 0.5	厚さ 0.16	完形					—	1面土坑5 銭銘不明
111	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	7.3	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑6 白針
112	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.4)	1.5	1/2	○		○		黄橙	1面土坑6 白針
113	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.5	1/2	○		○		黄橙	1面土坑6 白針
114	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	7.0	1.8	完形	○		○		黄橙	1面土坑6 白針
115	磁器	白磁 口禿碗	—	(5.0)	[1.6]	体片~底 1/3					灰白 半透明	1面土坑6 大宰府Ⅸ類
116	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.4]	口小片					灰白 半透明	1面土坑6 大宰府Ⅸ類
117	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	1面土坑6 至道元寶 中国北宋代 995年初鑄
118	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.6)	1.6	1/2	○		○		黄橙	1面土坑8 白針
119	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.2)	1.6	1/2	○		○		橙	1面土坑8 白針
120	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	6.0	1.7	ほぼ完形	○		○		黄灰	1面土坑8 白針
121	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	—	[4.5]	口小~ 体片					灰緑 半透明	1面土坑8 大宰府Ⅱ類
122	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.4]	口小片					灰白 半透明	1面土坑8 大宰府Ⅸ類
123	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.4]	口小片					灰白 不透明	1面土坑8 大宰府Ⅸ類
124	陶器	渥美・湖西型 片口山茶碗	(14.8)	(5.4)	[2.3]	体片~ 底1/2					灰白	1面土坑8 図35-379と同一個体
125	陶器	常滑 甕	—	—	[5.6]	口小~ 胴片					茶褐	1面土坑8 5~6型式 長石
126	陶器	常滑 甕	—	—	[5.9]	口小~ 胴片					茶褐	1面土坑8 6型式 長石
127	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.5]	口小片					黄橙	1面土坑8 河野Ⅰ類(A類) 黒色粒・白色粒 128と同一個体か
128	瓦質土器	火鉢	—	—	[3.2]	底小片					黄橙	1面土坑8 黒色粒・白色粒 127と同一個体か
129	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	広端面 両側縁欠損					灰	1面土坑8 永福寺女瓦A類
130	骨製品	筭	長さ [2.8]	幅 1.2	厚さ 0.2	両端欠損					灰	1面土坑8
131	土器	ロクロ かわらけ・極小	(5.4)	(4.6)	1.2	1/4	○		○		黄橙	1面土坑11 内折れ 白針
132	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.4)	1.3	2/3	○		○		黄橙	1面土坑11 白針
133	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.6)	1.6	2/3	○		○		黄橙	1面土坑11 白針

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	対ナテ状	板状	スコ状		
134	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.2	1.7	完形	○		○		黄橙	1面土坑11 白針
135	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	7.2	1.7	ほぼ完形	○		○		橙	1面土坑11 白針
図26 1面遺構出土遺物(7)												
136	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.9)	1.4	3/4	○		○		黄橙	1面土坑12 白針
137	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	1.6	1/2	○		○		黄橙	1面土坑12 白針
138	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	6.0	1.9	2/3	○		○		黄橙	1面土坑12 白針
139	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.6)	3.8	1/2	○		○		黄橙	1面土坑12 白針
140	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.4]	口小～ 体片					灰白 半透明	1面土坑12 大宰府Ⅱ類
141	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[6.3]	口小～ 体片					灰	1面土坑12 長石
142	瓦質土器	火鉢	—	—	[9.5]	口小～ 底片					暗灰褐	1面土坑12 河野Ⅰ類(A類)
143	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	広端面 片側片					灰黒	1面土坑12 永福寺女瓦Ⅰ類
144	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.4)	1.8	1/3	○		○		黄橙	1面土坑13 白針
145	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.4)	(5.8)	3.3	1/4	○		○		黄橙	1面土坑13 白針、やや粉質 口唇部に煤付着
146	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.7	不明					暗灰	1面土坑13 永福寺E類
147	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.0	筒部 片側辺					灰褐色	1面土坑13 永福寺男瓦A類
図27 1面遺構出土遺物(8)												
148	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文皿	—	(4.7)	[1.1]	体片～ 底1/3					青灰 透明	1面土坑17
149	陶器	常滑 甕	—	—	[6.6]	口小～ 体片					赤褐	1面土坑17
150	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.4	狭端面 片側辺					灰	1面土坑17 永福寺女瓦CorD類
151	土器	ロクロ かわらけ・小	(10.1)	(7.3)	1.9	1/4	○				黄橙	1面土坑18 白針
152	土器	手づくね 白かわらけ・大	(11.0)	(9.1)	(3.1)	1/6					黄灰白	1面土坑18 黒色粒
153	磁器	龍泉窯系青磁 錦蓮弁文碗	—	—	[3.5]	口小片					灰緑 半透明	1面土坑19 大宰府Ⅱ類
154	磁器	龍泉窯系青磁 錦蓮弁文碗	—	(4.0)	[3.1]	体片～ 底1/4					青灰 透明	1面土坑19 大宰府Ⅱ類
155	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.5)	(7.5)	1.6	1/8	○				黄橙	1面土坑20 白針
156	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.1)	1.7	1/4	○		○		黄灰	1面土坑20 白針
157	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.8	1.5	4/5	○		○		黄橙	1面土坑21 白針
158	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(5.2)	1.6	1/4	○		○		黄橙	1面土坑26 白針 口縁部打ち欠き
159	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(27.8)	—	[5.8]	口1/6					茶褐	1面土坑26 白色粒
160	鉄製品	釘	長さ [7.0]	幅 0.4	厚さ 0.5	上端欠損					—	1面土坑26
161	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	1面土坑26 政和通寶(分権) 中国北宋代 1111年初鑄
162	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.6	1.5	ほぼ完形	○		○		橙	1面土坑27 白針 砂質
163	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(9.1)	3.1	1/2	○		○		橙	1面土坑27 白針 口縁・外底煤付着
164	常滑	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	(11.8)	[5.6]	体片～ 底1/4					暗灰	1面土坑27 長石 内面煤付着
165	瓦質土器	火鉢	—	—	[5.9]	口小片					灰褐	1面土坑27 河野ⅡA類(C1類) 黒色粒・白色粒
166	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.5	1.5	3/4	○		○		黄橙	1面土坑29 長石 口縁部打ち欠き
167	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.1)	1.5	1/2	○				黄橙	1面土坑29 長石
168	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.0)	1.6	1/4	○		○		黄橙	1面土坑29 長石 口縁部打ち欠き
169	土器	ロクロ かわらけ・大	11.4	8.4	2.5	3/4	不鮮 明				黄橙	1面土坑29 長石 口縁部外面ケズリ、内面擦痕 煤付着
170	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	8.8	3.1	ほぼ完形	○		○		黄灰	1面土坑29 長石 口縁部打ち欠き

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サワリ状	板状	スコ状		
171	磁器	白磁 印花文皿	—	—	—	底小片					青灰 透明	1面土坑29 大宰府Ⅹ類 内面型押し植物文
172	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.2]	口小片					灰	1面土坑29
173	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	1面土坑29 天祐通寶 中国北宋代 1017年初鑄
図28 1面遺構出土遺物(9)												
174	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(5.5)	1.5	1/2	○		○		橙	1面土坑31 白針、口縁部打ち欠き
175	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.7	2/3	○		○		橙	1面土坑31 白針、口縁部打ち欠き
176	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.7)	2.1	1/4	○				黄橙	1面土坑31 白針
177	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	—	[1.8]	底小片					灰緑 半透明	1面土坑31 大宰府Ⅲ類
178	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[3.4]	口小片					黄灰緑	1面土坑31
179	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[8.1]	口小～ 体片					明褐	1面土坑31
180	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.6)	1.7	1/3	○		○		橙	1面土坑32 白針
181	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(6.4)	1.5	1/3	○				黄灰	1面土坑33 白針
182	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.3)	1.7	1/3	○		○		黄橙	1面土坑33 白針
183	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.8	4/5	○		○		黄橙	1面土坑34 白針
184	陶器	褐釉壺	—	(8.0)	[6.3]	底1/3					暗茶褐	1面土坑34 黒色粒・黒色粒
185	陶器	常滑 甕	—	—	[7.5]	口小～ 胴片					赤褐	1面土坑34 5型式 長石
186	陶器	常滑 甕	—	—	[7.2]	口小～ 胴片					暗灰	1面土坑34 5～6型式 長石
187	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.2	広端面 片側片					灰	1面土坑34 黒色粒
188	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.9)	1.3	1/3	○		○		橙	1面土坑35 白針 底部外面黒色に変色
189	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.7)	1.5	1/3	○		○		黄灰	1面土坑35 白針、砂質
190	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.6)	1.5	1/3	○		○		黄灰	1面土坑40 白針
191	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.7	1/2					黄橙	1面土坑37 白針 内外面一部黒色に変色
192	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.9)	2.0	1/3	○				黄橙	1面土坑37 白針 口縁部打ち欠き
193	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.5)	1.5	1/2					橙～ 暗灰	1面土坑37 白針 内外面一部黒色に変色
194	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[3.2]	口小片					明褐	1面土坑37 長石
195	陶器	常滑 甕	—	—	[16.7]	口小～ 胴片					赤褐	1面土坑37 長石
196	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.2)	1.8	1/4	○		○		橙	1面土坑41
197	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿	—	—	[2.5]	口小片					灰緑 半透明	1面土坑41 大宰府坏Ⅲ類
198	石製品	硯	長さ 6.8	幅 5.1	厚さ 0.7	完形					暗灰	1面土坑41 高島硯(消費地で四葉硯に再加工)
図29 1面遺構出土遺物(10)												
199	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.6)	1.5	1/3	○				黄灰	1面土坑42 白針
200	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.2)	1.5	2/3	○		○		黄灰	1面土坑42 白針 口唇部一部煤付着
201	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.1	1.4	4/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
202	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.8)	1.3	1/2	○				黄橙	1面土坑42 白針
203	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.1	1.5	ほぼ完形	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
204	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.3	1.5	4/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
205	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.4	1.5	3/4	○		○		黄灰	1面土坑42 白針 口縁内外一部煤付着
206	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.6	1.5	4/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
207	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.2)	1.6	4/5	○		○		黄橙	1面土坑42 白針 口縁の一部擦る

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナリヲ状	板状	スコ状		
208	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.4	1/4	○				黄橙	1面土坑42 白針
209	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.8)	1.6	1/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
210	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.4	1.8	4/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
211	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(5.6)	1.5	2/3	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
212	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.7	4/5	○				黄灰	1面土坑42 白針
213	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.9)	1.7	2/3	○				黄橙	1面土坑42 白針
214	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.4)	1.8	2/3	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
215	土器	ロクロ かわらけ・中	(9.8)	(5.0)	3.0	1/4	○		○		黄橙	1面土坑42 白針
216	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(8.4)	3.0	1/4	○				黄灰	1面土坑42 白針
217	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(8.0)	3.1	1/3	○		○		黄橙	1面土坑42 白針
218	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	8.9	3.4	4/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
219	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.7)	3.1	2/3	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
220	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	8.7	3.1	2/3	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
221	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.0)	3.5	2/3	○		○		黄橙	1面土坑42 白針
222	磁器	龍泉窯系青磁 折縁鉢	(21.7)	—	[4.2]	1/3					緑青 透明	1面土坑42 大宰府坏Ⅲ-3類と同形か
223	磁器	白磁 口禿皿	口縁部 片	—	[1.7]	口小片					灰白 半透明	1面土坑42 大宰府Ⅸ類
224	磁器	白磁 口禿皿	(9.8)	(6.5)	1.6	2/3					灰白 透明	1面土坑42 大宰府Ⅸ類 口縁部タール付着
225	磁器	青白磁 蓋	直径 3.8	受部内径 1.8	高さ 1.8	ほぼ完形					青白 半透明	1面土坑42
226	陶器	常滑 片口碗	(13.0)	—	[2.8]	口小片1/6					灰色	1面土坑42 白色粒・黒石粒 227と同一個体
227	陶器	常滑 片口碗	—	(7.0)	[1.2]	底小片1/6					灰色	1面土坑42 白色粒・黒石粒 226と同一個体
228	土製品	独楽	外径 4.4	孔径 0.6	厚さ 1.8	ほぼ完形					灰褐	1面土坑42
229	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.5	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑43 白針 内外一部黒色に変色
230	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.1	1.6	ほぼ完形	○		○		橙	1面土坑43
231	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(6.2)	1.6	1/2	○		○		黄灰	1面土坑43 白針
232	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.4	1.7	ほぼ完形	○		○		橙	1面土坑43 白針
233	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(6.6)	1.8	1/3	○		○		黄灰	1面土坑43 白針
234	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(9.3)	3.0	1/3	○		○		橙	1面土坑43 白針 内面一部煤付着
図30 1面遺構出土遺物(11)												
235	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(6.9)	1.4	1/4	○		○		橙	1面土坑44 白針
236	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.5	1/3	○		○		黄灰	1面土坑44 白針
237	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑44 白針
238	土器	ロクロ かわらけ・小	9.8	7.3	1.6	4/5	○		○		黄橙	1面土坑44 白針
239	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	9.0	3.1	ほぼ完形	○		○		灰橙	1面土坑44
240	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.2)	1.5	2/3	○		○		黄橙	1面土坑45 砂質
241	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.9)	(10.1)	3.1	1/3	○		○		橙	1面土坑45 白針
図31 1面遺構出土遺物(12)												
242	土器	ロクロ かわらけ・中	11.2	6.1	3.4	3/4	○		○		黄橙	1面土坑02 白針 内外面一部煤付着
243	土器	ロクロ かわらけ・中	11.3	6.8	3.4	1/2	○		○		黄橙	1面土坑02 白針
244	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	6.0	3.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑02

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ナラ	板状	スコ状		
245	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[3.3]	口小片					乳白 透明	1面土坑02 大宰府Ⅸ類
246	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					暗褐	1面土坑02 長石
247	鉄製品	釘	長さ [6.0]	幅 0.4	厚さ 0.5	上端欠損					—	1面土坑02
248	鉄製品	釘	長さ [6.6]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠損					—	1面土坑02
249	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(5.6)	1.6	1/4	○		○		黄灰	1面土坑04 白針
250	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.9	1.5	1/2	○		○		黄灰	1面土坑04 白針
251	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.8	1.7	1/2	○		○		黄灰	1面土坑04 白針 内外面黒色に変色
252	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.3)	1.5	1/3	△		○		黄灰	1面土坑04 白針
253	石製品	砥石	長さ [5.3]	幅 4.0	厚さ [3.5]	両端欠損					橙灰	1面土坑04 中砥
254	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(7.0)	1.6	1/6	○		○		黄灰	1面土坑07 白針
255	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.4	1/4	○		○		黄橙	1面土坑07 白針
256	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.6	ほぼ完形	○		○		黄灰	1面土坑07 白針
257	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.8)	3.0	1/4	○		○		黄灰	1面土坑07 白針 穿孔
258	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(7.6)	3.0	1/3	○		○		黄灰	1面土坑07 白針 内外面黒色に変色
259	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(7.6)	3.1	口小～ 1/3底小	○		○		黄橙	1面土坑07 白針
260	土器	手づくね かわらけ・小	(9.9)	—	1.8	1/5	○				黄灰	1面土坑07 白針
261	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.6	1/3	○				黄灰	1面土坑07 白針
262	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	—	(4.9)	[3.2]	体片～ 1/4底小					灰緑 半透明	1面土坑07 大宰府Ⅱ類
263	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.5]	口小片					暗赤	1面土坑07
264	瓦	軒丸瓦	—	—	—	瓦当部					黒灰	1面土坑07 巴文
265	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	広端面 片側辺					黒灰	1面土坑07
266	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	狭端面 片側辺					暗灰	1面土坑07
267	石製品	砥石	長さ [4.4]	幅 2.3	厚さ 2.0	両端欠損					乳白	1面土坑07 中砥

図32 1面遺構出土遺物(13)

268	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(7.0)	1.5	1/4	○		○		黄橙	1面土坑08 白針
269	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.7	1.5	3/4	○		○		黄橙	1面土坑08 白針、砂質
270	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.2)	2.9	1/3	○		○		黄橙	1面土坑08 白針、砂質
271	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(7.6)	3.0	1/3	○		○		黄灰	1面土坑08 白針、やや粉質
272	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	7.8	3.1	3/4	○		○		黄橙	1面土坑08 白針
273	磁器	白磁 口禿皿	(11.1)	—	[1.9]	口小1/3					青味白 半透明	1面土坑08 大宰府Ⅸ類
274	石製品	軽石	長径 4.3	短径 4.0	厚さ 1.6	完形					黄灰	1面土坑08 全体に擦痕
275	瓦	軒平瓦	—	—	—	瓦当片					暗灰	1面土坑09 白色粒 連珠文
276	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.4)	1.8	1/2	○		○		橙	1面土坑010 白針 口縁部一部煤付着
277	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.2)	1.9	1/3	○				黄橙	1面土坑010 白針
278	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.4	3.4	1/3	○		○		橙	1面土坑010 白針
279	陶器	瀬戸 入子	—	4.0	[1.3]	底完存					灰白	1面土坑010 内面赤色の付着物
280	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[3.8]	口小片					暗褐	1面土坑010 長石
281	鉄製品	釘	長さ 5.7	幅 0.7	厚さ 0.5	完形					—	1面土坑010



遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナブ	ナラ状	板状	スコ状		
282	鉄製品	釘	長さ 6.7	幅 0.3	厚さ 0.4	完形					—	1面土坑010
283	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(6.8)	1.5	1/4	○		○		黄橙	1面土坑011 白針
284	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.8)	1.5	1/4	○		○		黄橙	1面土坑011 白針
285	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.8	1.7	完形	○		○		黄橙	1面土坑011 白針
286	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.5	1.6	完形	○		○		黄橙	1面土坑011 白針
287	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.4)	(7.0)	3.3	1/4	○		○		黄灰	1面土坑011
288	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(7.2)	3.4	1/4	○		○		黄灰	1面土坑011
289	鉄製品	釘	長さ [6.7]	幅 0.4	厚さ 0.6	下端欠損					—	1面土坑011
290	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.8)	1.5	1/3	○		○		橙	1面土坑012 白針
291	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.9)	(5.4)	1.6	1/4	○		○		黄橙	1面土坑012
292	磁器	龍泉窯系青磁 碗	—	5.0	[1.8]	底完存					ナブ 半透明	1面土坑012 大宰府Ⅰ類
293	陶器	常滑 甕	—	—	[3.0]	口小片					暗褐	1面土坑012 6型式
294	土器	火鉢	—	—	[5.8]	口小片					橙	1面土坑012 河野Ⅱ類(C類)
295	鉄製品	釘	長さ [5.0]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠損					—	1面土坑012
296	鉄製品	釘	長さ [6.8]	幅 0.4	厚さ 0.4	下端欠損					—	1面土坑012
297	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	—	3.4	1/3	○				黄橙	1面土013 白針

図33 1面遺構出土遺物(14)

298	石製品	硯	長さ [4.3]	幅 4.3	厚さ [1.0]	両端欠損					灰	1面P7 高嶋硯カ
299	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.7	1.7	ほぼ完形	○		○		橙	1面P13 白針
300	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.3	1.6	ほぼ完形	○		○		橙	1面P13 白針
301	磁器	龍泉窯系青磁 鎭蓮弁文碗	—	—	[3.4]	口小片					淡青灰 透明	1面P13 大宰府Ⅱ類
302	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.9	3.3	4/5	○		○		橙	1面P16 白針
303	鉄製品	釘	長さ 9.2	幅 0.5	厚さ 0.7	完形					—	1面P16
304	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.2)	1.6	1/3	○		○		黄橙	1面P17
305	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(7.6)	1.8	1/3	○		○		黄橙	1面P17
306	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	6.5	1.8	1/2	○		○		黄灰	1面P17 白針
307	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.9)	2.0	1/3	○		○		橙	1面P17 白針
308	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	9.7	3.2	3/4	○		○		黄橙	1面P17 白針
309	磁器	龍泉窯系青磁 鎭蓮弁文碗	—	—	[2.9]	口小片					灰緑 透明	1面P17 大宰府Ⅱ類
310	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	3.4	[2.5]	底小片					暗緑 半透明	1面P17 大宰府Ⅲ類
311	磁器	龍泉窯系青磁 折腰碗	(11.5)	—	[3.3]	口1/6					緑灰 不透明	1面P17 大宰府坏Ⅲ-1類カ
312	陶器	尾張型 小皿	7.8	4.6	1.8	3/4					灰	1面P17 白色粒
313	陶器	常滑 甕	—	—	[6.8]	口小片					灰黒	1面P17 5型式 長石
314	陶器	常滑 甕	—	—	[8.2]	口小片					茶褐	1面P17 5型式 長石
315	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	(24.2)	—	[5.6]	口1/6					灰	1面P17 長石
316	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.6)	1.5	1/2	○		○		黄橙	1面P18
317	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.1)	1.6	1/3	○		○		黄灰	1面P18
318	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.0)	1.8	1/4	○		○		黄橙	1面P18

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サリ状	板状	スコ状		
319	土器	ロクロかわらけ・小	(8.4)	(6.6)	1.7	1/3	○		○		橙	1面P18
320	土器	ロクロかわらけ・小	(12.8)	(9.1)	(3.6)	1/4	○		○		橙	1面P18
321	陶器	常滑甕	—	—	[8.1]	口小～胴片					茶褐	1面P18 5型式長石
322	瓦器	坏	10.3	5.0	3.0	2/3					黒灰	1面P18 楠葉型カ 底部内面に11弁の花文

図34 1面遺構出土遺物(15)

323	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	6.4	1.6	完形	○		○		橙	1面P19 白針
324	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	(5.9)	1.5	1/2	○		○		黄橙	1面P19 白針 内外黒色に変色
325	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	6.4	1.6	ほぼ完形	○		○		橙	1面P19 白針
326	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	6.3	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面P19
327	土器	高台付かわらけ	(8.7)	4.1	4.0	2/3					黄橙	1面P19 白針
328	磁器	龍泉窯系青磁 櫛搔蓮弁文碗	—	—	[3.9]	口小片					淡緑 透明	1面P19 大宰府 I-6類カ
329	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.1]	口小片					灰緑 半透明	1面P19 大宰府IX類 口縁部煤付着
330	陶器	尾張型 山茶碗	—	(6.4)	[5.0]	体片～ 底1/2					灰	1面P19 白色粒・黒色粒 高台に靱殻痕
331	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.4	2/3	○		○		橙	1面P20 白針
332	磁器	白磁 櫛搔文皿	—	(3.0)	[1.1]	底小1/3					淡青白 半透明	1面P20 大宰府 I類
333	土器	ロクロかわらけ・大	11.6	7.2	3.1	3/4	○		○		橙	1面P21 白針
334	土器	ロクロかわらけ・大	12.0	8.2	3.4	1/2	○		○		橙	1面P21 白針
335	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(6.4)	1.5	1/3	○		○		橙	1面P22 白針
336	土器	ロクロかわらけ・小	(8.4)	(6.2)	1.6	1/2	○		○		黄橙	1面P22 白針
337	土器	ロクロかわらけ・大	(11.8)	(8.0)	3.3	1/3	○		○		黄橙	1面P22白針 口唇部と底部内面に煤付着
338	瓦器	坏	(9.3)	(6.2)	2.6	底小1/6～ 口小片					黒	1面P22 楠葉型カ 輪花形
339	土器	ロクロかわらけ・大	(11.6)	(8.2)	2.8	1/2	○		○		黄橙	1面P24 白針
340	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.6]	口小片					緑味灰 透明	1面P24 大宰府IX類 口縁部煤付着
341	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[3.0]	口小片					緑	1面P24
342	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	(6.0)	1.6	1/2	○		○		橙	1面P26
343	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	6.1	1.6	完形	○		○		黄橙	1面P26
344	土器	ロクロかわらけ・小	(8.2)	(5.6)	1.8	1/2	○		○		橙	1面P27
345	青白磁蓋	青白磁 合子蓋	4.7	天頂径 3.3	1.5	1/2					青白 半透明	1面P27
346	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	広端面 片側辺					灰褐	1面P27 八幡宮 I期瓦と同類
347	常滑	常滑 甕	—	—	—	口小～ 胴片					暗赤褐	1面P29 6型式 長石
348	石製品	滑石鍋転用品 温石カ	長さ [5.3]	幅 [7.4]	厚さ 1.3	不明					灰黒	1面P29 加工途中カ
349	土器	ロクロかわらけ・小	(9.0)	(7.5)	1.4	1/4	○		○		黄橙	1面P30 内外面煤付着
350	磁器	龍泉窯系青磁 櫛搔蓮弁文碗	—	—	[4.8]	口小片					灰緑 半透明	1面P30 大宰府 II類
351	土器	ロクロかわらけ・小	(8.2)	(6.7)	1.6	1/3	○		○		黄橙	1面P32 白針
352	土器	ロクロかわらけ・大	(10.6)	(6.5)	3.2	1/3	○		○		橙	1面P32 白針
353	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.2	完形					—	1面P32 皇宋通寶 中国北宋代 1038年初鑄

図35 1面遺構出土遺物(16)

354	土器	ロクロかわらけ・大	(12.0)	(8.7)	2.9	1/2弱	○		○		橙	1面P33 白針
355	土器	ロクロかわらけ・大	(13.3)	(8.3)	3.5	1/3	○		○		黄橙	1面P33 白針、粉質

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	対ナリ状	板状	スコ状		
356	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	6.0	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面P34 白針
357	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.5	1.4	ほぼ完形	○		○		橙	1面P34 白針
358	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.4	1.5	4/5	○		○		橙	1面P34 白針、粉質
359	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.8	1.7	5/6	○		○		黄橙	1面P34 白針
360	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.8	1.6	4/5	○		○		黄橙	1面P36 白針 口縁部煤付着
361	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.9)	1.8	1/2	○		○		橙	1面P36
362	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.6	3/4	○		○		黄橙	1面P37 白針 内外面黒色に変色
363	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(7.6)	3.9	2/3	○		○		橙	1面P38 底部内面に煤付着
364	瓦質土器	火鉢	—	—	—	脚部					黄橙	1面P38 白針 非貫通孔あり
365	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(6.6)	1.7	2/3	○		○		黄橙	1面P44 白針 口縁部一部煤付着
366	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	7.9	3.4	4/5	○		○		黄橙	1面P44 白針
367	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.4	3.7	2/3	○		○		黄橙	1面P44 白針 内面一部煤付着
368	陶器	尾張型 特殊山茶碗	—	—	[2.7]	口小片					黄橙	1面P44
369	陶器	常滑 甕	—	—	[6.8]	口小～ 胴片					茶褐	1面P44 5型式 長石・黒色粒
370	瓦質土器	火鉢	—	—	[3.0]	口小片					黄橙	1面P44 黒色粒
371	石製品	基石	長さ 1.2	幅 1.8	厚さ 0.6	完形					黒	1面P44
372	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.1	完形					—	1面P44 開元通寶 中国唐代 854年初鑄
373	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.6	ほぼ完形	○		○		橙	1面P46 白針
374	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.0)	1.9	2/3	○		○		黄橙	1面P46 白針
375	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(7.6)	2.9	1/2	○		○		黄橙	1面P46 白針
376	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	(15.6)	—	[3.3]	口小片1/6					緑灰 半透明	1面P46 大宰府Ⅱ類
377	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	(16.8)	—	[3.8]	口小片1/4					灰緑 半透明	1面P46 大宰府Ⅱ類
378	磁器	白磁 口禿碗	—	—	[3.7]	口小片					灰白 不透明	1面P46 大宰府ⅠX類 黒色粒
379	陶器	渥美 片口山茶碗	(14.8)									図25-124と接合
380	陶器	尾張型 山茶碗	15.0	6.9	4.5	1/3					灰	1面P46 口縁部に煤付着
381	陶器	常滑 転用研磨具	長さ [8.2]	幅 [6.6]	厚さ 1.5	甕胴部片					茶褐	1面P50 側辺と外面側を研磨に使用
382	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(5.5)	1.6	1/4	○		○		黄橙	1面P011 白針 口縁部煤付着
383	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.6	1.6	3/4	○				黄灰	1面P011 砂質
384	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.5	1.6	2/3	○		○		黄橙	1面P011 白針
385	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.2]	口小片					青白 透明	1面P011
386	鉄製品	釘	長さ (5.6)	幅 0.4	厚さ 0.5	完形					—	1面P011
387	鉄製品	釘	長さ 6.2	幅 0.7	厚さ 0.5	完形					—	1面P011
388	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	1面P011 皇宋通寶 中国北宋代 1038年初鑄
389	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	1面P011 開元通寶 中国唐代 621年初鑄
390	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.2)	1.8	1/3	○				黄灰	1面P013 白針 口縁部煤付着

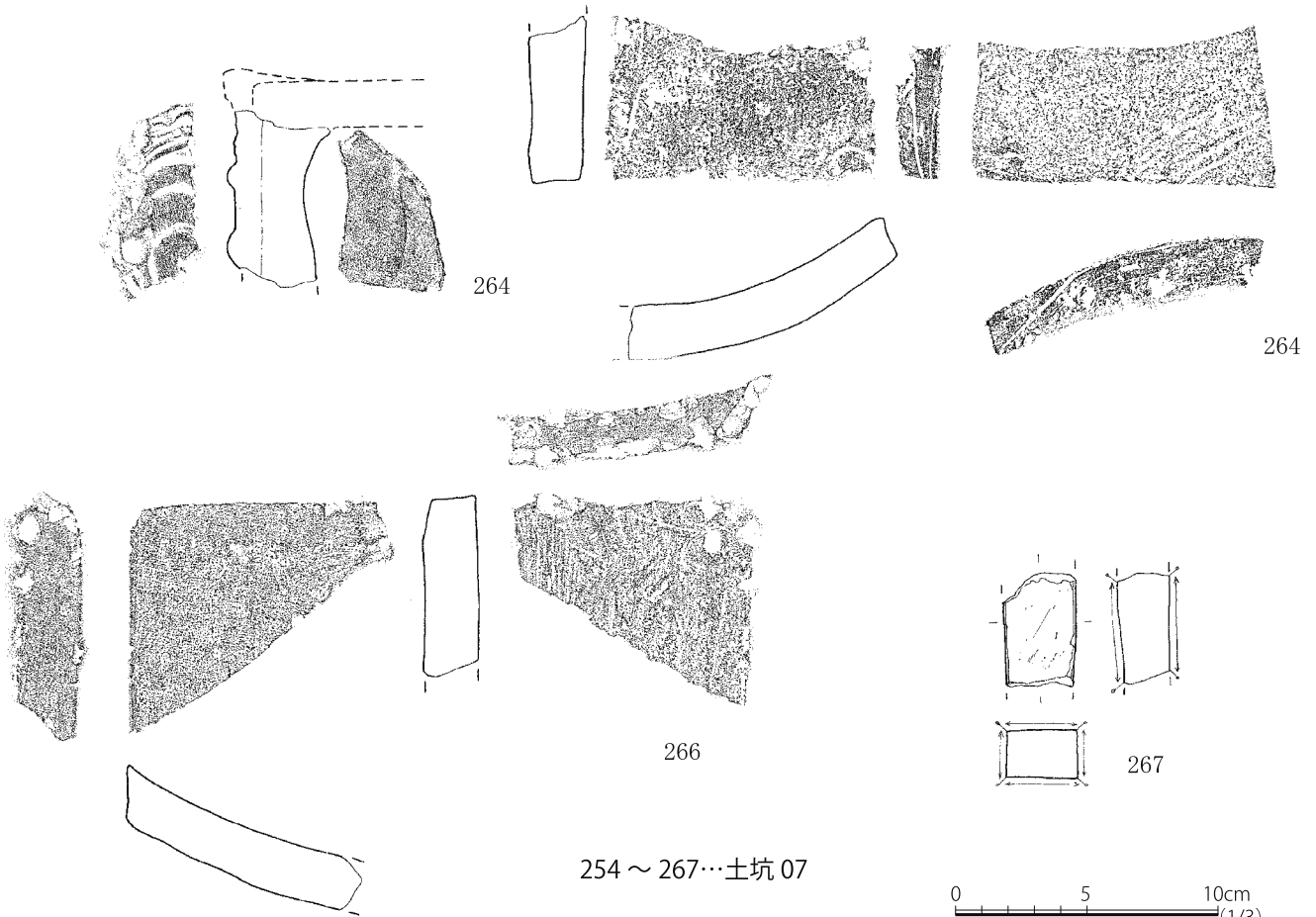
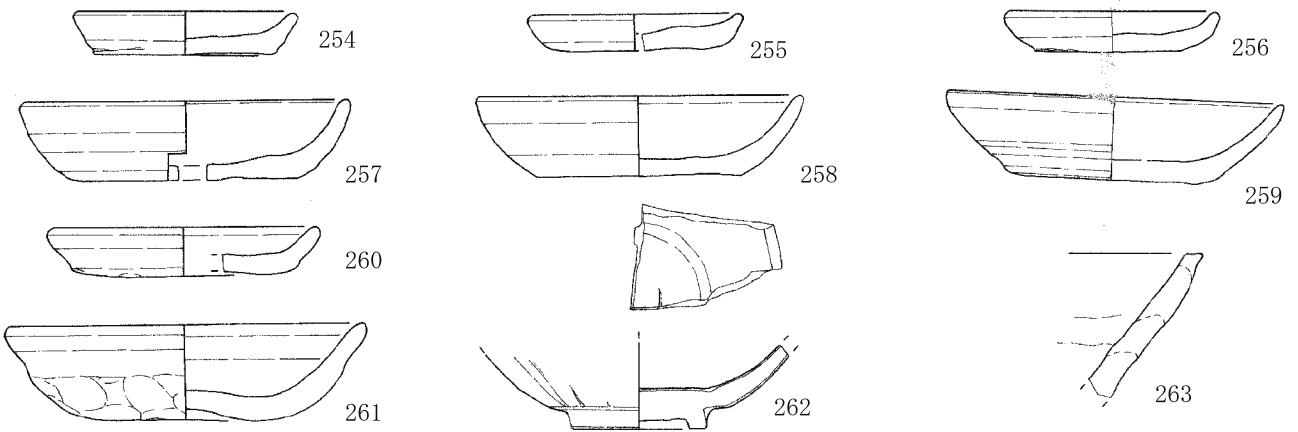
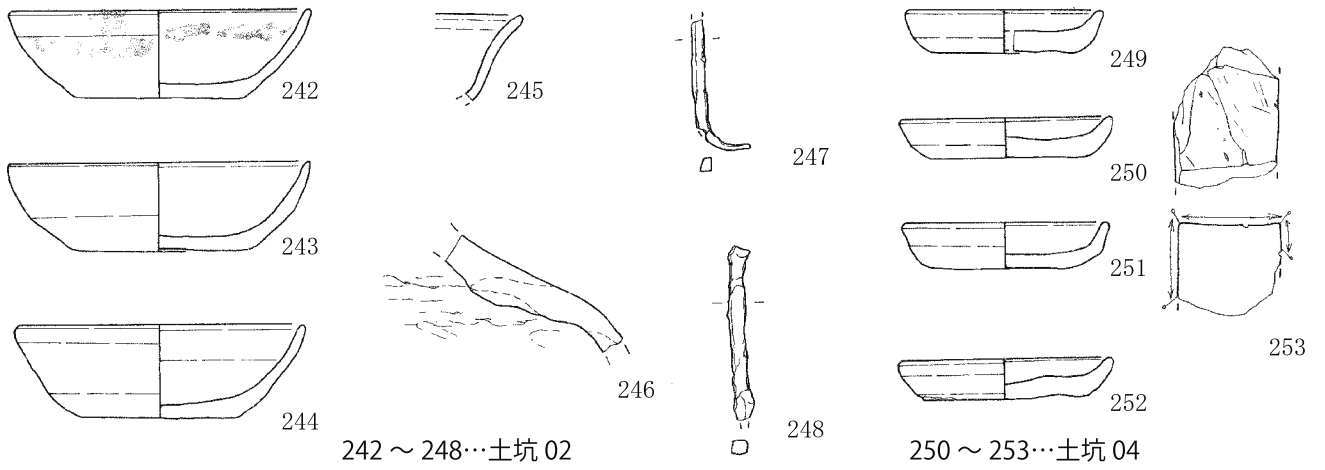


图 31 1 面遺構出土遺物 (12)

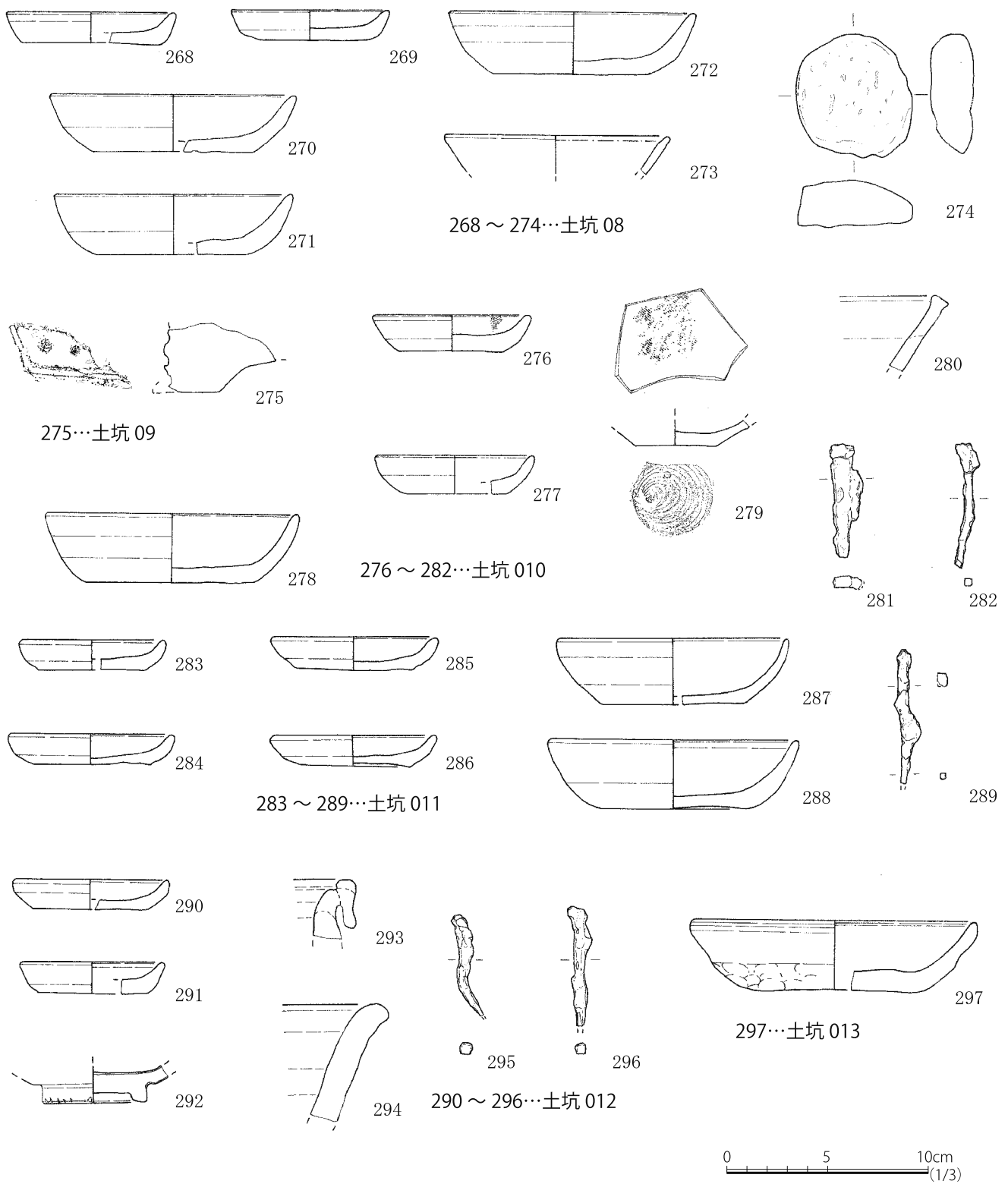
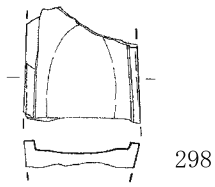


図 32 1 面遺構出土遺物 (13)

とも低平で底の広いものが主体となり、ロクロ成形品の他、手づくね成形品も若干量ながら含まれる。常滑甕は 6b 型式が下限で、他の国産・舶載陶磁器類を見ても 13 世紀後半までの生産品が主体になると思われる。特徴的な遺物として図 20-25 や図 35-368 が挙げられ、尾張型山茶碗の内面に焼成前の刻線が放射状に入る。368 は口縁部の小片で、山形の放射状刻線が見える。両者は直接には接合しないが、同一個体である可能性が高い。図 34-327 は柱状高台をもつかかわらけで、古瀬戸中 - I 期様式の仏供に酷似した形態を呈する。おそらく、かわらけ工人の手による模倣品であろう。

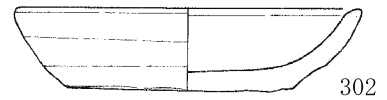


298

298...P13



300



302

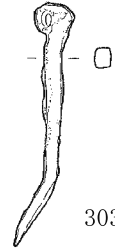


299



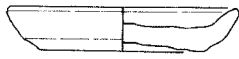
301

299 ~ 301...P13

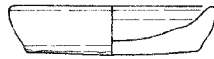


303

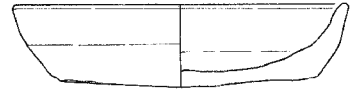
302 • 303...P16



304



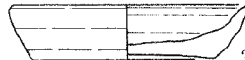
306



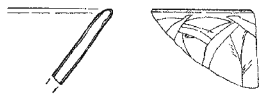
308



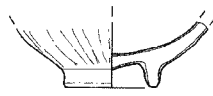
305



307



309



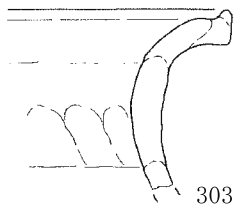
310



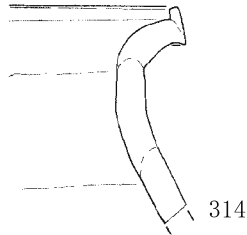
311



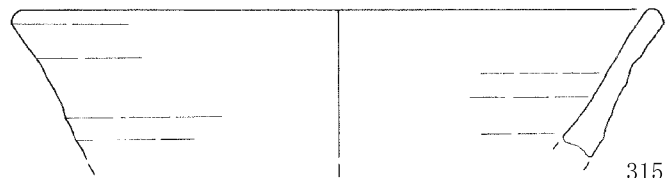
312



303

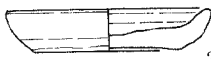


314



315

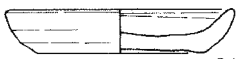
304 ~ 315...P17



316



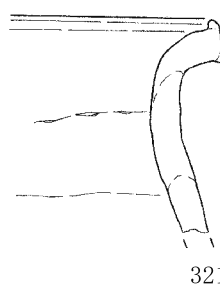
319



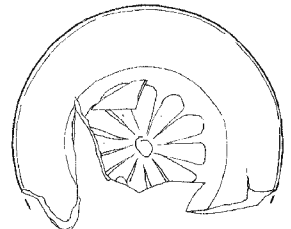
317



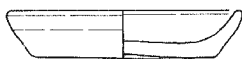
320



321



322



318

316 ~ 322...P18

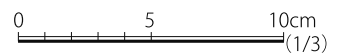


图 33 1 面遺構出土遺物 (14)

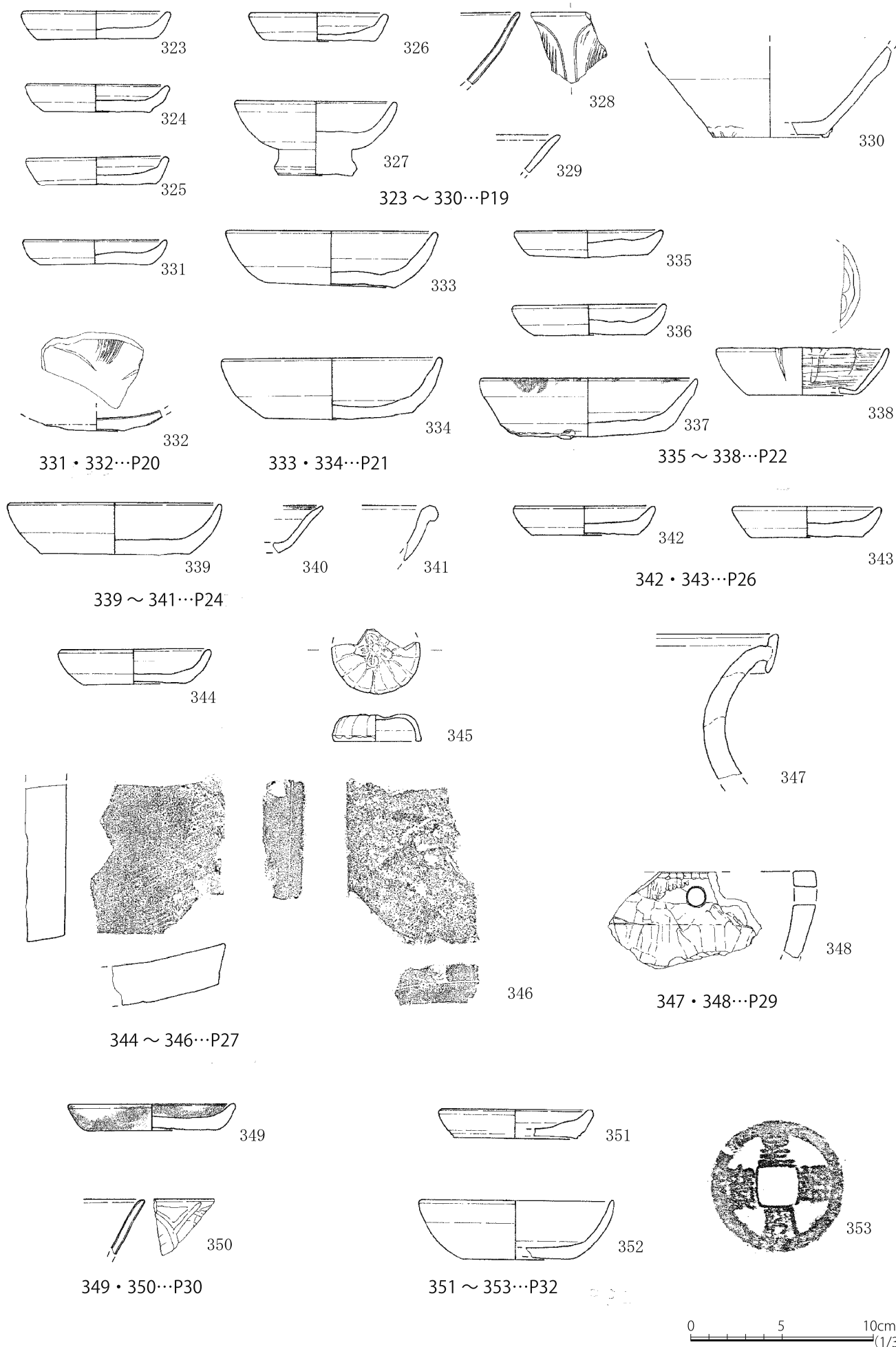


图 34 1 面遺構出土遺物 (15)

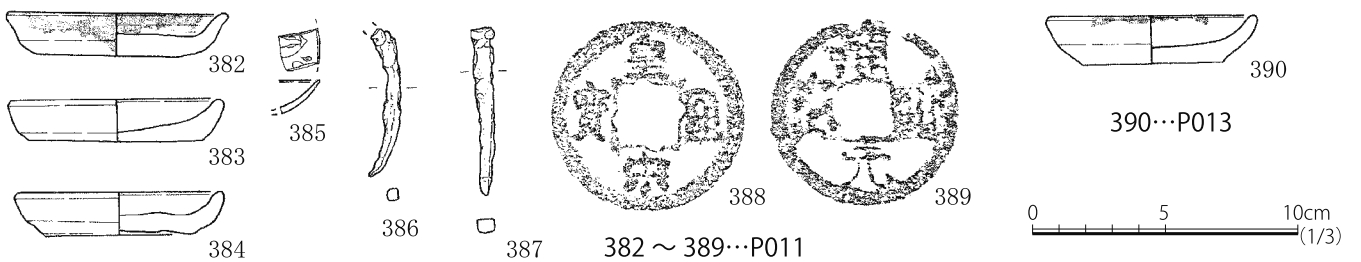
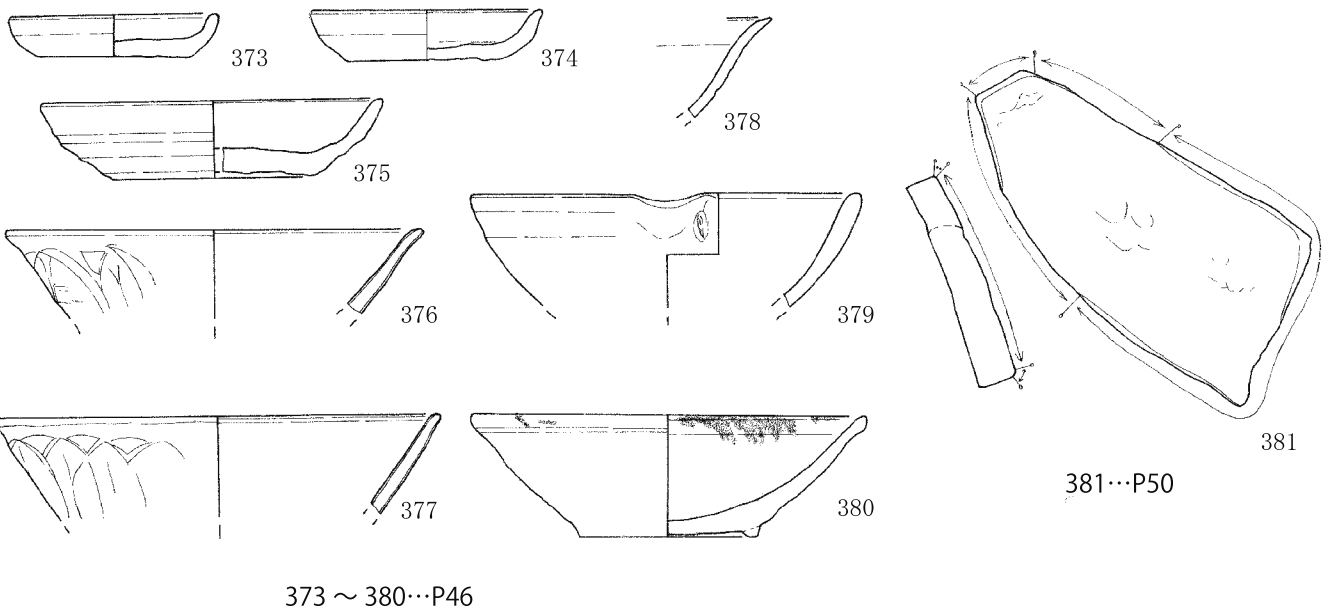
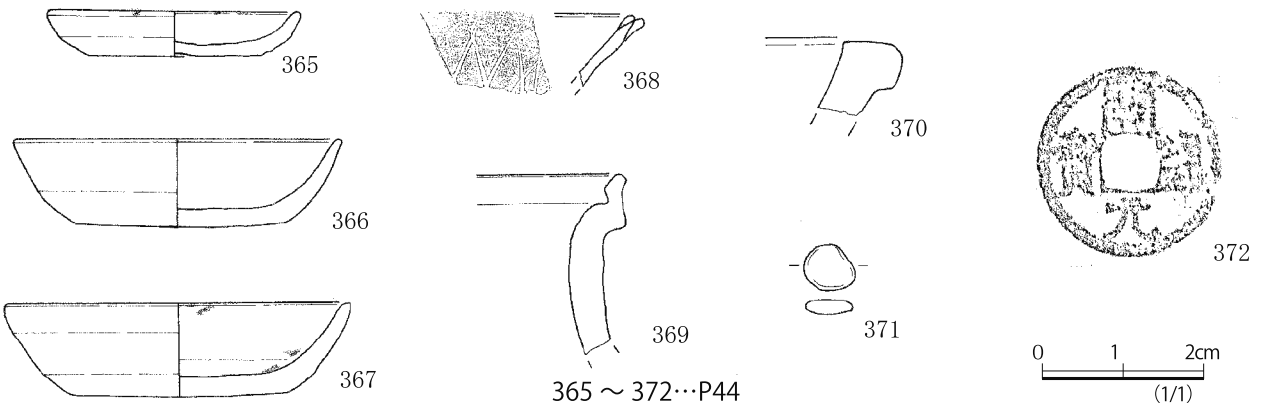
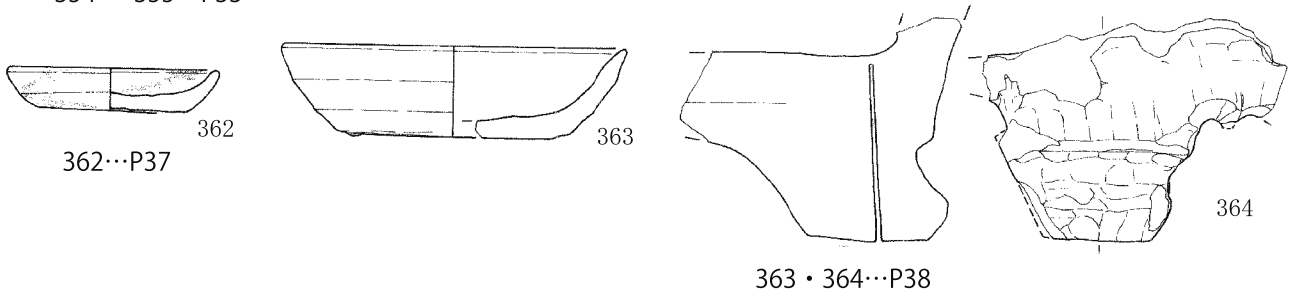
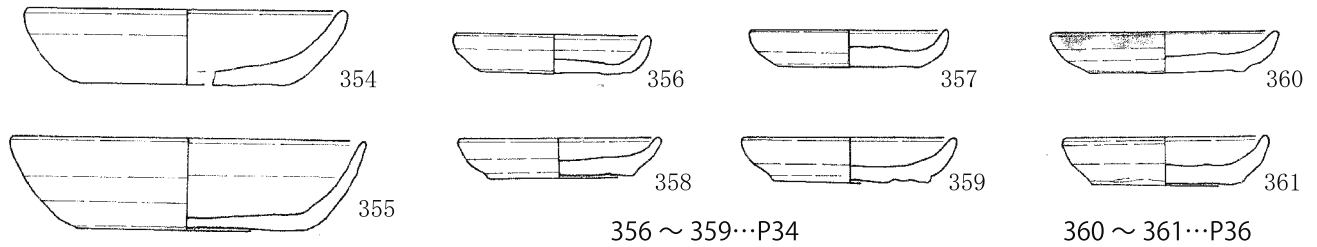


图 35 1 面遺構出土遺物 (16)



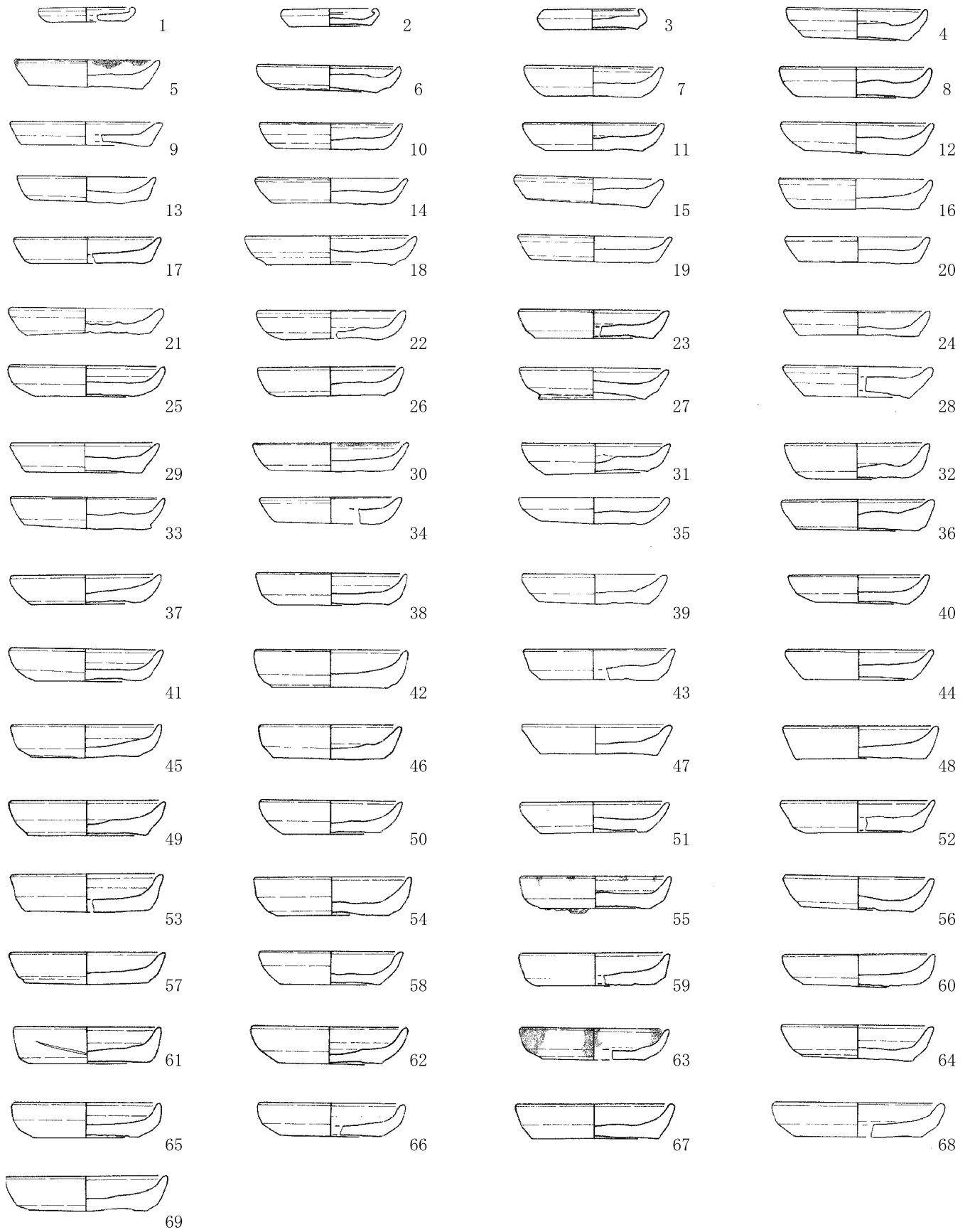


图 36 1 面下~2 面上出土遺物 (1)

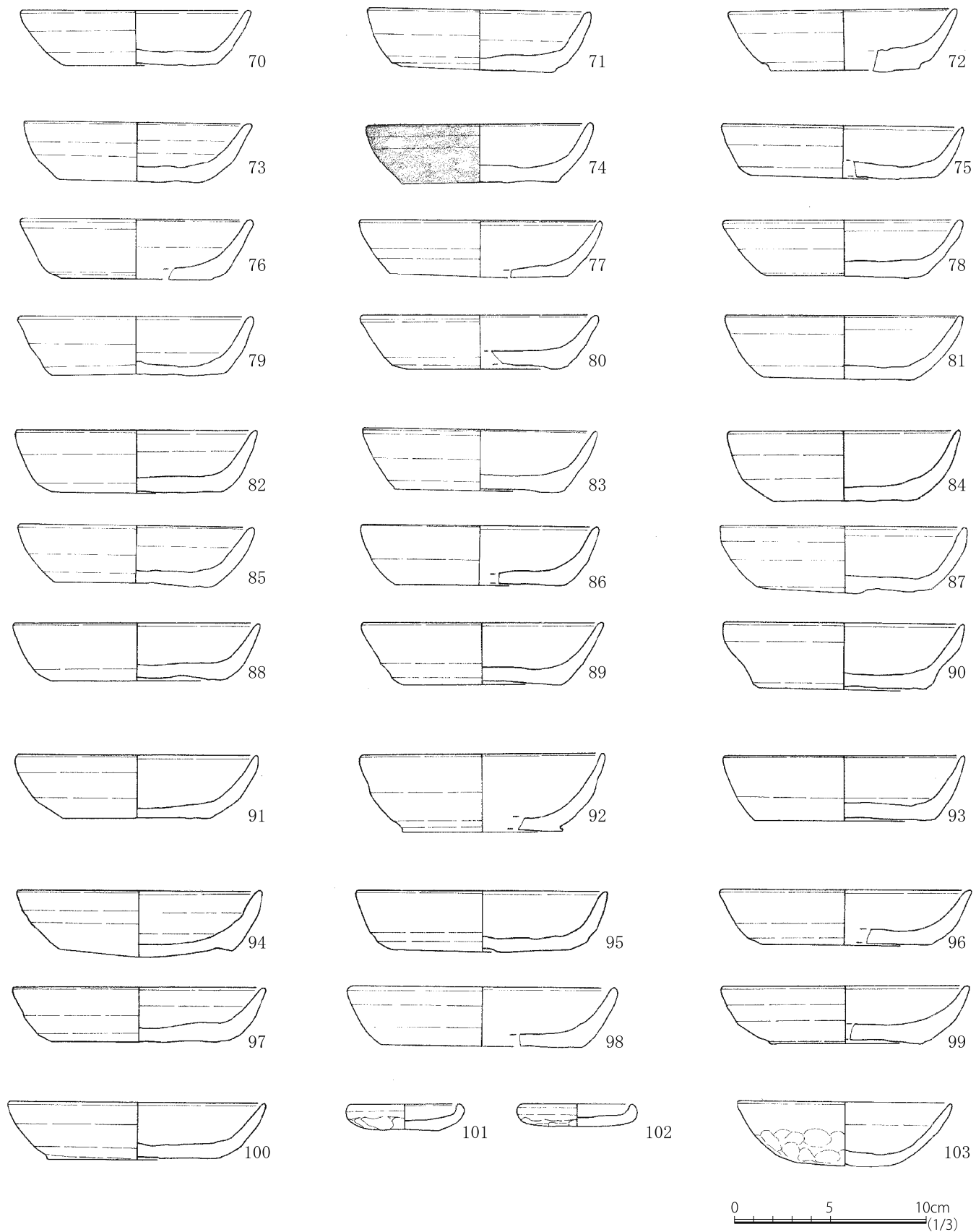


图 37 1 面下~ 2 面上出土遺物 (2)

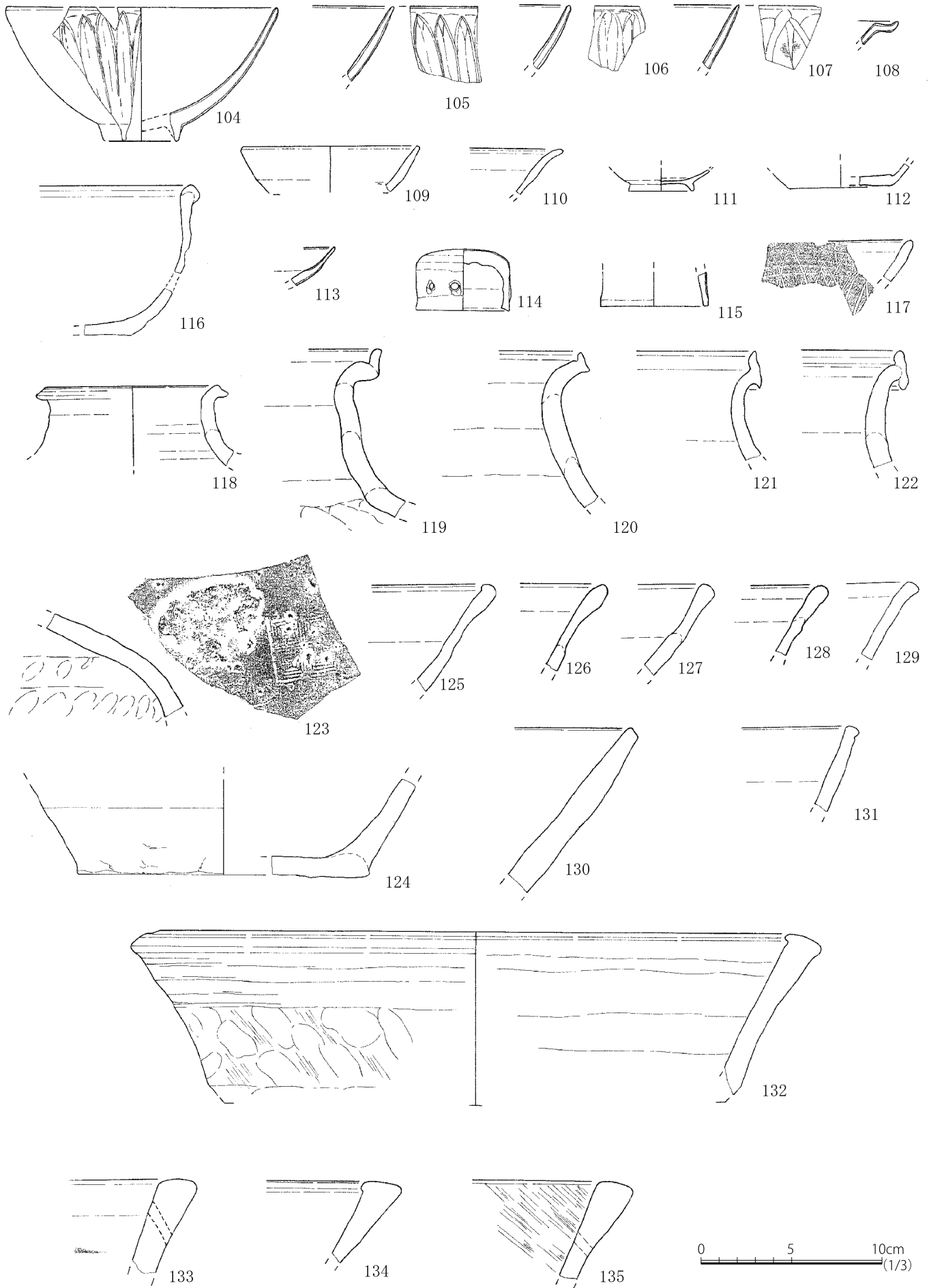


图 38 1 面下~2 面上出土遺物 (3)

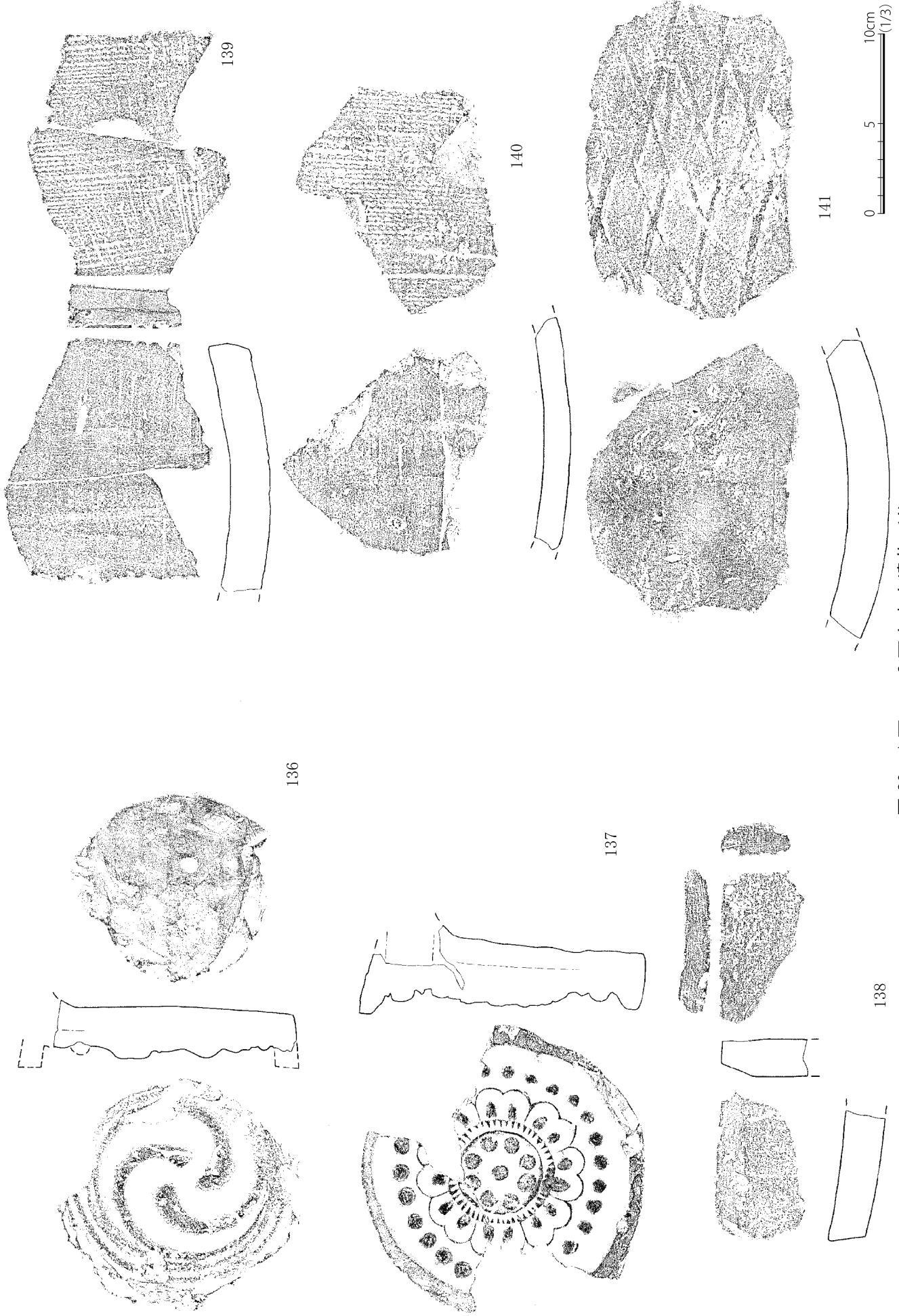


图 39 1 面下~2 面上出土遺物 (4)

### 第3節 2面上の遺物（図36～51、表4）

図36～40に1面下から2面まで掘り下げる際の出土遺物を、図41～51には2面直上の出土遺物を掲載した。

1面下のかわりはロクロ成形品が大部分を占め、手づくね成形品がごく僅かに含まれる。図37-103の手づくね大皿は身深で皿というより坏に近く、この種の資料では最末期の様相を呈している。ロクロ成形品には確実な中皿はなく、大皿・小皿ともに底広で低平な器形のもの为主体となる。舶載陶磁器は龍泉窯系青磁碗のⅡ・Ⅲ類や白磁碗・皿Ⅸ類、常滑甕は5～6a型式が占めている。瓦質火鉢類は河野Ⅰ類が占め、14世紀後半まで下る要素は見られない。瓦は永福寺Ⅰ期の所用品が多いがⅡ期の資料も認められる。かわらけを中心に見ると、手づくね成形品がほぼ消失する13世紀中葉～第3四半期頃の遺物構成といえるだろう。図38-117は口縁～体部の内面に山形放射状刻線を有する山茶碗で、前記の図35-368と同一個体であろう。

2面直上の出土かわらけもロクロ成形品が主体となるが、僅かながら手づくね成形品が増してくる。

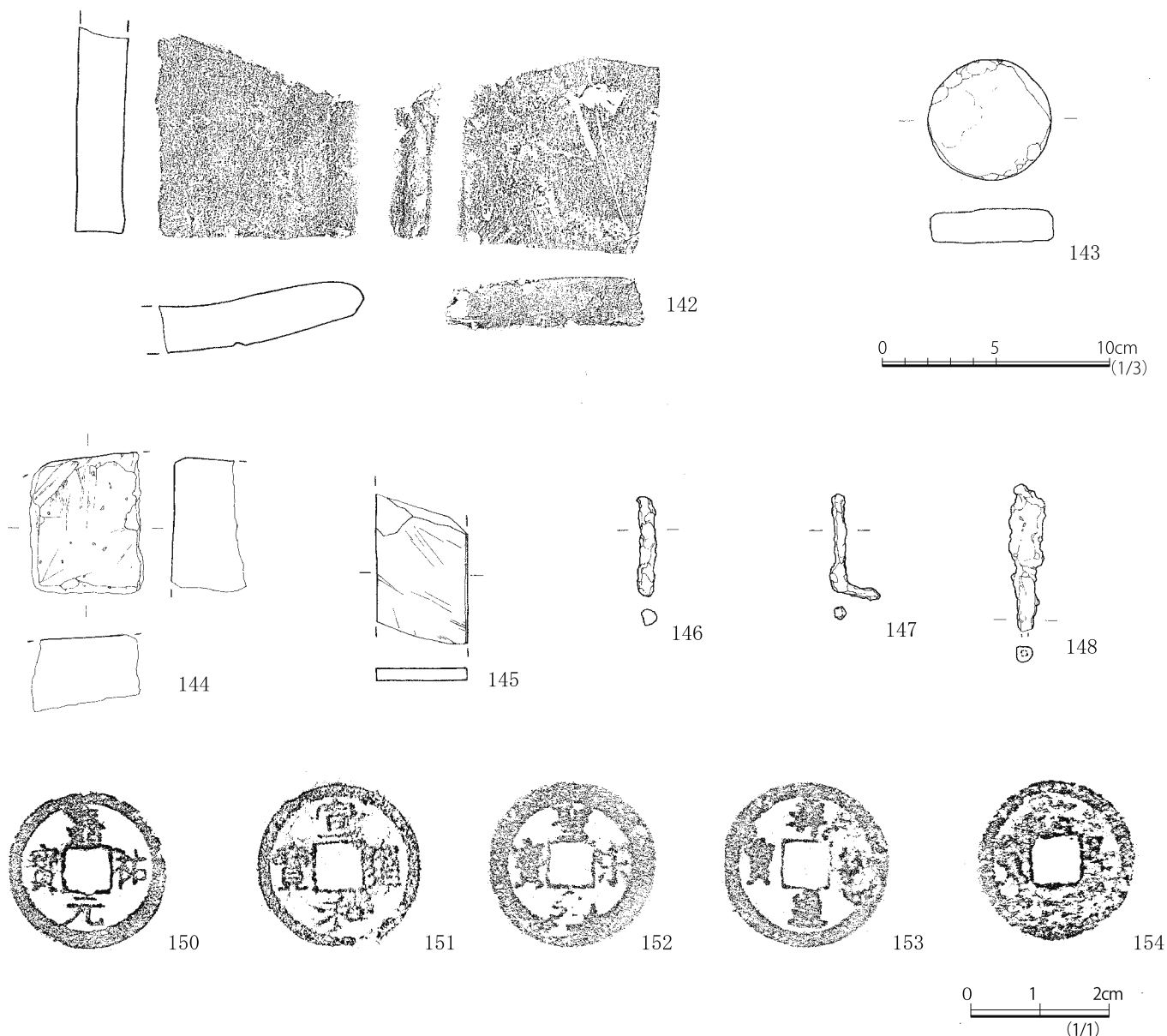


図40 1面下～2面上出土遺物（5）

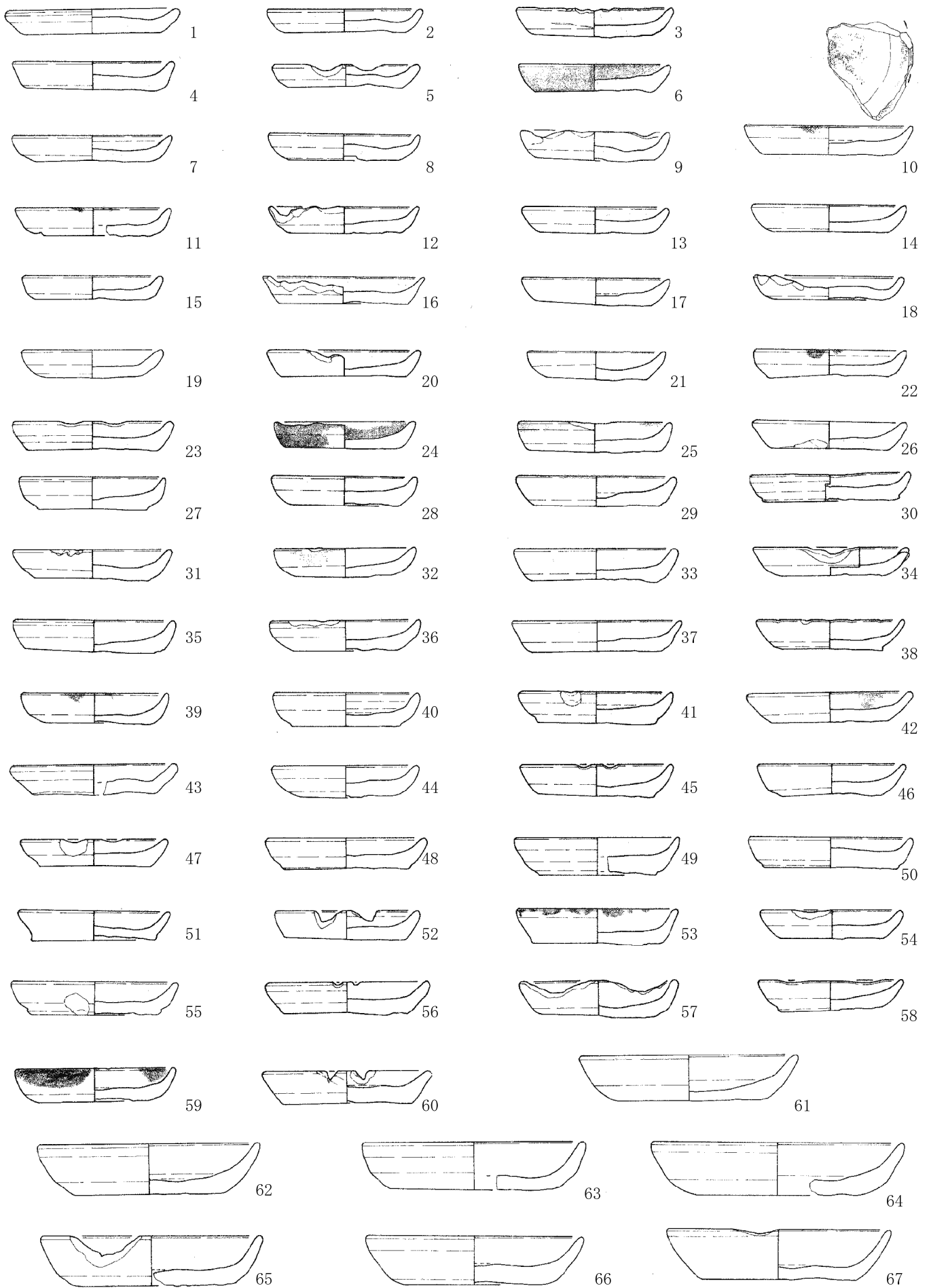


图 41 2 面直上出土遺物 (1)

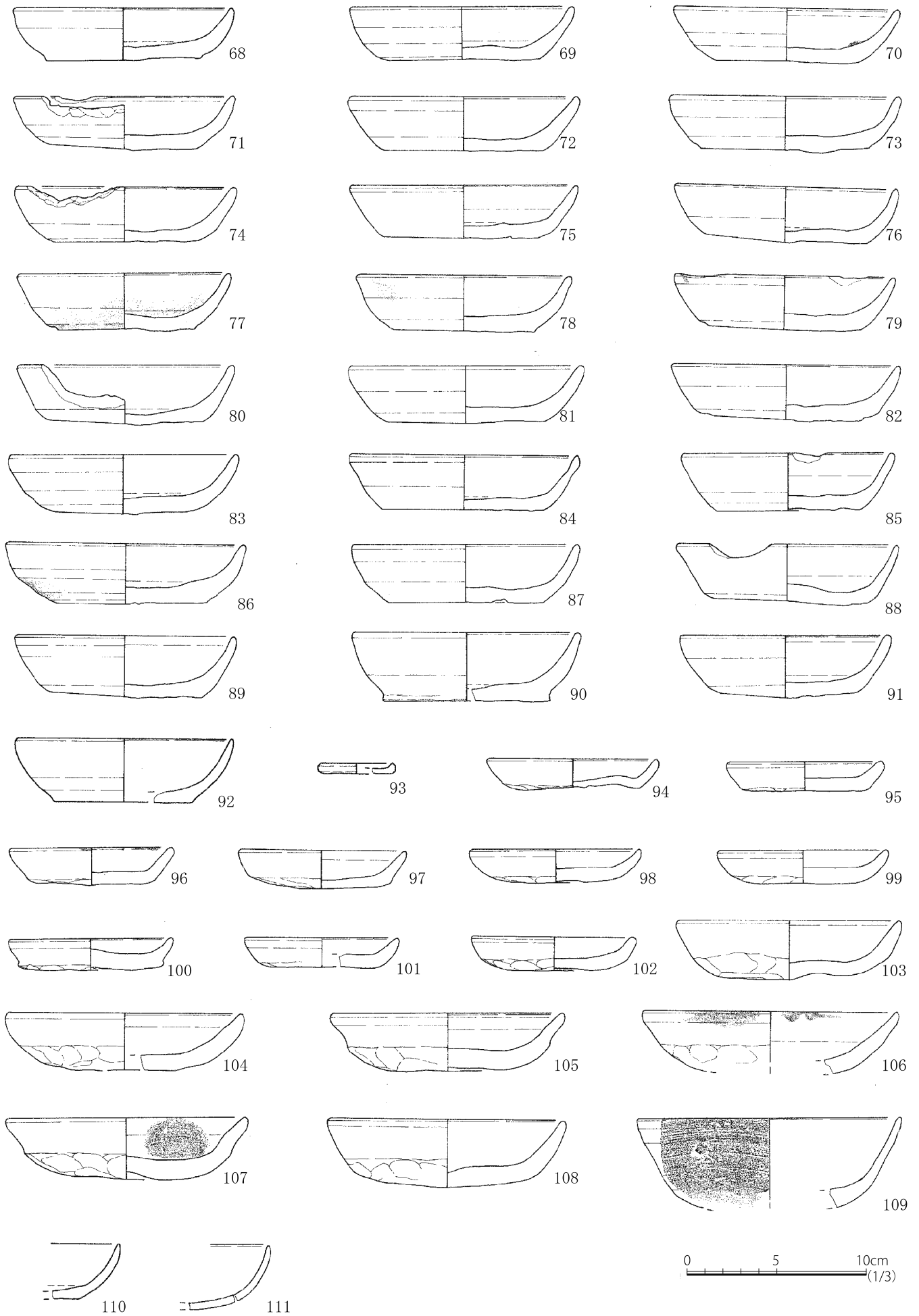


图 42 2 面直上出土遺物 (2)

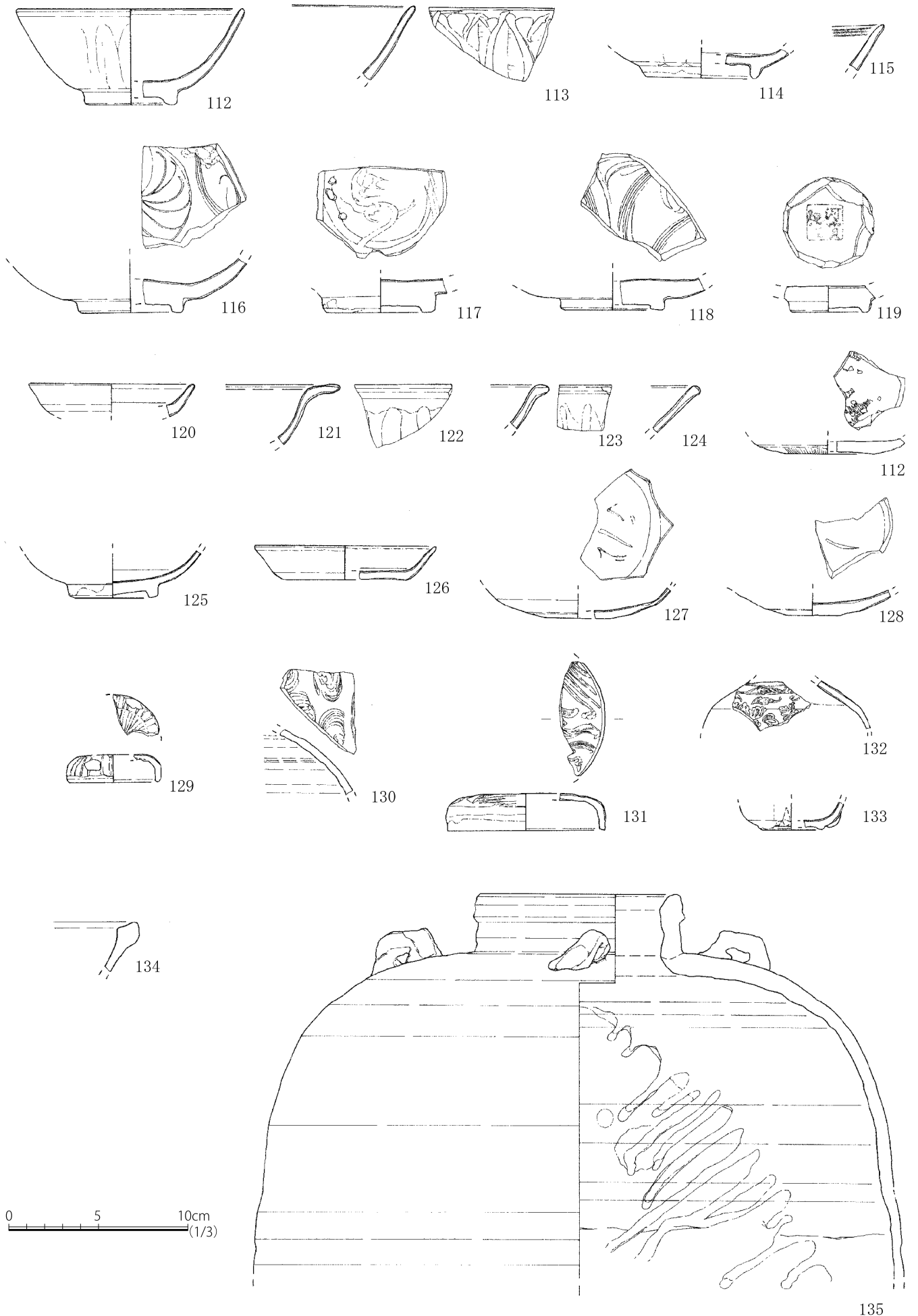


图 43 2 面直上出土遺物 (3)



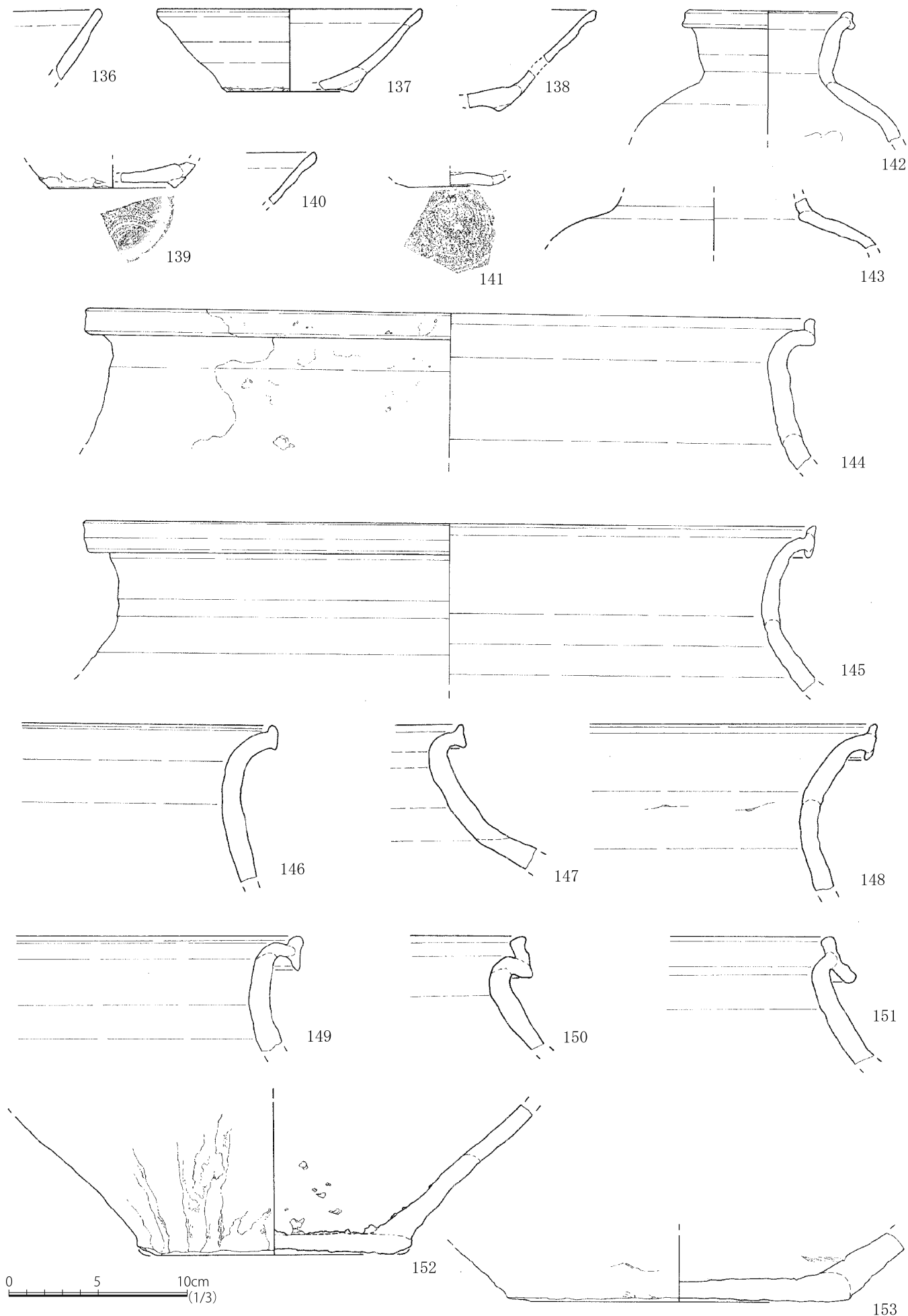


图 44 2 面直上出土遺物 (4)

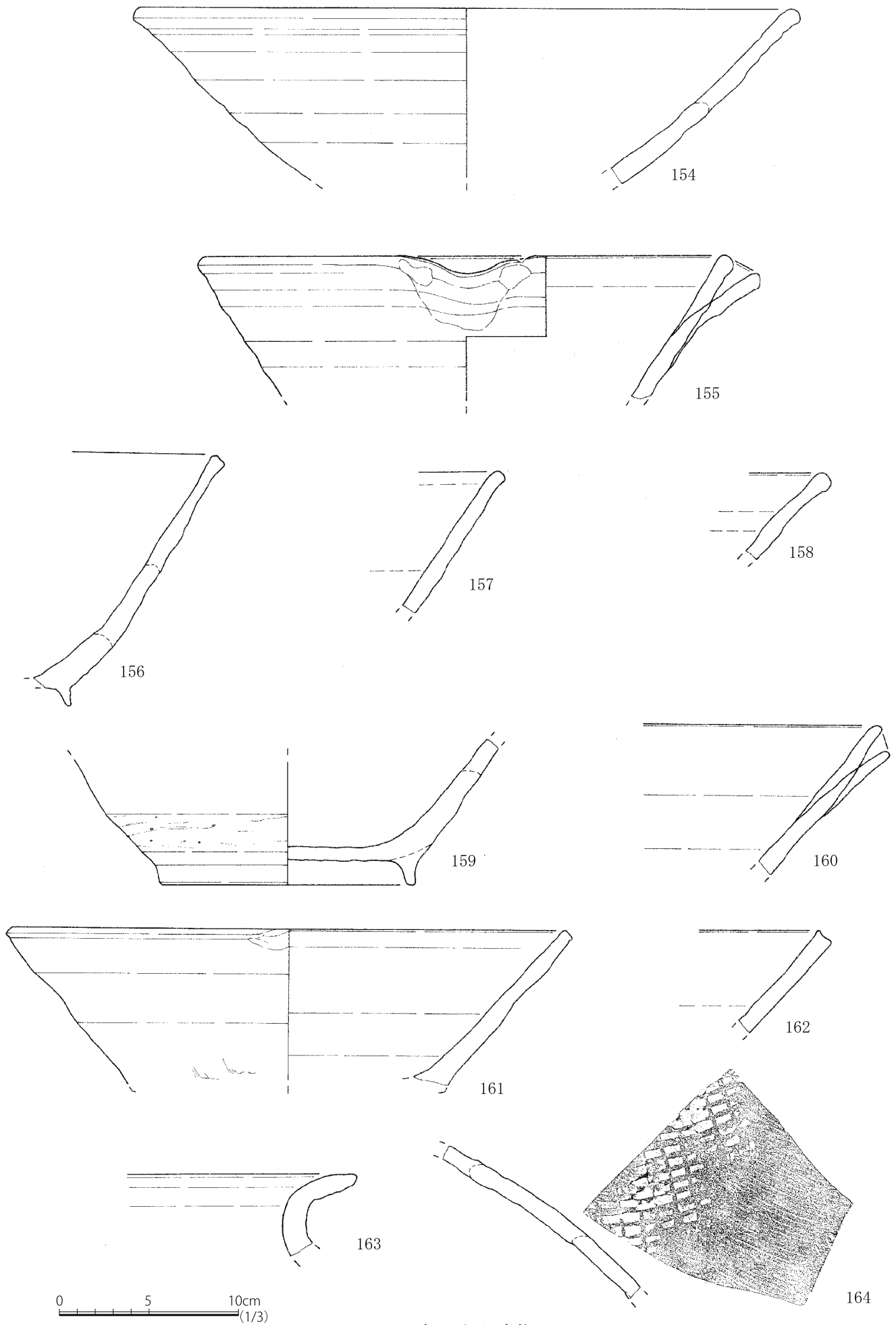


图 45 2 面直上出土遺物 (5)

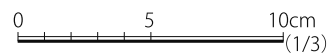
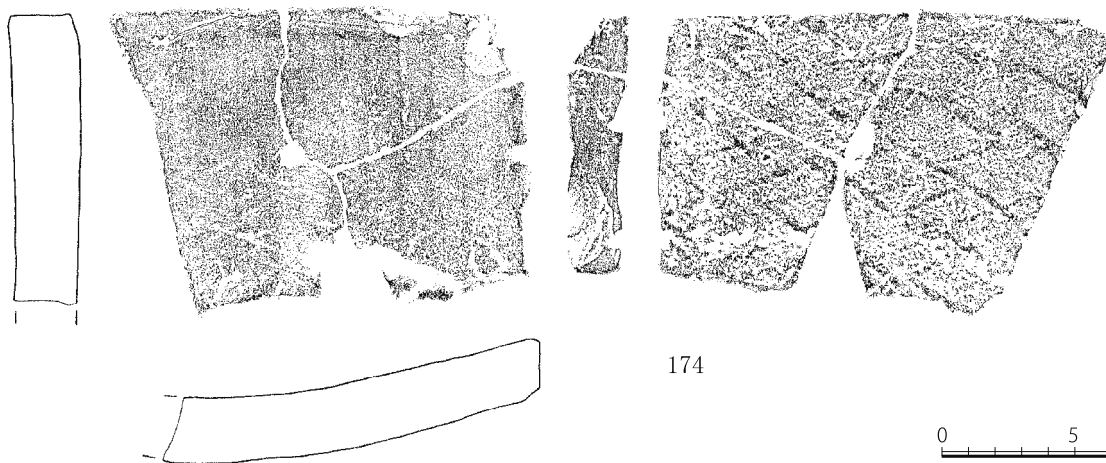
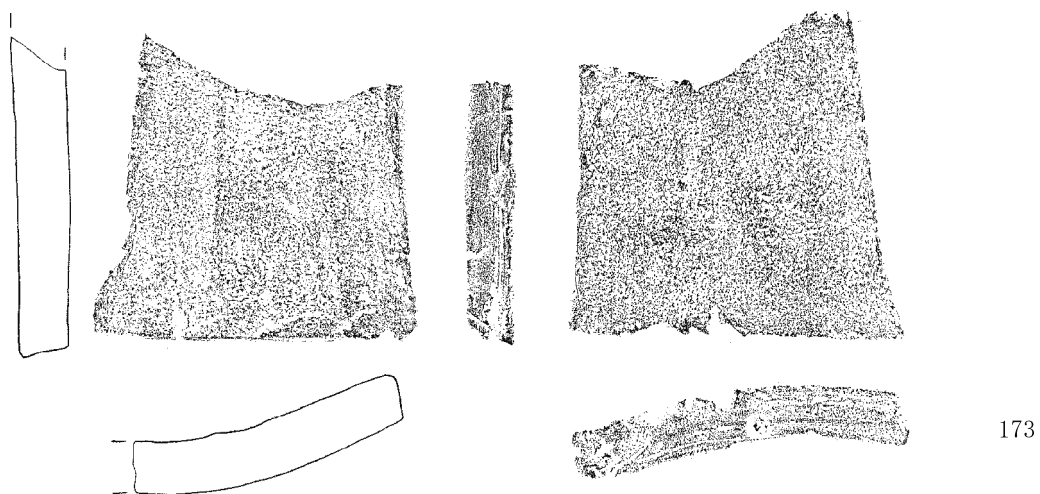
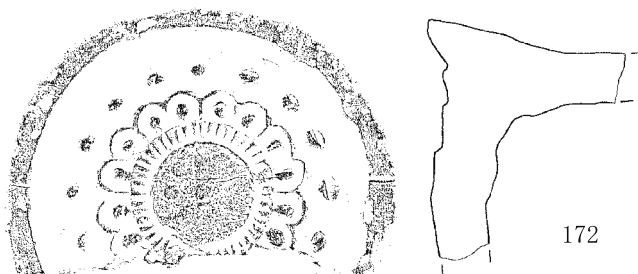
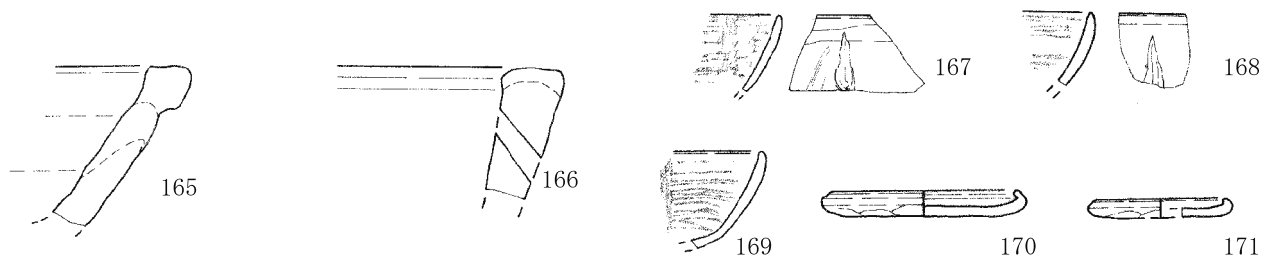


图 46 2 面直上出土遺物 (6)

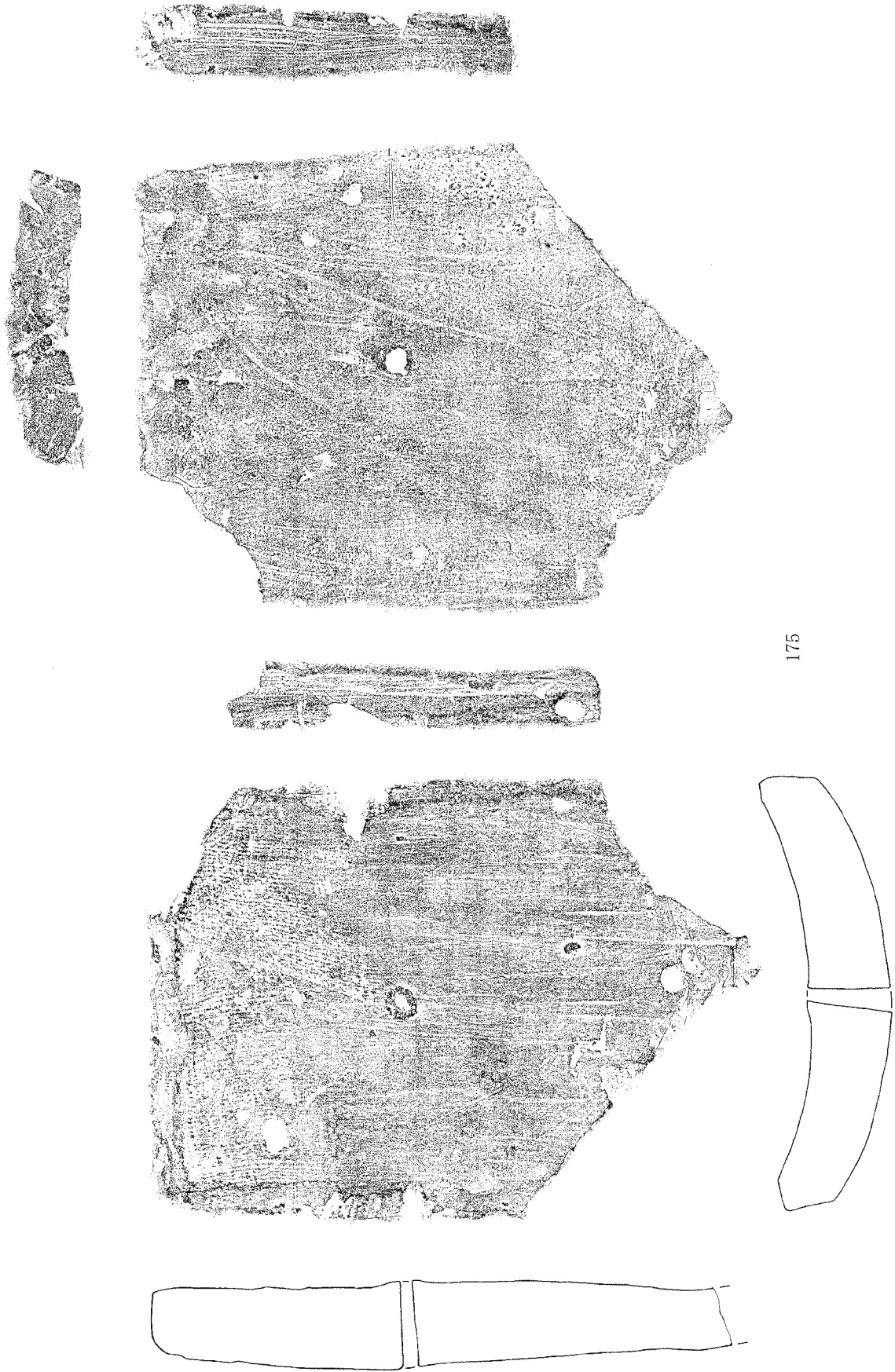
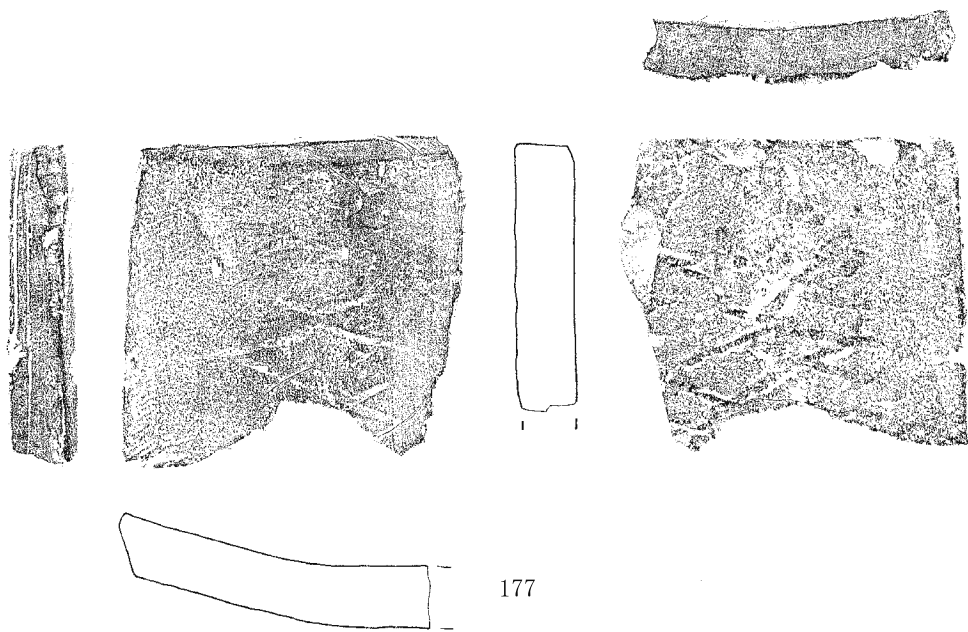


图 47 2 面直上出土遺物 (7)



0 5 10cm  
(1/3)

图 48 2 面直上出土遺物 (8)

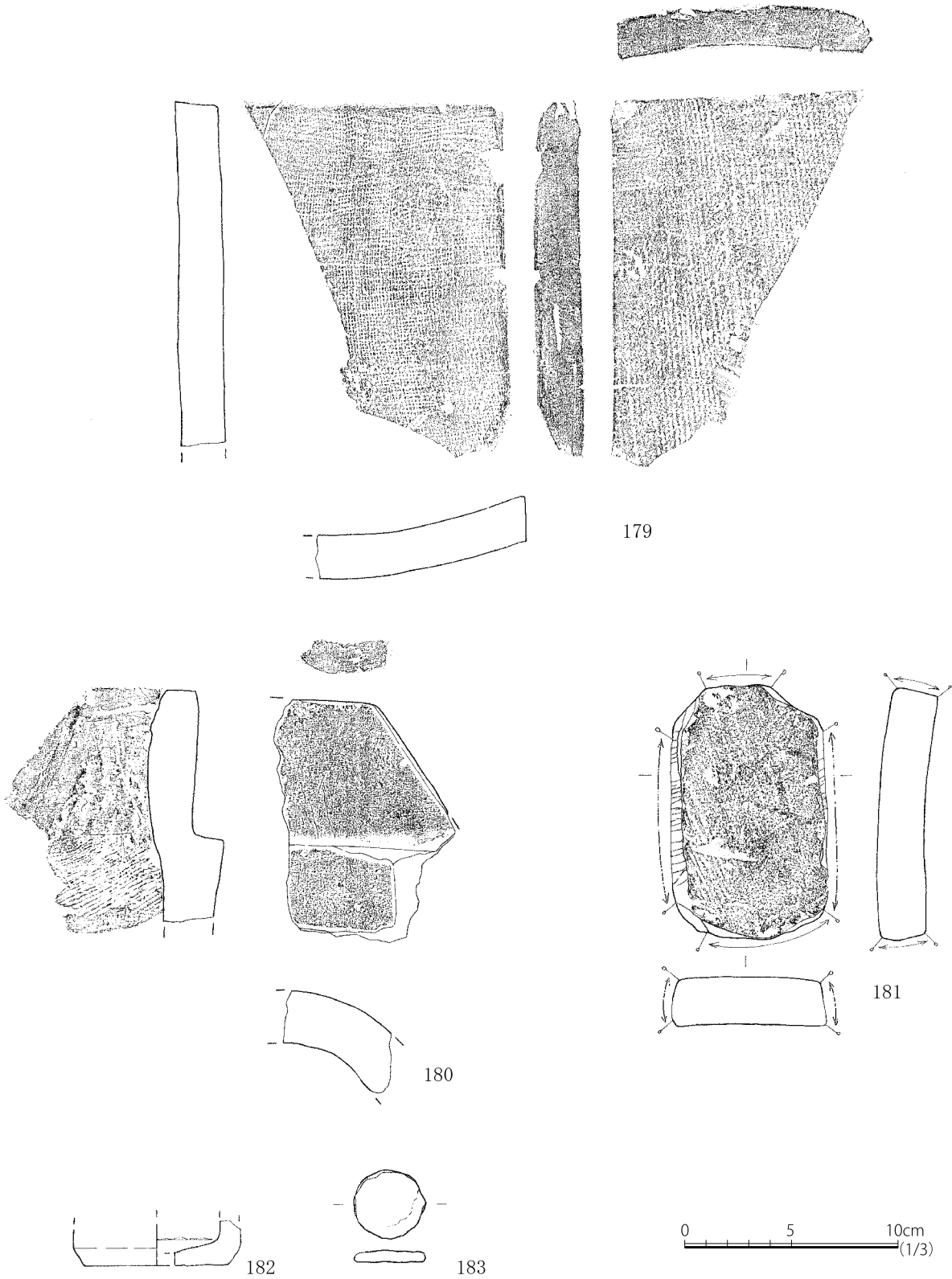


図 49 2面直上出土遺物 (9)

ロクロかわらけには中型品はなく、大皿・小皿とも底広で低平で同法量の手づくねかわらけと近似した器形を呈している。図 42-109 の手づくねかわらけは口径はさほど大きくないが、身深の碗形態を取るため特大品とした。船載品では龍泉窯系の青磁碗Ⅰ類が目立つようになるが、同坏Ⅲ類や白磁皿Ⅸ類もあり、新旧の要素が混在している。国産陶器類では尾張型山茶碗の5～6型式、常滑甕も5～6a型式が中心となる。瓦質火鉢Ⅰ類や永福寺Ⅱ期瓦の存在なども併せて見ると、13世紀中葉頃の遺物構成と見なせよう。

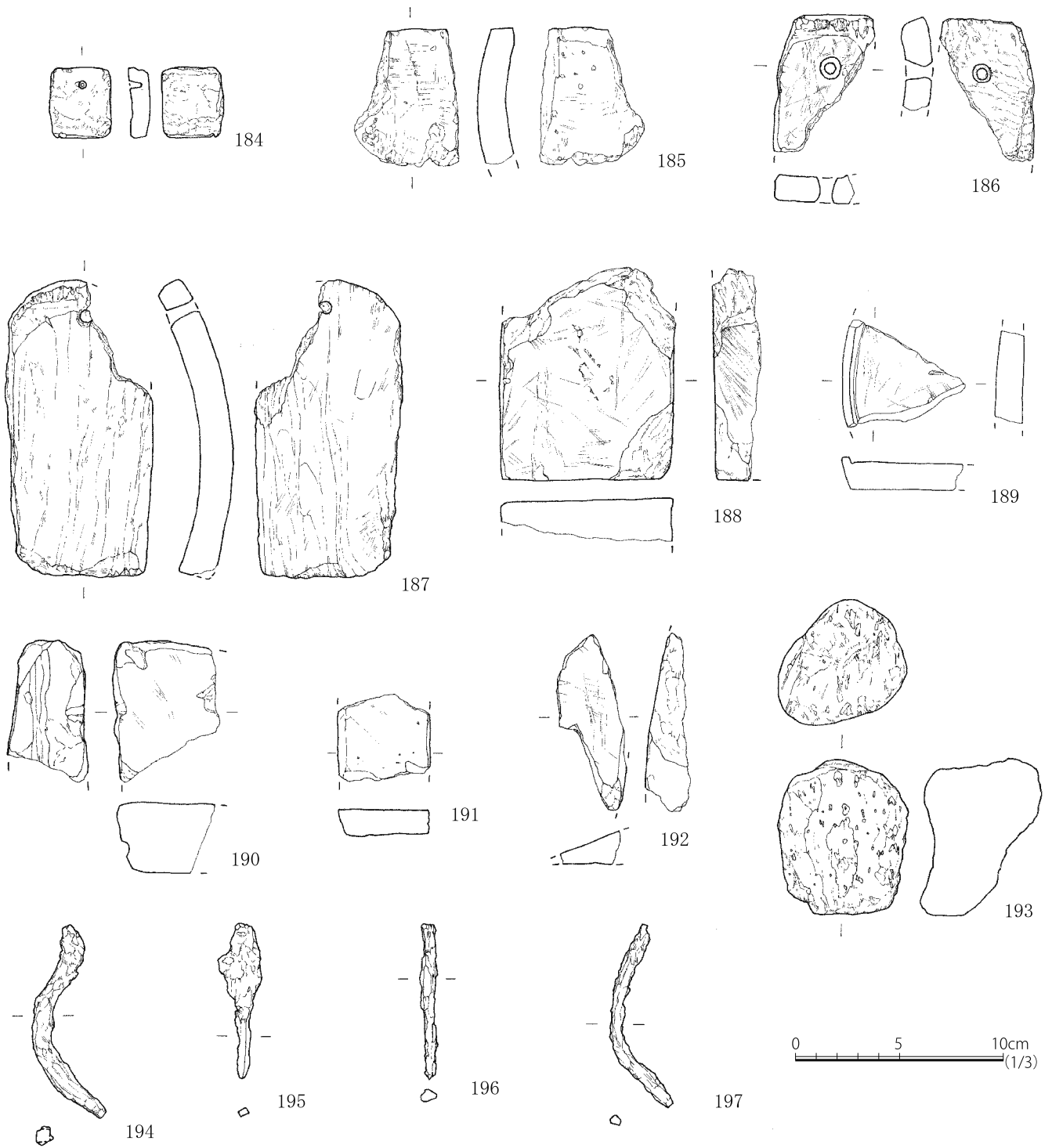


図50 2面直上出土遺物(10)

表4 1面下～2面上 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナラ	ナラ状	板状	スコ状		
図36 1面下～2面上出土遺物(1)												
1	土器	ロクロかわらけ・極小	(4.9)	(4.0)	0.8	1/3	○		○		橙	内折れ 白針
2	土器	ロクロかわらけ・極小	(4.9)	(4.4)	0.9	1/6以下	○				黄橙	内折れ 白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ナラ	板状	スコ状		
3	土器	ロクロ かわらけ・極小	5.2	4.8	1.0	2/3	○				黄橙	白針、砂質
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.4	1.6	完形	○				橙	白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.0	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部煤付着
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.2	1.4	3/4	○		○		黄灰	白針、砂質
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.0)	1.6	1/3	○		○		黄橙	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.1)	1.7	1/2	○		○		黄灰	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(7.0)	1.2	1/3	○		○		黄灰	白針
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.0)	1.4	1/3	○		○		黄灰	白針
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	5.3	1.5	1/3	○				黄橙	白針
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.7	2.1	4/5	○				黄灰	白針、砂質
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	6.3	1.3	完形	○		○		黄灰	白針 内面と底部外面に煤付着
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.4	1.3	4/5	○		○		黄灰	白針
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.4	1.4	2/3	○		○		橙	白針
16	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.6	1.6	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.4	1/3	○		○		黄灰	白針、やや粉質
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(7.0)	1.5	1/3	○		○		黄灰	白針
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.6)	1.4	1/3	○		○		黄灰	白針
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.2)	1.4	1/3	○		○		黄灰	白針
21	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.6	1.5	1/2	○		○		黄灰	白針
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.1)	1.5	1/4					黄灰	白針
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.3)	1.5	1/3	○		○		黄橙	白針
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.3	1.3	4/5	○		○		黄灰	白針
25	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(5.6)	1.6	1/3	○		○		橙	白針
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.7	1.5	3/4	○		○		黄橙	白針
27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.8	1.6	4/5	○		○		橙	白針、砂質
28	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.6)	1.6	1/3	○		○		黄灰	白針
29	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.3	1.5	完形	○				黄橙	白針
30	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.4	1.5	1/2	○		○		黄橙	白針 内外面に煤付着
31	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	2.1	完形	○		○		黄橙	白針
32	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.3	1.8	2/3	○		○		橙	白針
33	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.7	1.6	完形	○		○		黄橙	白針
34	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(6.0)	1.4	1/3	○		○		橙	白針
35	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.6	1.4	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
36	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.5	1.6	2/3	○				黄橙	白針、砂質
37	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.8	1.5	2/3	○				黄灰	白針、砂質
38	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.0)	1.7	1/3	○				橙	白針
39	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.9	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
40	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.6	2/3	○		○		橙	白針



遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	対ナリ状	板状	スコ状		
41	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.6	1.7	4/5	○				黄橙	白針
42	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.3)	2.0	1/3	○		○		黄橙	白針
43	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.4)	1.6	1/3	○		○		黄灰	白針
44	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.5	3/4	○				黄灰	白針
45	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	5.9	1.8	3/4	○		○		黄橙	白針、砂質
46	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.0	1.8	3/4	○		○		茶灰	白針 内面一部に煤付着
47	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.2	1.6	4/5	○				黄橙	白針、砂質
48	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.8	1.7	ほぼ完形	○				橙	白針、砂質
49	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	6.3	1.8	1/2	○				黄橙	白針
50	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.2	1.8	2/3	○		○		黄橙	白針
51	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.5	1.6	4/5	○		○		橙	白針、砂質
52	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(5.6)	1.7	1/2	○		○		黄橙	白針、砂質
53	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.6)	2.0	1/2	○				黄灰	白針、やや粉質
54	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	6.0	2.0	2/3	○		○		黄橙	白針、砂質
55	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	(7.8)	1.7	1/2	○		○		黄橙	白針、砂質 口唇部の一部に煤付着
56	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.8	完形	○		○		黄灰	白針
57	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.5)	1.8	1/4	○		○		黄灰	白針
58	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(5.3)	1.8	1/3	○		○		橙	白針
59	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.3)	1.8	1/2	○		○		黄灰	白針
60	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.2	1.7	完形	○		○		黄灰	白針
61	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.3)	1.9	1/3	○				黄灰	白針、砂質
62	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	5.5	1.9	1/2	○		○		黄灰	白針、砂質
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.3)	1.7	1/2	○				黄灰	白針 内外面の一部に煤付着
64	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.9	1.8	4/5	○		○		茶褐	白針
65	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	5.7	1.9	1/3	○		○		黄橙	白針
66	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.4)	1.7	1/3	○				橙	白針
67	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.8)	1.8	1/2	○		○		黄灰	白針
68	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(6.8)	1.8	1/3	○				黄橙	白針、砂質
69	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.4	1.9	4/5	○		○		黄灰	白針
図37 1面下～2面上出土遺物(2)												
70	土器	ロクロ かわらけ・大	12.0	8.1	2.8	ほぼ完形	○		○		橙	白針 内外面の一部に煤付着
71	土器	ロクロ かわらけ・大	11.5	8.1	3.2	2/3	○		○		黄灰	白針
72	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.9)	(7.8)	3.2	1/3	○		○		橙	白針 内外面の一部に煤付着
73	土器	ロクロ かわらけ・大	11.9	7.9	3.1	4/5	○		○		黄橙	白針
74	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(8.2)	3.0	2/3	○		○		黄灰	白針 外面全体が黒色に変色
75	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(7.5)	2.7	1/2	○		○		黄橙	白針
76	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.0)	3.1	1/3	○		○		黄灰	白針
77	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(9.4)	2.9	1/3	○		○		黄灰	白針

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ナラ	板状	スコ状		
78	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	8.0	3.0	3/4	○		○		黄灰	白針
79	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	9.2	3.0	4/5	○		○		橙	白針
80	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.3)	(9.3)	2.7	1/3	○		○		黄灰	白針
81	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	7.9	3.3	4/5	○		○		黄橙	白針 内面に煤付着
82	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.8)	3.3	1/2	○		○		黄橙	白針
83	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.8)	3.2	1/3	○		○		黄橙	白針
84	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	7.6	3.6	完形	○		○		黄橙	白針
85	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(8.5)	3.1	1/3	○		○		黄橙	白針
86	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.8)	3.1	1/2	○				橙	白針
87	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.5)	3.5	1/3	○		○		黄灰	白針
88	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.1)	3.0	3/4	○		○		淡橙	白針、やや粉質
89	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(8.2)	3.3	1/3	○		○		黄橙	白針、砂質
90	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	8.6	3.3	2/3	○		○		橙	白針
91	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	7.8	3.2	2/3	○		○		橙	白針
92	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(8.4)	4.0	1/3	○		○		黄橙	白針、砂質
93	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	9.8	3.3	4/5	○				黄橙	白針、やや粉質
94	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	8.9	3.4	4/5	○		○		橙	白針
95	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(9.0)	3.2	1/3	○		○		橙	白針
96	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(9.0)	2.8	1/2	○		○		黄橙	白針
97	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(9.3)	2.8	1/3	○		○		橙	白針
98	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(10.6)	3.1	1/3	○		○		黄橙	白針
99	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.0)	3.0	1/3弱	○				橙	白針
100	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	8.9	3.0	2/3	○		○		橙	白針
101	土器	手づくね かわらけ・極小	5.8	6.2	1.4	完形					黄灰	内折れ 白針
102	土器	手づくね かわらけ・極小	5.8	6.0	1.2	完形	○				黄灰	内折れ 白針
103	土器	手づくね かわらけ・大	11.2	9.7	3.3	4/5					黄橙	白針 口唇部に煤付着

図38 1面下～2面上出土遺物(3)

104	磁器	龍泉窯系青磁 鑄蓮弁文碗	(14.8)	(4.2)	7.3	1/8以下					灰緑 不透明	大宰府Ⅲ-2類
105	磁器	龍泉窯系青磁 鑄蓮弁文碗	—	—	[4.1]	口小片					灰緑 半透明	大宰府Ⅲ-2類
106	磁器	龍泉窯系青磁 鑄蓮弁文碗	—	—	[3.5]	口小片					灰青 不透明	大宰府Ⅲ類カ
107	磁器	龍泉窯系青磁 鑄蓮弁文碗	—	—	[3.5]	口小片					灰緑 半透明	大宰府Ⅱ類カ
108	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿	—	—	[1.4]	口小片					淡灰緑 不透明	大宰府坏Ⅲ類
109	磁器	白磁 口禿皿	(9.7)	—	[2.6]	口1/6					灰白 半透明	大宰府Ⅸ類
110	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.5]	口小片					灰白 透明	大宰府Ⅸ類
111	磁器	白磁 皿	—	(3.6)	[1.2]	底1/4					青味白 透明	大宰府Ⅸ類
112	磁器	白磁 口禿皿	—	(5.8)	[1.2]	底1/3					白 不透明	大宰府Ⅸ類
113	磁器	青白磁 皿	—	—	[2.1]	口小片					水青 透明	
114	磁器	青白磁 梅瓶蓋	5.2	天頂径 5.0	3.4	4/5					青灰 不透明	

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナテ状	板状	スコ状		
115	磁器	青白磁 梅瓶蓋	(5.9)	—	[1.9]	1/3					灰白 不透明	
116	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	—	口小～ 底片					緑黄	
117	陶器	尾張型 特殊山茶碗	—	—	[2.2]	口小片					灰橙	
118	陶器	常滑 壺	(9.7)	—	[4.3]	口1/6～ 胴片					暗茶褐	長石
119	陶器	常滑 甕	—	—	[9.2]	口小～ 胴片					灰黒	5型式 白色粒・黒色粒
120	陶器	常滑 甕	—	—	[8.6]	口小～ 胴片					暗茶褐	5型式 長石・黒色粒
121	陶器	常滑 壺	—	—	[5.9]	口小～ 胴片					灰～ 灰黒	5～6型式 長石
122	陶器	常滑 甕	—	—	[6.5]	口小～ 胴片					暗灰褐	6型式
123	陶器	常滑 甕	—	—	—	肩小片					灰茶褐	長石・黒色粒
124	陶器	常滑 甕	—	(16.0)	[5.3]	底1/4					灰褐	
125	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[5.9]	口小片					灰	長石
126	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.8]	口小片					灰	長石
127	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[5.0]	口小片					灰	長石
128	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[3.9]	口小片					灰	長石
129	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.2]	口小片					灰白	
130	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[9.0]	口小片					茶褐	長石・黒色粒
131	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[4.9]	口小片					灰褐	
132	瓦質土器	火鉢	(35.2)	—	[9.5]	口1/4～ 体片					茶灰～ 灰黒	
133	瓦質土器	火鉢	—	—	[5.2]	口小片					黄橙	胴部穿孔
134	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.4]	口小片					灰橙	
135	土器	火鉢	—	—	[5.4]	口小片					暗灰褐	黒色粒・赤色粒・白針

図39 1面下～2面上出土遺物(4)

136	瓦	軒丸瓦	瓦当径 (15.5)	内区径 (7.8)	—	瓦当部					薄灰黒	三巴文
137	瓦	軒丸瓦	瓦当径 15.5	内区径 9.5	中房径 5.8	瓦当部					灰黒	顎面幅3.0 外区幅3.3 八葉複弁蓮華文(永福寺Ⅰ期)
138	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	狭端面 片側辺					黒灰	河内・和泉系(極楽寺出土) 粉質
139	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	両端不明					灰	白色粒・黒色粒
140	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.4	不明					暗灰橙	永福寺Ⅰ期 A類
141	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	不明					灰黒	永福寺C類に類似

図40 1面下～2面上出土遺物(5)

142	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.4	狭端面 片側辺					灰黒	永福寺女瓦D類カ
143	土製品	円盤	径 5.5	—	厚さ 1.5	完形					黄灰	
144	石製品	砥石	長さ [6.2]	幅 [4.9]	厚さ 2.9	不明					灰黄	中砥 伊予産
145	石製品	砥石	長さ [6.6]	幅 5.1	厚さ 0.6	両端欠損					黄灰白	仕上げ砥(鳴滝)
146	鉄製品	釘	長さ 4.4	幅 0.6	厚さ 0.7	完形					—	
147	鉄製品	釘	長さ 5.9	幅 0.5	厚さ 0.5	完形					—	
148	鉄製品	釘	長さ [7.7]	幅 0.6	厚さ 0.6	下端欠損					—	
150	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.2	完形					—	嘉祐元寶 中国北宋代 1056年初鑄
151	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.2	完形					—	宣和通寶(行書) 中国北宋代 1119年初鑄
152	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.5	厚さ 0.1	完形					—	聖宋元寶(行書) 中国北宋代 1101年初鑄

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナラシ	板状	スコ状		
153	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	祥符通寶(行書) 中国北宋代 1008年初鑄
154	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形						紹聖元寶 中国北宋代 1094年初鑄
図41 2面直上出土遺物(1)												
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.4)	1.4	1/3	○				橙	白針
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(6.7)	1.3	口小～ 底3/4	○				橙	白針 口縁部打ち欠き
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	6.4	1.6	4/5	○		○		黄灰	白針 口縁部一部擦痕+切り込み痕
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.3	1.6	4/5	○		○		橙	白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.4	1.3	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針 口縁部一部打ち欠き
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.5	1.5	4/5	○		○		暗灰	白針 内外面全体に煤付着
7	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.1	1.4	3/4	○		○		黄灰	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.1)	1.5	口小～ 底3/4	○		○		橙	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.2)	1.7	1/2	○				黄橙	白針 口縁部打ち欠き
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(7.1)	1.6	1/6	○		○		黄橙	白針 口縁部黒色の付着物、内外面全体 に赤色の付着物
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(5.7)	1.6	1/2	○		○		橙	白針 口唇部に煤付着
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.2)	1.5	2/3	○		○		黄灰	白針 口縁部打ち欠き
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.2)	1.5	1/2	○		○		黄橙	白針
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.5	1.5	4/5	○				橙	白針
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.4	1.3	1/2	○		○		黄灰	白針 口唇部の一部に煤付着
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(7.2)	1.5	2/3	○		○		黄灰	白針 口縁部打ち欠き
17	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.4	1.5	2/3	○		○		黄橙	白針
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.0)	1.3	2/3	○		○		黄灰	白針 口縁部打ち欠き
19	土器	手づくね かわらけ・小	7.6	5.6	1.6	1/2	○				橙	白針
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(7.1)	1.5	1/2	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
21	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.6	1.6	2/3	○		○		黄橙	白針
22	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.5	1.6	2/3	○		○		黄灰	白針 口唇部に煤付着
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.3)	1.5	1/3	○		○		黄灰	白針 口縁部打ち欠き
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.6	1.5	1/2	○		○		黄灰	白針 打ち欠き 内外面に煤付着
25	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(7.4)	1.7	1/2	○		○		黄橙	白針 口縁部一部に擦痕 口縁部煤付着
26	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.5)	1.6	1/2	○				黄灰	白針
27	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	1.9	1/2	○		○		橙	白針
28	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.9)	1.6	4/5	○		○		黄橙	白針
29	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	6.9	1.7	ほぼ完形	○				橙	白針
30	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.2)	1.6	2/3	○		○		黄橙	白針 打ち欠き 内面中央部に浅い凹み(焼成前)
31	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.3	1.6	4/5	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
32	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.2	1.6	4/5	○		○		黄灰	白針 口縁部煤付着+擦痕
33	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.9	1.7	4/5	○		○		橙	白針
34	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	5.7	1.6	1/2	△		○		黄橙	白針 口縁部注口状
35	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.8)	1.8	1/2	○		○		黄灰	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	対テラ状	板状	スコ状		
37	土器	ロクロ かわらけ・小	9.3	7.2	1.7	3/4	○		○		黄灰	白針
38	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.5	1.6	4/5	○		○		橙	白針 口縁部に擦痕
39	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.8	1.7	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口唇部一部に煤付着
40	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.0)	1.9	1/2	○				橙	白針
41	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.5)	1.8	1/3	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
42	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	6.4	1.6	4/5	△		○		黄橙	白針 内外面一部に煤付着
43	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	(6.9)	1.7	1/3	○				黄灰	白針
44	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.2)	1.8	2/3	○		○		橙	白針 内面に煤付着
45	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.4	1.8	完形	△		○		橙	白針 口縁部打ち欠き
46	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.5	1.7	4/5	○		○		黄橙	白針
47	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.1	1.5	完形	○				黄灰	白針 口縁部打ち欠き
48	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	7.0	1.7	4/5	○		○		黄灰	白針
49	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(6.5)	2.1	1/2	○		○		黄橙	白針
50	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.4)	1.7	2/3	○		○		黄灰	白針
51	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.9	1.7	完形	○				黄橙	白針 口唇部一部に煤付着
52	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.8	1.6	完形	○		○		黄灰	白針 口縁部一部打ち欠き、煤付着
53	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.0	1.9	完形	○		○		黄灰	白針 口縁部に煤付着
54	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.5)	1.6	1/3	○		○		黄灰	白針 口縁部打ち欠き
55	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(7.0)	1.9	1/3	○		○		黄橙	白針
56	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.0	1.7	完形	○		○		橙	白針 口縁部打ち欠き
56	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.7)	1.7	1/2	○		○		黄灰	白針 口縁部一部に擦痕
57	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.1	2.1	3/4	○		○		橙	白針 全体の1/4を打ち欠く
58	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.6	1.7	ほぼ完形	○		○		橙	白針 口縁部に擦痕
59	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.2	1.9	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 内外煤付着 口縁部打ち欠き+切り込み痕
60	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.2)	1.9	2/3	○		○		黄灰	白針 口縁部一部打ち欠き 内外面黒色に変色
61	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.0)	2.5	1/3					橙	白針
62	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.3)	2.7	1/3	○		○		黄橙	白針 外面に煤付着
63	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(9.3)	2.7	1/3	○		○		橙	白針 口縁部一部に煤付着
64	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(8.9)	3.0	1/3	○		○		黄橙	白針
65	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	7.8	2.8	4/5	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
66	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.9)	(7.3)	2.7	1/3	○		○		黄橙	白針
67	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.3)	(8.5)	2.8	1/3	○				黄橙	白針 口縁部一部に擦痕
図42 2面直上出土遺物(2)												
68	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.7	2.9	ほぼ完形	○		○		橙	白針
69	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	8.8	2.9	ほぼ完形	○		○		橙	白針
70	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(8.0)	3.0	1/4	○		○		黄橙	白針 内面一部に煤付着
71	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.3	3.0	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
72	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	8.9	3.1	3/4	○				橙	白針

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	対テラ状	板状	スコ状		
73	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(9.5)	3.1	1/3	○		○		黄橙	白針
74	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.1	3.1	1/2	○				黄橙	白針 口縁部打ち欠き
75	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.7	3.0	4/5	○				黄橙	白針
76	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	9.0	3.1	4/5	○		○		橙	白針
77	土器	ロクロ かわらけ・大	11.8	7.7	3.1	完形	○		○		橙	白針 内外面に煤付着
78	土器	ロクロ かわらけ・大	11.6	8.0	3.1	完形	○		○		橙	白針 内外面一部に煤付着
79	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	8.5	3.0	完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き、煤付着
80	土器	ロクロ かわらけ・大	11.9	8.6	3.3	4/5	○		○		黄橙	白針 口縁打ち欠き
81	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.9	3.2	1/3	○		○		黄橙	白針
82	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.3	3.1	完形	○		○		橙	白針
83	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(7.9)	3.3	1/2	○		○		橙	白針
84	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	9.0	3.1	1/3	○				黄橙	白針
85	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.7)	(8.0)	3.2	1/2	○		○		黄橙	白針 口縁部一部つまみ出し
86	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	8.4	3.4	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
87	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(8.6)	3.2	1/3	○		○		橙	白針 内面黒色に変色
88	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	8.3	3.2	完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
89	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.4	3.4	ほぼ完形	△		○		黄橙	白針
90	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(9.3)	3.8	1/2	○		○		黄灰	白針
91	土器	ロクロ かわらけ・大	11.5	8.1	3.5	4/5	○				黄灰	白針
92	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(7.8)	3.6	口1/6					黄橙	搬入系
93	土器	白かわらけ 手づくね・極小	(4.0)	—	0.6	口1/4					黄白	内折れ
94	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	1.8	ほぼ完形	○				黄灰	白針
95	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	—	1.7	1/4	○				黄橙	白針 底部外面に煤付着
96	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	2.1	完形	○				黄灰	白針 口縁部に煤付着
97	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	2.1	4/5	○				黄橙	白針
98	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.9	2/3	○				橙	白針
99	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.9	1/4	○				黄橙	白針
100	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	—	1.8	1/2	○				黄橙	白針
101	土器	手づくね かわらけ・小	(8.3)	—	1.7	1/3	○				橙	白針
102	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	1.9	1/4	○				黄橙	白針
103	土器	手づくね かわらけ・大	12.3	—	3.3	ほぼ完形	○				黄橙	白針
104	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	—	3.2	1/3	○				黄灰	白針 底部内面中央に煤付着
105	土器	手づくね かわらけ・大	12.8	—	3.2	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
106	土器	手づくね かわらけ・大	(14.1)	—	[3.4]	1/3	○				黄灰	白針 口縁部に黒色の付着物
107	土器	手づくね かわらけ・大	13.2	—	3.5	4/5	○				橙	白針 底部外面に煤付着
108	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	3.8	1/3	○				黄灰	白針
109	土器	手づくね かわらけ・特大	(14.6)	—	[5.0]	1/6					黄灰	内外煤付着 体部外面下部ヨコミガキ
110	土器	ロクロ 白かわらけ・大	—	—	[3.1]	口小～ 底小	○				黄白	

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ*	サテラ状	板状	スコ状		
111	土器	手づくね 白かわらけ・大	—	—	[3.5]	口小～ 底小					黄白	
図43 2面直上出土遺物(3)												
112	磁器	龍泉窯系青磁 鑄蓮弁文碗	(12.7)	(5.0)	[5.3]	底小 1/4					灰青 半透明	大宰府Ⅱ類 非接合片から図上復元
113	磁器	龍泉窯系青磁 鑄蓮弁文碗	—	—	[4.1]	口小片					緑灰 透明	大宰府Ⅱ類
114	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿	—	(6.2)	[1.7]	底1/4					灰 透明	大宰府Ⅲ類
115	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.6]	口小片					青灰 透明	大宰府Ⅰ類
116	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	(5.6)	[3.0]	底1/2					灰 透明	大宰府Ⅰ-3類
117	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	5.8	[1.8]	底2/3					灰青 透明	大宰府Ⅰ類
118	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	(5.4)	[1.8]	底1/2					灰緑 半透明	大宰府Ⅰ-3類
119	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	(4.2)	[1.5]	底完存					青灰 半透明	大宰府Ⅱ-d類 底部内面に「河濱遺範」の印文
120	磁器	龍泉窯系青磁 皿	(9.2)	—	[1.8]	口1/8					灰 透明	大宰府Ⅰ類カ
121	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿	—	—	[3.4]	口小片					灰緑 不透明	大宰府ⅢorⅣ類の相似形 二次焼成を受ける
122	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿	—	—	[2.4]	口小片					灰青 不透明	外面に蓮弁文カ
123	磁器	龍泉窯系青磁 折腰皿	—	—	[2.6]	口小片					灰青 半透明	大宰府Ⅲ-1類カ
124	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文皿	—	(5.0)	[0.9]	底1/4					灰 透明	大宰府Ⅰ類
125	磁器	白磁 口禿碗	—	4.0	[2.5]	体片～ 底完存					青白 透明	大宰府Ⅸ類
126	磁器	白磁 口禿皿	(10.1)	(7.0)	1.9	口小～ 底1/4					灰白 不透明	大宰府Ⅸ類
127	磁器	白磁 皿	—	(3.6)	[1.7]	底2/3					青白 透明	
128	磁器	白磁 皿	—	(3.0)	[1.5]	底1/4					青白 透明	
129	磁器	青白磁 合子蓋	(4.9)	天頂径 (4.1)	1.5	1/4					緑灰 透明	
130	磁器	青白磁 梅瓶	—	—	—	体片					灰青 透明	
131	磁器	青白磁 合子蓋	(8.8)	天頂径 (8.6)	2.0	1/4					水 透明	
132	磁器	青白磁 壺類	—	—	—	体片					青白灰 透明	
133	磁器	青白磁 小壺カ	—	(3.3)	[1.5]	底1/4					水 透明	または合子身カ 二次焼成を受ける
134	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	[2.8]	口小片					黄灰	
135	陶器	褐釉四耳壺	(11.0)	—	[21.5]	口3/4 ～肩部					茶褐	長石
図44 2面直上出土遺物(4)												
136	陶器	南部系 山茶碗	—	—	[3.9]	口小片					灰	瀬美・湖西型カ 長石
137	陶器	尾張型 山茶碗	(14.6)	(7.0)	5.6	口小～ 底2/3					灰	長石
138	陶器	尾張型 山茶碗	—	—	[5.6]	口小～ 底片					灰	長石
139	陶器	南部系 山茶碗	—	(7.0)	[0.9]	底1/4					灰	瀬美・湖西型カ 長石
140	陶器	尾張型 山茶碗	—	—	[2.9]	口小片					灰	長石
141	陶器	尾張型 小皿	—	(4.7)	[0.6]	底1/4					灰	長石
142	陶器	常滑 壺	(9.0)	—	[7.3]	口1/4～ 胴片					暗灰	長石
143	陶器	常滑 壺	—	—	[2.8]	胴片					暗茶褐	長石
144	陶器	常滑 壺	(40.4)	—	[8.5]	口1/6～ 胴片					灰緑～ 黒褐	5型式 長石
145	陶器	常滑 壺	(40.4)	—	[9.2]	口1/4～ 胴片					暗褐～ 灰褐	5～6型式 長石
146	陶器	常滑 壺	—	—	[8.7]	口小～ 胴片					灰緑	5型式 長石
147	陶器	常滑 壺	—	—	[8.0]	口小～ 胴片					褐	5型式 長石

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	対ラ状	板状	スコ状		
148	陶器	常滑甕	—	—	[9.3]	口小～胴片					灰	6型式長石
149	陶器	常滑甕	—	—	[6.4]	口小～胴片					緑灰～暗緑	6型式長石
150	陶器	常滑甕	—	—	[5.8]	口小～胴片					茶褐	5～6型式長石
151	陶器	常滑甕	—	—	[7.0]	口小～胴片					褐	6型式長石
152	陶器	常滑甕	—	(14.5)	[8.3]	底1/3					茶褐	長石
153	陶器	常滑甕	—	(19.2)	[4.0]	底1/3					灰橙	長石
図45 2面直上出土遺物(5)												
154	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(36.5)	—	[9.7]	口1/4					灰	長石 内面使用により摩耗
155	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(30.0)	—	[8.0]	口1/4					灰	長石 内面使用により摩耗
156	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[14.1]	口小～底小片					灰	長石 口縁部に煤付着
157	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[7.8]	口小片					灰	長石
158	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.8]	口小片					灰	長石 内面使用により摩耗
159	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	14.0	[8.1]	体片～底完存					灰	長石 内面使用により摩耗
160	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[8.3]	口小片					茶褐	長石
161	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	(32.8)	—	[8.6]	口小～底1/6					灰～暗灰	長石
162	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.7]	口小片					灰褐	長石
163	陶器	瀬美甕	—	—	[4.6]	口小片					暗灰	
164	陶器	常滑甕	—	—	—	体片					暗灰	長石
図46 2面直上出土遺物(6)												
165	土器	火鉢	—	—	[6.0]	口小片					灰白	河野Ⅱ類(C類)
166	土器	火鉢	—	—	[5.0]	口小片					灰橙	黒色粒
167	瓦器	坏	—	—	[2.9]	口小片					灰	輪花形 白色粒
168	瓦器	碗	—	—	[2.7]	口小片					灰	輪花形 白色粒
169	瓦器	碗	—	—	[3.6]	口小片					灰	輪花形 白色粒
170	瓦器	手づくね内折れ皿	(6.9)	—	1.0	1/6					灰	白色粒
171	瓦器	手づくね内折れ皿	(4.9)	—	0.7	1/4					灰	白色粒
172	瓦	軒丸瓦	瓦当径 14.4	内区径 8.1	中房径 3.7	瓦当部					黒灰	蓮華文 外区幅3.2
173	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	広端面 片側辺					黒灰	壬生寺系 黒色粒・白色粒
174	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.7	狭端面 片側辺					灰	永福寺Cord類 白色粒
図47 2面直上出土遺物(7)												
175	瓦	平瓦	長さ [27.9]	幅 21.0	厚さ 3.8	狭端面 両側辺					黄橙	中央に釘穴
図48 2面直上出土遺物(8)												
176	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.9	狭端面 片側辺					黒灰	永福寺女瓦A類 白色粒
177	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.4	狭端面 片側辺					灰	白色粒
178	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.5	不明					赤褐	永福寺女瓦F類 長石
図49 2面直上出土遺物(9)												
179	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.2	狭端面 片側辺					灰	永福寺女瓦A類 白色粒
180	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.5	玉縁～筒部					黄橙	白色粒
181	瓦	平瓦転用品 用途不明	長さ 11.9	幅 7.2	厚さ 2.3	不明					灰	側面を削り整形
182	土器	壺	—	(6.7)	[2.1]	1/3					黄橙	



遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	ナヲ状	板状	スコ状		
183	土製品	かわらけ転用 円盤	直径 3.2	—	厚さ 0.5	完形					黄橙	白針
図50 2面直上出土遺物(10)												
184	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ 3.4	幅 3.0	厚さ 0.9	ほぼ完形					灰橙	加工途中カ
185	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ [6.5]	横 [5.0]	厚さ 1.4	不明					灰	温石カ 加工途中
186	石製品	滑石鍋転用品 温石	長さ [6.7]	幅 [4.1]	厚さ 1.3	一部欠損					暗黒灰	
187	石製品	滑石鍋転用品 温石	長さ 14.2	幅 7.0	厚さ 1.6	一部欠損					灰	
188	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ [10.2]	幅 8.4	厚さ [2.0]	不明					黒灰	温石カ 加工途中
189	石製品	硯	長さ [5.2]	幅 [5.9]	厚さ 1.4	不明					灰褐	中国北部産 玄武岩質
190	石製品	砥石	長さ [6.7]	幅 [5.1]	厚さ 3.3	一部残存					灰褐	荒砥
191	石製品	砥石	長さ [4.0]	幅 4.5	厚さ 1.3	両端欠損					黄灰	中砥
192	石製品	砥石	長さ [8.5]	幅 [3.0]	厚さ 1.5	一部残存					灰	仕上げ砥
193	石製品	軽石 加工品	長径 7.5	短径 6.3	厚さ 5.7	不明					黄灰	全体に研磨痕
194	鉄製品	釘	長さ 10.7	幅 0.7	厚さ 0.6	完形					—	
195	鉄製品	釘	長さ 7.4	幅 0.5	厚さ 0.3	完形					—	
196	鉄製品	釘	長さ 7.4	幅 0.8	厚さ 0.5	完形					—	
197	鉄製品	釘	長さ 9.8	幅 0.6	厚さ 0.5	完形					—	
図51 2面直上出土遺物(11)												
198	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	元豊通寶(篆書) 中国北宋代 1078年初鑄
199	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	皇宋通寶(篆書) 中国北宋代1038年初鑄
200	銅製品	銭	直径 2.6	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	祥符通寶(真書) 中国北宋代 1009年初鑄
201	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	嘉祐元寶(行書) 中国北宋代 1056年初鑄
202	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	淳熙元寶(行書) 中国南宋代 1174年
203	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	景德元寶(行書) 中国北宋代 1004年初鑄
204	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	天聖元寶(篆書) 中国北宋代 1023年初鑄
205	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	開元通寶(行書) 中国唐代 621年初鑄
206	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	元祐通寶(行書) 中国北宋代 1086年初鑄
207	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	聖宋元寶(篆書) 中国北宋代 1101年初鑄
208	銅製品	銭	直径 2.6	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	政和通寶(篆書) 中国北宋代 1111年初鑄
209	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	宋通元寶 中国北宋代 960年初鑄
210	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	嘉祐通寶(篆書) 中国北宋代 1056年初鑄
211	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	天口通寶(行書)
212	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形 二枚重ね					—	聖宋元寶 中国北宋代 1101年初鑄
213	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	景德元寶(行書) 中国北宋代 1004年初鑄
214	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	景德元寶(行書) 中国北宋代 1004年初鑄
215	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	元□□□ 判読不明
216	銅製品	銭	直径 2.6	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	□□元寶 (行書)判読不明

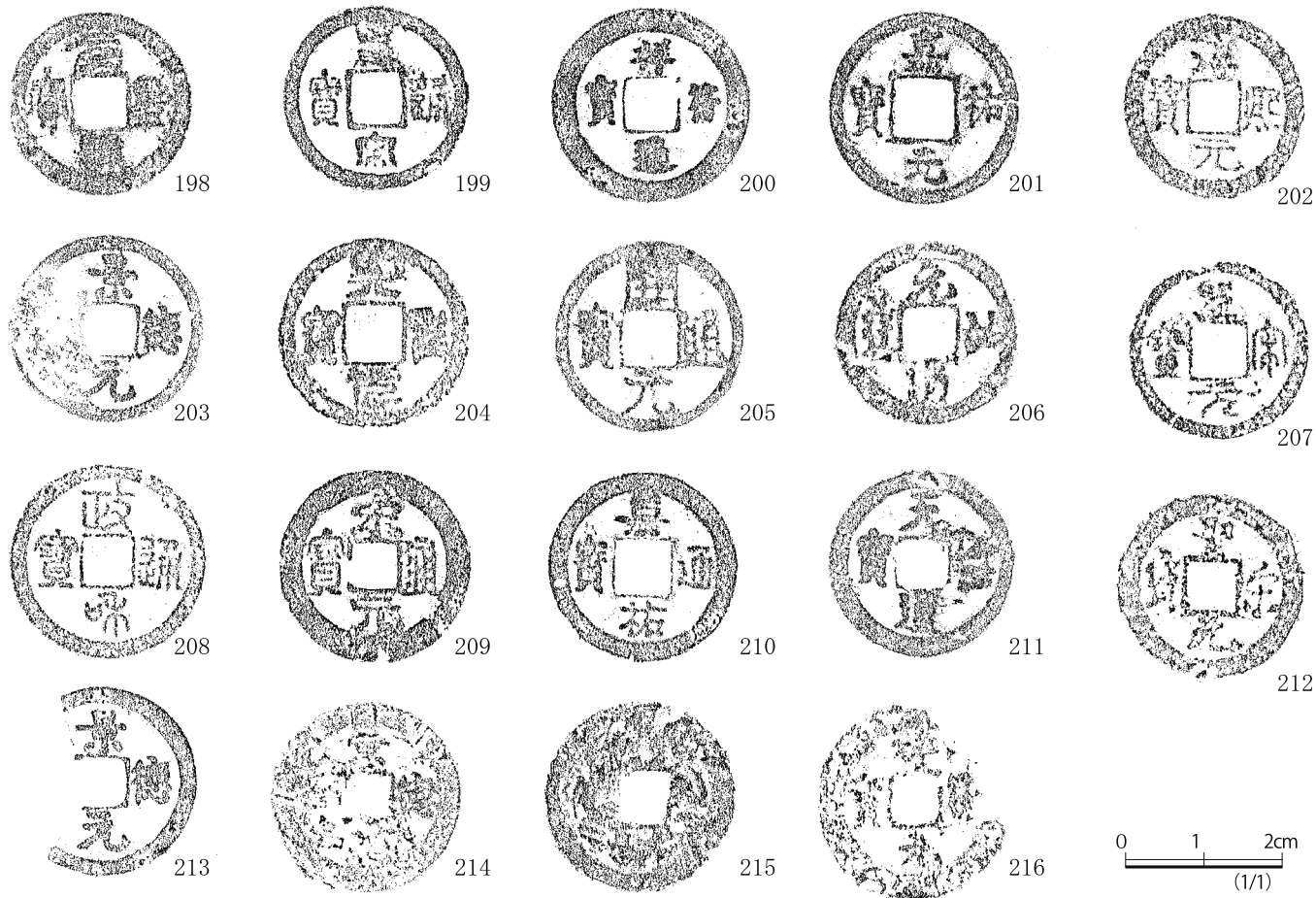


図 51 2面直上出土遺物 (11)

#### 第4節 2面の遺構と遺物

##### 2面の検出遺構 (図 52 ~ 58)

2面は標高 11.8 ~ 11.9 m 前後で検出された。地点 I では土坑・ピット多数の他、南北に延びる溝状遺構が検出された。ピットは多数が重複して確認されたものの柱並びの復元には至らなかった。溝 1 は北端は確認できたが南側は調査区外に続き、6 m 以上の長さをもつことが確認された。上幅は 100 cm、底面幅は 60 ~ 70 cm を測る。底面は平坦で横断面は矩形~逆台形に近い。確認面からの深さは最大で 40 cm を測り、底面標高は 11.5 ~ 11.7 m で南側が深い (図 54)。

地点 II では 1 面と同じ位置で南北に延びる道路状遺構が検出され、東西両辺では小規模な側溝も検出された。N18° E で延び、やはり現行の荏柄天神社参道と概ね同方向である。路面幅は 3.8 m で、調査範囲の中では 5.8 m の長さまで確認できた。西側溝の溝 01 は上幅 50 cm、底面幅 35 cm を測り、断面形が U 字形を呈する。東側溝の溝 02 は東肩が調査区外に位置するため、正確な幅員は確認できなかった。ともに路面から 20 ~ 40 cm の深さを有し、底面標高は 11.7 ~ 11.9 m 前後を測り南側が僅かに低い。

その他、2面検出の土坑については、図 56 ~ 58 を参照されたい。

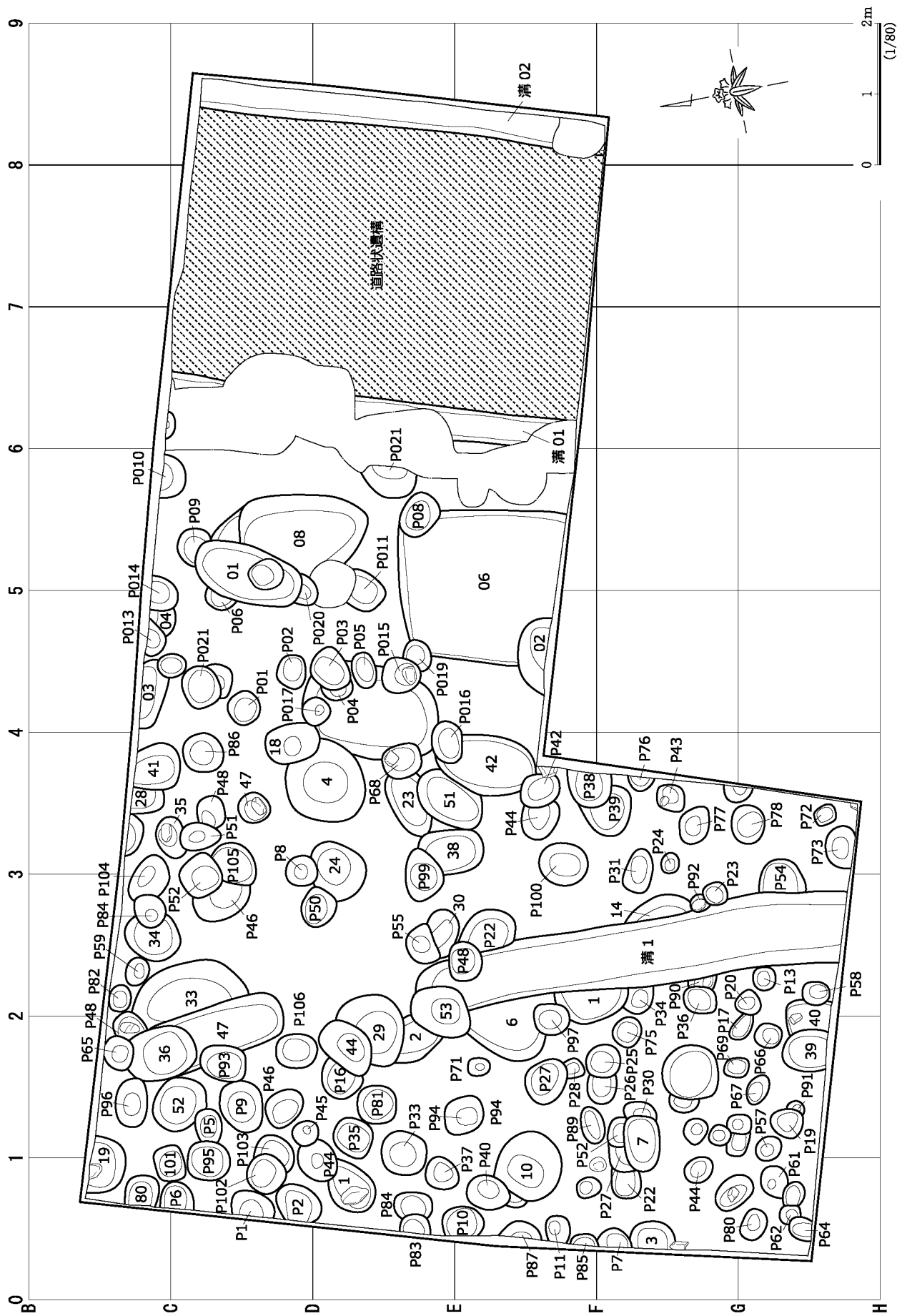
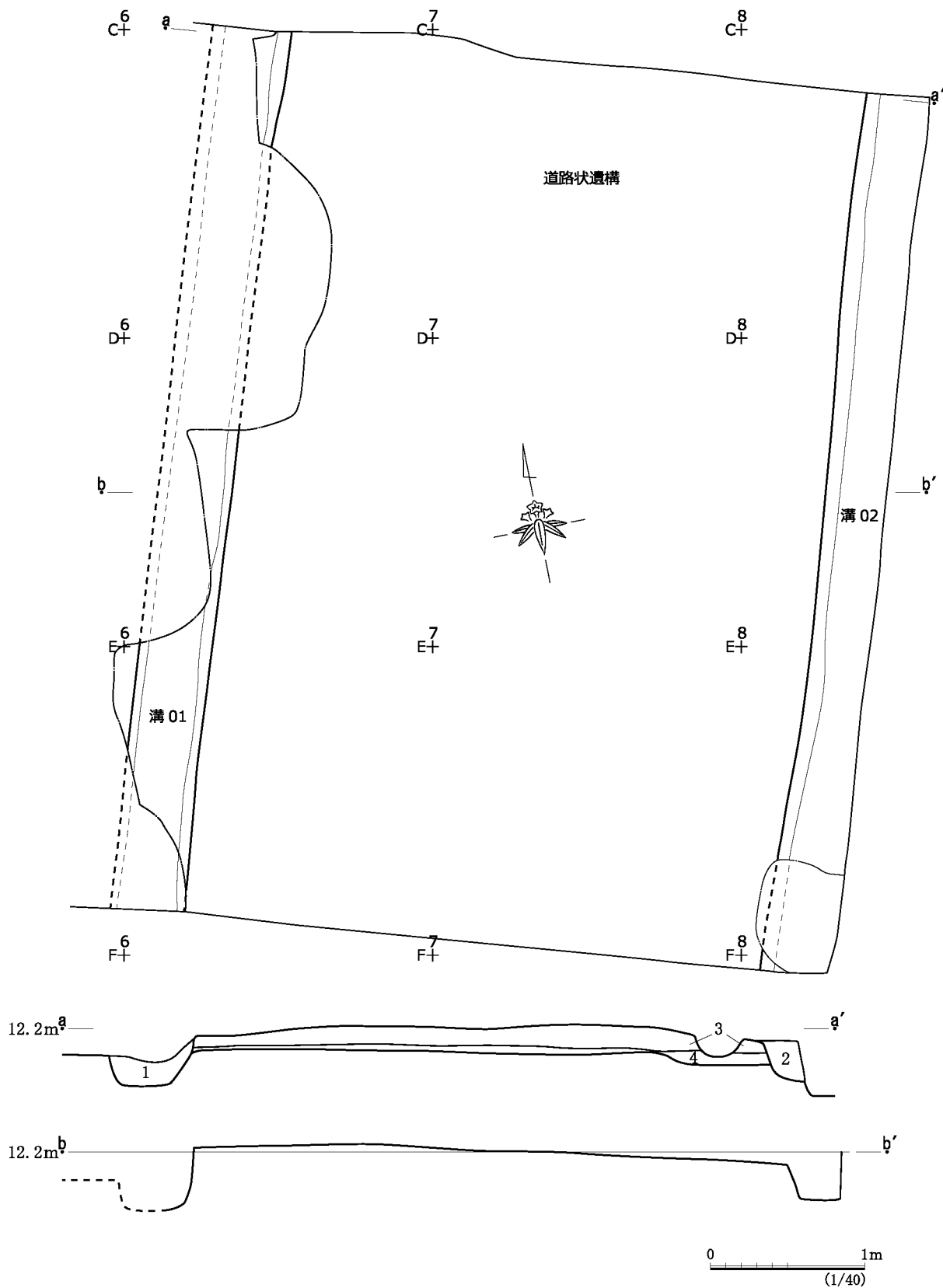


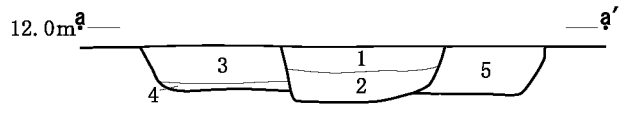
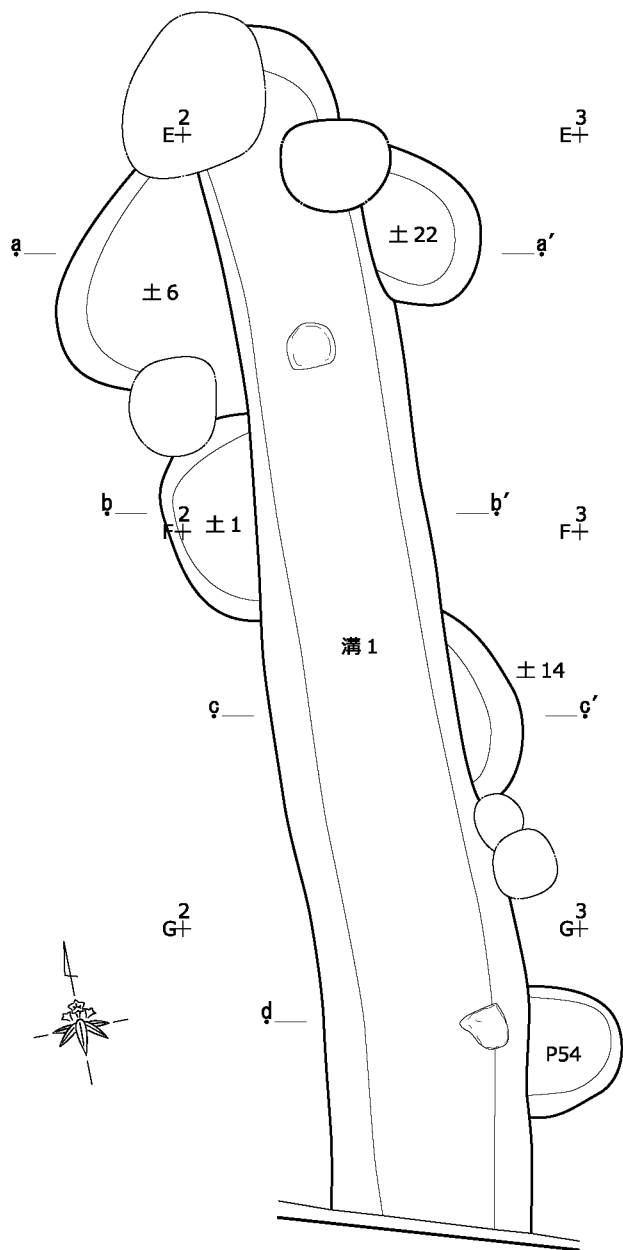
图 52 2 面全体图



道路状遺構、溝01・02 土層説明

- |       |   |      |                               |
|-------|---|------|-------------------------------|
| 溝01   | 1 | 褐色土  | 砂質土。5～10cm大の泥岩ブロック多量。締まりややあり。 |
| 溝02   | 2 | 灰褐色土 | 弱粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒少量。締まりややあり。    |
| 道路状遺構 | 3 | 褐色土  | 粘質土。40cm大の泥岩ブロック多量。道路整地層。     |
|       | 4 | 黄褐色土 | 弱粘質土。混入物なし。締まりあり。             |

図53 2面 道路状遺構、溝01・02



2面 溝 1、土坑 6·22 土層說明

- 溝 1
- 1 暗褐色土 弱粘質土。炭粒多量、泥岩粒少量。
  - 2 褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。
- 土坑 6
- 3 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。
  - 4 炭層
- 土坑 22
- 5 灰褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。

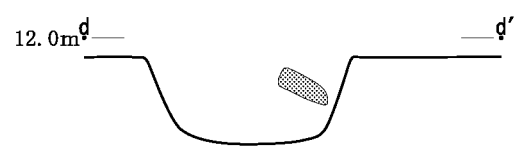


图 54 2面 溝 1、土坑

D<sup>2</sup>

D<sup>3</sup>

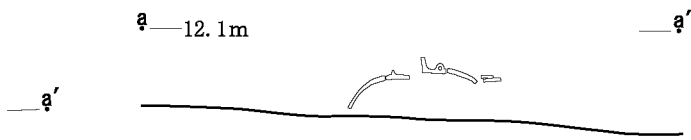
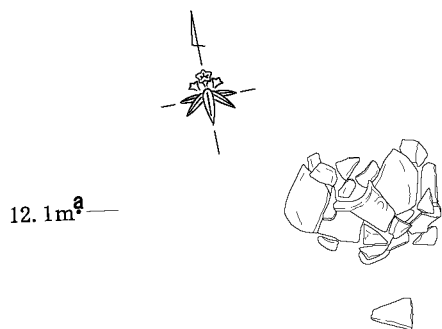
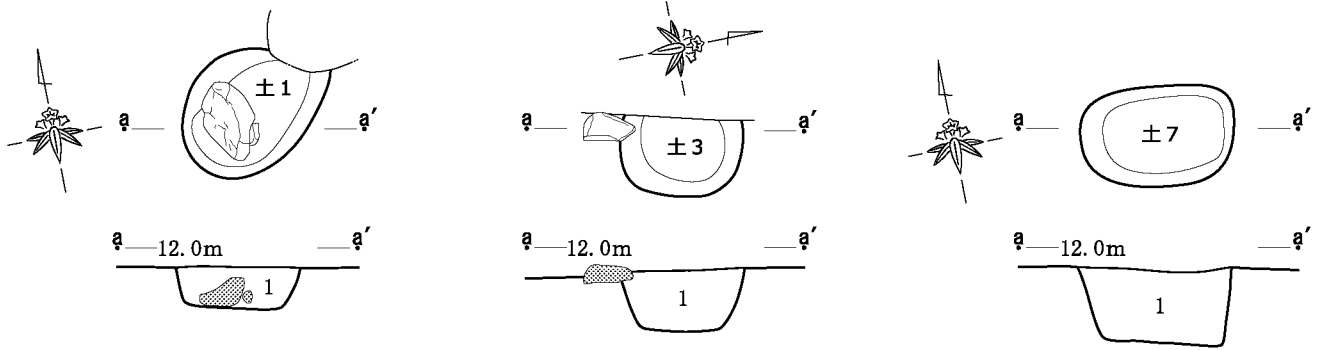


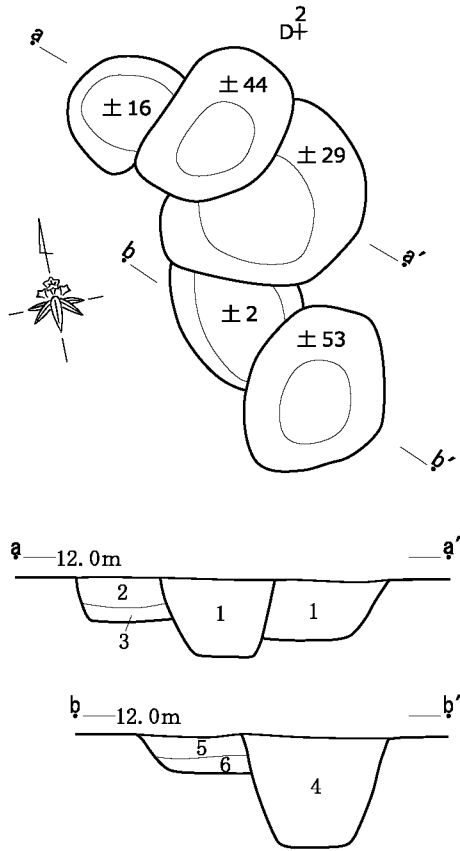
图 55 2面 褐釉壺出土狀況



1 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒やや多い。縮まりなし。

1 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量。縮まりなし。

1 灰褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。



土坑 29-44 1 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。

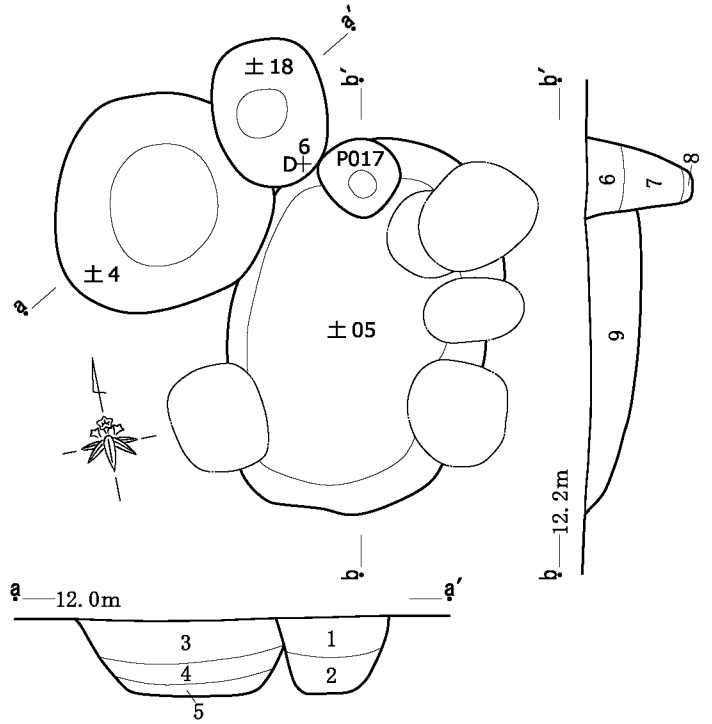
土坑 16 2 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒多量。

土坑 53 3 灰褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。

土坑 2 4 灰褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。

土坑 5 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。

土坑 6 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量。縮まりなし。



土坑 18 1 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。

土坑 4 2 灰褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。

土坑 3 褐色土 粘質土。泥岩粒多量。

土坑 4 4 炭層

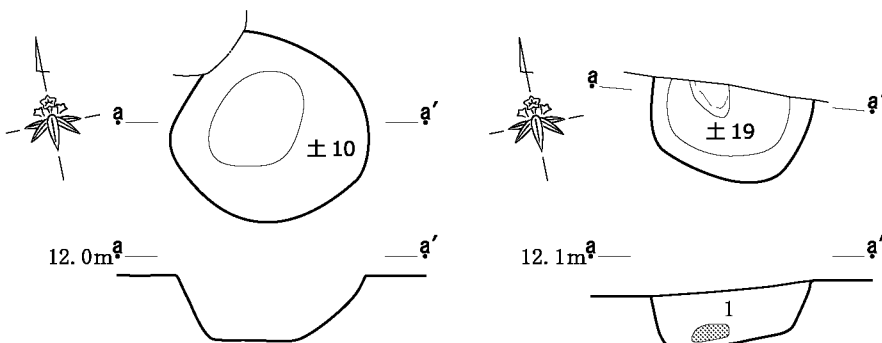
土坑 5 褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒微量。

土坑 6 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒多量。縮まりなし。

Pit017 7 明褐色土 砂質土。炭粒少量。縮まりややあり。

土坑 8 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒多量。縮まりなし。

土坑 05 9 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒多量。縮まりややあり。



1 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。



图 56 2面 土坑 (1)

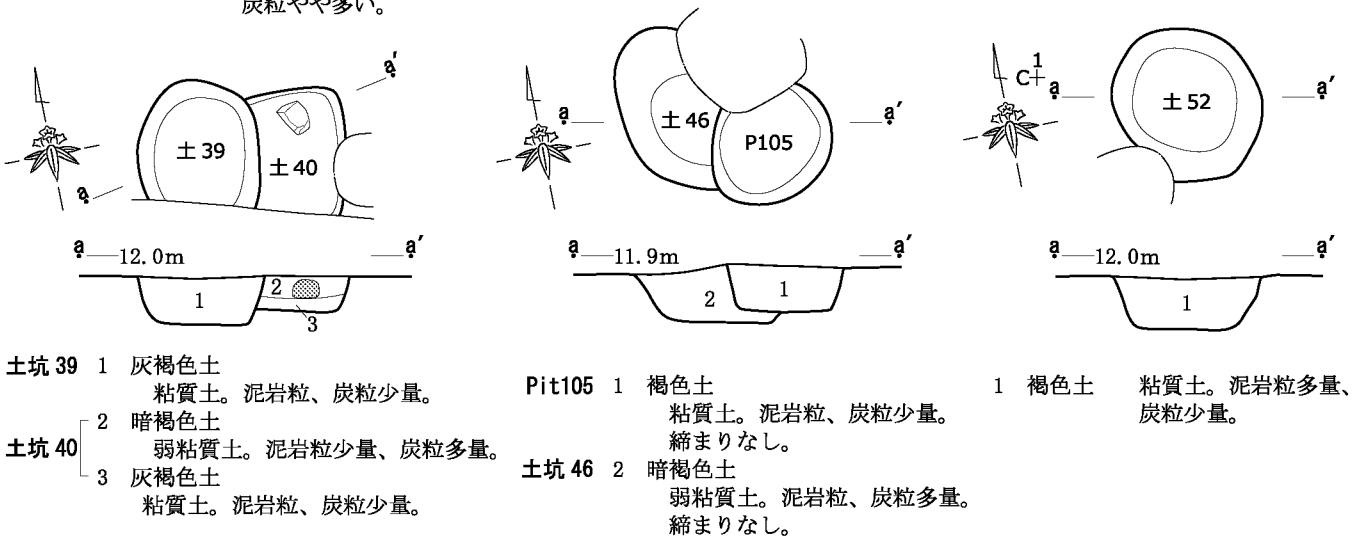
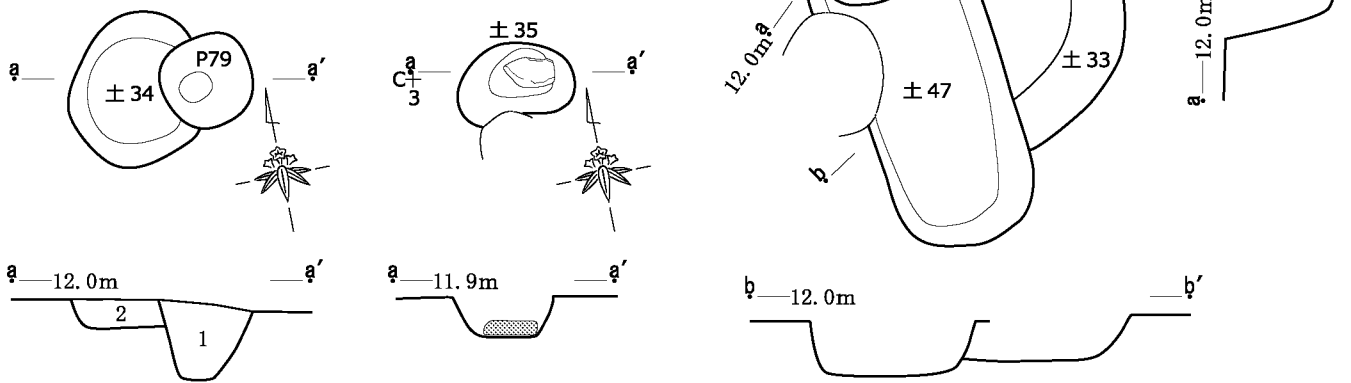
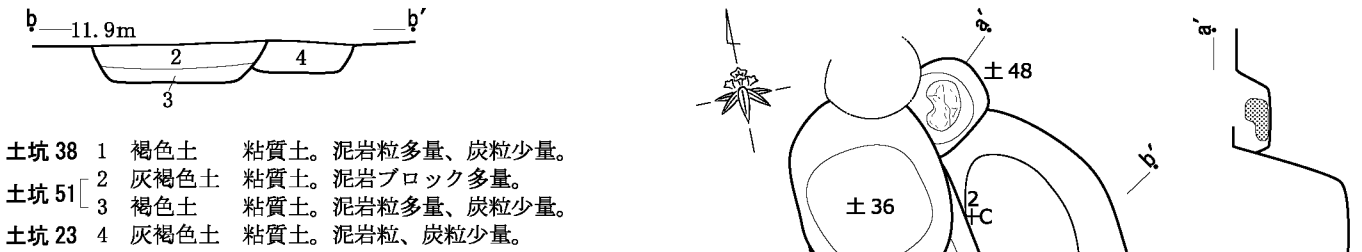
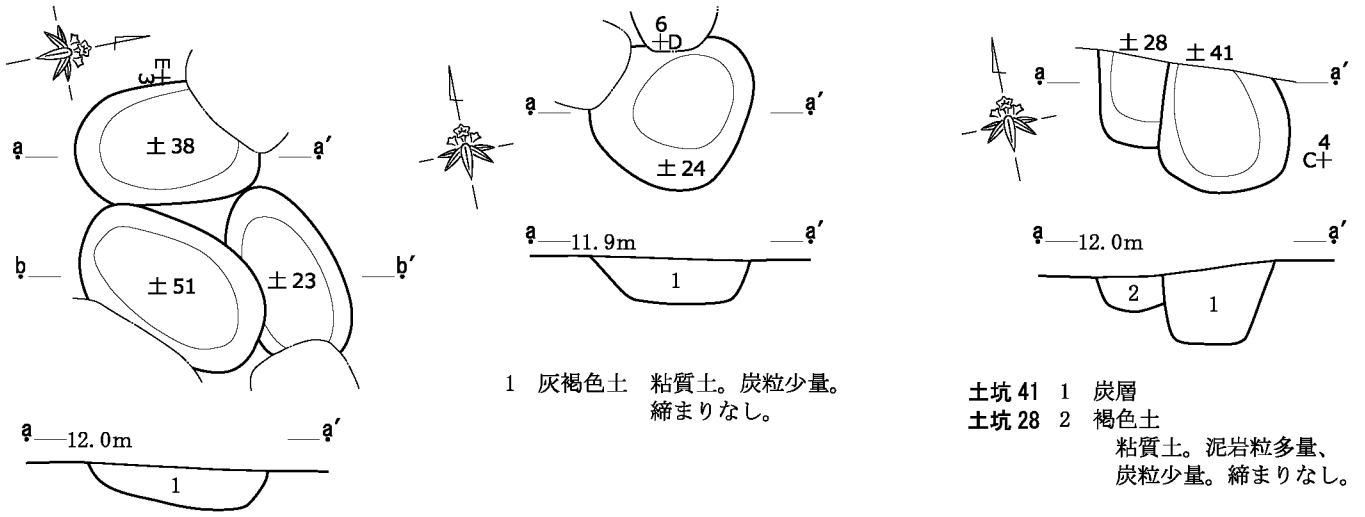


图 57 2面 土坑 (2)





2面遺構の出土遺物（図59～83、表5）

遺物個々の説明については省略するので、各図ならびに遺物観察表（表5）を参照されたい。

全体の傾向を述べると、かわらけはロクロ成形品が主体となるも手づくね成形品も少量だが含まれている。ロクロかわらけに確実な中型品は見られず、大・小ともに底広で低平な資料が中心となる。常滑の甕は5型式が大部分を占め、6型式に下る資料は僅かである。舶載陶磁器は遺存良好な資料が少ないものの白磁碗Ⅸ類も何点か見られるので、極端には古く遡らないだろう。瓦質火鉢はかわらけ質に近いⅡA類があり、瓦は永福寺Ⅱ期の製品が入る。総体としては13世紀中葉頃の遺物構成といえるだろう。特異な遺物に図71-227の線刻硯がある。裏面に針状工具による細線で「(賀摩具羅(鎌倉))」など複数の漢字が刻まれている。現時点では十分に読み切れていないが、「龍王殿」や「陀羅」といった仏典に関わる字句が記されたものと推察できる。図72-268は底部内面に焼成前の放射状刻線が施され、1面遺構出土の図20-25などと同一個体と考えられる。

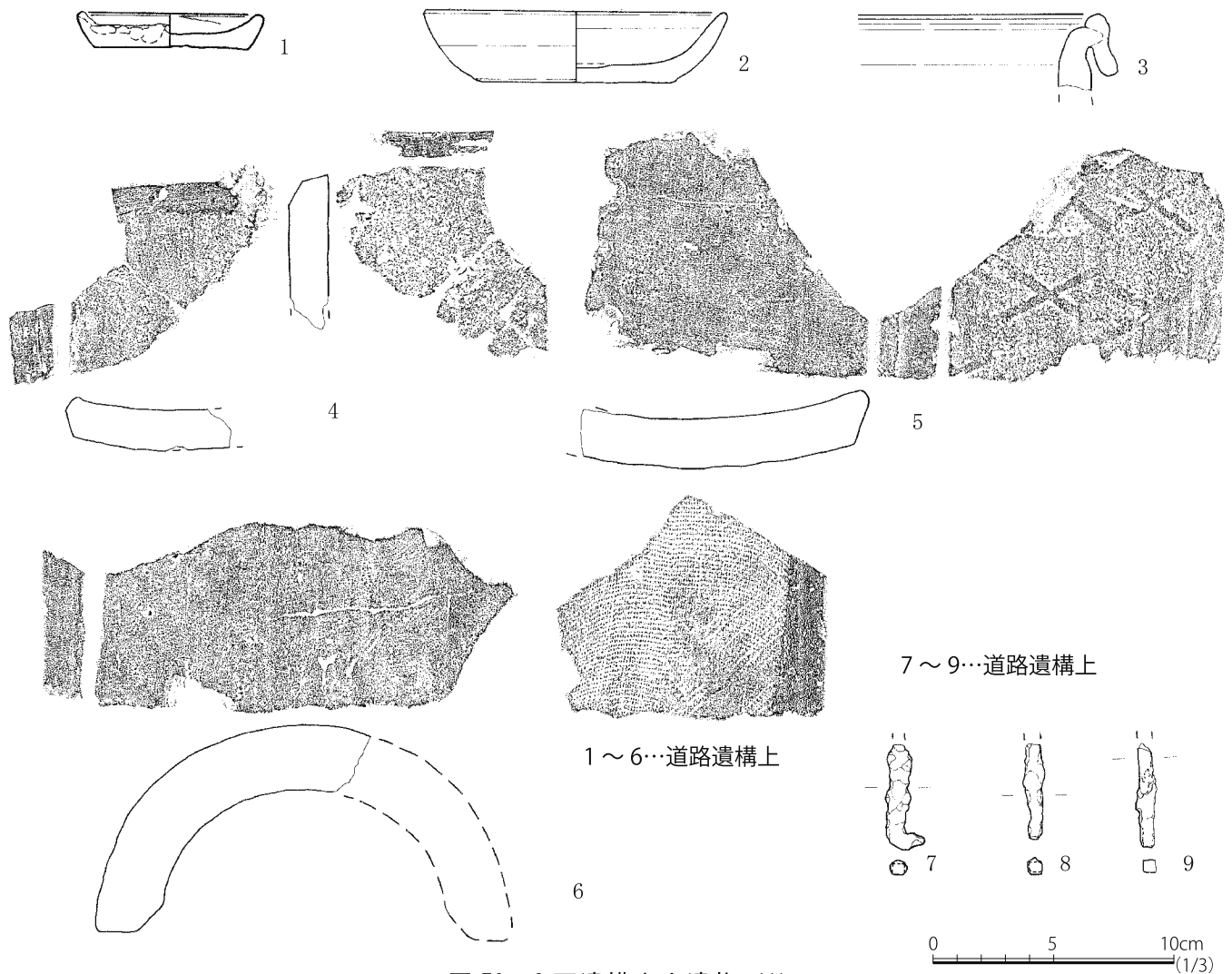


図59 2面遺構出土遺物（1）

表5 2面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	ナテ状	板状	スコ状		
図59 2面遺構出土遺物(1)												
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	6.3	1.4	ほぼ完形	○		○		橙	2面道路状遺構 白針 口縁部打ち欠き
2	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	7.7	3.0	3/4	○		○		橙	2面道路状遺構 白針

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ*	ナラリ状	板状	スコ状		
3	陶器	常滑甕	—	—	[3.1]	口小片					灰褐	2面道路状遺構 6b型式 長石
4	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.6	狭端面 片側辺					灰	2面道路状遺構 白色粒
5	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	広端面 片側辺					黒灰	2面道路遺構上 黒色粒・白色粒
6	瓦	丸瓦	—	幅 [16.8]	厚さ 2.7	筒部					暗灰	2面道路遺構上 黒色粒・白色粒
7	鉄製品	釘	長さ [5.1]	幅 0.5	厚さ 0.5	上端欠損					—	2面道路状遺構
8	鉄製品	釘	長さ [4.0]	幅 0.7	厚さ 0.4	上端欠損					—	2面道路状遺構
9	鉄製品	釘	長さ [4.3]	幅 0.6	厚さ 0.5	上端欠損					—	2面道路状遺構

図60 2面遺構出土遺物(2)

10	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.8)	1.4	1/4	○	○			黄橙	2面溝1 白針
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	6.2	1.7	2/3	○	○			黄橙	2面溝1 白針
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.3)	1.6	1/2	○	○			黄灰	2面溝1 白針
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.0	1.7	4/5	○	○			橙	2面溝1 白針
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	6.6	1.9	ほぼ完形	○	○			黄橙	2面溝1 白針 口縁部打ち欠き、煤付着
15	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.7	1.4	完形	○	○			黄灰	2面溝1 白針 口縁部一部に擦痕、煤付着
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.3)	1.6	2/3	○	○			黄橙	2面溝1 白針
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.4)	1.7	1/3	○	○			黄灰	2面溝1 白針 口縁部打ち欠き、擦痕
18	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.8	1.8	4/5	○	○			黄灰	2面溝1 白針
19	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.4	1.9	4/5	○	○			黄橙	2面溝1 白針
20	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.3)	(8.4)	2.7	口小～ 底1/2	○	○			橙	2面溝1 白針
21	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(9.5)	2.7	1/3	○	○			黄橙	2面溝2 白針 外面一部黒色に変色
22	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	9.0	2.8	1/3	○	○			黄橙	2面溝1 白針
23	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.2)	3.0	1/3	○	○			黄橙	2面溝1 白針 口唇部一部煤付着
24	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	8.8	3.0	1/3	○	○			橙	2面溝1 白針
25	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(9.1)	3.3	1/3	○				橙	2面溝1 白針
26	土器	ロクロ かわらけ・大	12.0	8.6	3.7	4/5	○	○			黄橙	2面溝1 白針 口縁部打ち欠き、擦痕、煤付着
27	土器	手づくね かわらけ・小	(9.7)	—	(1.3)	1/3	○				黄灰	2面溝1
28	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	1.8	1/2	○				黄灰	2面溝1 白針 口唇部全体煤付着
29	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	1.9	1/3	○				橙	2面溝1 白針
30	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	—	3.0	1/3	○				灰橙	2面溝1 白針
31	土器	手づくね かわらけ・大	11.0	—	3.2	3/4	○				黄橙	2面溝1 白針
32	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	—	3.5	完形	○				黄橙	2面溝1 白針 内外面煤付着
33	土器	手づくね 白かわらけ	—	—	[2.4]	口小片					淡黄	2面溝1
34	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	[3.6]	口小片					明灰緑 半透明	2面溝1
35	磁器	龍泉窯系青磁 折縁鉢	—	—	[4.2]	口小片					灰緑 不透明	2面溝1
36	磁器	青白磁 蓋	(3.5)	天頂径 (3.6)	1.8	1/2					青白 透明	2面溝1
37	陶器	泉州窯系 黄釉盤	(33.3)	(26.8)	8.4	1/4					緑灰	2面溝1 白色粒
38	陶器	褐釉壺	—	頸部径 (12.1)	[4.3]	肩1/6					赤褐	2面溝1 黒色粒・白色粒
39	陶器	常滑 鉢	(14.0)	—	[4.8]	口1/4					灰	2面溝1 長石

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナラシ	板状	スコ状		
40	陶器	常滑甕	—	—	[6.7]	口小～ 胴片					赤褐色	2面溝1 5～6型式 長石
41	陶器	常滑甕	45.6	—	[10.4]	口小片					暗褐	2面溝1 5型式 長石
図61 2面遺構出土遺物(3)												
42	陶器	常滑甕	—	—	—	肩部片					暗褐	2面溝1 長石
43	陶器	常滑甕	—	—	—	肩部片					暗褐	2面溝1 長石
44	陶器	常滑甕	—	—	—	肩部片					褐	2面溝1 長石
45	陶器	常滑甕	—	—	—	肩部片					暗褐	2面溝1 長石
46	陶器	常滑甕	—	—	—	肩部片					褐	2面溝1 長石
47	瓦器	坏	(9.9)	(5.2)	3.0	口小片					灰	2面溝1 輪花形
図62 2面遺構出土遺物(4)												
48	瓦	軒丸瓦	瓦当径 (14.2)	内区径 (7.8)	中房径 4.0	瓦当部					灰黒	2面溝1 八葉複弁連華文 永福寺 I 期YAI01g
49	瓦	鬼瓦	—	—	—	一部					暗灰	2面溝1
50	瓦	軒丸瓦	—	—	—	瓦当部 一部					灰白～ 灰黒	2面溝1 文様不明
51	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.2	狭端面 片側辺					暗灰	2面溝1
52	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					灰白	2面溝1
53	瓦	瓦 転用研磨具	長さ [6.4]	幅 [3.1]	厚み 2.2	不明					灰	2面溝1 4面を研磨に使用
54	石製品	砥石	長さ 6.8	幅 2.5	厚さ 1.0	完形					灰白	2面溝1 鳴滝・奥殿産 仕上げ砥
55	石製品	滑石鍋転用品 温石カ	長さ [9.2]	幅 [4.6]	厚さ 2.7	不明					黒褐	2面溝1 表面煤付着
図63 2面遺構出土遺物(5)												
56	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.0)	1.5	2/3	○		○		黄橙	2面土坑2 白針
57	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.0)	1.5	1/3	○		○		橙	2面土坑2 白針
58	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(8.0)	1.6	1/2	○		○		橙	2面土坑2 白針
59	土器	手づくね かわらけ・大	(12.7)	(10.9)	3.1	1/3	○				橙	2面土坑2 白針
60	陶器	渥美 片口鉢	—	(14.0)	[7.0]	体片～ 底1/4					灰	2面土坑2 黒色粒・白色粒 内面摩耗
61	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.2	1/2	○				黄橙	2面土坑4 白針
62	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.7	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑4 白針
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.6)	1.8	口小～ 底小1/4	○				黄橙	2面土坑4 白針
64	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(9.4)	3.2	1/2	○		○		黄橙	2面土坑4 白針
65	土器	手づくね かわらけ・小	(8.0)	—	1.8	1/4	○				橙	2面土坑4 白針
66	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.3]	口小片					淡青 透明	2面土坑4
67	土器	ロクロ かわらけ・極小	6.4	4.1	1.0	4/5	○				黄灰	2面土坑6 白針 内折れ
68	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(7.2)	1.5	1/2	○		○		橙	2面土坑6 白針 内外面一部に煤付着
69	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.8	1.7	2/3	○		○		黄灰	2面土坑6 白針 口縁部一部に擦痕
70	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.7	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑6 白針
71	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.8)	1.7	1/3	○		○		黄灰	2面土坑6 白針
72	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(10.0)	2.3	1/4	○		○		黄灰	2面土坑6 白針 体部上半を打ち欠き研 磨後、灯明皿に
73	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.5)	2.9	1/4	○				黄灰	2面土坑6 白針
74	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(10.0)	3.0	1/5	○				橙	2面土坑6 白針
75	土器	ロクロ かわらけ・大	12.9	8.7	3.3	2/3	○		○		黄桃	2面土坑6 白針

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナラ	ナラ状	板状	スコ状		
76	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	9.4	3.1	4/5	○		○		黄灰	2面土坑6 白針
77	土器	手づくね かわらけ・大	13.1	—	3.6	1/3	○				黄灰	2面土坑6 白針 外面全体と内面一部黒色に変色
78	磁器	白磁 壺	—	—	[2.4]	口小片					灰 透明	2面土坑6
79	陶器	常滑 壺	(24.8)	—	[8.0]	口1/4					黒褐	2面土坑6 長石
80	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[7.5]	体～ 底部片					灰	2面土坑6 長石
81	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.0	筒部 片側面					暗灰	2面土坑6 永福寺男瓦A類 白色粒

図64 2面遺構出土遺物(6)

82	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	(12.2)	(3.4)	1/2	○				黄灰	2面土坑7 白針 内外面煤付着
83	陶器	渥美 壺	—	—	—	肩部片					灰	2面土坑7
84	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類か	—	—	[5.9]	口小片					茶褐	2面土坑8 長石
85	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.4)	1.6	1/3	○				黄橙	2面土坑10 白針
86	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.2)	2.0	1/2	○				黄橙	2面土坑10 白針
87	磁器	龍泉窯系青磁 鏡蓮弁文碗	—	—	[2.3]	口小片					灰ナラ <sup>+</sup> 透明	2面土坑10 大宰府Ⅱ類
88	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[1.6]	口小片					灰白 半透明	2面土坑10 大宰府Ⅲ類
89	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[8.9]	体～ 底部1/6					灰	2面土坑10 長石
90	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.4)	1.6	1/3	○		○		黄灰	2面土坑11 白針
91	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.8	1/3	○		○		黄灰	2面土坑11 白針
92	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.7	1/2	○				橙	2面土坑11 白針 口縁部一部打ち欠き
93	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	8.7	2.9	4/5	○				黄橙	2面土坑11 白針
94	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	9.4	3.0	3/4	○		○		黄灰	2面土坑11 白針
95	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(8.8)	3.3	1/4	○				橙	2面土坑11 白針 口縁部一部打ち欠き
96	磁器	白磁 端反碗	—	—	[2.4]	口小片					灰白 不透明	2面土坑11
97	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(9.8)	2.9	1/3	○		○		橙	2面土坑14 白針
98	陶器	常滑 壺	(34.4)	—	[7.3]	口1/3					暗褐	2面土坑14 長石
99	陶器	渥美 壺	—	—	—	肩部片					黒褐	2面土坑14 長石
100	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.0]	口小片					灰	2面土坑14 長石
101	陶器	尾張型 山茶碗	—	(7.2)	—	1/4					灰白	2面土坑14 白色粒 高台に粗穀圧痕
102	瓦質土器	火鉢	—	—	[6.3]	口小片					灰白	2面土坑18
103	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.6)	1.6	1/4	○		○		黄橙	2面土坑19 白針 内外面一部煤付着
104	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(9.0)	2.8	1/4	○		○		黄橙	2面土坑19 白針 内外面全体煤付着
105	磁器	龍泉窯系青磁 鏡蓮弁文碗	—	—	[2.8]	口小片					灰ナラ <sup>+</sup> 半透明	2面土坑19 大宰府Ⅱ類
106	陶器	常滑 壺	—	—	[6.2]	口小片					灰	2面土坑19 長石
107	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.8]	口小～ 体片					灰	2面土坑19 長石 108と同一個体カ
108	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[5.1]	体～底部 片					灰	2面土坑19 長石 107と同一個体カ
109	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.3)	2.1	1/2	○		○		黄灰	2面土坑22 白針

図65 2面遺構出土遺物(7)

110	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.4	1.7	ほぼ完形	○		○		橙	2面土坑23 白針
111	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	1.9	完形	○				黄橙	2面土坑23 白針 口縁部全体に煤付着
112	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	2.9	1/3	○		○		黄橙	2面土坑23 白針

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナテ形状	板状	スコ状		
113	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.4]	口小片					灰褐	2面土坑23 長石
114	瓦	軒平瓦	瓦当幅 3.5	内区幅 1.8	顎面幅 2.4	顎部					暗灰	2面土坑23 上外区0.7 下外区1.0 偏行 唐草文
115	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.4)	1.8	1/4	○		○		橙	2面土坑24 白針
116	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.7	2/3	○				黄橙	2面土坑24 白針
117	瓦器	坏	—	—	—	底片					灰黒	2面土坑24 楠葉型 底部内面に暗文
118	陶器	滌美 甕	—	—	—	体片					暗灰	2面土坑24 黒色粒
119	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.5	1/3	○				黄橙	2面土坑25 白針
120	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.6	1/5	○				黄橙	2面土坑26 白針 内底煤付着
121	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(7.0)	1.4	1/2	○		○		黄灰	2面土坑28 白針
122	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.4)	1.5	2/3	○		○		黄橙	2面土坑28 白針
123	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.3	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑28 白針 内外面に黒色の付着物
124	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.2)	1.6	1/2	○		○		黄橙	2面土坑28 白針
125	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.6)	1.6	1/2	○		○		黄灰	2面土坑28 白針
126	瓦	平瓦転用品 用途不明	—	—	厚さ 2.0	広端面・ 両側面欠					灰	2面土坑28 白色粒 凸面に擦痕
127	土器	高台付皿か	—	(4.0)	[3.6]	底完					淡橙	2面土坑29 柱状高台
128	陶器	常滑 甕	29.3	—	[8.2]	口1/2~ 胴片					茶褐	2面土坑29 5型式 図66-131と同一個体カ 長石
129	陶器	滌美 片口鉢	(29.8)	(13.8)	10.1	1/4					暗灰~灰	2面土坑29 黒色粒・白色粒
130	瓦器	備前系 碗	(11.0)	—	[3.3]	口1/4 ~体片					灰	2面土坑29 黒縁瓦器質碗
図66 2面遺構出土遺物(8)												
131	陶器	常滑 甕	—	—	—	体片					暗褐	2面土坑34 図65-128と同一個体カ 長石
132	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(5.8)	1.7	1/3	○		○		黄灰	2面土坑30 白針
133	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.5)	2.7	2/3	○		○		橙	2面土坑30 白針
134	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.6)	2.8	1/2	○		○		1黄橙	2面土坑30 白針
135	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.0)	3.0	1/3	○		○		黄橙	2面土坑30 白針
136	陶器	常滑 甕	—	—	[4.1]	口小~ 体片					暗褐	2面土坑30 長石
137	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	(7.0)	1.7	口小~ 底1/4	○		○		黄橙	2面土坑33 白針
138	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.4)	1.4	1/2	○		○		黄橙	2面土坑33 白針
139	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.3	1/3	○				黄橙	2面土坑33 白針
140	土器	ロクロ かわらけ・小	(10.0)	(7.4)	1.8	2/3	○		○		黄橙	2面土坑33 白針
141	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.6)	1.6	2/3	○		○		黄橙	2面土坑33 白針
142	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.6)	1.7	1/3	○		○		黄灰	2面土坑33 白針 外面一部黒色に変色
143	土器	ロクロ かわらけ・小	9.3	7.0	1.9	1/2	○		○		橙	2面土坑33 白針
144	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(8.4)	2.9	1/2	○				黄灰	2面土坑33 白針
145	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	8.9	3.1	完形	○		○		黄橙	2面土坑33 白針
146	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	2.0	1/4	○				黄灰	2面土坑33 白針 外面一部に煤付着
147	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	2.9	1/4	○				黄灰	2面土坑33 白針
148	陶器	尾張型 山茶碗	15.5	8.0	5.0	体片~ 底略完存					灰	2面土坑33 黒色粒・白色粒
149	陶器	常滑 甕	—	—	[7.1]	口小片					茶	2面土坑33 5型式 長石

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	ナマリ状	板状	スコ状		
150	陶器	常滑 甕	—	—	[7.8]	口小片					茶	2面土坑33 5型式 長石
151	陶器	常滑 甕	(52.0)	—	[11.1]	口1/6~ 胴片					茶褐	2面土坑33 5型式 長石 152と同一個体カ
152	陶器	常滑 甕	—	(15.4)	[8.5]	底1/2 ~胴片					茶褐	2面土坑33 長石 151と同一個体カ
153	陶器	常滑 片口鉢I類	(32.3)	—	[32.3]	1/4					灰	2面土坑33 長石
154	陶器	瀬美 甕	—	—	[5.2]	口小片					暗灰	2面土坑33 黒色粒・白色粒
図67 2面遺構出土遺物(9)												
155	陶器	瀬美 甕	—	—	—	体片					灰褐	2面土坑33 黒色粒・白色粒
156	瓦器	坏	(9.8)	(5.1)	3.2	1/4					黒褐	2面土坑33 輪花形
157	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	不明					灰黒	2面土坑33 凹凸面に粗い離れ砂
158	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	6.9	1.7	完形	○		○		黄灰	2面土坑35 白針 焼成段階で割れたカ
159	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.4)	3.0	口小~ 底完存	○		○		橙	2面土坑35 白針 内面に煤付着
160	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.5)	1.5	1/4	○		○		黄灰	2面土坑36 白針
161	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.6)	1.5	1/4	○		○		黄灰	2面土坑36 白針
162	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.6)	1.7	1/4	○		○		黄灰	2面土坑36 白針 内外面黒色に変色
163	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	6.4	1.9	2/3	○		○		黄灰	2面土坑36 白針
164	土器	ロクロ かわらけ・小	(11.1)	(7.5)	3.1	口小~ 底1/2	○		○		黄橙	2面土坑36 白針
165	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	—	2.2	完形					黄灰	2面土坑36 白針
166	土器	手づくね かわらけ・大	12.8	—	2.9	4/5	○				橙	2面土坑36 白針
167	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.2	1/3	○				黄橙	2面土坑36 白針
168	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	[2.3]	口小片					灰緑 不透明	2面土坑36
169	磁器	白磁小碗	—	—	—	体片					白 透明	2面土坑36
170	磁器	白磁 口禿皿	(10.4)	—	[1.7]	口小1/4					灰白 半透明	2面土坑36 大宰府IX類
171	磁器	白磁 口禿碗	(15.6)	—	[1.8]	口小1/6					灰白 不透明	2面土坑36
172	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[7.5]	口小片					灰	2面土坑36
173	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(7.0)	1.3	1/4	○		○		橙	2面土坑38 白針
174	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.7)	1.5	1/3	○		○		黄橙	2面土坑38 白針
175	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.2)	3.0	口小~ 底1/4	○		○		橙	2面土坑38 白針
176	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[4.9]	口小片					灰緑 透明	2面土坑38 大宰府I-4類
177	陶器	瀬戸 入子	(6.1)	(3.6)	1.2	1/2					灰	2面土坑38 二次焼成を受けたカ
178	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.8	1/2	○				橙	2面土坑39 白針
179	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.6	1/3	○				黄橙	2面土坑39 白針
180	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.4	3/4	○				黄橙	2面土坑39 白針 底部外面黒色に変色
図68 2面遺構出土遺物(10)												
181	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.8)	1.9	1/5	○				橙	2面土坑40 白針
182	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.0	3/4	○				橙	2面土坑40 白針
183	土器	手づくね 白かわらけ・大	(12.0)	—	[3.1]	1/4	○				黄白	2面土坑40
184	土器	手づくね 白かわらけ・大	—	—	[3.1]	口小~ 体片					黄白	2面土坑40 口縁部内外面に煤付着
185	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	—	[2.1]	口小片					青灰 半透明	2面土坑40
186	磁器	同安窯系青磁 皿	—	—	[1.3]	口小片					緑灰 透明	2面土坑40

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナヲ状	板状	スコ状		
187	瓦	平瓦	—	幅 17.2	高さ 2.2	狭端面					灰黒～ 暗灰	2面土坑40 黒色粒・白色粒
188	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.2)	1.6	1/3	○		○		黄橙	2面土坑41 白針
189	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.2)	3.1	4/5	○		○		黄橙	2面土坑41 白針
190	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.5	1/4	○		○		黄橙	2面土坑41 白針 内面一部に煤付着
191	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(5.6)	1.7	1/2	○		○		黄橙	2面土坑42 白針
192	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.8	2.7	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑42 白針 内外面一部黒色に変色
193	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	(7.4)	1.6	1/2					黄灰	2面土坑42 白針 口縁部一部と底部外面煤付着
194	土器	手づくね かわらけ・大	(12.6)	—	3.2	1/3					橙	2面土坑42 白針
195	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.5]	口小～体 片					水青 透明	2面土坑42
196	陶器	常滑 片口鉢I類	(30.8)	(14.6)	14.3	口小～ 底ほぼ完存					灰	2面土坑42 長石
197	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(8.0)	1.9	1/4	○		○		黄橙	2面土坑44 白針
198	土器	ロクロ かわらけ・小	10.0	8.0	2.5	4/5 歪み大	○		○		黄橙	2面土坑44 白針
199	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.2	1/3					黄橙	2面土坑44 白針
200	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	6.9	1.7	3/4	○		○		黄灰	2面土坑46 白針 口唇部に煤付着
201	瓦器	坏	(9.8)	—	[2.4]	1/5					灰白	2面土坑46 輪花形
202	石製品	軽石 加工品	長径 6.9	短径 4.9	厚さ 4.4	完形					灰	2面土坑46
図69 2面遺構出土遺物(11)												
203	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.0)	1.7	1/3	○		○		橙	2面土坑47 白針
204	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	(7.2)	1.8	1/4	○		○		黄橙	2面土坑47 白針
205	陶器	常滑 四耳壺カ	—	—	—	肩部片					暗灰緑	2面土坑47 5型式 長石
206	陶器	常滑 甕	—	—	—	肩部片					暗褐	2面土坑47 長石
207	陶器	渥美 甕	—	—	[11.7]	口小～ 胴片					緑灰	2面土坑47
208	瓦	軒平瓦	瓦当部 幅 6.7	内区幅 4.5	顎面幅 1.9	顎部					灰	2面土坑47 上外区幅0.9 下外区幅1.3 脇区幅1.2 宝相華唐草文 永福寺YNI01e2と同範
209	土器	ロクロ かわらけ・極小	(6.0)	(5.0)	1.0	1/2	○				黄橙	2面土坑51 内折れ 白針 内外面一部黒色に変色
210	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.0)	1.6	1/3	○		○		黄橙	2面土坑51 白針
211	陶器	常滑 甕	—	—	[7.0]	口小～ 胴片					黒褐	2面土坑51 6型式 長石
212	瓦質土器	火鉢	(41.5)	(30.0)	10.2	1/4					灰黒	2面土坑51 黒色粒・白色粒
図70 2面遺構出土遺物(12)												
213	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.5	2.0	3/4	○		○		黄橙	2面土坑52 白針
214	陶器	常滑 甕	—	—	[10.0]	胴～ 底小片					褐	2面P49 長石 底部外面に焼成時の付着物
215	瓦	丸瓦	—	18.6	厚さ 2.7	筒部					暗灰	2面土坑52 永福寺男瓦A類 黒色粒・白色粒
216	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.6	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑53 白針 外底面に擦痕
217	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.0)	1.5	1/3					黄橙	2面土坑53 白針
218	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.3	1/3	○				黄灰	2面土坑53 白針
219	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.3	1/3	○				黄橙	2面土坑53 白針
220	陶器	渥美 片口鉢	—	—	[3.2]	口小片					灰褐色	2面土坑53 黒色粒・黒色粒
221	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(5.8)	1.7	1/3	○		○		橙	2面土坑54 白針、砂質
図71 2面遺構出土遺物(13)												
222	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	5.1	1.4	1/3	○		○		橙	2面土坑01 白針、砂質

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	対ナリ状	板状	スコ状		
223	鉄製品	釘	長さ [9.8]	幅 0.8	厚さ 0.6	上端欠損					—	2面土坑01
224	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.4)	1.5	3/4	○		○		黄灰	2面土坑02、白針
225	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(4.9)	1.7	1/4	○		○		黄灰	2面土坑02、白針
226	土器	ロクロ かわらけ・大	11.5	8.6	3.2	4/5	○		○		黄橙	2面土坑02 底部外面付近に砂質かわらけ片混入
227	石製品	硯	長さ 9.8	幅 8.0	厚さ 1.5	ほぼ完形					灰	2面土坑02 美作高田硯(頁岩質・台形硯)裏面に線刻文字
228	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.3)	1.5	1/4	○		○		橙	2面土坑03 白針、砂質
229	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.4)	1.8	1/4	○				黄橙	2面土坑03 白針
230	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	—	3.6	1/4	○				黄灰	2面土坑03 白針
231	銅製品	用途不明	直径 1.4	高さ 0.6	厚さ 0.2	完形か					—	2面土坑04 釘隠しなどか
232	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.0	1.4	完形	○		○		黄灰	2面土坑05 白針、砂質
233	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.4)	1.5	1/4	○		○		黄橙	2面土坑05 白針
234	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(8.6)	2.9	1/4	○		○		黄灰	2面土坑05 白針
235	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	7.9	3.4	1/8	○		○		橙	2面土坑05 白針
236	磁器	龍泉窯系青磁 鏡蓮弁文碗	—	5.1	[2.2]	体片～ 底完存					青灰 不透明	2面土坑05 大宰府Ⅱ類
237	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	2面土坑05 開元通寶(行書)中国唐代 621年初鑄

図72 2面遺構出土遺物(14)

238	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.6	1.5	3/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針、砂質
239	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.4	1.3	2/3	○		○		黄灰	2面土坑06 白針
240	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.0)	1.4	1/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針 内面黒色に変色
241	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.1)	1.4	1/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針 内外面黒色に変色
242	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.0	1.6	2/3	○		○		黄灰	2面土坑06 白針
243	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.6	1/2	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
244	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.5)	1.5	1/4	△		○		黄灰	2面土坑06 白針
245	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	6.1	1.5	1/2	○				黄橙	2面土坑06 白針
246	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.0	1.5	ほぼ完形			○		黄灰	2面土坑06 白針 口縁部一部黒色に変色
247	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.6	1.7	1/2	○		○		黄橙	2面土坑06 白針、砂質
248	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.9	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑06 白針、砂質
249	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.9	1.5	ほぼ完形	○				黄橙	2面土坑06 白針、砂質
250	土器	ロクロ かわらけ・小	5.5	4.6	1.2	完形	○		○		黄橙	2面土坑06 白針 内面一部に煤付着
251	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.7	1.8	2/3	△				橙	2面土坑06 白針 内外面一部黒色に変色
252	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.2	2.8	1/2	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
253	土器	ロクロ かわらけ・大	11.7	8.9	2.8	4/5			○		橙	2面土坑06 白針、砂質 口唇部一部に煤付着
254	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(10.1)	2.8	1/2	○		○		黄灰	2面土坑06 白針、砂質 口唇部一部に煤付着
255	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	9.3	3.0	完形	○		○		橙	2面土坑06 白針
256	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(8.0)	3.0	1/4	○		○		黄灰	2面土坑06 白針、砂質
257	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.4)	(7.5)	3.3	1/3	○		○		橙	2面土坑06 白針、砂質
258	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(6.5)	3.5	1/3	○		○		黄橙	2面土坑06 白針、砂質
259	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	7.7	3.4	2/3	△		○		橙	2面土坑06 白針



遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナラ状	板状	スコ状		
260	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(7.5)	3.4	1/4	○		○		橙	2面土坑06 白針
261	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.5)	(9.6)	3.5	1/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
262	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	[3.4]	口小片					青灰 透明	2面土坑06
263	磁器	龍泉窯系青磁 無文碗	—	—	[3.3]	口小片					灰緑 不透明	2面土坑06
264	磁器	青磁 碗	—	—	[2.3]	口小片					灰 不透明	2面土坑06
265	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	—	4.9	[2.3]	体～ 底完存					緑 半透明	2面土坑06
266	磁器	龍泉窯系青磁 碗	—	(7.4)	[1.8]	底1/6					灰青 不透明	2面土坑06
267	磁器	白磁 口禿皿	(9.7)	(5.8)	2.2	1/4					灰白 透明	2面土坑06 大宰府IX類
268	陶器	尾張型 特殊山茶碗	—	(6.0)	[2.3]	底1/4					灰白	2面土坑06
269	陶器	常滑 甕	—	—	[3.6]	口小～ 胴片					灰	2面土坑06 黒色粒・白色粒
270	陶器	常滑 甕	—	(16.0)	[13.7]	胴～ 底1/2					茶褐	2面土坑06 黒色粒・白色粒
271	石製品	基石か	直径 1.9	—	厚さ 0.6	完形					黒	2面土坑06
272	鉄製品	釘	長さ 4.8	幅 0.6	厚さ 0.4	完形					—	2面土坑06
273	鉄製品	釘	長さ 4.1	幅 0.5	厚さ 0.3	完形					—	2面土坑06
274	鉄製品	釘	長さ 4.6	幅 0.4	厚さ 0.4	完形					—	2面土坑06
275	鉄製品	釘	長さ [2.7]	幅 0.6	厚さ 0.4	下端欠損					—	2面土坑06
276	鉄製品	釘	長さ [3.3]	幅 0.5	厚さ 0.6	下端欠損					—	2面土坑06
277	鉄製品	釘	長さ [5.0]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠損					—	2面土坑06
278	鉄製品	釘	長さ [3.7]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠損					—	2面土坑06
279	鉄製品	釘	長さ [4.9]	幅 0.4	厚さ 0.4	上端欠損					—	2面土坑06
280	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	2面土坑06 紹熙元寶(行書) 中国南宋代 1190年初鑄

図73 2面遺構出土遺物(15)

281	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.0)	(4.7)	1.3	1/4	○		○		橙	2面土坑06 白針 内折れ
282	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	6.0	1.5	4/5	○		○		黄橙	2面土坑06 白針、砂質
283	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.6)	1.3	1/3	○		○		黄灰	2面土坑06 白針
284	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.9)	1.5	1/4	○		○		橙	2面土坑06 白針、砂質
285	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.7)	1.5	1/3	○		○		橙	2面土坑06 白針、砂質
286	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.9	1.7	4/5	○		○		黄橙	白針
287	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(6.0)	1.5	1/2	○		○		橙	白針
288	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.7)	1.6	1/4	○		○		黄灰	2面土坑06 白針、砂質
289	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.8	1.5	3/4	△		○		黄灰	2面土坑06 白針、砂質
290	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.5	1/2	○		○		黄灰	2面土坑06 白針
291	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.8)	1.6	1/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
292	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.7)	(8.0)	3.1	1/3	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
293	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	7.7	3.1	完形	○		○		橙	2面土坑06 白針
294	土器	ロクロ かわらけ・大	11.7	8.0	3.0	2/3	○		○		黄灰	2面土坑06 白針
295	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(7.0)	3.2	1/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
296	陶器	瀬戸 平碗	—	(4.6)	[5.0]	体片～ 底1/4					灰白	2面土坑06

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	ツラノ	板状	スコ状		
297	陶器	尾張型 山皿	—	(4.4)	[1.5]	底1/3					灰	2面土坑06 長石
298	陶器	常滑 甕	—	—	[6.6]	口小～ 胴片					暗灰	2面土坑06 白色粒
299	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[3.7]	口小片					灰	2面土坑06 白色粒
300	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[8.8]	口小～ 体片					赤褐	2面土坑06 白色粒
301	瓦質土器	火鉢	—	—	[9.6]	口小～ 底小片					黄灰	2面土坑06 河野Ⅰ類(A類) 黒色粒
302	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	広端面 片側辺					灰	2面土坑06 永福寺女瓦A類
303	石製品	硯	長さ [3.1]	幅 [4.8]	高さ 1.0	不明					黒灰	2面土坑06
304	石製品	砥石	長さ [7.3]	幅 5.1	厚さ 4.6	両端欠損					灰黄白	2面土坑06 中砥 伊予産か
305	鉄製品	釘	長さ 4.4	幅 0.5	厚さ 0.4	完形					—	2面土坑06
306	鉄製品	釘	長さ 4.5	幅 0.6	厚さ 0.6	完形					—	2面土坑06
307	鉄製品	釘	長さ [4.3]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠損					—	2面土坑06
308	鉄製品	釘	長さ [4.5]	幅 0.4	厚さ 0.3	下端欠損					—	2面土坑06
309	鉄製品	釘	長さ [4.0]	幅 0.3	厚さ 0.3	下端欠損					—	2面土坑06
310	鉄製品	釘	長さ [4.0]	幅 0.5	厚さ 0.5	上端欠損					—	2面土坑06
311	鉄製品	釘	長さ 5.5	幅 0.4	厚さ 0.3	完形					—	2面土坑06
312	鉄製品	釘	長さ [6.8]	幅 0.4	厚さ 0.3	上端欠損					—	2面土坑06
313	鉄製品	釘	長さ 6.1	幅 0.7	厚さ 0.5	完形					—	2面土坑06
314	鉄製品	刀子	長さ [14.0]	幅 1.2	厚さ 0.4	一部欠損					—	2面土坑06
315	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	2面土坑06 天禧通寶(真書) 中国北宋代 1017年初鑄
316	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	2面土坑06 元豊通寶(行書) 中国北宋代 1078年初鑄
317	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	2面土坑06 元祐通寶(篆書) 中国北宋代 1086年初鑄
318	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	2面土坑06 大観通寶(真書) 中国北宋代 1109年初鑄
319	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	2面土坑06 皇口通寶(真書)
320	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.4)	2.8	1/4	○		○		黄橙	2面土坑08 白針
321	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.2	3.0	完形	○		○		橙	2面土坑08 白針 322と合わせ口
322	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	7.7	3.0	完形	○		○		橙	2面土坑08 白針 321と合わせ口
図74 2面遺構出土遺物(16)												
323	磁器	白磁 口禿碗	(11.3)	—	[2.9]	口1/4					灰黄白 透明	2面P1 大宰府IX類 口唇部煤付着
324	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	1.6	1/3	○		○		黄橙	2面P2 白針
325	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	2面P2 紹聖元寶(篆書) 中国北宋代 1094年初鑄
326	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.7)	1.6	完形	○		○		黄橙	2面P5 口縁打ち欠き 口唇部煤付着
327	陶器	泉州窯系 盤	—	—	[4.0]	底小片					灰緑	2面P6
328	土器	ロクロ かわらけ・大	—	—	[2.8]	口小片					暗灰	2面P9 埴塼として使用か
329	陶器	常滑 甕	—	—	[5.8]	口小～ 体片					赤褐	2面P9
330	土器	手づくね かわらけ・小	8.3	5.9	2.1	1/2					黄橙	2面P10 白針
331	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	(12.2)	2.9	1/3	○				黄灰	2面P10 白針
332	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.8)	3.1	1/3	○		○		黄灰	2面P11 白針 内外全体に煤付着
333	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	(7.3)	1.6	1/4					黄灰	2面P14 白針

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	リム状	板状	スコ状		
334	土器	手づくね かわらけ・大	(14.8)	(12.0)	3.1	1/3					黄灰	2面P14 白針
335	磁器	龍泉窯系青磁 鏡蓮弁文碗	—	—	[2.2]	口小片					灰青 不透明	2面P14
336	陶器	常滑 壺	—	14.6	[8.0]	体片～ 底完存					灰橙	2面P17 内外面一部に煤付着
337	瓦器	坏	—	—	—	底小片					暗灰	2面P17 底部花文
338	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.7	広端面 片側辺					暗灰	2面P17 永福寺女瓦A類
339	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.4	1.7	3/4	△		○		黄灰	2面P19 白針 口縁部擦痕、煤付着
340	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(5.8)	1.6	1/3	○		○		黄灰	2面P19 白針
341	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.8	1.8	ほぼ完形	○		○		橙	2面P19 白針
342	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.6	1.7	3/4	△		○		橙	2面P19 白針
343	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.8	1.8	2/3	○		○		黄橙	2面P19 白針
344	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.7	2.8	3/4	○		○		黄灰	2面P19 白針
345	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(9.7)	3.0	3/4	△		○		黄灰	2面P19 白針 底部内面に回転成形痕
図75 2面遺構出土遺物(17)												
346	土器	手づくね かわらけ・大	13.3	—	3.2	3/4	○				黄橙	2面P20 底内外面に煤付着
347	陶器	灰釉陶器 碗	—	(8.7)	[2.0]	底小1/6					灰	2面P20
348	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	広端面 片側辺					灰	2面P20 永福寺女瓦A類
349	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.5)	1.4	1/3	○		○		黄灰	2面P23 白針、砂質
350	土器	手づくね かわらけ・小	(10.0)	(8.5)	2.1	1/3	○				黄橙	2面P27 白針
351	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(6.4)	1.9	1/2	○		○		橙	2面P30 白針
352	陶器	渥美 片口鉢	—	—	[6.3]	口小～ 体片					灰	2面P31 内外面煤付着
353	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	7.5	1.3	ほぼ完形	○		○		黄灰	2面P33 白針
354	土器	ロクロ かわらけ・小	(11.5)	(9.0)	2.2	1/3	○				黄灰	2面P33 白針 口縁部打ち欠き、擦り痕、煤付着
355	土器	南伊勢系 土鍋	—	—	[10.3]	口小～ 体片					黄灰	2面P35 2面P106で同一個体出土カ
356	石製品	用途不明	長さ (3.5)	幅 (1.9)	厚さ (0.3)	不明					黄灰	2面P35 石英質 二次加工途中カ
357	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.9	狭端面 両側面欠損					灰白	2面P35 八幡宮斜格子目ABに類似
358 了	磁器	龍泉窯系青磁 鏡蓮弁文碗	—	—	[2.2]	口小片					青緑 透明	2面P38 大宰府Ⅱ類
図76 2面遺構出土遺物(18)												
358 イ	瓦	平瓦	—	—	厚さ 3.1	狭端面 片側辺					暗灰	2面P39 永福寺女瓦A類 白色粒
359	土器	ロクロ・小	(7.1)	(5.0)	1.8	口小～ 底1/6	○		○		黄橙	2面P40
360	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[3.5]	底小片					灰褐	2面P40 底部外面に木葉痕
361	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					灰	2面P40 永福寺女瓦A類 黒色粒・白色粒
362	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.3	1.5	3/4	○		○		黄橙	2面土坑52 白針
363	土製品	かわらけ転用 円盤	直径 3.2	—	厚さ 0.8	完形					黄橙	2面P44
図77 2面遺構出土遺物(19)												
364	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(5.6)	1.3	1/4	○		○		黄灰	2面P45 白針
365	土器	ロクロ かわらけ・小	9.5	7.4	1.6	1/2	○				橙	2面P45 白針
366	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.6	1/4	○				橙	2面P45 白針 口縁部内外煤付着
367	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[3.5]	口小片					緑灰	2面P45 368と同一個体カ
368	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[4.0]	底小片					緑灰	2面P45 367と同一個体カ

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナブ	ナラ状	板状	スコ状		
369	陶器	常滑 甕	—	(15.6)	[3.5]	底1/4					茶褐	2面P45 長石
370	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.2)	2.0	口小～ 底小1/4	○		○		黄灰	2面P46 白針
371	土器	ロクロ かわらけ・小	(10.8)	(7.8)	2.4	1/4	○				黄灰	2面P46 白針
372	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	2.0	ほぼ完形	○				黄橙	2面P46 白針 外面に墨書有り(判読不明)
373	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(8.0)	1.6	1/4	○		○		黄灰	2面P48 白針
374	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(6.4)	1.9	1/4	○		○		橙	2面P48 白針
375	陶器	瀬戸 平碗	—	—	[2.7]	口小片					緑灰	2面P50
376	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.8)	1.3	1/8	○				黄灰	2面P52 白針
377	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(5.4)	1.6	1/2	○		○		黄橙	2面P52 白針
378	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(6.8)	3.2	1/3	○		○		黄橙	2面P52 白針
379	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	10.4	2.6	3/4	○		○		黄橙	2面P55 白針
380	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(9.5)	2.8	1/4	○		○		橙	2面P55 白針
381	陶器	常滑 甕	—	—	[9.7]	口小～ 胴片					灰緑	2面P55 長石
382	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					灰褐	2面P55
383	瓦	軒平瓦	—	—	厚さ 3.4	瓦当部 欠損					黄灰	2面P55 白色粒 上外区幅2.0
384	土器	手づくね かわらけ・大	(12.0)	—	3.4	1/3	○				橙	2面P56 白針
385	磁器	龍泉窯系青磁 碗	—	6.0	[1.8]	体片～ 底完存					暗灰緑 半透明	2面P57 大宰府 I or II 類
386	土器	ロクロ かわらけ・小	9.2	7.2	1.7	完形	○				橙	2面P58 白針 口縁部に煤付着

図78 2面遺構出土遺物(20)

387	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(7.0)	1.4	1/6	○				黄橙	2面P59 白針 口縁部に煤付着
388	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.7	1.7	2/3			○		黄橙	2面P59 白針 口縁部一部打ち欠き、ケズリ
389	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	—	口小片					黒褐	2面P59 長石
390	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(5.7)	1.6	1/3	○		○		橙	2面P65 白針
391	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	7.2	1.9	ほぼ完形	○				黄橙	2面P65 白針
392	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	9.7	3.4	3/4			○		黄橙	2面P65 白針
393	磁器	白磁 口禿碗	—	—	[2.7]	口小片					灰白 半透明	2面P65 大宰府IX類
394	瓦質土器	坏	—	—	[2.9]	口小片					灰白	2面P65 輪花形
395	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.5	広端面 片側辺					暗灰	2面P65 黒色粒・白色粒
396	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[10.6]	口小～ 体片					灰	2面P70 長石
397	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	9.1	3.3	3/4	○		△		橙	2面P72 白針 内面に工具痕
398	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(5.8)	1.5	1/4	○		○		黄灰	2面P73 白針 内外面に煤付着
399	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[3.9]	口小片					暗灰	2面P73
400	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.4)	1.5	口小～ 底完存	○				黄橙	2面P77 白針 底部中央に焼成後の穿孔
401	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	—	3.2	ほぼ完形	○				橙	2面P77 白針 口縁部一部に煤付着
402	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.8	1.5	1/3	○		○		橙	2面P79 白針 内外面に煤面付着
403	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.4)	1.5	1/3	○		○		黄橙	2面P79 白針
404	常滑	常滑 甕	—	(14.1)	[6.7]	底1/2					赤褐	2面P82 長石
405	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.6]	口小片					灰褐	2面P82 河野I類(A類)

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ*	対ナリ状	板状	スコ状		
406	鉄製品	鍋カ	—	—	[3.0]	口小片					—	2面P82
407	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.8	広端面 両端欠損					灰褐	2面P85 白色粒
408	土器	手づくね かわらけ・大	(14.2)	—	3.5	1/2	○				橙	2面P88
図79 2面遺構出土遺物(21)												
409	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	7.0	1.6	完形	○		○		橙	2面P93 白針 口縁部打ち欠き 内底穿孔
410	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.3	1.3	ほぼ完形	○		○		黄灰	2面P93 白針
411	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.5	1.5	完形	○		○		黄橙	2面P93 白針 打ち欠き痕
412	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(7.4)	1.7	1/4	○		○		黄橙	2面P93 白針 口縁部に煤付着
413	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.6)	1.8	1/3	○		○		橙	2面P93 白針
414	土器	ロクロ かわらけ・大	12.0	7.6	2.5	4/5	○		○		黄橙	2面P93 白針 口縁煤付着
415	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.4)	3.2	2/3	○		○		橙	2面P93 白針
416	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(8.8)	3.3	1/3	○		○		黄橙	2面P93 白針
417	磁器	龍泉窯系青磁 錦蓮弁文碗	—	—	[2.4]	口小片					暗灰緑 透明	2面P93
418	磁器	龍泉窯系青磁 折腰皿	—	(6.0)	[2.7]	体片～ 底1/4					青灰 透明	2面P93 大宰府坏Ⅲ-1類
419	磁器	白磁 口禿皿	(10.0)	(6.5)	1.9	1/8					淡青灰 透明	2面P93 大宰府Ⅸ類
420	陶器	常滑 甕	—	—	[6.4]	口小～ 胴片					暗灰	2面P93 長石 二次焼成受ける
421	陶器	産地不明 鉢	—	—	[5.0]	体片～ 底小					灰	2面P93 猿投産カ 内面摩耗
422	石製品	滑石鑄転用品 用途不明	長さ [6.3]	幅 [5.1]	厚さ 1.8	不明					黒灰	2面P93 温石カ
423	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.0)	1.6	口小～ 底1/4	○		○		黄橙	2面P94 白針
424	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.7)	2.8	1/3	○		○		黄橙	2面P94 白針
425	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(8.9)	3.3	1/4	○		○		橙	2面P94 白針
426	磁器	龍泉窯系青磁 錦蓮弁文碗	—	—	[3.0]	口小片					灰緑-フ 透明*	2面P94 大宰府Ⅱ類
427	陶器	常滑 壺	(10.0)	—	[7.8]	口1/3					暗褐	2面P94 白色粒
428	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.6	筒部					灰	2面P94 永福寺男瓦A類
429	磁器	青白磁 合子蓋	—	—	[1.6]						水青 透明	2面P95
430	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.0	1.5	ほぼ完形	○		○		黄灰	2面P96 白針
431	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.4)	1.5	1/4	△		○		黄橙	2面P96 白針 口縁部に煤付着
432	陶器	常滑 甕	—	—	[5.8]	口小～ 胴片					赤-フ	2面P96 5型式
図80 2面遺構出土遺物(22)												
433	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.8	広端面 片側辺					灰	2面P98 永福寺女瓦CorD類 黒色粒・白色粒
図81 2面遺構出土遺物(23)												
434	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.6	1.6	1/2	○		○		橙	2面P99 白針
435	陶器	泉州窯系 盤	—	—	—	底小片					灰緑	2面P99
436	陶器	常滑 甕	—	—	[7.7]	口小～ 胴片					暗赤褐	2面P99 5型式 長石
437	磁器	白磁 水滴	—	(6.2)	[16.2]	胴片						注口、取手部接合せず
438	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.2)	1.9	2/3	○		○		橙	2面P101 白針
439	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.6)	1.6	2/3	○		○		黄橙	2面P101 白針
440	陶器	常滑 甕	—	—	[6.5]	口小～ 胴片					暗灰	2面P101 5型式
441	陶器	常滑 甕	—	—	[7.8]	口小～ 胴片					灰褐	2面P101 5型式

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナテ状	板状	スコ状		
442	陶器	渥美 甕	—	—	[7.5]	口小～ 胴片					暗灰	2面P101
443	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.4	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面P105 白針
444	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(5.0)	1.7	1/2	○		○		黄橙	2面P105 白針
445	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.2)	1.9	1/4	○		○		黄橙	2面P105 白針
446	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.8)	3.3	3/4	○		○		黄橙	2面P105 白針
447	陶器	尾張型 片口鉢	—	—	[5.0]	口小片					灰	2面P105 長石
448	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(9.0)	2.7	1/4	○		○		橙	2面P106 白針
図82 2面遺構出土遺物 (24)												
449	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	6.4	1.7	1/2	○		○		黄灰	2面P104 白針
450	瓦	軒平瓦	瓦当幅 4.6	内区幅 2.0	顎面幅 3.9	一部欠損					灰白～ 灰黒	2面P104上 外区幅1.4 下外区幅1.2 脇区幅0.9 連珠文(極楽寺GN03と同範or同類カ)
図83 2面遺構出土遺物 (25)												
451	瓦質土器	火鉢	—	—	[11.3]	口小～ 底小					黄褐	2面P02
452	瓦質土器	火鉢	—	—	[10.2]	口小～ 底小					黄褐	2面P03
453	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.6)	1.4	1/8	○		○		黄橙	2面P010 白針
454	陶器	渥美 甕	—	—	—	体片					灰	2面P010 白色粒・黒色粒
455	石製品	石英 火打ち石	長さ 2.5	幅 1.7	厚さ 1.3	完形					黄味 灰白	2面P010
456	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(7.1)	1.3	1/2	○		○		黄灰	2面P011 白針、砂質
457	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	広端面 片側辺					灰黒	2面P011 鶴岡八幡宮 I 期瓦と同類
458	石製品	滑石鍋	—	—	[5.3]	口小片					銀白	2面P015
459	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	2面P015 紹聖元寶(行書) 中国北宋代 1094年初鑄
460	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(9.3)	2.8	1/4	○		○		灰橙	2面P016 白針、砂質
461	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.8	厚さ 0.1	完形					—	2面P016 景祐元寶 中国北宋代 1034年初鑄
462	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.7)	1.7	1/3	○		○		橙	2面P018 白針
463	陶器	渥美・湖西型 山茶碗	—	—	[3.8]	口小片					灰	2面P018 図113-245(3面P014)と同一個体
464	陶器	尾張型 山茶碗	(15.6)	(6.9)	(4.9)	1/8					灰	2面P019 長石
465	鉄製品	釘	長さ 6.1	幅 0.3	厚さ 0.3	完形					—	2面P019
466	石製品	砥石	長さ [8.5]	幅 4.7	厚さ [3.2]	不明					暗灰	2面P022 中砥
467	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	2面P022 景口元寶

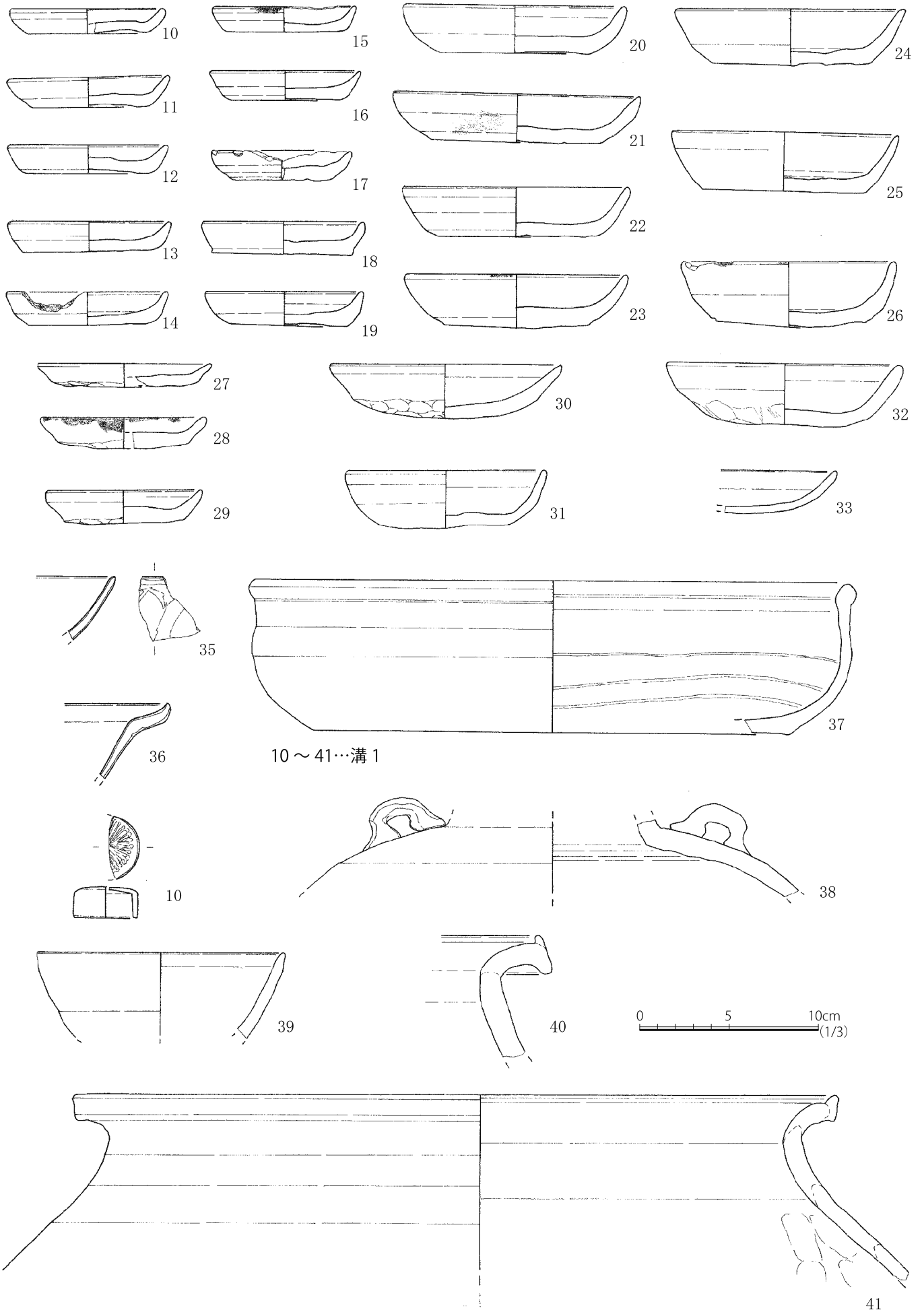


图 60 2面遺構出土遺物 (2)

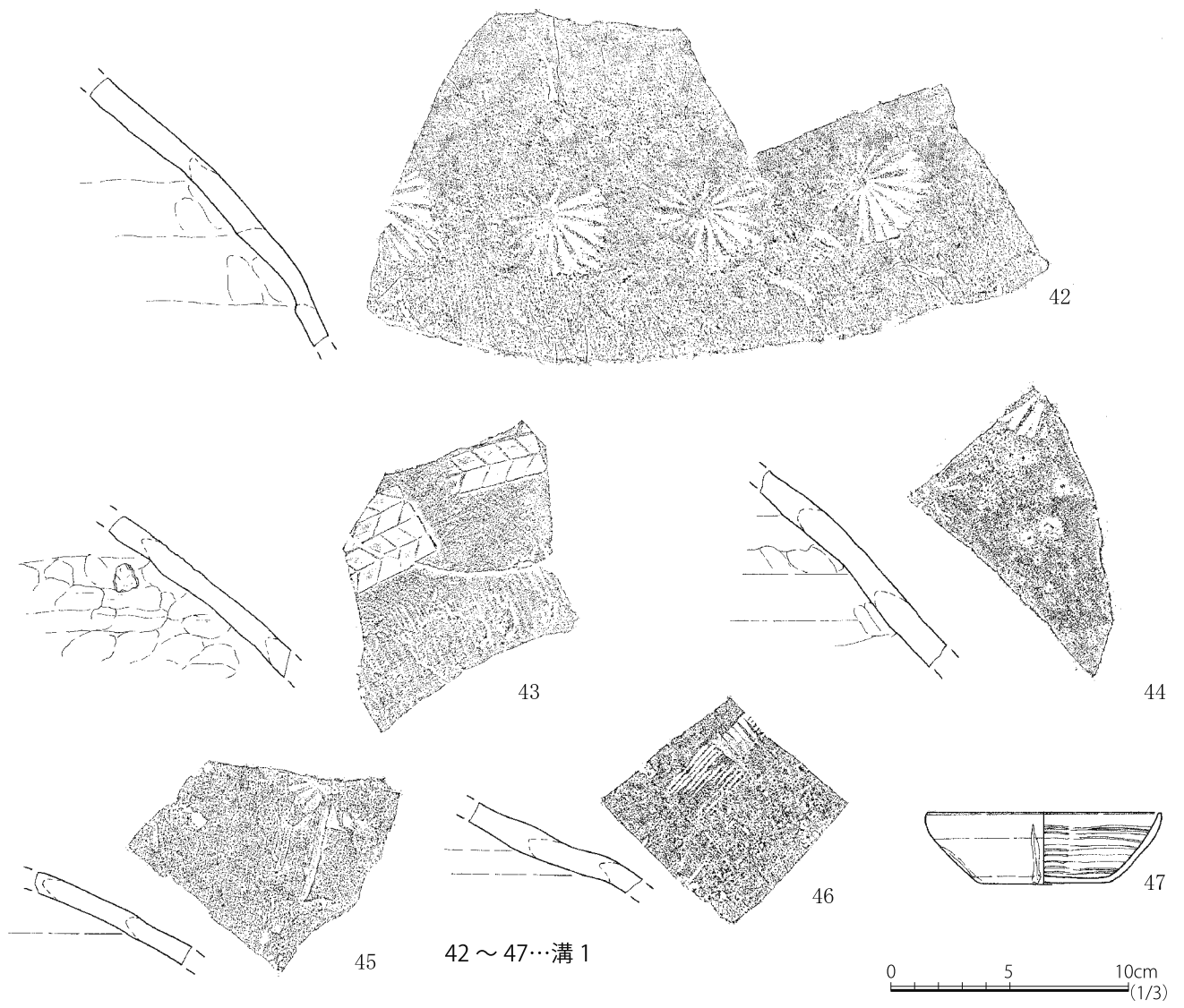


图 61 2面遺構出土遺物 (3)



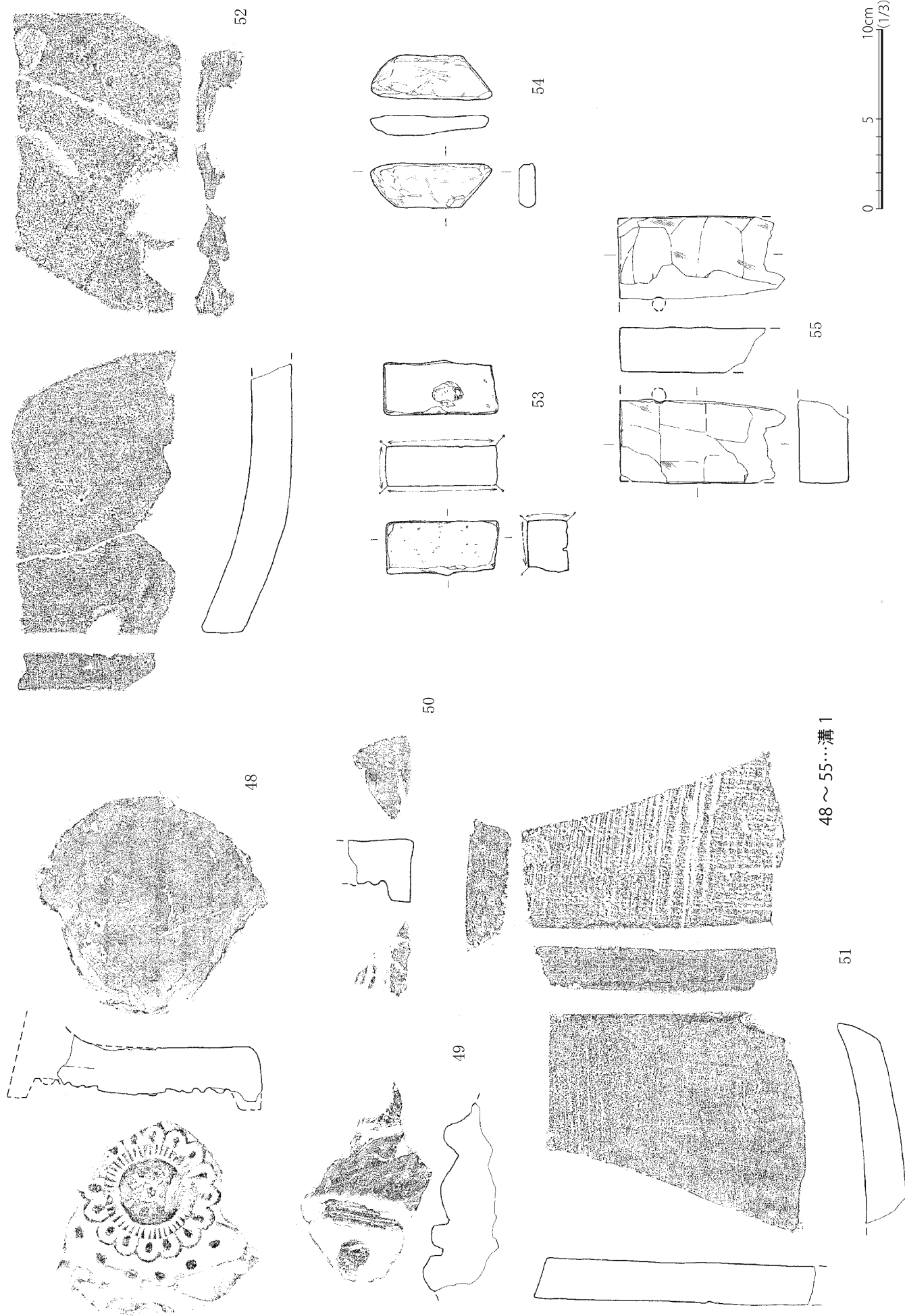


图 62 2面遺構出土遺物 (4)

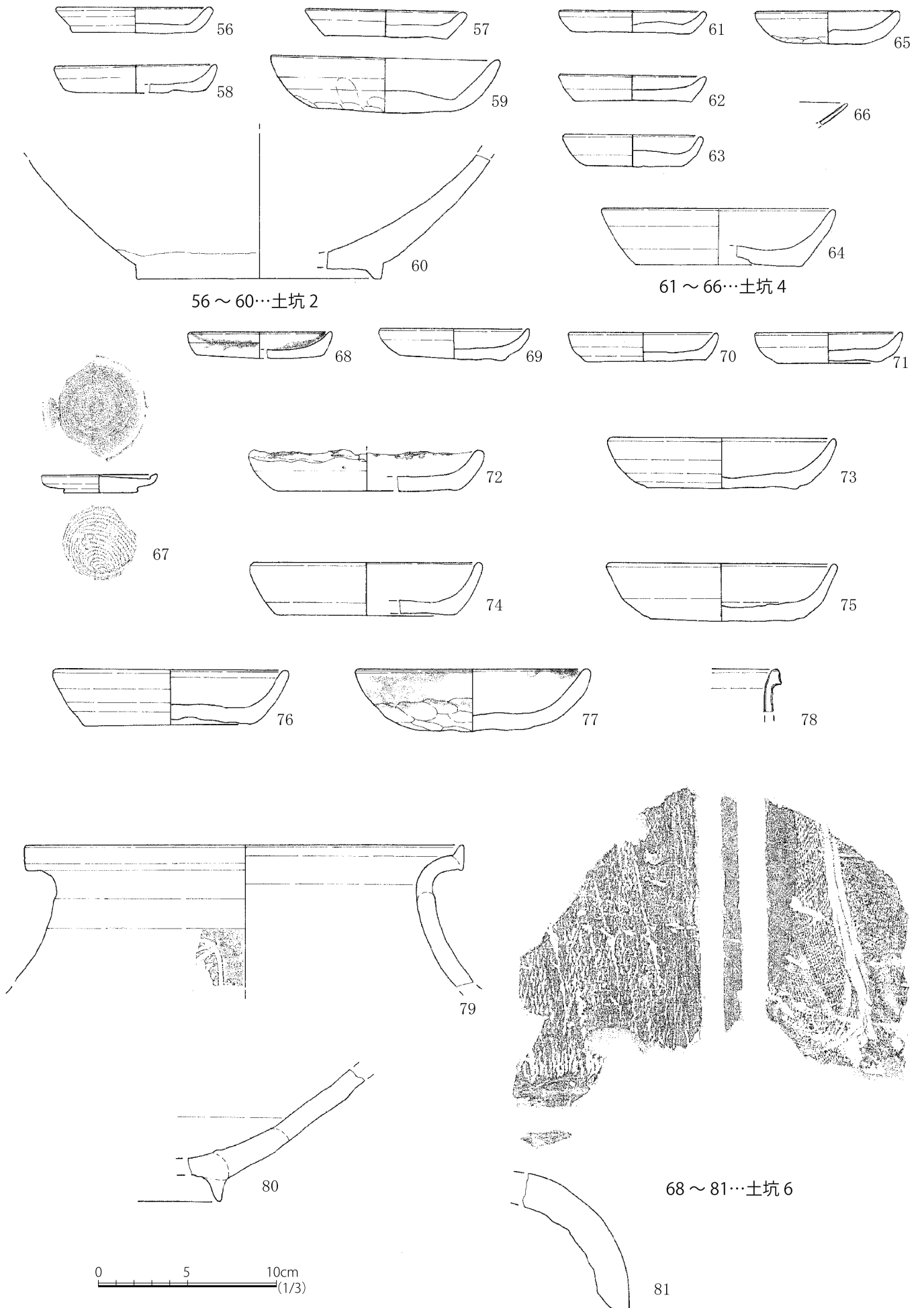
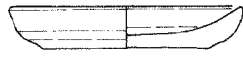


图 63 2 面遺構出土遺物 (5)



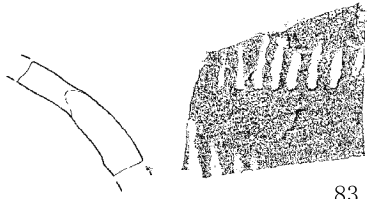
82



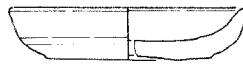
85



90



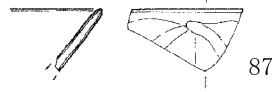
83



86



91



87

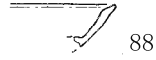


92

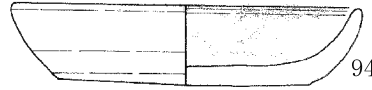


93

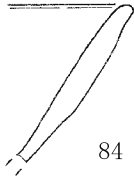
82·83…土坑7



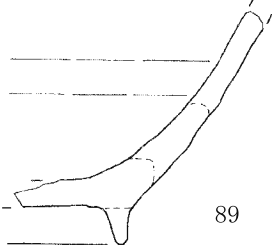
88



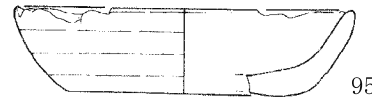
94



84



89



95

84…土坑8



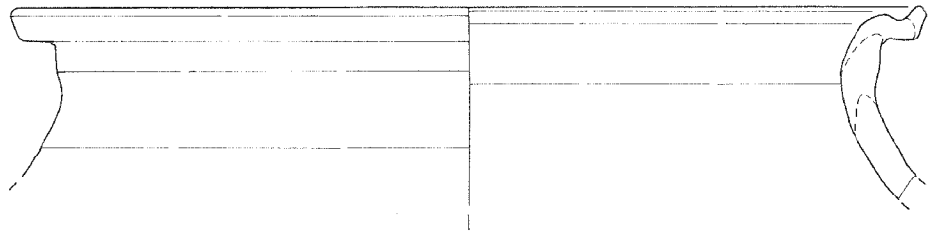
96

85~89…土坑10

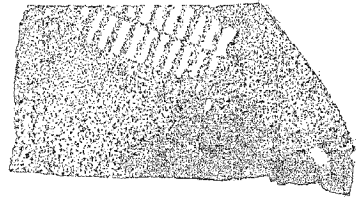
90~96…土坑11



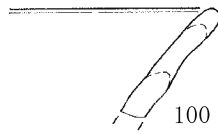
97



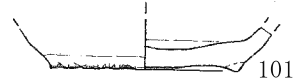
98



99

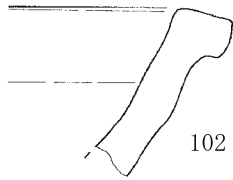


100



101

97~101…土坑14



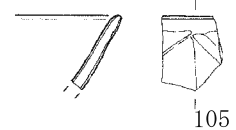
102



103

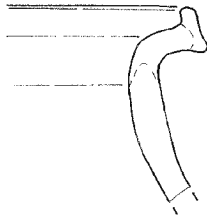


104

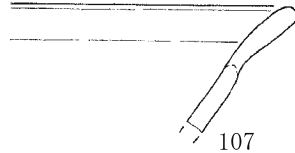


105

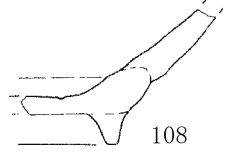
102…土坑18



106



107



108



109

103~108…土坑19

109…土坑22.

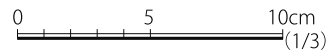


图64 2面遺構出土遺物(6)

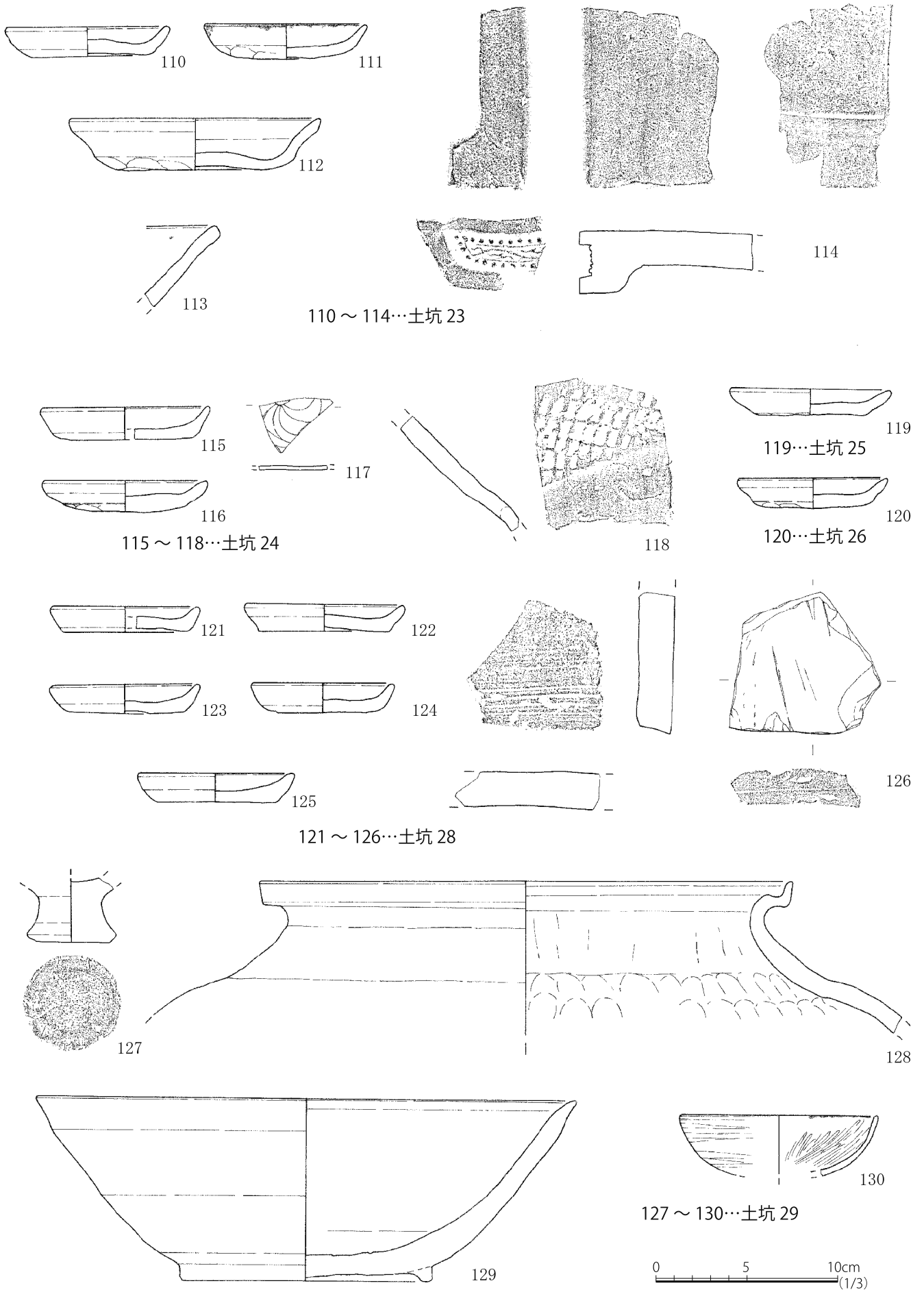


图 65 2 面遺構出土遺物 (7)

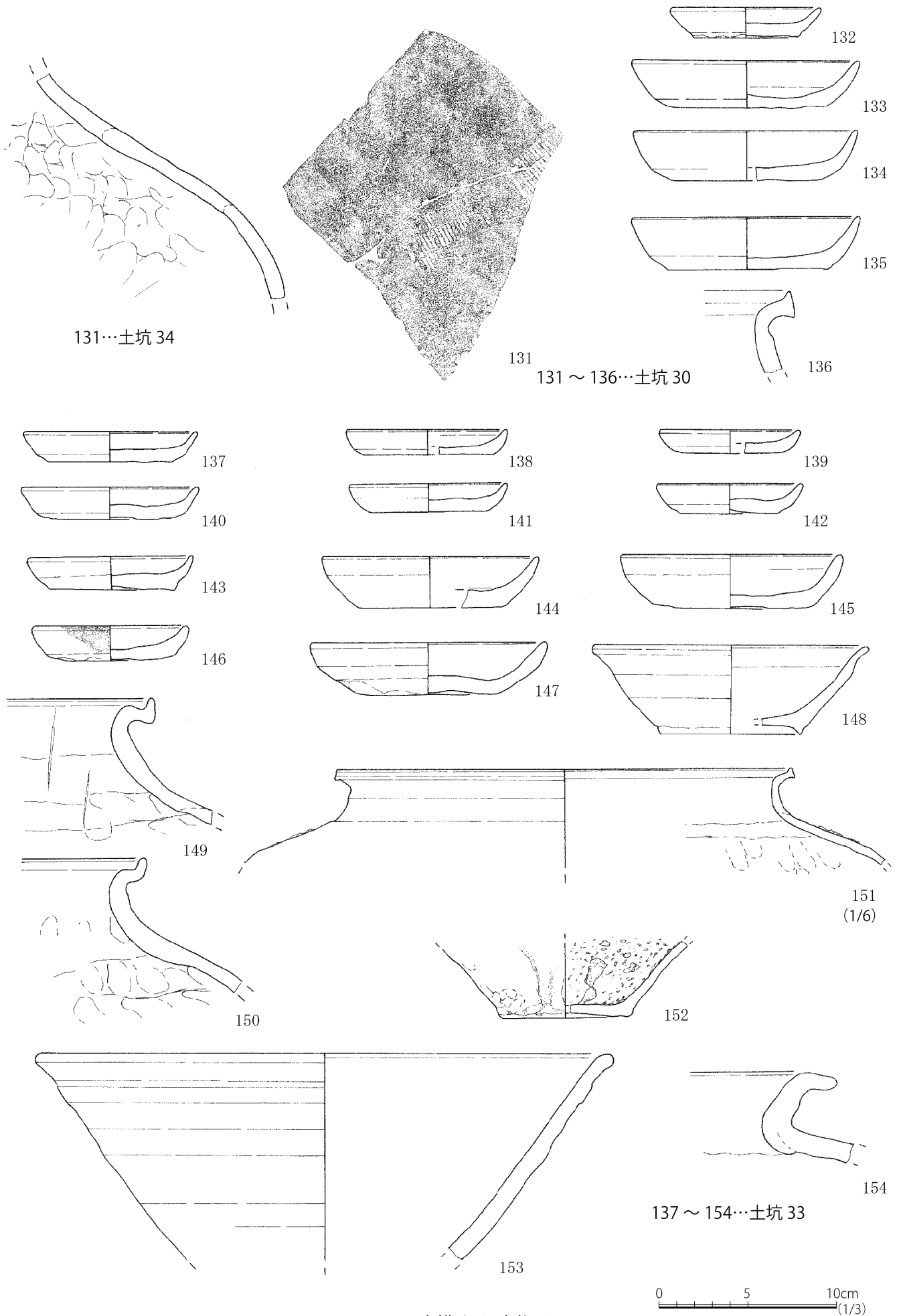


图 66 2 面遺構出土遺物 (8)

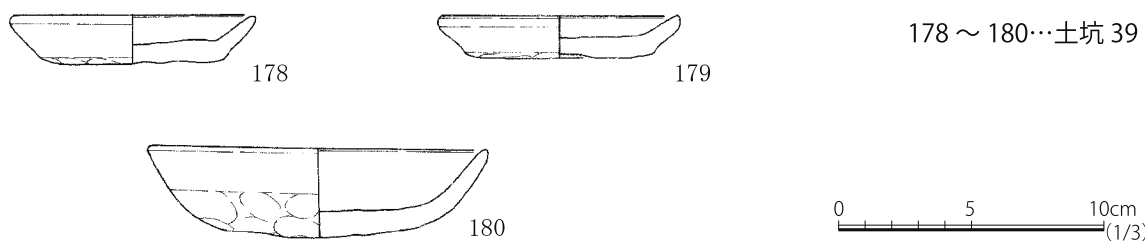
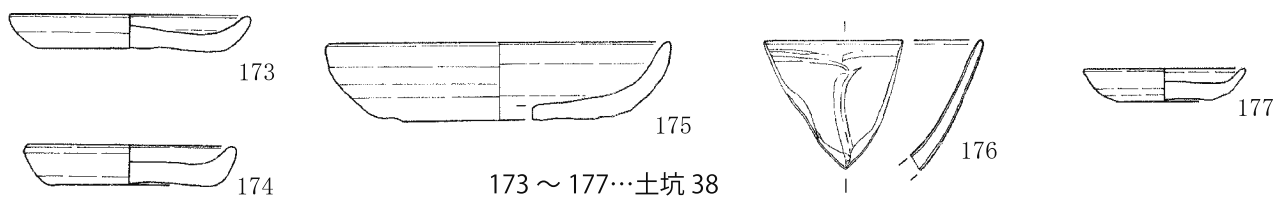
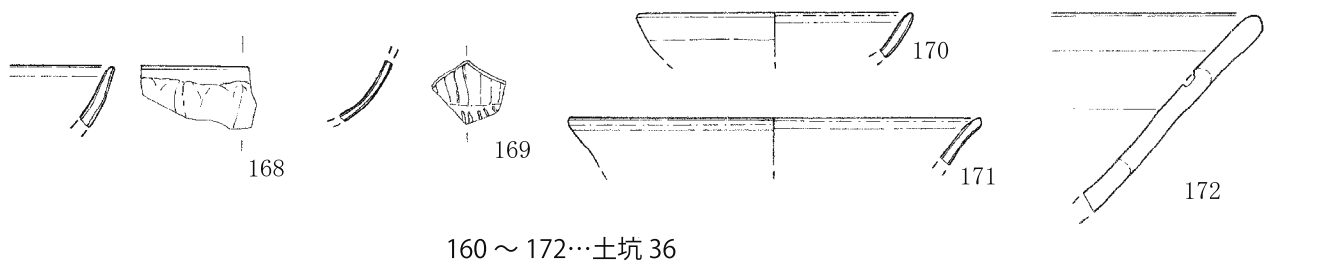
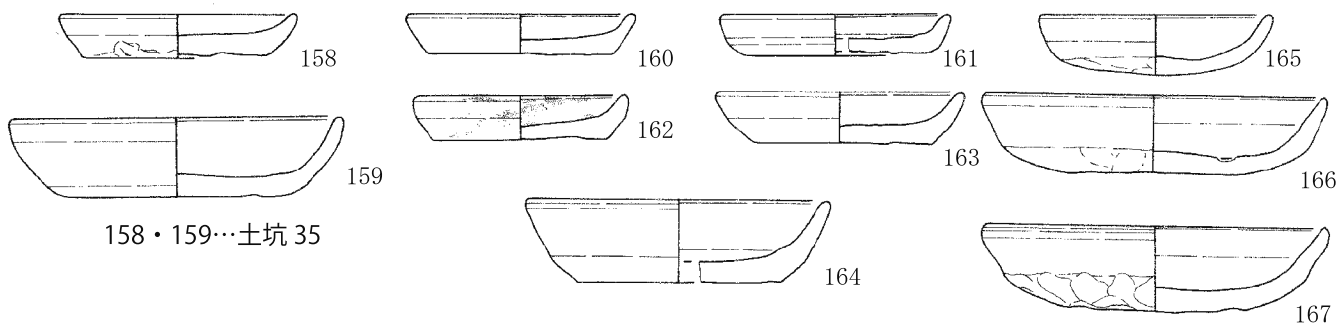
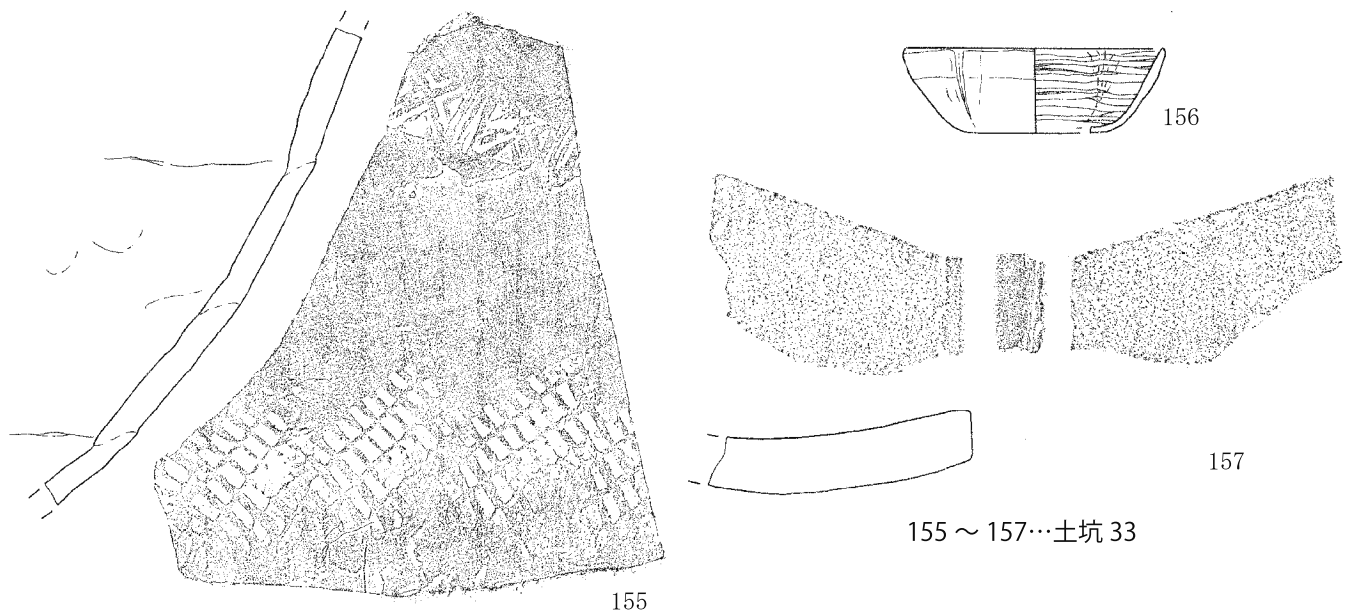


图 67 2 面遺構出土遺物 (9)

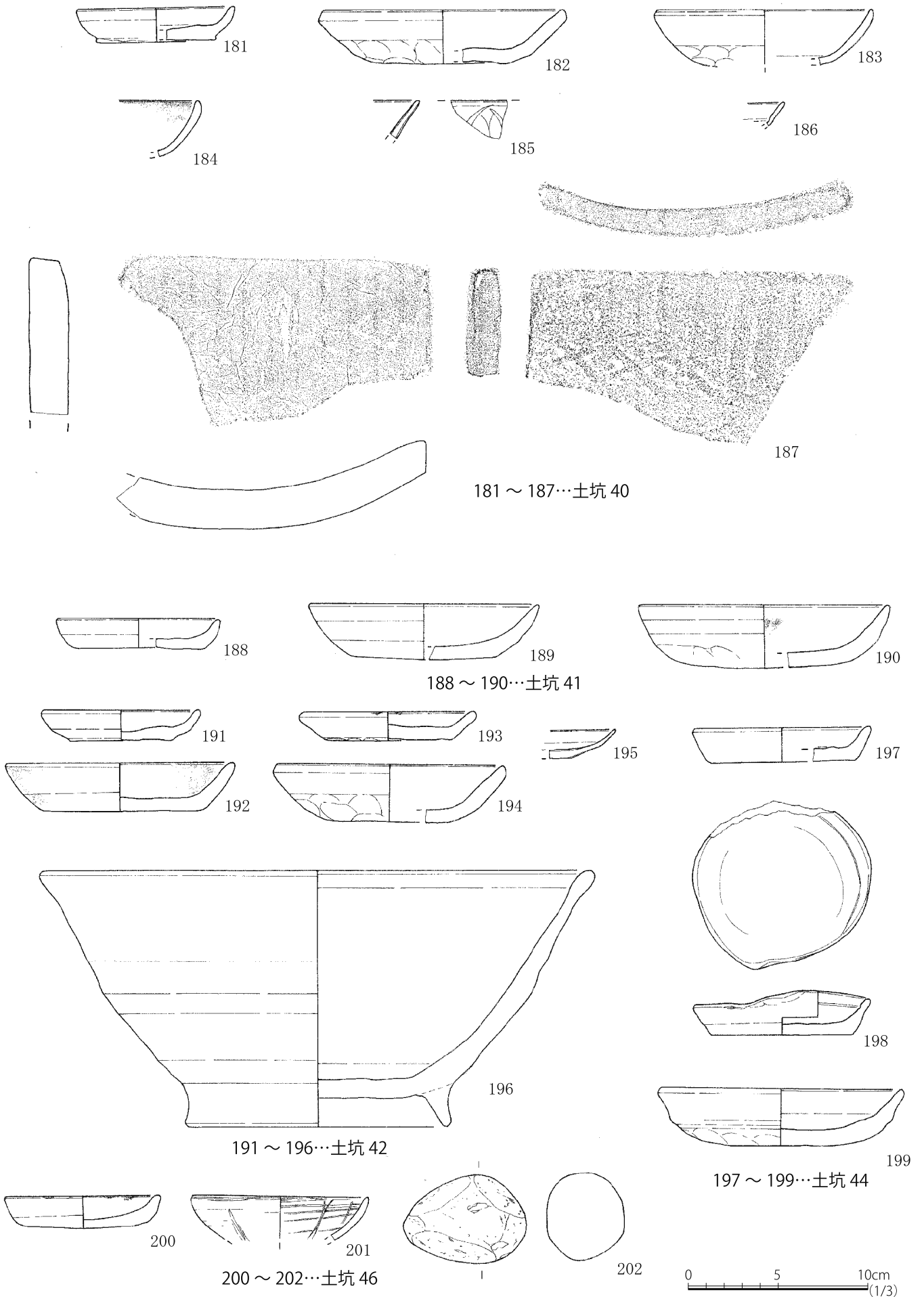
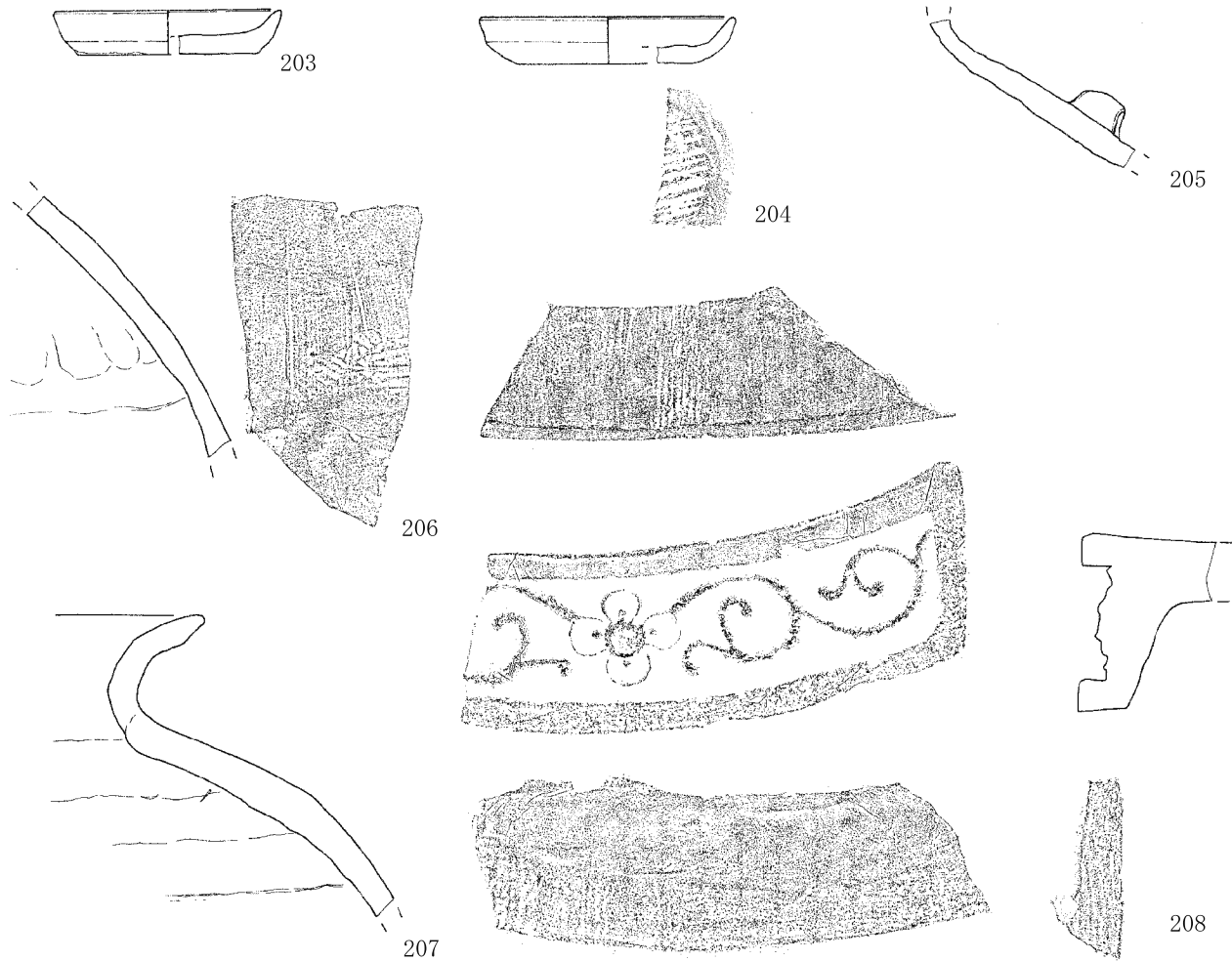
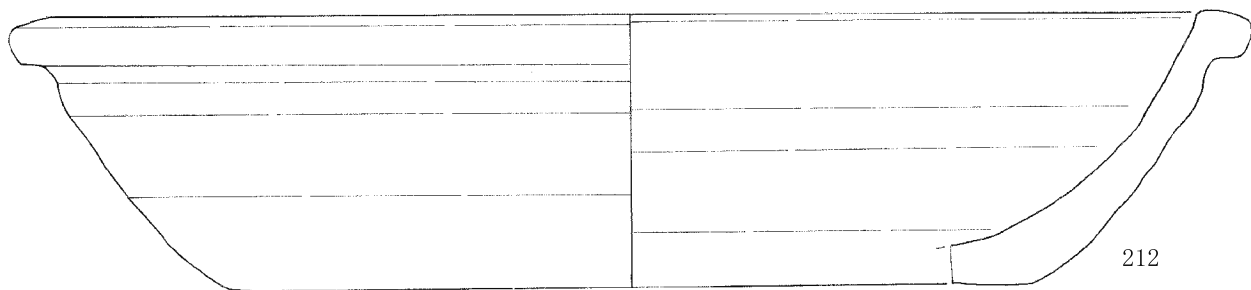
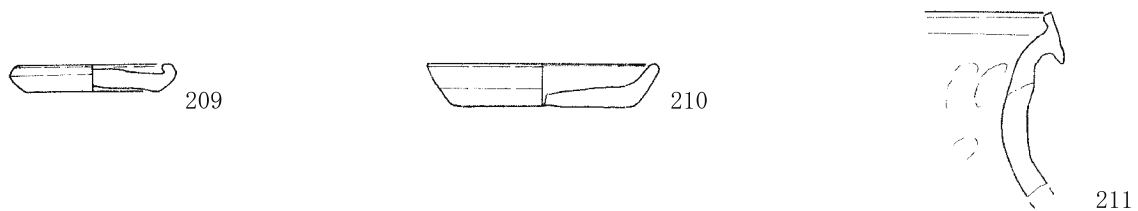


图 68 2 面遺構出土遺物 (10)



203 ~ 208...土坑 47



209 ~ 212...土坑 51

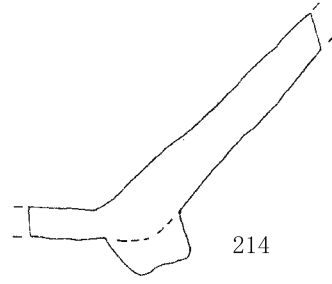
0 5 10cm  
(1/3)

图 69 2 面遺構出土遺物 (11)

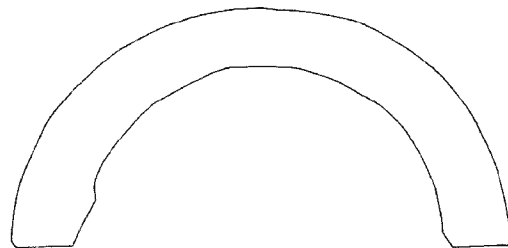
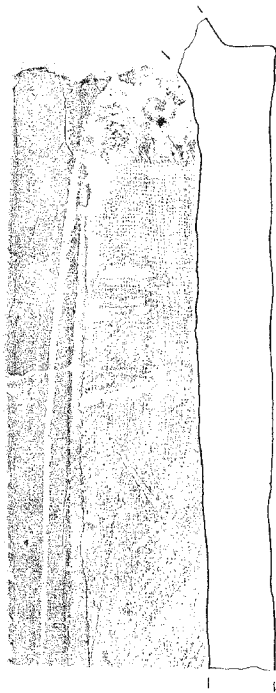
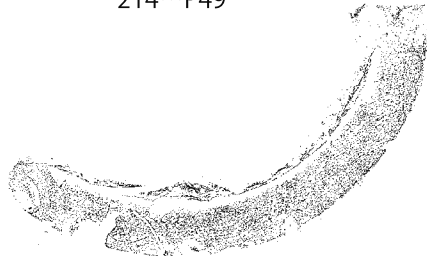




213...土坑 52

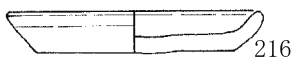


214...P49

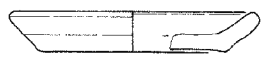


215

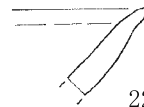
215 ~ 220...土坑 53



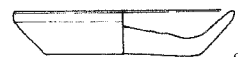
216



217



220



221

221...土坑 54



218



219

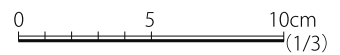


图 70 2 面遺構出土遺物 (12)

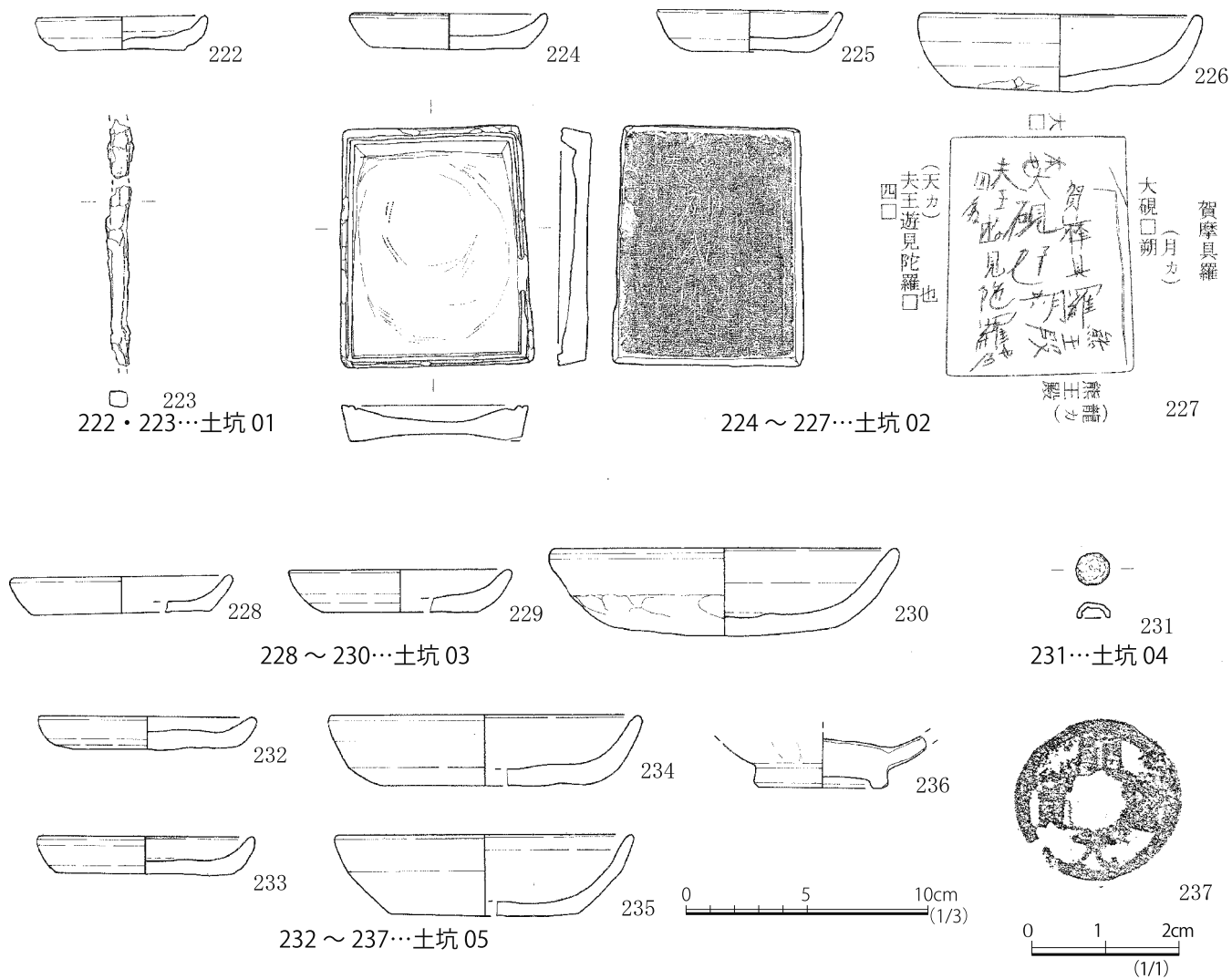


图 71 2 面遺構出土遺物 (13)

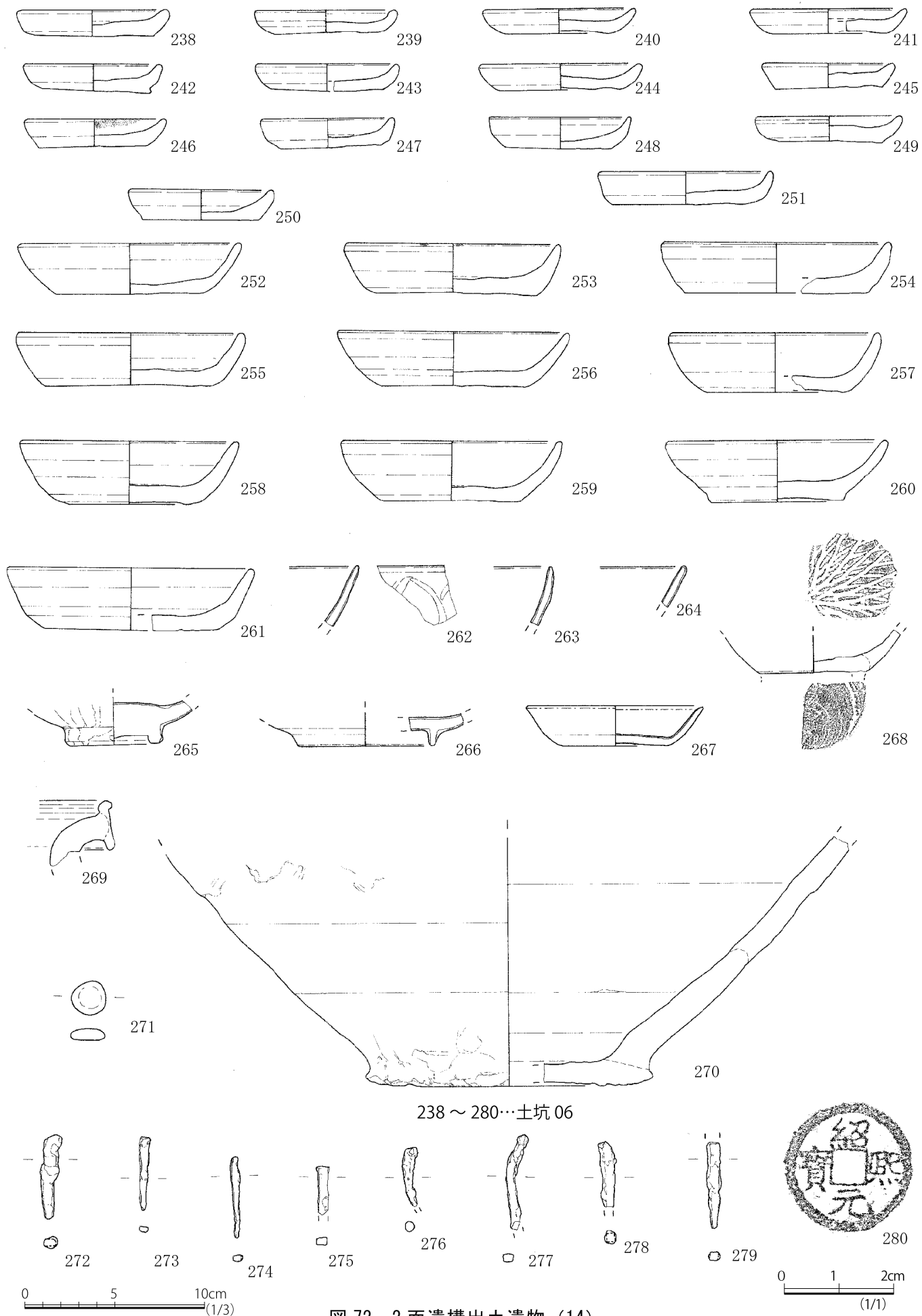


图 72 2 面遺構出土遺物 (14)

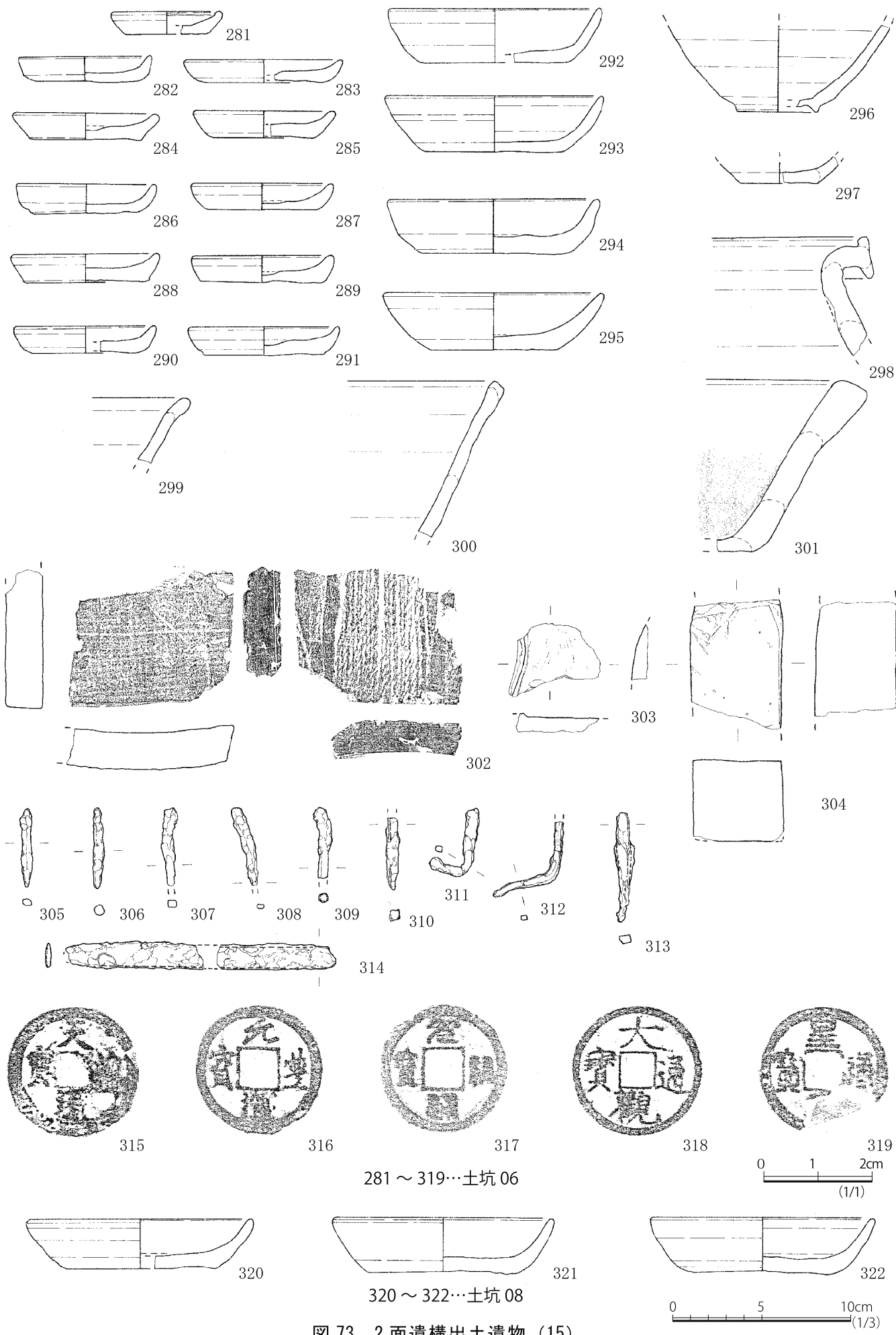


图 73 2 面遺構出土遺物 (15)

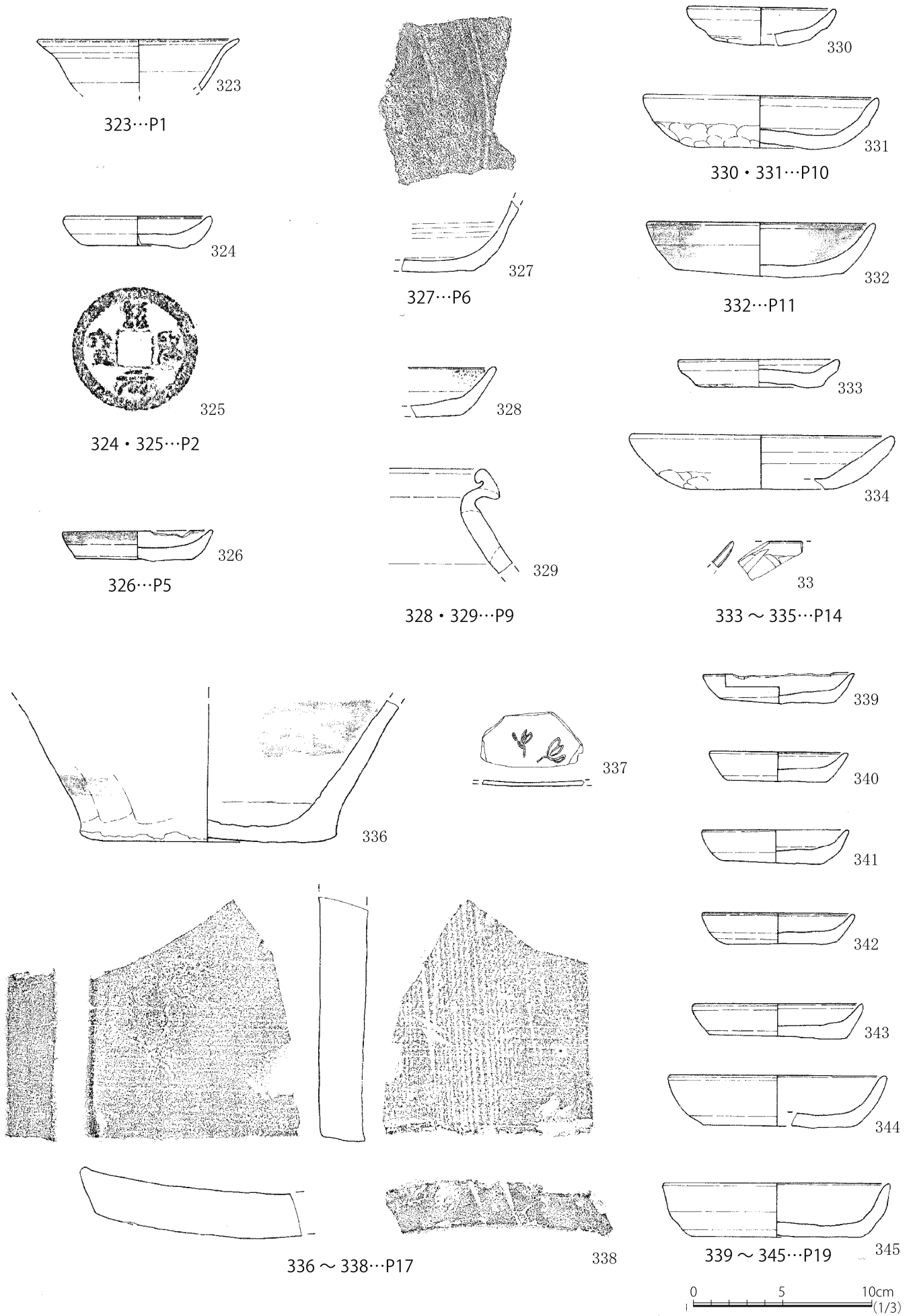


图 74 2面遺構出土遺物 (16)

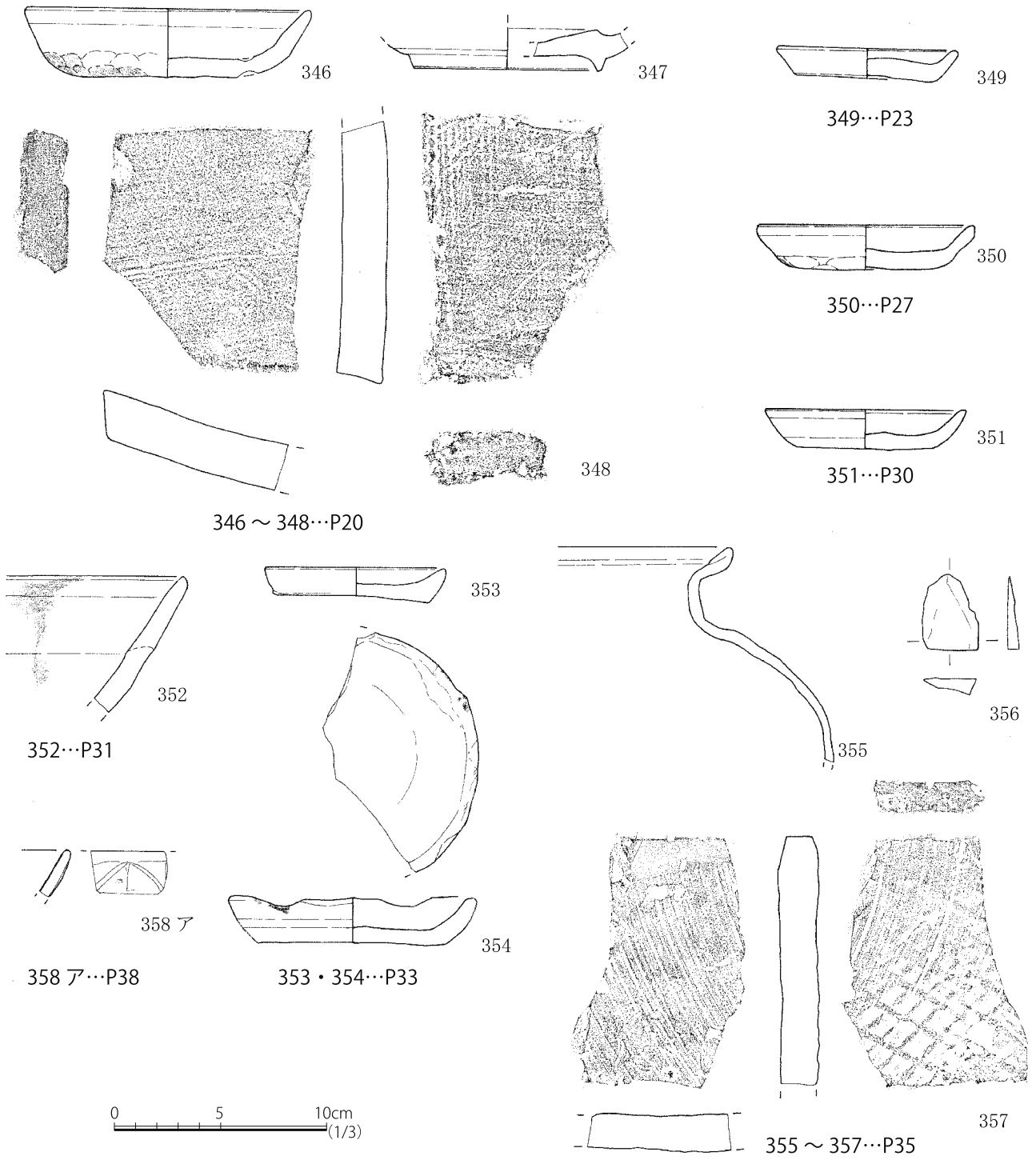


図 75 2面遺構出土遺物 (17)

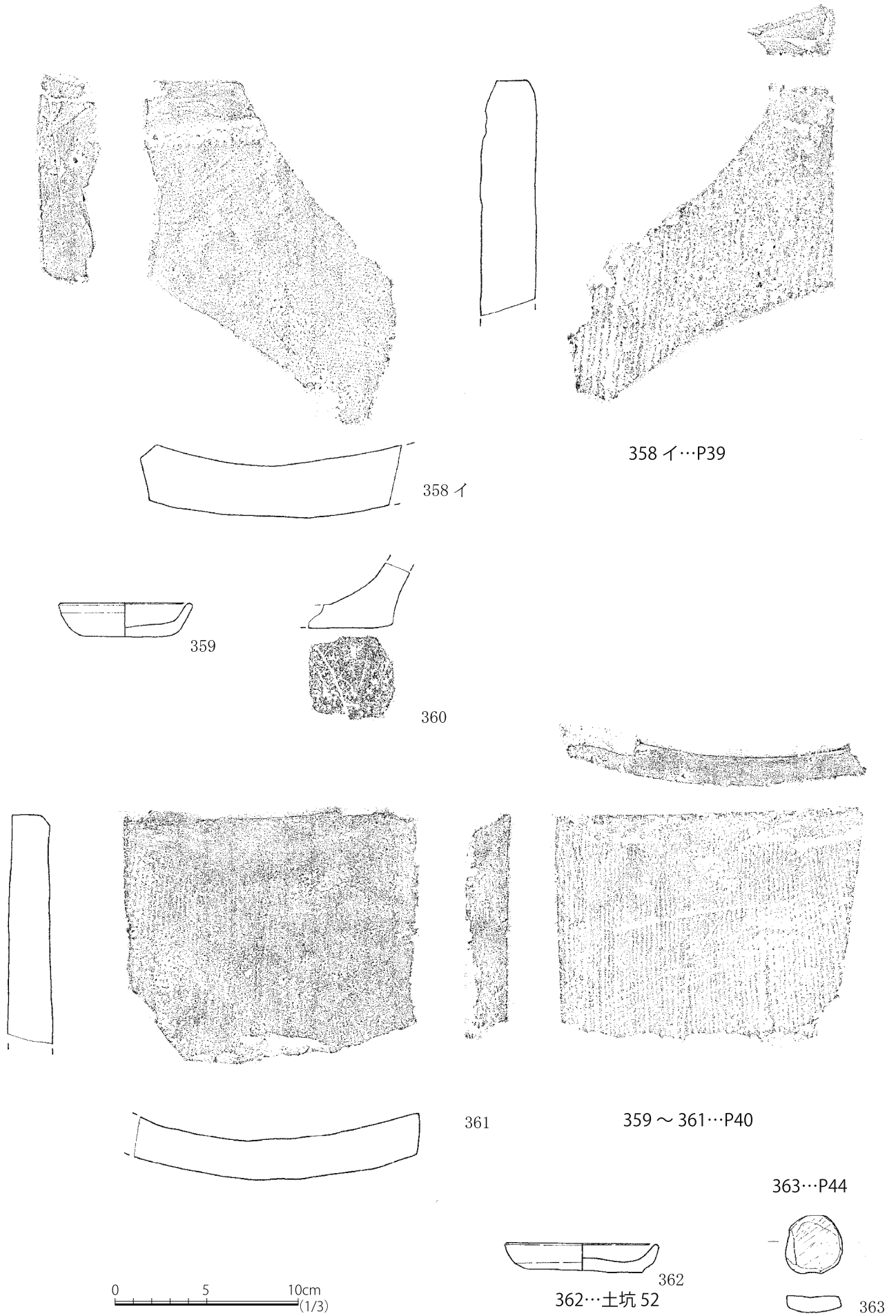


图 76 2 面遺構出土遺物 (18)

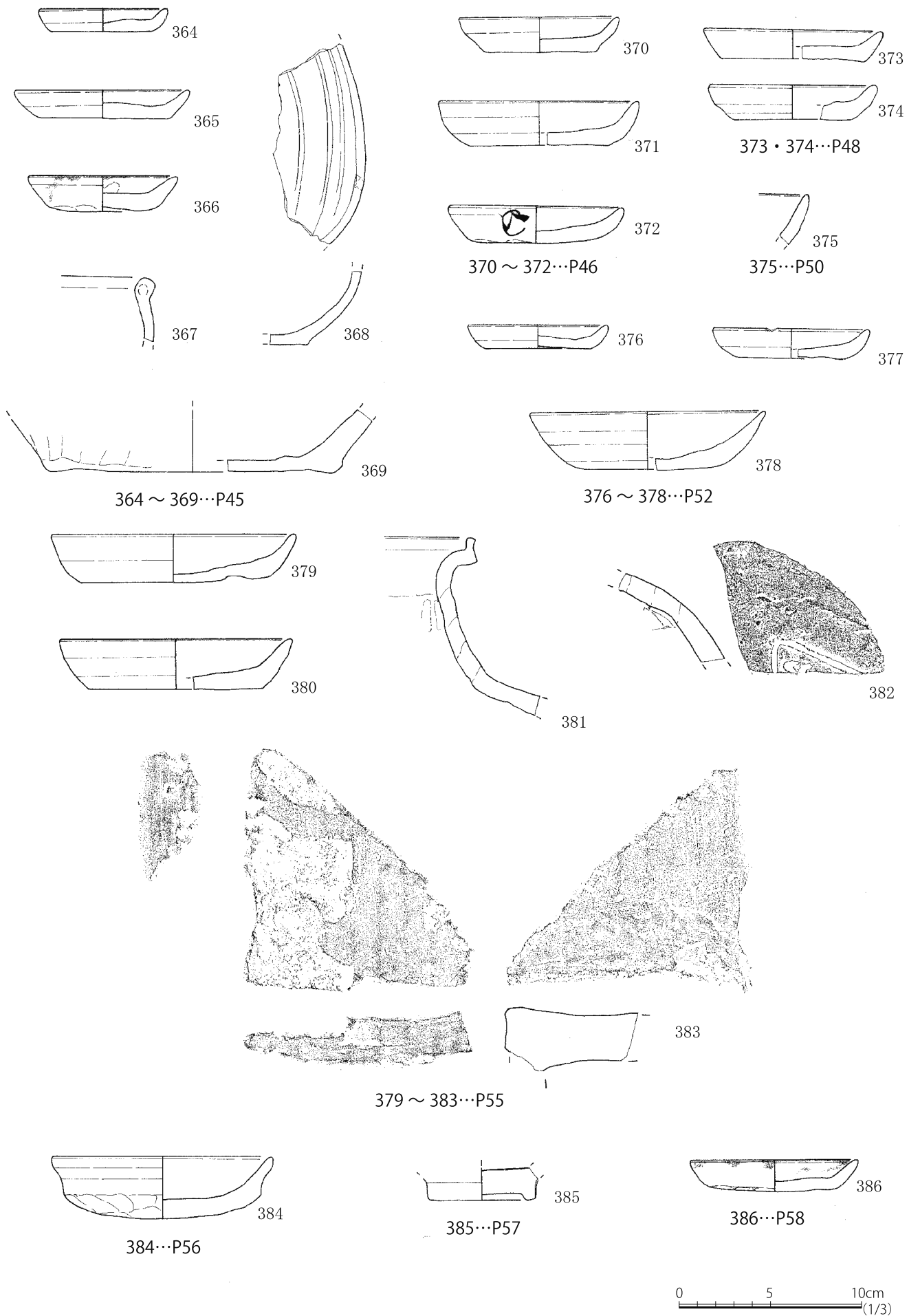


图 77 2 面遺構出土遺物 (19)



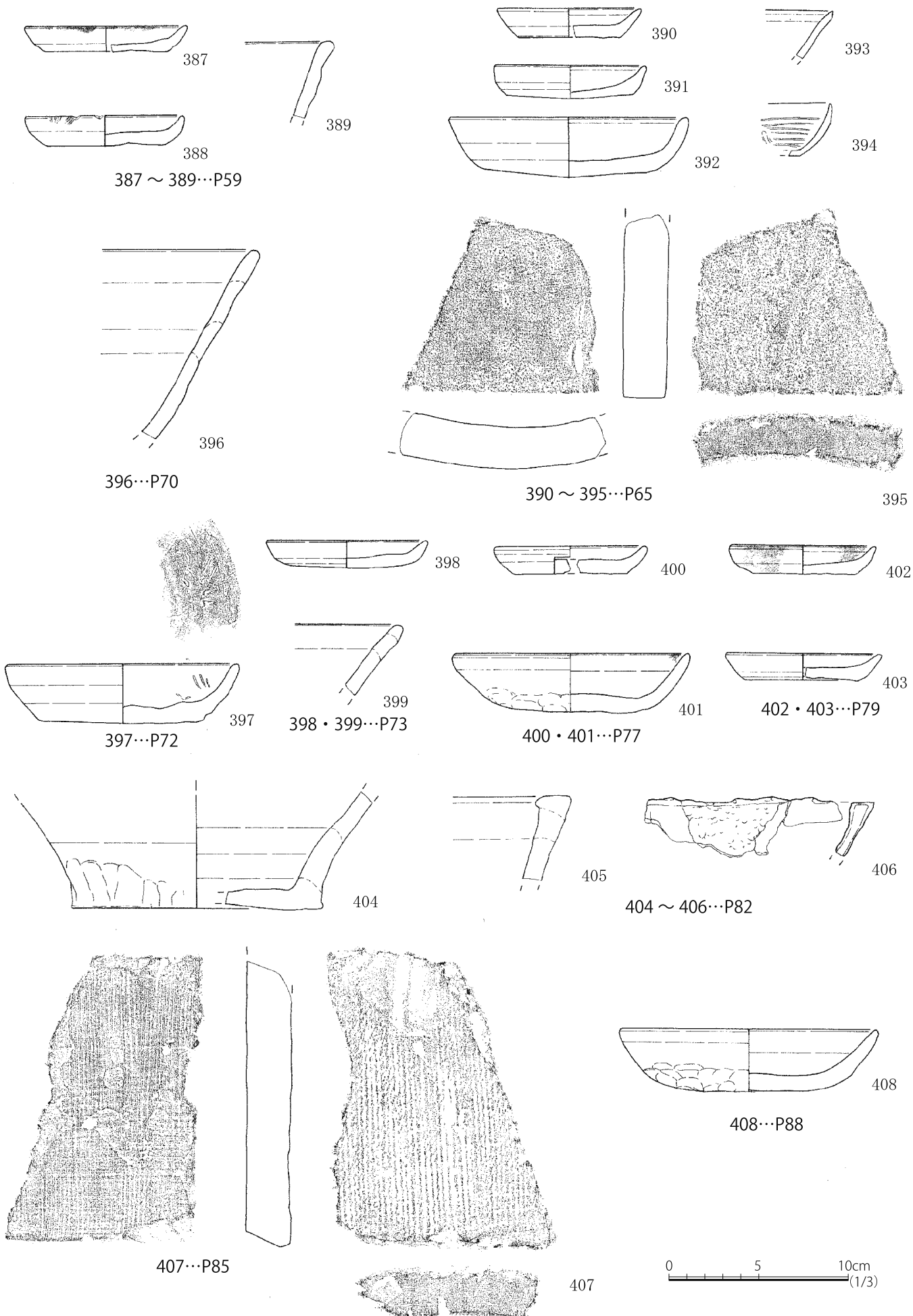
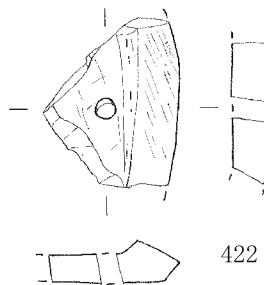
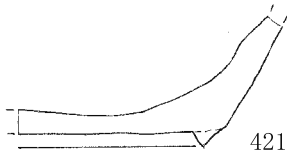
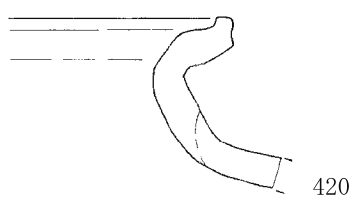
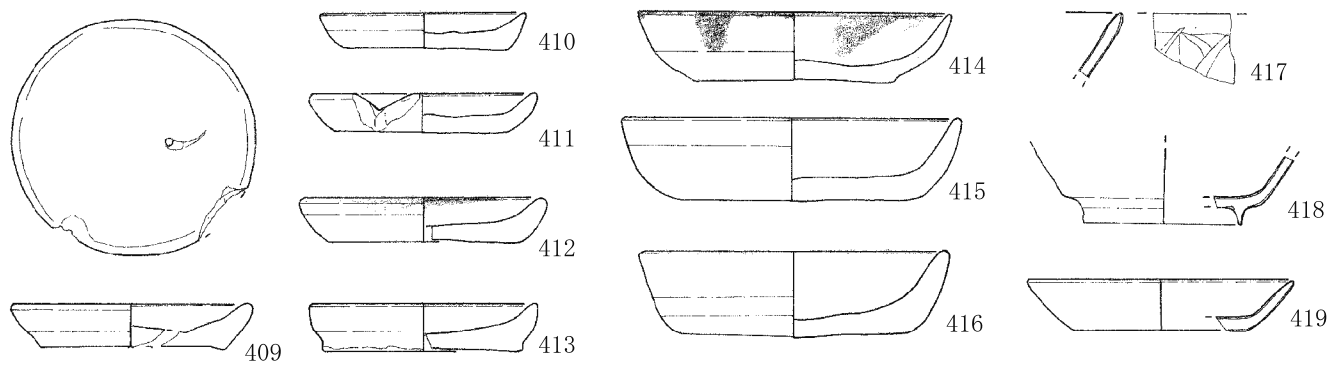
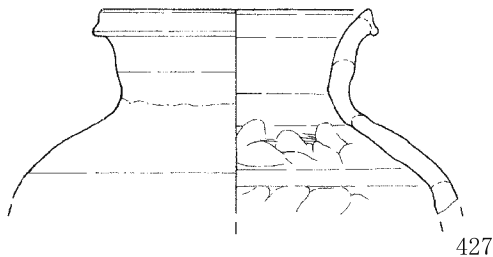
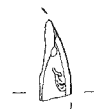
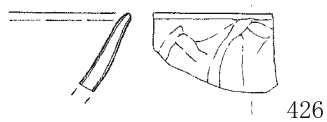


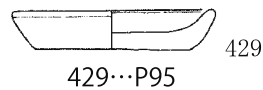
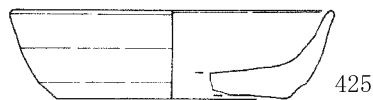
图 78 2 面遺構出土遺物 (20)



409 ~ 422...P93



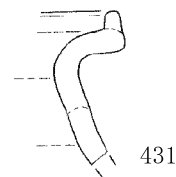
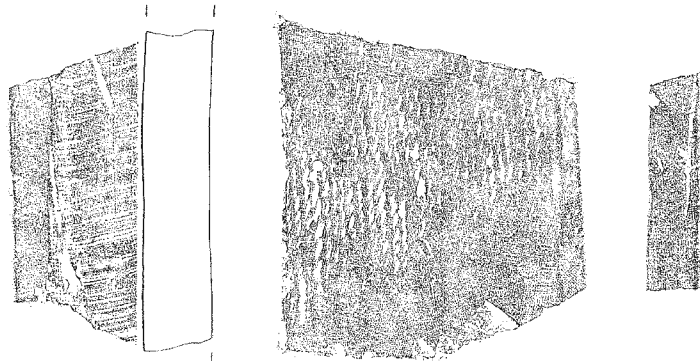
423 ~ 428...P94



429...P95

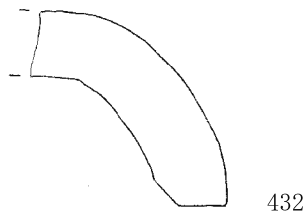


430



431

430 ~ 432...P96



432

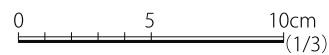


图 79 2 面遺構出土遺物 (21)

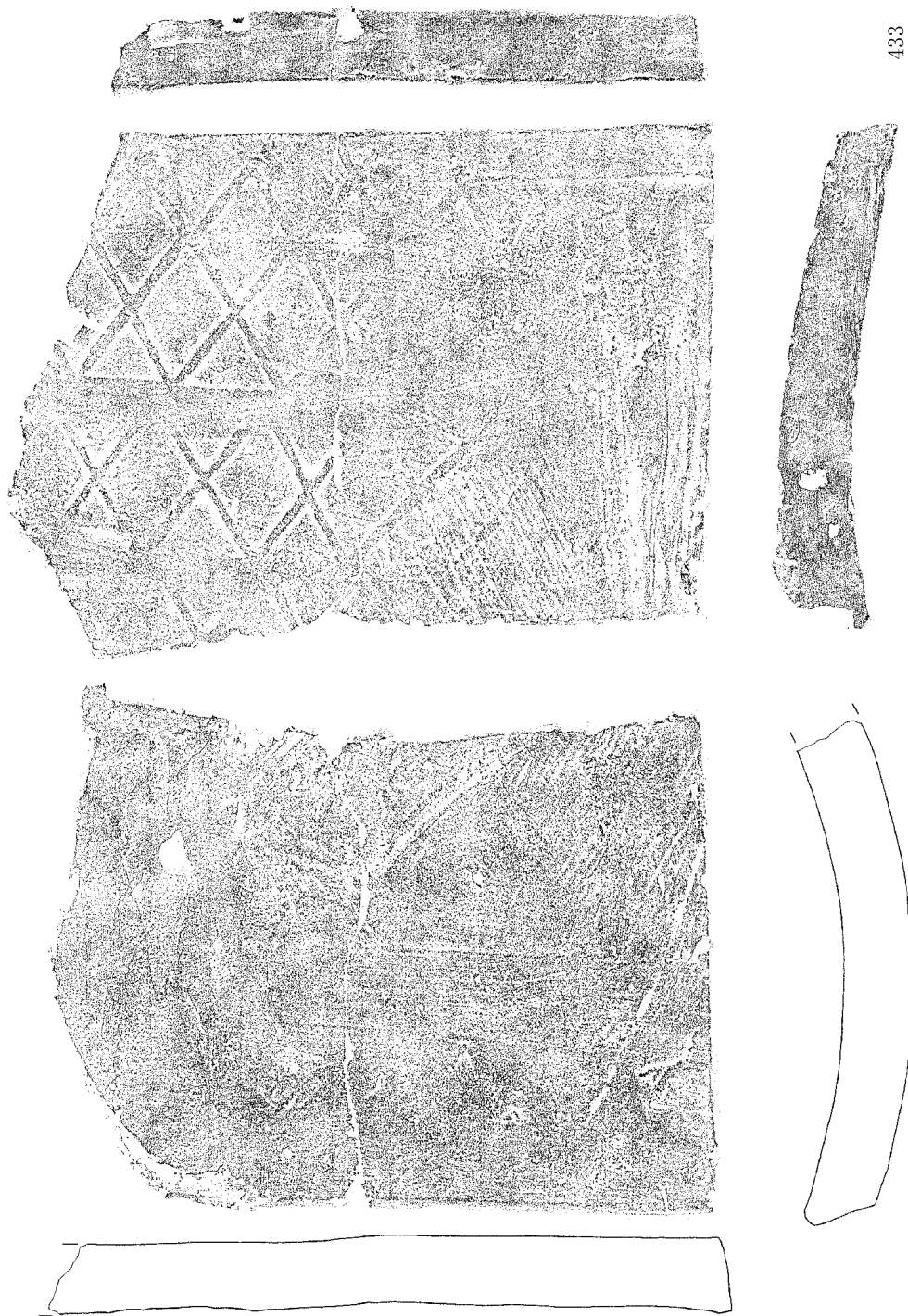


图 80 2 面遺構出土遺物 (22)

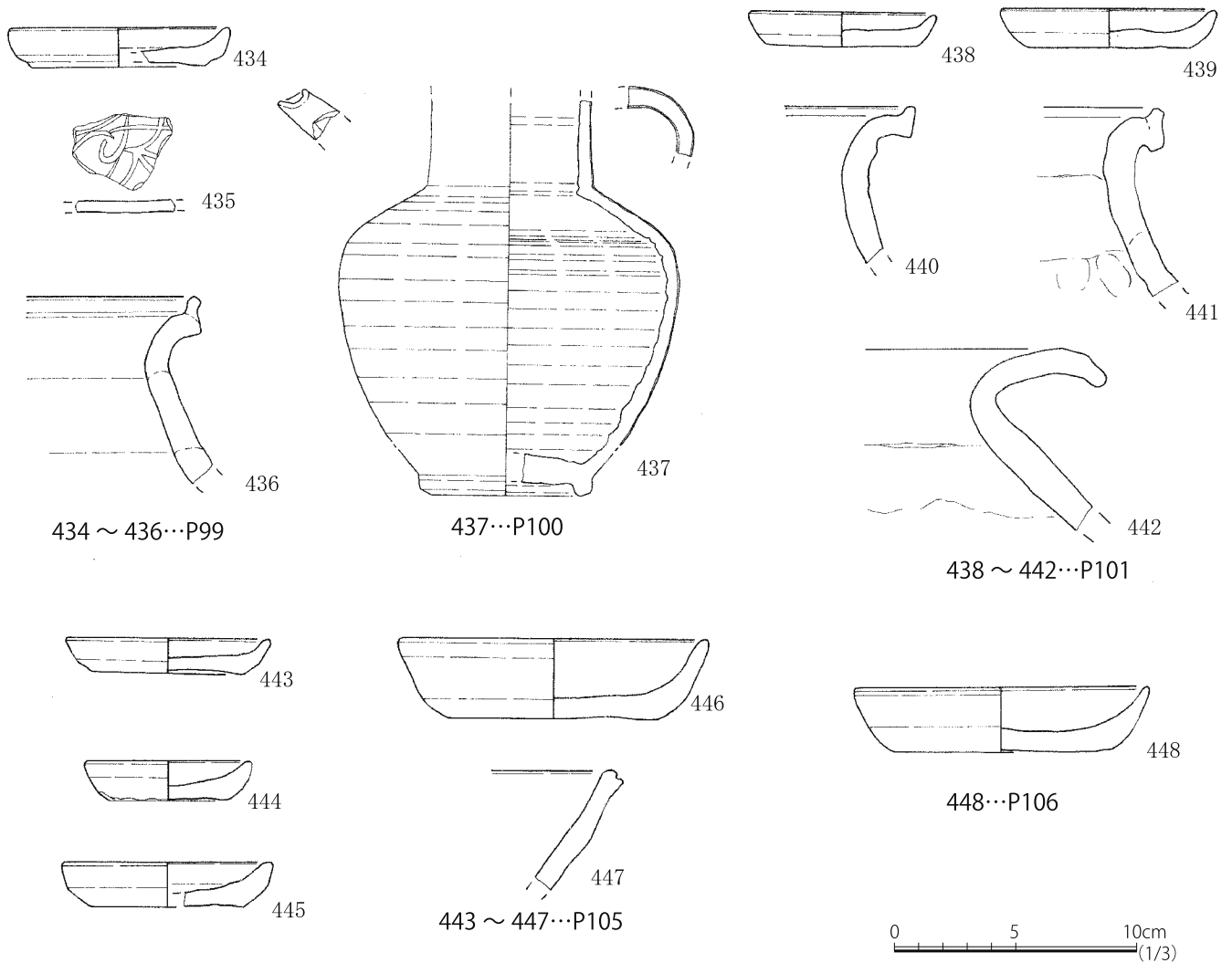


図 81 2面遺構出土遺物 (23)

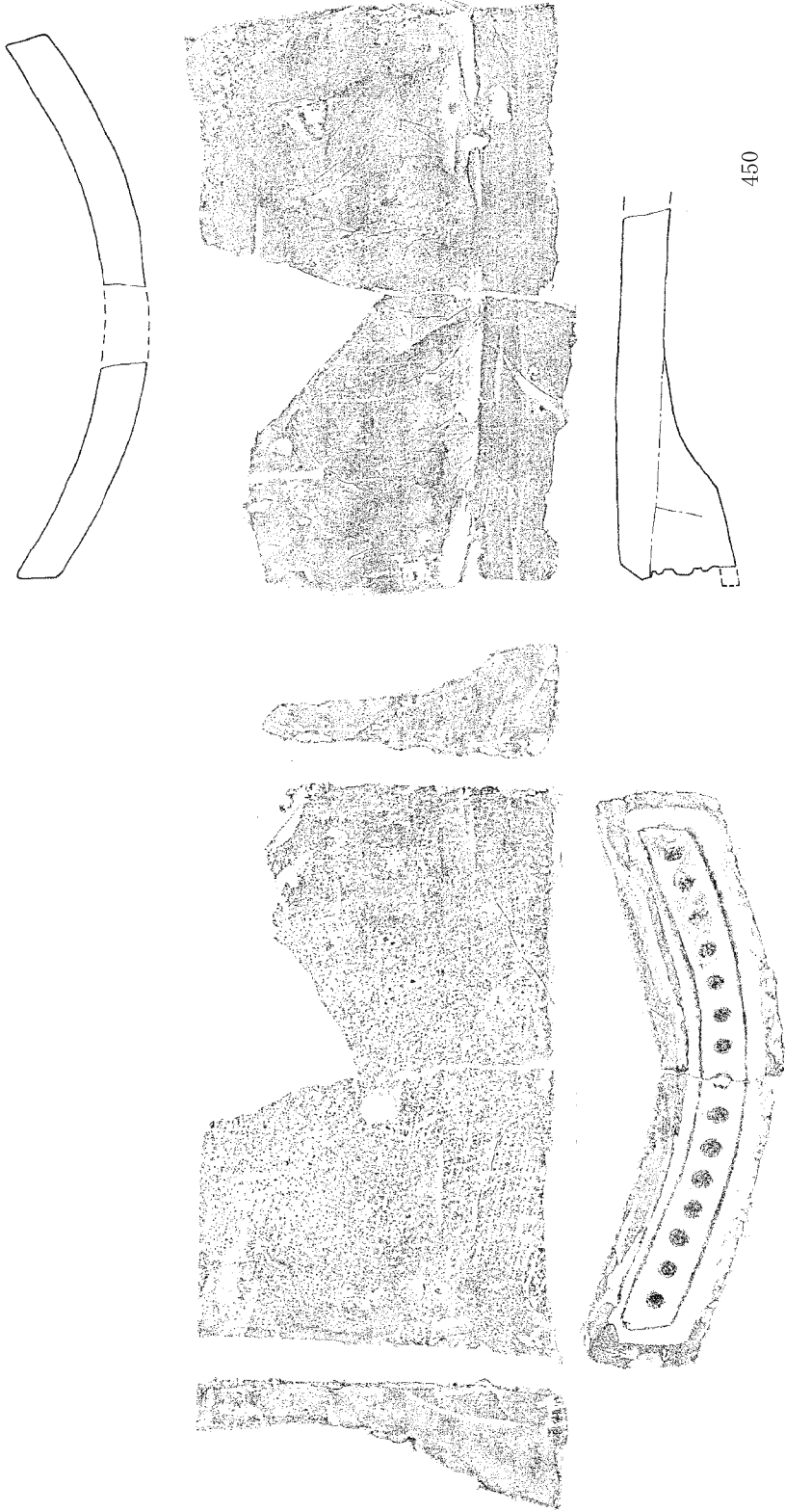
### 第5節 3面上の遺物 (図 84 ~ 93、表 6)

図 84 ~ 92 に 2 面下から 3 面まで掘り下げる際の出土遺物を、図 93 には 3 面直上の出土遺物を掲載した。2 面下掘り下げ時の資料では、かわらけはロクロ成形品が主体となる中、手づくね成形品も一定量が見られ、2 面段階に比べて確実に増加している。ロクロかわらけには中型品がなく、底広・低平な作りで手づくねの器形とに相関性が見られる。手づくねかわらけは、大・小ともに口縁端部の面取りナデを施さない個体が多い。舶載陶磁器は小片資料に限られるが、龍泉窯系青磁の碗・皿は I・II 類が占めている。常滑甕は 5 型式が大部分を占め、片口鉢は I 類が主体となる。瓦は永福寺 II 期の所用品を含む。全体としては 13 世紀第 2 四半期の遺物構成で、ごく僅かだが、これを下る要素も散見される。

3 面直上の出土遺物は掲載個体数が少ないため傾向を見出すには不十分だが、かわらけは手づくねの小皿のみ、瓦は永福寺 I 期平瓦のみの掲載となった。大きく捉えて、13 世紀前半の遺物様相を示していよう。



449



450

449・450…P104



图 82 2 面遺構出土遺物 (24)

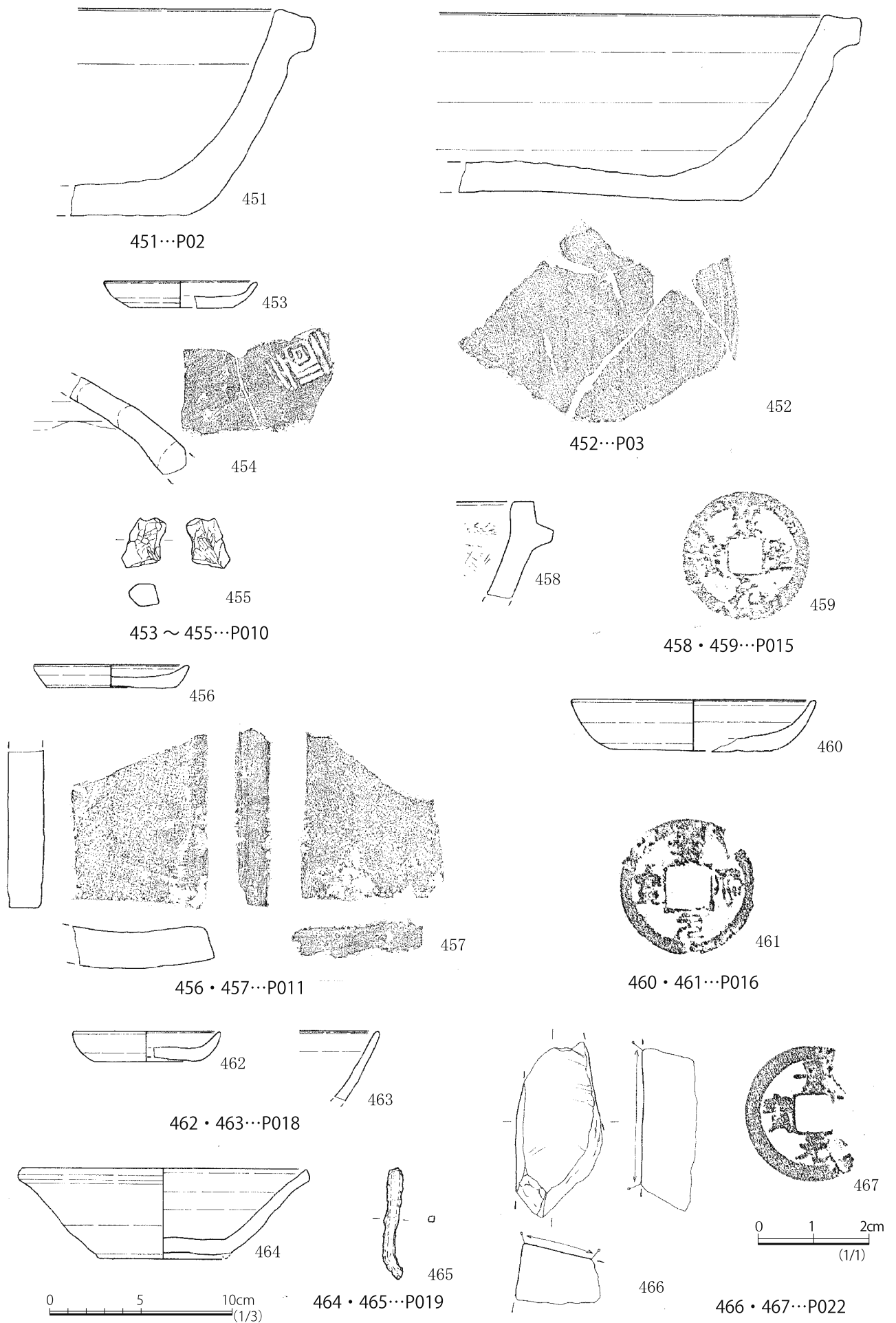


图 83 2 面遺構出土遺物 (25)

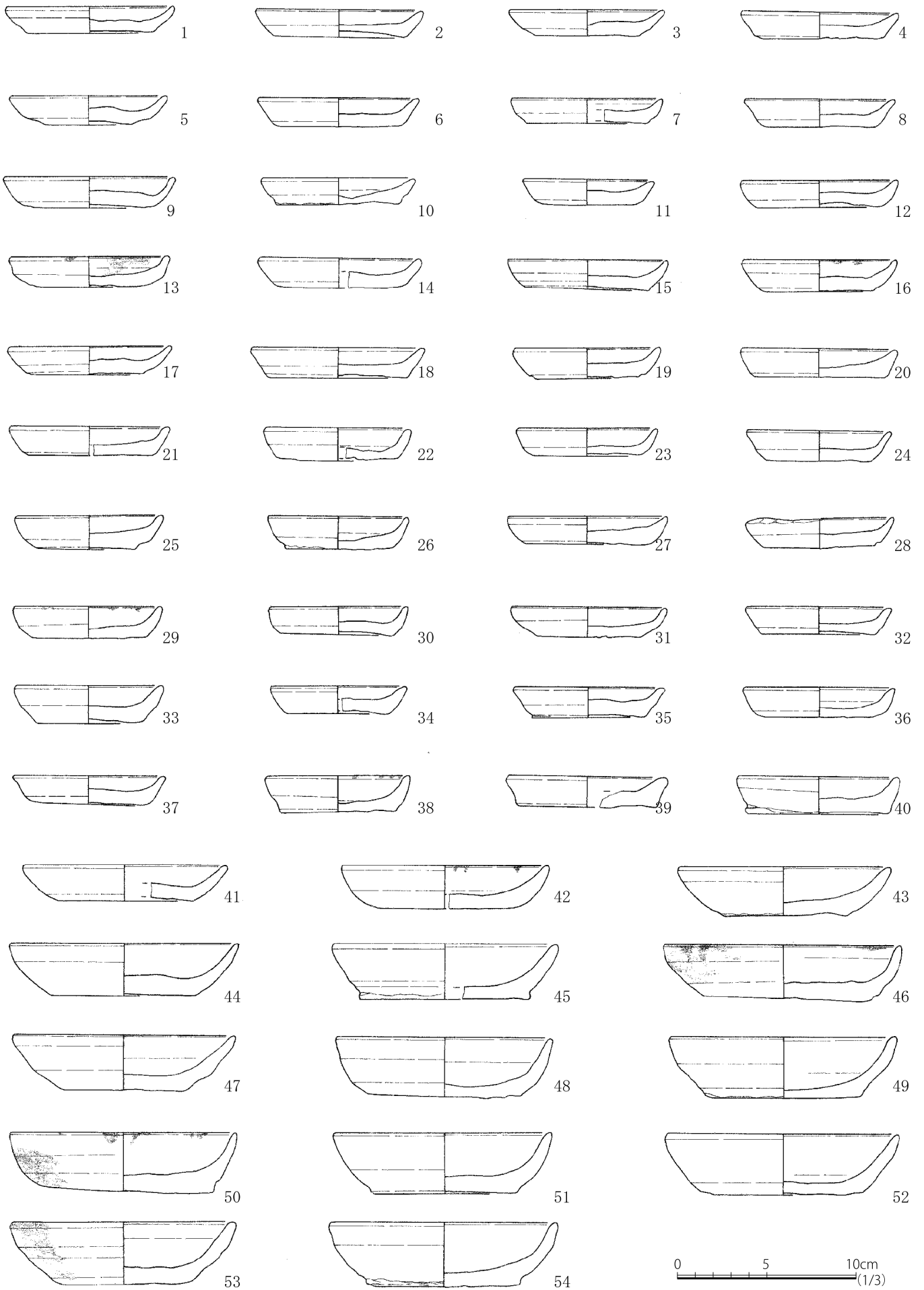


图 84 2 面下~3 面上出土遺物 (1)

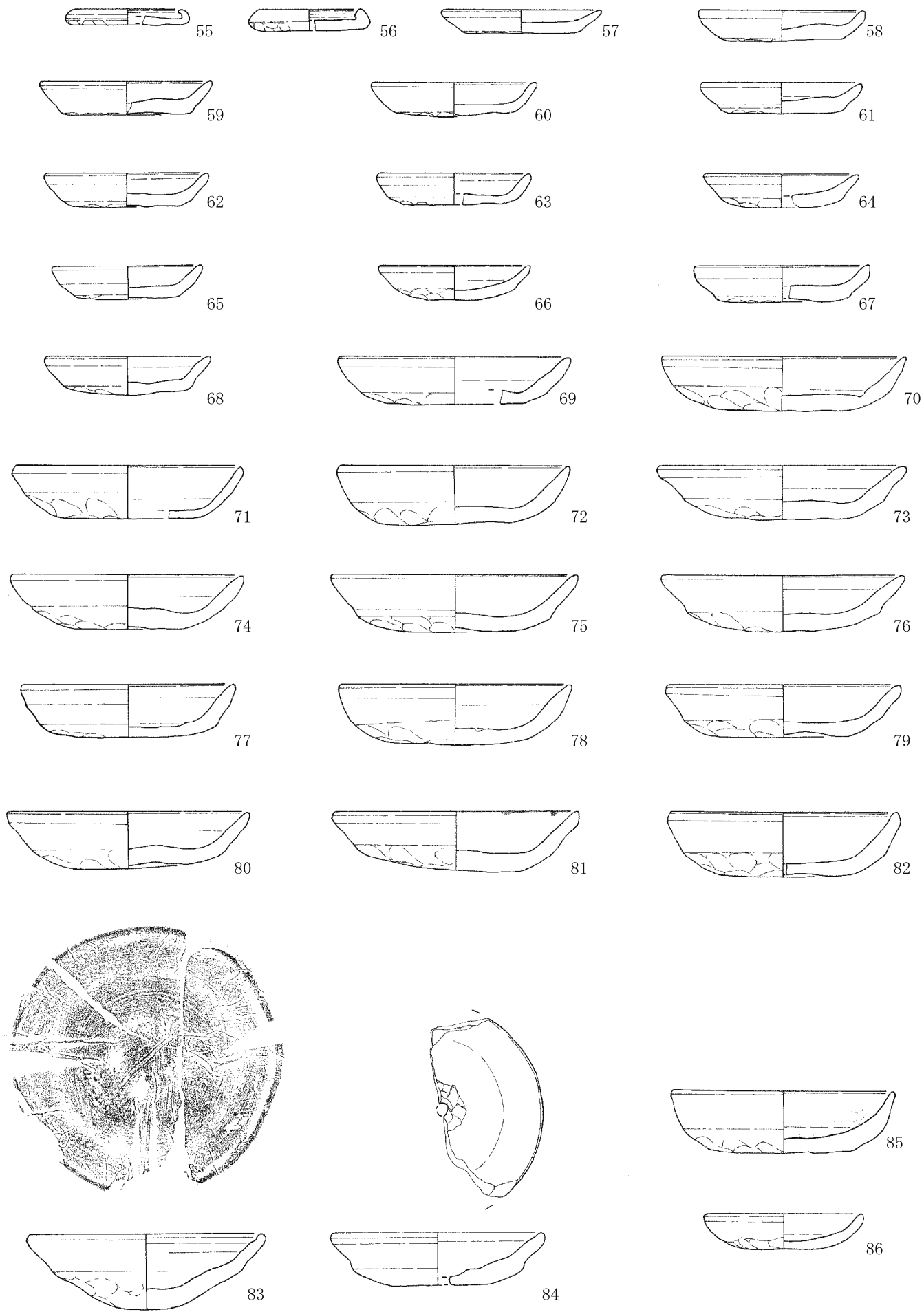


图 85 2 面下~3 面上出土遺物 (2)



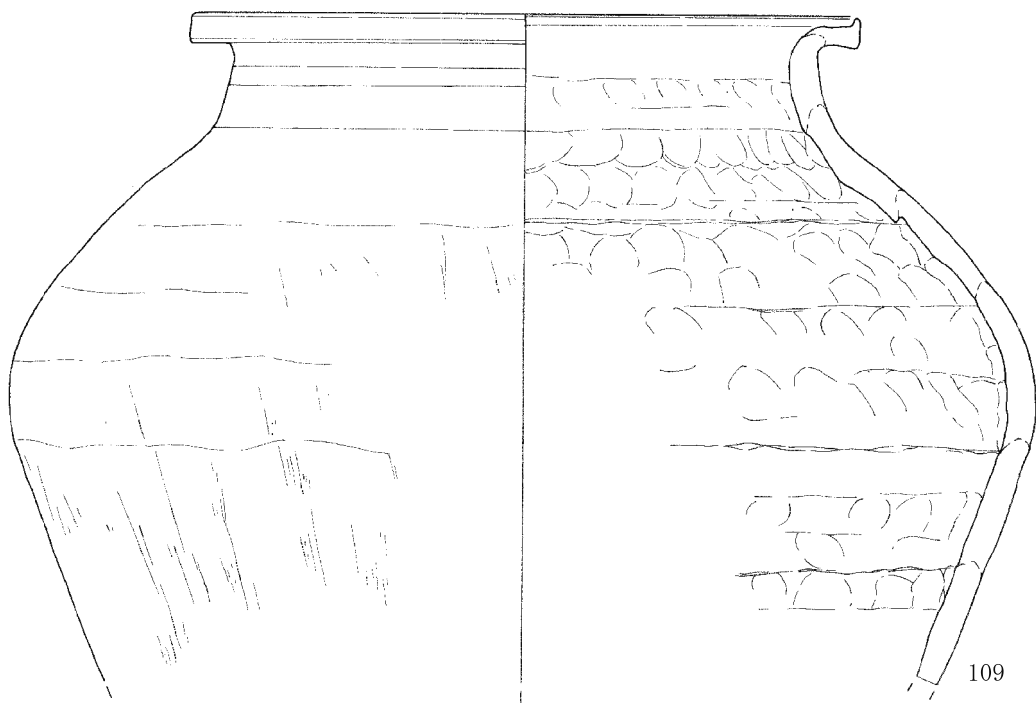
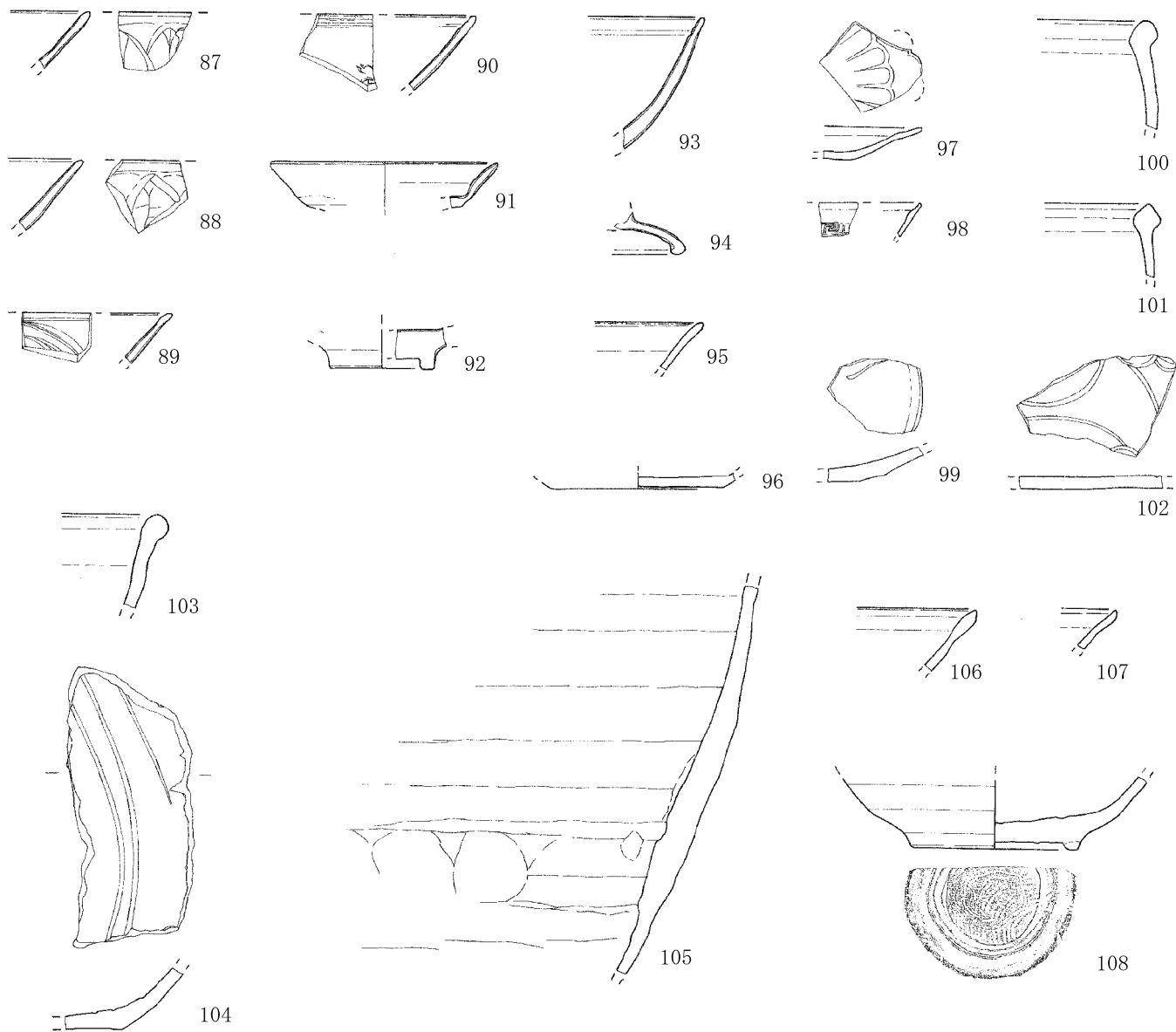


图 86 2 面下~3 面上出土遺物 (3)

0 5 10cm (1/3)

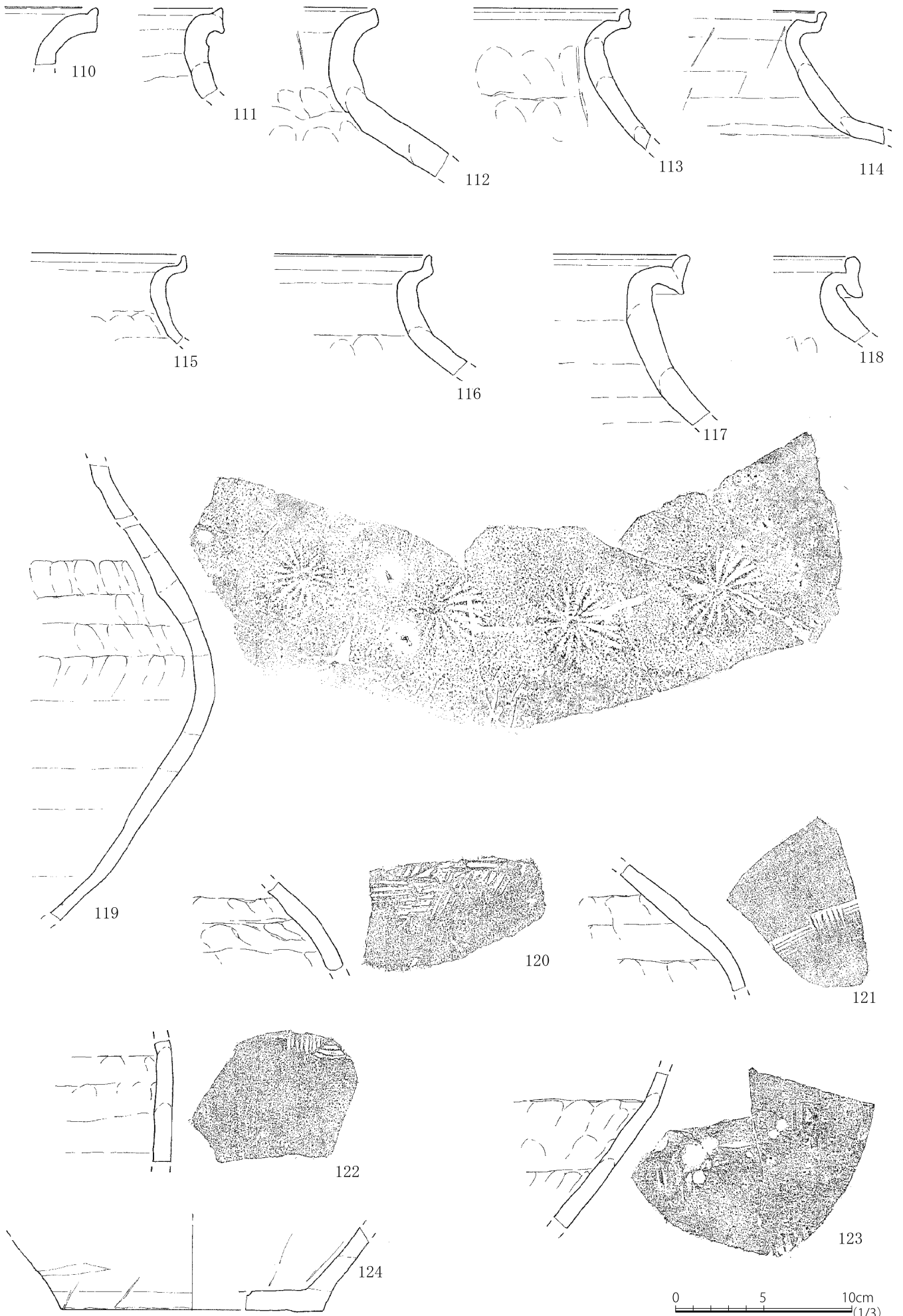


图 87 2 面下~3 面上出土遺物 (4)

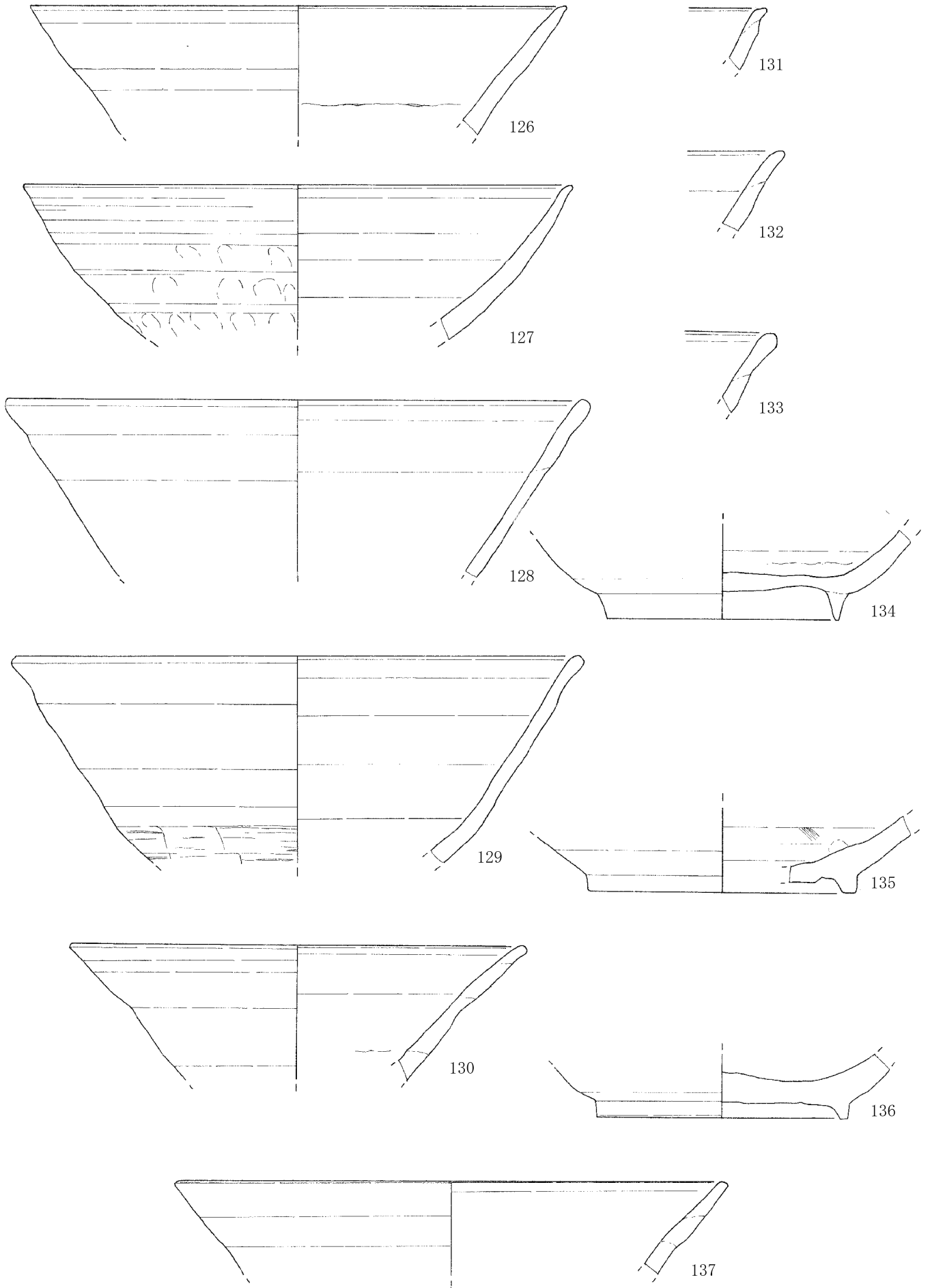


图 88 2 面下~3 面上出土遺物 (5)

0 5 10cm (1/3)

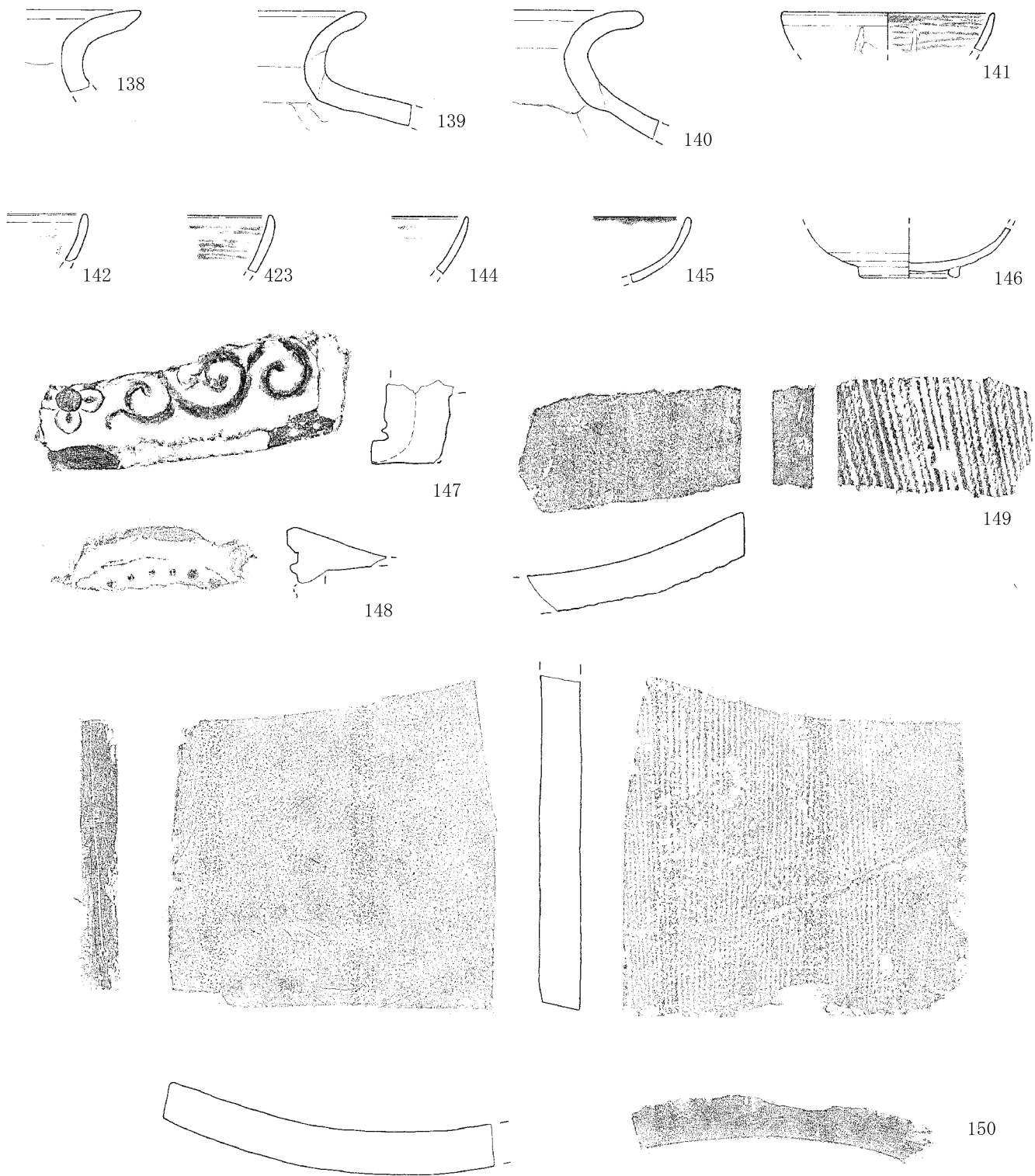


图 89 2 面下~3 面上出土遺物 (6)

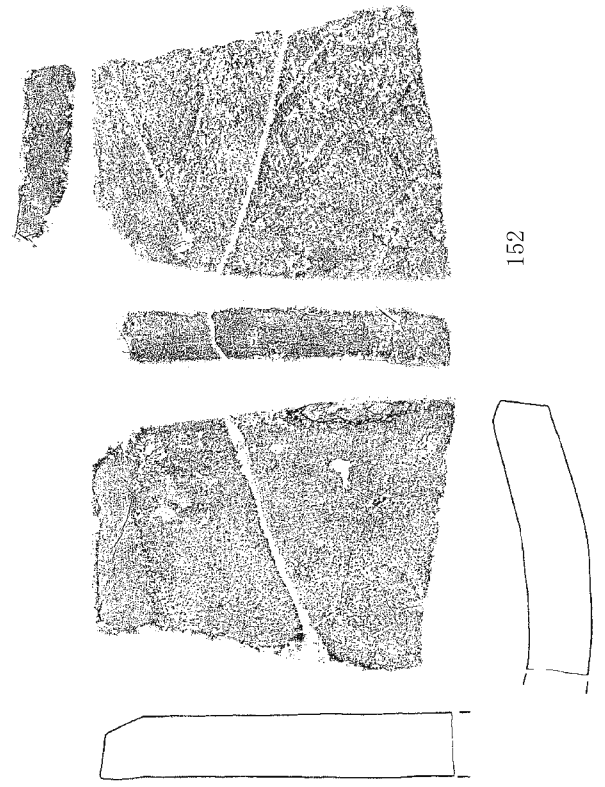
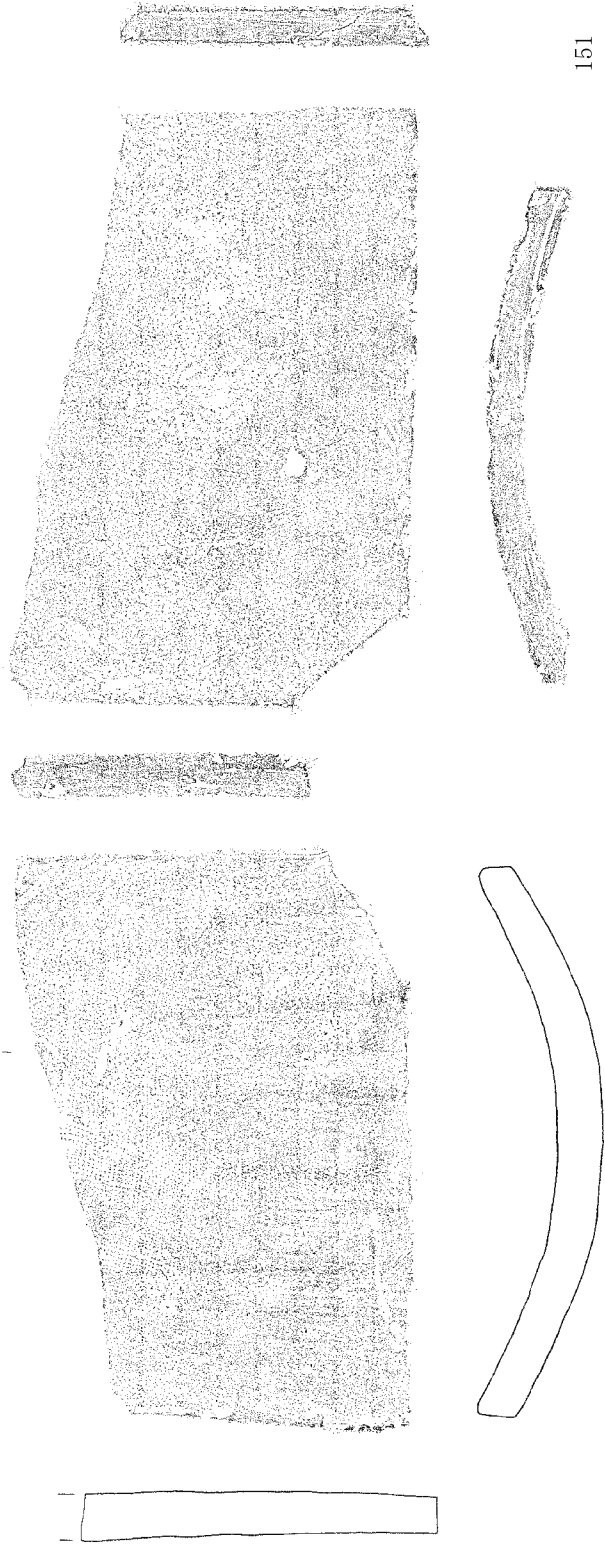
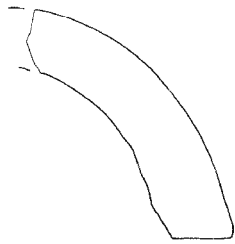
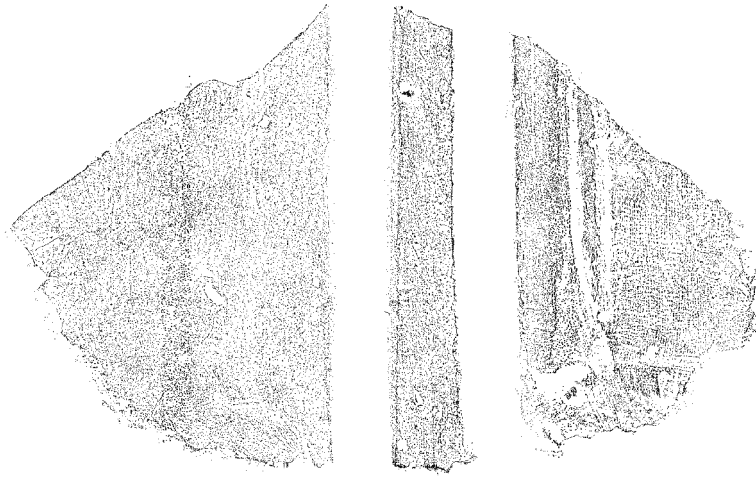
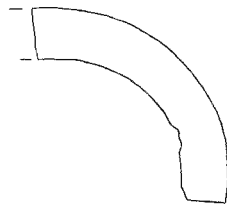
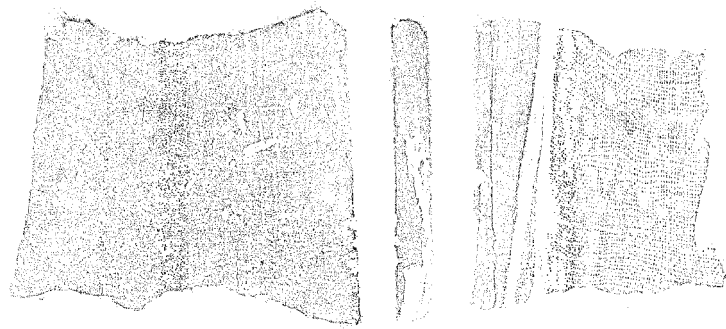


图 90 2 面下~3 面上出土遺物 (7)



153



154

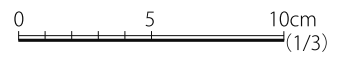
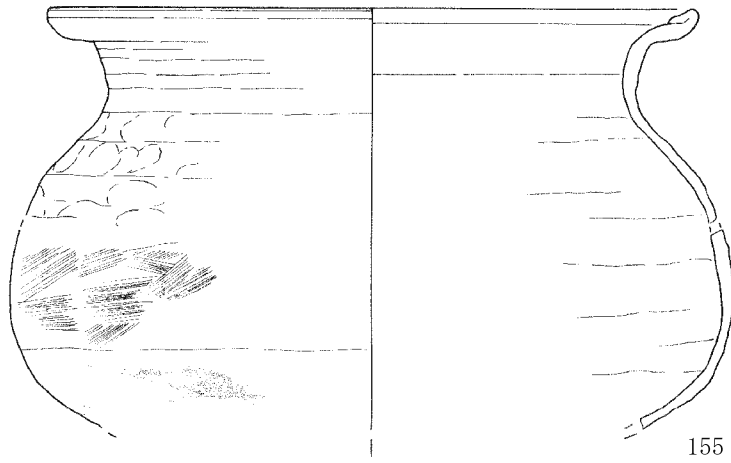
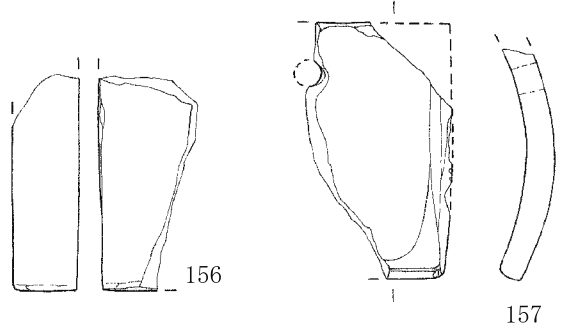


图 91 2 面下~3 面上出土遺物 (8)

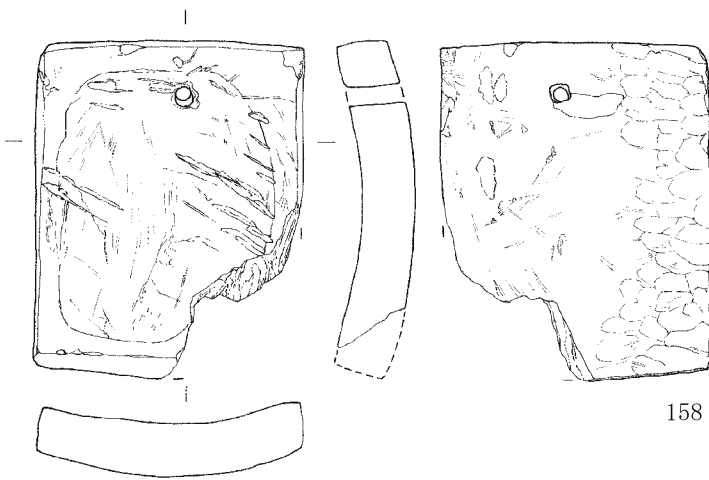


155

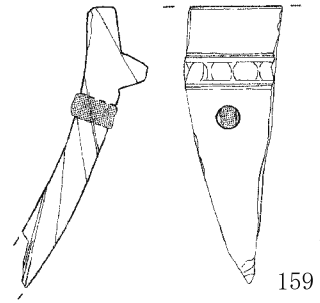


156

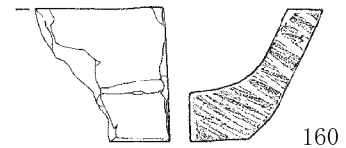
157



158

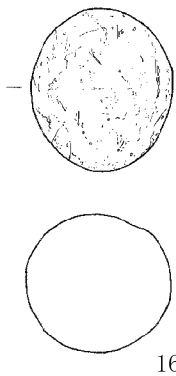


159



160

0 5 10cm  
(1/3)



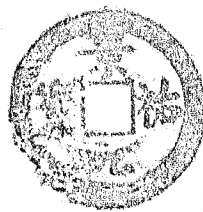
161



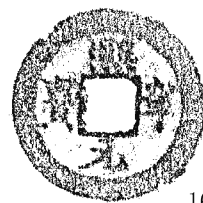
162



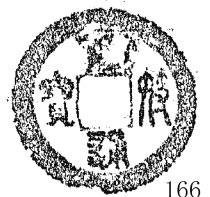
163



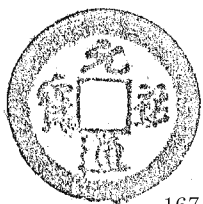
164



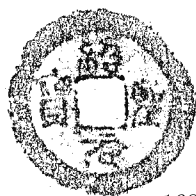
165



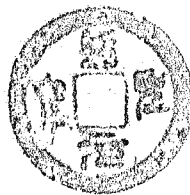
166



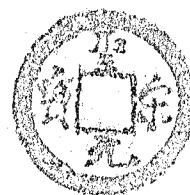
167



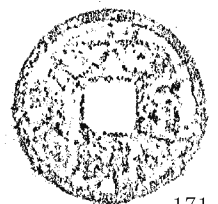
168



169



170



171

0 1 2cm  
(1/1)

图 92 2 面下~3 面上出土遗物 (9)

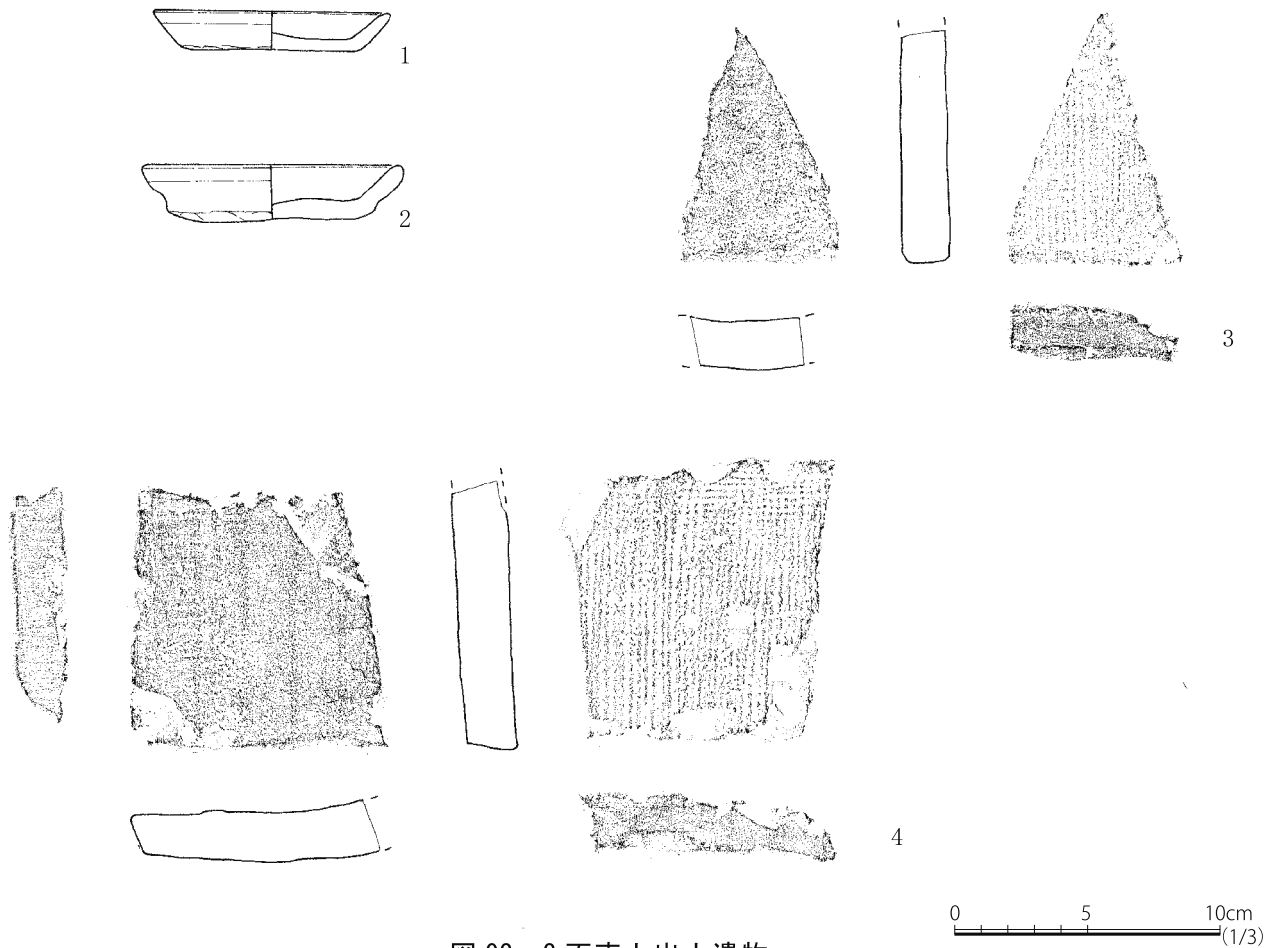


図93 3面直上出土遺物

表6 2面下～3面上 出土遺物観察表

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナラ <sup>*</sup>	ナラ <sup>*</sup> 状	板状	スコ状		
図84 2面下～3面上出土遺物(1)												
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	6.8	1.5	2/3	△		○		黄灰	白針
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(7.6)	1.5	1/4	○		○		黄橙	白針
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	5.9	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き、擦痕
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.4	1.5	2/3	○		○		黄灰	白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(5.0)	1.6	1/3	○		○		黄橙	白針
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.0)	1.6	1/2	○		○		黄橙	白針
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.0)	1.4	1/3	○		○		橙	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.2)	1.6	1/4	○		○		黄橙	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(7.2)	1.7	1/2	○		○		橙	白針
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.8)	1.5	1/2	○		○		黄橙	白針



遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テラ	テラ状	板状	スコ状		
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.2	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.2)	1.5	1/2	○		○		黄橙	白針
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.0)	1.7	3/4	○		○		黄橙	白針 内外煤付着
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.2)	1.7	1/4	○				橙	白針 底部外面に煤付着擦痕
15	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.0	1.6	2/3	○		○		黄橙	白針 内面黒色に変色
16	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	5.9	1.8	4/5	○		○		黄灰	白針 口唇部煤付着
17	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	6.2	1.6	完形	○		○		黄灰	白針 外面一部に煤付着
18	土器	ロクロ かわらけ・小	9.6	7.7	1.7	4/5	○		○		黄灰	白針
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.6)	1.7	1/3	○		○		橙	白針
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.6)	1.6	1/4	○		○		黄橙	白針
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.0)	1.6	1/3	○				黄灰	白針、やや粉質
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.8)	1.8	1/2	○		○		黄橙	白針
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.5	1/4	○		○		橙	白針
24	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	6.0	1.7	3/4	○		○		黄橙	白針
25	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.8	1.9	3/4	○		○		橙	白針
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.2	1.9	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
27	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	7.0	1.5	1/3	○		○		黄灰	白針
28	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.6	1.7	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針 内外面黒色に変色 口縁部一部に擦痕
29	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.6	1.9	完形	○		○		黄灰	白針 口縁部煤付着
30	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.4	2.1	3/4	○		○		黄橙	白針、砂質
31	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	5.8	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
32	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	6.4	1.5	1/3	○		○		橙	白針、砂質
33	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	2.1	1/2	○		○		黄橙	白針 内面黒色に変色
34	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.8)	1.5	1/4	○		○		橙	白針
35	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.3	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
36	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.2	1.7	1/3	○		○		黄橙	白針
37	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	6.4	1.6	4/5	○		○		黄灰	白針
38	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.5	2.0	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針、砂質 口縁部一部煤付着
39	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(8.0)	1.7	1/3					黄橙	白針、やや粉質
40	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	8.1	2.2	ほぼ完形	○				黄灰	白針
41	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(7.8)	2.0	1/3	○		○		黄灰	白針
42	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(8.0)	2.4	1/4	○				黄橙	白針 口唇部一部に煤付着
43	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(7.6)	2.8	1/4	○		○		橙	白針 口縁部黒色に変色
44	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.2)	2.9	1/3	○		○		黄橙	白針
45	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.8)	3.1	1/4	○		○		黄橙	白針
46	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	9.5	3.0	完形	○		○		黄橙	白針 内外面一部に煤付着
47	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(7.0)	3.1	1/2	○		○		黄橙	白針
48	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	8.6	3.4	1/2	○		○		黄灰	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナラナラ状	板状	スノコ状		
49	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.0)	3.4	口小～ 底1/4	○				黄橙	白針
50	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	10.0	3.3	2/3	○		○		黄橙	白針 内外面に煤付着
51	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	8.3	3.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
52	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(9.4)	3.4	1/2	○		○		黄橙	白針
53	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(7.8)	3.5	2/3	○		○		黄橙	白針 外面一部煤付着
54	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	8.8	3.6	2/3	○				黄灰	白針

図85 2面下～3面上出土遺物(2)

55	土器	白かわらけ 手づくね・極小	(6.2)	—	0.9	1/4					乳白	内折れ
56	土器	手づくね かわらけ・極小	(5.8)	—	1.2	1/4					橙	内折れ
57	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.3	1/3 歪み大	○				黄灰	白針
58	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.7	2/3	○				黄橙	白針
59	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.8	1/3					橙	白針
60	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.8	1/2	○				黄灰	白針 割れ口二次加工カ
61	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.7	1/3	○				黄橙	白針 口縁部に擦痕
62	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.8	1/2					橙	白針
63	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.7	1/2	○				黄橙	白針
64	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	—	1.8	1/2	○				黄橙	白針
65	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.8	1/2					橙	白針
66	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.9	1/2	○				橙	白針
67	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	2.0	1/2	○				黄灰	白針
68	土器	手づくね かわらけ・大	9.2	—	2.1	完形	○				黄橙	白針
69	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	2.6	1/3	○				橙	白針 口縁部に擦痕
70	土器	手づくね かわらけ・大	13.4	—	3.0	完形	○		○		黄橙	白針
71	土器	手づくね 白かわらけ・大	(12.6)	—	2.9	1/3	○				白橙	
72	土器	手づくね かわらけ・大	12.7	—	3.2	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
73	土器	手づくね かわらけ・大	13.5	—	3.0	3/4	○				黄灰	白針
74	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.0	2/3	○				橙	白針
75	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.1	2/3	○		○		黄橙	白針
76	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.1	1/2	○				橙	白針
77	土器	手づくね かわらけ・大	(11.8)	—	2.9	1/2	○				黄橙	白針 外面に煤付着
78	土器	手づくね かわらけ・大	12.8	—	3.4	2/3	○				黄橙	白針
79	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	—	2.9	完形	○				橙	白針
80	土器	手づくね かわらけ・大	13.3	—	3.1	3/4	○				黄灰	白針
81	土器	手づくね かわらけ・大	13.4	—	3.2	4/5	○				黄橙	白針 口唇部一部に煤付着
82	土器	手づくね かわらけ・大	(12.4)	—	3.5	1/2	○				黄灰	白針 口唇部一部に煤付着
83	土器	手づくね かわらけ・大	12.9	—	4.1	4/5		○			黄橙	白針 内外面煤付着
84	土器	手づくね かわらけ・大	(11.8)	—	2.9	1/3					黄橙	白針 底部焼成後に穿孔
85	土器	手づくね かわらけ・大	(12.2)	—	3.4	2/3	○				黄橙	白針 内外面煤付着

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナギ*	ナリヲ状	板状	スコ状		
86	土器	手づくね 白かわらけ・小	8.5	—	2.0	完形	○				灰白	
図86 2面下～3面上出土遺物(3)												
87	磁器	龍泉窯系青磁 鏤蓮弁文碗	—	—	[2.5]	口小片					明灰緑 不透明	大宰府Ⅱ類
88	磁器	龍泉窯系青磁 鏤蓮弁文碗	—	—	[3.1]	口小片					黄緑灰 半透明	大宰府Ⅱ類
89	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.2]	口小片					灰緑 半透明	大宰府Ⅰ-2類
90	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.3]	口小片					灰緑 透明	大宰府Ⅰ-2類
91	磁器	同安窯系 青磁皿	(9.8)	—	[2.0]	口小1/6 ～体片					灰緑 透明	大宰府Ⅰ類
92	磁器	龍泉窯系青磁 碗	—	(4.4)	[1.8]	体片～ 底小1/3					青緑灰 半透明	大宰府Ⅰ・Ⅱ類
93	磁器	龍泉窯系青磁 碗	—	—	[5.8]	口小片					黄緑灰 不透明	大宰府Ⅰ類
94	磁器	景德鎮窯 器種不明	—	—	[1.8]	不明					青白 不透明	二次焼成を受ける
95	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.0]	口小片					灰白 不透明	大宰府Ⅸ類
96	磁器	白磁 口禿皿	—	(7.4)	[7.0]	1/4					灰白 不透明	大宰府Ⅸ類
97	磁器	青白磁 輪花皿	—	—	—	口小～ 体片					青白 半透明	内面菊花文型押し
98	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.5]	口小片					青白 透明	内面雷文 白磁皿Ⅹ類カ
99	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.5]	体片					青白 半透明	
100	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	[4.7]	口小片					黄緑	
101	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[4.0]	口小片					緑銀	
102	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	[3.2]	口小片					黄緑	
103	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	—	底片					黄緑	104と同一個体カ
104	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	[3.1]	体片～ 底片					黄緑	103と同一個体カ
105	陶器	褐釉壺	—	—	—	胴片					暗茶褐	黒色粒・白色粒
106	陶器	尾張型 山茶碗	—	—	[2.6]	口小片					灰	白色粒
107	陶器	尾張型 山茶碗	—	—	[1.7]	口小片					灰	白色粒
108	陶器	渥美・湖西型 山茶碗	—	(7.0)	[3.2]	体片～ 底1/2					灰白	
109	陶器	常滑 甕	(25.2)	—	[24.9]	口1/4～ 胴片					淡灰褐	5型式 長石
図87 2面下～3面上出土遺物(4)												
110	陶器	常滑 甕	—	—	[3.3]	口小片					暗褐	5型式 長石
111	陶器	常滑 甕	—	—	[5.1]	口小片					暗茶褐	5～6型式 長石
112	陶器	常滑 甕	—	—	[9.5]	口小片					暗茶褐	5型式 長石
113	陶器	常滑 甕	—	—	[8.0]	口小～ 胴片					茶褐	5型式 長石
114	陶器	常滑 甕	—	—	[8.2]	口小～ 胴片					茶褐	5型式 長石
115	陶器	常滑 甕	—	—	[5.2]	口小～ 胴片					茶褐	5型式 長石
116	陶器	常滑 甕	—	—	[7.5]	口小～ 胴片					暗茶褐	5型式 長石
117	陶器	常滑 甕	—	—	[9.7]	口小～ 胴片					茶褐	5～6型式 長石
118	陶器	常滑 甕	—	—	[4.9]	口小～ 胴片					灰褐	6型式 長石
119	陶器	常滑 甕	—	—	—	体片					灰緑	長石
120	陶器	常滑 甕	—	—	—	肩部片					茶灰	長石
121	陶器	常滑 甕	—	—	—	肩部片					灰褐	長石
122	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					灰褐	長石

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナラフ状	板状	スコ状		
123	陶器	常滑甕	—	—	—	胴片					灰	長石
124	陶器	常滑甕	—	(15.0)	[4.8]	胴片～底1/4					茶褐	長石
図88 2面下～3面上出土遺物(5)												
126	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	(30.0)	—	[7.2]	口1/6					茶褐	長石
127	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(30.6)	—	[8.3]	口1/4～体片					灰	長石
128	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(32.4)	—	[9.8]	口1/8以下					灰	長石
129	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(31.2)	—	[11.3]	口1/6～体片					灰	
130	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(25.2)	—	[7.5]	口1/8					灰褐	長石
131	陶器	渥美片口鉢	—	—	[3.5]	口小片					灰褐	長石
132	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.4]	口小片					灰橙	長石
133	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.5]	口小片					灰橙	長石
134	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	(13.0)	[4.9]	体片～底1/6					灰褐	長石
135	陶器	渥美片口鉢	—	(15.0)	[4.3]	体片～底1/6					灰褐	長石
136	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	(14.0)	[3.6]	体片～底完存					灰	長石
137	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	(30.1)	—	[5.2]	口1/4					茶褐	長石
図89 2面下～3面上出土遺物(6)												
138	陶器	渥美甕	—	—	[4.1]	口小～胴片					灰褐	白色粒・黒色粒
139	陶器	渥美甕	—	—	[5.5]	口小～胴片					灰緑	白色粒・黒色粒
140	陶器	渥美甕	—	—	[6.3]	口小～胴片					灰褐	白色粒・黒色粒
141	瓦器	碗	(10.2)	—	[1.8]	1/4					暗灰	
142	瓦器	碗	—	—	[2.2]	口小片					灰白	
143	瓦器	碗	—	—	[2.8]	口小片					灰	
144	瓦器	碗	—	—	[2.7]	口小片					暗灰	
145	瓦器	碗	—	—	[3.2]	口小片					灰	
146	瓦器	碗	—	4.6	[2.5]	体片～底完存					灰	
147	瓦	軒平瓦	—	—	厚さ3.1	瓦当一部					暗灰	顎面幅3.0 唐草文
148	瓦	鑑瓦(軒丸瓦)	—	—	—	瓦当上部					灰	永福寺創建期 蓮華文
149	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.0	不明					灰	永福寺女瓦A類 白色粒
150	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.1	広端面片側辺					暗灰	永福寺女瓦A類 白色粒
図90 2面下～3面上出土遺物(7)												
151	瓦	平瓦	—	幅21.0	厚さ1.9	広端面					灰黒	極楽寺旧境内の壬生寺系と類似
152	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.4	狭端面片側辺					灰黄	東海産瓦の焼成不良品か再火熱を受けたもの
図91 2面下～3面上出土遺物(8)												
153	瓦	丸瓦	—	—	厚さ2.6	筒部片側辺					灰黒	永福寺男瓦A類カ
154	瓦	丸瓦	—	—	厚さ1.9	筒部片側辺					灰	永福寺男瓦A類
図92 2面下～3面上出土遺物(9)												
155	土器	南伊勢系鍋	(24.8)	—	[16.0]	口1/4～胴片					黄灰	
156	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ[8.2]	幅[3.7]	厚さ2.5	不明					黒灰	温石カ
157	石製品	滑石鍋転用品 温石	長さ[9.6]	幅[5.5]	厚さ1.1	一部欠損					黒灰	
158	石製品	滑石鍋転用品 温石	長さ12.9	幅10.2	厚さ2.1	一部欠損					黒灰	

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テラ	テラ状	板状	スコ状		
159	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ [10.5]	幅 [3.4]	厚さ 2.3	不明					黒灰	穿孔部に鉄製品残存
160	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ [5.0]	幅 [4.9]	厚さ 1.8	不明					黒灰	
161	石製品	軽石	長径 6.2	短径 5.3	厚さ 5.2	完形					灰白	用途不明
162	鉄製品	釘	長さ [8.6]	幅 [0.5]	厚さ [0.2]							
163	鉄製品	釘	長さ [6.0]	幅 [0.4]	厚さ [0.4]							
164	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	景祐元俸(真書) 中国北宋代 1034年初鑄
165	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	濼寧元寶 中国北宋代 1068年初鑄
166	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	元祐通寶 中国北宋代 1086年初鑄
167	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	元祐通寶(行書) 中国北宋代 1086年初鑄
168	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	紹聖元寶 中国北宋代 1094年初鑄
169	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.2	完形					—	紹聖元寶(篆書) 中国北宋代 1094年初鑄
170	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	聖宋元寶(行書) 中国北宋代 1101年初鑄
171	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	大觀通寶 中国北宋代 1107年初鑄

図93 3面直上出土遺物

1	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.5	1/3	○				黄橙	白針
2	土器	手づくね かわらけ・大	9.5	—	2.0	4/5	○				黄橙	白針
3	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.8	広端面 両側辺欠損					灰褐	永福寺女瓦A類
4	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.9	広端面 片側辺					灰褐	永福寺女瓦A類

## 第6節 3面の遺構と遺物

### 3面の検出遺構（図94～103）

3面は標高11.7～12.0mで確認された。地点Iでは1・2面と同様、土坑とピットが多数検出され、この中で掘立柱建物3棟を復元することができた。遺構間の重複や調査区外への展開もあり全体プランの把握には至らず不確定な要素も残すが、図94・97～99に復元案を示した。

掘立柱建物1は、現地調査の段階で桁行3間×梁行3間の総柱式建物と認識できた。大よそ正方形の平面プランを呈し、床面積は $6 \times 6 \text{ m} = 36 \text{ m}^2$ 前後と推測される。柱材および柱痕は確認できなかったが、柱間距離は桁行・梁行ともに200cmを基調とし、一部180cm前後となる箇所があった。建物の中心軸は真北を取り、後に述べる道路状遺構とは $20^\circ$ ほどの偏差がある点、注意が必要である。この他、建物に係る柱穴の規模や埋土様相などは、図97・98を参照されたい。

建物2・3は整理作業の段階で復元し、ほぼ同じ位置で建物3から建物2への建て替えがあったものと判断した。ともに桁行3間×梁行2間で、新しい段階の建物2は東西 $5.9 \times$ 南北 $4.0 \text{ m} = 23.6 \text{ m}^2$ に、古段階の建物3は東西 $5.6 \times$ 南北 $3.6 \text{ m} =$ 約 $20.2 \text{ m}^2$ の床面積を有していたと考えられる。柱間距離は建物2が2mを基調としながら若干の広狭があり、建物3は1.8mを基調としつつ偏差が見て取れる。ともに桁行側の建物中心軸は $N86^\circ E$ を測り、建物1と同様、真北を基調とする建物軸線の採用が想定できる。他、柱穴個々のサイズなどは、図99を参照されたい。

地点IIでは1・2面と同位置で南北に延びる道路状遺構を確認した。この3面検出時のものが最古期のもので、東西に両側溝が伴う。路面幅は約3.2mで、両側溝は上幅50～60cm、底面幅30～40cmを

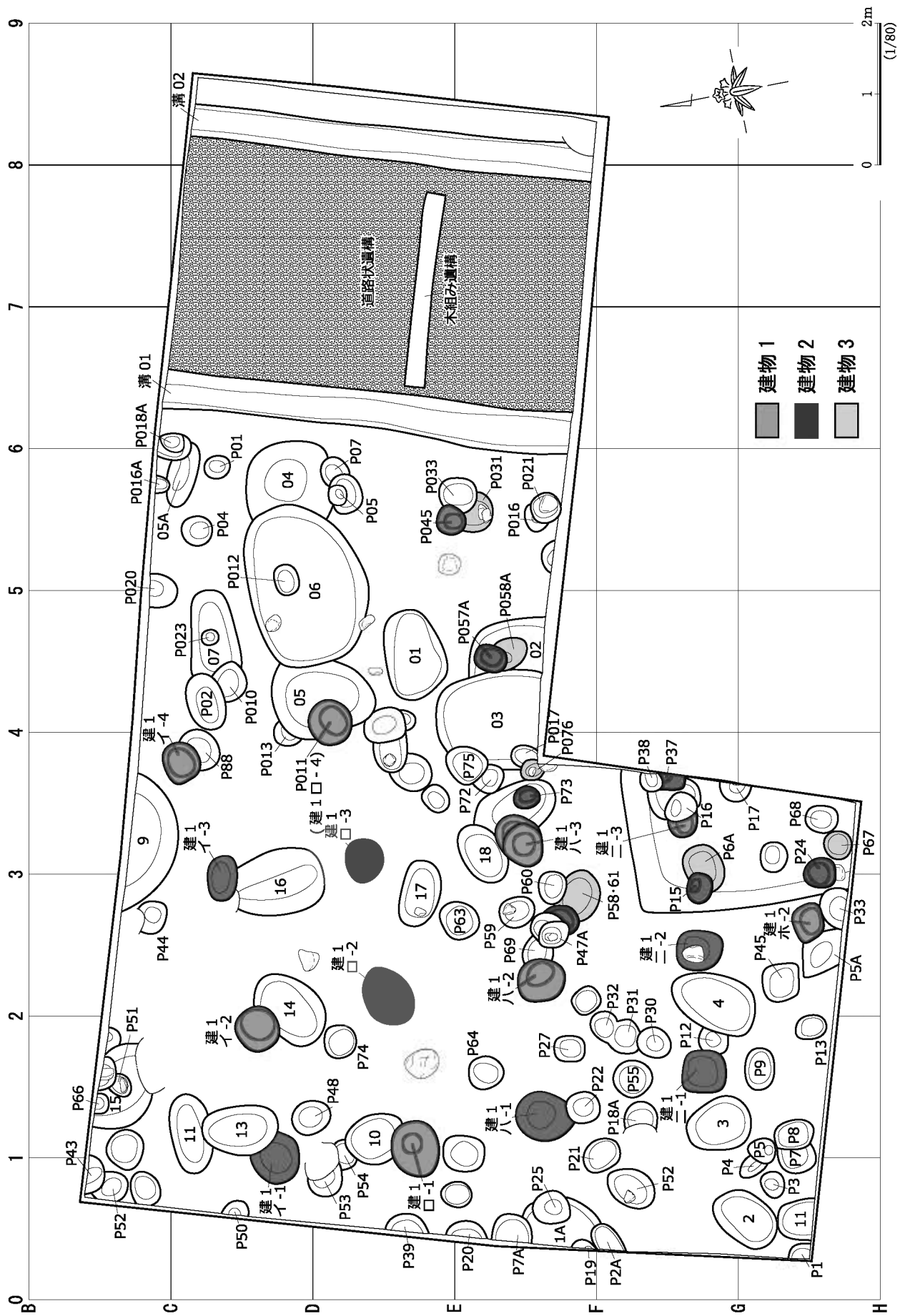


图 94 3 面全体图

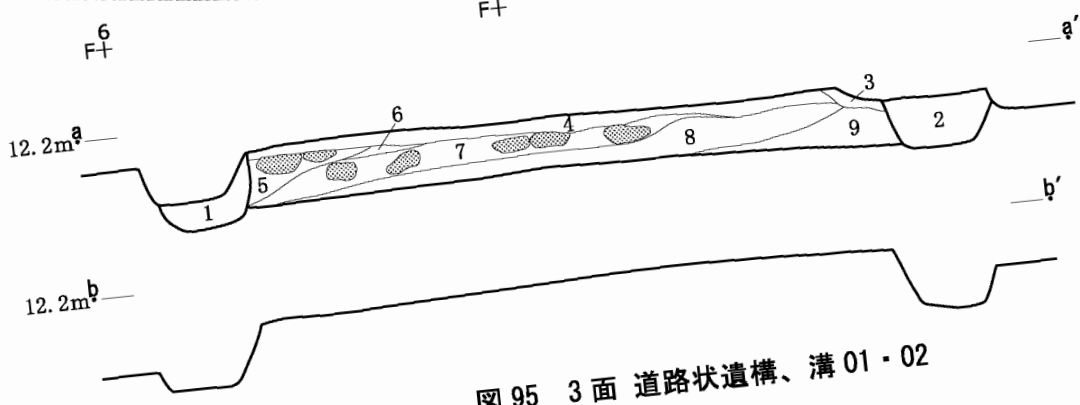
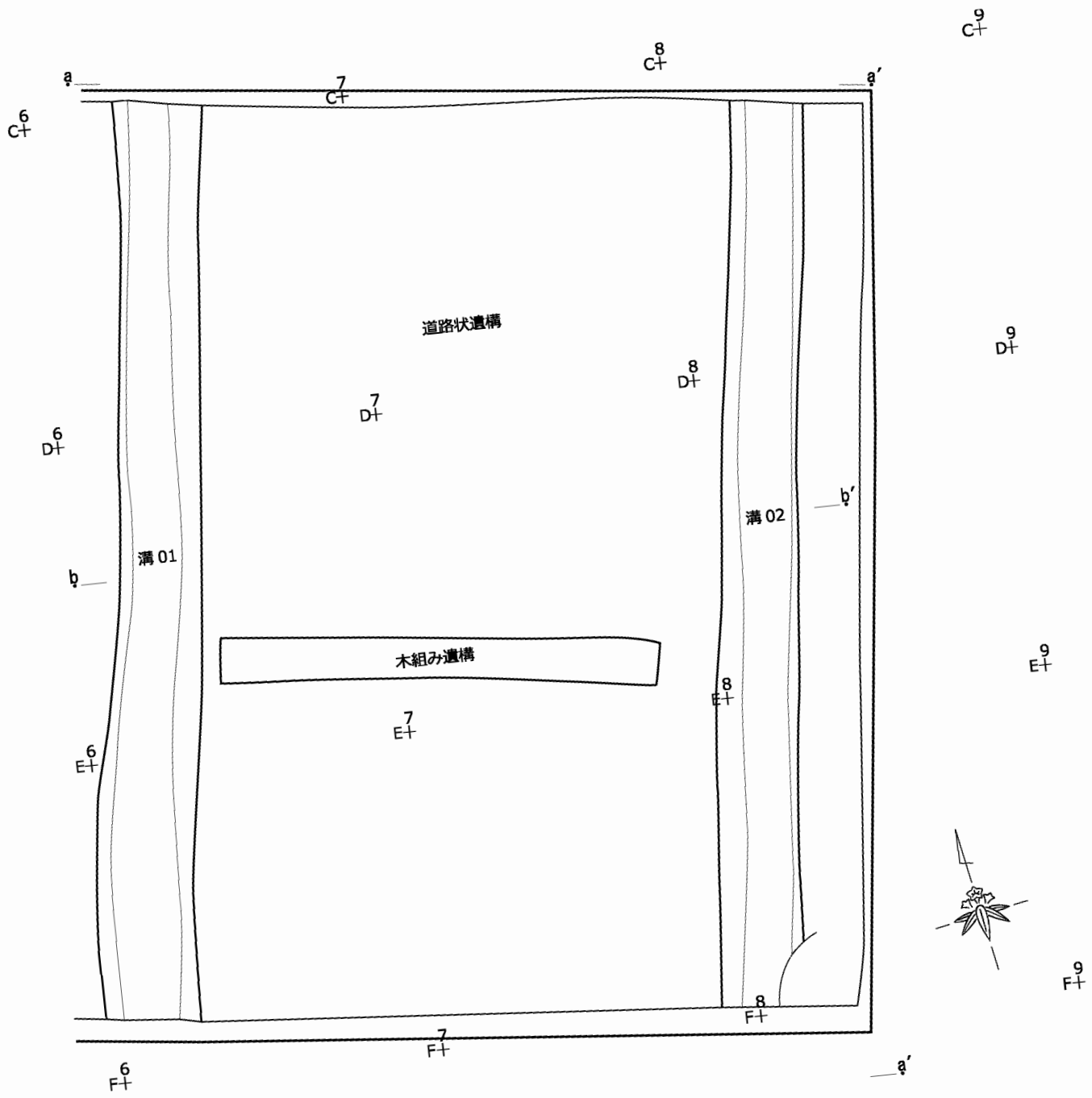


图 95 3面 道路状遺構、溝01・02

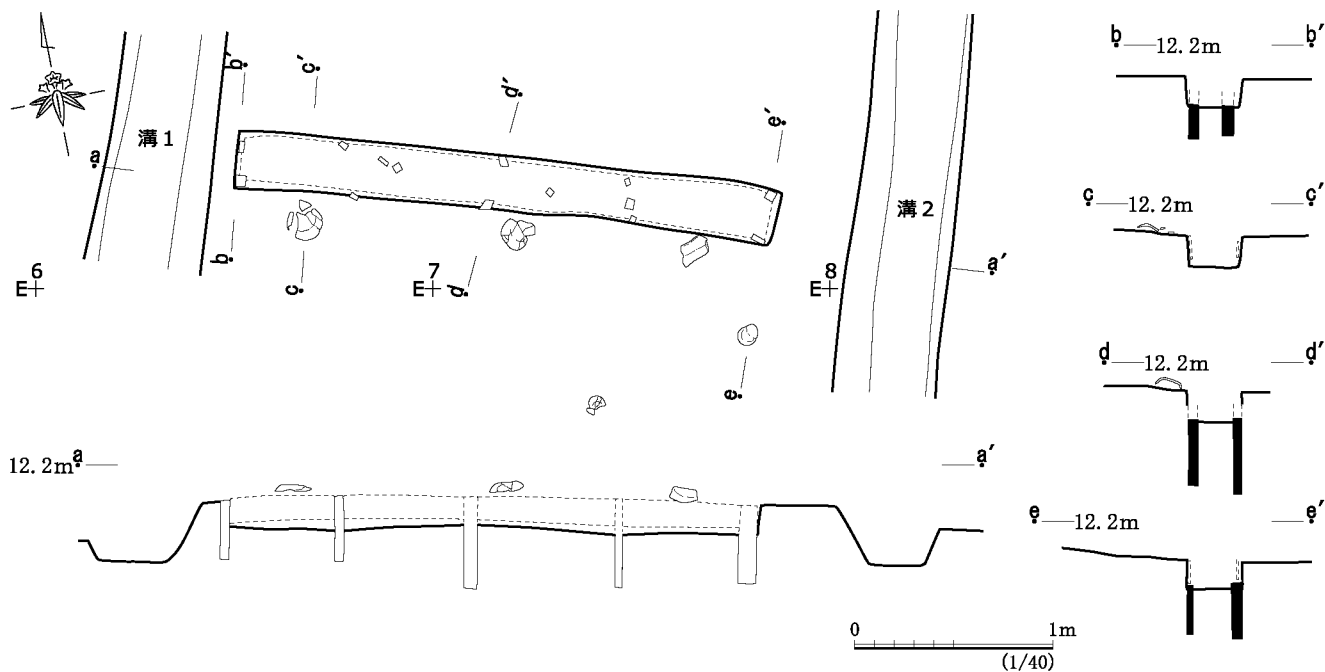


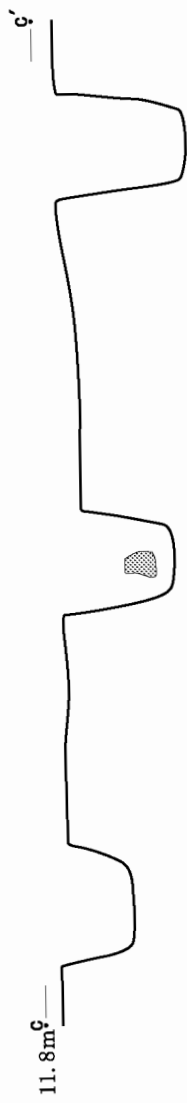
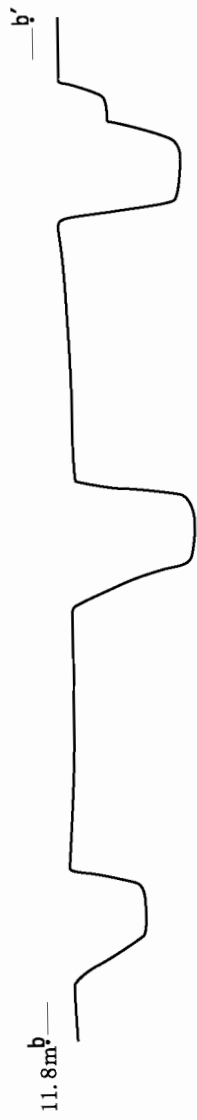
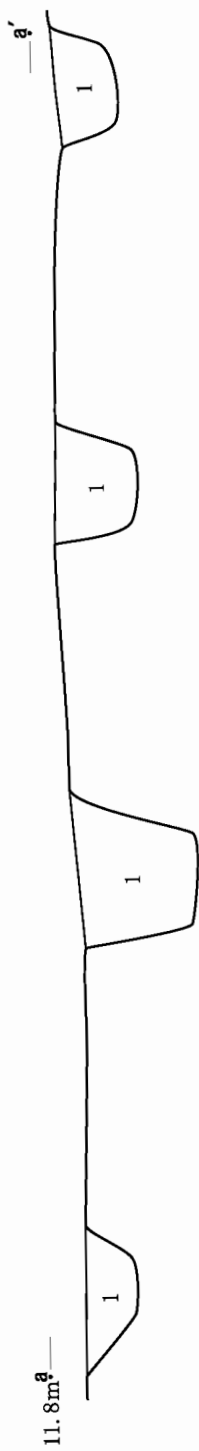
図 96 3面 木組み遺構

測る。南北とも調査区外に続き、5.8 mの長さまで確認できた。走方向はN18° Eを指す。路面標高は12.0～12.1 m、側溝底面の標高は11.70～11.75 mを計測し、検出しえた範囲においては路面・側溝底面ともに明確な高低差を見出せなかった（図 95）。検出中央部近くでは道路面上を走方向に直交する長方形の溝状土坑が検出され、掘り込みの各側面に横板を木杭で抑えた木組み護岸の痕跡が残っていた（図 96）。東西長280×南北幅30cmで、路面から掘り方底面までの深さは15cmを測る。底面には四隅を起点に長辺の両側辺に沿って杭が60～70 cm間隔、深さ15～30 cmで打ち込まれ、これで各側面の横板を支えていた。木材は腐朽が進んでいたものの、僅かながら残存していた。他、南辺外側の道路面上に完形に近いかわらけが伏せた状態で検出されるなど、特異な状況が見られた。本遺構と近似した事例は、名越ヶ谷遺跡（大町四丁目1901番外地点）の2面で確認されている。上幅60×全長960cm、深さ70 cmと本例とは比較にならないほど大きく、道路面や側溝を貫いて切っている。同地点の報告書では遺構の性格に関する見解は示されていないが、建物や板塀状柱穴列との配置状況からは、何らかの区画機能を有していた可能性を推察できる。ただ、形態は近いものの、遺構の規模や他遺構との配置状況が大きく異なるため、性格・用途について即座に同一視することは控えるべきだろう。

この他、3面検出の土坑を図100～103に抽出して掲載したので、サイズや埋土状況といった諸属性の確認に利用されたい。







3面 掘立柱建物 1 土層説明

1 暗褐色土 粘質土。泥岩粒・炭粒少量、  
黄色土ブロック微量。縮まり  
なし。



図 98 3面 掘立柱建物 1 断面図

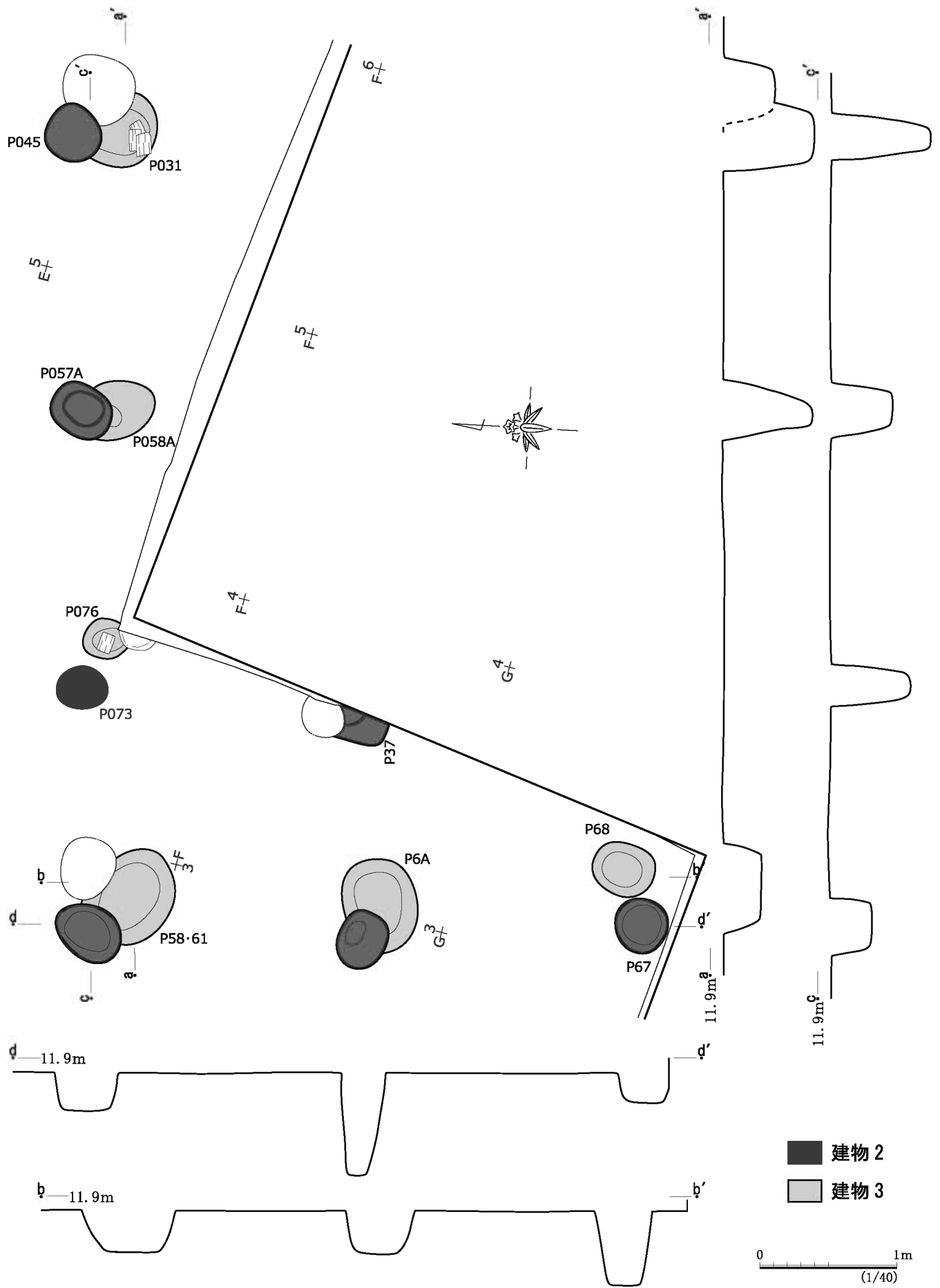
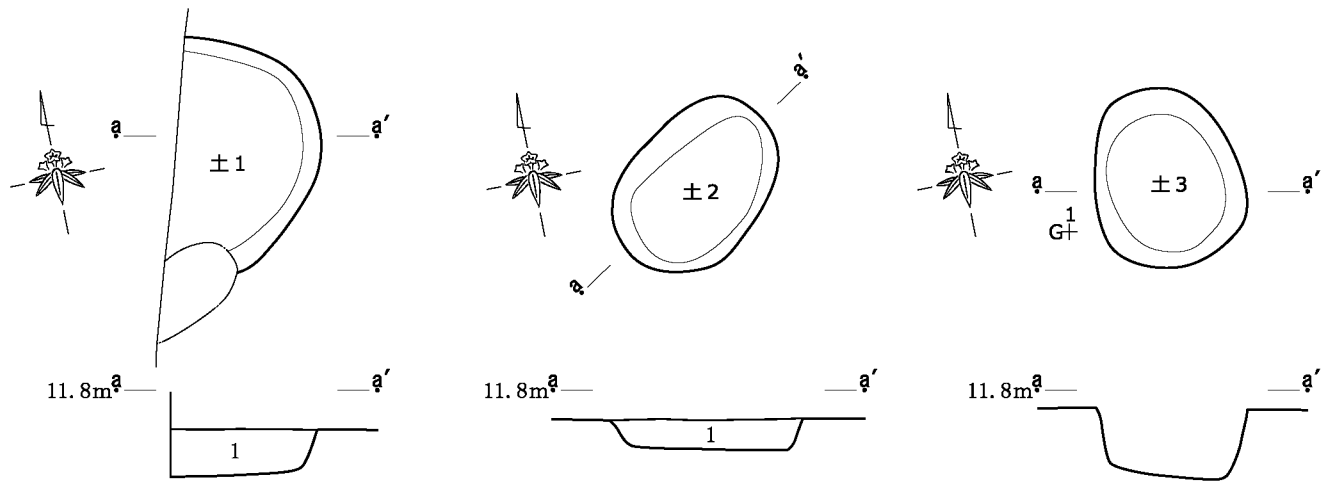
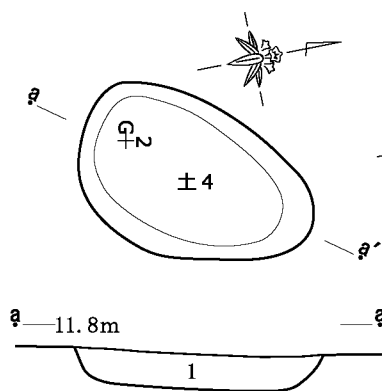


图 99 3 面 掘立柱建物 2・3

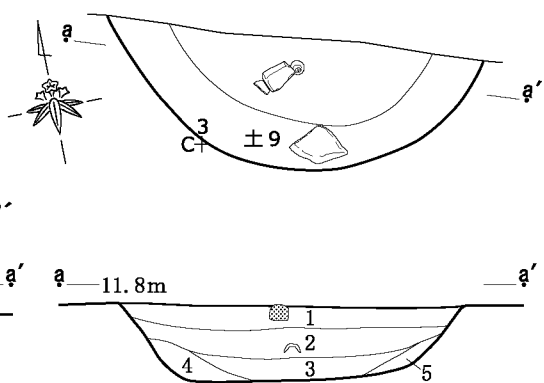


1 暗褐色土 粘質土。泥岩粒多量。  
褐鉄粒混入。  
縮まりややあり。

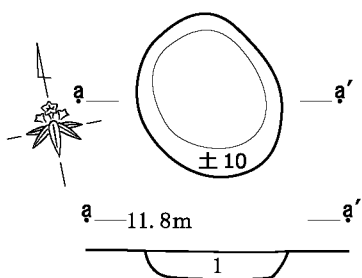
1 褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量、  
炭粒やや多い。



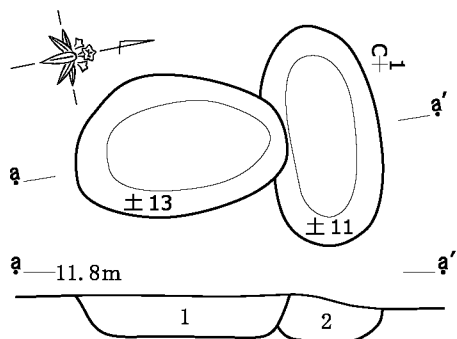
1 褐色土 粘質土。泥岩粒、  
炭粒少量。縮まりなし。



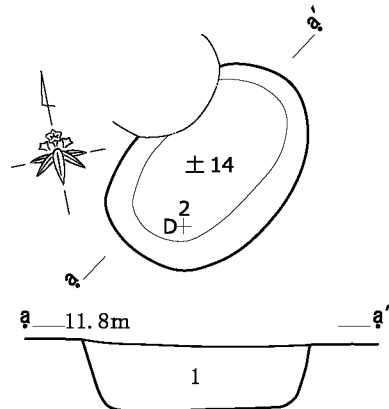
1 暗褐色土 砂質土。泥岩粒、  
炭粒少量。縮まりなし。  
2 褐色土 粘質土。炭粒少量。  
縮まりあり。  
3 暗褐色土 粘質土。泥岩粒、  
褐鉄粒多量、炭粒少量。  
縮まりなし。  
4 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、  
炭粒少量。縮まりややあり。  
5 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、  
炭粒多量。縮まりなし。



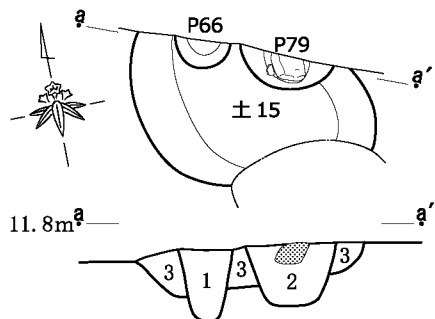
1 暗褐色土 粘質土。泥岩粒少量、  
炭粒多量。



土坑 13 1 灰褐色土 粘質土。泥岩粒少量、  
炭粒微量。縮まりあり。  
土坑 11 2 暗褐色土 粘質土。泥岩粒少量、  
炭粒やや多い。縮まりなし。



1 褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック、  
炭粒やや多い。縮まりなし。



Pit66 1 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。縮まりなし。  
Pit79 2 褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。縮まりなし。  
土坑 15 3 褐色土 弱粘質土。炭粒少量。縮まりややあり。

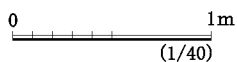


图 100 3面 土坑 (1)

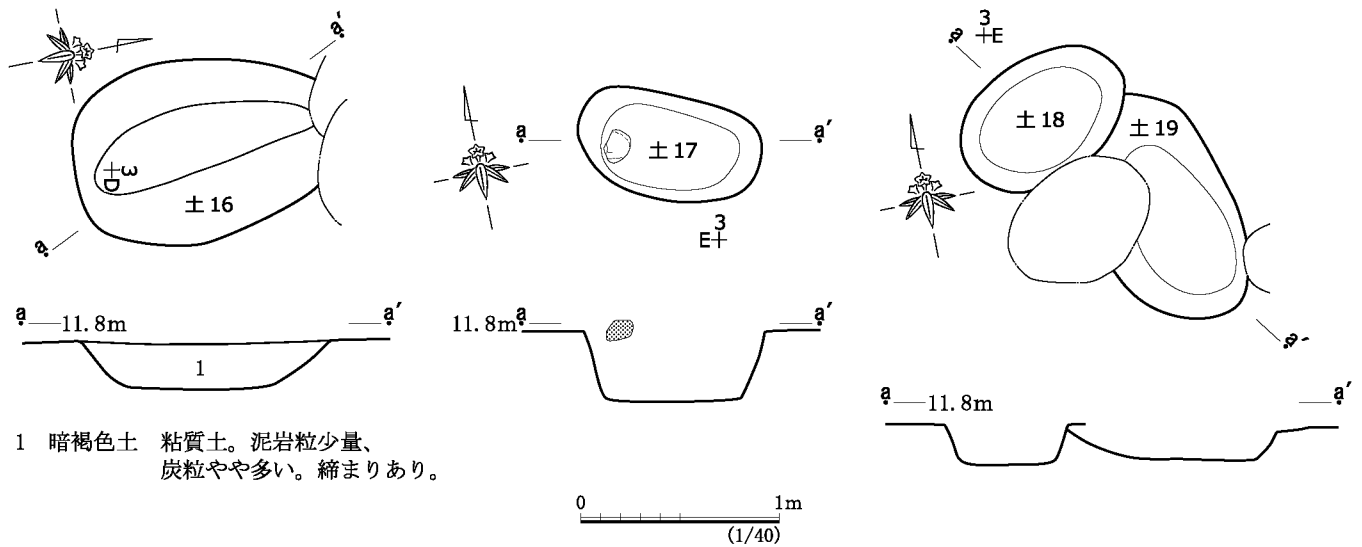


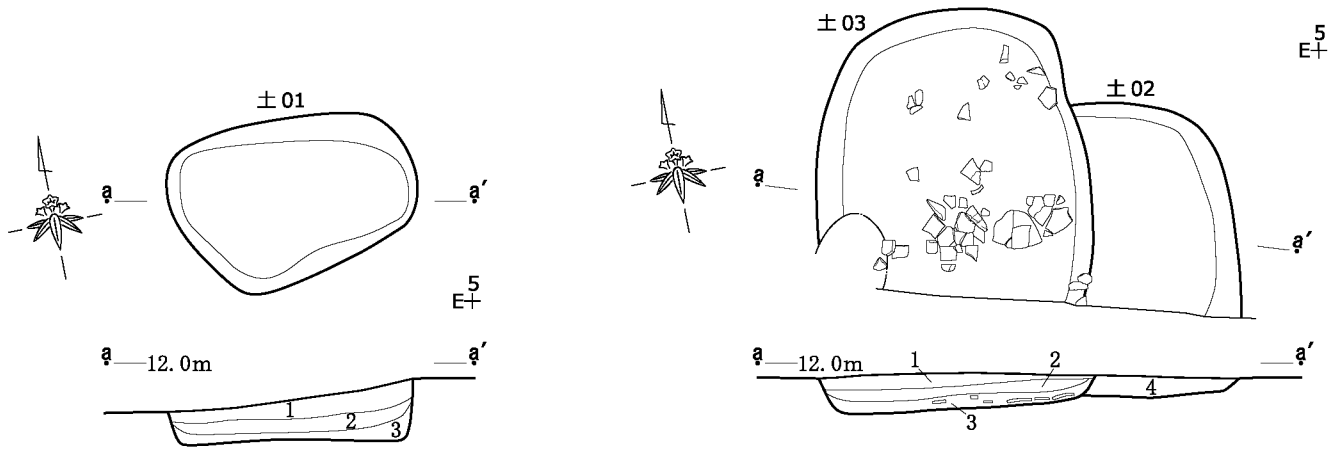
図 101 3面 土坑 (2)

### 3面遺構の出土遺物 (図 104 ~ 113、表 7)

遺物個々の説明については省略するので、各図ならびに遺物観察表 (表 7) を参照されたい。

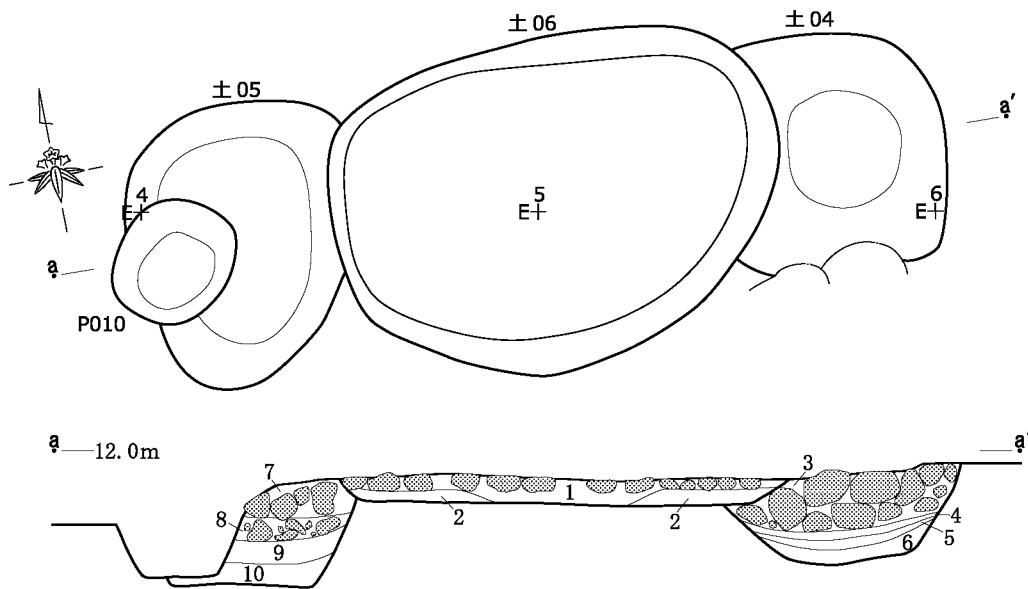
各遺構とも図示できる遺物の絶対量は少ないが、全体的な傾向については以下のようにまとめることができる。

かわらけはロクロ成形品が主体をなす遺構と、手づくね成形品が量的に拮抗する遺構とが見られる。手づくねには器壁が厚く身深器形のものも多く認められ、同種でも後発的要素が散見される。常滑甕は 5 型式が主体をなし、渥美甕も一定量が見て取れる。舶載陶磁器では龍泉窯系青磁碗・皿 I 類が主体となる。瓦は概ね永福寺 I 期の所用品が占めており、総じて 13 世紀第 2 四半期頃の遺物構成と見なせる。ただ、小片だが図 105-45 の古瀬戸卸皿は前 III ~ IV 期に下る要素があるので、一部に 13 世紀中葉以降の資料を含んでいよう。よって、2 面とは大きな時間差は見出しにくい。



- 1 暗褐色土 弱粘質土。泥岩ブロックやや多く、炭粒少量。縮まりなし。
- 2 暗褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック少量、炭粒微量。縮まりややあり。
- 3 灰褐色土 粘質土。泥岩粒少量、炭粒やや多い。縮まりなし。

- II-土3
  - 1 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒やや多い。縮まりややあり。
  - 2 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒やや多い。縮まりなし。
- II-土2
  - 3 暗褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック少量、炭粒多量。縮まりなし。
  - 4 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒多量。縮まりなし。



- II-土6
  - 1 褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック多量。縮まりややあり。
  - 2 暗褐色土 砂質土。泥岩粒少量、炭粒やや多い。縮まりややあり。
  - 3 褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量、炭粒少量。
- II-土4
  - 4 灰褐色土 砂質土。泥岩粒やや多く、炭粒微量、褐鉄粒多量。縮まりなし。
  - 5 灰褐色土 砂質土。泥岩粒、炭粒やや多い。縮まりなし。
  - 6 灰褐色土 砂質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりややあり、粘性あり。
- II-土5
  - 7 褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量、炭粒少量。縮まりなし。
  - 8 褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量、炭粒やや多い。粘土ブロック混入。縮まりなし。
  - 9 暗褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒、褐鉄粒多量。縮まりなし。
  - 10 暗褐色土 粘質土。泥岩ブロック、炭粒多量。縮まりややあり。



図 102 3面土坑(3)

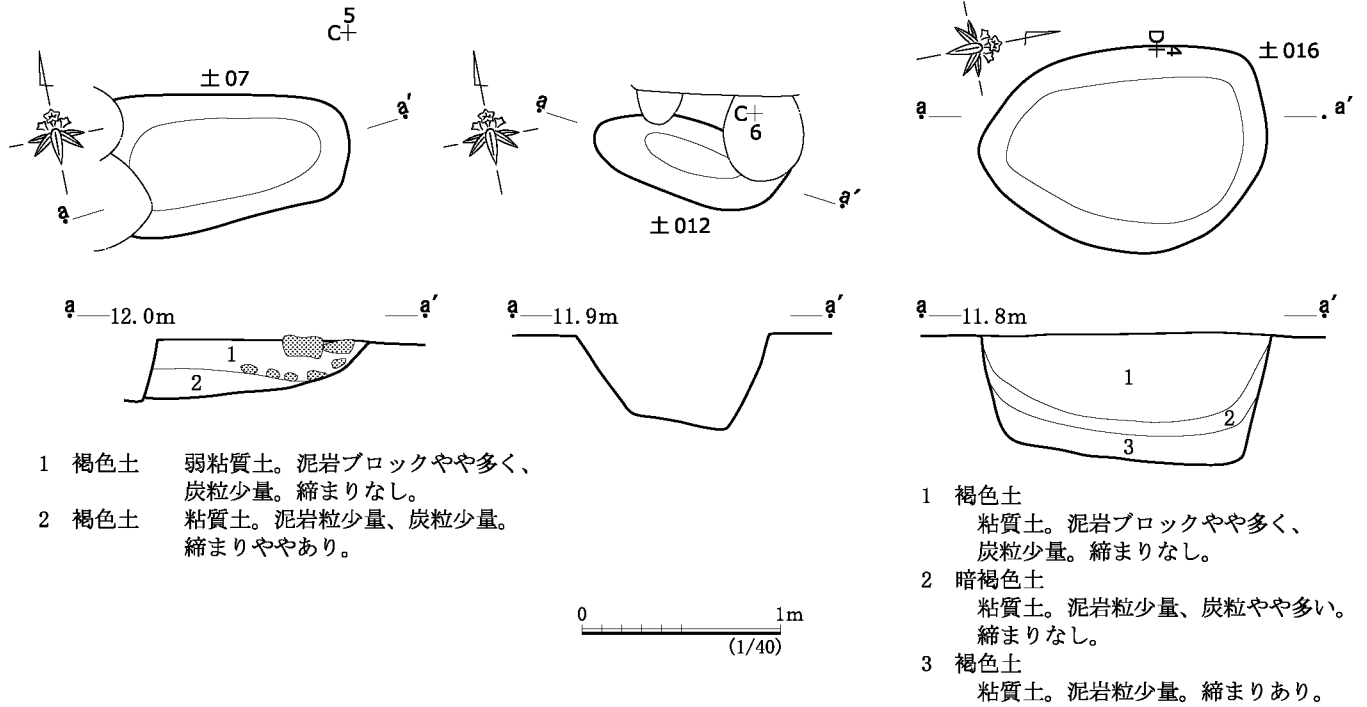


図 103 3面土坑 (4)

表 7 3面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナラ	ナラ状	板状	スコ状		
図104 3面遺構出土遺物(1)												
1	土器	ロクロかわらけ・小	(8.4)	(6.3)	1.6	1/3	○		○		橙	3面道路遺構上 白針
2	土器	ロクロかわらけ・小	8.4	6.8	1.7	4/5	○		○		黄灰	3面道路遺構上 白針、砂質
3	土器	ロクロかわらけ・小	8.3	6.0	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	3面道路遺構上 白針
4	土器	ロクロかわらけ・小	8.8	6.3	1.9	4/5	○		○		黄橙	3面道路遺構上 白針
5	土器	ロクロかわらけ・大	13.3	9.2	3.0	ほぼ完形	○		○		橙	3面道路遺構上 白針
6	土器	ロクロかわらけ・大	13.1	9.2	3.4	3/4	○		○		橙	3面道路遺構上 白針
7	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	(5.9)	[1.7]	1/4底小					灰緑 不透明	3面道路遺構上 大宰府 I or II類
8	陶器	尾張型山茶碗	—	(7.0)	[2.0]	1/6底小					灰	3面道路遺構上 白色粒・黒色粒 内面摩耗
9	陶器	常滑甕	—	—	[7.4]	口小片					暗茶褐	3面道路遺構上
10	瓦質土器	火鉢	—	—	[7.0]	口小片					黄灰	3面道路遺構上 河野 I 類 (A類)
11	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.8	狭端面 片側辺					灰	3面道路遺構上 永福寺女瓦A類カ
12	鉄製品	釘	長さ [9.2]	幅 0.4	厚さ 0.3	ほぼ完形					—	3面道路遺構上
13	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	3面道路遺構上 皇宋通寶 中国北宋代 1039年初鑄
14	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.6	1/6	○				黄灰	3面溝01 白針
15	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.9	1/6	○				黄橙	3面溝01 白針 口縁部煤付着
16	土器	手づくねかわらけ・小	(8.1)	—	1.7	口小~ 1/2底小	○		○		黄橙	3面溝01 白針
17	土器	手づくねかわらけ・小	(9.5)	(7.8)	1.7	1/3	○				黄橙	3面溝01 白針 口唇部煤付着
18	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	—	[3.0]	口小片					淡灰緑 透明	3面溝01 大宰府 I 類
19	磁器	白磁蓋	1.6	—	高さ 1.5	完形					白 透明	3面溝01
20	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.9	狭端面 片側辺					灰	3面溝01 永福寺 I 期女瓦A類カ

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナブ	ナラ状	板状	スコ状		
21	鉄製品	釘	長さ [7.3]	幅 0.7	厚さ 0.5	下端欠損					—	3面溝01
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(7.2)	2.0	1/3	○		○		黄橙	3面溝02 白針 内外面一部黒色に変色
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.2)	1.6	1/4	○		○		黄灰	3面溝02 白針
24	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	1.9	完形	○				橙	3面溝02 白針 粘土板結合法で成形
25	土器	手づくね かわらけ・大	(13.7)	—	3.7	1/4	○		○		黄灰	3面溝02 白針
26	土器	手づくね かわらけ・大	—	—	—	底一部	○				橙	3面溝02 白針 焼成後に穿孔
27	磁器	龍泉窯系青磁 鑄蓮弁文碗	—	—	[3.9]	口小片					ナブ <sup>+</sup> 黄 半透明	3面溝02 大宰府Ⅱ類
28	陶器	常滑 甕	—	(15.0)	[5.6]	胴片～ 底2/5					暗褐	3面溝02 長石
29	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	狭端面 片側辺					黒灰	3面溝02 永福寺女瓦A類
30	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	3面溝02 皇宋通寶(真書) 中国北宋代 1038年初鋳

図105 3面遺構出土遺物(2)

31	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	(7.9)	1.9	1/2	○		○		橙	3面建1-イ-2 白針
32	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	—	1.6	1/4	○				橙	3面建1-イ-2 白針
33	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.6)	1.8	2/3	○				黄橙	3面建1-イ-2 白針
34	陶器	渥美 甕	—	—	[12.5]	口小～ 胴片					ナブ <sup>+</sup> 灰	3面建1-イ-2 黒色粒・白色粒
35	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(7.1)	1.8	1/4	○		○		黄橙	3面建1-イ-3 白針
36	土器	手づくね かわらけ・大	13.6	—	3.3	1/2	○		○		黄橙	3面建1-イ-3 白針 外面全体に煤付着
37	土器	手づくね かわらけ・大	(12.2)	—	3.1	1/3					黄橙	3面建1-イ-4 白針
38	土器	手づくね かわらけ・小	(9.8)	—	1.8	1/4					黄灰	3面建物1-ロ-1 白針 内外一部煤付着
39	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.8	1/3	○				黄橙	3面建物1-ロ-1 白針
40	陶器	渥美 甕	—	—	[2.3]	口小片					灰緑	3面建物1-ロ-1
41	陶器	渥美 甕	—	—	[5.9]	口小～ 胴片					灰緑	3面建物1-ロ-1
42	陶器	常滑 甕	—	—	[13.5]	口小～ 胴片					灰	3面建物1-ロ-1 43と同一個体
43	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					灰	3面建物1-ロ-1 42と同一個体
44	陶器	渥美 甕	—	—	[10.4]	口小～ 胴片					灰	3面建物1-ロ-1
45	陶器	瀬戸 御皿	(14.4)	—	[3.2]	口1/8					灰緑	3面建1-ロ-2 白色粒
46	陶器	常滑 壺	—	—	[2.2]	口小片					暗茶褐	3面建1-ロ-2 長石
47	陶器	常滑 甕	—	—	[8.8]	口小～ 胴片					暗茶褐	3面建1-ロ-2 長石
48	陶器	常滑 甕	—	—	[8.0]	口小～ 胴片					暗茶褐	3面建1-ロ-2 長石
49	陶器	常滑 甕	—	—	[7.8]	口小～ 胴片					暗茶褐	3面建1-ロ-2 長石
50	陶器	渥美 甕	—	—	[5.2]	口小～ 胴片					灰緑	3面建1-ロ-2 長石
51	陶器	渥美 甕	—	—	[5.1]	口小～ 胴片					灰緑	3面建1-ロ-2 長石
52	陶器	渥美 甕	—	—	[6.0]	口小～ 胴片					暗灰	3面建1-ロ-2 長石
53	陶器	渥美 甕	—	—	—	胴片					灰褐	3面建1-ロ-2 長石

図106 3面遺構出土遺物(3)

54	陶器	渥美 片口鉢	(32.8)	(14.0)	9.5	口小～ 底1/6					灰褐	3面建1ロ-2 黒色粒・黒色粒 口縁部一部に再加工
55	瓦	軒平瓦	—	—	—	瓦当一部					暗灰	3面建1ロ-2 下外区幅1.5 陰刻下向き剣頭文
56	石製品	砥石	長さ [4.6]	幅 1.8	厚さ 1.0	両端欠損					灰緑	3面建1ロ-2 上野産 中砥
57	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.9	1/3	○				黄橙	3面建1-ハ-1 白針、砂質 口縁部に煤付着



遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ガ	サリ状	板状	スリ状		
58	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	—	1.7	1/4					黄灰	3面建1-ハ-1 白針、砂質
59	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	—	1.9	1/2	○				黄灰	3面建1-ハ-2 白針
60	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	—	2.0	1/2					黄橙	3面建1-ハ-2 白針
61	土器	手づくね かわらけ・大	(14.5)	—	3.0	1/3					黄灰	3面建1-ハ-2 白針 内面に粘土塊付着
62	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	1.7	1/4	○				橙	3面建1-ハ-3 白針
63	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.6	1/4	○				黄橙	3面建1-ハ-3 白針 口縁部煤付着
64	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.6]	口小片					炒-ブ 灰 透明	3面建1-ハ-3 大宰府I類
65	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					灰緑	3面建1ニ-2 長石
66	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.4	1/3	○				黄灰	3面土坑1 白針
67	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.2	筒部 片側辺					灰	3面土坑1 白色粒
68	土器	手づくね かわらけ・小	(8.1)	—	1.6	1/4	○				橙	3面土坑2 白針
69	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.5)	(8.8)	3.6	口小～ 底1/4	○		○		黄橙	3面土坑3 白針
70	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(6.9)	2.1	1/4	○		○		黄橙	3面土坑4 白針
71	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	2.1	完形					橙	3面土坑4 白針
72	磁器	青白磁 折縁皿	(10.1)	—	[1.3]	口1/8					青白 半透明	3面土坑4 口縁部輪花形(22弁)内面型押し蓮弁文
図107 3面遺構出土遺物(4)												
73	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.0)	1.4	2/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
74	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.0	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
75	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(5.6)	1.5	2/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
76	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(6.8)	1.7	1/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
77	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(5.6)	1.7	2/3	○				黄灰	3面土坑9 白針、やや粉質
78	土器	ロクロ かわらけ・小	9.2	7.2	1.8	ほぼ完形	○				橙	3面土坑9 白針 底部外面に擦痕
79	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(6.4)	1.4	1/4	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
80	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	5.9	1.5	2/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針、やや粉質
81	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.0)	1.5	1/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
82	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.4	1.7	ほぼ完形	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
83	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	6.2	1.8	3/4	○		○		黄橙	3面土坑9 白針、やや粉質
84	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.5	1.6	4/5	○		○		黄橙	3面土坑9 白針 口唇部に煤付着
85	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.0	1.7	2/3	○		○		黄灰	3面土坑9 白針 口縁部注口状、煤付着
86	土器	ロクロ かわらけ	—	5.7	[1.7]	体片～ 底完存					黄橙	3面土坑9 白針、砂質
87	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(7.2)	3.5	1/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
88	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.0	3.0	4/5	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
89	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.0)	3.2	2/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
90	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.8)	3.3	2/3	○		○		黄灰	3面土坑9 白針
91	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(7.6)	3.5	1/4	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
92	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.8	1/2					茶褐	3面土坑9 白針 全体に黒色に変色
93	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	—	3.1	1/4	○				黄橙	3面土坑9 白針
94	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	—	3.5	1/3					黄橙	3面土坑9 白針、砂質

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テ*	テラ状	板状	スコ状		
95	陶器	渥美 甕	—	—	—	体片					灰緑	3面土坑9
96	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.8	不明					灰白	3面土坑9 八幡宮 I 期と同類カ 割れ口に擦痕
97	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.2)	1.6	1/4	○		○		黄灰	3面土坑10 白針
98	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.3)	1.5	1/4	○		○		黄灰	3面土坑10 白針
99	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(10.0)	3.3	1/3	○		○		黄橙	3面土坑10 白針
100	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.6	4/5					黄橙	3面土坑10 白針
101	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	—	1.7	1/4					黄橙	3面土坑11 白針
102	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	2.4	1/4					黄橙	3面土坑11 白針
103	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.4	1/4					黄橙	3面土坑11 白針
104	磁器	同安窯系青磁 櫛椀文碗	—	—	—	体片					淡緑 透明	3面土坑11 大宰府 I 類
105	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.2)	1.8	1/2	○		○		黄橙	3面土坑13 白針
106	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	2.0	4/5					黄橙	3面土坑13 白針
107	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	3.0	1/3					黄橙	3面土坑13 白針
108	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.1	1/3					黄橙	3面土坑13 白針
109	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.1	1/3					黄橙	3面土坑13 白針
図108 3面遺構出土遺物(5)												
110	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.6)	1.4	1/4	○		○		黄灰	3面土坑14 白針
111	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.6)	1.7	1/5					黄橙	3面土坑14 白針
112	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(5.8)	2.4	ほぼ完形	○				黄灰	3面土坑14 白針、砂質
113	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	—	2.1	ほぼ完形	○				橙	3面土坑14 白針
114	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.2	口小～ 底1/2					黄橙	3面土坑14 白針
115	陶器	常滑 甕	(19.9)	—	[5.9]	口小～ 胴片					茶褐	3面土坑14 5型式
116	陶器	渥美 甕	—	—	[8.0]	口小～ 胴片					緑灰	3面土坑14
117	陶器	渥美 甕	—	—	[6.3]	口小～ 胴片					黄緑灰	3面土坑14
118	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.8)	1.3	2/3	○		○		黄橙	3面土坑15 白針 内外面一部に煤付着
119	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(5.4)	1.4	1/3	○		○		黄灰	3面土坑15 白針
120	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.9	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	3面土坑15 白針 内面全体黒色に変色
121	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.4)	1.7	1/6	○		○		黄橙	3面土坑15 白針
122	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.2	1.7	完形	○		○		黄橙	3面土坑15 白針
123	土器	ロクロ かわらけ・小	9.3	7.2	1.8	4/5	○				黄橙	3面土坑15 白針
124	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.6)	1.8	1/3	○		○		黄橙	3面土坑15 白針 口縁部一部に煤付着
125	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.9	3/4	○				黄灰	3面土坑15 白針
126	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.2)	3.1	1/3	○		○		黄橙	3面土坑15 白針
127	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	9.8	3.4	2/3	○		○		黄灰	3面土坑15 白針 外底面に擦痕
128	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	—	3.2	1/2	○				黄橙	3面土坑15 白針
129	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.0]	口小片					灰緑 透明	3面土坑15
130	陶器	尾張型 山茶碗	—	—	[2.3]	口小片					灰	3面土坑15 長石
131	陶器	常滑 片口鉢 I 類	—	—	[2.3]	口小片					灰	3面土坑15 長石

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナラ	ナラ状	板状	スノ状		
132	石製品	滑石鋤転用品 用途不明	縦 [4.2]	横 [5.9]	厚さ 1.2	不明					灰黒	3面土坑15
133	陶器	渥美 甕	—	—	—	体片					暗褐	3面土坑16 白色粒
134	陶器	渥美 甕	—	—	[2.8]	口小片					灰黒	3面土坑16 黒色粒・白色粒
135	瓦	平瓦	—	—	[2.0]	端面不明					灰	3面土坑16 永福寺女瓦A類
図109 3面遺構出土遺物(6)												
136	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	7.4	1.8	3/4	○		○		黄橙	3面土坑17 白針
137	土器	手づくね かわらけ・大	(14.2)	—	4.0	1/4	○				黄橙	3面土坑17 白針
138	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.6)	1.5	1/4	○		○		黄橙	3面土坑18
139	土器	手づくね かわらけ・大	(12.9)	—	3.7	1/3	○				黄橙	3面土坑18 口縁部に煤付着
140	土器	手づくね かわらけ・小	(8.1)	—	2.2	1/4	○				黄橙	3面土坑19 白針
141	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	(16.0)	—	[4.6]	1/6					灰緑 透明	3面土坑19 大宰府I類
142	土器	ロクロ かわらけ・極小	(6.7)	(5.4)	1.1	1/3	○		○		黄橙	3面土坑01 内折れ 白針
143	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.2)	1.5	1/4	○		○		橙	3面土坑01 白針
144	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(7.8)	3.2	1/4	△		○		黄橙	3面土坑01 白針
145	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.5]	口小～ 底小片					灰白 不透明	3面土坑01
146	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[4.8]	口小片					灰	3面土坑01 長石
147	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[8.5]	口小～ 体片					灰	3面土坑01 口縁部に粘土の塊付着
148	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.3)	1.5	1/3	○		○		黄橙	3面土坑02 白針
149	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.4)	1.4	1/4	○		○		黄灰	3面土坑02 白針
150	土器	ロクロ かわらけ・小	—	6.1	[1.0]	底小片	○		○		黄灰	3面土坑02 白針
151	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(9.4)	2.8	1/3	○		○		黄橙	3面土坑02 白針
152	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[9.5]	口小～ 体片					灰	3面土坑02 白色粒
153	陶器	尾張型 山皿	(8.1)	(4.1)	1.6	1/2					灰	3面土坑02 白色粒
154	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	広端面 片側辺					灰	3面土坑02 永福寺女瓦A類
155	石製品	滑石鋤転用品	長さ [11.0]	幅 [6.7]	厚さ 1.7	不明					暗灰	3面土坑02
156	石製品	硯	長さ [3.2]	幅 5.6	厚さ 1.2	不明					暗青灰	3面土坑02 高島硯カ
157	鉄製品	刀子	長さ [24.6]	幅 2.0	厚さ 0.3	茎一部 欠損					—	3面土坑02 刃長16.5 茎長[8.2]
図110 3面遺構出土遺物(7)												
158	陶器	常滑 甕	—	—	[6.6]	口小～ 胴片					黒褐	3面土坑04 5型式 白色粒
159	陶器	常滑 広口壺	(19.7)	(15.0)	33.6	口1/4～ 底2/5					茶褐	3面土坑03 5型式
160	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					灰	3面土坑04 白色粒
161	土器	白かわらけ 手づくね・小	(8.2)	—	1.3	1/3					灰白	3面土坑05
162	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.7	1/4	○				黄灰	3面土坑05 白針
163	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	2.9	1/3	○				橙	3面土坑05 白針 口縁部一部煤付着
164	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[4.2]	口小片					灰	3面土坑05 長石
165	鉄製品	刀子	長さ [12.5]	幅 1.7	厚さ 0.4	茎部欠損					—	3面土坑05 刃幅 1.7 茎幅 1.0 刃厚 0.4 茎厚 0.3
166	鉄製品	馨か	長さ 4.9	幅 [7.4]	厚さ 0.5	不明					—	3面土坑05
167	鉄製品	釘	長さ [3.3]	幅 0.5	厚さ 0.5	上端欠損					—	3面土坑05
168	土器	ロクロ かわらけ・小	—	6.0	[1.5]	底完存					黄灰	3面土坑06

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ*	ナラ状	板状	スコ状		
169	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	—	1.6	1/4	○				黄灰	3面土坑06 白針
170	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	2.0	1/4	○				黄灰	3面土坑06 白針
171	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[4.0]	口小片					灰	3面土坑06 長石
172	陶器	渥美 甕	—	—	[3.7]	口小片					暗灰	3面土坑06
173	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	—	1.7	1/4	○				黄灰	3面土坑07 白針
174	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	3.0	1/2	○				黄灰	3面土坑07 白針
175	土器	手づくね かわらけ・小	(8.1)	—	1.8	1/3	○				橙	3面礎石P01 白針
図111 3面遺構出土遺物(8)												
176	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.6)	1.9	3/4					黄橙	3面P4 内外面に煤付着
177	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.3	1.9	完形	○		○		黄橙	3面P6 白針 口縁部打ち欠き
178	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	—	1.7	1/3	○				黄灰	3面P6 白針
179	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.5)	(9.4)	3.1	4/5	○		○		黄橙	3面P6 白針
180	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[6.6]	口小～ 体片					灰緑 透明	3面P6 白針
181	土器	手づくね かわらけ・小	(9.5)	—	1.6	1/3	○				黄橙	3面P7 白針
182	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	2.6	1/3	○				黄橙	3面P7 白針 口縁部煤付着
183	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	2.0	1/4	○				橙	3面P8 白針
184	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					暗灰 黄緑	3面P8 長石
185	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(7.0)	1.9	1/4	○		○		黄橙	3面P9 白針
186	陶器	常滑 甕	—	—	—	体片					暗灰 黄緑	3面P14
187	陶器	渥美 片口鉢	—	—	[5.7]	口小片					灰褐	3面P17
188	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.0)	1.5	1/4	○				橙	3面P18 白針
189	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	2.6	1/4					黄橙	3面P20 白針
190	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	—	1.4	1/4	○				黄橙	3面P23 白針、やや粉質 口縁部一部に擦痕
191	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.8	1/2	○				黄灰	3面P23 白針 内外面一部黒色に変色
192	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.0	1/2	○				黄橙	3面P23 白針 内外面一部黒色に変色
193	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.3)	1.7	1/6	○		○		黄橙	3面P24 白針
194	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	2.1	ほぼ完形	○				黄橙	3面P24 白針 口縁部打ち欠き
195	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(9.2)	3.0	3/4	○		○		黄橙	3面P25 白針
196	陶器	常滑 甕	—	(17.0)	[6.7]	胴片～ 底1/4					暗褐	3面P30 長石
197	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	2.0	1/4	○				黄橙	3面P31 白針 内外煤付着
198	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	3.3	1/2	○				黄灰	3面P33 白針
199	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(7.4)	1.8	1/6	○				黄橙	3面P34 白針
200	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.5)	1.4	1/4	○		○		黄橙	3面P35 白針
201	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	1.7	完形	○				黄橙	3面P35 白針 口縁部打ち欠き、煤付着
202	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	—	1.9	1/4	○				黄橙	3面P38 白針 口縁部打ち欠き、内外煤付着
203	鉄製品	釘	長さ 5.9	幅 0.6	厚さ 0.5	完形					—	3面P40
204	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[4.3]	口小片					緑灰	3面P42 白色粒
205	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[5.2]	口小片					緑灰	3面P42 白色粒

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ*	リム状	板状	スコ状		
206	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	8.3	3.5	口小～ 底完存	○		○		橙	3面P44 白針、砂質
207	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	—	3.4	口小1/3					橙	3面P47 白針
208	磁器	青白磁 劃花文碗	—	—	[3.2]	口小片					水青 透明	3面P47 輪花形カ
209	瓦器	輪花碗	—	—	[2.0]	口小片					白	3面P47

図112 3面遺構出土遺物(9)

210	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	7.2	1.5	1/2	○		○		黄橙	3面P48 白針
211	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	(11.0)	3.0	1/3					黄橙	3面P48 白針
212	土器	手づくね かわらけ・大	13.3	11.1	3.2	2/3	○				黄灰	3面P48 白針
213	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.8)	1.6	1/4	○		○		黄橙	3面P52 内外煤付着
214	磁器	龍泉窯系青磁 錦蓮弁文碗	—	—	[2.2]	口小片					リ-ブ 灰 透明	3面P53
215	陶器	泉州窯 盤	—	—	[2.2]	口小片					灰緑	3面P54
216	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	(7.4)	1.4	1/3					黄灰	3面P55 白針
217	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	(8.2)	1.5	1/4	○				橙	3面P55 白針
218	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	(11.2)	2.7	1/4	○				黄橙	3面P60 白針
219	陶器	常滑 甕	—	—	[7.5]	口小片					褐	3面P60 白色粒
220	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	12.0	3.2	ほぼ完形					黄橙	3面P61
221	陶器	常滑 甕	—	(15.0)	[3.4]	底小1/3					赤褐	3面P62 白色粒
222	石製品	砥石	長さ [3.4]	幅 3.1	厚さ 0.9	不明					明緑灰	3面P62 中砥
223	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(9.0)	3.7	1/3	○		○		黄橙	3面P63 白針
224	土器	手づくね かわらけ・小	9.5	7.6	1.7	4/5	○				黄橙	3面P63 白針
225	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	(7.0)	1.6	1/4					橙	3面P63 白針
226	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	7.9	2.0	ほぼ完形	○				黄橙	3面P63 白針 口縁部打ち欠き
227	土器	手づくね かわらけ・小	10.0	2.7	2.0	2/3	○				橙	3面P63 白針
228	土器	手づくね かわらけ・小	(9.8)	(8.2)	2.3	1/4	○				黄橙	3面P63 白針
229	磁器	同安窯系青磁 櫛掻文皿	—	(3.9)	[1.5]	底小1/2～ 体片					淡黄灰 透明	3面P63
230	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	高台径 (5.4)	[5.4]	底小1/4～ 体片					灰緑 透明	3面P63
231	土器	手づくね かわらけ・大	(14.6)	(13.0)	2.8	口小～ 1/4底小	○				黄橙	3面P65 白針
232	土器	手づくね かわらけ・大	(14.8)	(13.4)	3.2	1/4	○				黄橙	3面P65 白針
233	陶器	常滑 甕	—	—	[3.2]	口小片					灰褐	3面P66
234	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	(9.0)	2.2	1/3	○				黄橙	3面P67 白針 口縁～外面煤付着
235	土器	手づくね かわらけ・大	(13.7)	(12.1)	3.6	1/3	○				黄橙	3面P67 白針 口縁～外面煤付着
236	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.2)	1.8	1/4	○		○		橙	3面P74 白針 口縁部一部引っ掻き痕
237	陶器	常滑 片口鉢I類	—	15.0	[3.4]	体片～ 底完存					明茶褐	3面P74 長石
238	石製品	球状製品 用途不明	直径 5.8	—	—	完形					暗黄灰	3面P74 砂岩質

図113 3面遺構出土遺物(10)

239	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	(8.6)	2.1	1/4	○				橙	3面P5A 白針
240	磁器	同安窯系青磁 櫛掻文皿	(10.2)	(5.3)	2.2	口1/8					灰白 透明	3面P6A
241	陶器	常滑 甕	(19.6)	—	[6.4]	口1/6					褐	3面P7A 3面土坑14と同一個体
242	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.0)	1.5	1/4	○		○		黄灰	3面P8A 白針 口縁部煤付着

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	サテ状	板状	スコ状		
243	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	(7.9)	1.6	1/4	○				橙	3面P02 白針
244	陶器	瀬戸 瓶子	—	(12.0)	[5.1]	1/6					灰白	3面P04 瓶子Ⅱ類、または水注
245	陶器	渥美・湖西型 山茶碗	—	(5.8)	[2.3]	底1/4					灰	3面P014 図83-463(2面P018)と同一個体
246	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.4)	1.7	1/4	○		○		黄橙	3面P016 白針 内外面に煤付着
247	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.3	1/4	○				黄灰	3面P016A 白針 内外面黒色に変色
248	土器	手づくね かわらけ・大	(12.9)	—	3.4	1/4	○				黄橙	3面P016A
249	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.0]	口小片					明褐	3面P018 長石
250	鉄製品	釘	長さ [4.5]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠損					—	3面P018

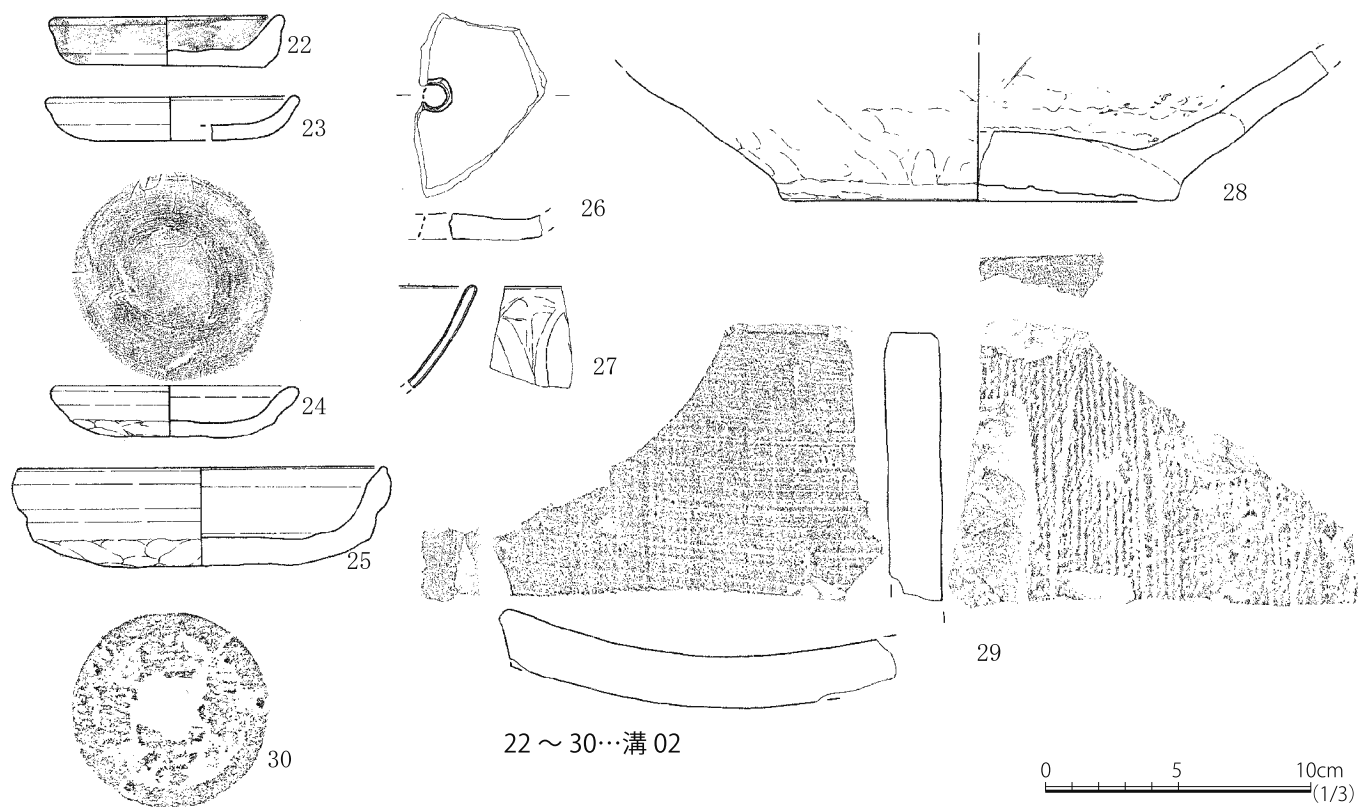
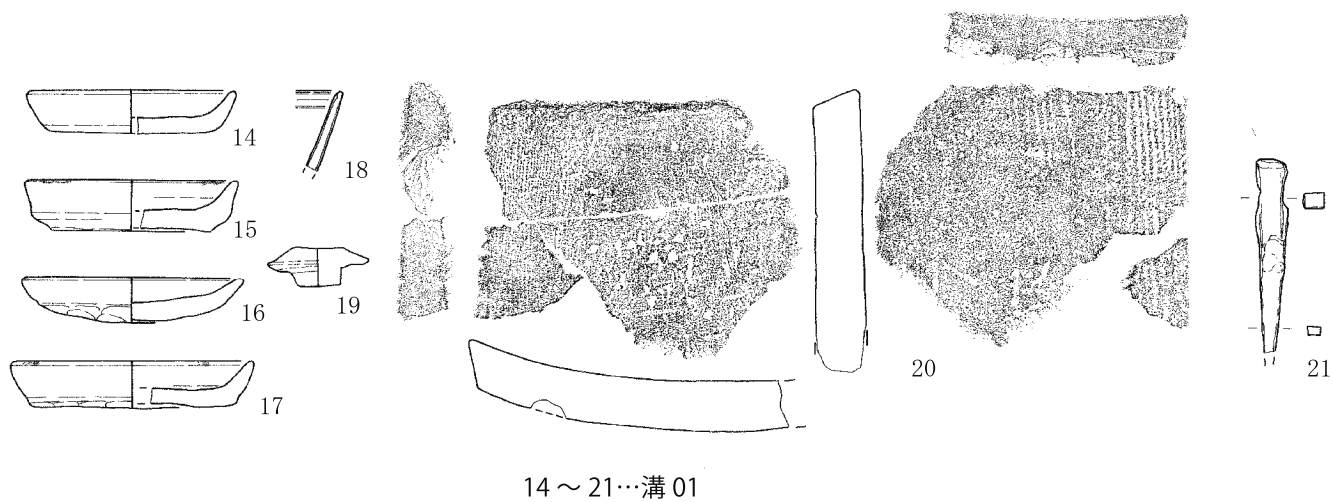
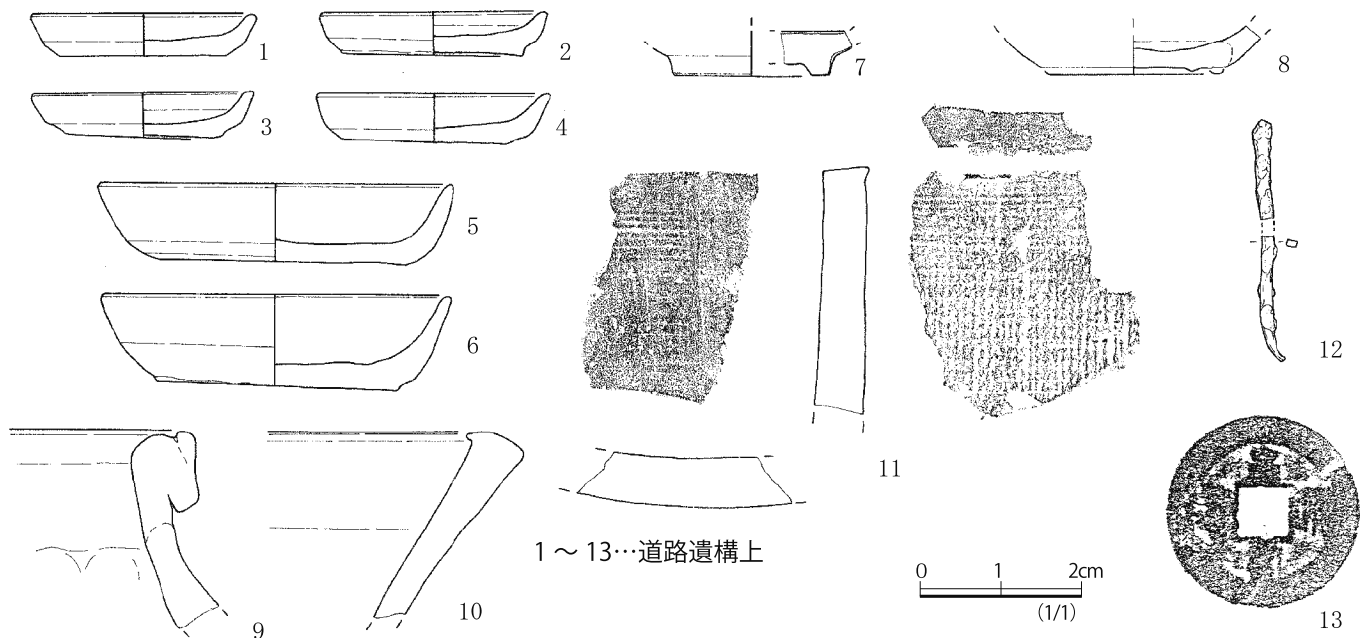


图 104 3面遺構出土遺物(1)

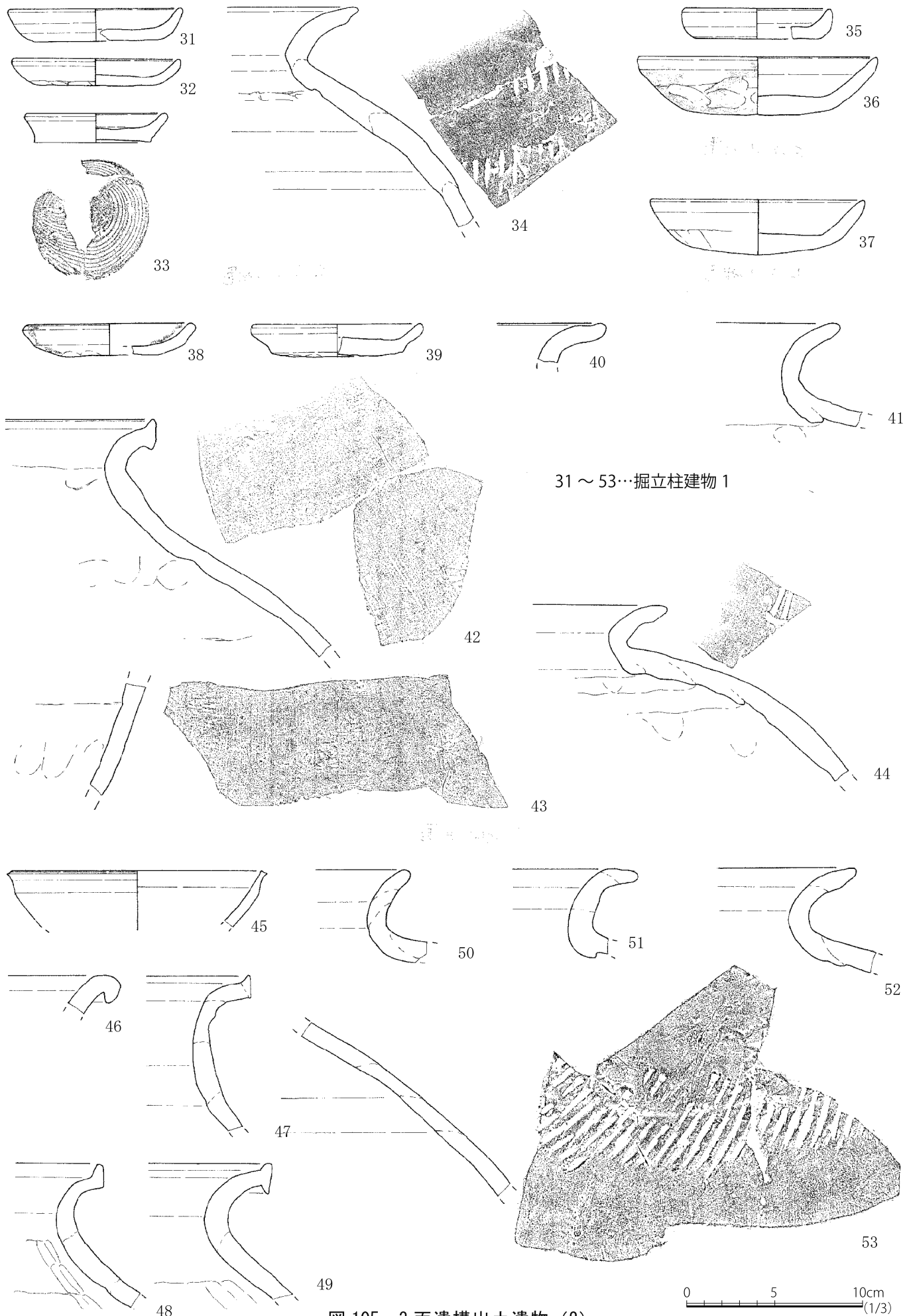


图 105 3面遺構出土遺物 (2)



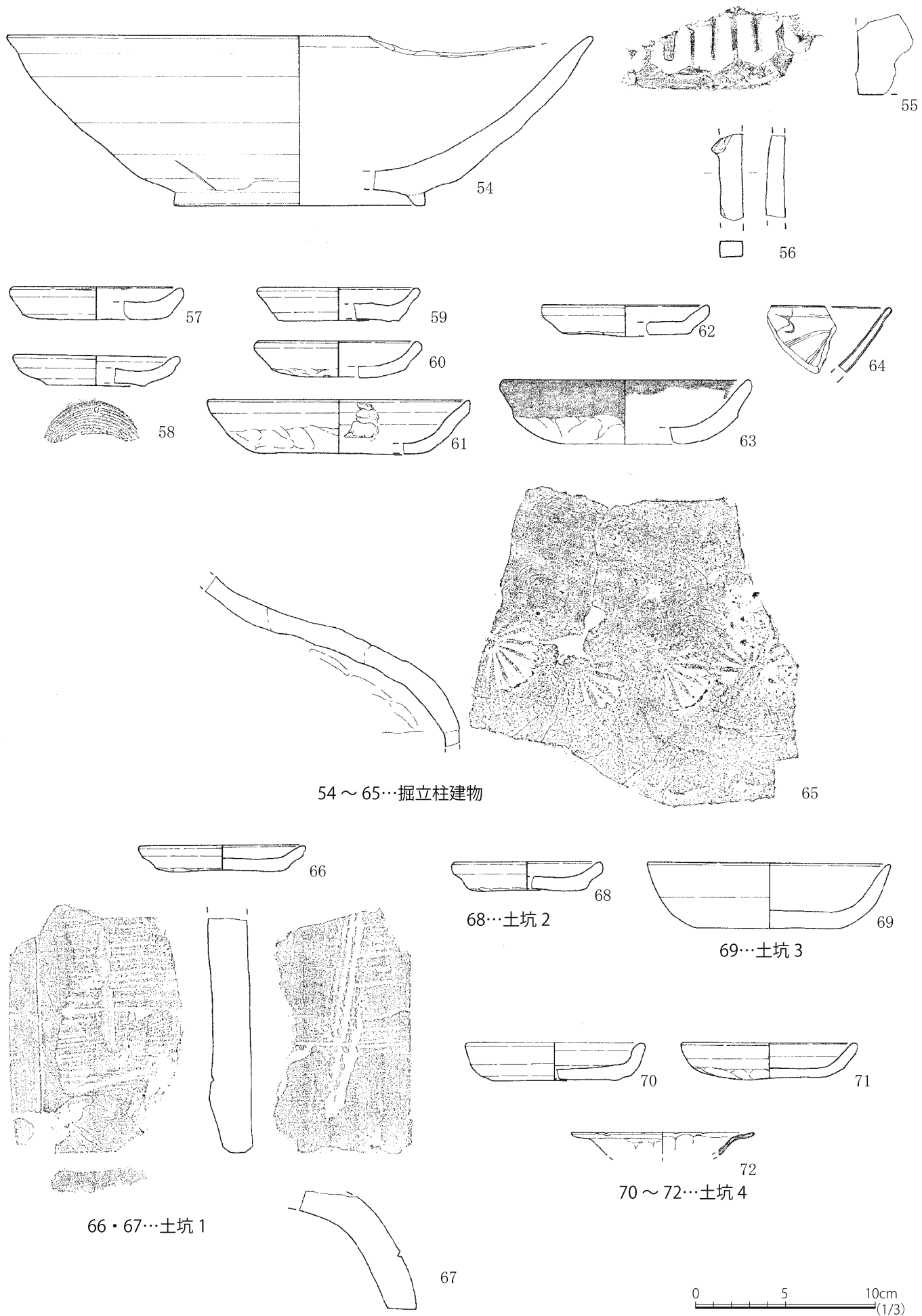
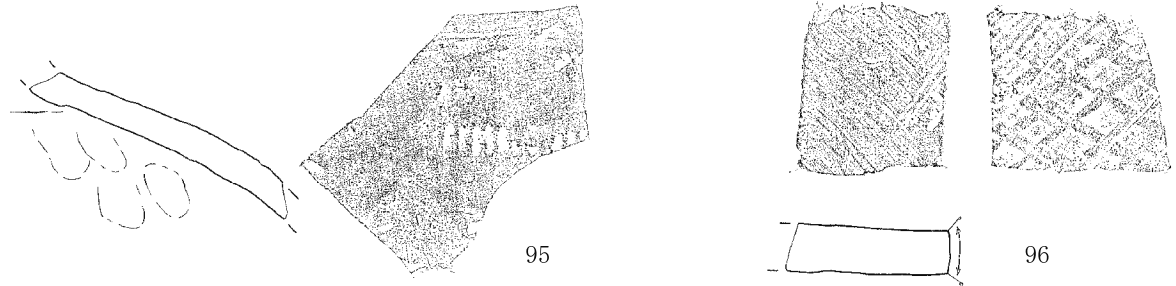
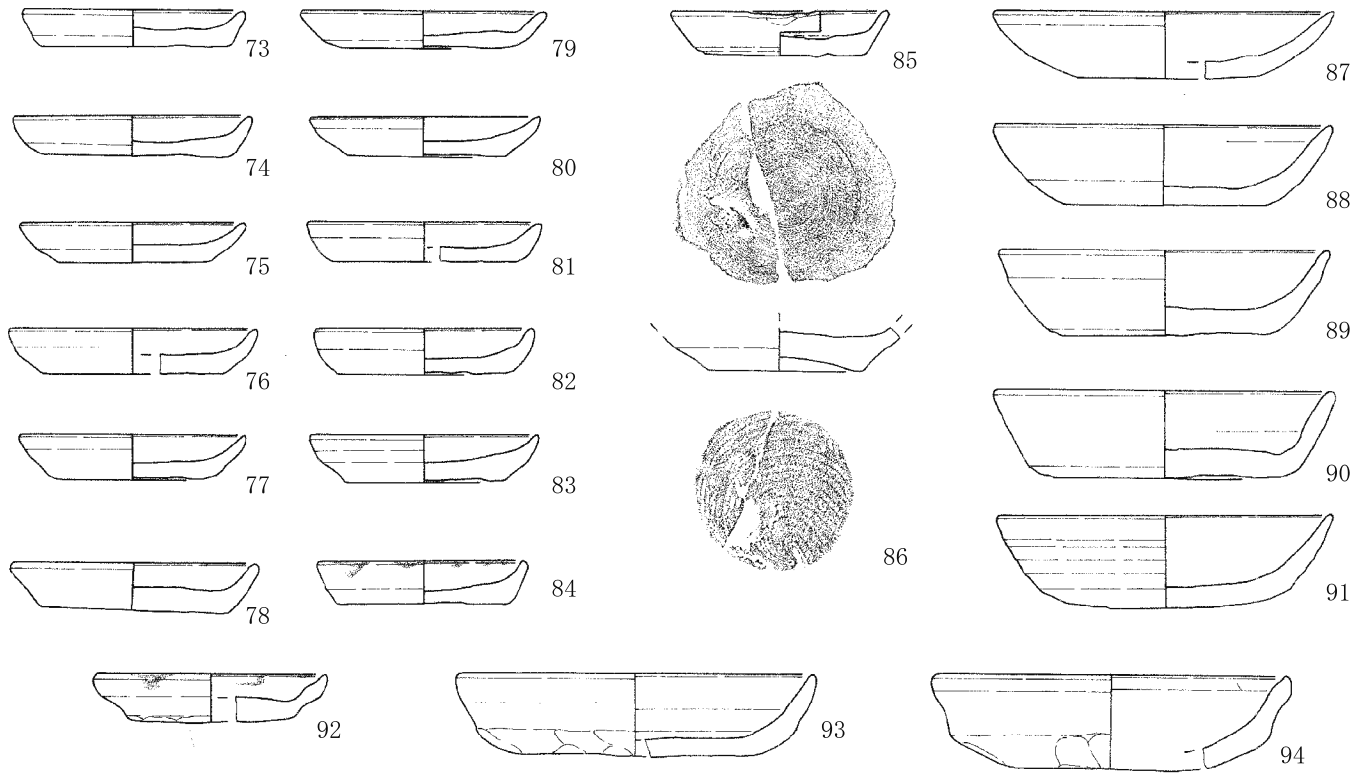
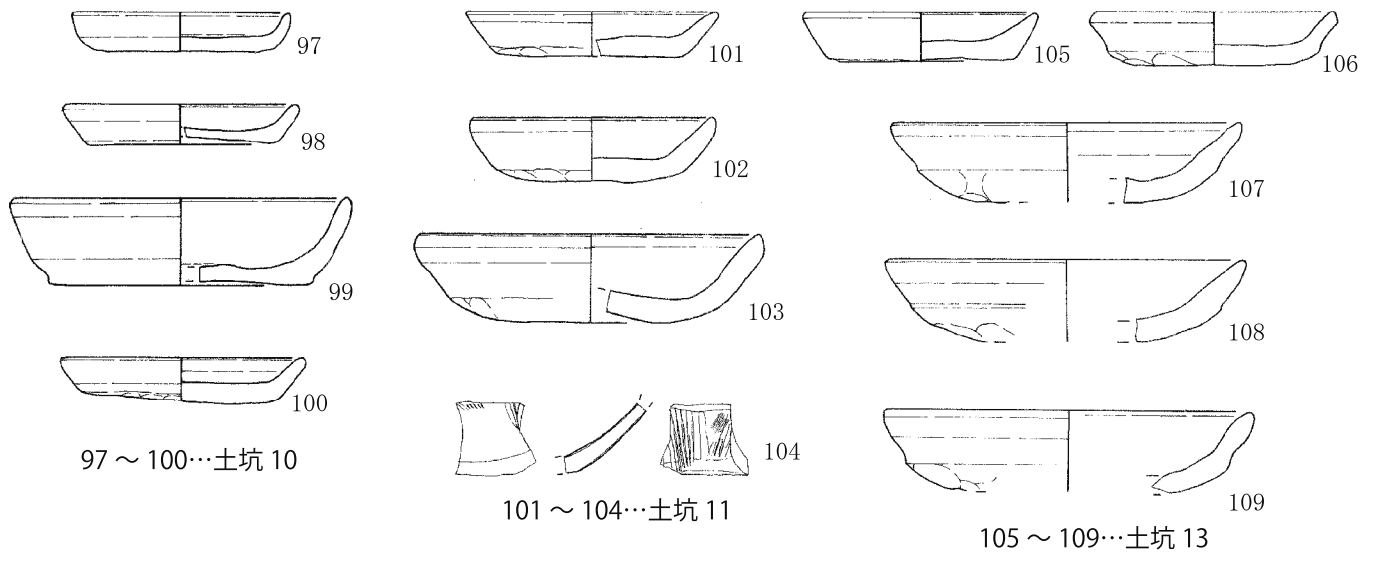


图 106 3面遺構出土遺物 (3)



73 ~ 96...土坑 9



97 ~ 100...土坑 10

101 ~ 104...土坑 11

105 ~ 109...土坑 13

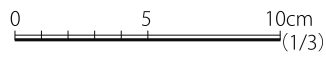


图 107 3 面遺構出土遺物 (4)

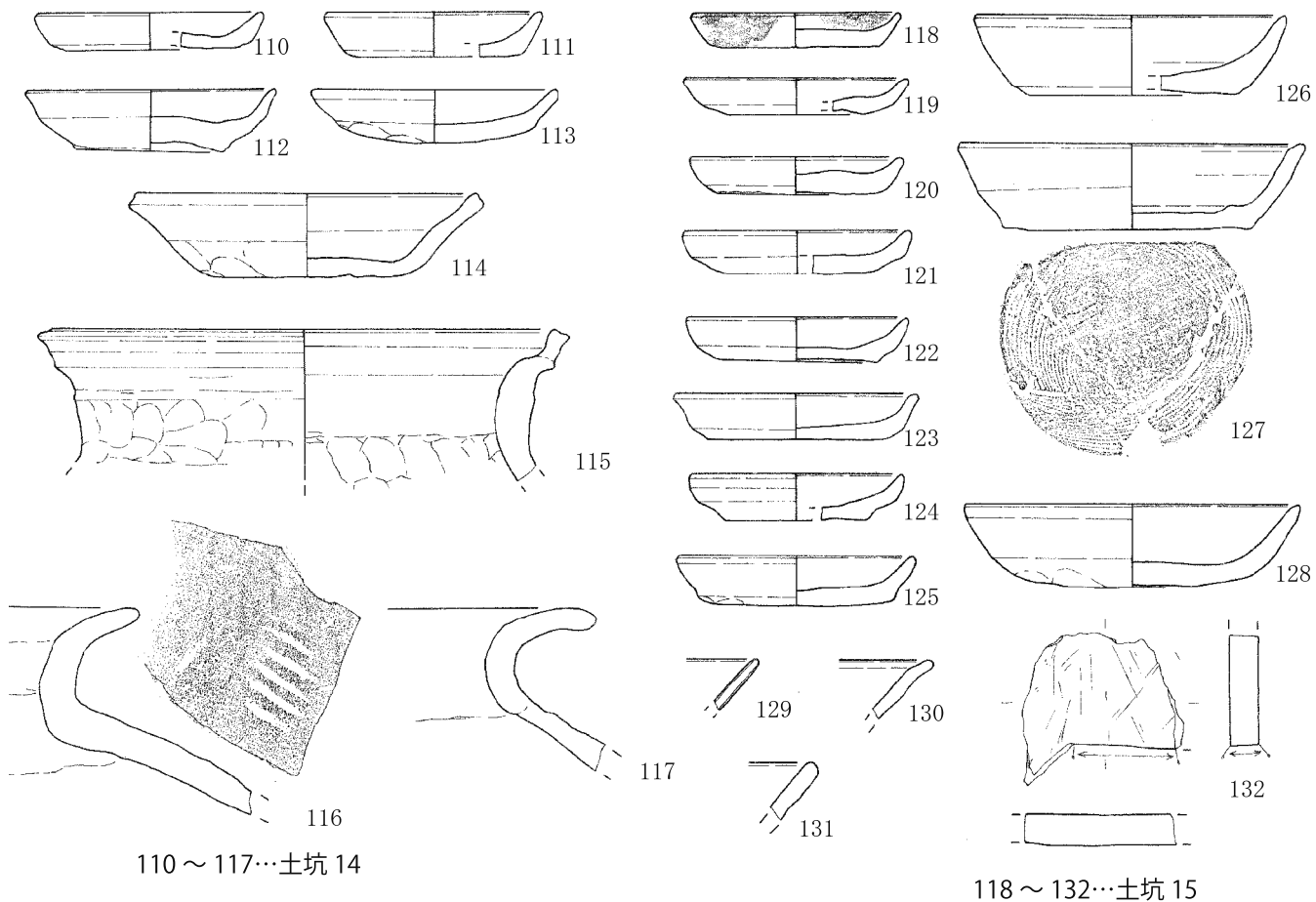


图 108 3 面遺構出土遺物 (5)

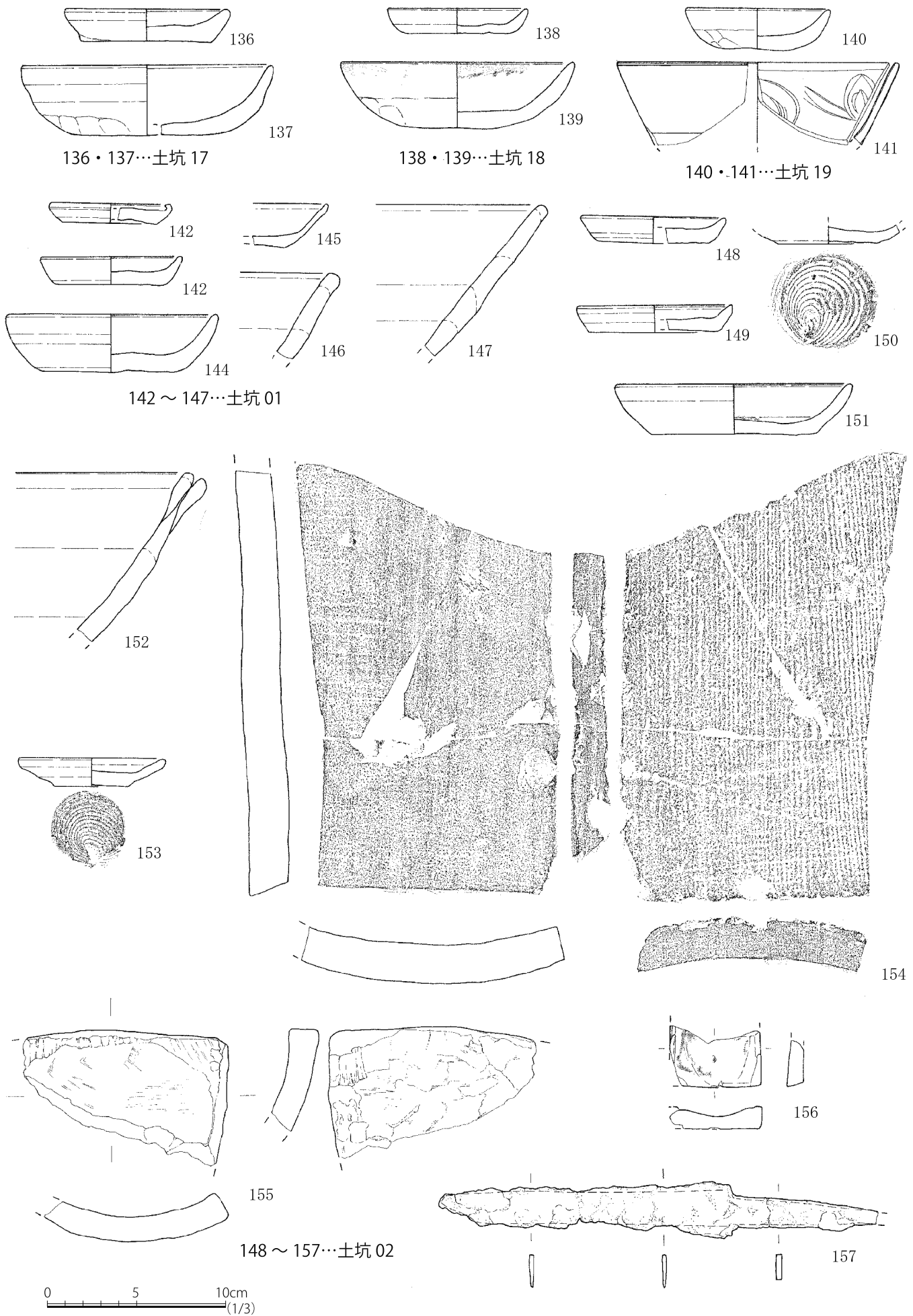
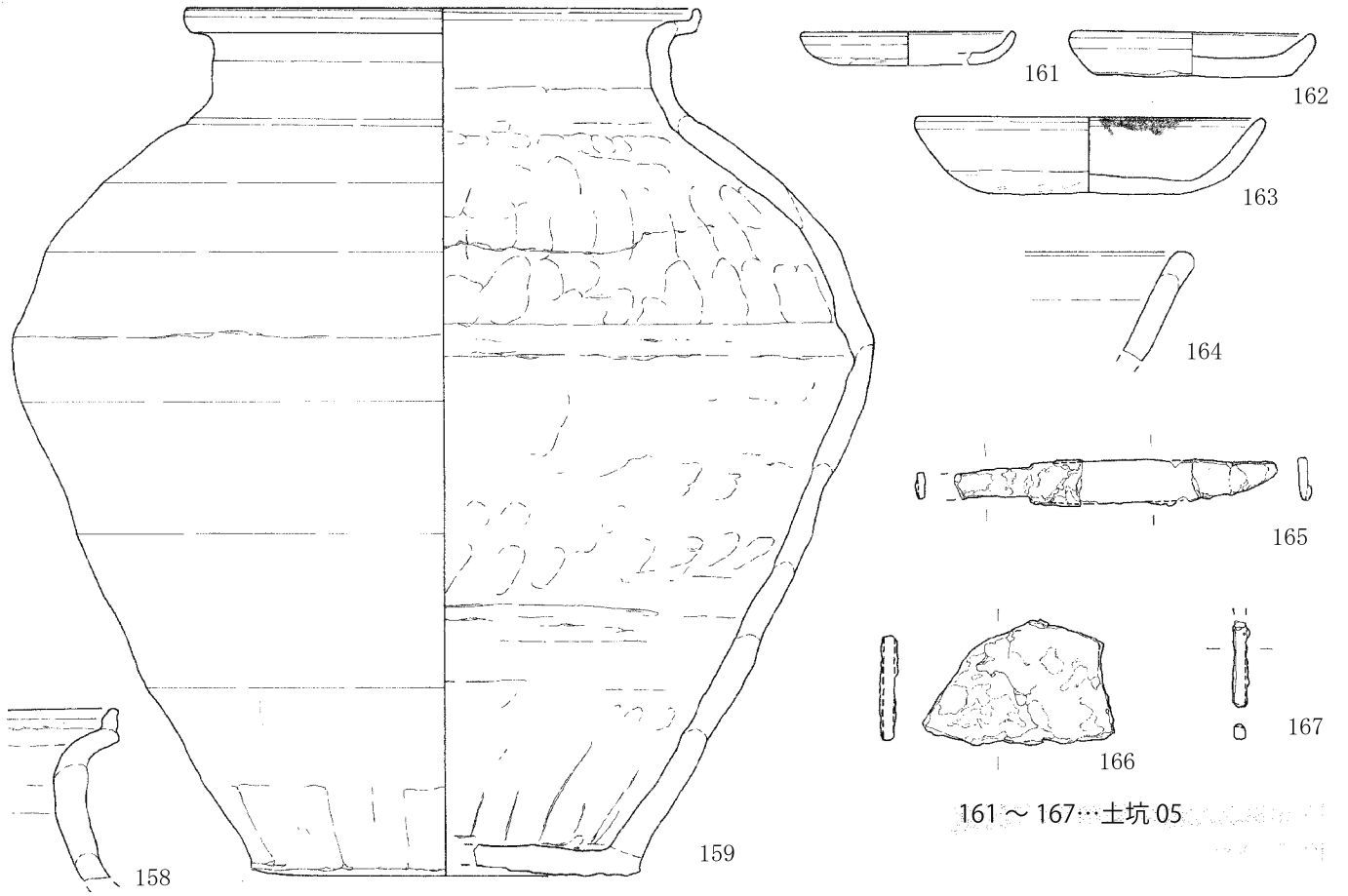
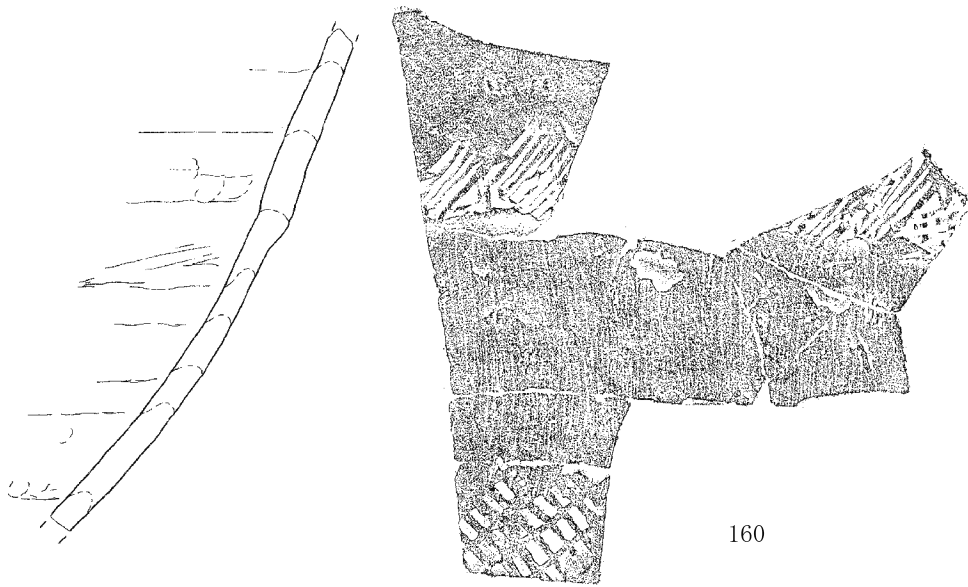


图 109 3 面遺構出土遺物 (6)

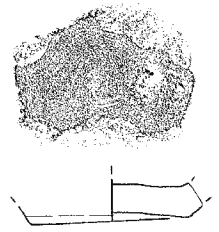


158…土坑 03

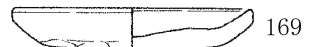
161 ~ 167…土坑 05



159 · 160…土坑 04



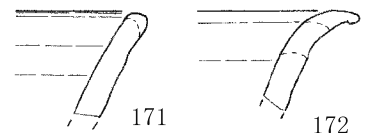
168



169



170



171

172

168 ~ 172…土坑 06



173



174

173 · 174…土坑 07



175

175…礎石 P01

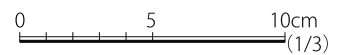


图 110 3 面遺構出土遺物 (7)

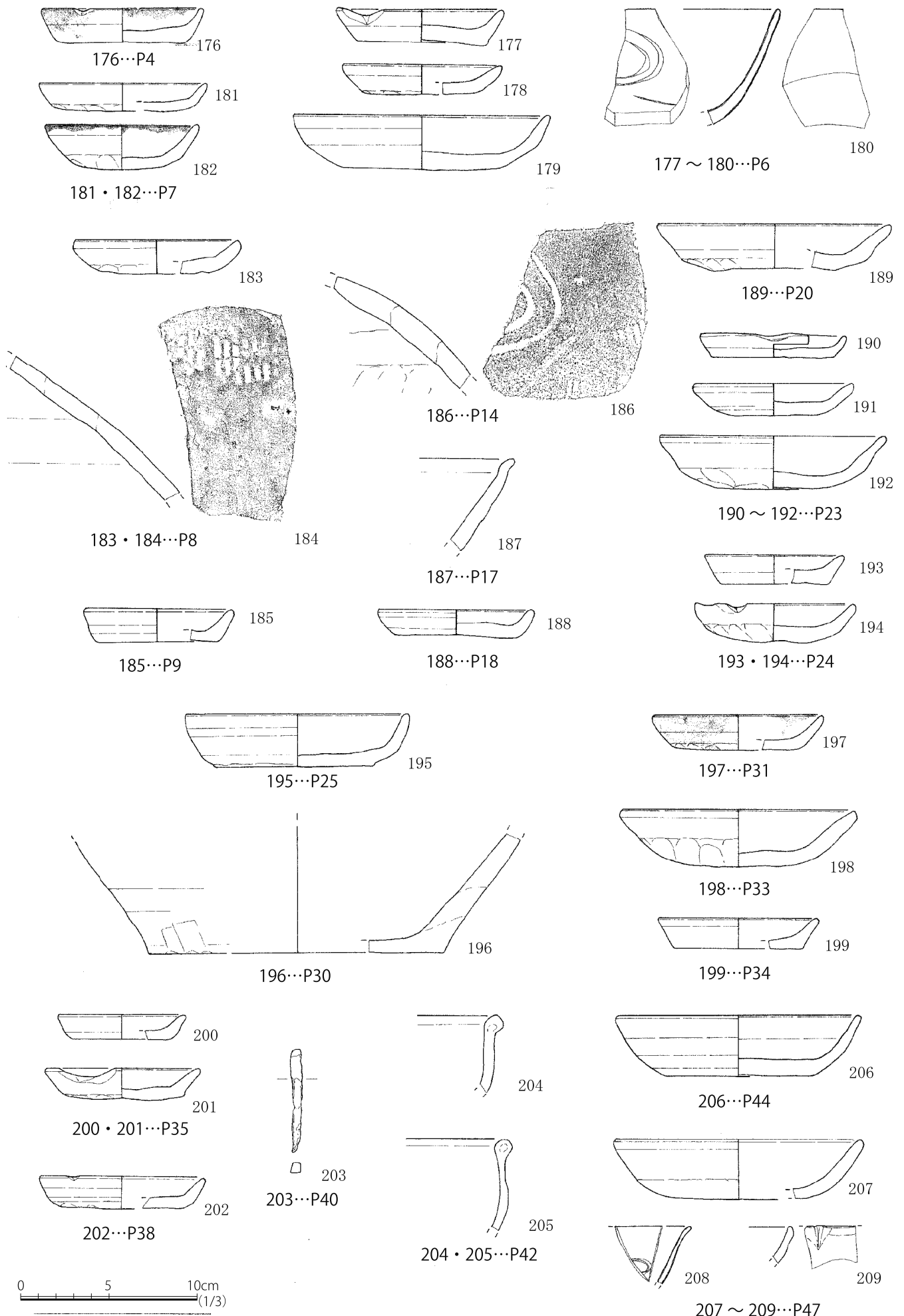


图 111 3面遺構出土遺物 (8)

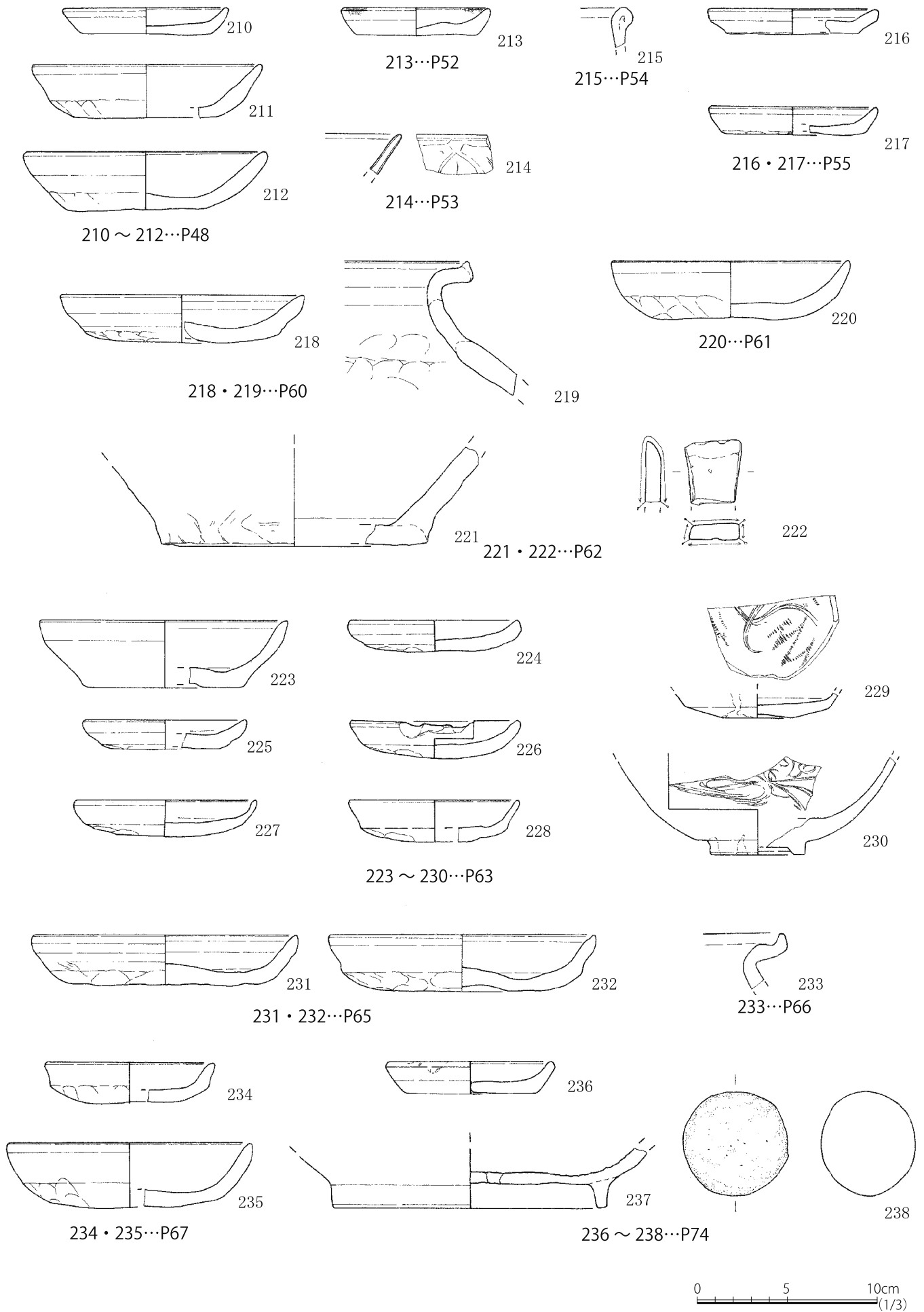


图 112 3面遺構出土遺物 (9)

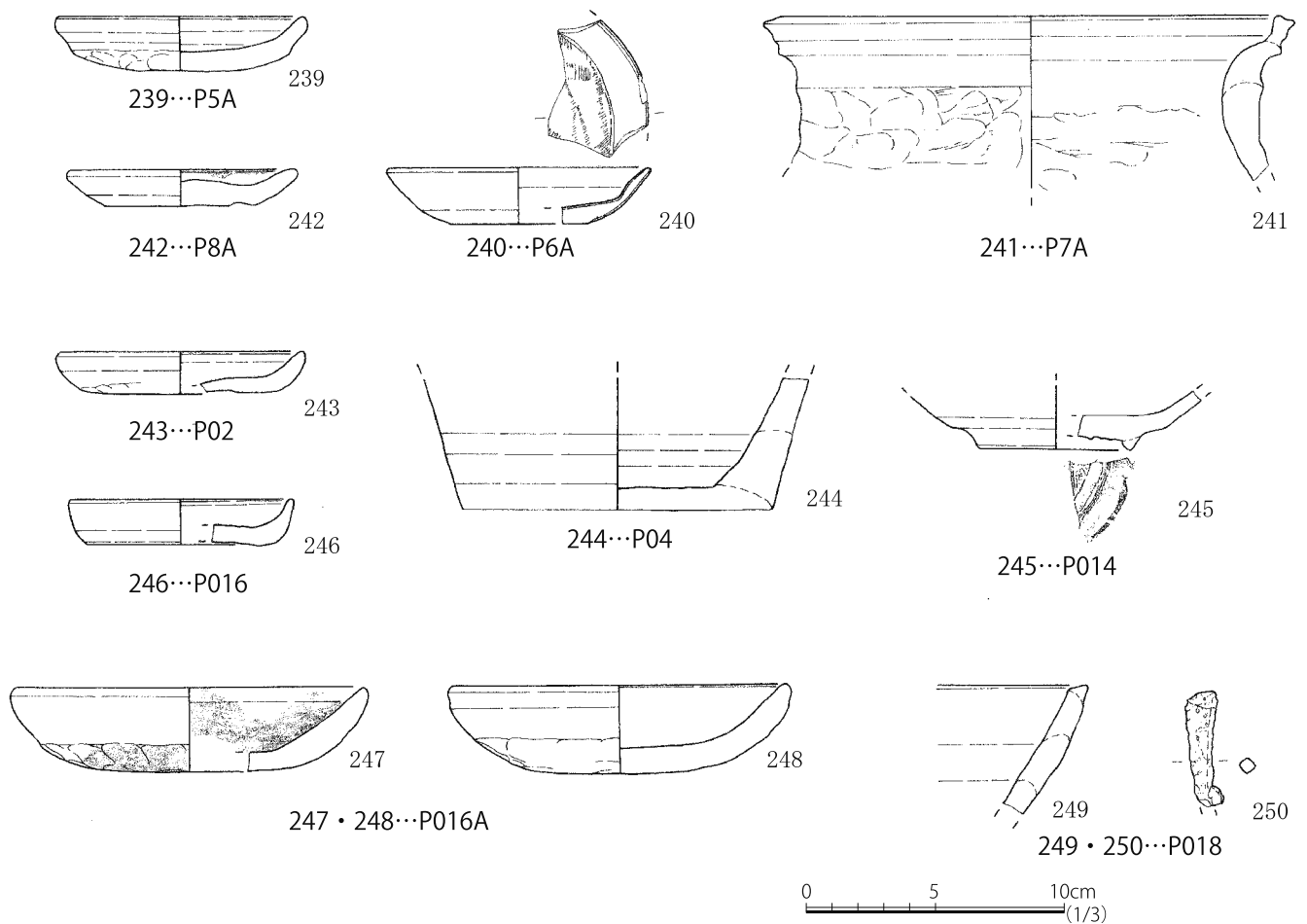


図 113 3面遺構出土遺物 (10)

### 第7節 4面上の遺物 (図 114 ~ 131、表 8・9)

図 114 ~ 130 には 3 面下から 4 面まで掘り下げる際の出土遺物を、図 131 には 4 面直上の出土遺物を掲載した。図示できた資料を見る限り、ロクロかわらけと手づくねかわらけの構成比は拮抗しており、上面に比べ手づくねの存在感は確実に増している。常滑甕は 5 型式、舶載品は龍泉窯系青磁碗・皿 I 類、瓦は永福寺 I 期の所用品が占めている。4 面直上の丸瓦 (図 131-1) も永福寺 I 期に属し、これら総体として 13 世紀前葉の遺物構成と見なせる。

表 8 3面下～4面上 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナ <sup>°</sup>	ナ <sup>°</sup> 状	板状	ス <sup>コ</sup> 状		
図114 3面下～4面上出土遺物(1)												
1	土器	白かわらけ ロクロ・極小	(5.5)	(4.9)	1.0	1/4					桃白	やや粉質 内折れ
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.4)	1.5	1/3	○		○		黄灰	
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.0)	1.6	1/4	○		○		橙	
4	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	7.4	1.7	4/5	○		○		橙	白針、砂質
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	6.4	1.7	1/3	○		○		黄灰	白針
6	土器	ロクロ かわらけ・小	9.5	7.8	1.7	2/3	○		○		黄橙	白針



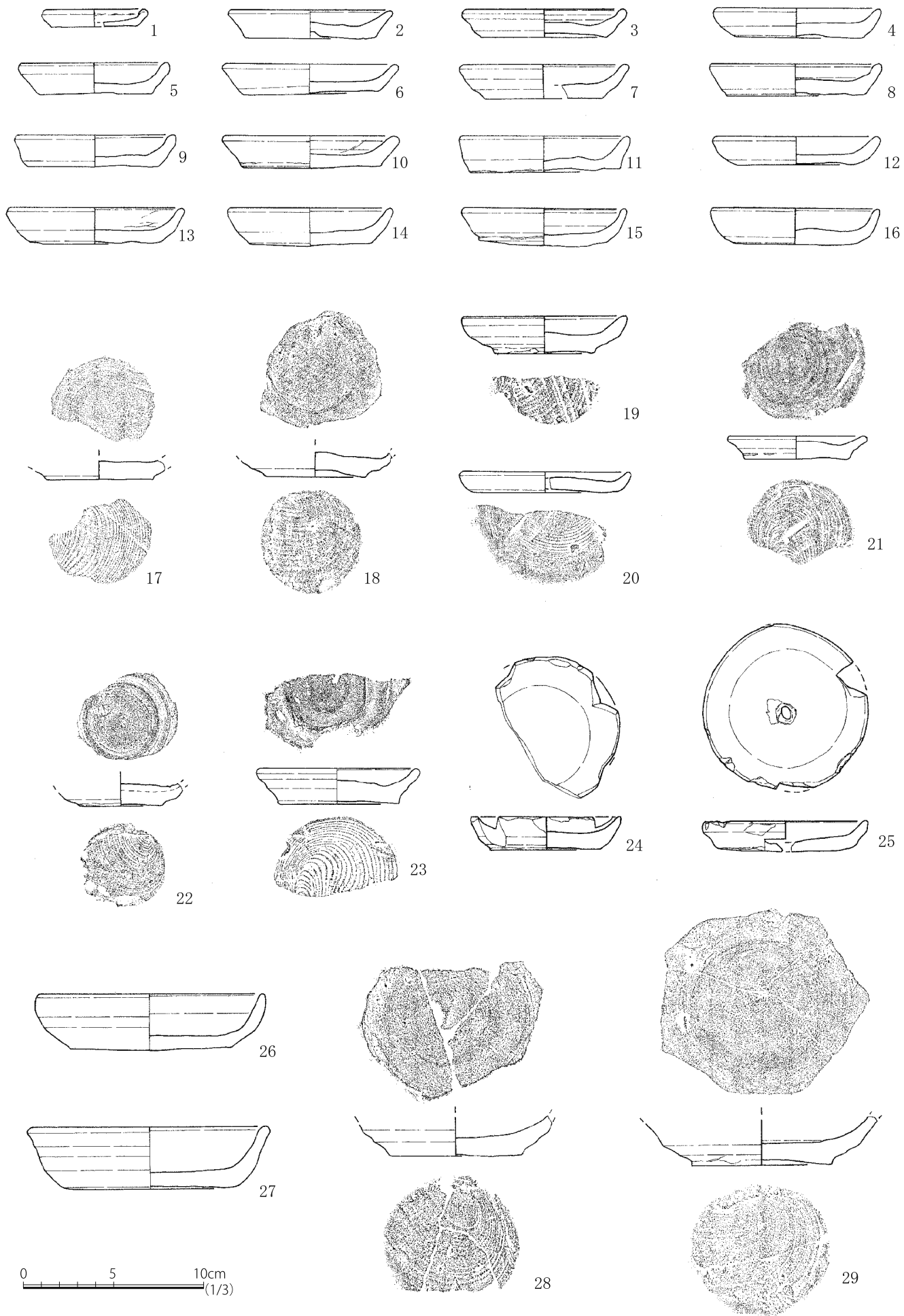


图 114 3 面下~4 面上出土遺物 (1)

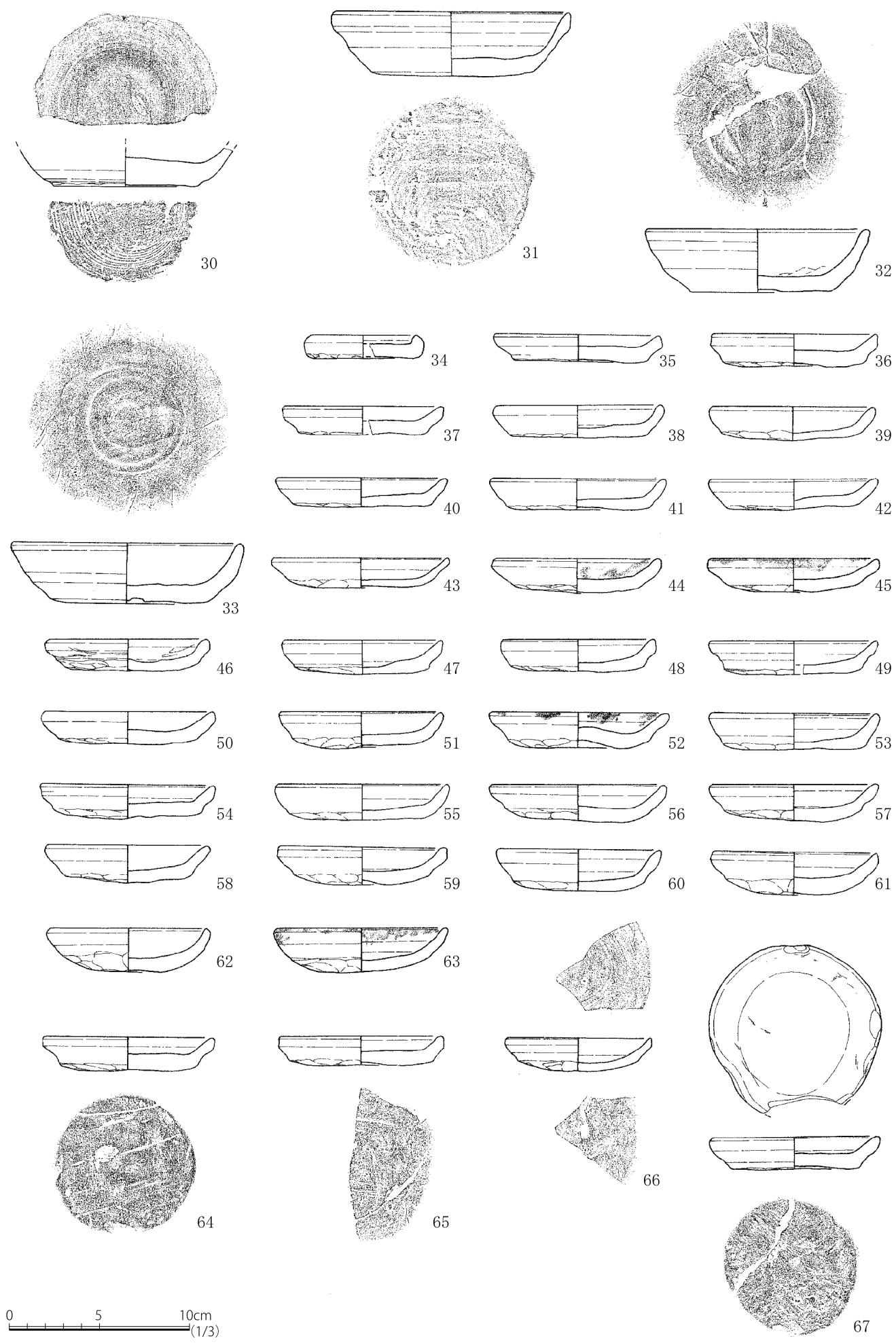


图 115 3 面下~4 面上出土遺物 (2)

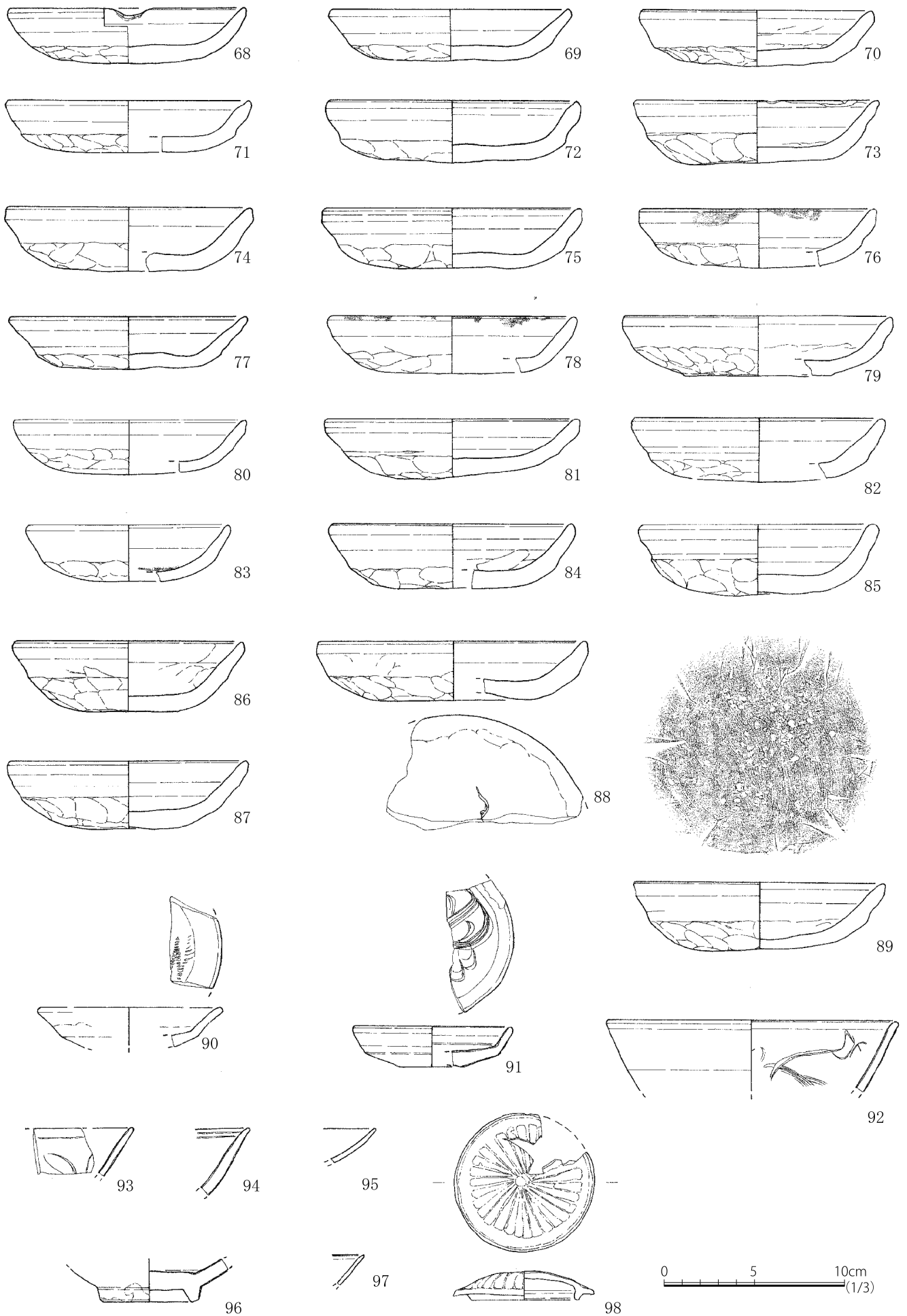


图 116 3 面下~4 面上出土遺物 (3)

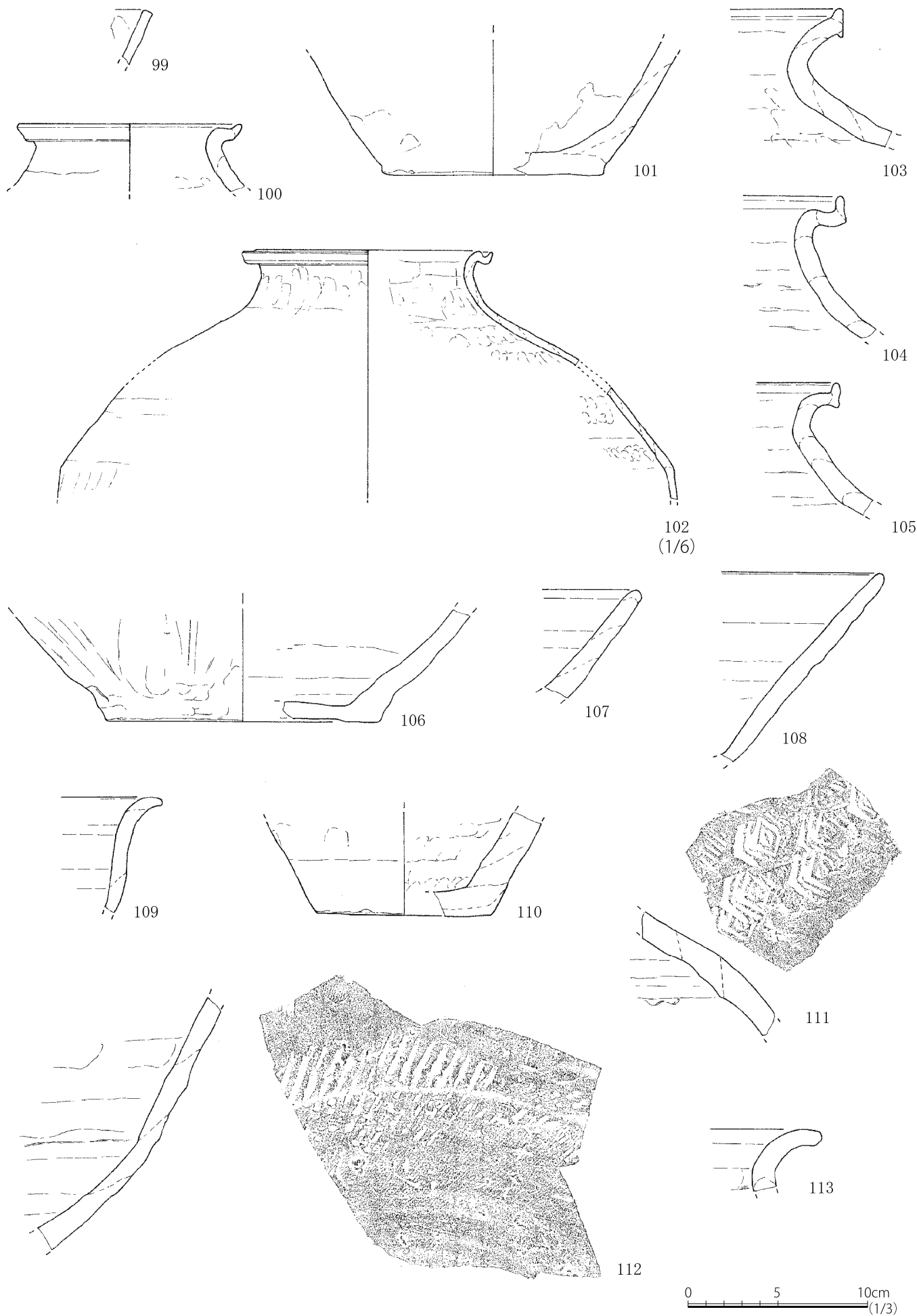
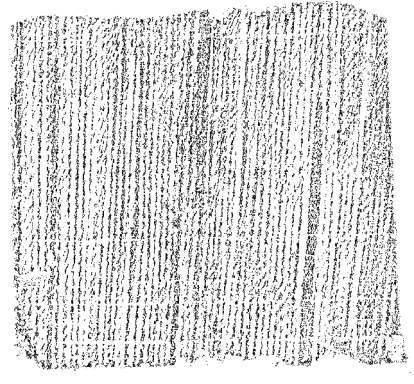
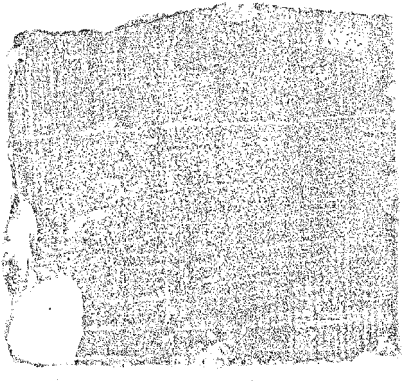
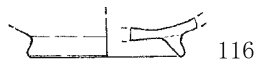
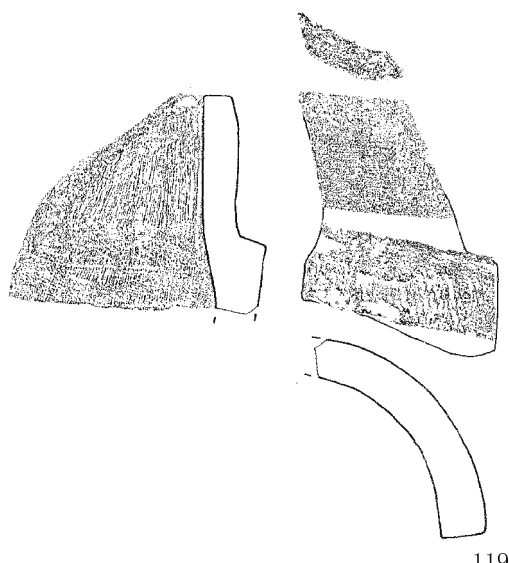
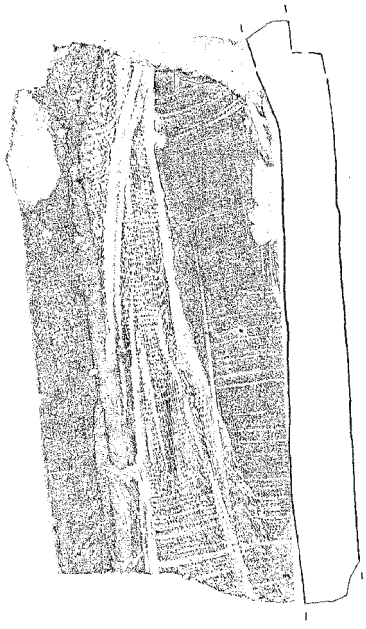


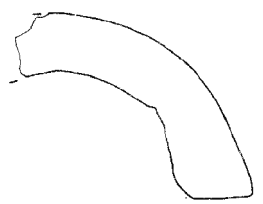
图 117 3 面下~4 面上出土遺物 (4)



117



119



118

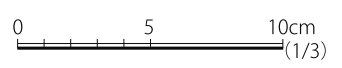


图 118 3 面下~ 4 面上出土遺物 (5)

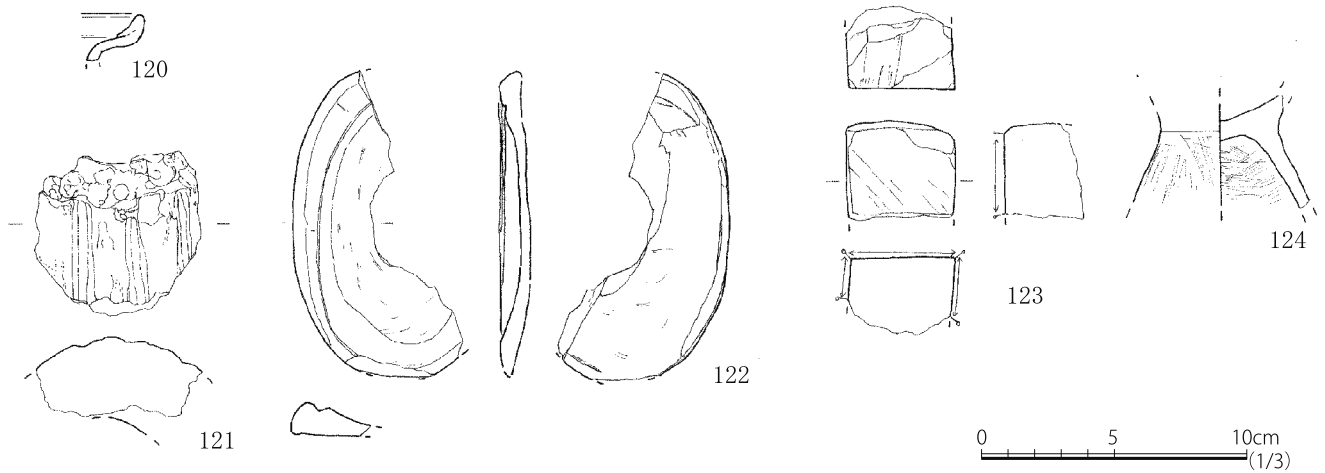


図 119 3 面下～4 面上出土遺物 (6)

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		片 <sup>°</sup>	片 <sup>ヲ</sup> 状	板状	ス <sup>コ</sup> 状		
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.0)	1.9	口小～ 底1/2					橙	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・小	9.3	7.8	1.8	1/2	○		○		黄橙	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	7.4	1.8	4/5	○		○		橙	白針
10	土器	ロクロ かわらけ・小	9.5	7.8	1.9	1/3	○				黄灰	白針、粉質
11	土器	ロクロ かわらけ・小	9.2	8.5	2.0	2/3	○		○		黄灰	白針
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(6.3)	1.6	1/2	○		○		黄灰	
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(7.4)	2.0	1/3	○		○		黄橙	
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	6.8	2.1	2/3	○		○		黄橙	白針
15	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.3	2.1	完形	○		○		橙	白針
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(6.8)	2.0	1/4	○		○		橙	白針
17	土器	ロクロ かわらけ・小	—	6.0	[1.1]	底完存	△		○		黄橙	砂質
18	土器	ロクロ かわらけ・小	—	5.5	[1.3]	底完存					橙	砂質
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(5.6)	2.0	1/4			○		黄橙	砂質
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.9)	1.1	1/3	○				黄橙	白針
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	6.0	1.3	3/4	△		○		黄灰	白針
22	土器	ロクロ かわらけ・小	—	4.7	[1.3]	底完存	△				黄灰	白針、砂質
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	6.8	2.0	口小～ 底1/2	△				黄橙	白針 口縁部二次加工の可能性有り
24	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	6.2	1.8	口小～ 底完存	○		○		橙	白針、粉質 口縁部に擦痕
25	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	1.7	4/5	○				橙	焼成後に底部穿孔、口唇部打ち欠き
26	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	9.0	3.1	1/2	○		○		黄橙	白針
27	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(9.8)	3.4	1/3	○		○		黄橙	白針
28	土器	ロクロ かわらけ・大	—	7.4	[2.2]	底完存					橙	白針、砂質
29	土器	ロクロ かわらけ・大	—	7.9	[2.6]	底完存					黄白	砂質 搬入品カ

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナラフ状	板状	スコ状		
図115 3面下～4面上出土遺物(2)												
30	土器	ロクロ かわらけ・大	—	8.1	[2.2]	底完存					黄橙	白針
31	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	9.1	3.6	2/3	○		○		黄灰	雲母
32	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	8.0	3.5	4/5	○		○		黄橙	白針 粘土紐積み上げ痕
33	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	8.8	3.5	4/5	○		○		黄灰	粘土紐積み上げ痕
34	土器	手づくね かわらけ・極小	(5.2)	—	1.3	1/4	△				暗灰	内折れ 白針
35	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	1.6	3/4	○				黄灰	白針
36	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.8	1/3	○				黄灰	白針、やや粉質
37	土器	手づくね かわらけ・小	(8.7)	—	1.5	1/4	○				黄橙	白針
38	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	1.8	2/3	○				黄灰	白針
39	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	2.0	完形	○				黄橙	白針、やや粉質
40	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.6	2/3	○				黄灰	やや粉質
41	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	1.7	3/4	△				黄灰	白針
42	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	1.8	3/4	○				黄灰	やや粉質
43	土器	手づくね かわらけ・小	(9.7)	—	1.6	1/4	○				黄灰	粉質
44	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	1.9	完形	△				黄橙	やや粉質 内外面に煤付着
45	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	1.9	完形	○				橙	白針 口縁部に煤付着
46	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	2.0	完形	○				黄橙	
47	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	1.9	完形	○				橙	白針
48	土器	手づくね かわらけ・小	8.3	—	1.8	ほぼ完形	○				橙	白針
49	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.8	1/3	○				黄灰	白針
50	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.8	1/3	○				橙	白針 砂質
51	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	2.2	2/3	△				黄橙	白針、やや粉質
52	土器	手づくね かわらけ・小	(9.5)	—	2.0	1/3	○				黄灰	白針 口縁部に煤付着
53	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	2.0	1/4	○				橙	白針
54	土器	手づくね かわらけ・小	9.5	—	1.9	1/2	○				黄灰	白針、やや粉質
55	土器	手づくね かわらけ・小	(9.5)	—	2.0	1/2 歪み大	○				黄橙	白針、やや粉質
56	土器	手づくね かわらけ・小	9.5	—	2.1	ほぼ完形	○				黄灰	白針 やや粉質
57	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	2.1	3/4	○				橙	白針、やや粉質
58	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	2.1	1/4	○		○		黄橙	雲母、やや粉質
59	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	2.1	2/3	○				黄灰	白針
60	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.3	1/3 歪み大	○				黄灰	白針、やや粉質
61	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	2.3	1/3	○				黄橙	白針
62	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	2.4	3/4	○				黄橙	白針
63	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	2.5	完形	○				橙	白針、粉質 口唇部と内外面に煤付着
64	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.9	2/3	○				黄橙	
65	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.6	1/3	○				黄橙	白針
66	土器	手づくね 白かわらけ・小	(7.9)	—	1.8	1/5	○				乳白	

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ*	対ラ状	板状	スコ状		
67	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	1.9	4/5	○				黄灰	白針、粉質 底部外面に擦痕、口縁部に3ヶ所の押捺
図116 3面下～4面上出土遺物(3)												
68	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	3.0	1/3	○		○		橙	白針 口縁注口
69	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	2.8	1/3	○				黄橙	白針 やや粉質
70	土器	手づくね かわらけ・大	12.8	—	3.2	1/2	○				橙	白針
71	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	2.9	1/3	○				黄橙	白針
72	土器	手づくね かわらけ・大	(13.7)	—	3.6	1/3	○				黄橙	白針
73	土器	手づくね かわらけ・大	13.4	—	3.6	1/2	○				黄灰	白針 口唇部に煤付に凹み
74	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	3.5	1/6	○				黄橙	白針、やや粉質
75	土器	手づくね かわらけ・大	(14.2)	—	3.3	1/3	○				黄灰	白針、やや粉質
76	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	(3.3)	1/4	○				黄橙	灯明皿 やや粉質
77	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	3.0	1/3	○		○		橙	白針
78	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	3.1	1/3	○				黄橙	白針 口唇部煤付着
79	土器	手づくね かわらけ・大	(14.8)	—	3.3	1/3	○		○		黄橙	白針
80	土器	手づくね かわらけ・大	(12.7)	—	3.0	1/3	○				黄橙	白針
81	土器	手づくね かわらけ・大	13.9	—	3.4	3/4	○				黄橙	白針
82	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	(3.5)	1/3	○				黄灰	
83	土器	手づくね かわらけ・大	(11.1)	—	3.1	1/3	○				黄橙	白針、やや粉質 底部内面煤付着
84	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	—	3.6	2/3	○				黄橙	白針、密
85	土器	手づくね かわらけ・大	12.9	—	4.0	3/4	○				黄灰	やや粉質
86	土器	手づくね かわらけ・大	(12.7)	—	3.9	1/3	○				黄橙	白針、やや粉質
87	土器	手づくね かわらけ・大	13.1	—	3.8	4/5 歪み大	○				黄橙	白針
88	土器	手づくね かわらけ・大	(14.7)	—	3.3	1/3	○				黄灰	灯明皿 粘土版結合法による成形 白針
89	土器	手づくね かわらけ・大	13.9	—	3.8	3/4	○		○		黄橙	白針、やや粉質 底部内面に凹痕多い
90	磁器	同安窯系青磁 櫛掻文皿	(10.0)	—	[2.2]	口1/8					薄褐 透明	大宰府1類
91	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文皿	(8.8)	(3.6)	2.2	口1/3					緑灰 透明	大宰府 I-2類
92	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	(16.1)	—	[3.9]	口片1/6～ 体片					緑灰 透明	大宰府 I-2類
93	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.7]	口小片					緑灰 透明	大宰府 I-2類カ
94	磁器	龍泉窯系青磁 無文碗	—	—	[3.7]	口小片					青灰 半透明	大宰府 I-1類カ
95	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.9]	口小片					青白 透明	
96	磁器	白磁 碗	—	(4.7)	[2.4]	底1/3～ 体部					薄青白 不透明	高台接地面～高台内無釉
97	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.7]	口小片					白 透明	
98	磁器	青白磁 広口小壺蓋	5.9	天頂径 7.8	1.6	4/5					青白 透明	天頂部に蓮弁文
図117 3面下～4面上出土遺物(4)												
99	陶器	瀬戸 御皿	—	—	[3.1]	口小片					薄緑	口縁～外面に灰釉
100	陶器	常滑 広口壺	(12.6)	—	[3.8]	口1/6					暗茶	長石
101	陶器	常滑 壺	—	(12.6)	[7.5]	底1/3					灰褐	長石
102	陶器	常滑 甕	(26.4)	—	[27.6]	口小～ 胴片					茶褐	長石
103	陶器	常滑 甕	—	—	[7.8]	口小片					灰	長石



遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ナラシ	板状	スコ状		
104	陶器	常滑壺	—	—	[7.9]	口小～胴片					明褐灰	
105	陶器	常滑壺	—	—	[7.4]	口小～胴片					暗赤	
106	陶器	常滑壺	—	(15.6)	[6.3]	底1/3					赤褐	長石
107	陶器	常滑片口鉢I類	—	—	[6.1]	口小片					暗灰	長石
108	陶器	常滑片口鉢I類	—	—	[10.1]	口小～体片					暗褐	長石
109	陶器	渥美壺か	—	—	[6.5]	口小～胴片					黒灰	
110	陶器	渥美壺	—	(9.8)	[5.8]	底1/3					灰	白色粒
111	陶器	渥美壺	—	—	—	胴小片					黒灰	白色粒
112	陶器	渥美壺	—	—	—	体片					灰	黒色粒・黒色粒
113	陶器	渥美壺	—	—	[3.5]	口小片					暗灰	白色粒
図118 3面下～4面上出土遺物(5)												
114	瓦器	坏	—	—	[2.9]	口小片					黒灰	楠葉型カ 115と同一個体カ
115	瓦器	皿	(9.2)	(5.5)	3.0	口1/6					黒灰	楠葉型カ 輪花形 114と同一個体カ
116	土器	吉備系碗	—	(5.8)	[1.5]	底1/3					黄白	白色粒
117	瓦	平瓦	—	幅 15.0	厚さ 2.4	広端面					暗灰	永福寺女瓦A類 熨斗瓦カ(縦に半裁後、研磨) 黒色粒
118	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.1～ 厚さ 2.4	筒部 片側面					灰	永福寺男瓦A類 白色粒
119	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 1.5～ 厚さ 1.7	玉縁部 片側面					暗灰	永福寺男瓦A類 黒色粒・白色粒
図119 3面下～4面上出土遺物(6)												
120	土器	南伊勢系鍋	—	—	[1.8]	口小片					乳白	
121	土製品	轆の羽口	長さ [5.5]	幅 [6.3]	厚さ 3.1	鍛冶炉 結合部片					暗黒褐	
122	石製品	硯	長さ [11.5]	幅 [6.5]	厚さ [1.3]	1/2					灰	楕円硯
123	石製品	砥石	長さ [3.7]	幅 4.1	厚さ [2.8]	不明					暗灰	中砥
124	弥生土器	台付甕	—	—	残存高 (4.3)	—					黄橙	
図120 3面下～4面上出土遺物(7)												
125	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.2)	1.6	1/4	○	○			黄橙	白針
126	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	1.6	1/3	○				黄橙	白針
127	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.7	1.8	完形	○	○			黄橙	白針
128	土器	ロクロ かわらけ・小	(10.2)	(8.3)	1.8	1/6	○	○			黄橙	白針
129	土器	ロクロ かわらけ・大	13.9	9.2	3.4	ほぼ完形		○			黄橙	白針
130	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.5)	(9.0)	4.2	1/4	○	○			黄橙	白針
131	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.7)	(11.0)	3.5	1/3	○				黄橙	
132	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.5)	(9.8)	4.1	3/4	△				黄橙	白針
133	瓦器	内折れ皿	6.3	—	0.8	3/4					暗灰	
134	土器	手づくね かわらけ・小	9.5	—	1.6	3/4	○				橙	白針
135	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	1.8	4/5	○				黄橙	白針
136	土器	手づくね かわらけ・小	(9.5)	—	1.9	1/2	○				黄灰	白針
137	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	—	1.7	1/4	○				黄橙	白針 外面に煤付着
138	土器	手づくね かわらけ・小	8.5	—	1.6	完形	○				橙	白針
139	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	1.8	4/5	○				黄橙	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	テラ状	板状	スコ状		
140	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	2.0	1/2	○				黄橙	白針
141	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	2.0	1/4	○				黄橙	白針
142	土器	手づくね かわらけ・大	14.0	—	3.3	完形	○				黄橙	白針 内面に煤付着
143	土器	手づくね かわらけ・大	13.7	—	3.6	1/3	○				黄橙	白針
144	土器	手づくね かわらけ・大	13.1	—	3.4	完形	○				黄橙	白針 内外面に煤付着
145	土器	手づくね かわらけ・大	(12.9)	—	3.2	1/2	○				橙	白針
146	土器	手づくね かわらけ・大	(12.9)	—	3.2	1/2	○				黄灰	白針
148	土器	手づくね かわらけ・大	13.3	—	3.6	ほぼ完形	○				黄橙	白針
149	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.1]	口小片					灰緑 半透明	大宰府 I-4類
150	陶器	瀬戸 直縁大皿カ	—	—	[4.2]	口小片					灰白	
151	陶器	渥美・湖西型 山茶碗	—	—	[2.5]	口小片					灰	内外煤付着
152	陶器	常滑 甕	—	—	[7.2]	口小～胴 片					明茶褐	4～5型式 長石
153	陶器	常滑 甕	—	—	[10.3]	口小～胴 片					明褐	4～5型式 長石
154	陶器	常滑 甕	—	—	[5.8]	口小～胴 片					暗褐	4型式 長石
155	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					明茶褐	
156	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					明茶褐	
157	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					明茶褐	長石
図121 3面下～4面上出土遺物(8)												
158	陶器	常滑 片口鉢 I類	(24.6)	(16.6)	10.8	1/4					灰	内面の摩耗顕著
159	陶器	常滑 片口鉢 I類	—	—	[13.2]	口小～ 底小片					灰	内面の摩耗顕著
160	陶器	渥美 甕	—	—	—	胴片					灰	
161	瓦器	坏	—	—	[2.7]	口小片					暗灰 ～黒	
162	瓦	軒丸瓦	瓦当径 (15.0)	内区幅 11.5	中房径 3.0	瓦当部					灰	顎面幅3.0 外区幅2.7 外縁高さ1.2 八葉復弁蓮華文 永福寺YA Iカ
163	瓦	軒丸瓦	—	—	厚さ 2.6	瓦当部					灰白	三巴文 永福寺YA IIカ
164	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.2	広端面 片側辺					暗灰	永福寺女瓦A類
図122 3面下～4面上出土遺物(9)												
165	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.7	不明					灰	
166	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.0	筒部					灰	永福寺男瓦A類
167	石製品	滑石錦転用品 用途不明	長さ 5.9	幅 3.4	厚さ 1.4	不明					灰	加工途中カ 1ヶ所穿孔

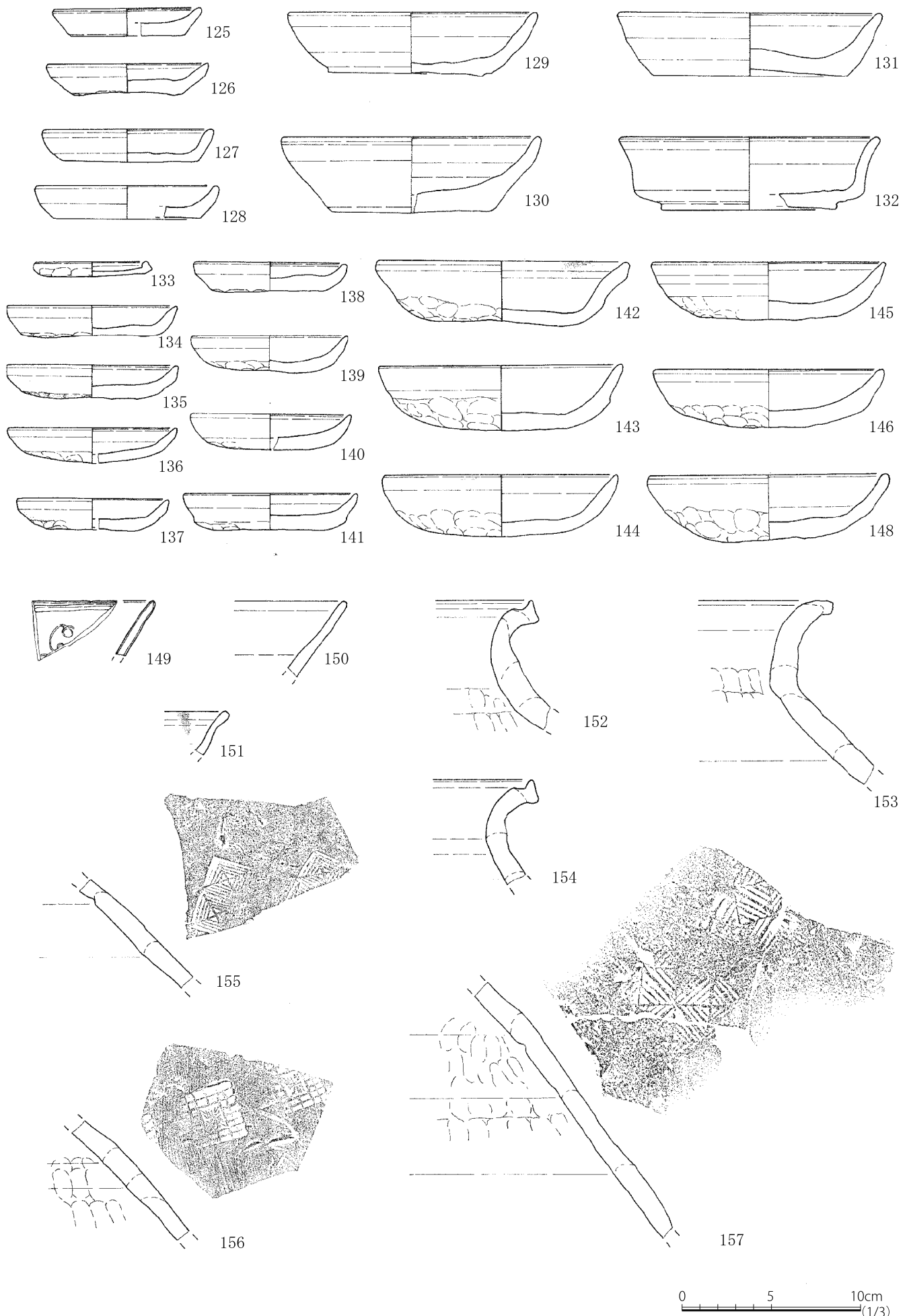


图 120 3 面下~4 面上出土遺物 (7)

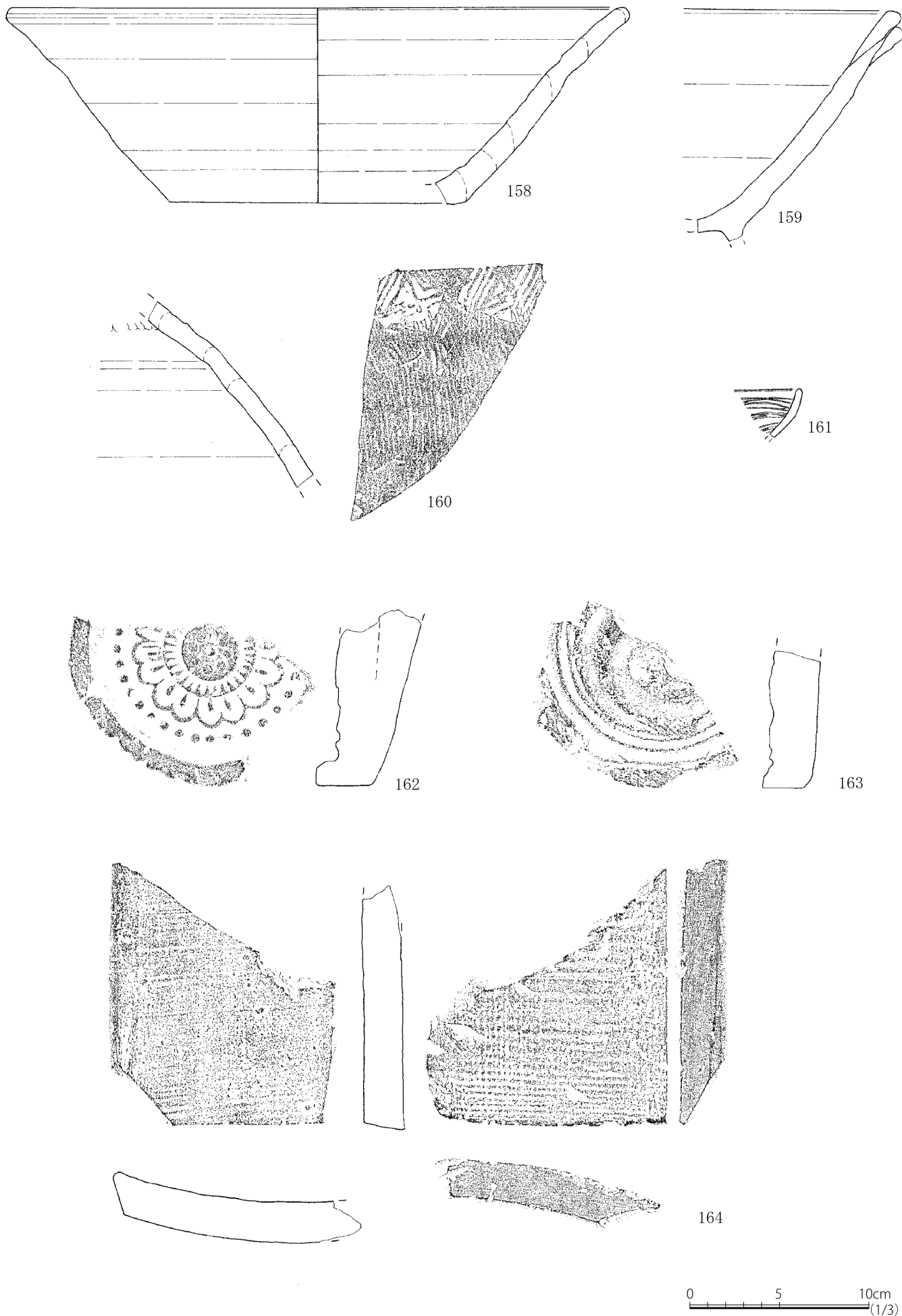


图 121 3 面下~4 面上出土遗物 (8)

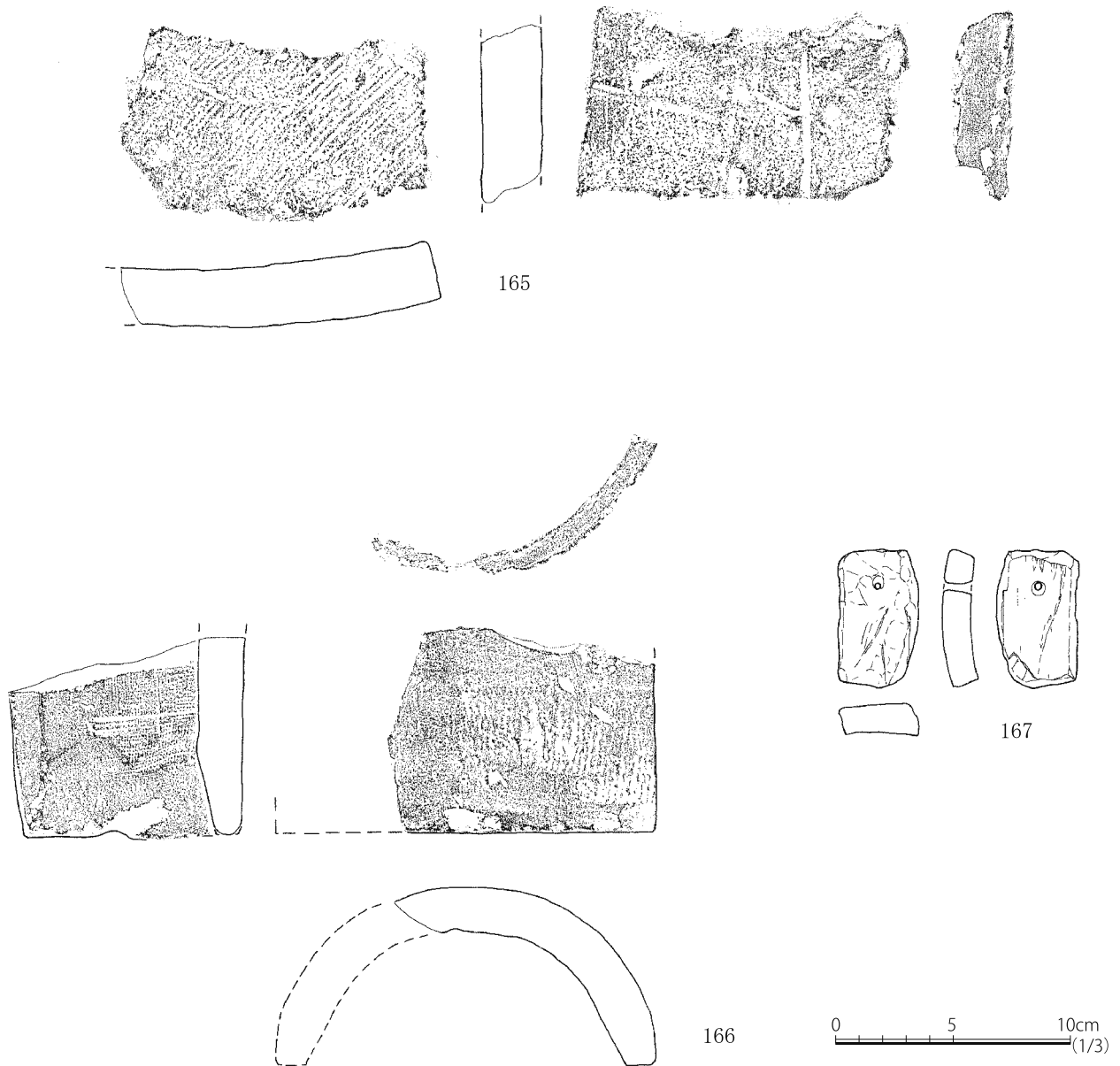


図 122 3 面下～4 面上出土遺物 (9)

## 第 8 節 4 面の遺構と遺物

### 4 面の検出遺構 (図 123 ～ 130)

4 面は標高 11.5 ～ 11.7 m で確認された。地点Ⅱの 1 ～ 3 面で継続していた道路状遺構はなく、土坑とピットが多数検出され、整理作業の段階で掘立柱建物 3 棟と柱穴列 3 列を復元するに至った。地点Ⅰでは建物を構成せず、南北の単一方向に延びる柱穴列のみの復元となったが、他に多くのピットも残るので建物が皆無であったとは断言できない。地点Ⅱでの復元建物も可能性の範囲に留まり、確定的とは言えない。

4 面の掘立柱建物 1 は桁行 2 間以上×梁行 2 間の南北棟として復元したが、構成ピットの欠落も多く不確定要素が強い。総柱式の建物となる可能性もある。南北 5.7 m 以上×東西 4.2 m = 約 24 m<sup>2</sup> 以上と



图 123 4 面全体图

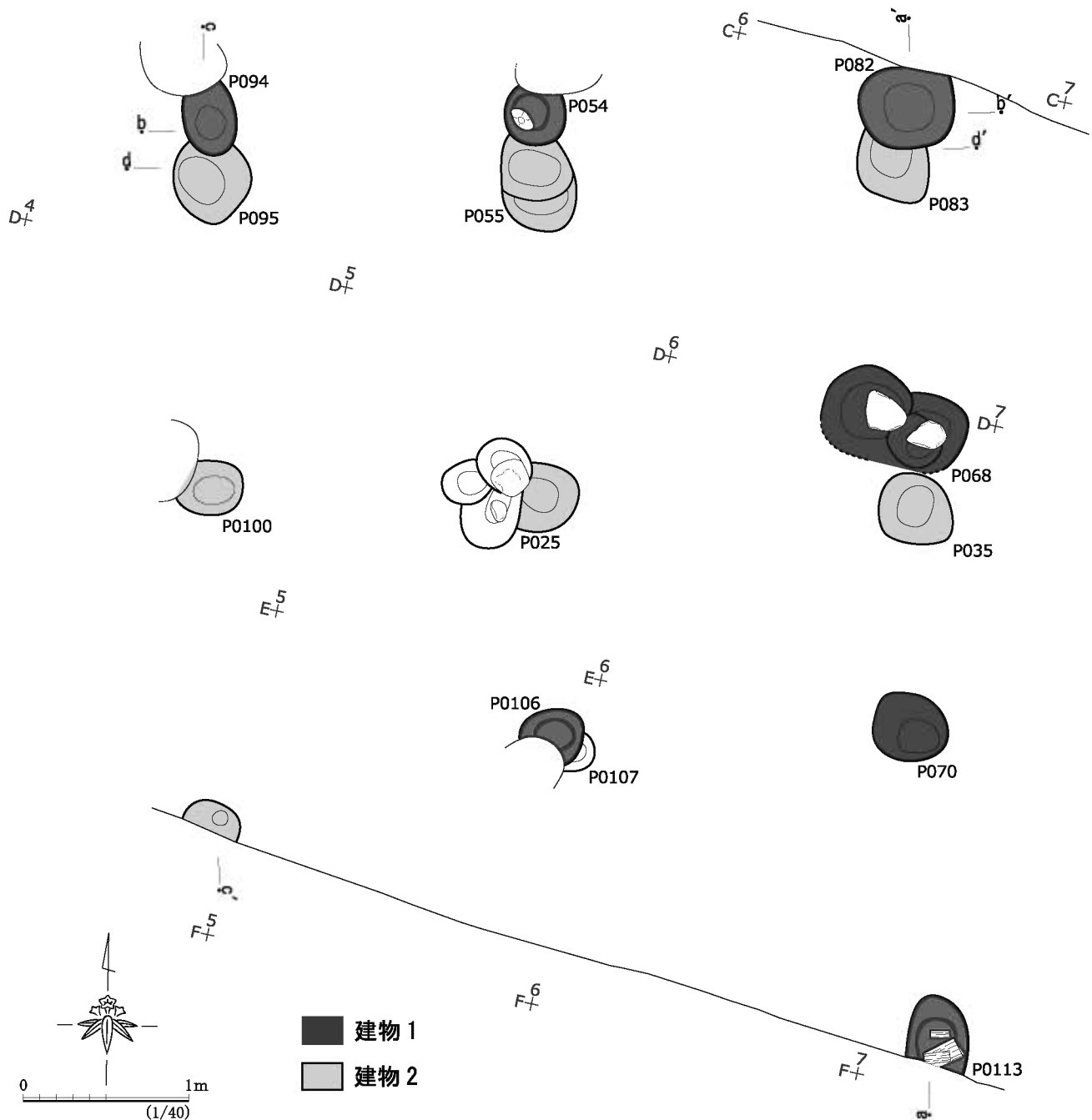


図 124 4面 掘立柱建物1・2平面図

復元した。柱間距離は180～230cmで一定でない。建物の軸線は、N2°Wを指す。

掘立柱建物2は建物1と概ね位置が重なり、これに切られるピットを抽出して復元した。桁行が2間以上×梁行2間の総柱式建物として復元し、南北3.9m以上×東西4.2m＝約16.4㎡以上の床面積となる。柱間距離は桁行が190cm前後、梁行が210～220cm前後を測る。建物軸線は概ね真北方向を取る。

掘立柱建物3は東西3間×南北1間で、なお北東側の柱穴2基を持たない形での復元となった。桁行・梁行は不明で、東西5.9×南北2.1m＝約12.4mを測る。建物の東西軸はN89°Eを取り、柱間距離は2.0mを基調としていたと考えられる。

柱穴列は3列とも南北方向に展開し、地点I西半部での確認となった。この周辺には多くのピットが分布しているため、さらなる柱穴列、もしくは掘立柱建物が存在していた可能性がある。建物の展開を想定するならば、西側の調査区外にその中心を求めるべきであろう。図127・128には、各列の平面図と断面図を掲げた。

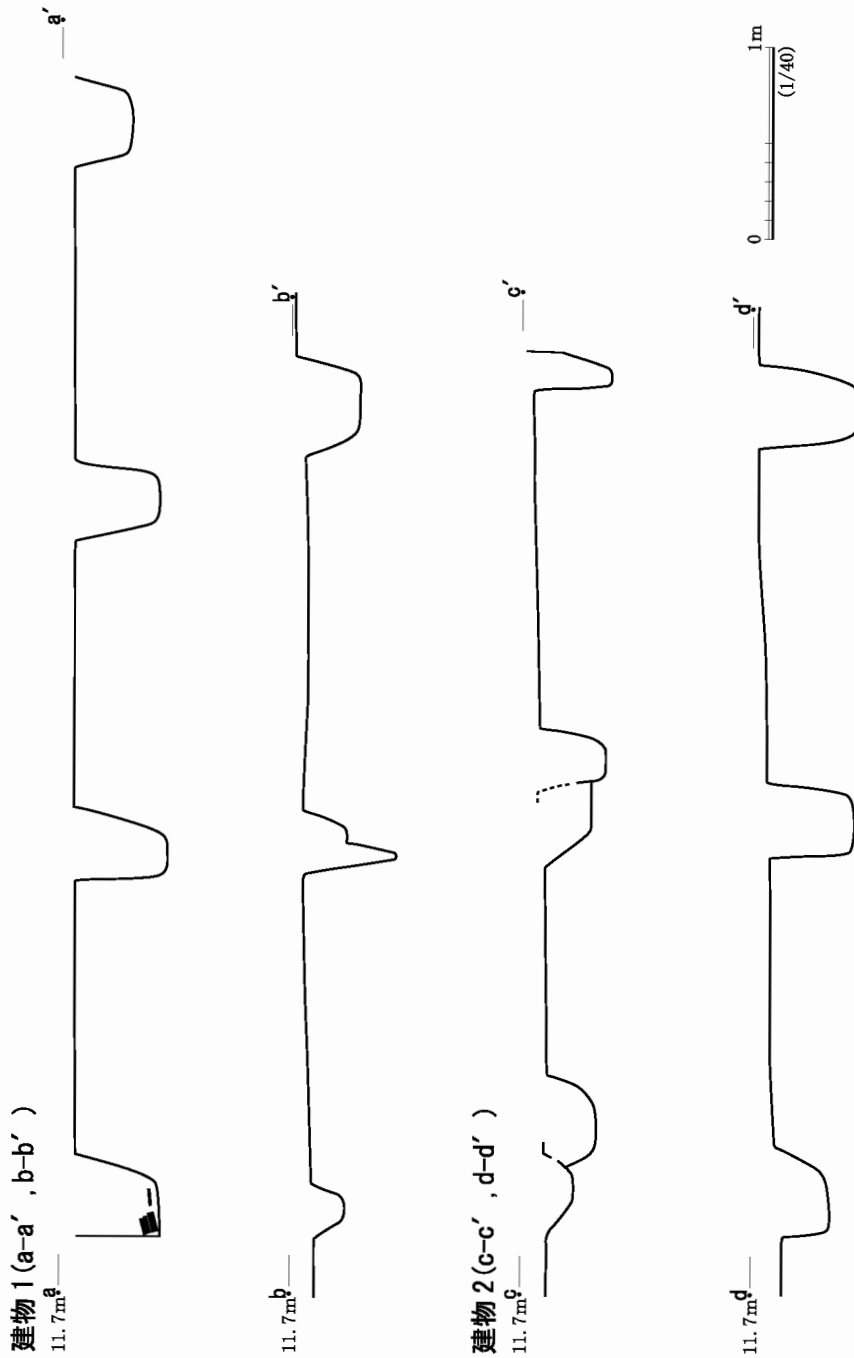


図 125 4面 掘立柱建物1・2断面図

柱穴列1は西側に柱穴列2と接して展開し、一部ピットの切り合い関係から、柱穴列1の方が新しいものと判断された。調査範囲内では3間分6mまでが確認され、柱間距離は概ね200cmと等間隔である。列の中心軸はN2°Eを指し、基本的に真北を意識した規格が取られていたのであろう。3基のピット底に礎板が残っていた。

柱穴列2は列1より古く、調査範囲内では4間分6.7mが検出された。柱間距離は130～200cmまでバラツキが目立ち、明確な規格が見出せない。列の中心軸は、概ね真北方向を指す。

柱穴列3は5間分9.4mを確認し、南北とも調査区外に続く可能性がある。柱間距離は180cm規格であったと見られるが、一部200cm前後の箇所もある。中心軸はN2°Wを指し、基本的には真北を意識した軸線を取っていたものと考えられる。1基のピット底に礎板が残っていた。



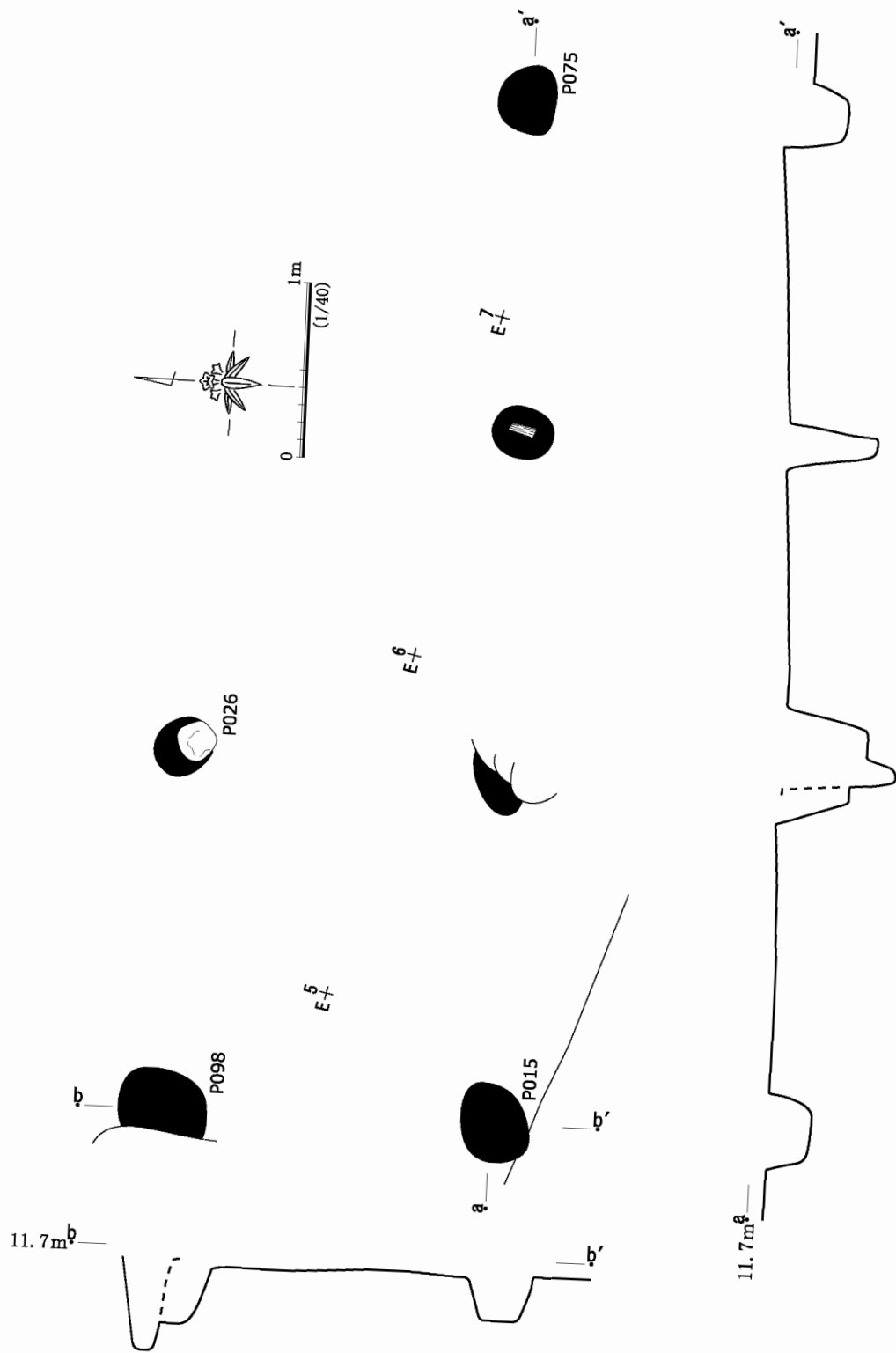


图 126 4 面 掘立柱建物 3

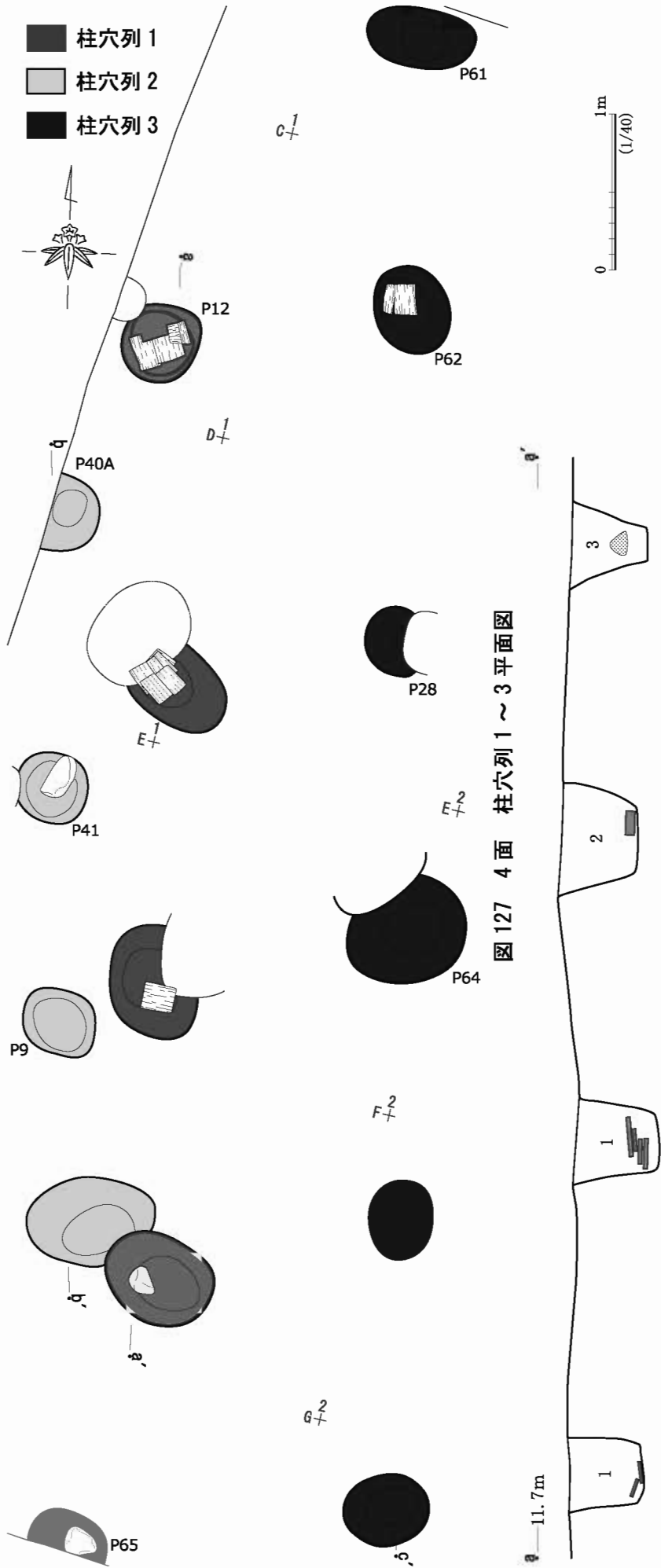


图 127 4 面 柱穴列 1 ~ 3 平面图

4 面 柱穴列 1 土层说明

- 1 褐色土 粘质土 泥岩粒多量、褐铁矿少量。缩まりややあり。
- 2 暗褐色土 粘质土 炭粒多量、泥岩粒少量。缩まりなし。
- 3 褐色土 粘质土 泥岩粒、炭粒少量。缩まりややあり。

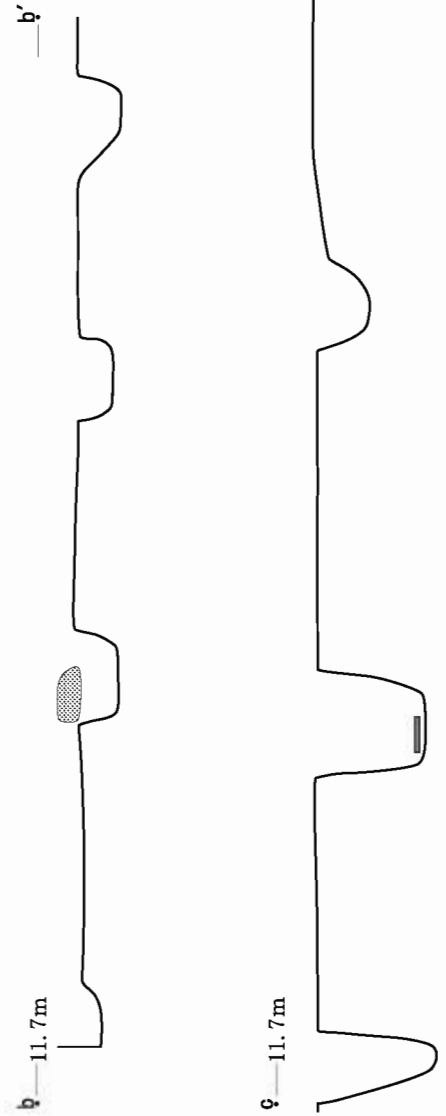


图 128 4 面 柱穴列 1 - 2 断面图

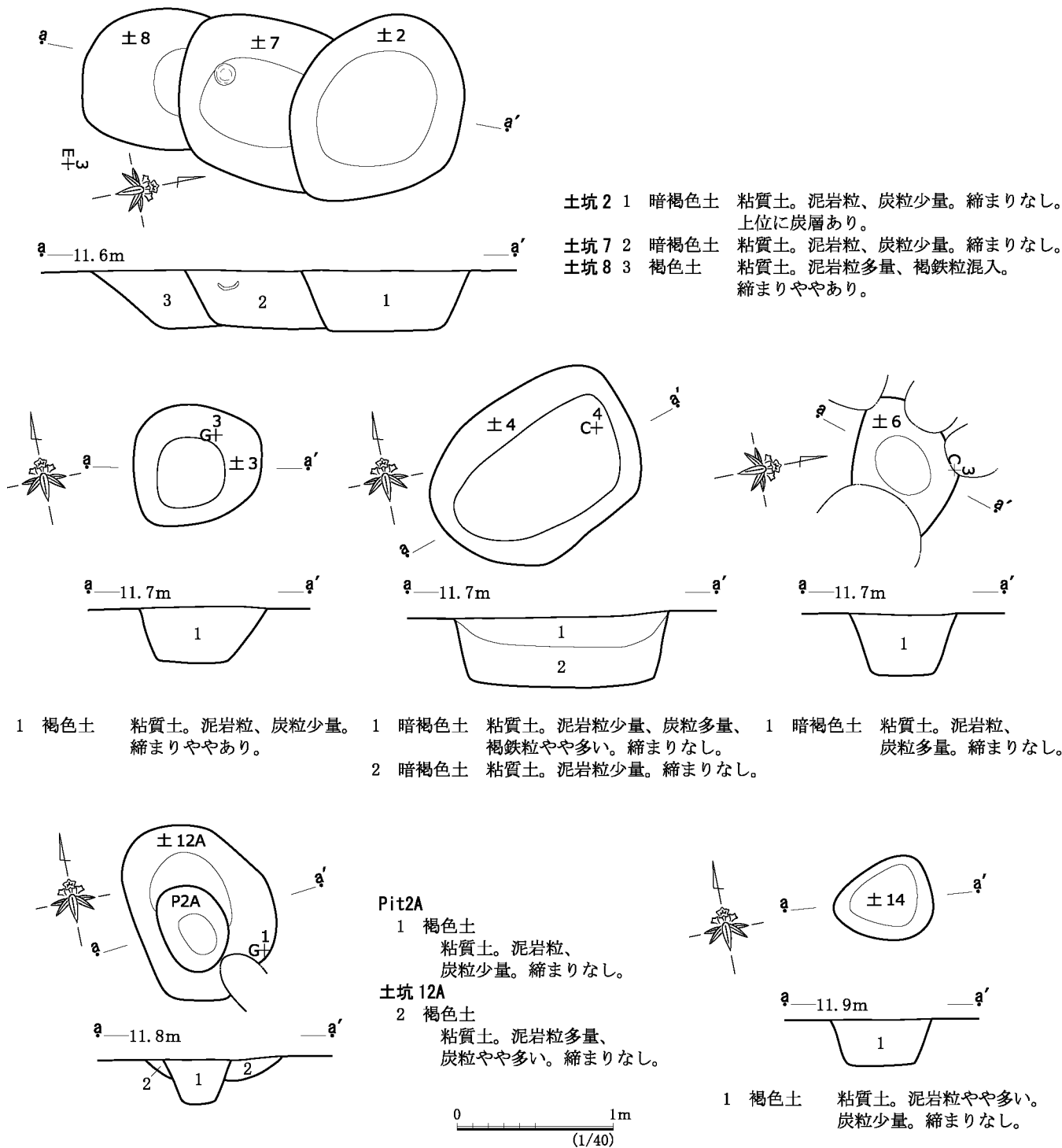
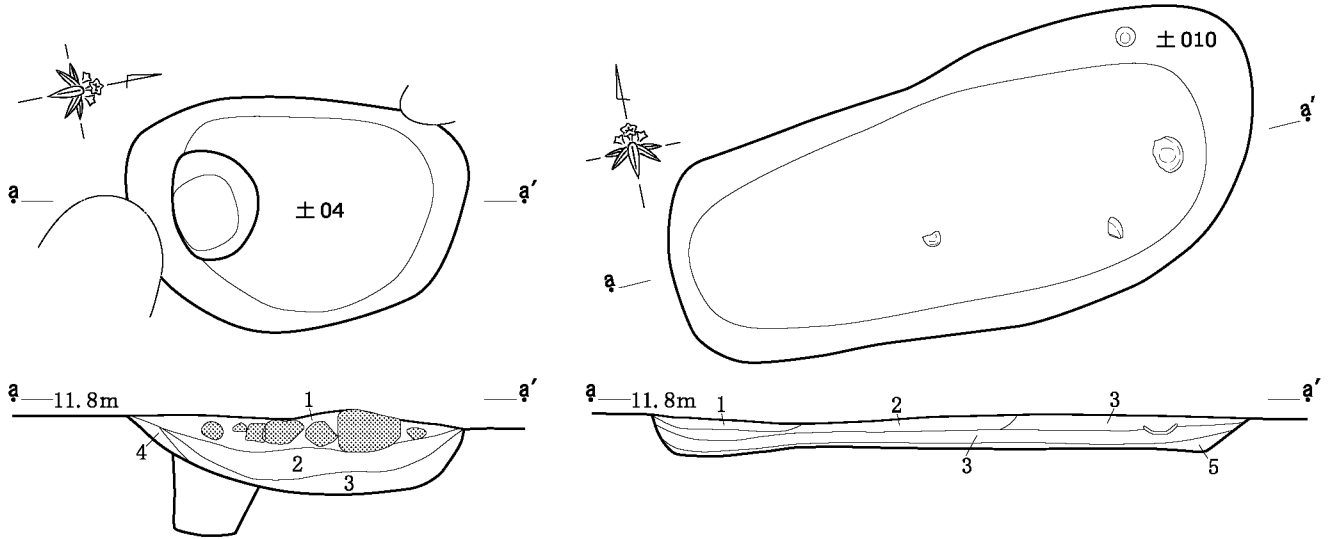


図 129 4面 土坑

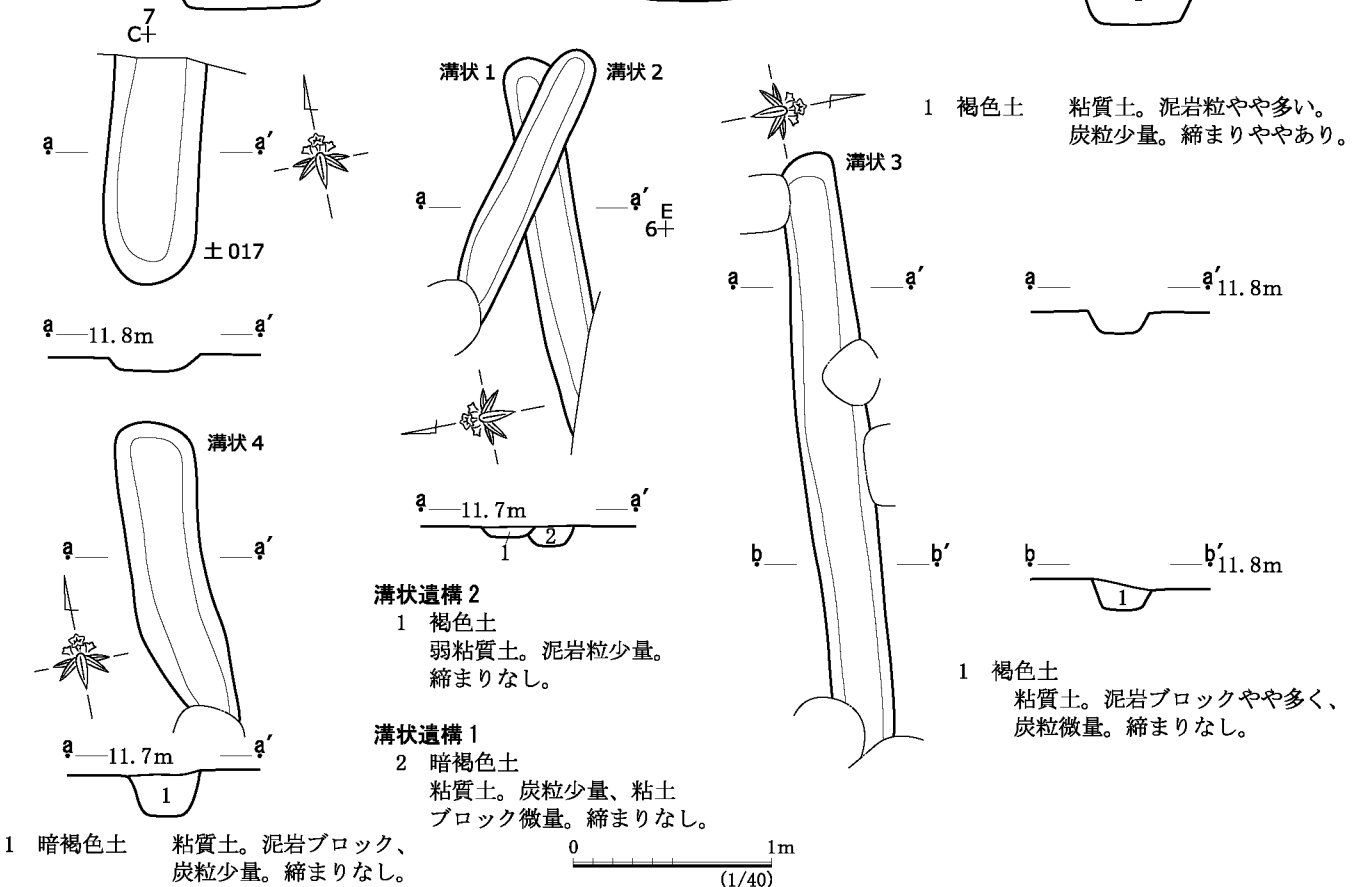
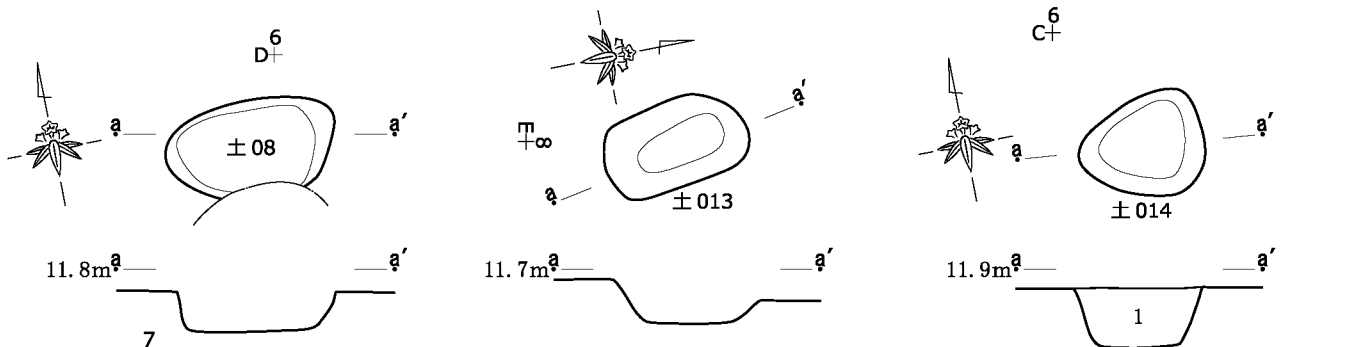
表 9 4面直上・4面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	サヲ状	板状	スコ状		
図131 4面直上・4面遺構出土遺物												
1	瓦	丸瓦	—	幅 17.0	厚さ 2.5	筒部					黒灰	永福寺男瓦A類 白色粒
2	土器	かわらけ質 小壺	—	(6.0)	[2.7]	1/3					黄橙	4面溝状遺構02 白針
3	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.1	1/2	○				橙	4面溝状遺構03 白針
4	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	1.6	1/4					黄橙	4面溝状遺構04 白針



- 1 暗黄褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量。縮まりあり。
- 2 暗黄褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量。縮まりなし。
- 3 灰黒色土 粘質土。泥岩粒、粘土ブロック、炭化物で構成。縮まりなし。
- 4 暗黄褐色土 砂質土。泥岩粒多量。下位に炭層あり。

- 1 赤褐色土 砂質土。焼土多量。縮まりなし。
- 2 炭層 かわらけ片含む。
- 3 暗黄褐色土 砂質土。泥岩粒、炭ブロック少量。縮まりなし。
- 4 暗黄褐色土 砂質土。泥岩粒多量。下位に炭層あり。
- 5 灰黒色土 粘質土。夾雑物なし。

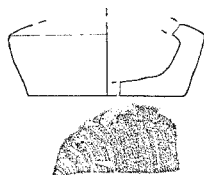
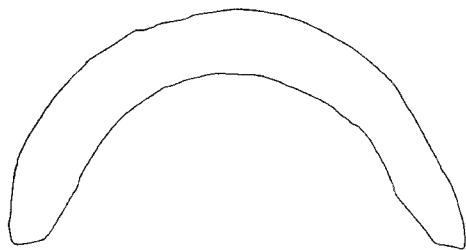
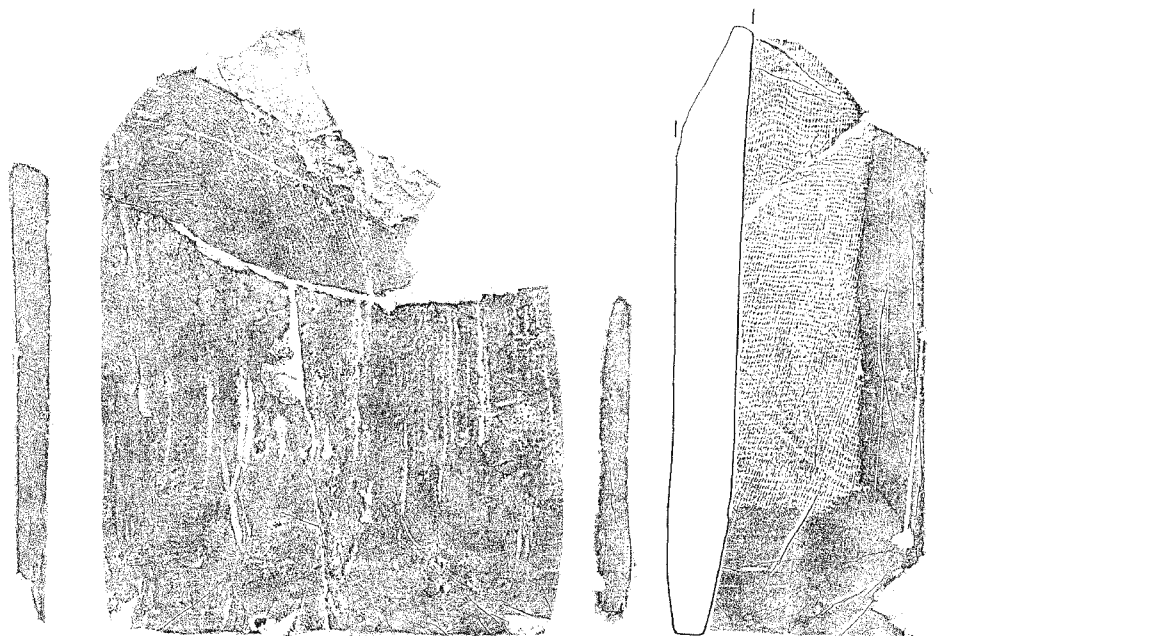


- 1 暗褐色土 粘質土。泥岩ブロック、炭粒少量。縮まりなし。

- 溝状遺構 2**
- 1 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量。縮まりなし。
- 溝状遺構 1**
- 2 暗褐色土 粘質土。炭粒少量、粘土ブロック微量。縮まりなし。

- 1 褐色土 粘質土。泥岩粒やや多い。炭粒少量。縮まりややあり。
- 1 褐色土 粘質土。泥岩ブロックやや多く、炭粒微量。縮まりなし。

図 130 4面 土坑・溝状遺構



2…溝状遺構 02

3…溝状遺構 03

4…溝状遺構 04

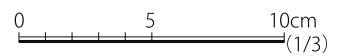


図131 4面直上・4面遺構出土遺物

表10 4面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナ <sup>°</sup>	ナ <sup>°</sup> 状	板状	スコ状		
図132 4面遺構出土遺物(1)												
1	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	—	1.6	1/4	○				黄橙	4面土坑1 白針
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.2)	2.5	3/4	○		○		黄橙	4面土坑2 白針 底部外面黒色に変色
3	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	—	1.8	1/2	○				黄橙	4面土坑2 白針
4	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.6	ほぼ完形	○				黄橙	4面土坑2 白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	ナラシ	板状	スコ状		
5	土器	手づくね かわらけ・小	(9.8)	—	1.8	1/3	○				橙	4面土坑2 白針
6	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	2.0	2/3 歪み大	○				黄橙	4面土坑2 白針、砂質 口縁部に煤付着
7	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	—	2.5	1/4	○				黄橙	4面土坑2 白針
8	土器	手づくね かわらけ・小	9.8	—	2.8	ほぼ完形	○				黄橙	4面土坑2 白針
9	土器	手づくね かわらけ・大	14.8	—	3.8	完形					黄橙	4面土坑2 白針
10	土器	手づくね かわらけ・大	13.7	—	3.2	ほぼ完形	○				黄橙	4面土坑2 白針
11	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.3	1/3					黄橙	4面土坑2 白針 内面に煤付着
12	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.5	1/2	○				橙	4面土坑2 白針
13	土器	手づくね かわらけ・大	(14.6)	—	3.0	1/4	○				黄灰	4面土坑2 白針
14	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.5	1/2	○				黄橙	4面土坑2 白針
15	土器	手づくね かわらけ・大	13.7	—	3.4	2/3	○		○		黄灰	4面土坑2 白針
16	土製品	かわらけ転用 円盤	長径 5.4	—	厚さ 1.0	完形					黄橙	4面土坑2
17	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.4	広端面 片側辺					灰	4面土坑2 永福寺女瓦A類
18	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	5.8	1.7	2/3 歪み大	○		○		黄橙	4面土坑4 白針 口縁部と底部外面に煤付着
19	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	1.5	ほぼ完形	○				黄橙	4面土坑4 白針
20	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.6	1/3	○				黄橙	4面土坑4 白針 内面黒色に変色
21	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.5	1/4	○				黄橙	4面土坑4 白針
22	土器	手づくね かわらけ・小	10.0	—	1.8	1/2	○				黄橙	4面土坑4 白針

図133 4面遺構出土遺物(2)

23	土器	手づくね かわらけ・小	(10.2)	—	2.1	口小～底 1/2	○				黄橙	4面土坑6 白針
24	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.1	1/4	○				黄橙	4面土坑6 白針
25	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	5.5	[2.4]	体片～ 底完存					灰緑 透明	4面土坑6 大宰府 I-2類
26	陶器	常滑 甕	—	—	[11.9]	口小～ 胴片					明茶褐	4面土坑6 長石
27	土器	南伊勢系 鍋	—	—	[1.6]	口小片					灰褐	4面土坑6
28	石製品	軽石	長径 7.3	短径 4.8	厚さ 2.5	完形					灰黄	4面土坑6 条痕あり
29	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	6.6	1.6	4/5	○		○		黄橙	4面土坑7、白針
30	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.6	2/3	○				黄灰	4面土坑7、白針
31	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	1.6	4/5					橙	4面土坑7、白針
32	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	1.7	3/4					淡橙	4面土坑7、白針
33	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.9	1/3	○				黄灰	4面土坑7、白針
34	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.9	3/4					黄橙	4面土坑7、白針
35	土器	手づくね かわらけ・小	10.0	—	2.1	ほぼ完形					黄橙	4面土坑7、白針
36	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	2.3	ほぼ完形					黄橙	4面土坑7、白針
37	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	2.4	4/5	○				黄灰	4面土坑7、白針
38	土器	手づくね かわらけ・大	13.4	—	3.0	完形	○				黄橙	4面土坑7 底部焼成後に穿孔
39	土器	手づくね かわらけ・大	(15.4)	—	3.2	1/6	○				黄灰	4面土坑7、白針
40	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	—	3.1	1/2	○				黄橙	4面土坑7 白針 口縁部に煤付着
41	土器	手づくね かわらけ・大	(14.8)	—	3.1	口小1/3					黄橙	4面土坑7 白針 口縁部に煤付着

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ*	対ナリ状	板状	スコ状		
42	土器	手づくね かわらけ・大	13.6	—	3.2	完形	○				黄灰	4面土坑7 白針 口縁部に煤付着
43	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.2	2/3	○				黄橙	4面土坑7 白針 口縁部に煤付着
44	土器	手づくね かわらけ・大	13.9	—	3.9	3/4	○				黄橙	4面土坑7 白針 口縁部に煤付着
45	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	—	2.1	口小～ 底1/4	○		△		黄灰	4面土坑8
46	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.6	3/4	○				黄灰	4面土坑04 白針
47	土器	手づくね かわらけ・小	(9.7)	—	2.0	1/4	○				黄橙	4面土坑04 白針
48	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.5)	(9.1)	3.2	1/4	○		○		黄灰	4面土坑04 白針
49	土器	ロクロ かわらけ・小	9.3	7.3	2.0	3/4	○		○		橙	4面土坑010 白針
50	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.2)	1.5	1/4	○		○		黄橙	4面土坑010 白針
51	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	7.0	1.5	2/3	○		○		黄灰	4面土坑010 白針
52	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	2.1	完形	○				黄橙	4面土坑010 白針
53	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	—	3.1	1/3	○				黄灰	4面土坑010 白針 内外面黒色に変色
54	土器	手づくね かわらけ・大	13.1	—	3.2	1/2	○				橙	4面土坑010
55	土器	手づくね かわらけ・大	13.7	—	3.5	4/5	○				黄灰	4面土坑010 白針
56	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	1.7	2/3	○				黄灰	4面土坑016 白針 口縁部全体に煤付着
57	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[4.8]	口小片					明灰	4面土坑016

図134 4面遺構出土遺物(3)

58	磁器	同安窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.3]	口小片					ナリ-フ 透明	4面P3 大宰府I類
59	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.6]	口小片					灰 ナリ-フ	4面P8 大宰府I-2類
60	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	—	3.6	1/3	○				黄橙	4面P9 白針
61	石製品	滑石鍋転用品 温石	長さ 8.6	幅 14.5	厚さ 1.7	一部欠損					黒灰	4面P9
62	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.0	1/6	○				黄橙	4面P10 白針
63	磁器	青白磁 合子蓋	—	—	[1.6]	体小片					青白 透明	4面P11
64	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.8)	1.4	口小～ 底1/3	○		○		橙	4面P12 白針
65	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片					暗灰	4面P13 長石
66	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.0	1/3	○				黄灰	4面P14
67	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.2	片側辺					黒灰	4面P14 永福寺女瓦A類
68	土器	手づくね かわらけ・小	(8.7)	—	2.0	1/2弱	○				橙	4面P16 白針
69	磁器	白磁 端反碗	—	—	[1.7]	口小片					褐白	4面P17 大宰府V類
70	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(5.4)	1.9	1/4					黄灰	4面P18
71	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	2.0	4/5	○				黄橙	4面P18 底部焼成後に穿孔
72	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.4	筒部 片側面					灰色	4面P19 永福寺男瓦A類

図135 4面遺構出土遺物(4)

73	磁器	青白磁 合子身	—	—	[1.4]	口小片					灰白	4面P20 蓋受け部無釉
74	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.9	広端面 片側辺					灰	4面P21 永福寺女瓦A類
75	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.7	1/4	○				黄灰	4面P22 白針
76	磁器	白磁 壺類	—	—	—	胴小片					褐白	4面P22
77	土器	手づくね かわらけ・小	(9.8)	—	2.8	1/4	○				黄灰	4面P25
78	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	狭端面 片側辺					暗灰	4面P26 永福寺女瓦A類

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナブ	ナラ状	板状	スコ状		
79	土器	手づくね かわらけ・大	(13.7)	—	2.7	1/3	○				黄灰	4面P28 白針、粉質
80	土器	手づくね かわらけ・小	(11.7)	—	[3.2]	1/4	○				黄灰	4面P33 白針
81	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(4.0)	2.1	—	○		○		黄灰	4面P34 白針、砂質
82	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.6	1/2弱	○				黄橙	4面P34
83	陶器	尾張型カ 小皿	—	(5.6)	[1.4]	底1/4					明灰	4面P34 白色粒 外底面に墨書「上」
84	磁器	白磁 櫛搔文端反碗	—	—	[3.7]	口小片					緑白 透明	4面P35 大宰府V-4aカb類 外面回転ケズリ、内面に櫛搔文
85	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	2.0	1/2 歪み大	○				黄灰	4面P37
86	土器	手づくね かわらけ・小	(7.8)	—	1.9	1/4	○				黄灰	4面P38 白針
87	土器	手づくね かわらけ・大	(15.8)	—	3.1	1/4	○				黄橙	4面P38 白針 口縁部に擦痕・内底面に条痕
88	陶器	渥美 壺	—	—	2.4	口小片					黒褐	4面P41
89	土器	手づくね かわらけ・大	13.3	—	3.0	2/3	○				黄灰	4面P42 白針
90	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.8	1/2弱	○				黄灰	4面P45 白針
91	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	2.2	1/3	○				黄橙	4面P46 白針

図136 4面遺構出土遺物(5)

92	土器	手づくね かわらけ・大	14.0	—	3.4	1/2	○				黄灰	4面P52 白針
93	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	—	3.8	1/6	○				黄灰	4面P52 白針
94	土器	手づくね かわらけ・大	(14.6)	—	3.6	1/4	○				黄灰	4面P52 口縁部内外面に煤付着
95	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	3.3	1/3	○				黄灰	4面P52 雲母、白針
96	磁器	白磁 碗	—	—	[2.8]	体小片					灰白 透明	4面P52
97	陶器	常滑 壺	—	—	—	胴小片					暗灰	4面P52 長石
98	土器	ロクロ かわらけ・小	—	(6.2)	[2.4]	底1/2	○		○		黄灰	4面P53 内外面～割れ口に煤付着
99	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.7	1/4					橙	4面P53
100	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.3	2/3	○				黄灰	4面P53
101	土器	手づくね かわらけ・小	—	—	[2.0]	1/4					黄灰	4面P53 内面に煤付着
102	陶器	渥美 壺	—	—	[3.5]	口小片					暗灰	4面P53 白色粒、砂質
103	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.6]	底小片					褐	4面P53 白色粒 内面摩耗
104	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	4.2	1.7	口小～ 底完存	○		○		橙	4面P54 白針 内外面に煤付着
105	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.3]	口小片					灰緑-ブ 透明	4面P56 大宰府 I-4類
106	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	1.5	1/3	○				黄灰	4面P60 白針、やや粉質
107	土器	ロクロ かわらけ・小	9.7	—	1.6	3/4	○		○		黄灰	4面P61
108	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	2.9	1/3	○				黄灰	4面P61 白針
109	土器	手づくね かわらけ・小	(13.3)	—	4.2	1/4	○				黄灰	4面P61 白針
110	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	—	—	[2.4]	体小片					浅 緑-ブ	4面P61 大宰府 I-1類
111	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.1]	体小片					緑-ブ	4面P61 大宰府 I-1類
112	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[2.4]	口小片					灰	4面P61
113	陶器	渥美・湖西型 山茶碗	—	7.3	[3.9]	底4/5					灰	4面P61 高台に靱殻圧痕 内外面～割れ口黒変
114	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.5)	1.8	1/4	○		○		黄橙	4面P63
115	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.8	1/4	○				黄灰	4面P63 口縁内面擦痕



遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ*	ナラシ	板状	スコ状		
116	磁器	同安窯系青磁碗	—	—	[1.5]	口小片					オリーブ 透明	4面P63 大宰府Ⅲ類カ
117	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	[3.7]	体小片					オリーブ 透明	4面P63 大宰府Ⅰ-2類
118	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.6)	1.7	1/4	○		○		黄橙	4面P64 白針
119	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.7	1/4					黄灰	4面P66 白針、白針
120	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	[3.0]	口小片					灰 オリーブ	4面P66 大宰府Ⅰ-2類
121	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(7.8)	3.3	1/3	○		○		橙	4面P67 砂質、白針
122	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	[3.0]	口小片					オリーブ 透明	4面P68 大宰府Ⅰ-2類
123	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	—	[2.6]	口小片					青灰 透明	4面P68 大宰府Ⅰ類
124	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	—	—	口小片					灰オリーブ	4面P69
125	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	—	口小片					オリーブ 透明	4面P69 大宰府Ⅰ-3類カ
126	磁器	白磁碗	—	5.0	—	体～ 底完存					灰白 透明	4面P69 端反碗・大宰府Ⅴ-4類カ

図137 4面遺構出土遺物(6)

127	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	7.4	2.1	4/5	○		○		黄灰	4面P03
128	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.5)	2.0	1/6	○		○		黄灰	4面P05
129	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.6)	2.2	1/6	○		○		黄橙	4面P05
130	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(6.0)	2.4	口小～ 底1/2	○		○		黄橙	4面P031 砂質
131	土器	手づくね かわらけ・大	(15.5)	—	3.1	1/4	○				黄灰	4面P031
132	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.1	1.8	3/4	○		○		黄橙	4面P035
133	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.5	1/3					黄橙	4面P035 白針 口縁下の内外面に煤付着
134	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	2.1	1/2	○				黄灰	4面P045
135	瓦質土器	皿	—	—	[0.9]	口小片					灰	4面P055
136	陶器	渥美 甕	—	—	[5.5]	口小～ 胴片					暗灰	4面P055 白色粒 4面P075-142と同一個体
137	陶器	常滑 甕	—	—	[2.3]	口小片					茶	4面P059 白色粒
138	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.5	1/3					黄灰	4面P060 白針 体部内面に工具痕 内外面煤付着
139	瓦	丸瓦	—	幅 15.0	厚さ 2.1	筒部					暗灰	4面P067 永福寺男瓦A類
140	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	5.1	[2.7]	体片～ 3/4底存					灰オリーブ 透明	4面P072 大宰府Ⅰ-1類
141	土器	手づくね かわらけ・小	(8.0)	—	1.6	1/3	○				黄橙	4面P074 白針 外面一部黒色に変色
142	陶器	渥美 甕	—	—	[6.1]	口小～ 胴片					暗灰	4面P075 白色粒 4面P055-136と同一個体カ
143	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	8.7	3.0	3/4	○		○		黄灰	4面P078 白針
144	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.5)	1.8	1/4	○		○		橙	4面P082 白針 口唇部に煤付着
145	土器	手づくね かわらけ・小	8.4	—	1.8	完形	○				橙	4面P083 白針 底部内面黒色に変色
146	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.1)	1.5	1/4	○		○		黄橙	4面P084 白針 底部外面に黒色の付着物
147	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.9	完形	○				黄灰	4面P085 白針
148	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.2)	1.8	1/4	○				橙	4面P085 白針
149	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	[3.2]	口小片					灰オリーブ 透明	4面P085 大宰府Ⅰ-2類
150	陶器	渥美 甕	—	—	[3.8]	口小片					緑黒	4面P093
151	土器	ロクロ かわらけ・大	—	(8.2)	[1.6]	1/4	○		○		黄橙	4面P099 白針 焼成前に非貫通の穿孔
152	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	1.5	1/3	○				黄灰	4面P0100 白針、砂質

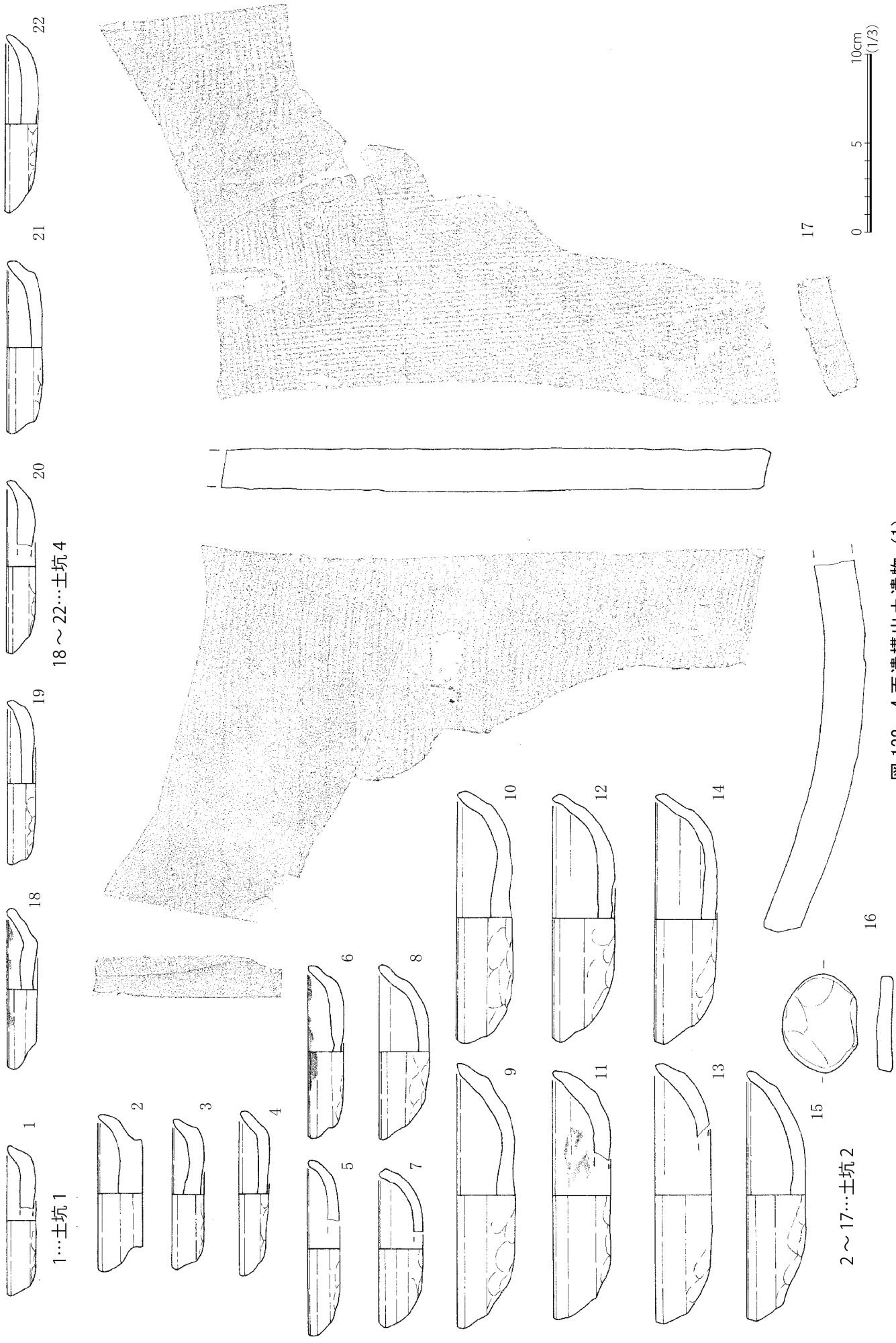
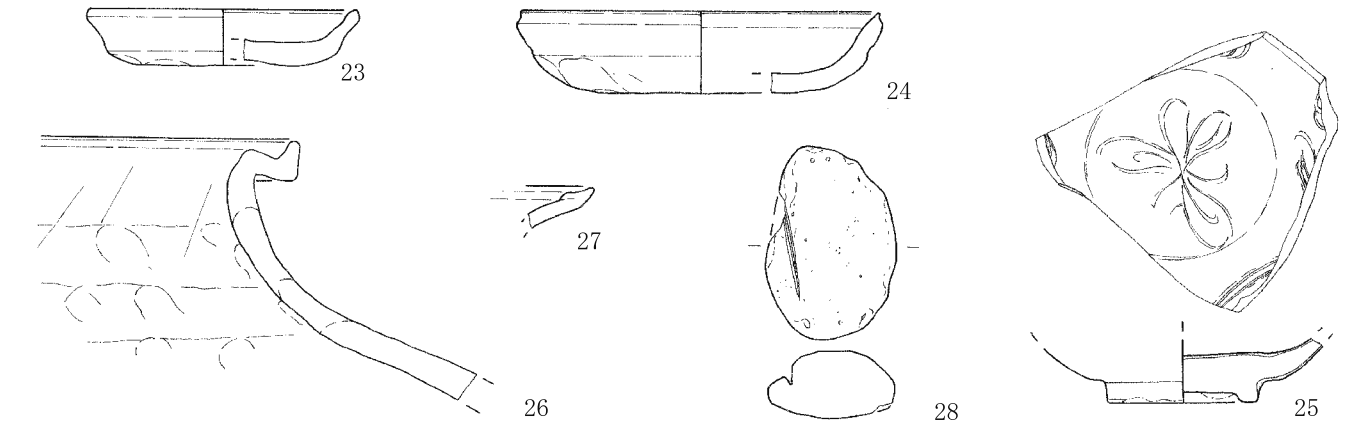
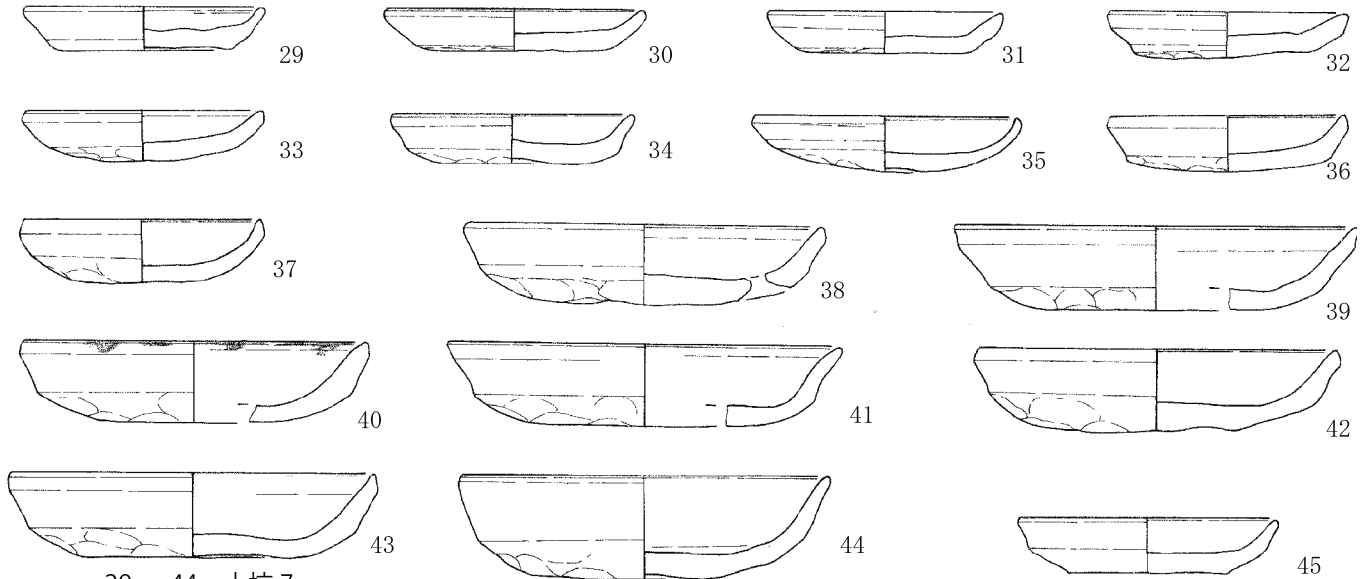


图 132 4面遺構出土遺物 (1)

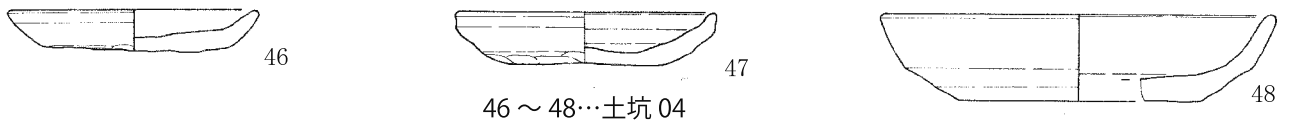


23 ~ 28...土坑 6

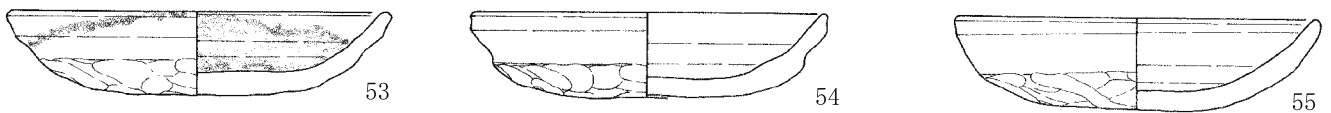


29 ~ 44...土坑 7

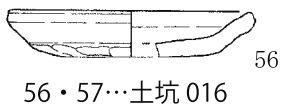
45...土坑 8



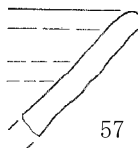
46 ~ 48...土坑 04



49 ~ 55...土坑 010



56 • 57...土坑 016



57

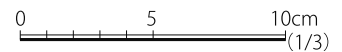


图 133 4 面遺構出土遺物 (2)

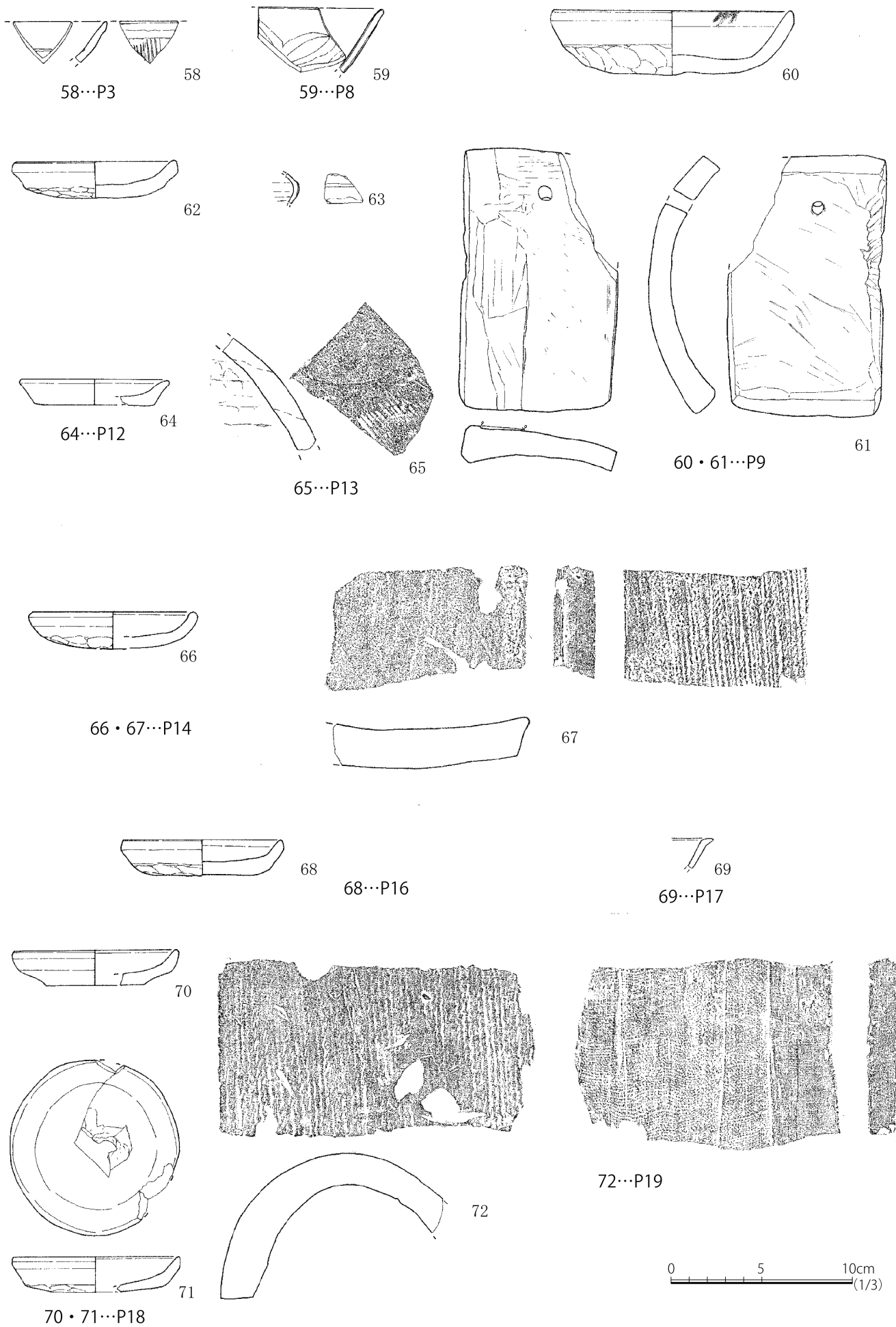


图 134 4面遺構出土遺物 (3)

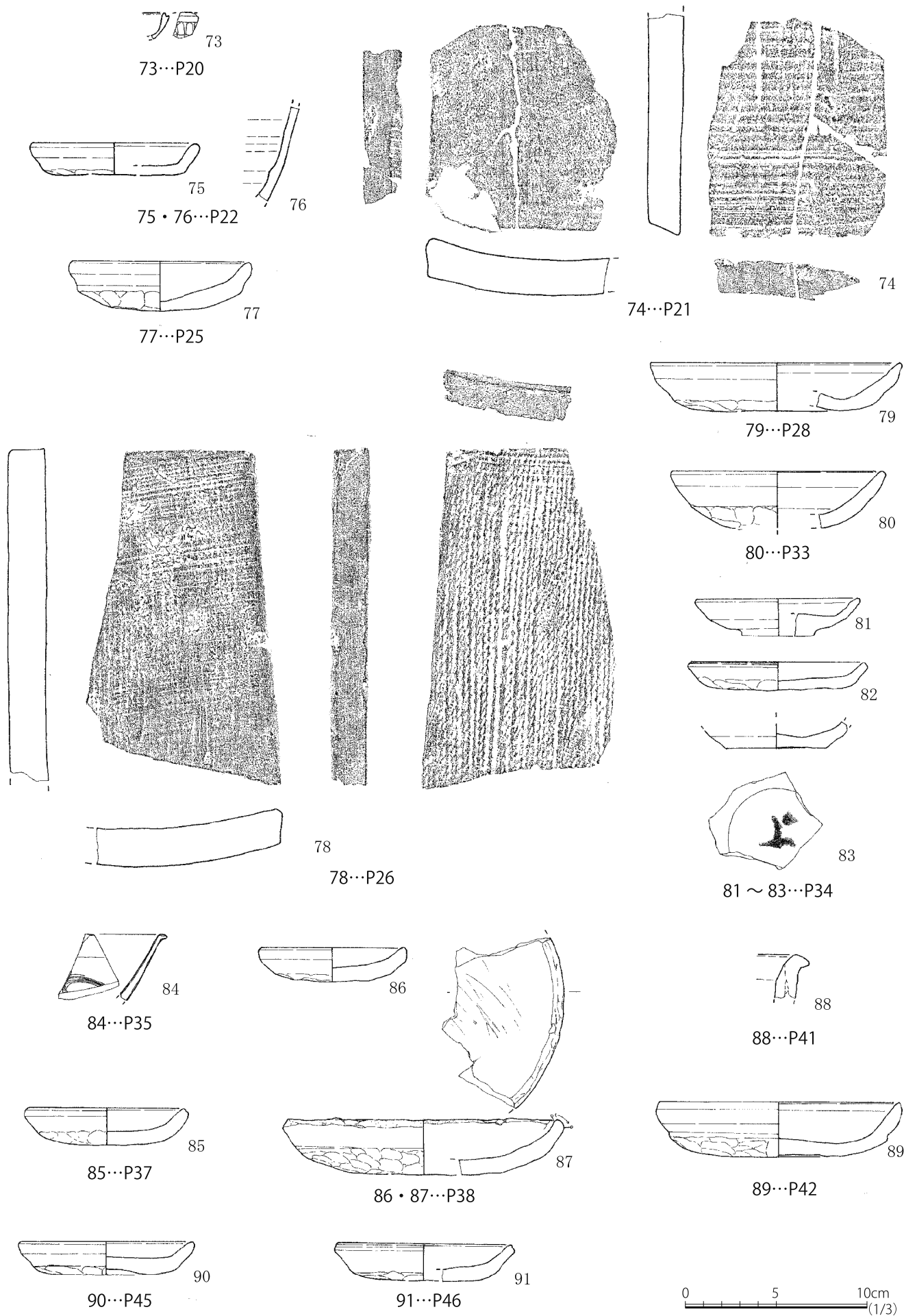


图 135 4面遺構出土遺物 (4)

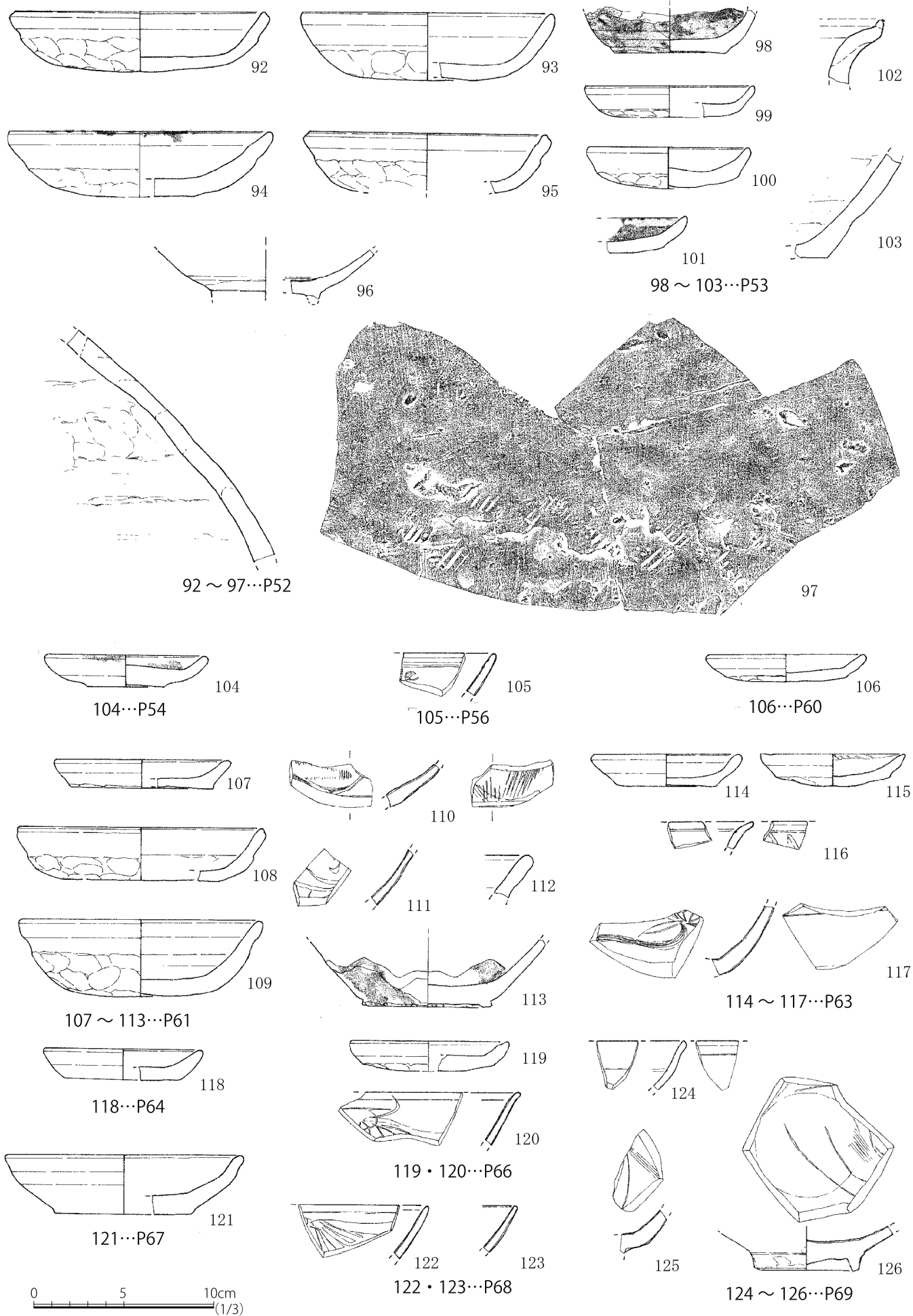


图 136 4面遺構出土遺物 (5)

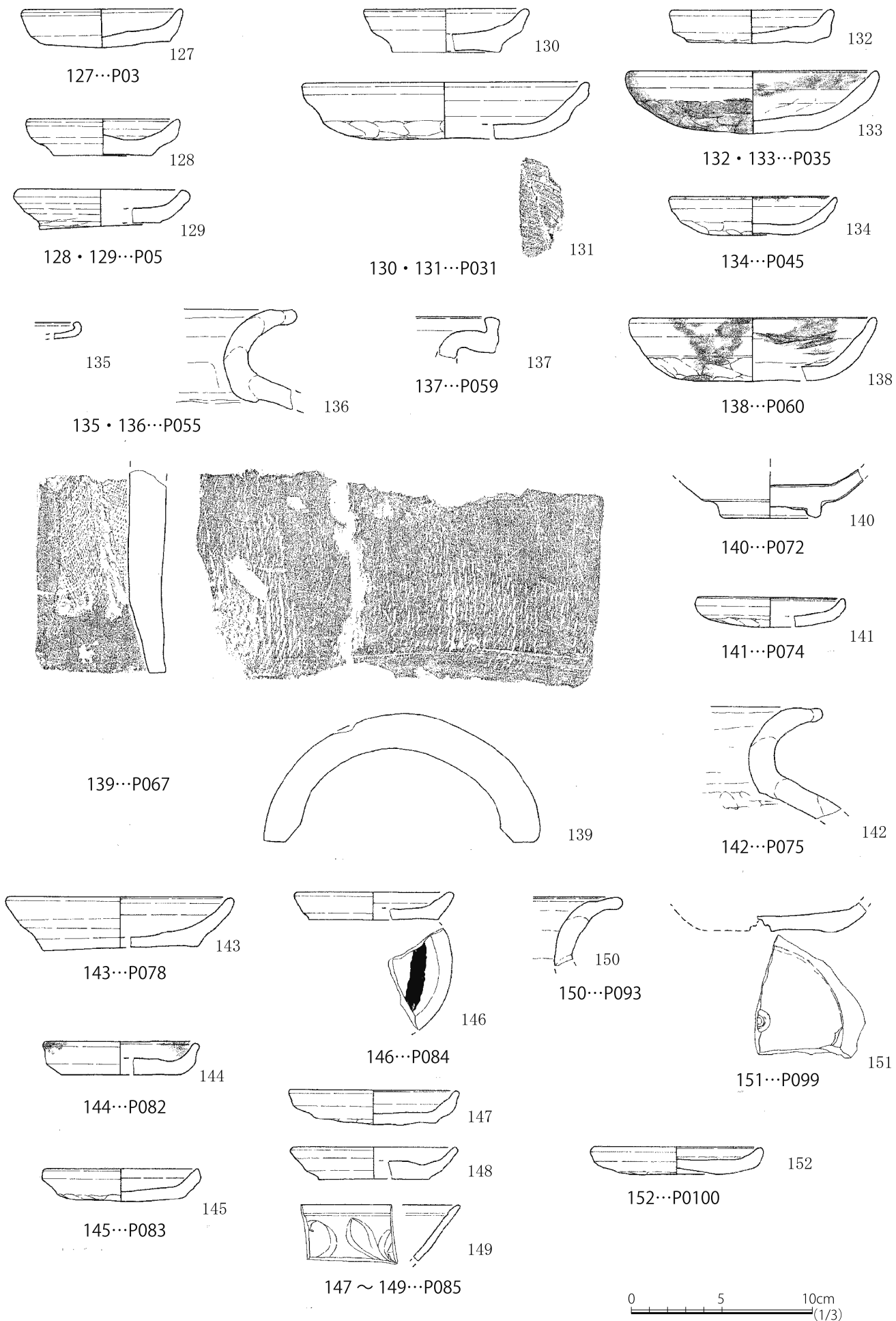


图 137 4 面遺構出土遺物 (6)

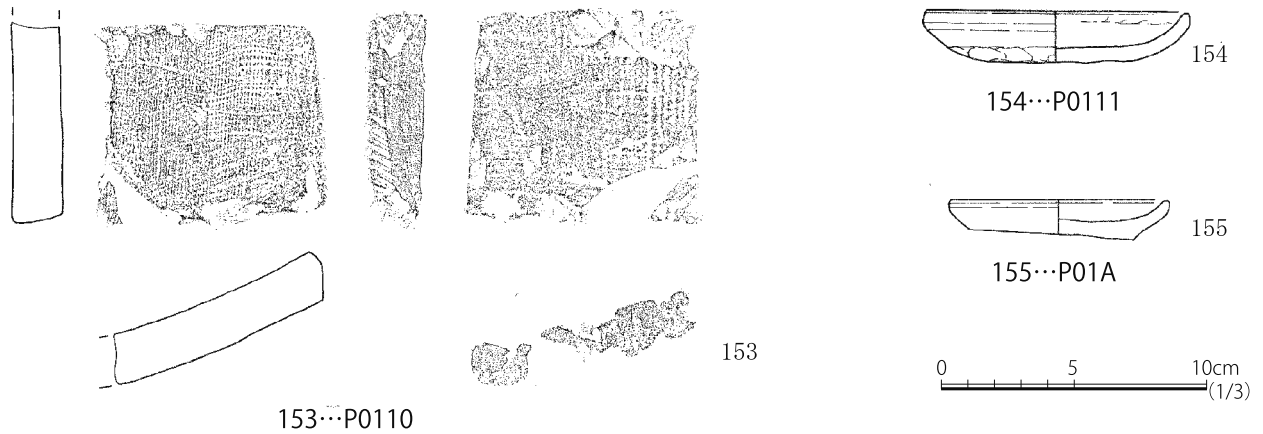


図 138 4面遺構出土遺物 (7)

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ナデ状	板状	スノ状		
図138 4面遺構出土遺物(7)												
153	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	広端面 片側辺					暗灰	4面P0110 永福寺女瓦A類 白色粒・黒色粒
154	土器	手づくね かわらけ・小	9.8	—	2.0	3/4	○				黄灰	4面P0111 白針
155	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.2	1.5	完形					黄灰	4面P01A 白針、砂質

4面遺構の出土遺物 (図 131 ~ 139、表 9・10)

4面遺構の出土かわらけは手づくね成形品が主体を占め、少量のロクロ成形品がこれを補う形を取る。手づくねにも薄手・低平な器形を呈し口唇部面取りナデを施す古相のものと、厚手・身深器形で面取りナデを省略した新相の資料が混在する。舶載磁器は龍泉窯系青磁碗・皿Ⅰ類(劃花文)が大半を占め、同安窯系青磁の碗が若干量含まれる。常滑の甕は細片ばかりだが4~5型式が混在し、瓦は永福寺Ⅰ期の所用瓦が占めている。これらは13世紀初頭~前葉の年代幅で捉えることができ、3面下~4面上の出土資料も含め、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類(蓮弁文碗)を含まない点は留意すべきである。今回は整理作業において細かな器種分類を行っていないため、あくまでも図示し得た遺物に限った傾向として言及しておく。



第9節 5面上の遺物（図139、表11）

5面上出土のかわらけは手づくね成形品が主体となり、小皿を中心にロクロ成形品を少量含む。舶載陶磁器では龍泉窯系I類・同安窯系I類があり、小片であるが白磁端反碗（V類か）も見られる（13）。瓦は永福寺I期所用の有段式丸瓦（7）がある。全体としては、12世紀末～13世紀初頭の遺物構成と見なせよう。

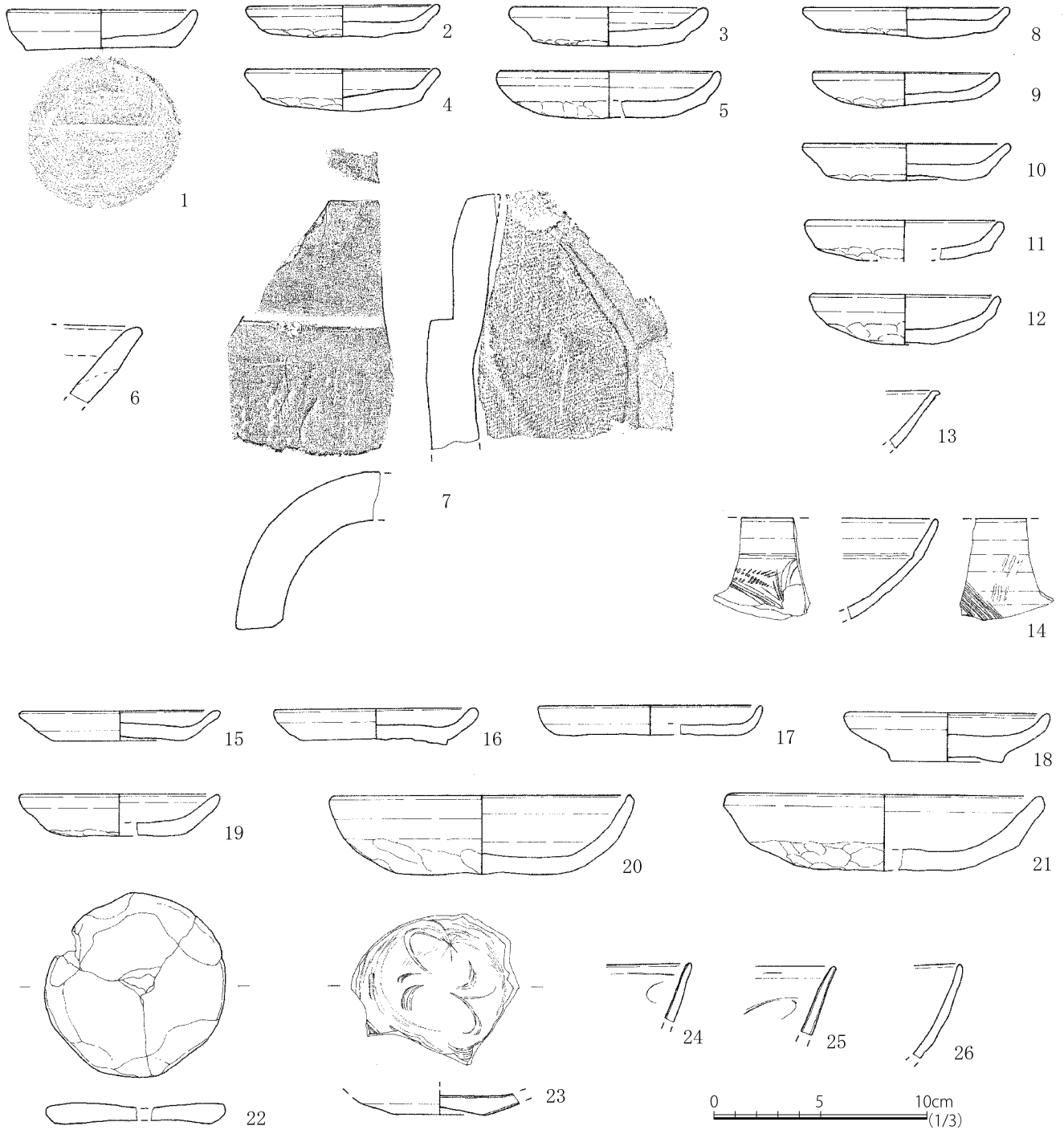


図139 4面下～5面上出土遺物

表 11 4 面下～5 面上 出土遺物観察表

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ナツ状	板状	スコ状		
図139 4面下～5面上出土遺物												
1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.2	1.9	4/5	○				橙	4面下～5面トレンチ1 白針、砂質 内面一部に煤付着
2	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.5	1/3	○				黄橙	4面下～5面トレンチ1 白針
3	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.8	1/3	○				橙	4面下～5面トレンチ1 白針
4	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.0	1/3	○				黄橙	4面下～5面トレンチ1 白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(10.7)	(9.2)	2.3	1/4	○				橙	4面下～5面トレンチ1 白針
6	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	口小片					灰	4面下～5面トレンチ1 長石
7	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.3	玉縁～ 筒部片側片					灰	4面下～5面トレンチ1 永福寺男瓦A類 白色粒
8	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	1.5	3/4	○				黄灰	4面下～5面トレンチ2 粉質
9	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	—	1.7	1/3	○				黄橙	4面下～5面トレンチ2 白針
10	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	—	1.7	1/4	○				黄橙	4面下～5面トレンチ2 白針
11	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	(1.9)	1/3					黄橙	4面下～5面トレンチ2
12	土器	手づくね かわらけ・小	(8.7)	—	2.3	1/5					橙	4面下～5面トレンチ2 白針
13	磁器	白磁 端反碗	—	—	[2.7]	口小片					乳白 透明	4面下～5面トレンチ2 大宰府V類カ
14	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	—	—	[4.7]	口小～ 体片					薄緑褐 透明	4面下～5面トレンチ2 大宰府Ⅰ類
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(6.1)	1.4	1/2	○			△	橙	白針 内外面黒色に変色
16	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	6.8	1.7	3/4	○		○		橙	白針
17	土器	手づくね かわらけ・小	(10.4)	(8.4)	1.4	1/4	○				橙	白 口唇部一部に煤付着
18	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	5.2	2.3	1/3	○		○		橙	白針、砂質 底部内面黒色に変色
19	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	(6.7)	(1.9)	1/4	○				黄灰	白針 内外面黒色に変色
20	土器	手づくね かわらけ・大	(13.9)	(13.0)	(3.7)	1/3	○				黄橙	白針 内外面に煤付着
21	土器	手づくね かわらけ・大	(14.4)	(12.7)	(3.5)	1/3	○		○		黄橙	白針
22	土器	かわらけ転用 円盤	直径 8.5	—	厚さ 1.0	ほぼ完形					黄橙	白針 底部片を擦って加工
23	磁器	龍泉窯系青磁 櫛搔劃花文皿	—	(4.1)	[0.9]	底完存					灰青 透明	大宰府Ⅰ-2a類カ
24	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.7]	口小片					灰 透明	
25	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.2]	口小片					灰青 透明	
26	陶器	須恵器 坏カ	—	—	[4.4]	口小片					灰	

## 第 10 節 5 面の遺構と遺物

### 5 面の検出遺構 (図 140 ～ 145)

5 面は中世基盤層となる黒褐色粘質土層 (ネチャ) の上面とし、標高 11.2 ～ 11.3 m で確認された。地点Ⅰ東端部と地点Ⅱ北半部を主な調査対象とし、これを除く部分では 5 面までの掘り下げ作業を実施しなかった。地点Ⅰの東端部では南北方向の溝 1 が検出され、地点Ⅱでは溝 1 と同方向で延びる溝 2 と掘立柱建物 1 棟が検出された。これらは総じて真北を意識した規格で構築されており、3 面段階に出現する、現行の荏柄社参道に沿った南北道とは 20° 前後の差がある。道路構築以後も、真北基調の軸線は 3 面の掘立柱建物 1 や 2 面の溝 1 に継承され、1 面になると道路関連遺構以外の軸線は不鮮明になる。

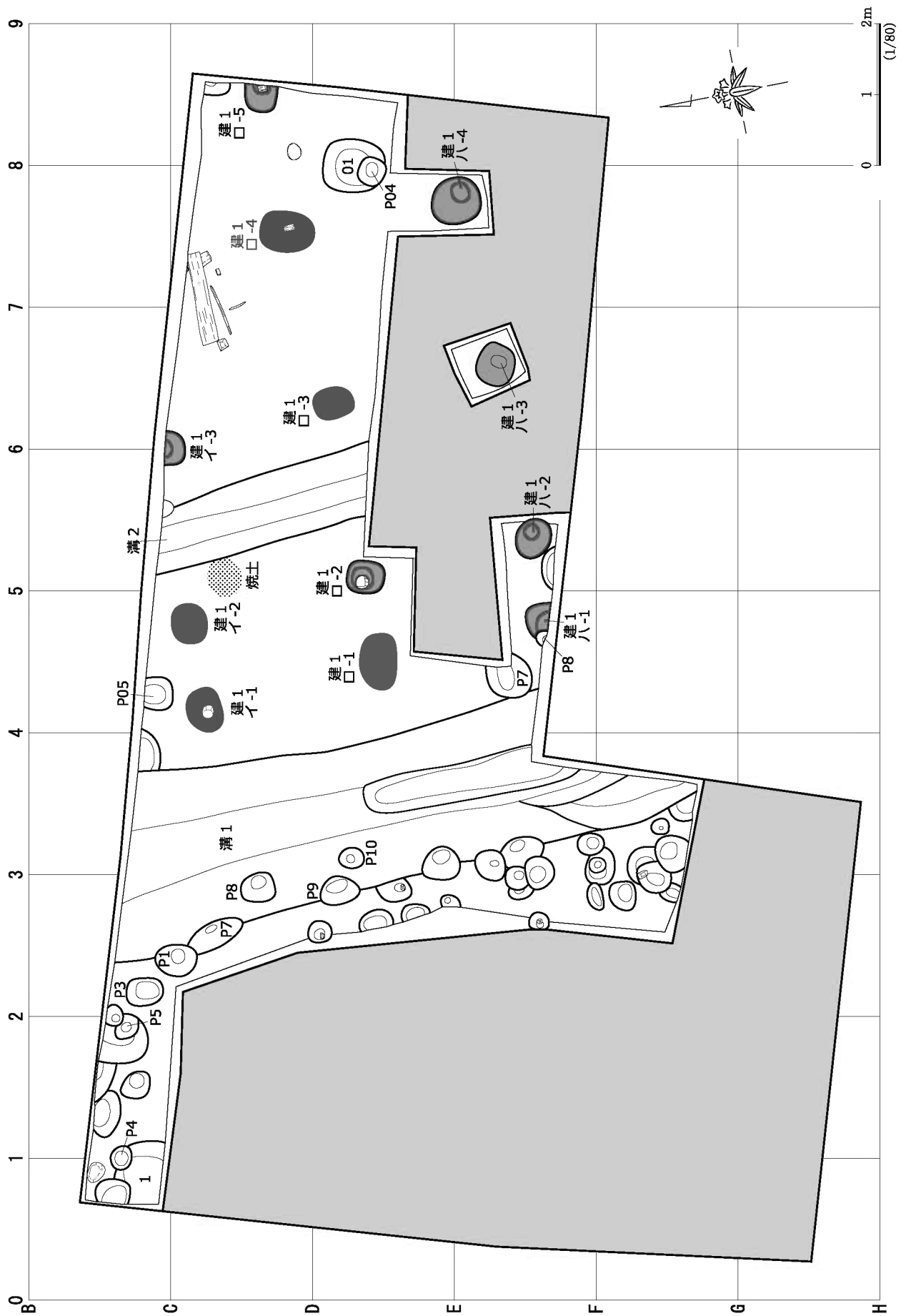


图 140 5 面全体图

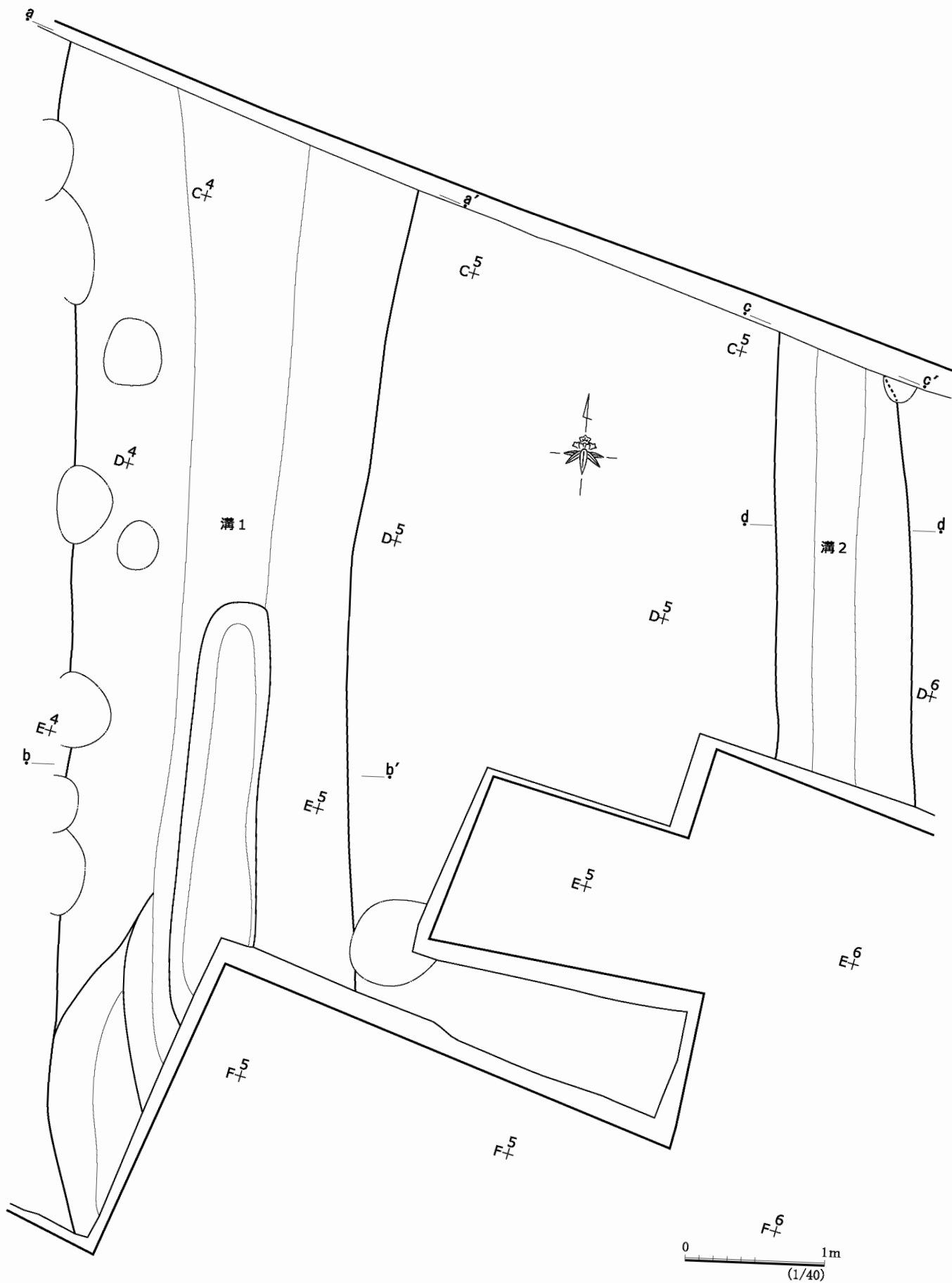
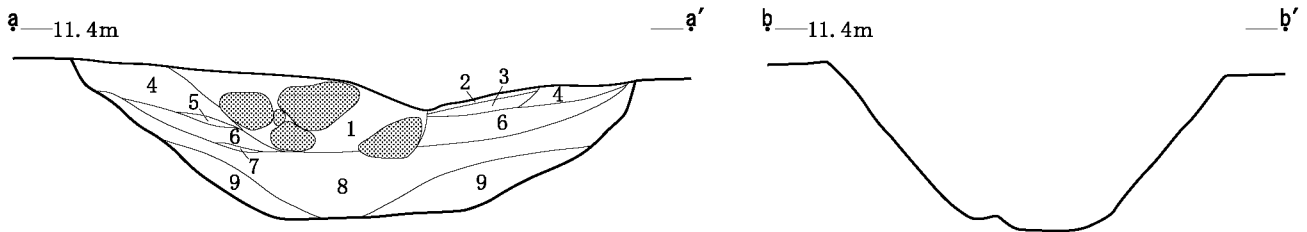
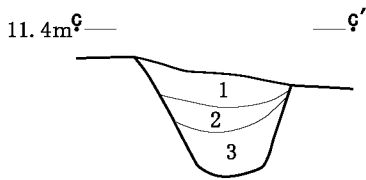


图 141 5面 沟1·2平面图



5面 溝1 土層説明

- 1 暗褐色土 弱粘質土。泥岩ブロックやや多い。縮まりなし。
- 2 暗褐色土 粘質土。有機質腐植物多量、炭粒少量。縮まりなし。
- 3 褐色土 粘質土。有機質腐植物多量。縮まりなし。
- 4 暗灰褐色土 粘質土。有機質腐植物、炭粒少量。縮まりややあり。
- 5 暗灰褐色土 粘質土。貝殻粒多量。縮まりなし。
- 6 暗灰褐色土 粘質土。有機質腐植土主体。縮まりなし。
- 7 炭層 縮まりなし。
- 8 暗褐色土 有機質腐植土が主体。木片多量。縮まりあり。
- 9 暗灰褐色土 有機質腐植物少量。縮まりあり。



5面 溝2 土層説明

- 1 暗青灰色土 弱粘質土。木片少量。縮まり非常に強い。
- 2 黒褐色土 粘質土。木片、炭粒少量。縮まりなし。
- 3 青灰色土 粘質土。混入物なし。縮まりなし。

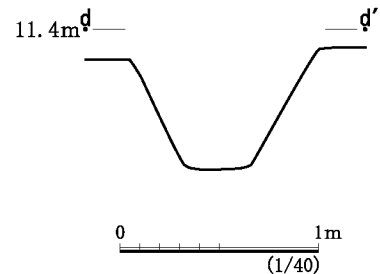


図 142 5面 溝1・2 断面図

溝1は南北とも調査区外へと続き、上幅が最大で260cm、底面幅は30～90cmを測る。確認面からの深さは90cm弱を測り、底面の標高は10.4～10.5mで、わずかながら南に向けて低くなる。走行軸は、ほぼ真北方向を取る。埋土は暗灰褐色の粘質土がベースで、有機質腐植土を多く含んでいた。

溝2は上幅100cm、底面幅30cmで横断面は逆台形を呈する。確認面からの深さは60cmを、底面標高は10.7mで推移し、いずれか一方への傾斜は認められなかった。埋土は青～黒色基調の粘質土である。

掘立柱建物1は地点Ⅱの全域で検出され、東と南北は調査区外に続くものと考えられる。東西3間×南北2間分が確認でき、西側に縁と見られる半間分の柱穴列が並ぶ。身舎部分の柱間距離は240cm規格であったと見られ、東西7.2×南北4.8m＝34.56㎡以上の床面積となる。身舎と縁との柱間距離は、120cmを測る。柱筋の軸線はN1°Wで、真北を指向した規格であったと見られる。各柱穴は平面の長径が50～80cmで、確認面から70～110cmの深さをもつ比較的規模の大きなものであった。身舎部分と縁部分では柱材が各1本ずつ残されており、他の柱穴でも底面に礎板を残すものが2基認められた。縁を構成する柱穴イ-1柱材は直径15cmの面取り丸柱で、高さ73cmが遺存していた。下端部から14.5cm上位には方2cmで深さ4cmの方孔が削られ、さらに10cm上位にも方2cmで深さ2cmの方孔が削られていた(図版17-4)。身舎西辺の柱穴ロ-2柱材は短径8cm、長径15cmの面取り丸柱で、高さ90cmが遺存していた(図版17-3)。240cmという柱間距離や丸柱を使う構造は、古代的要素を残しているといえる。

また、正確な平面図として現地記録は残っていないが、柱穴イ-2南東側の中世基盤層上では、中央が赤く焼け、その外周が黒く変色(炭化?)した範囲が検出されている。この東端部を溝2が切っているように見える(図版17-1)。建物1との関連性については明らかでない。図141・143に示した範囲は、写真記録から大よその位置を復元したものである。

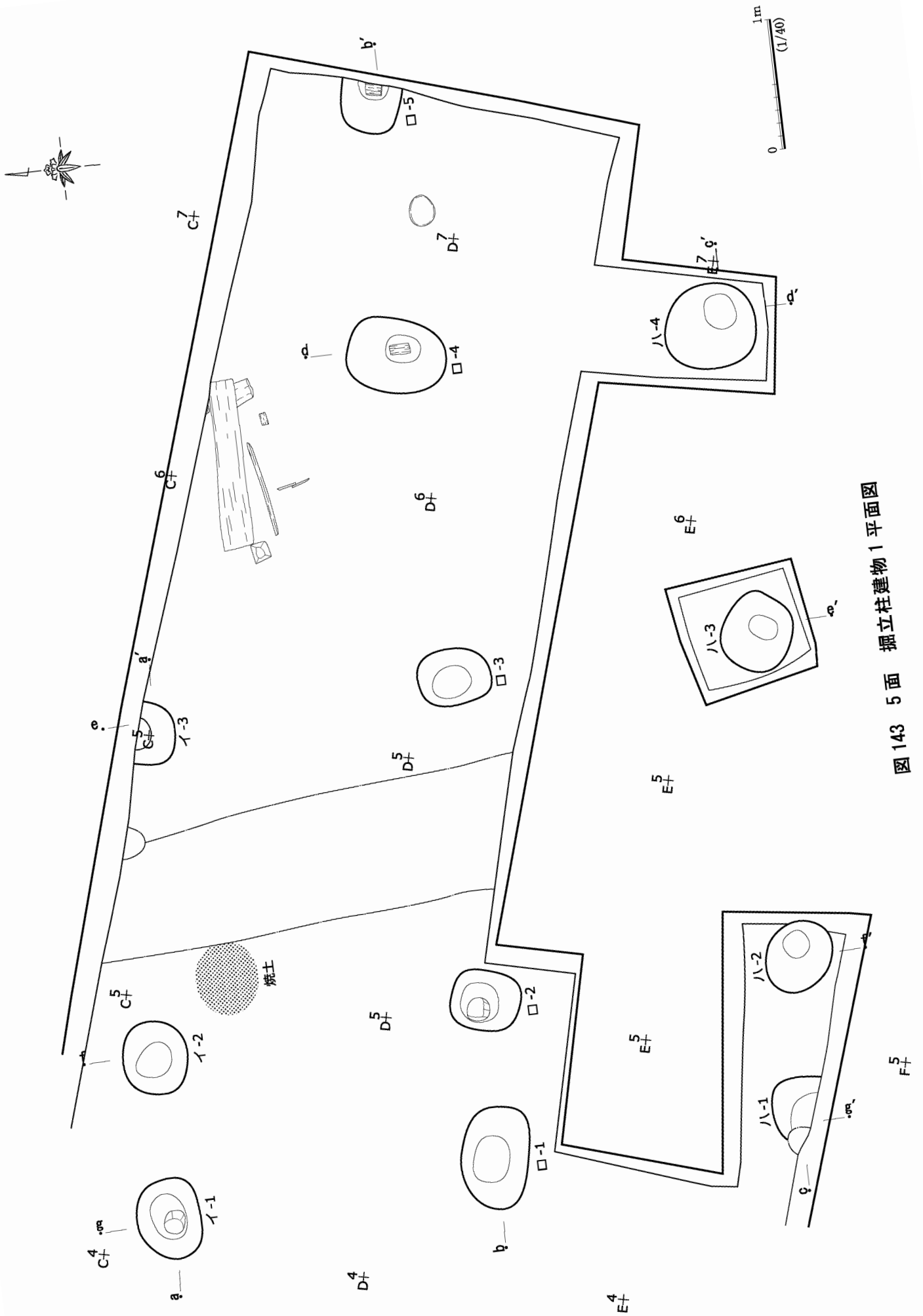


图 143 5面 掘立柱建物 1 平面图

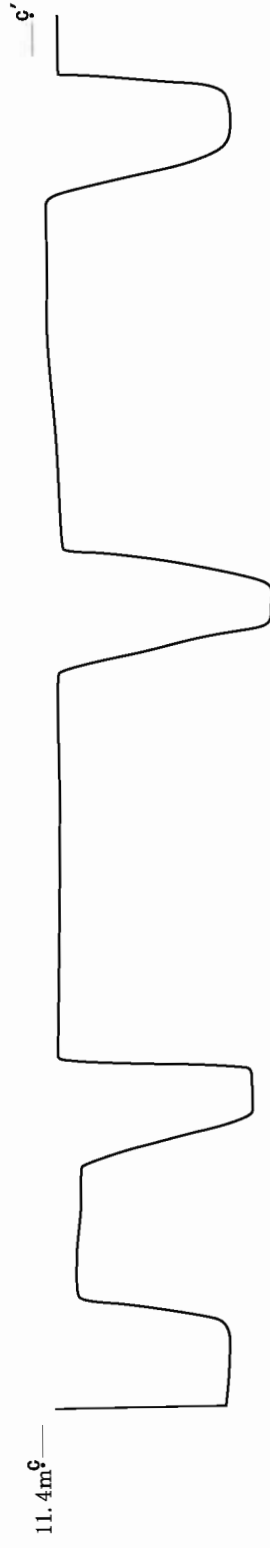
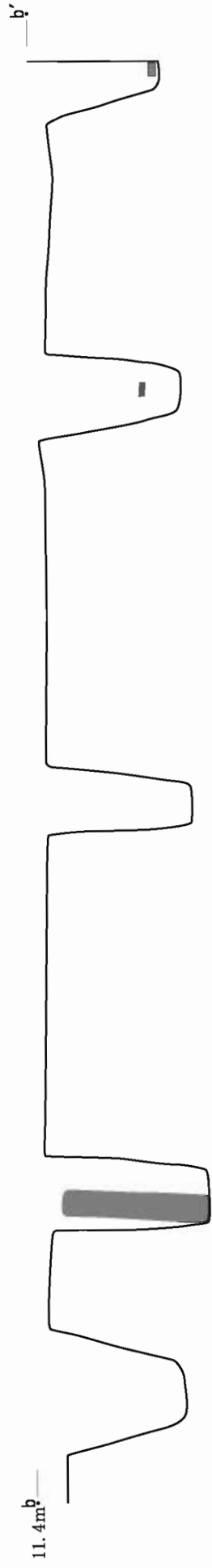
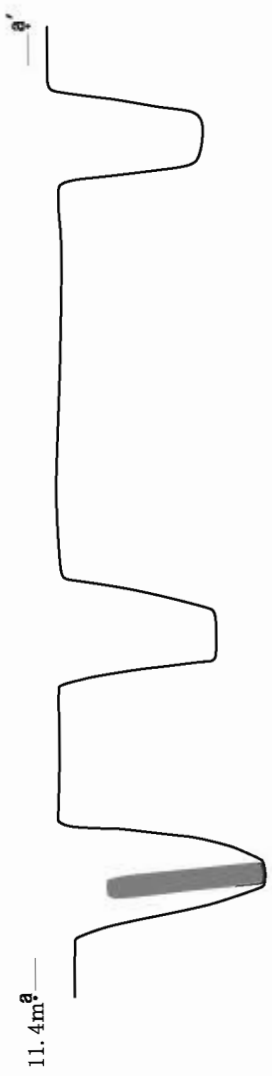


图 144 5 面 掘立柱建物 1 断面图

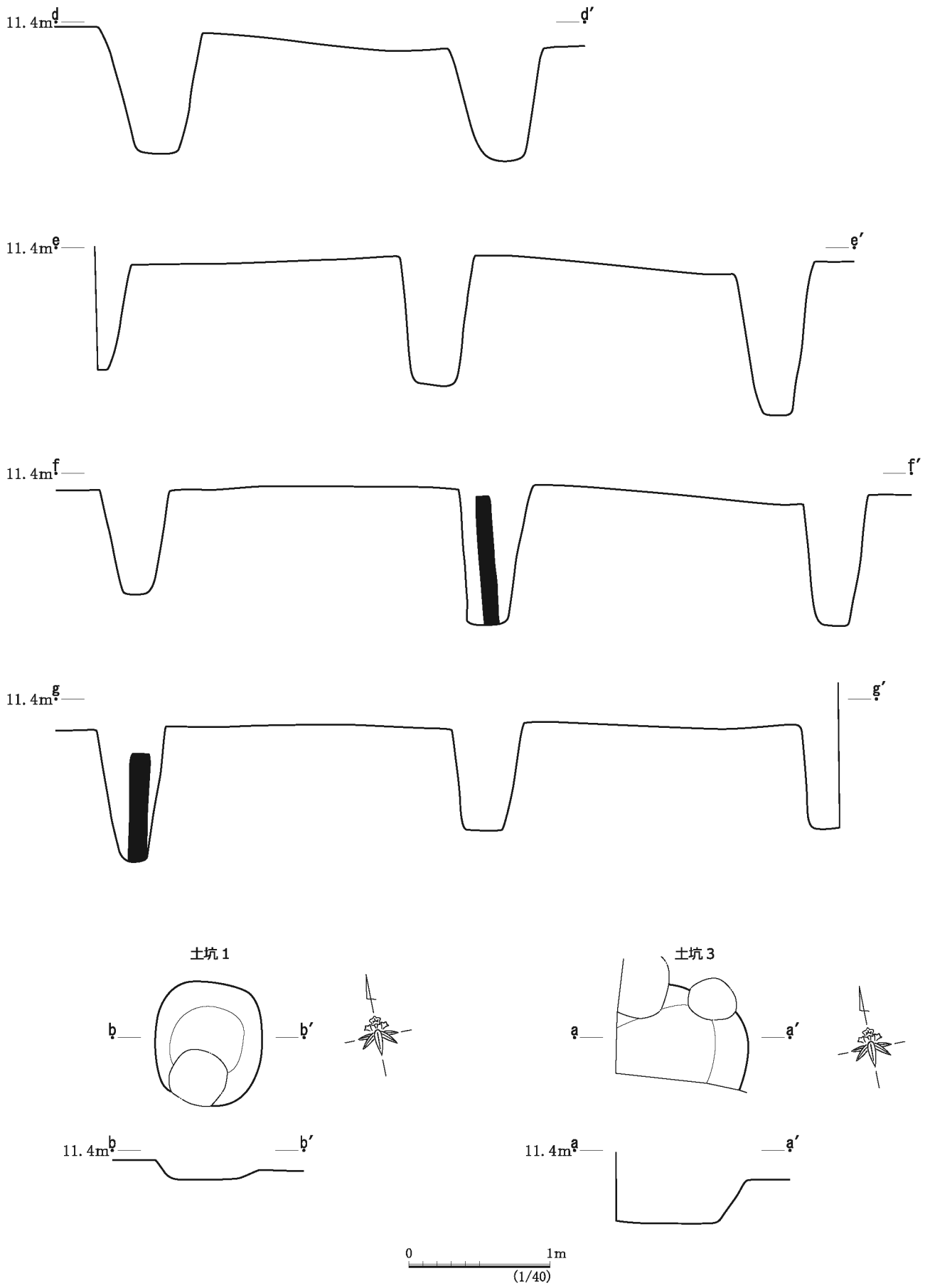


图 145 5 面 掘立柱建物 1 断面图、土坑 1·3



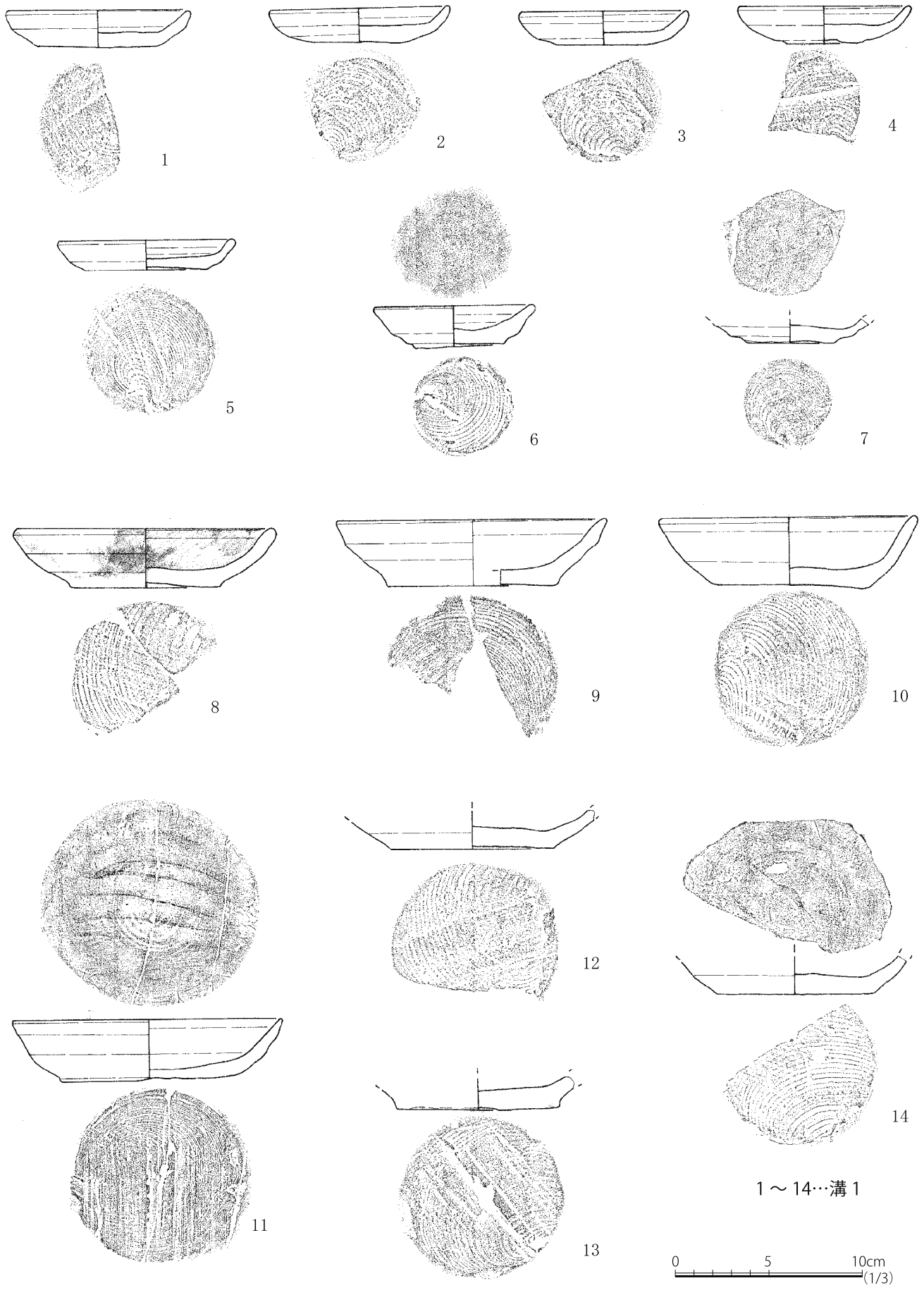


图 146 5面遺構出土遺物 (1)

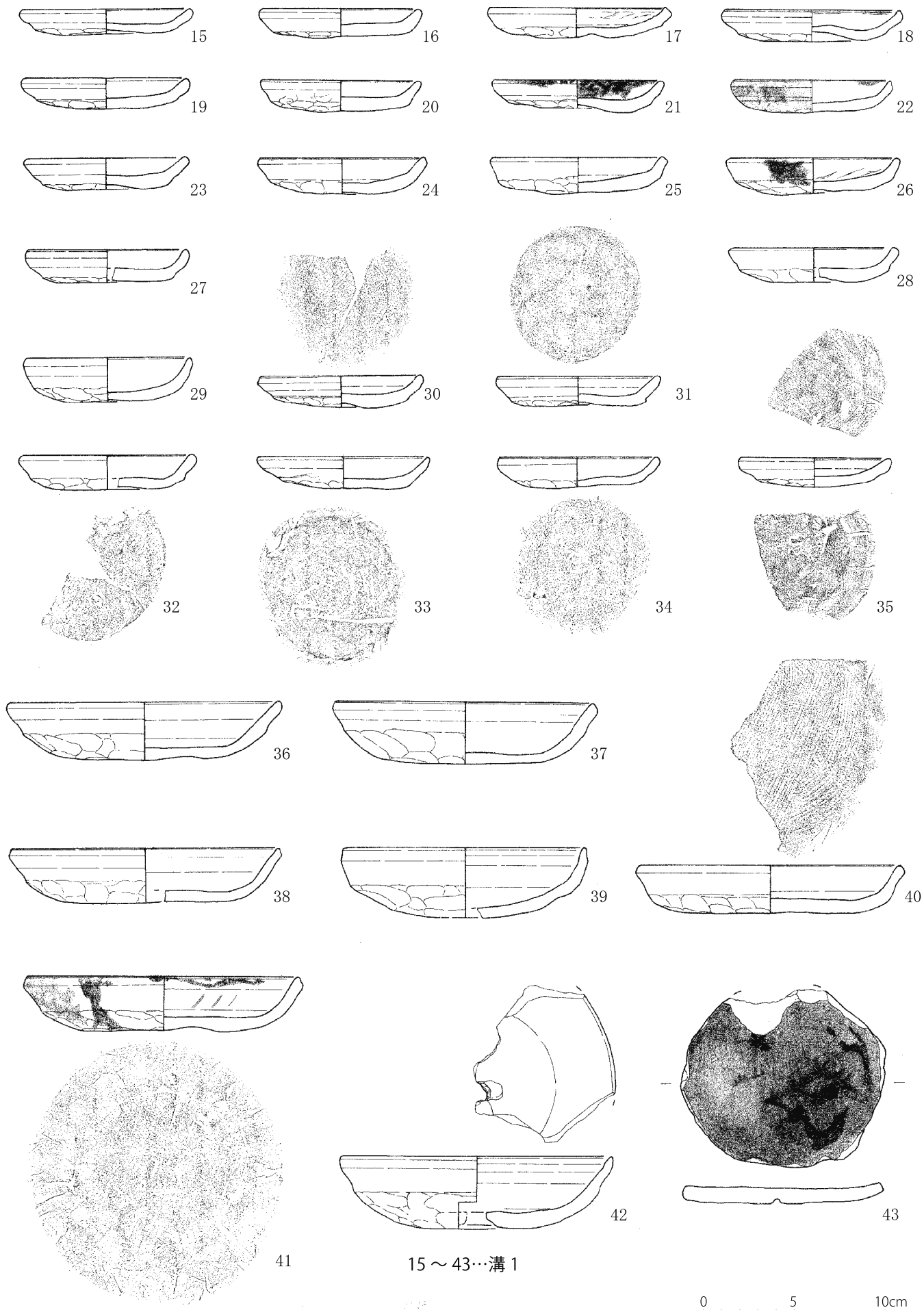


图 147 5 面遺構出土遺物 (2)

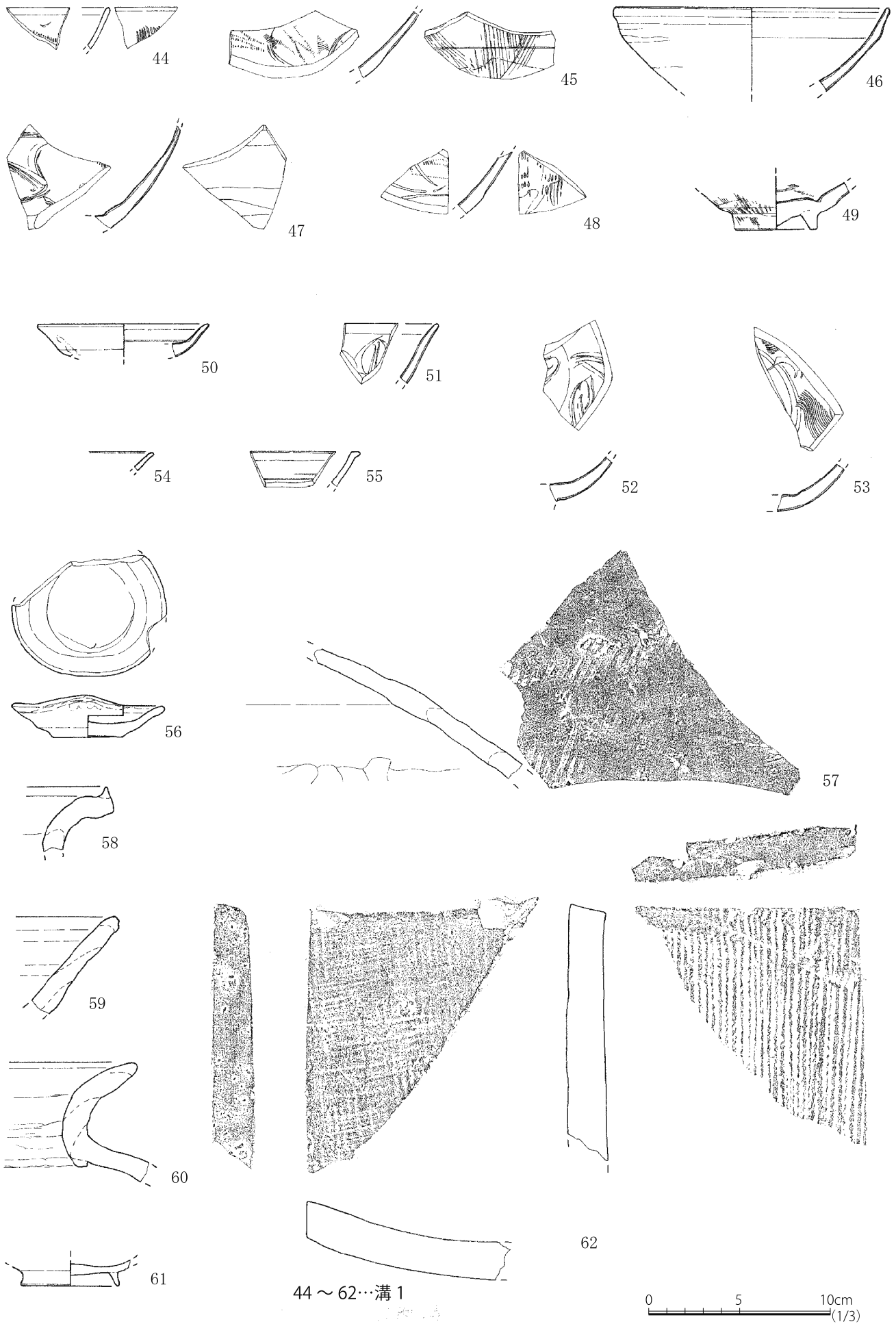
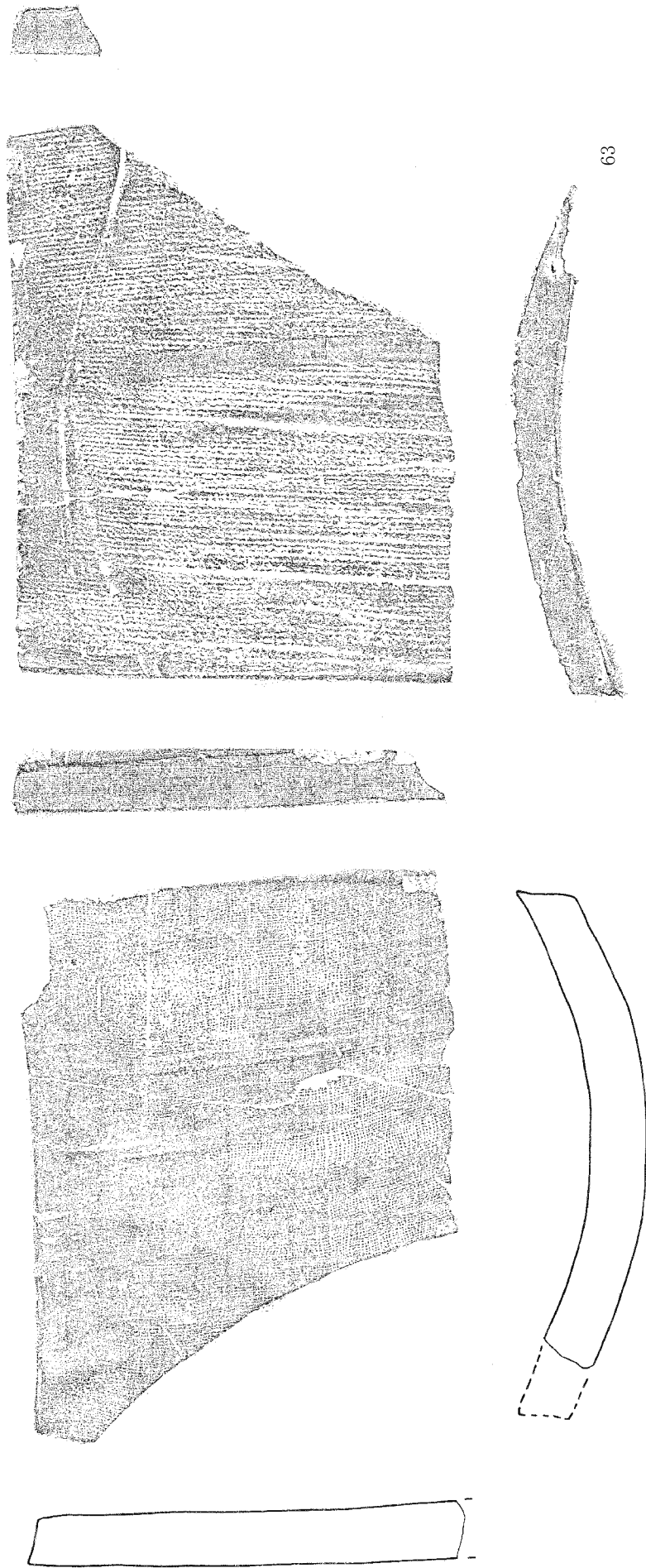


图 148 5 面遺構出土遺物 (3)



63…溝 1

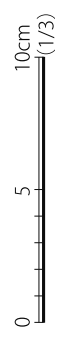


图 149 5 面遺構出土遺物 (4)

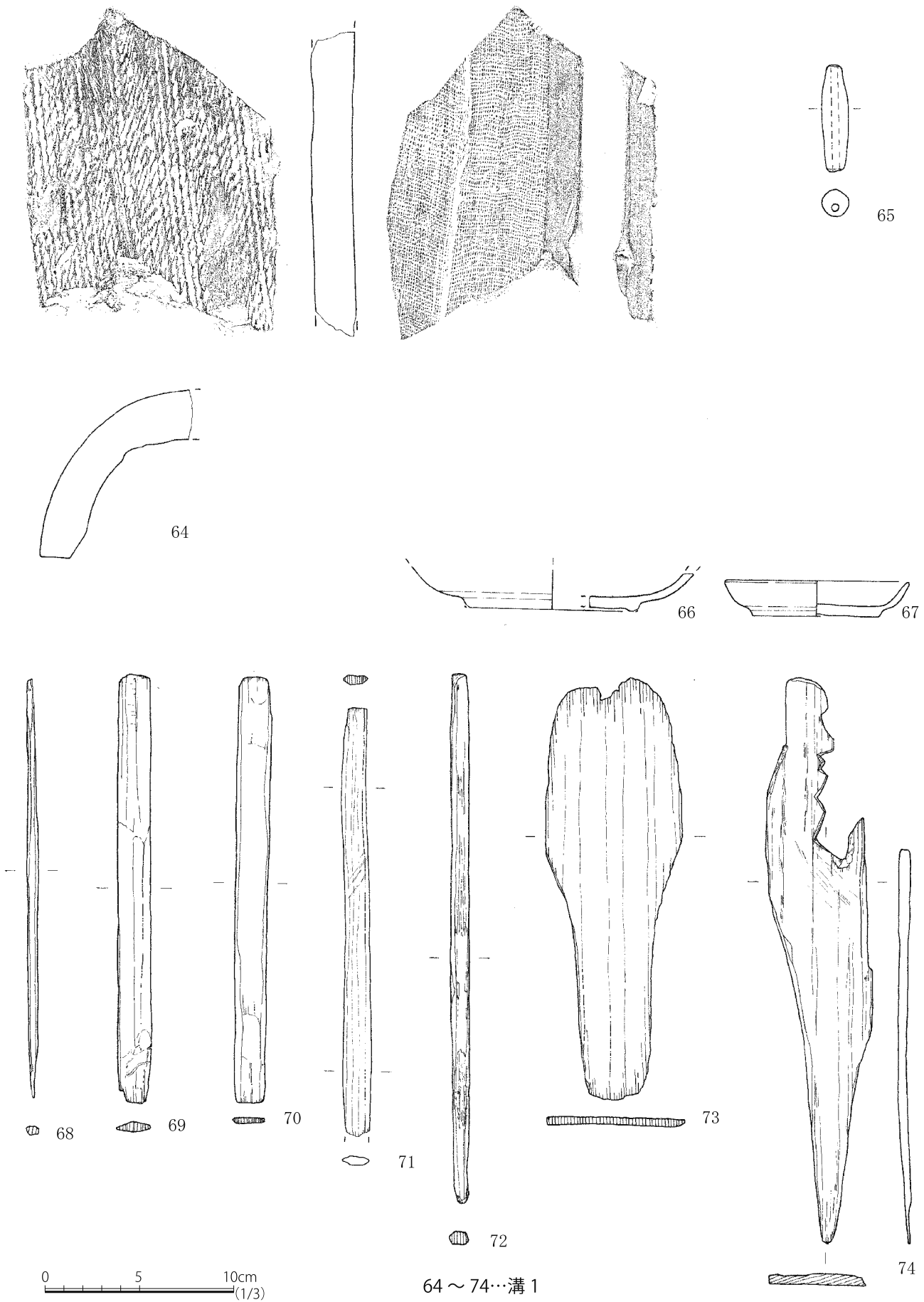
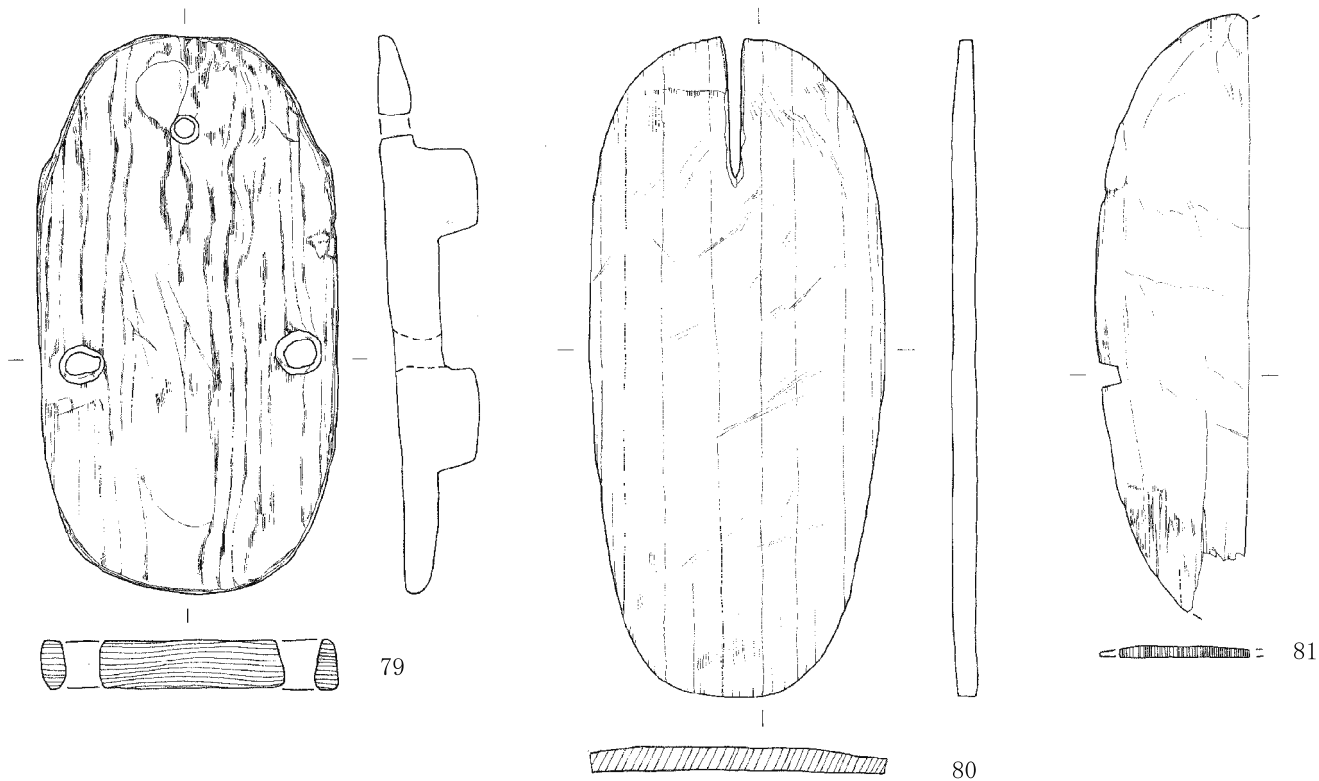
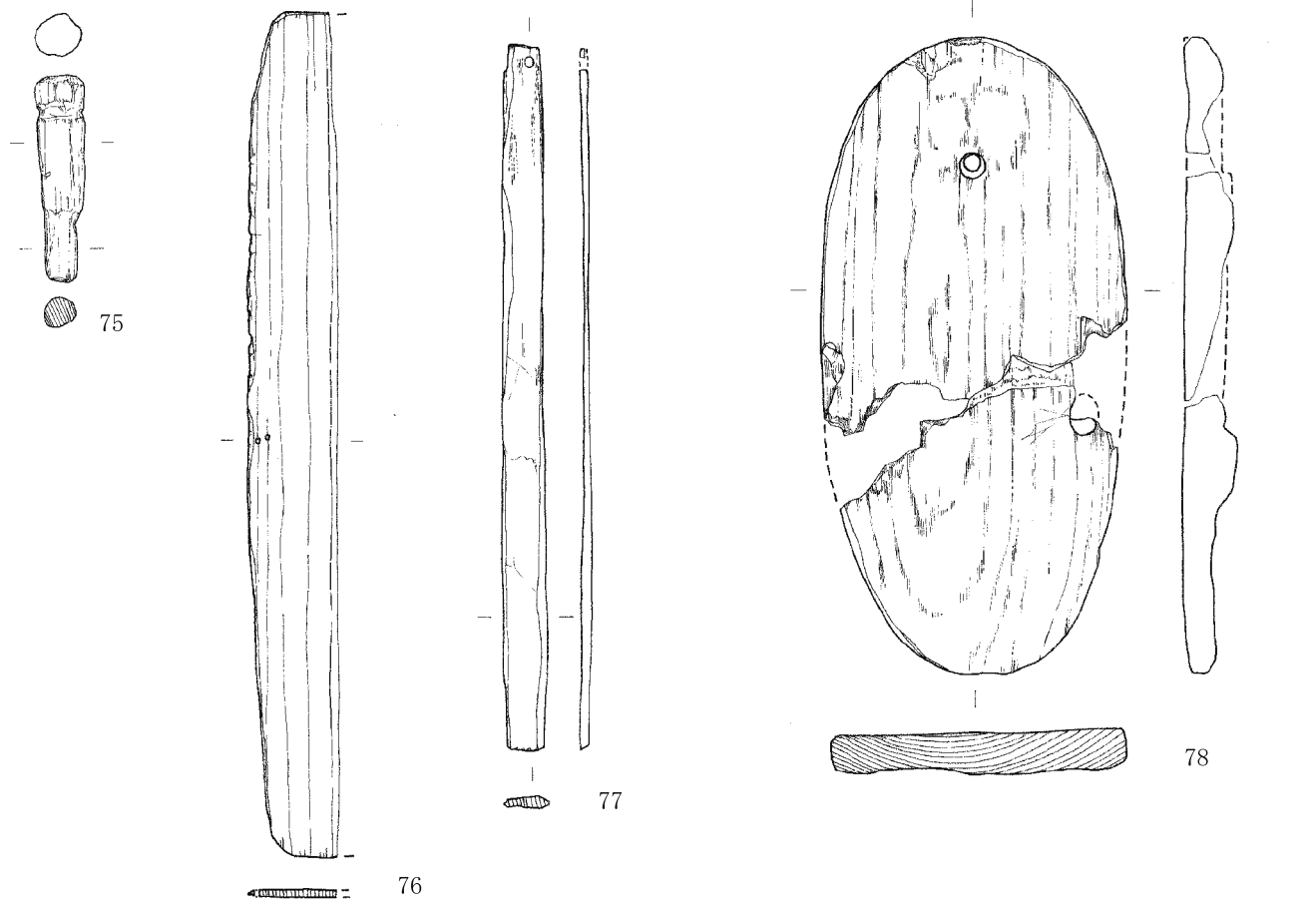


图 150 5 面遺構出土遺物 (5)



75 ~ 81...溝 1

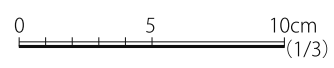


图 151 5 面遺構出土遺物 (6)

5面遺構の出土遺物（図146～152、表12）

5面遺構の出土かわらけは手づくね成形品が主体で、ロクロ成形品がこれを補う。手づくねは大・小ともに薄手で低く開き、口唇部に面取りナデを施す資料が主体となる。やや身深となる図147-42なども口縁部のナデは丁寧であり、比較的古い様相を残している。古手の要素といえば、40の底部内面に見える「ササラ状」ナデ調整も該当しよう。ロクロかわらけにも、底径が小さく内湾気味に立ち上がる器形の資料が認められ、糸切り時の回転速度が緩いなど古手の要素を見出させる。舶載磁器は龍泉窯系I類と同安窯系の青磁碗・皿が混在しており、細片ながら白磁の端反碗なども見られる。常滑4型式や渥美2b期の甕を含むほか、瓦は永福寺I期の所用瓦が占めている。漆器の碗・皿は黒色系漆を塗ったのみで、無施文である。総体として、12世紀末～13世紀初頭の遺物構成と言えよう。

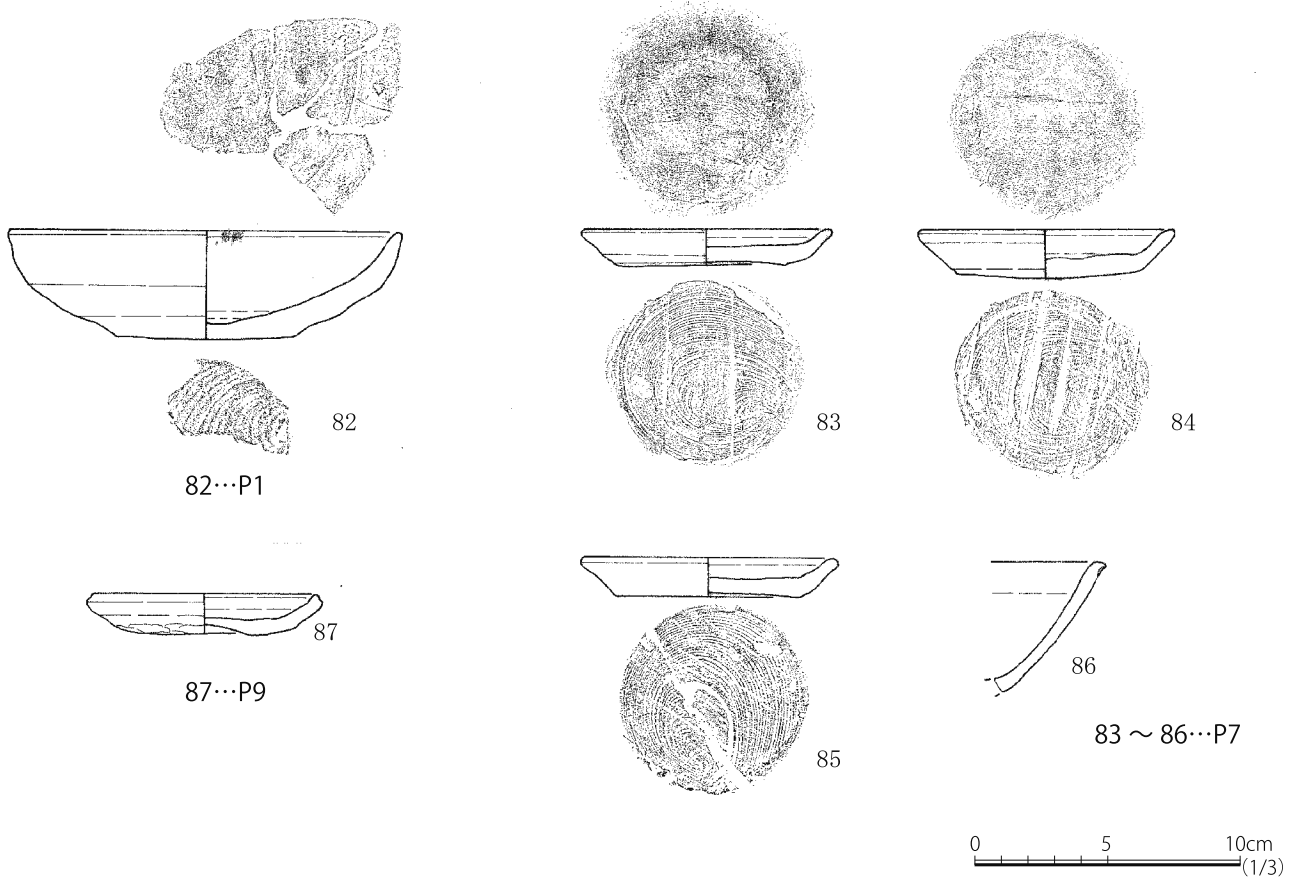


図152 5面遺構出土遺物（7）

表12 5面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ササラ状	板状	スコ状		
図146 5面遺構出土遺物(1)												
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.5)	(6.4)	2.0	1/6	○		○		黄灰	5面溝1 白針
2	土器	ロクロ かわらけ・小	9.8	4.9	1.9	4/5	○		○		橙	5面溝1 白針、砂質
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(4.8)	1.8	1/3	○		○		黄灰	5面溝1
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(4.0)	2.0	1/3	○		○		黄灰	5面溝1 白針、砂質
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	6.7	1.6	1/3	○		○		黄橙	5面溝1 白針
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.3	2.1	4/5					黄灰	4面下～5面トレンチ1 白針
7	土器	ロクロ かわらけ・小	—	4.8	[1.3]	底完存	○		○		黄灰	5面溝1

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	ナヲ状	板状	スコ状		
8	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.7)	(8.0)	3.2	1/3	○		○		黄灰	5面溝1 白針 内外面に煤付着
9	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.3)	9.1	3.5	1/3	○		○		橙	5面溝1 白針、砂質
10	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	8.4	3.9	2/3	○		○		黄灰	5面溝1 白針、砂質
11	土器	ロクロ かわらけ・大	14.3	9.3	3.3	3/4	○		○		黄橙	5面溝1 白針
12	土器	ロクロ かわらけ・大	—	8.8	—	底4/5	○		○		橙	5面溝1 白針
13	土器	ロクロ かわらけ・大	—	8.5	[1.7]	底完存	○		○		黄灰	5面溝1 砂質
14	土器	ロクロ かわらけ・大	—	8.3	[2.0]	底1/2	○		○		黄橙	5面溝1 白針

図147 5面遺構出土遺物(2)

15	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	—	1.4	1/4	○				黄橙	5面溝1
16	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	1.6	完形	○				橙	5面溝1 白針、砂質
17	土器	手づくね かわらけ・小	9.7	—	1.7	3/4	○				黄灰	5面溝1
18	土器	手づくね かわらけ・小	(9.7)	—	1.7	1/4	○		○		黄灰	5面溝1 白針
19	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.7	1/3	○				黄灰	5面溝1 白針
20	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	1.8	完形	○				橙	5面溝1 白針、砂質
21	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	1.8	2/3	○				黄灰	5面溝1 粘土板結合法による成形 白針、やや粉質 内外面に煤付着
22	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	1.8	ほぼ完形	○				黄灰	5面溝1 白針、内外面全体に煤付着
23	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	1.8	1/3	○				黄橙	5面溝1 白針
24	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	2.0	2/3	○				黄灰	5面溝1 白針
25	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	2.1	3/4	○				黄灰	5面溝1 白針
26	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	2.0	完形	○				黄橙	5面溝1 白針 内外面一部に煤付着
27	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.7	1/4	○				黄灰	5面溝1 白針、やや粉質
28	土器	手づくね かわらけ・小	(8.7)	—	(1.9)	1/4	○				黄橙	5面溝01 白針
29	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	2.4	1/3	○				橙	5面溝1
30	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	1.8	3/4	○				黄灰	5面溝1
31	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	1.7	完形	○				黄灰	5面溝1 白針
32	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.9	1/3	○				黄橙	5面溝1
33	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	1.8	ほぼ完形 歪み大	○				黄灰	5面溝1 白針、やや粉質
34	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	1.7	完形	○				橙	5面溝1 白針、砂質
35	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.6	1/5		○			黄灰	5面溝1 粘土板結合法による成形 白針、やや粉質
36	土器	手づくね かわらけ・大	(15.0)	—	3.2	2/3		○		○	黄橙	5面溝1
37	土器	手づくね かわらけ・大	(14.3)	—	3.4	1/2	○				黄橙	5面溝1 やや粉質
38	土器	手づくね かわらけ・大	14.9	—	3.0	2/3	○				黄橙	5面溝1 白針
39	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	—	3.8	1/2	○				黄灰	5面溝1 白針
40	土器	手づくね かわらけ・大	(14.4)	—	2.6	1/3 歪み大		○			黄灰	5面溝1 白針
41	土器	手づくね かわらけ・大	14.9	—	3.1	完形	○		○		黄橙	5面溝1 白針 内外面全体に黒く変色
42	土器	手づくね かわらけ・大	(15.0)	—	4.0	1/8	○				黄灰	5面溝1 白針 焼成後穿孔 復元口径不確か
43	土器	手づくね かわらけ加工品	縦 [9.7]	横 11.1	厚さ 0.8	不明					黄灰	5面溝1 外底面に非貫通孔 内面に炭化物付着

図148 5面遺構出土遺物(3)

44	磁器	同安窯系青磁 柳搔文碗	—	—	[2.2]	口小片					薄緑褐 透明	5面溝1 大宰府 I類
----	----	----------------	---	---	-------	-----	--	--	--	--	-----------	----------------



遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ*	ナテ状	板状	スコ状		
45	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	—	—	[3.8]	体小片					薄緑褐 透明	5面溝1 大宰府 I 類
46	磁器	同安窯系青磁 碗	(15.0)	—	[4.6]	口1/6~ 体片					緑褐 透明	5面溝1 大宰府 I 類
47	磁器	龍泉窯系青磁 櫛搔劃花文碗	—	—	[5.7]	体小片					緑灰 透明	5面溝1 大宰府 I-2類
48	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	—	—	[3.5]	体小片					緑褐 透明	5面溝1 大宰府 I 類
49	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	—	(4.4)	[2.6]	底3/4					薄緑灰 透明	5面溝1 大宰府 I 類
50	磁器	同安窯系青磁 皿	(9.5)	—	[1.8]	口1/6					緑灰 透明	5面溝1 大宰府 I 類
51	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.3]	口小片					薄緑 透明	5面溝1 大宰府 I-2類
52	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.6]	体小片					灰青 透明	5面溝1 大宰府 I-2類
53	磁器	龍泉窯系青磁 櫛搔劃花文碗	—	—	[2.6]	体小片					薄ナテ 透明	5面溝1 大宰府 I-3a類カ
54	磁器	白磁 碗	—	—	[1.0]	口小片					黄白 透明	5面溝1
55	磁器	白磁 端反碗	—	—	[2.0]	口小片					灰白 透明	5面溝1 大宰府 V 類カ
56	陶器	尾張型 小皿	最大値 8.1	3.9	2.3	2/3					明灰	5面溝1 口縁部弱い押捺で耳皿状に
57	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					暗灰	5面溝01 長石
58	陶器	常滑 甕	—	—	[3.4]	口小片					緑褐	5面溝1 長石
59	陶器	常滑 片口鉢 I 類	—	—	[5.3]	口小片					灰色	5面溝1 長石
60	陶器	渥美 甕	—	—	[6.6]	口小片					黒灰	5面溝1 白色粒
61	土器	吉備系 碗	—	(5.5)	[1.5]	底1/2					乳白	5面溝1
62	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.2	狭端面 片側片					灰色	5面溝1 永福寺女瓦A類 白色粒
図149 5面遺構出土遺物(4)												
63	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.7	一部欠損					黒灰	5面溝1 永福寺女瓦A類 白色粒
図150 5面遺構出土遺物(5)												
64	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.1~2.6	片側辺					白灰	5面溝1 永福寺男瓦A類 白色粒
65	土製品	管状土錘	長さ 5.6	最大径 1.5	孔径 0.4	一部欠損					褐白	5面溝1
66	木製品	漆器 碗	—	(8.8)	[2.1]	底小1/2					—	5面溝1
67	木製品	漆器 皿	(9.8)	(6.7)	1.9	1/2					—	5面溝1
68	木製品	箸	長さ 22.2	幅 0.6	厚さ 0.5	完形					—	5面溝1
69	木製品	用途不明	長さ 22.7	幅 1.8	厚さ 0.5	完形					—	5面溝1
70	木製品	用途不明	長さ 22.6	幅 1.7	厚さ 0.3	完形					—	5面溝1
71	木製品	棒状製品	長さ [22.6]	幅 1.5	厚さ 0.5	先端欠損					—	5面溝1
72	木製品	菜箸	長さ 28.2	幅 1.0	厚さ 0.6	完形					—	5面溝1
73	木製品	杓状	長さ 22.1	幅 7.2	厚さ 0.4	ほぼ完形					—	5面溝1
74	木製品	用途不明	長さ 30.1	幅 5.2	厚さ 0.6	完形					—	5面溝1 加工途中カ
図151 5面遺構出土遺物(6)												
75	木製品	栓	長さ 7.8	長径 1.7	短径 1.3	完形					—	5面溝1
76	木製品	折敷	長さ 32.0	幅 [3.3]	厚さ 0.3						—	5面溝1
77	木製品	扇骨	長さ 26.8	幅 1.7	厚さ 0.4						—	5面溝1
78	木製品	下駄	長さ 24.2	幅 11.6	厚さ 1.5	ほぼ完形					—	5面溝1
79	木製品	下駄	長さ 21.0	幅 11.4	厚さ 3.5	完形					—	5面溝1
80	木製品	草履芯	長さ 24.9	幅 11.2	厚さ 0.9	完形					—	5面溝1

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テラ	テラ状	板状	スコ状		
81	木製品	草履芯	長さ [22.5]	幅 [5.6]	厚さ 0.4	片側欠損					—	5面溝1
図152 5面遺構出土遺物(7)												
82	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.7)	(6.6)	4.1	1/3	○				黄橙	5面P1 内面一部に煤付着
83	土器	ロクロ かわらけ・小	9.2	7.0	1.4	完形	○		○		黄橙	5面P7 白針
84	土器	ロクロ かわらけ・小	9.5	6.8	1.9	ほぼ完形	○		○		黄橙	5面P7 白針
85	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.1	1.5	完形	○		○		黄橙	5面P7 白針
86	磁器	白磁 端反碗	—	—	[5.0]	口小～ 体片					乳白	5面P7 大宰府V類カ
87	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	—	1.5	1/4	○				黄橙	5面P9 白針

### 出土遺物カウント表（表 13）について

表 13 には、出土遺物の点数を掲げた。遺物の器種分類は大まかなものであり、青磁などは龍泉窯系か同安窯系なのかの類別も行っていない。今日的に要求されている分類の基準・精度を満たしていないだろうが、ご容赦いただきたい。また、地点 I については、カウント台帳の原本からは個別遺構の遺物点数を示し得ず、地点 II とは異なる提示方法となってしまった。不備をお詫びしたい。

なお、本文中の出土遺物に関する記述は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。

- ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗基秀明 2005「中世鎌倉の土器・陶磁器」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』
- ◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡 X V—陶磁器分類編一』太宰府市教育委員会 2000
- ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- ◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史』別編窯業 3 中世・近世常滑系 愛知県 2012
- ◆瓦質土器：河野眞知郎 1993「中世鎌倉火鉢考—東国との関連において—」

『考古論叢神奈河』第 2 集 神奈川県考古学会







地点Ⅱ I面遺構	銅 銭	鉄製品		石製品・石				ガラス	骨
		釘	蓋 その他	砥石	石臼	滑石	軽石		
建IP1-イ									
建IP1-ロ									
建IP1-ハ							1		
建IP1-ニ		1							
建IP1-ホ		1							
建IP2-イ		1							
建IP3-イ									
建IP3-ロ				1					
建IP3-ハ									
建IP3-ニ									
建IP3-ヘ									
P01									
P03		1							
P05		2							
P06									
P08									
P09									
P010									
P011	2	2							
P012									
P013									
土坑01									
土坑02									
土坑04									
土坑05									
土坑06									
土坑07									
土坑08									
土坑09									
土坑10									
土坑11		2							
土坑12			1						
土坑13									
道路遺構上									
土塁状遺構							1		
土塁状遺構	1	2					2		
土塁状遺構									
土塁状遺構						1			
土塁状遺構						2			
溝01									1
溝02									
合計	3	19	1	1	4	1	6	1	2

←地点Ⅱ⑥

地点Ⅱ 2面遺構	かわらけ			白 かわ ら け	白 磁	青 白 磁	青 磁	船載 施釉陶器		渥美 甕	尾張・常滑		南 山 部 茶 系 甕	北 山 部 茶 系 甕		
	手づくね							盤	壺類		甕	I類			II類	
	大	中	小													
P01	1		1							1						
P02	11		1							3						
P03	1															
P04	2															
P05	7		4													
P06	2		1													
P07	3		2													
P08	3		4							1						
P09	1		1													
P010	8		2	1						1						
P011	6		4	1												
P015	12		3	3			1			3			1			
P016	10		1	1		1										
P017	1		1	1												
P018	1		1	2		1							2			
P019	8									1			2			
P021	7		1													
P022	4		6	2												
土坑01	6		1									1				
土坑02																
土坑02	43		16	7	1	1	2				7	1				
土坑03	7		1	5	8	1	1				2					
土坑04	24		2								3		1			
土坑05																
土坑05	60		12	1	1	1					6	2				
土坑06	94		23	15	2	2	6	1			20	1				
土坑06	67		23	1			2				6		1			
土坑08	15		2								5	3				
道路遺構	32		6	2			1			4	12	3	1			
道路遺構 土	55		3			1	2				25		2	1		
溝01	14		2	5	2	1				2	8					
合計	505	1	121	54	9	2	3	4	18	1	16	112	10	5	6	1

↑地点Ⅱ⑦

地点Ⅱ 2面遺構	瓦器	瓦質 鉢	瓦			銅製品		鉄製品・鉄滓			石製品・石							
			平瓦	丸瓦	鬼瓦	不明	銭	不明	刀子	釘	鉄滓	硯	礎石	基石	滑石			
P01				3														
P02		1																
P03		1																
P04											1							
P05			1	2							2							
P06											1							
P07			2															
P08				1							1							
P09				1														
P010			2	3							1							
P011																		
P015			1	1							1							1
P016											1							
P017																		
P018		1	1															
P019											1							
P021			1	1														
P022											1							
土坑01																		
土坑02																		
土坑02				1														1
土坑03			1															
土坑04			2															
土坑05																		
土坑05			4	4														1
土坑06																		
土坑06	1																	
土坑08																		
土坑08																		
道路遺構			19	4														
道路遺構			6															
遺構01			1	1	1													1
合計	1	3	41	22	1	3	6	1	1	1	38	2	3	3	1	1	2	

←地点Ⅱ⑤





地点Ⅱ 4面遺構	かわらけ			白磁	青磁	透美 甕	尾張・常滑 I類		北部 山茶系 傾	瓦器	土器・土製品		瓦			銅錢	鉄釘	滑石	土師 台付器 甕	骨	
	ロクロ		手づくね				甕	片口鉢			土鍾	土壺	平瓦	丸瓦	不明						
	大	小	大																		小
P01	1		1													1					
P01A						2	6														
P02								1								1					
P03	13	3	4	1											1						
P04			4	1																	
P05	2	2	3																		
P06			2																		
P07			1																		
P08			1																		
P013				2																	
P015			2	1																	
P017	2		1																		
P019			1																		
P021			2			1															
P022			1																		
P024			3																		
P025	1		1			1	1	1													
P026		1																			
P028			5	2																	
P029			2			1															
P031	1	1	18	3			1														
P032			2	2				2													
P033			1	2																	
P035	1	1	3	1																	
P036			1	1																	
P041			1																		
P042			2	1																	
P044			2																		
P045			1	1																	
P046	2		3	3																	
P047	1		1																		
P048		1	1	1																	
P050			2																		
P052	1		1																		
P053			3					1													
P054			2	2																	
P055			2																		
P059																					
P060			2	1																	
P061																					
P064			1																		
P065			1			1															
P066			2	2																	

←地点Ⅱ㊤

地点Ⅱ 4面遺構	かわらけ			白磁	青磁	透美 甕	尾張・常滑		北部 山茶系 例	瓦器	土器・土製品		瓦			銅錢	鉄釘	滑石	土師器 付纏	骨	
	大	小					土甕	土壺			平瓦	丸瓦	不明	甕	片口鉢 I類						
		ロクロ	大																		小
P067		1					1						1								
P068		2	3																		
P070		2	2																		
P071		4	2																		
P072					1																
P074		1	2																		
P075						1															
P077			2			1															
P078	1	1		1																	
P079								1													
P080																					
P081			1																		
P081				1																	
P082		2	2																		
P083			1																		
P084		2	1	1			1									1					
P086						1															
P093						1															
P096			1																		
P099	1	3	2																		
P0100		6	1			1															
P0102			1																		
P0104			1																		
P0105			3																		
P0110																					
P0111				1																	
P0122																					
土坑03	2	3	35	8			5	2													
土坑04	2	1	9	3			6		1					1							
土坑012			5	1																	
土坑016	1	2	7	8			2	1	3							1					
道路遺構	4	2	32	8	1		19	21	4				1	3		1		2	1		
溝状遺構02			6	2																	
溝状遺構03			2	1												1					
溝状遺構04			4	2																	
合計	11	13	128	50	4	1	28	37	10	1	0	1	1	3	4	3	1	4	1	2	1

↑地点Ⅱ⑩

地点Ⅱ⑨→

地点Ⅱ 5面遺構	かわらけ		
	大	小	手づくね
建物1-ハ-1			
建物1-ハ-2			
建物1-ロ-3			
P05			1
溝01	2	1	6
溝02			2
合計	2	2	7
			5

地点Ⅱ⑬→

地点Ⅱ 5面遺構	尾張・常滑 甕	片口鉢 I類	加工 木材	種子
建物1-ハ-2			4	
建物1-ロ-3			1	1
P05				
溝01	1	1	8	
溝02			2	
合計	1	1	17	1

## 第五章 調査成果のまとめ

ここまで、検出された遺構および出土遺物についてが概略を述べてきた。遺物実測が終わってのち、調査担当者の離職などもあり、暫く時間を置いてからの整理作業再開となった。筆者自身が現地調査に従事していないため図面・写真など記録類の掲載に留まり、それ以上の踏み込んだ所見を示せなかった点、レイアウト上の余白の多さと併せてお詫びしたい。

以下、本章では各遺構面の年代観と遺構変遷の特徴を整理し、併せて周辺での発掘成果との関連にも目を向けながら、本調査成果のまとめを述べたい。

### 第1節 各遺構面の年代観と変遷

1面を検出するまでに、大きく2段階の遺物が出土した。新しいところでは14世紀中葉以降の資料が主体となり、一部15世紀代に下る要素も見て取れる。古い段階は13世紀後葉～14世紀前葉の遺物構成を示している。

1面では、地点Ⅱの東半部で現行の荏柄天神社参道と同一方向で延びる南北道路と、これに付随する側溝や柱穴列を検出し、地点Ⅰではピット・土坑が多数検出されたものの、遺構分布の基本軸が不明瞭なこともあり、建物復元には至らなかった。遺構からの出土遺物はロクロかわらけを主体に龍泉窯系の青磁碗Ⅱ・Ⅲ類や白磁碗・皿Ⅸ類、常滑5～6b型式の甕など、中世鎌倉で消費の最盛期を迎える段階の遺物構成を見て取れる。古瀬戸中-I期頃の仏供を模したと思しき在地土器(図34-327)等を含むことから、1面の存続年代としては13世紀後葉～14世紀前葉の幅で考えておきたい。

1面下から2面までの掘り下げ時の出土遺物は、概ね13世紀中葉頃の様相を示しているが、2面との相対から13世紀後葉まで含まれるものと理解したい。

2面でも1面と概ね同位置に南北道路と両側溝を確認し、地点Ⅰでは建物復元に至らなかったもののピット多数と、真北に近い軸線を取る溝1条を検出した。後者は、部分的とはいえ鎌倉時代初期となる5面時の遺構軸線が2面段階まで継承された可能性を窺わせる事例と言える。2面遺構からの出土遺物はロクロかわらけを主体に、少量の手づくねかわらけを含んでいる。常滑の甕には少量ながら6型式の資料も含まれるので、13世紀中葉を中心に、後半まで下る要素も見出せた。

2面下から3面検出に至る掘り下げ時の出土遺物は、ロクロかわらけが主体となるも手づくねの存在感は確実に増しており、総じて13世紀第2四半期頃の遺物構成と見なすことができる。

3面においても1・2面と同じ位置に南北道路と両側溝が展開し、調査区の西半部では真北軸を取る掘立柱建物3棟を確認できた。この段階には、建物軸線として5面以来の真北軸が採用されていたことを明らかにできた。3面遺構の出土かわらけは、手づくねの出土量がロクロ成形品と拮抗、ないし凌駕するようになる。5型式の常滑甕や龍泉窯系青磁碗Ⅰ類など、総体として13世紀第2四半期～中葉頃の遺物構成と見なすことができる。

3面下から4面までの掘り下げ時には、手づくねかわらけの出土量がロクロかわらけを大きく上回る(表13参照)。図示できた遺物でも両者の数量は拮抗しており、3面段階に比べ、手づくねの存在感は確実に増していると言える。これに常滑5型式の甕や龍泉窯系青磁碗・皿Ⅰ類などが伴い、全体として13世紀前葉の遺物構成を示している。

4面段階では地点Ⅱ東半部での南北道路は認められず、調査区の全域で多くのピットが重複して検出された。このうち、地点Ⅰでは掘立柱建物3棟が、地点Ⅰでは柱穴列3列を復元できた。柱穴間の距離が一定しない箇所もあり多少の疑問は残るが、基本的に真北を意識した建物軸線が採用されていた様子が窺える。柱間距離は掘立柱建物が210cm、柱穴列では200cmが基調となっていたと思われるが、前記のように一定しない部分も散見される。

4面遺構の出土かわらけは手づくね成形品が主体を占めている。青磁の碗・皿は龍泉窯系Ⅰ類に加え同安窯系の資料が見られ、繰り返しになるが、図示し得た遺物の中に龍泉窯系青磁碗Ⅱ類（蓮弁文碗）がない点には留意したい。この他、常滑4～5型式の甕や永福寺Ⅰ期の所用瓦が含まれ、総体として13世紀初頭～前葉の遺物構成を示している。

4面下から5面への掘り下げ時に出土した遺物のうち、かわらけは手づくね成形品が大部分を占めるようになる。その他の遺物は非常に僅少であり、龍泉窯系Ⅰ類と同安窯系の青磁碗が若干量認められる。概ね、12世紀末～13世紀初頭の遺物構成と見なすことができる。

5面は中世基盤層となる黒褐色土層の上面で、地点Ⅰ・Ⅱとも未発掘部分を多く残した中、ほぼ真北の軸線を取る2条の溝と、地点Ⅱのほぼ全域を占める格好で総柱式の掘立柱建物が検出された。後者は東西2間×南北3間までを確認でき、西辺には縁となろう、半間分の柱穴が付随していた。身舎部分の柱間距離は240cm規格と見られ、4面以降の200～210cmスパンに比べ大幅に長い。溝と同じく真北を意識した建物軸が取られている。建物範囲内にある溝2とは新旧関係があるものと見なせるが、西辺に沿って延びる溝1については、同時存在していた可能性も考えられる。

5面遺構からの出土遺物は非常に僅少であり、かわらけの数量は手づくねがロクロを上回っている。手づくねは薄手で低平な器形を呈し、ロクロでは底径が小さく内湾気味に立ち上がる資料が含まれる。後者は古代末における土師質土器の器形的特徴を留めたものと言え、これ以後、京都系手づくね土器の影響を受けて低平化していくと考えられている。溝1からは永福寺Ⅰ期の所用瓦が3点出土しており、同寺の創建開始期までは埋没していなかったことを物語っている。他の陶磁器類の様相も併せ見れば、12世紀末～13世紀初頭の遺物構成と見なせよう。この時期、柱間240cmで縁の取り付く掘立柱建物が存在した事実は特筆すべきで、鎌倉でもごく早い段階の屋敷地が当地一帯に展開していた可能性を示している。調査範囲の制約から建物全体の規模を知り得ない以上、この主が属していた階層などを特定することは難しいが、今後、周辺で発掘調査を進めるに当たり留意すべき事例となろう。

## 第2節 周辺調査成果との関連

次に、近隣の調査成果を参照しつつ、遺構の方向軸を中心に検討を試みたい。

図153には、溝や道路・土塁といった土地区画に関わる遺構の検出地点のうち、代表的な事例を抽出して掲げた。図中の地点番号は、図1および表1と対応しているので、併せて参照されたい。

地点7と26では、二階堂大路の側溝と見られる東西溝が確認されている。地点7では北側溝の北岸が、地点26では南側溝が検出されている可能性があり、この間に挟まれた現行の市道下に中世二階堂大路も延びていたことが考えられる。ともに、鎌倉時代の初期段階まで遡及し得る。

地点6では、東側調査区のトレンチⅡにおいて、表土直下から荏柄天神社参道に並行する土塁状遺構が検出され、西側調査区となるトレンチⅠの中世基盤層上（標高11.1m）では、ほぼ真北方向へと延びる溝が検出されている。層位的には前者が確実に新しくなり、本地点の3面段階で荏柄社参道に並行

する道路が出現し、その後、1面段階まで継続する状況と合致する。地点6では「土墨状遺構」と報告され、中世の荏柄社参道や築地塀などとなる可能性にも言及されている。図153における展開状況から見て、本地点の道路と連続する遺構と見て大過なく、その機能・用途については、改めて検討していく必要があるだろう。荏柄社参道に近似した方向軸は、地点25検出の複数の溝にも見ることができる。現時点では正式報告が未刊行であるため、他の軸線を取る溝や柱列との前後関係については明らかでないが、当地域では、時間経過や空間構成の違いに伴う複数の軸線が採用されていた様子が窺い知れよう。引用した報告書、参考文献については、表1および第1章末尾を参照されたい。

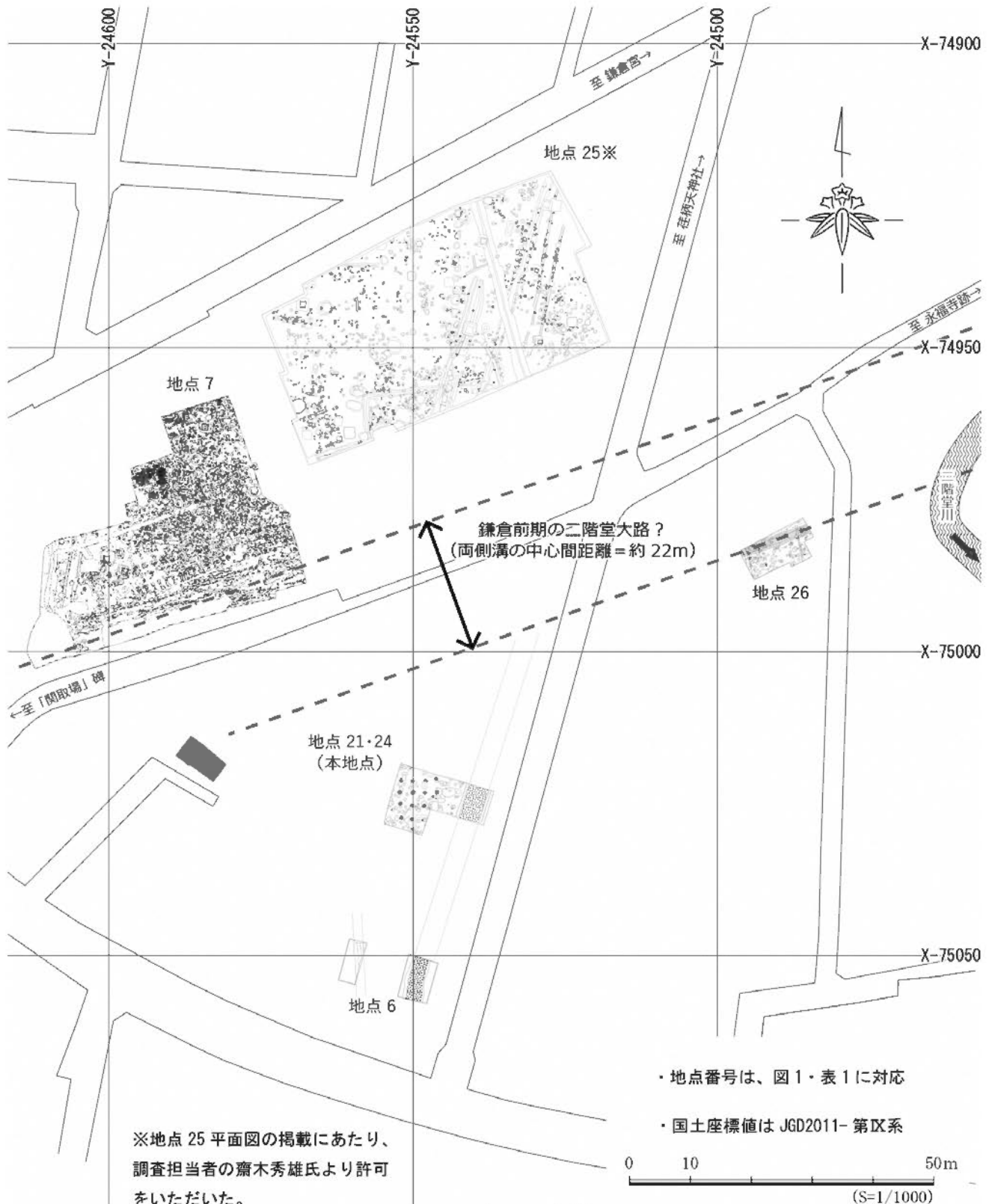


図153 周辺調査地の遺構展開図



1. 地点 I 1面全景 (南から)



2. 地点 I 1面土坑 8 (東から)



4. 地点 I 1面土坑 41 出土遺物 (四葉碗)



3. 地点 I 1面土坑 41 (北から)



5. 地点 I 1面土坑 42 (北から)

図版 2



1. 地点 I 1面土坑 42 遺物出土状況 (北から)



5. 地点 I 1面ピット 34 (西から)



2. 同上 土製円盤アップ



6. 地点 I 1面ピット 9 遺物出土状況 (東から)



3. 地点 I 1面 遺物出土状況 (西から)



7. 地点 I 1面 遺物出土状況 (西から)



4. 同上 ローアングル (西から)



8. 地点 I 1面泥岩ブロック集中範囲 (南から)



1. 地点 I 2面全景 (南から)



2. 地点 I 2面溝 1 (南から)



3. 地点 I 2面土坑 35 (北から)



4. 地点 I 2面ピット 23 (東から)





1. 地点 I 3面全景 (東から)



2. 地点 I 3面掘立柱建物 1 (北から)



4. 地点 I 3面 礎石・遺物出土状況 (北から)



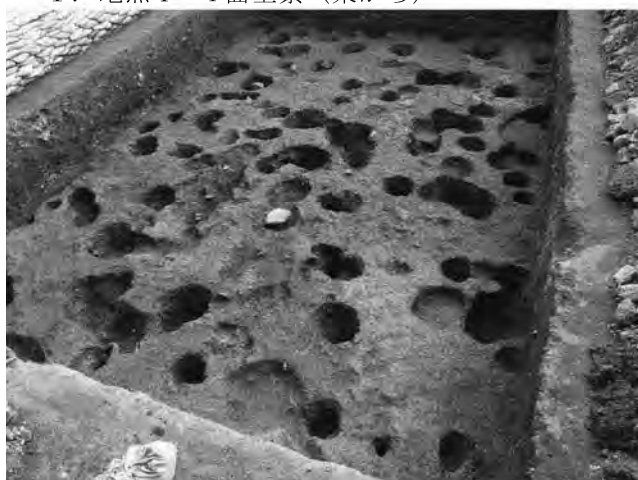
3. 地点 I 3面掘立柱建物 1 Pニ-2 (東から)



5. 地点 I 3面 遺物出土状況 (東から)



1. 地点 I 4面全景 (東から)



2. 地点 I 4面柱穴群 (南から)



4. 地点 I 4面掘立柱建物 1 P12 (東から)



3. 地点 I 4面土坑 2 (東から)



5. 地点 I 4面掘立柱建物 1 P10 (西から)



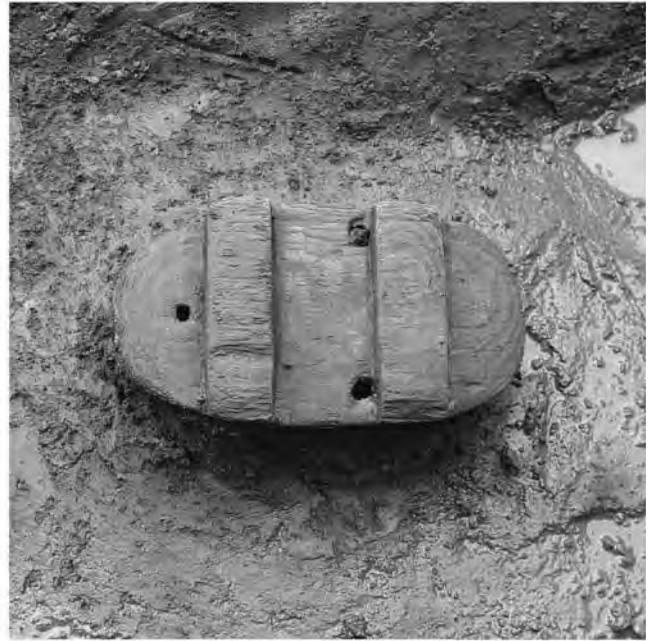
1. 地点I 調査区壁土層断面 (南から)



2. 地点I 5面全景 (南から)



3. 地点I 5面溝1断面 (南から)



4. 地点I 5面溝1 下駄出土状況 (東から)



5. 地点I 5面溝1 (北から)



1. 地点Ⅱ 表土掘削作業（北東から）



2. 地点Ⅱ 1面道路状遺構（北から）



3. 地点Ⅱ 1面道路状遺構・溝 02（北から）



4. 地点Ⅱ 1面全景（西から・手前の水溜まりが地点Ⅰ）



1. 地点Ⅱ 1面全景（東から）



2. 地点Ⅱ 1面道路状遺構・柱穴列（北から）



3. 地点Ⅱ 1面柱穴列1・溝01（北から）



4. 地点Ⅱ 1面柱穴列2・溝02（北から）



5. 地点Ⅱ 1面土坑011 かわらけ出土状況（東から）



1. 地点Ⅱ 1面道路状遺構下①（北から）



2. 地点Ⅱ 1面柱穴列1・3（北から）



3. 地点Ⅱ 1面 清掃作業（北から）

図版 10



1. 地点Ⅱ 2面土坑02 (南から)



2. 同上 遺物出土状況 (南から)



3. 地点Ⅱ 2面土坑06 (南から)



4. 地点Ⅱ 2面土坑08 合わせ口かわらけ (北から)



5. 地点Ⅱ 1面道路状遺構下② (北から)



6. 地点Ⅱ 2面作業風景 (北から)



1. 地点Ⅱ 2面道路状遺構（北から）



2. 地点Ⅱ 2面溝02 遺物出土状況（かわらけ）



3. 地点Ⅱ 3面木組み遺構断面（西から）



4. 地点Ⅱ 2面下～3面 道路状遺構断面（北から）



5. 地点Ⅱ 2面道路状遺構下～3面溝01断面（北から）





1. 地点Ⅱ 3面全景（東から）



2. 地点Ⅱ 3面道路状遺構（北から）



4. 地点Ⅱ 3面西半部（北から）



3. 地点Ⅱ 3面下整地土（南から）



1. 地点Ⅱ 3面道路状遺構下（北から）



2. 地点Ⅱ 4面全景（西から）

図版 14



1. 地点Ⅱ 4面溝状遺構03 (東から)



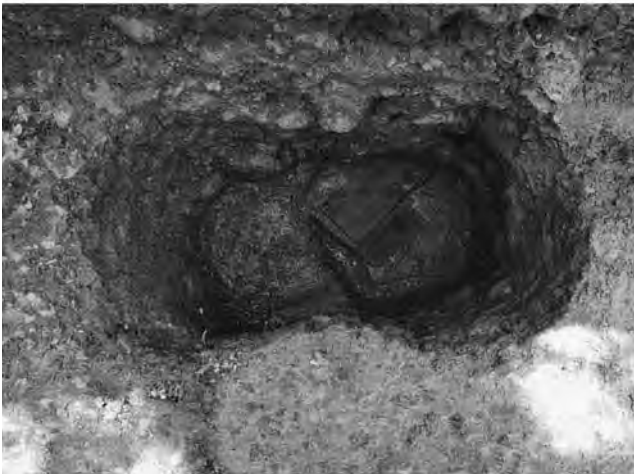
2. 地点Ⅱ 4面土坑01断面 (南から)



3. 地点Ⅱ 4面土坑03断面 (西から)



4. 地点Ⅱ 4面土坑04断面 (西から)



5. 地点Ⅱ 4面ピット040 (北から)



6. 地点Ⅱ 4面ピット093 (北から)



1. 地点Ⅱ 5面全景（西から）



2. 地点Ⅱ 5面溝2（北から）



3. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1（西から）



4. 同上（東から）



1. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴イ-1 (北から)



4. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1-ロ-3 (北から)



2. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴ロ-2断面 (北から)



5. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴ロ-4 (北から)



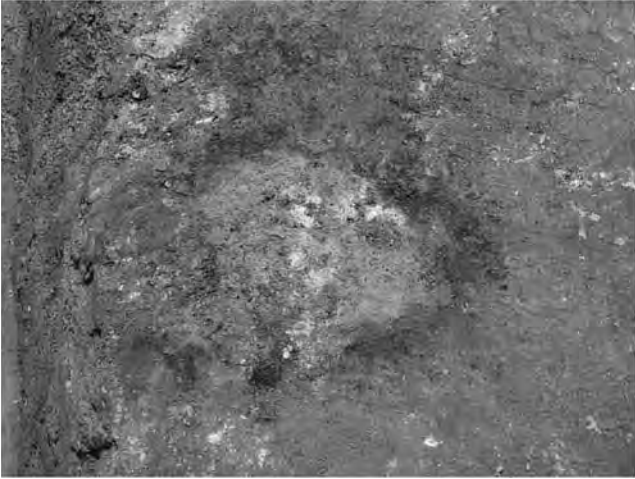
3. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴ロ-2 (北から)



6. 地点Ⅱ 5面上 板材出土状況 (北から)



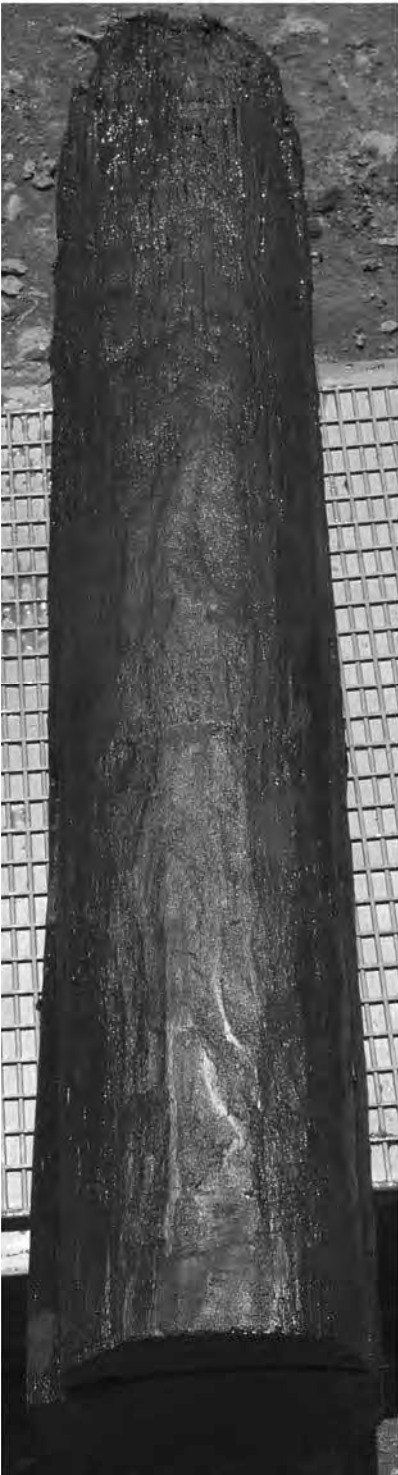
7. 地点Ⅱ 調査区北壁断面 (南から)



1. 地点Ⅱ 5面上 焼土検出状況（北から）



2. 地点Ⅱ 5面 掘立柱建物1 柱穴口・ハ列（北から）



◀ 4. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴イ-1 柱材



下底部

◀ 3. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴ロ-2 柱材



下底部





7-99



7-100



7-102



7-103



7-105



7-106



7-107



7-111



7-118



7-119



7-122



7-124



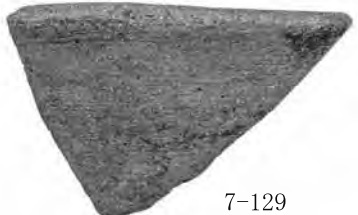
7-126



7-127



7-128



7-129



7-130





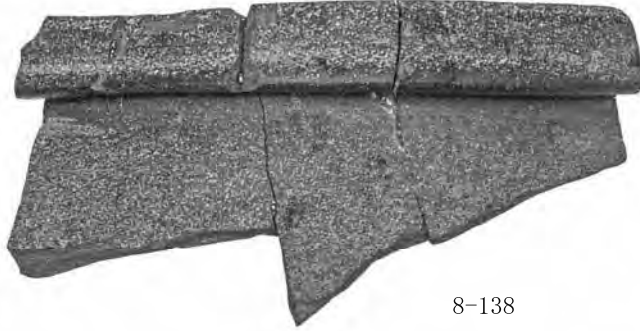
8-134



8-135



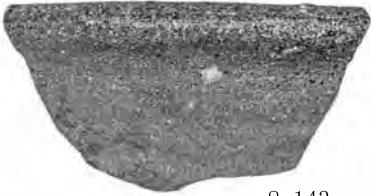
8-140



8-138



8-142



8-143



8-147



8-148



8-149



8-150



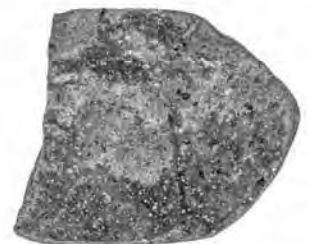
8-151



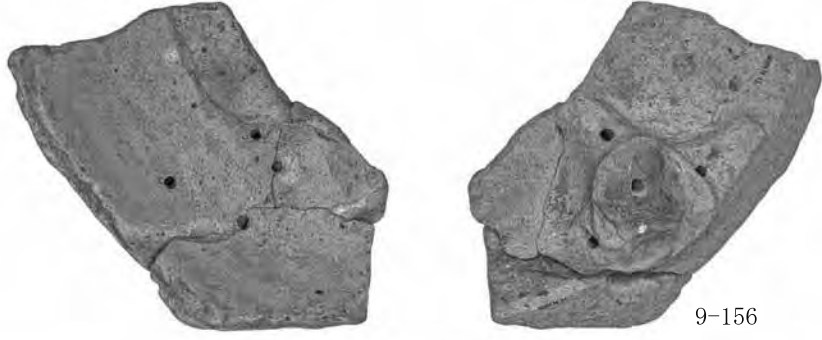
8-152



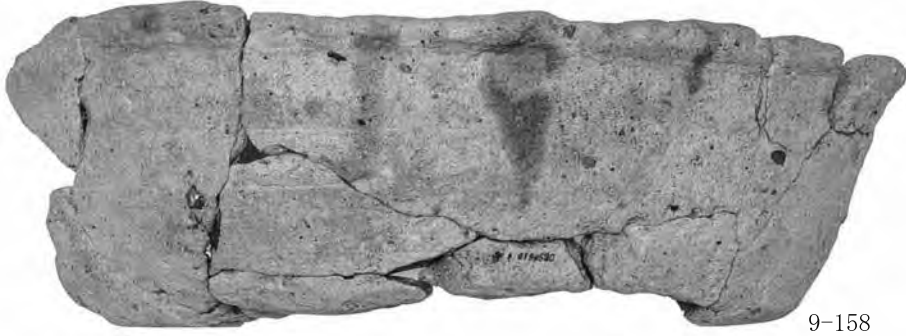
8-153



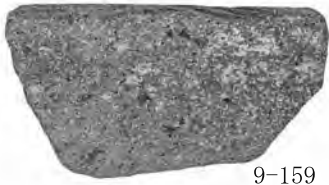
8-155



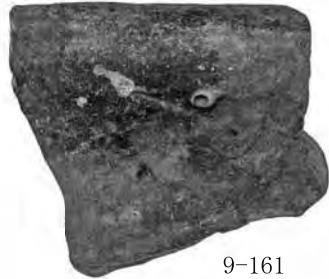
9-156



9-158



9-159



9-161



9-164



9-165



10-170



11-173



12-175



12-176



12-177



12-178



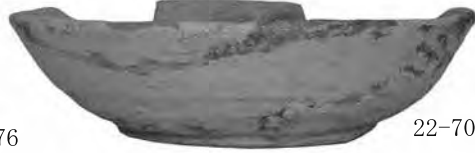
21-47



23-87



23-76



22-70



23-88



23-78



23-80



23-89



24-93



25-103



25-114



25-134



25-95



25-104



25-135



25-100



26-142



27-149



27-153



27-159



27-162



27-170



27-171



27-172



28-179



28-183



28-184



28-198



29-203



29-204



29-205



29-206



29-210



29-212



29-218



29-222



29-224



29-225



29-226



29-228



29-229



29-230



29-232



30-238



30-239



31-242



31-243



31-244



31-245



31-251



31-256



31-264



31-267



32-285



32-286



32-292



33-298



33-299



33-309



33-300



33-310



33-312



33-314



33-321



33-322



34-323



34-325



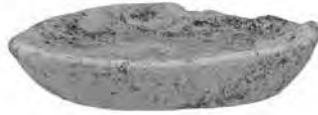
34-326



34-328



34-341



34-343



34-345



34-327



34-348



35-356



35-357



35-368



35-371



35-373



35-377



35-381



35-383



35-384





36-4



36-5



36-12



36-13



36-21



36-29



36-31



36-33



36-48



36-56



36-60



36-64



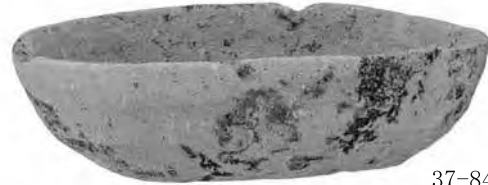
36-69



37-70



37-73



37-84



37-93



37-94



37-101



37-102



37-103





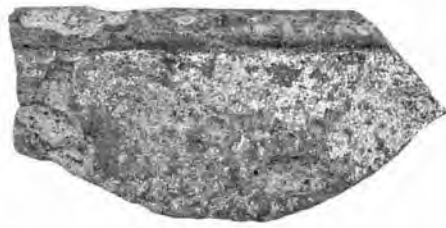
38-105



38-107



38-114



38-116



38-117



38-118



38-119



38-132



38-135



38-123



39-136



39-137



40-143



40-144



41-5



41-6



41-14



41-29



41-33



41-34



41-38



41-45



41-47



41-51



41-52



41-53



41-56



41-57



41-59



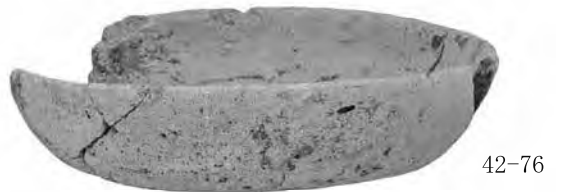
42-68



42-69



42-71



42-76



42-79



42-77



42-80



42-79



42-86



42-88



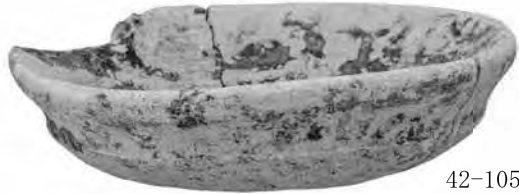
42-94



42-96



42-103



42-105



42-107



43-113



43-116



43-118



43-119



43-125



43-129



43-130



43-131



43-132



44-138



44-142



44-144



44-145



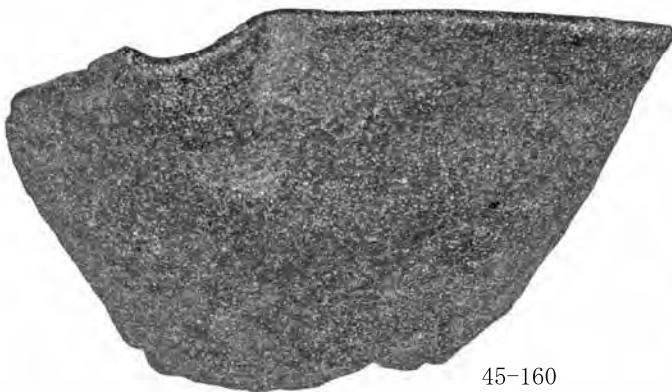
45-155



45-157



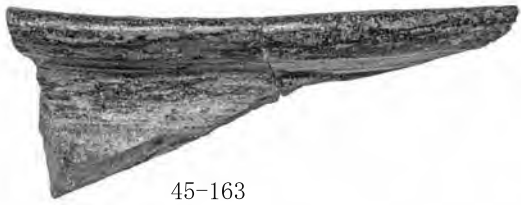
45-159



45-160



45-161



45-163



45-164



46-165



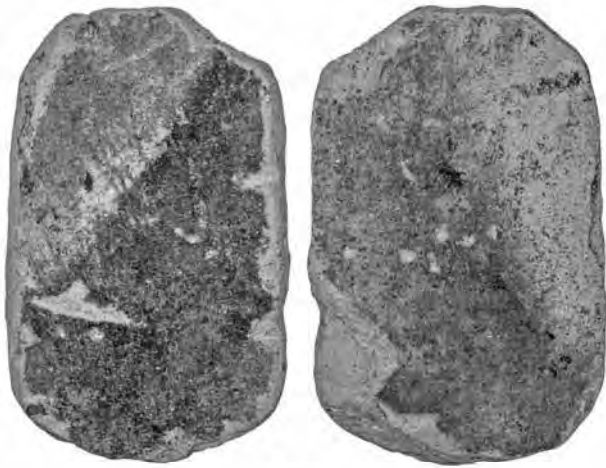
46-170



46-172



47-175



49-181



49-182



49-183



50-184



50-185



50-186



50-187



50-188



50-189



50-190



50-193



59-1



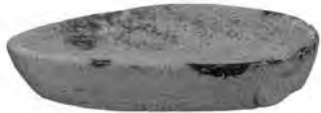
59-2



60-13



60-14



60-15



60-37



60-31



60-32



60-34



60-36

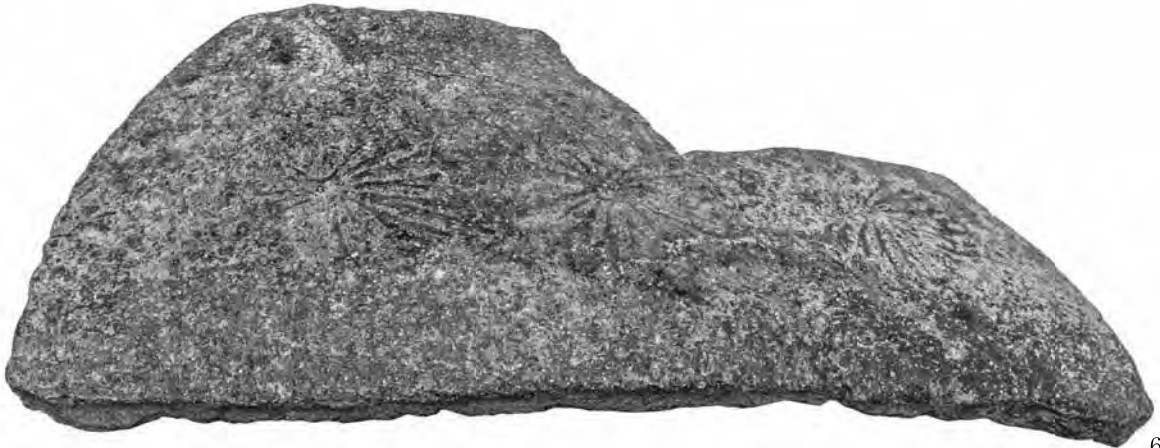


60-38





60-41



61-42



61-43



61-44



61-45



61-47



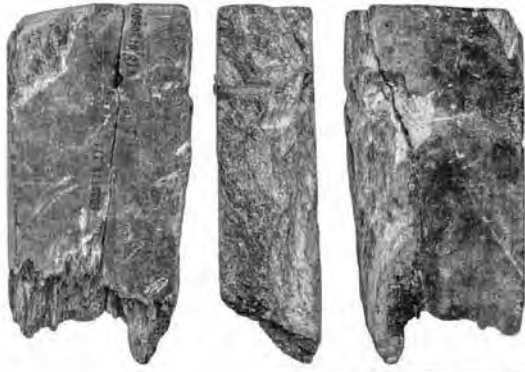
62-48



62-49



62-53



62-55



63-62



63-70



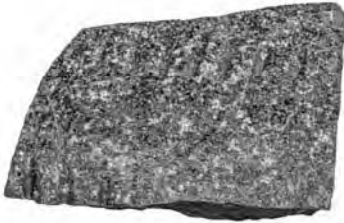
63-76



63-67



63-79



64-83



64-89



64-93



64-98



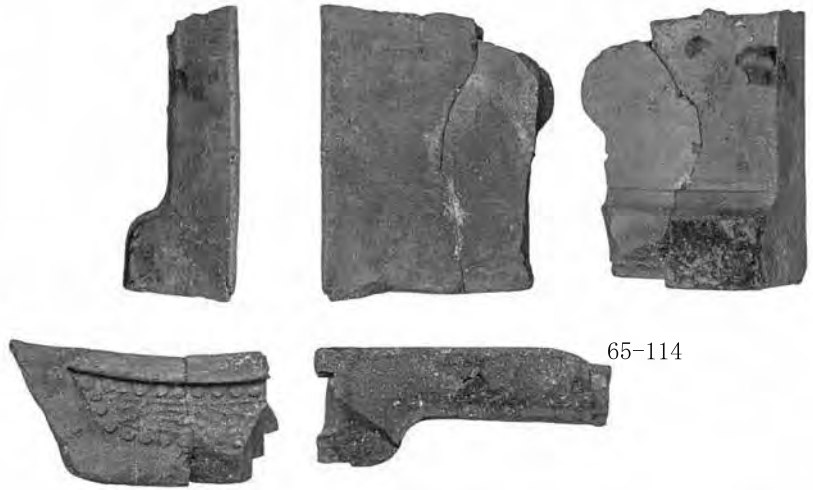
64-106



65-111



65-127



65-114



65-129



66-148



66-145



66-151



66-153



66-154



67-158



67-155



67-162



67-165



67-166



67-156



67-176



67-177



68-192



68-201



68-202



68-196



68-198



69-205



69-207



69-212



69-208



70-214



71-224



71-226



71-227



70-215



70-216



71-231



71-232



71-236



72-238



72-246



72-248



72-249



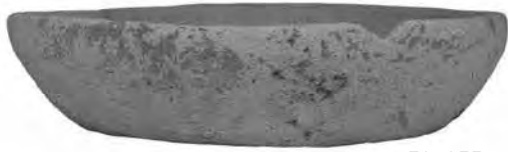
72-250



72-251



72-252



72-255



72-259



72-253



72-265



72-267



72-268



72-282



73-286



73-239



73-293



73-304



73-321



73-322



74-326



74-329



75-346



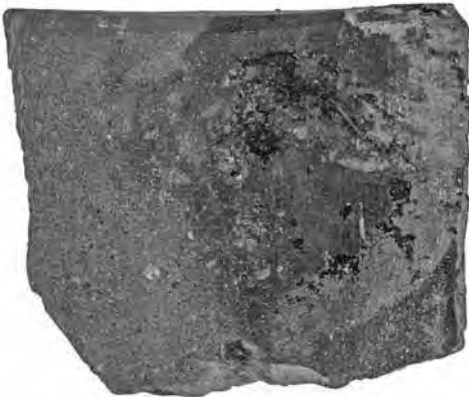
74-327



75-355



75-352



76-361



76-363



77-367



77-368



77-372



77-381





77-386



78-392



78-390



内面拡大



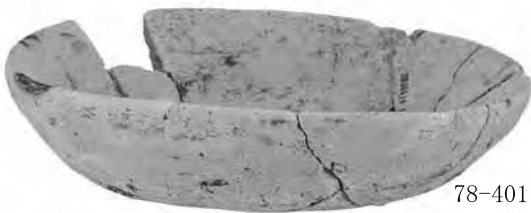
78-399



78-397



78-400



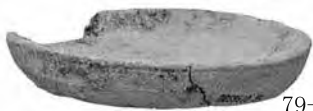
78-401



78-406



79-409



79-410



79-411



79-421



79-422



79-414



79-426



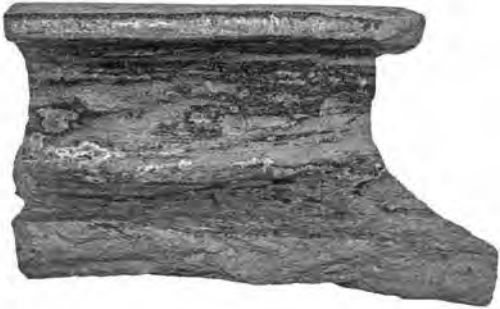
79-427



79-430



81-437  
(各パーツ)



81-442



81-443



82-450





86-108



86-109



87-112



87-113



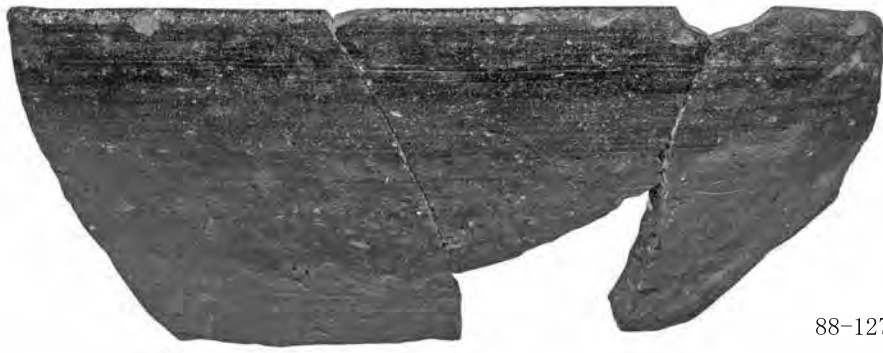
87-116



87-117



87-119



88-127



88-130



88-134



88-135



89-138



89-140



89-139



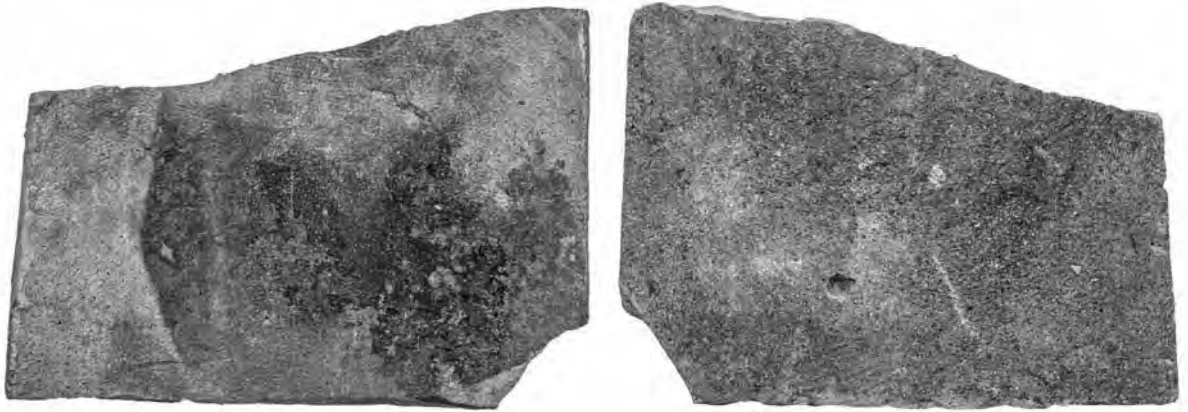
89-145



89-146



89-147



90-151



92-155



92-156



92-158

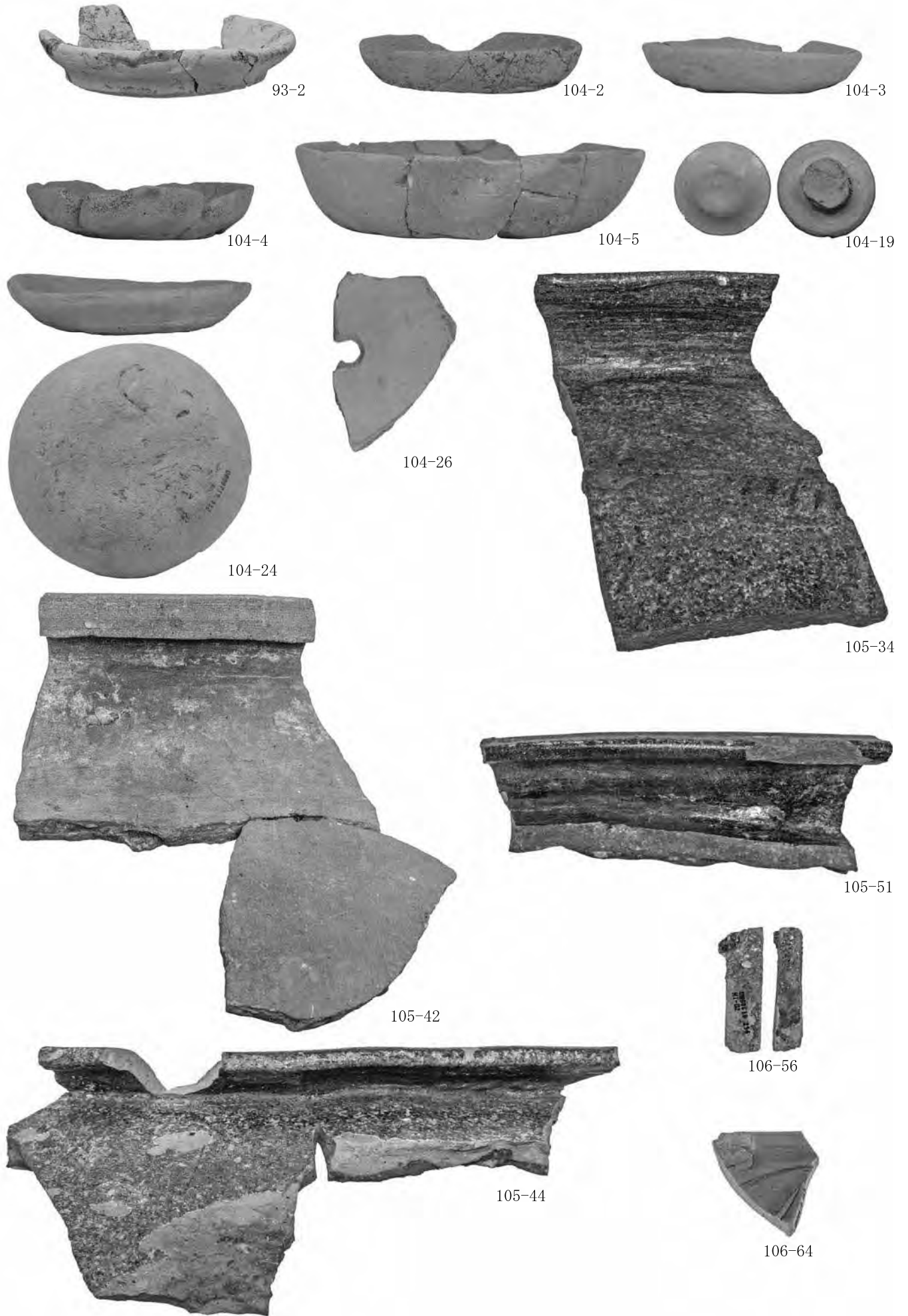


扩大



92-161

92-159





106-65



107-104



106-71



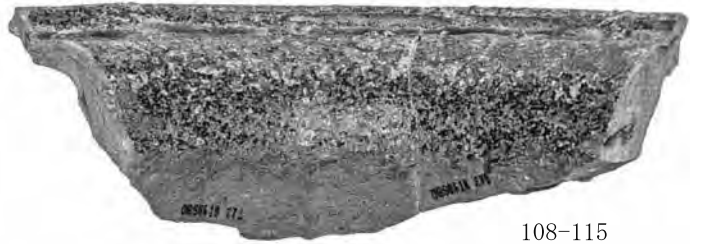
106-72



107-78



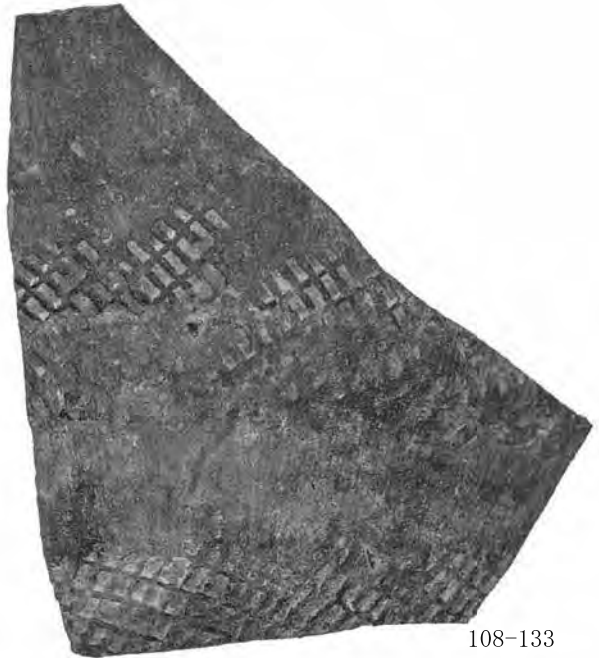
108-112



108-115



108-116



108-133



108-122



108-132



108-134





109-136



109-141



109-153



109-157



110-159



110-165



110-174



110-177



111-180



111-184



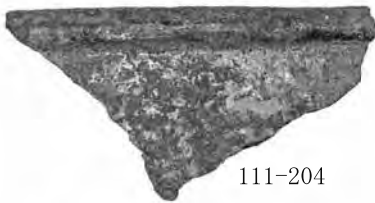
111-186



111-194



111-201



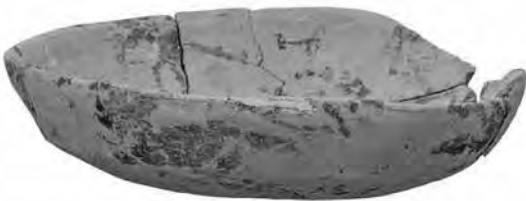
111-204



111-205



112-219



112-220



112-238



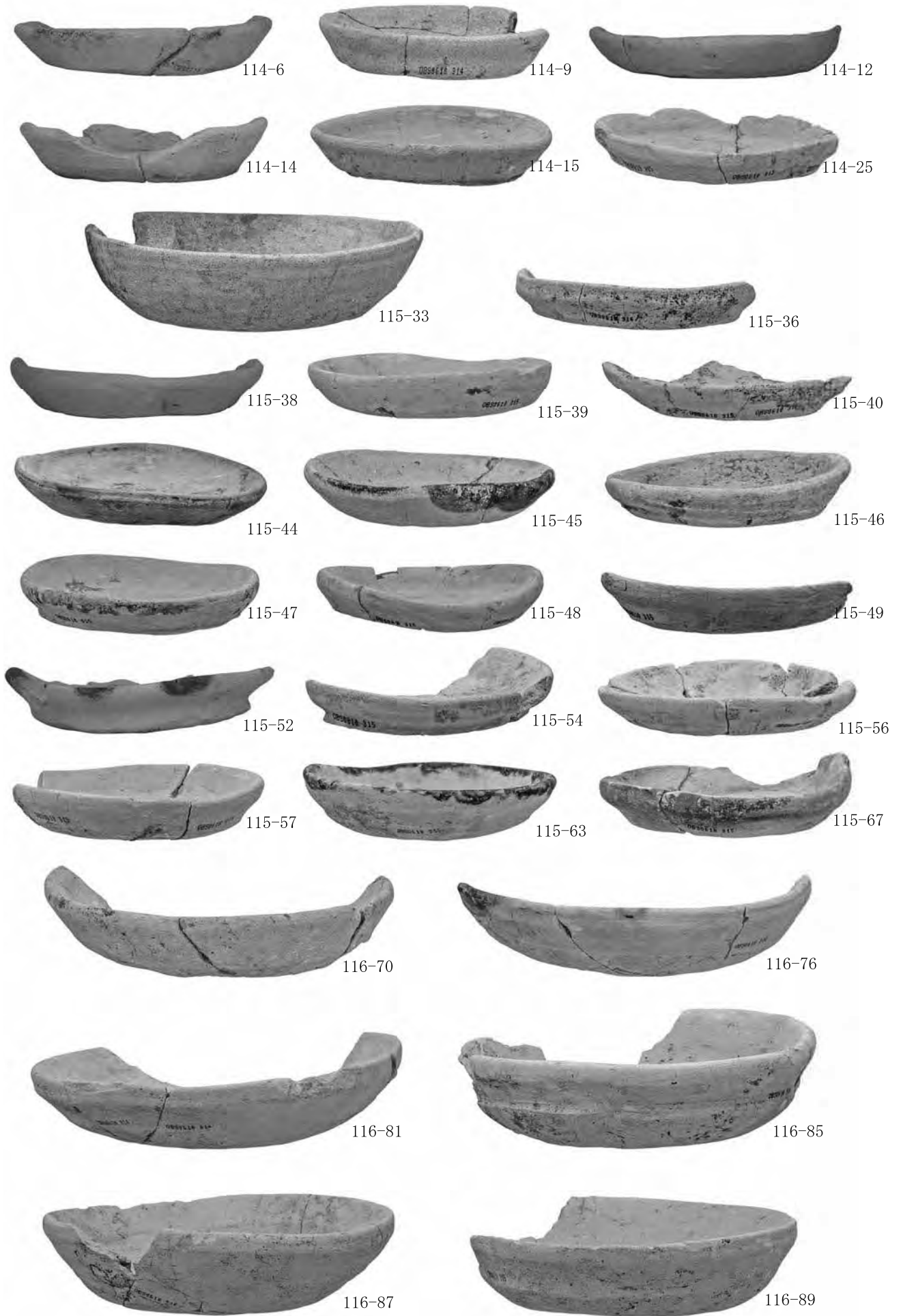
112-229

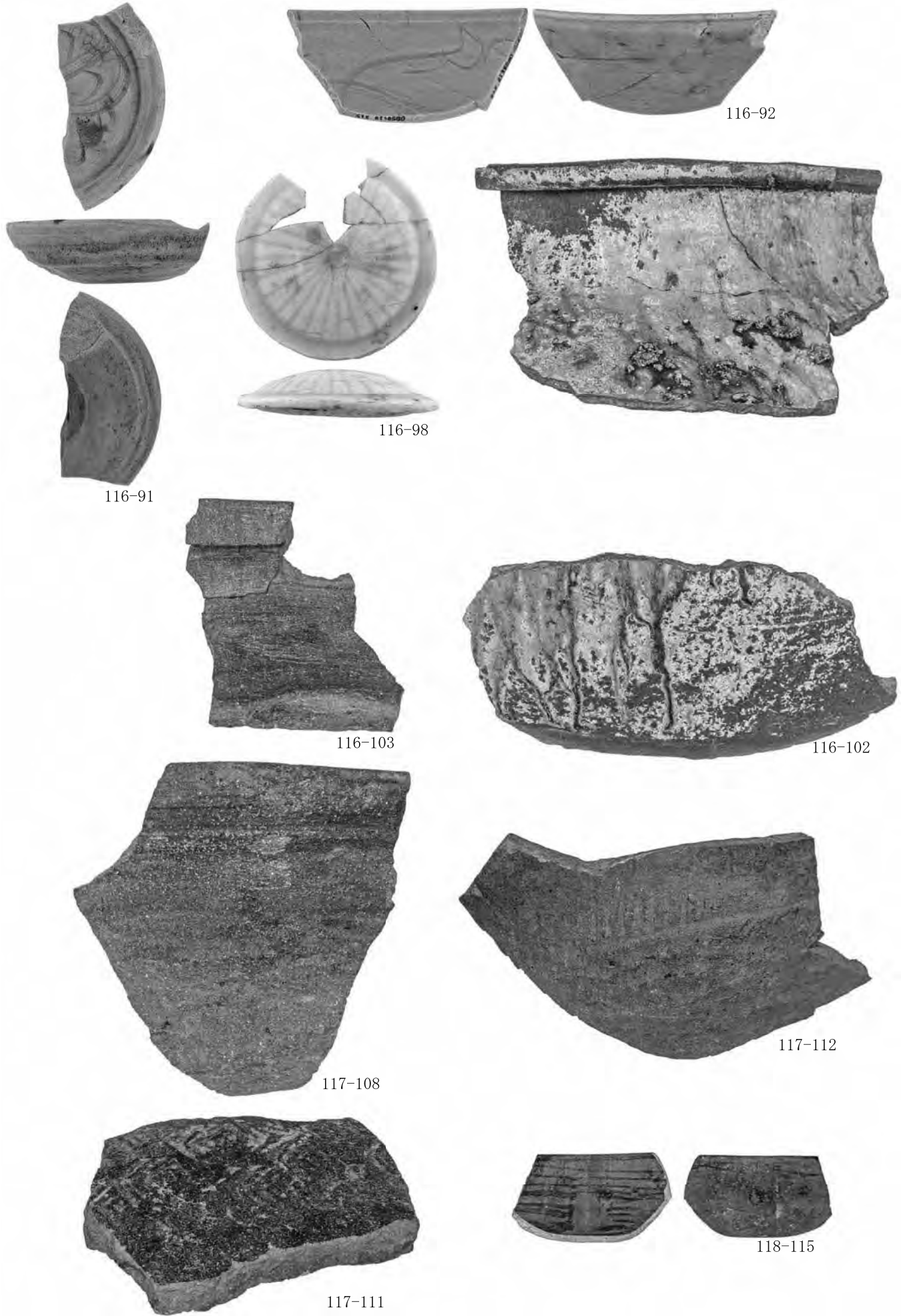


112-230



113-240





116-91

116-92

116-98

116-103

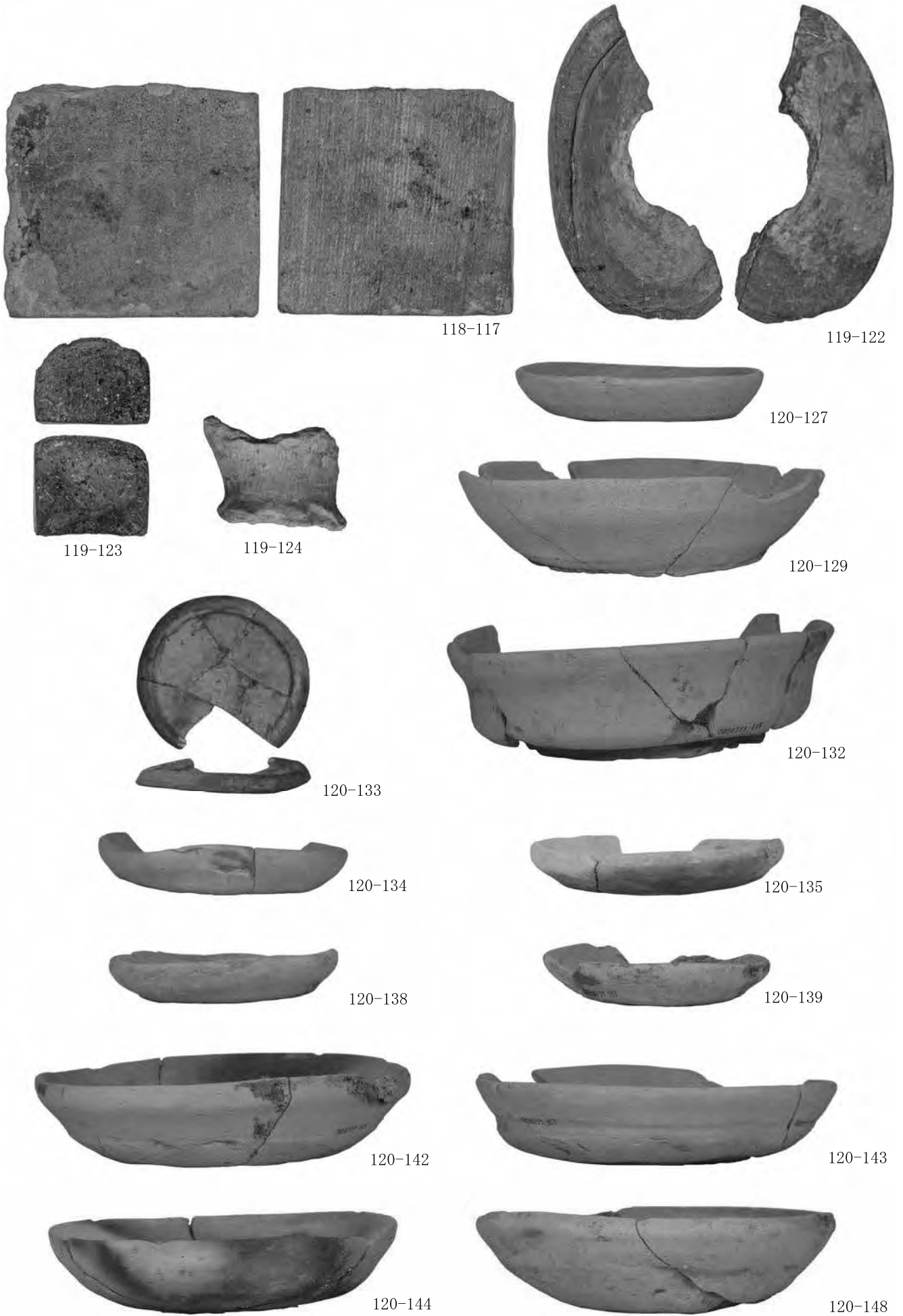
116-102

117-108

117-112

117-111

118-115





120-153



121-158



121-162



121-163



122-167



131-1



132-8



132-10



132-9



132-19



133-26



133-26



133-28



133-38



133-42



133-46



133-49



133-52



133-55



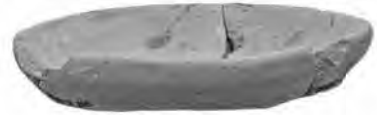
133-56



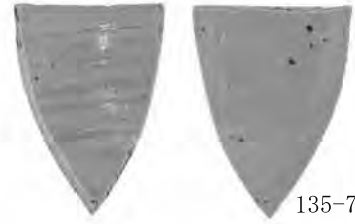
134-59



134-61



134-71



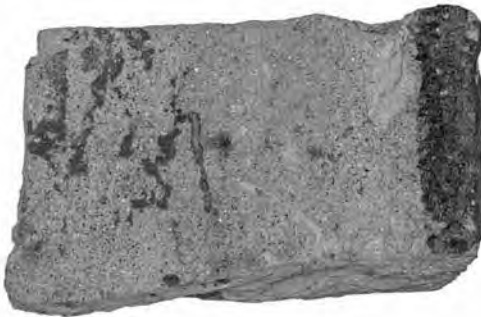
135-76



135-83



135-88



134-67



136-101



136-107



136-110



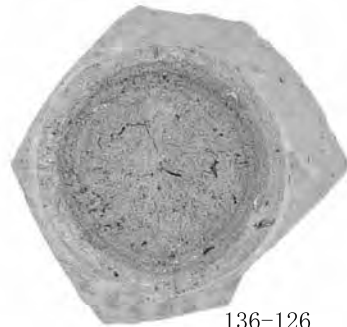
136-113



136-120



136-122



136-126

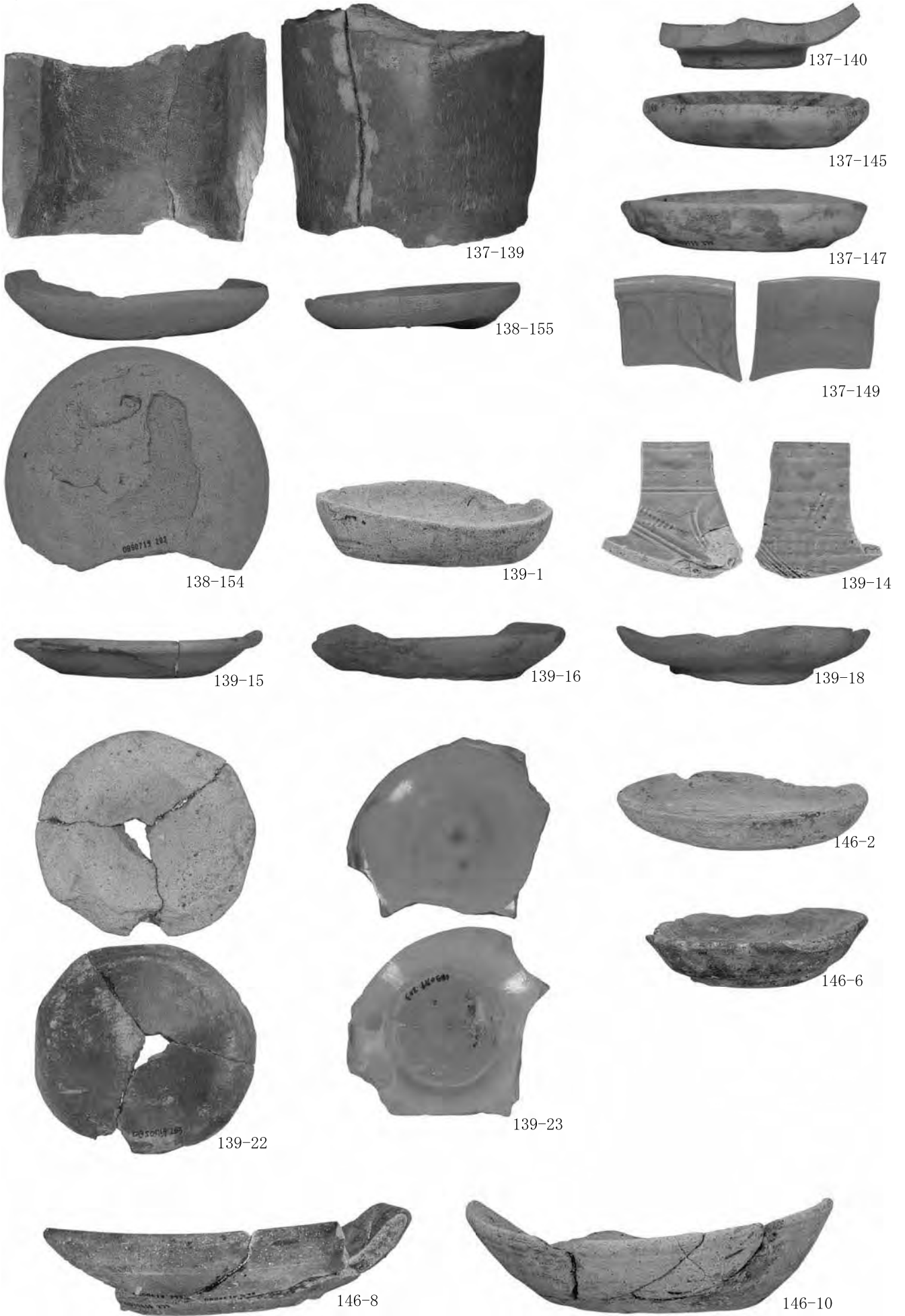


137-127



137-132







146-11



147-16



147-20



147-22



147-25



147-26



147-33



147-34



147-41



147-43



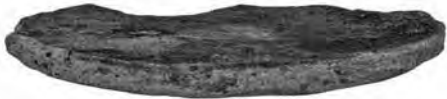
148-45



148-52



148-51



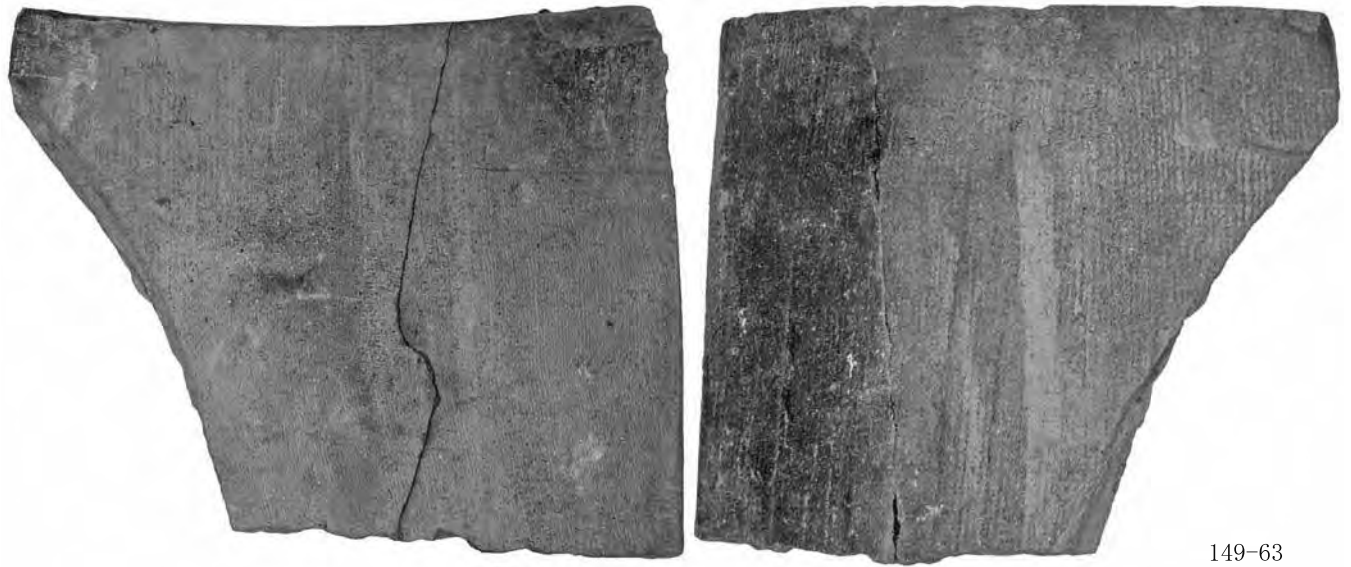
148-53



148-56



148-60



149-63



150-65



150-66



150-67



150-68



150-69



150-70



150-71



150-72



150-73



150-74



151-75



151-76



151-77



151-78



151-79



151-80



151-81



152-83



152-84



152-85



## 下馬周辺遺跡 (No.200)

鎌倉市由比ガ浜二丁目 113 番 5、9 地点

## 例 言

1. 本報は鎌倉市由比ガ浜二丁目 113 番 5、9 地点に所在する遺跡の発掘調査である。
2. 発掘調査は自己用店舗併用住宅にかかる建築範囲約 12 m<sup>2</sup>を対象とし、平成 21 年 10 月 13 日から 11 月 13 日にかけて実施した。
3. 現地での調査体制は以下の通り  
担当者 伊丹まどか  
調査員 榎岡ケイト  
作業員 小口照男・倉沢六郎・清水政利（社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）
4. 本報作成は以下の分担で行った。  
遺物実測 岩崎卓司・岡本夏奈・須佐直子・鍋島昌代  
遺物図版作成 鍋島昌代・田畑衣理  
遺構図版作成 岡本夏奈・田畑衣理  
遺構・遺物観察表 岡本夏奈・田畑衣理  
遺構写真 伊丹まどか  
遺物写真 須佐仁和  
写真図版作成 田畑衣理  
執筆・編集 田畑衣理
5. 本調査に係る出土遺物・図面・写真等の記録資料は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は調査段階では「GKI」としていたが、市教育委員会の統一基準により「GB0910」として整理した。
6. 本報の凡例は以下の通りである。  
・挿図縮尺 遺構全測図：1/60 個別遺構図：1/40 実測遺物図：1/3 銭：1/1  
なお各挿図にはスケールを表示してある。  
・遺構図版 遺構のレベルは海拔標高の数値を示す。  
・遺物図版 釉薬の範囲は  $\cdot - \cdot -$ 、加工痕・使用痕は  $\circ \leftarrow \longrightarrow \circ$ 、生産地加工痕  $\circ \leftarrow \rightarrow \circ$ 。  
・文中で「かわらけ」と記載したものは「轆轤成形かわらけ」を指し、「手づくね成形かわらけ」は「手づくね」と記載している。
7. 本文の都合から遺物に関する詳細は観察表にまとめて掲載している。また復元して実測した遺物は計測値に（ ）を、最大遺存値に [ ] を付して表している。
8. 遺物の分類及び編年は下記を参考にした。  
瀬戸窯製品・尾張型山茶碗：藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院  
常滑・渥美窯製品：中野晴久 2012 『愛知県史別編窯業 3 中世・近世常滑系』愛知県／藤澤良祐他 2015 「中世常滑窯編年の再検討—5 型式以降を中心に—」『上県 2 号窯跡第 9 次調査発掘調査概要報告書』愛知学院大学文学部歴史学科  
舶載陶磁器：大宰府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡 X V —陶磁器分類編—』  
火鉢：河野眞知郎 1993 「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢 神奈川第 2 集』神奈川県考古学会
9. 発掘調査及び報告書作成に関しては下記の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。（敬称略・五十音順）  
押木弘己・汐見一夫・玉林美男・福田誠・渡邊美佐子

# 目次

## 本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	322
第1節 遺跡の位置と歴史的環境 (図1)	
第2節 周辺遺跡の調査成果 (図1)	
第二章 調査の概要	327
第1節 調査の経過・方法と調査区設定 (図2)	
第2節 堆積土層図 (図3)	
第三章 発見された遺構と遺物	333
第1節 第1面の遺構と遺物 (図4・6～9)	
第2節 第2面の遺構と遺物 (図4・10～12)	
第3節 第3面の遺構と遺物 (図5・13～16)	
第4節 第4面の遺構と遺物 (図5・17)	
第5節 最終トレンチ・表採遺物 (図3・17)	
第四章 まとめ	351

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	325	図10 第2面各遺構	339
図2 調査区配置図	328	図11 第2面各遺構・出土遺物	340
図3 堆積土層図・最終トレンチ位置図	329	図12 第2面面上・構成土・出土遺物	342
図4 第1面・第2面全測図	331	図13 第3面遺構22・25	344
図5 第3面・第4面全測図	332	図14 第3面遺構22・出土遺物	345
図6 第1面各遺構	333	図15 第3面遺構25・出土遺物	346
図7 第1面各遺構・出土遺物	335	図16 第3面各遺構・出土遺物	347
図8 第1面面上・出土遺物	336	図17 第4面各遺構・表採・出土遺物	350
図9 第1面構成土・出土遺物	337		

## 表目次

表1-1 第1面遺構観察表	334	表2 出土遺構観察表	352
表1-2 第2面遺構観察表	341	表3 出土遺物破片数表	357
表1-3 第3面遺構観察表	348		
表1-4 第4面遺構観察表	349		



## 図版目次

図版1・・・・・・・・・・・・・360

1. 第1面全景（南から）
2. 第2面全景（南から）
3. 第2面全景（西から）
4. 第3面全景（南から）
5. 第3面全景（北から）
6. 第3～4面全景（南から）
7. 第4面全景（南から）
8. 最終トレンチ（北から）

図版2・・・・・・・・・・・・・361

1. 調査区西壁①（東から）
2. 調査区北壁②（東から）
3. 調査区北壁③（東から）
4. 調査区北壁④（東から）
5. 調査区南壁①（北から）
6. 調査区南壁②（北から）

図版3・・・・・・・・・・・・・362

1. 第1面遺構22（北から）
2. 第1面遺構3～7（南から）
3. 第2面遺構8（北から）
4. 第2遺構15・16（西から）
5. 第3面遺構21（北から）
6. 第3面遺構24（南から）
7. 第3面遺構29（東から）
8. 第3面遺構33（南から）

図版4・・・・・・・・・・・・・363

1. 第3面遺構22（東から）
2. 第3面遺構22側板・杭（北から）
3. 第3面遺構22（南から）
4. 第3面遺構22（北から）
5. 第3面遺構22（東から）
6. 第4面遺構31下駄（東から）
7. 第4面遺構34（西から）

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 第1節 遺跡の位置と歴史的環境（図1）

本調査地点はJR鎌倉駅南南西約550mの鎌倉市由比ガ浜2丁目113番5外に所在する。北側に下馬四つ角から長谷観音・大仏方面に至る県道鎌倉葉山線（旧国道134号線）が東西に走り、扇ガ谷から南下する道路と交叉する通称六地蔵交差点の東南に位置する。六地蔵周辺は中世の刑場の跡とされ、作物が育たない飢渴畑と呼ばれていた。長い間荒廃地となっていたのを供養し、弔うために六体の地蔵を安置したと伝わる。神奈川遺跡台帳に拠れば、六地蔵交差点は4遺跡が接し、北東一帯が若宮大路を中心に南北に広い若宮大路周辺遺跡群（No. 242）、北西一帯が今小路周辺遺跡（No. 201）、南西一帯が長谷小路周辺遺跡（No. 236）、そして南東一帯は本調査地点が位置する下馬周辺遺跡（No. 200）とされている。

下馬周辺遺跡は、現下馬四つ角より南の東西500m×南北最大350mの範囲が呼称され、西に滑川が南下しほぼ中央を若宮大路が南北に貫く。遺跡名でもある「下馬」は鶴岡八幡宮への敬意を表して馬から下りたことに由来し、『吾妻鏡』には中の下馬橋、下の下馬橋がみられ、若宮大路に架かっていたという。『大庭文書』によれば3か所としているが、上の下馬橋は文献上には見えない。中の下馬橋は現二の鳥居前、下の下馬橋は現下馬四つ角にあったと考えられている。調査地点の北側を走る県道鎌倉葉山線（旧国道134号線）は、古代においては五畿七道制が改変された宝亀2年（771）以前の古海道、また中世においては大町大路と重複するものと考えられている。東は名越の切通しから西は極楽寺坂・大仏坂へと至り、鎌倉とその域外とを東西に結ぶ中世鎌倉の幹線道路であった。調査地点より東での大町大路は、八幡宮から南の海浜に向けて南北に貫く若宮大路と現下馬四つ角で、宝戒寺前から若宮大路の東を南北に平行して走る小町大路と現大町四つ角付近で交叉する。現下馬四つ角付近は市街域を流れる小河川が滑川に交流し、下の下馬橋がかけられていたとされ、『吾妻鏡』に拠れば仁治2年（1241）11月には、三浦市氏と小山氏が下の下馬の西側の妓楼において祝宴の末に喧嘩に至り騒動になったとある。現大町四つ角付近の名越に至る道筋に沿っては、『吾妻鏡』建長3（1251）年及び文永2（1265）年に幕府から裁許を受けた商業地として定められた「大町」「米町（穀町）」「魚町」などの商業地が在った。幕府諸機関や武家屋敷が建ち並ぶ地域とは異なり、活発な商業活動が行われた商業地だけでなく、遊興的な施設をも備えた鎌倉における繁華の中心であったことが推察できる。

調査地点より西では、寿福寺前から若宮大路の西を平行して走る今小路と六地蔵周辺で交叉し、現道筋を長谷小路と名を変えている。遺跡名にも付される長谷小路は、一般的には鎌倉中期以降に創建されたという長谷寺と六地蔵までの道筋をいうが、中世期に他の大路（小路）の様に幹線道路として通されていたかは定かではない。この道筋には倉庫や工房等の機能が想定される方形堅穴が建ち並び、出土遺物から観ると職能人が多く居住した地域である。更に六地蔵より市道を海岸に向かい南に行くと、小坪から由比ヶ浜にかけて造営された下向原古墳群の一つで人物埴輪も出土した采女塚（近世においては無情堂塚とも呼ばれていた）と呼ばれた古墳時代後期の高塚式円墳が存在していたが、現在ではその様相は見る影もない。

※本章は、地点2の第一章-1（田畑2000）を加筆・修正して転載した。

## 第2節 周辺遺跡の調査成果（図1）

調査地周辺が砂丘を主体とした地形であることは、これまでの地質調査や発掘調査などによって明らかにされている。南北方向の若宮大路では下馬四つ角交差点周辺海拔3.8mが最も低く、鎌倉女学院北西交差点周辺海拔4.6mへと緩やかに北から南へと上がり、一の鳥居周辺海拔10.0mを海岸砂丘頂部とし、また海に向かって緩やかに下っていく。東西方向は県道鎌倉葉山線（旧国道134号線）沿いに六地蔵周辺海拔7.9m、

地点2は海拔7.2m、地点3は海拔7.7m、本調査地点は海拔7.5m、地点9は海拔6.1m、地点10は海拔5.8m、江の島・鎌倉電鉄踏切周辺海拔5.0m、下馬四つ角海拔3.8m、JR横須賀線踏切周辺海拔6.8mである。下馬四つ角付近は北西佐助ヶ谷から東に流下する佐助川と、北から流下する扇ガ谷川が、若宮大路の東を流れる滑川へと交流する前の2河川の合流地点となり、市街地で最も低い地域となる。これは下馬周辺遺跡の南側海浜部と今小路西遺跡北西一帯の山裾までは微高地状の砂丘が横たわり、県道鎌倉葉山線に沿った一帯はその両砂丘に挟まれた後背湿地にあたる。粘質土ないし土壌化した砂質土を中心に、地盤の影響を受けながら堆積整地していることが確認できる。

県道鎌倉葉山線の南側に広がる「下馬周辺遺跡」では本調査地点を含め23ヶ所程（地点1～23・2018年3月末現在）となり、県道北側に広がる若宮大路周辺遺跡群（地点24～31）や今小路西遺跡（地点32）もふまえて、本調査地点周辺の主な調査成果を説明する。

地点2～7は本調査地点から南西範囲80m内外に位置し、県道南側に広がる砂丘後背湿地状の地盤に立地する為に砂層は僅かに確認されるのみで、粘質土ないし土壌化した砂質土を中心に明確ではないものの整地層を確認している。地点2は生活面を4時期とし、最終面は堆積土層が南西に傾斜しており、中世以前の遺構の確認はできなかったものの、古墳時代後期の遺物が出土している。13世紀代にかけてこの湿地状の土地を克服したのか、骨材加工に携わる生活の痕跡が観られる。その後あまり間をおかずに、木材基礎構造を持つ建物址（板壁建物？）が14世紀代にかけて繰り返し興廃していくが、次第に15世紀に近づいてくると遺構が希薄で活発な土地利用は見受けられない。海拔4.6mで中世基盤層と考える青灰色砂層を確認している。地点3は近世を含めて3時期にわたる生活面で、遺構は地割溝と通路、それに平行して床下から木材を組み上げた建物址（板壁建物？）や礎板を伴う方形土坑が検出され、概ね13世紀後半～14世紀中葉としている。海拔4.9mで中世基盤層と考える青灰色砂層を確認している。地点4は中世3時期を確認しているが、調査面積が小さい為か遺構は土坑のみで、概ね13世紀後半～14世紀中葉としている。調査後のトレンチでは海拔4.9mで中世基盤層と考えられる暗茶褐色砂質土層と灰色砂層が確認されている。地点5は厚く堆積した貝殻を多量に含む軟弱な暗褐色粘質土で検出された鎌倉石を伴う多数の方形堅穴建物をもとに、5時期で面を区別している。中世遺構面より検出された礎板・杭・横板の遺存状態は悪いが、板壁建物の一部もしくは掘立柱建物の可能性も考えられ、概ね13世紀中頃～14世紀代としている。海拔5.3～5.4mの暗褐色粘質土を中世基盤層とし、更に海拔5.0mでは黒色粘質土の中世以前の包含層も検出している。地点6は近世を含めて4時期にわたる生活面を検出。中世面は土坑・ピット・掘立柱建物あるいは板壁建物に伴うと考えられる礎板がみつき、少なくとも2棟の時期の異なる建物が存在し、概ね13世紀後半～14世紀前半としている。海拔4.9mで中世基盤層と考える青灰色砂層を確認している。地点7は中世4枚の生活面を検出し、13世紀後半～15世紀代と幅広い年代が与えられている。溝・土坑・ピットを検出し、遺構覆土内と面上に遺存していた礎板から掘立柱建物が存在していた可能性を指摘している。調査後のトレンチでは、海拔3.9mで中世基盤層と考える青灰色砂層を確認している。

地点24～27、31～32は本調査地点より北100m内外に位置し、県道北側に広がる砂丘上に営まれた一帯。地点24は中世～近世に至る2時期の遺構群を検出。近世遺構としては溝状遺構1条と多数の埋葬人骨出土で、上層には宝永四（1707）噴火の富士山降灰層が堆積していた。人骨群に伴う副葬品、溝状遺構出土遺物の示す年代観から近世末期の遺構とされているが、棺箱の形態や六銅銭年代から年代観の再検討も示唆されている。中世遺構は根太等床下構造の痕跡を伴うものを含む方形堅穴建物と溝状土坑・土坑等を検出。方形堅穴建物間の空閑地に道路状遺構の可能性を指摘し、各遺構群は若宮大路の規制外の方向性を示すとされている。年代は概ね13世紀後葉～14世紀代で、海拔6.4m前後の灰黄褐色砂質土層を中世基盤層としている。地点25

は 2 面 3 時期の中世遺構より方形竪穴建物・側溝を伴う道路状遺構・土坑等を検出し、各遺跡は検出された道路状遺構の軸方位を意識して営まれている。この道路状遺構は、側溝を伴うことやその幅員から幹線道路に近い規模を有するものとされ、若宮大路とは直行・平行関係にはないことが指摘されている。また遺構こそ確認されていないものの、中世以前の遺物が一定量出土していることから、付近には古代の遺構も存在する可能性が指摘されている。年代は概ね 13 世紀後半～14 世紀代で、海拔 6.6～6.7m 前後より上層が黄褐色砂層、下位につれて灰白色細砂と褐色粗砂の互層を中世基盤層としている。地点 26.27 は未報告のため詳細不明だが、特筆すべき点として中世基盤層は黄褐色砂層で、その下に堆積する黒色砂層<sup>\*1</sup>の下から中世以前の土器が土坑等の遺構と共に検出している。地点 31 は砂丘上に営まれた方形竪穴建物・土坑・溝状土坑と版築面（道路か）を検出している。海拔 6.4m 前後の茶褐色砂層を中世基盤層とし、その下に確認できる黒色弱粘質砂層（黒色砂層 1<sup>\*1</sup>）より古代末～中世初頭の遺物が出土していることから、最も古い遺構は 13 世紀初頭から成立し、15 世紀代まで遺構は存続していたとしている。地点 32 は海拔 7.6m の砂丘状に 2 時期の中世遺構を検出。狭少な調査区ながらも遺構密度が高く、主な遺構は溝・方形竪穴建物・土坑・柱穴等で、年代は概ね 13 世紀後半～14 世紀前半とし、海拔 7.0m の黄灰色砂層を中世基盤層としている。

地点 9～10、28～30 は本調査地点から東 120m 内外に位置し、北西佐助ヶ谷から東に流れる佐助川に向かって下る砂丘斜面に営まれ、湧き水が多い。本調査地点である地点 1 と地点 9 間の現地表面海拔も 1.4m 前後の高低差があり、中世当時の状況を反映している。地点 9 は 13 世紀後半～14 世紀初頭に至る中世を 4 時期に分け、灰色を基調とする砂層（濁くと灰白色）よりピット・土坑・溝・根太等床下構造の痕跡を伴う大型～小型竪穴建物を検出。北側海拔 5.6m～南側 5.2m で確認できる黄灰色砂層（灰色粗砂と互層）を中世基盤層とする。地点 10 は傾斜地斜面に 13 世紀後半～14 世紀代にかけての中世 3 枚の生活面を検出している。最上位の 1 面からは方形竪穴建物・井戸・土坑・柱穴が多数検出された他に、第 1 面より上層から掘り込まれた竪穴内に切石を配置している石敷の方形竪穴建物が検出されている。第 2 面においても方形竪穴建物・井戸・土坑・柱穴群が主要な遺構として形成されており、東に柱穴群、西に方形竪穴建物という配置も基本的には変化ない。ただし、柱穴群は線状に集まる状況が窺われ、南北方向の柱穴列として区画割を示唆している。第 3 面は調査区の東側地域のみならず層位的に確認し、礎板を伴う柱穴の他に 1 辺 10～15cm ほどの小穴や杭の遺存する小穴、それと浅い土坑を検出している。東側は海拔 3.9m で黒褐色粘質砂、西側は海拔 5.1m で黄白色砂を中世基盤層としている。地点 28 は方形竪穴建物・土坑・柱穴等が検出されている。確認された中世基盤層の黄白砂層は南側海拔 5.7m 前後で、北側では海拔 4.5m でも検出されず、佐助川の影響で土層全体が北に向かって下っていることがわかる。年代は概ね 13 末～14 世紀代としている。地点 29 は海拔 5.1m で中世基盤層が黄褐色砂層を検出する板壁建物や方形竪穴建物を中心とする遺構で、概ね 13 世紀後半～14 世紀前半としている。地点 30 は海拔 5.4m 付近で黄褐色～黄茶褐色砂層・灰褐色を中世基盤層とする。13 世紀後半～14 世紀前半にかけて 9 棟の方形竪穴建物が激しく切り合った状態で検出。湧水が多い為、建物の下部構造の木材の遺存状態が良好なうえに、付属の張り出し部分の床面より推定 4 万枚を超える備蓄埋納銭が納められた曲物を検出している。この方形建物は方形竪穴建物＝工房や倉庫としてだけでなく、商売や金融業等の商業活動の痕跡を示すとしている。

地点 13～17 は本調査地点から東 200m 内外に位置し、若宮大路で最も低い下馬四ツ角交差点周辺海拔 3.8m に向けて低くなる一帯である。地点 13 は中世 2 位時期に区分され、13 世紀末頃～14 世紀前半を中心とした柱穴・土坑・溝等を検出。建物を想定できる柱穴列も検出されているが、狭少な調査区の為に遺構の全容は理解しがたいとしている。海拔 2.4～2.5m の青灰色砂層で中世基盤砂層を確認している。地点 15 は 3 段階に分けて掘り下げ、1 次で近代井戸・建物基礎の松杭列・土丹版築・浅い窪み状の土坑を検出。2～3 次で調

査区の殆どが北東から南西に南北に走る流路・河川址と推測でき、護岸に使用していたであろう木杭も廃棄された状態で検出されている。建物遺構の存在は皆無であり、町屋的な要素を持つ建物の拡がりの東の限界であろうと予想される。南東角に中世基盤層と思われる黒褐色粘質土を海拔 2.7m前後で部分的に確認し、遺構の年代は概ね 13 世紀後半～15 世紀代としている。未報告である地点 17 に於いても後背湿地状の地盤に土丹を使用した護岸状の落込みが南北方向で検出されており、地点 15 以東は河川址と推測される。そのまま県道沿いに本調査地点から東 380mに位置する地点 22 は、上層・下層と 2 分割した 13 世紀代の中世面より南北に走る道路状遺構とそれを挟む 2 つの側溝が検出しており、河川址の東側限界は確認できていない。海拔 4.8 m前後の黄褐色砂層を中世基盤層としている。

他に地点 8 は本調査地点から南東 100mに位置する。中世 2 枚の生活面を検出し、海拔 4.7m前後の第 2 面で検出した貝殻粒を多く含み褐鉄分が染み込んだ暗灰褐色砂層土の硬化面より、掘立柱建物・道路・木組みの土留遺構柱穴・溝などを検出している。概ね 13 世紀後葉～14 世紀代とし、調査面積の狭さや湧水に伴う崩落の危険性から掘削深度制約の為、中世基盤層は確認できていない。地点 19 は海浜砂丘の北側裾部に位置し、中世 3 時期。最下層の 13 世紀前半は沼のような湿地の窪地が存在し、柿経や笹塔婆などを多量投棄した特殊な行為が確認され、鎌倉前期のこの場を考える上で重要な意味合いを含むといえる。13 世紀中頃からは生活の営みが認められる空間が広がり、13 世紀後葉～14 世紀中頃は溝や段で区画された中に竪穴建物・井戸・通路・土坑などの検出に伴い、多くの遺物も出土し、町屋的空間に変貌したと考えられている。

以上の結果より、現地表においては県道鎌倉葉山線を境に北側と南側の海拔差は殆どないが、中世遺構検出海拔高は 100 cm以上の差があり、砂丘の影響で中世期には南にむかって海拔高が下がる後背湿地状に形成され、それに伴った板壁建物址掘立柱建物を検出する調査地周辺であることがわかっている。

#### 【引用・参考文献（※第 4 章 まとめも含む）】

- ※1 降谷順子・斎木秀雄「長谷小路周辺遺発掘調査報告書―（仮称）由比ガ浜こどもセンター建設に伴う由比ガ浜三丁目 194 番 1、262 番 1 地点―」2016 年の調査結果以降、黒色弱粘質砂質土あるいは黒色弱粘質砂層と表現していた土層を黒色砂層 1 と改められている。
- 上本進二 「鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『東国歴史考古学研究所調査研究報告 第 26 集 神奈川県逗子市棧敷戸遺跡発掘調査報告書』2000 年  
「鎌倉の地形発達史」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 118 集 国立歴史民俗博物館 2004 年
- 高柳光寿 『鎌倉市史 総説編』1959 年 吉川弘文館
- 高柳光寿・貫達人 『鎌倉市史 社寺編』1959 年 吉川弘文館
- 赤星直忠 『鎌倉市史 考古編』1959 年 吉川弘文館
- 貫達人・川副武胤 『鎌倉廃寺事典』1980 年 有隣堂
- 白井英二 『鎌倉事典』1976 年 東京堂出版
- 下中邦彦 『日本歴史体系 14 卷 神奈川県地名』1984 年 平凡社
- 神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会 『神奈川県皇国地誌 相模国鎌倉郡村誌』1991 年 神奈川県図書館協会

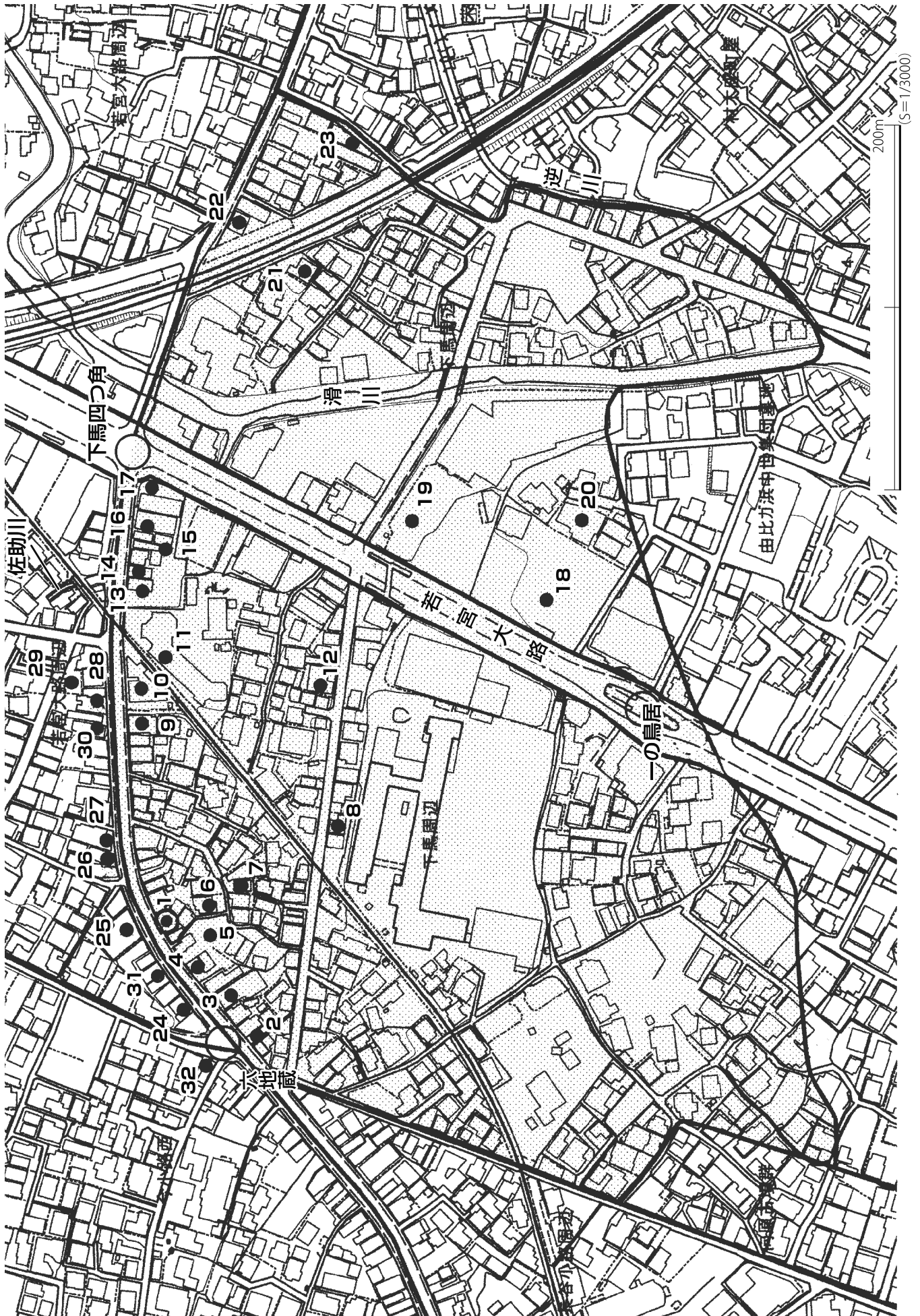


図1 調査地点と周辺の遺跡

**【調査地点及び報告書】**

<b>下馬周辺遺跡群(No.200)地点一覧</b>	
1	由比ガ浜二丁目113番5外 本調査地点
2	由比ガ浜二丁目106番6、7 汐見・田畑他2002『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
3	由比ガ浜二丁目107番1 汐見1997『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
4	由比ガ浜二丁目107番5 鈴木(絵)・福田2018『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34(第1分冊)』神奈川県教育委員会
5	由比ガ浜二丁目107番10、108番2 松山2017『下馬周辺遺跡発掘調査報告書』(株)斉藤建設
6	由比ガ浜二丁目110番5 菊川・小林2001『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
7	由比ガ浜二丁目54番15 伊丹2017『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書33(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
8	由比ガ浜二丁目39番14 原2010『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
9	由比ガ浜二丁目19番4 馬淵・沖本他2013『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
10	由比ガ浜二丁目18番12 宗臺1992『下馬周辺遺跡－東京電力鎌倉営業所改築に係る発掘調査報告書』下馬周辺遺跡発掘調査団
11	由比ガ浜二丁目18番1 田代・汐見2003『神奈川県埋蔵文化財調査報告45』神奈川県教育委員会
12	由比ガ浜二丁目27番9 田代1990『神奈川県埋蔵文化財調査報告32』神奈川県教育委員会
13	由比ガ浜二丁目3番6 宮田・滝澤2010『下馬周辺遺跡発掘調査報告書』(株)博通
14	由比ガ浜二丁目3番7 田代2007『神奈川県埋蔵文化財調査報告51』神奈川県教育委員会
15	由比ガ浜二丁目2番12 齊木・熊谷1998『鎌倉遺跡調査会調査報告7』鎌倉遺跡調査会 ・『下馬周辺遺跡発掘調査報告書4』下馬周辺遺跡発掘調査団
16	由比ガ浜二丁目2番10 福田1992『神奈川県埋蔵文化財調査報告34』神奈川県教育委員会
17	由比ガ浜二丁目2番2 福田1990『神奈川県埋蔵文化財調査報告32』神奈川県教育委員会
18	由比ガ浜二丁目1075番外 植山・馬淵他2014『下馬周辺遺跡－鎌倉警察署建設に伴う発掘調査－』財団法人 かながわ考古学財団
19	由比ガ浜二丁目1011番1 大河内1998『下馬周辺遺跡発掘調査報告書－鎌倉女学院地点－』下馬周辺遺跡発掘調査団
20	由比ガ浜二丁目1058番5 宮田・森2009『神奈川県埋蔵文化財調査報告54』神奈川県教育委員会
21	材木座一丁目1002番1外 福田2008『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』鎌倉市教育委員会
22	大町二丁目1001番4 馬淵・松原他2011『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
23	大町二丁目975番6 宮田・森2006『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
<b>若宮大路周辺遺跡群(No.242)地点一覧</b>	
24	由比ガ浜一丁目129番5 清水1995『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団
25	由比ガ浜一丁目128番7 馬淵1988『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4』鎌倉市教育委員会
26	由比ガ浜一丁目120番2 斎木2008 調査(未報告)
27	由比ガ浜一丁目120番6 原1993『神奈川県埋蔵文化財調査報告35』神奈川県教育委員会
28	由比ガ浜一丁目117番1 斎木1991『由比ガ浜1-117-1地点遺跡』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団
29	由比ガ浜一丁目116番9 滝澤・安藤2015『若宮大路周辺遺跡群(No.242)発掘調査報告書』(有)博通
30	由比ガ浜一丁目117番14外1筆 滝澤・安藤2016『若宮大路周辺遺跡群(No.242)発掘調査報告書』(株)博通
31	由比ガ浜一丁目128番1 降矢順子 2017『若宮大路周辺遺跡発掘調査報告書』(株)斉藤建設
<b>今小路西遺跡(No.201)地点一覧</b>	
32	由比ガ浜一丁目183番1 汐見・田畑他2002『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第2分冊)』鎌倉市教育委員会

## 第二章 調査の概要

### 第1節 調査の経過・方法と調査区設定（図2）

本調査は鎌倉市由比ガ浜二丁目113番5、9地点における、自己用店舗併用住宅建設に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会が近隣で行った確認調査の結果に基づき実施された。この結果、地表下約60cmの表土層直下で中世の遺物包含層が、地表下約80cmで暗褐色弱粘質土上を第1面とし、地表下約140cmで黄褐色砂質土上を第2面とし、地表下約180cmで黄褐色弱粘質土上を第3面とし、地表下200cmで黒褐色弱粘質土の地山かと推察される面が検出され、少なくとも4枚以上の中世遺構面の存在があることを確認した。以上の調査結果を受け、建築計画の実施に先立ち本格的な発掘調査を実施する必要があるとの判断に至った。

調査期間は平成21年10月13日から11月13日まで、調査面積は12(3m×4m)㎡。地表下60cmまでは重機で掘削し、以下は人力による掘削に移行した。調査は一括全面で行い、下層においては調査面積を狭めトレンチを設定し、調査に伴う残土は敷地内処理している。

測量に当たっては調査区に任意の方眼紙を設け、基本点Aと見返り点Bを設定して遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行った。現地調査では日本測地系（座標AREA9）の国土座標値を使用し、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフトweb版「TKY2JGD」で世界測地系（第IX系）に変換し、図2に表記した。図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより30°7′20″東に振れている。

### 第2節 堆積土層図（図3）

本調査地点は砂丘間の後背湿地状の窪地と考えられる県道鎌倉葉山線（旧国道134号線）に沿った一帯に位置し、砂層は僅かに確認されたのみで、粘質土ないし土壌化した砂質土を中心に堆積していた。北壁・東壁の上層は攪乱に削平されるものの、下層は全方位で層を確認することが出来た。一部測溝の関係で、図示した調査区壁の堆積土層図は平面調査の検出状況とは合致しないことを前以て明記する。

調査前の現地表海拔は7.4m前後で、ほぼ平坦な土地を形成していた。地表下約60cm（海拔6.8～6.9m）の表土層直下で版築のように硬く締まる泥岩粒多量・炭化物多量・玉石を含む暗褐色弱粘質土（第2層）を検出したが遺構の検出が伴わず、更に40cm掘り下げた海拔6.5m前後で検出の大型泥岩・泥岩粒多量・炭化物・玉石少量を含む硬く締まった暗褐色弱粘質土（第3層）上を第1面とした。

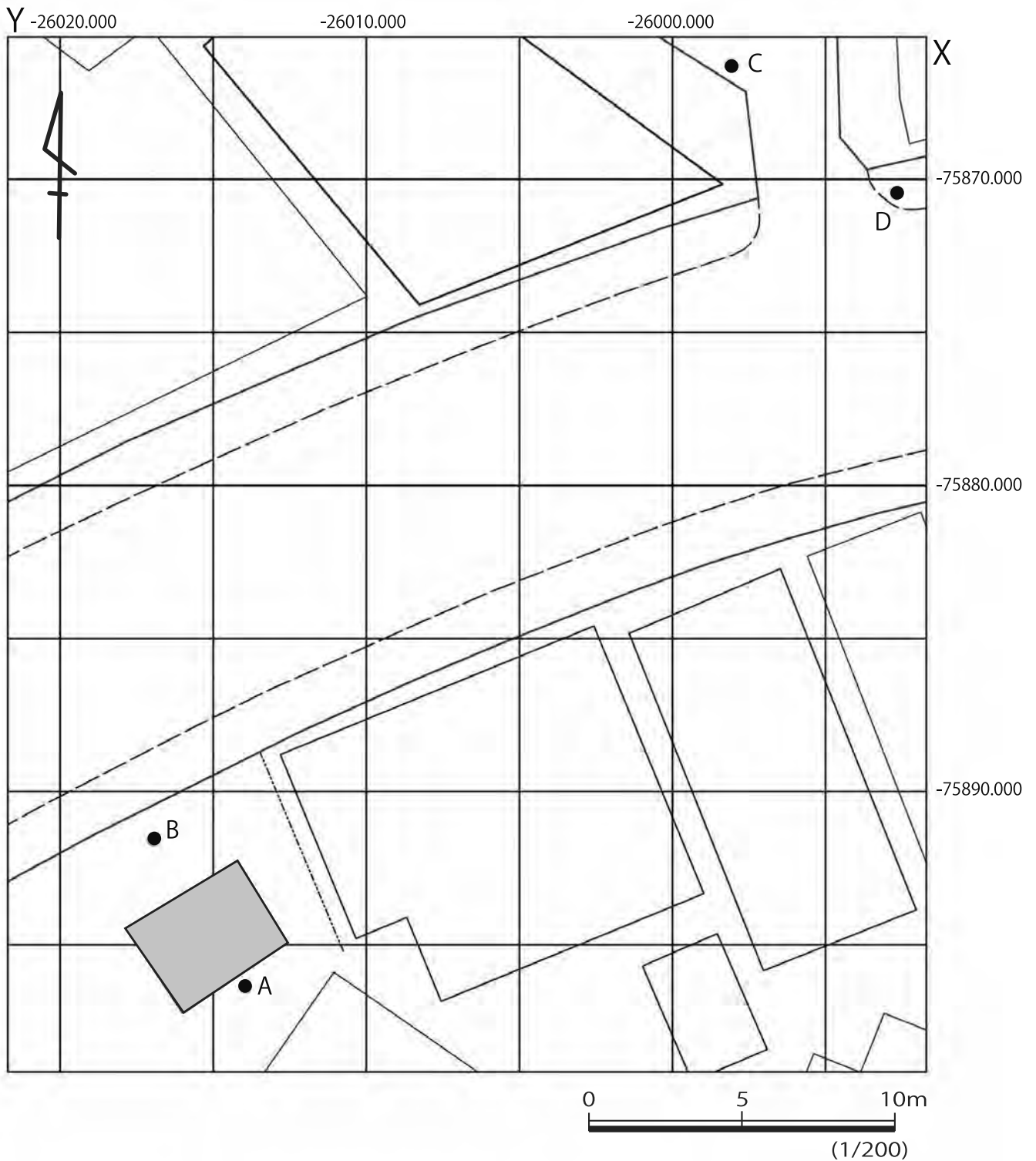
第2面は海拔6.3～6.4m前後で検出された褐色砂質土多量・泥岩・泥岩粒少量・炭化物・有機質土・貝砂を含む暗（茶）褐色弱粘質土上（第5層）とした。

第3面は海拔6.1～6.2m前後で検出された泥岩粒・炭化物・貝砂含む、部分的に上層硬化した黄褐色砂質土上（第21層）とした。板壁かと思われる側板を伴う方形竪穴建物等を検出するなど、本調査の中で最も遺構密度の高い生活面となる。

第4面は残土の関係で南西部のみを掘り下げ、海拔5.9～6.0m前後で検出された炭化物少量・貝砂・褐色砂を含む粘性の強い黒褐色弱粘質土上（第38層）とした。上面に炭化物多量・貝砂多量・褐鉄・黄褐色砂を多量に含む黄褐色弱粘質土（第37層）の硬化面が部分的に広がる。

第4面以降の堆積状況はトレンチを設定し、海拔4.5m前後まで掘り進め、4層（第44～48層）を検出した。また東壁遺構25の下層より検出された海拔5.1m前後の第49層・青灰色砂質土は風成砂層の基盤層の可能性あり。

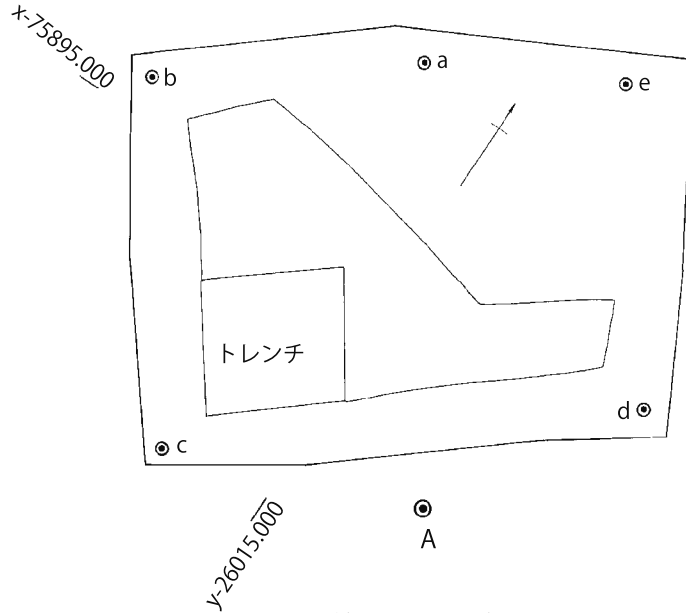




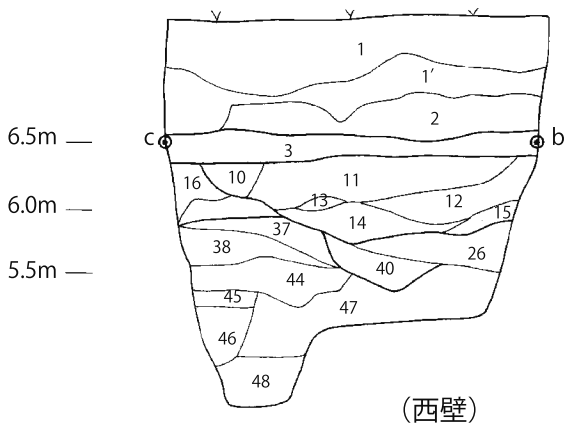
地点	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-76253.080	-25720.517	-75896.3747	-26013.9525
B	-76248.277	-25723.517	-75891.5714	-26016.9522
C	-76222.994	-25704.656	-75866.2901	-25998.0899
D	-76227.160	-25699.249	-75870.4563	-25992.6836

図2 調査区配置図

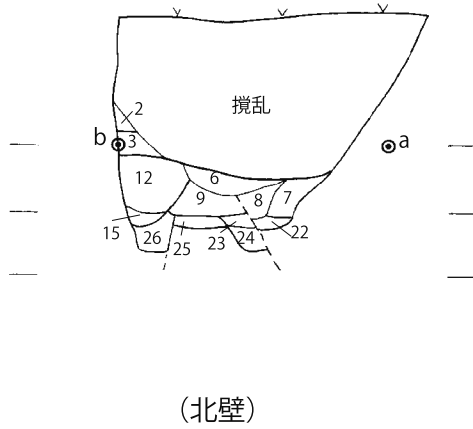
B  
⊙



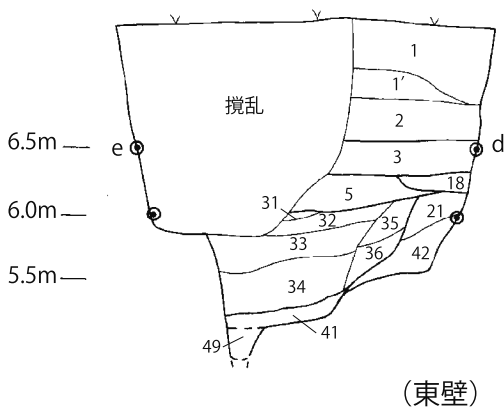
< 最終トレンチ位置図 >



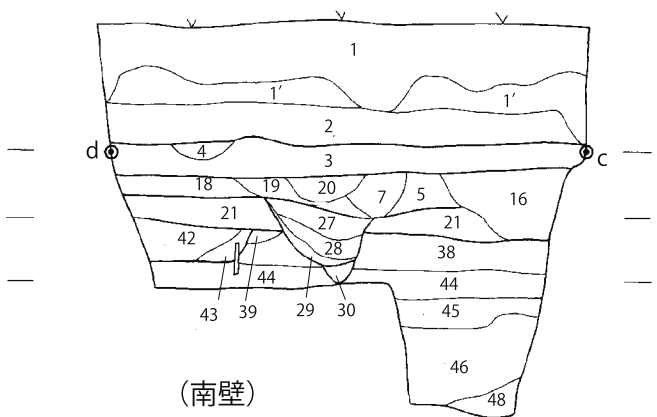
(西壁)



(北壁)



(東壁)



(南壁)

< 堆積土層図 >

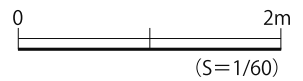


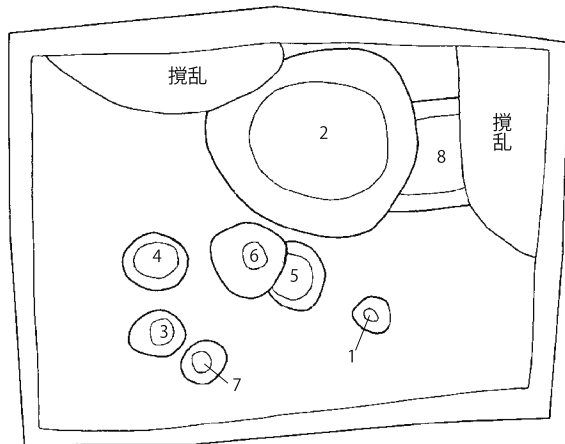
図3 堆積土層図・最終トレンチ位置図

<土層注記>

1. 表土：褐色弱粘質土（現代埋土）
- 1' 表土：褐色弱粘質土（近世耕作土）
2. 中世遺物包含層：黒褐色弱粘質土 泥岩粒多量・炭化物多量・玉石・硬く締まる
3. 暗褐色弱粘質土：泥岩(大)・泥岩粒多量・炭化物・玉石少量・砂質土・硬く締まる(第1面構成土)
4. 暗褐色弱粘質土：泥岩粒・炭化物多量・砂質土
5. 暗(茶)褐色弱粘質土：褐色砂質土多量・泥岩・泥岩粒少量・炭化物・有機質土・貝砂（第2面構成土）
6. 暗褐色砂質土：泥岩・泥岩粒少量
7. 暗褐色弱粘質土：泥岩少量・泥岩粒・炭化物多量、下層に貝砂・黄褐色砂質土多量
8. 褐色弱粘質土：褐色砂質土・泥岩多量・貝砂
9. 褐色砂質土：貝砂多量・黄褐色砂・有機質土
10. 暗褐色弱粘質土：泥岩粒少量・炭化物(遺構14)
11. 暗褐色弱粘質土：泥岩(大)多量・泥岩粒・貝砂少量・炭化物(遺構14)
12. 暗褐色弱粘質土：褐色砂質土・泥岩粒少量・炭化物・貝砂多量（遺構14）
13. 褐色砂質土：炭化物・褐鉄・粘質土(遺構14)
14. 暗褐色弱粘質土：褐色砂・炭化物多量・貝砂・有機質土・締まりなし(遺構14)
15. 暗褐色弱粘質土：炭化物・有機質土・貝砂（遺構14）
16. 暗褐色弱粘質土：泥岩多量・泥岩粒多量・炭化物・貝砂
17. 灰褐色砂質土：炭化物微量・貝砂
18. 褐色弱粘質土：泥岩粒・炭化物少量・貝砂少量(遺構15)
19. 暗褐色弱粘質土：泥岩・炭化物少量・玉石・砂質土(遺構15)
20. 暗褐色弱粘質土：泥岩粒・炭化物・褐鉄(遺構15)
21. 黄褐色砂質土：泥岩粒・炭化物・貝砂(第3面構成土)
22. 暗褐色弱粘質土：泥岩・泥岩粒・炭化物多量・貝砂多量・有機質土
23. 暗褐色砂質土：炭化物多量・貝砂少量
24. 暗褐色砂質土：炭化物・貝砂・有機質土(遺構22)
25. 暗褐色砂質土：炭化物多量・貝砂少量(遺構20)
26. 褐色砂質土：貝砂多量・黄褐色砂・有機質土
27. 黄褐色弱粘質土：褐色砂・泥岩・泥岩粒多量・炭化物（遺構18）
28. 暗褐色弱粘質土：炭化物・貝砂・有機質土(遺構18)
29. 暗褐色弱粘質土：褐色砂質土・貝砂・褐鉄(遺構18)
30. 黄褐色弱粘質土：泥岩少量・木片・有機質土
31. 炭褐色砂質土：炭化物(遺構25)
32. 褐色弱粘質土：褐色砂質土・炭化物多量・貝砂多量（遺構25）
33. 褐色砂質土：泥岩・泥岩粒少量・炭化物多量・貝砂多量・有機質土
34. 褐色弱粘質土：泥岩大多量・泥岩粒・炭化物・貝砂・有機質土(遺構25)
35. 褐色弱粘質土：褐色砂質土・泥岩粒少量・炭化物少量（遺構25掘方）
36. 褐色弱粘質土：黄褐色砂質土・泥岩・炭化物少量・貝砂少量（遺構25掘方）
37. 黄褐色弱粘質土：炭化物多量・貝砂多量・褐鉄・黄褐色砂多量な硬化面(第4面構成土)
38. 黒褐色弱粘質土：炭化物少量・貝砂・褐色砂・粘性強い（第4面構成土）
39. 灰褐色砂質土：炭化物微量・貝砂
40. 暗褐色弱粘質土：黄暗褐色砂多量・炭化物多量・有機質土
41. 青灰色砂質土：泥岩粒・炭化物(遺構25)
42. 茶褐色弱粘質土：泥岩粒少量・炭化物・貝砂・有機質土（遺構35）
43. 暗褐色弱粘質土：炭化物微量・貝砂・褐鉄（遺構35）
44. 黄褐色弱粘質土：泥岩少量・木片・有機質土
45. 黒褐色弱粘質土：泥岩粒・木片・有機質土・硬く締まる
46. 黒褐色弱粘質土：泥岩・木片・有機質土多量
47. 褐色弱粘質土：黄褐色弱粘質土・炭化物・有機質土
48. 黒褐色弱粘質土：青灰色弱粘質土・泥岩・木片・有機質土
49. 青灰色砂質土（風成砂層の基盤層か？）

B x-75891.5714  
 ● y-26016.9522

x-75895.000



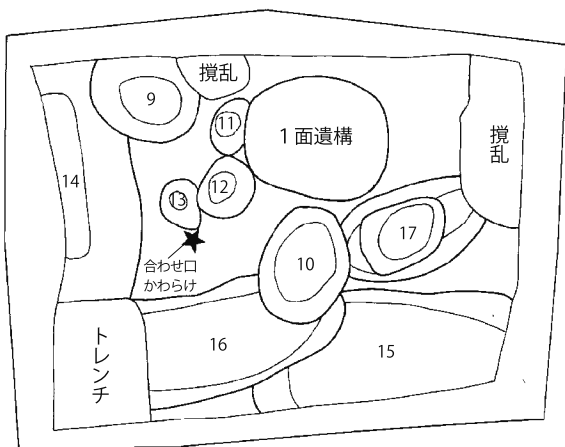
y-26015.000

● x-75896.3747  
 A y-26013.9525

< 第1面全測図 >

B x-75891.5714  
 ● y-26016.9522

x-75895.000



y-26015.000

● x-75896.3747  
 A y-26013.9525

< 第2面全測図 >

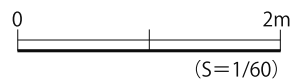
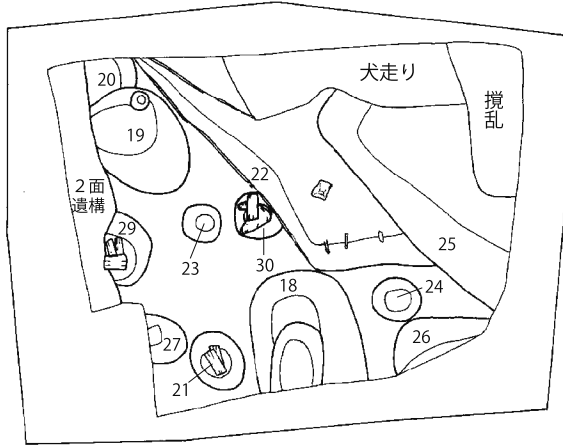


図4 第1面・第2面全測図

B x-75891.5714

● y-26016.9522

x-75895.000



y-26015.000

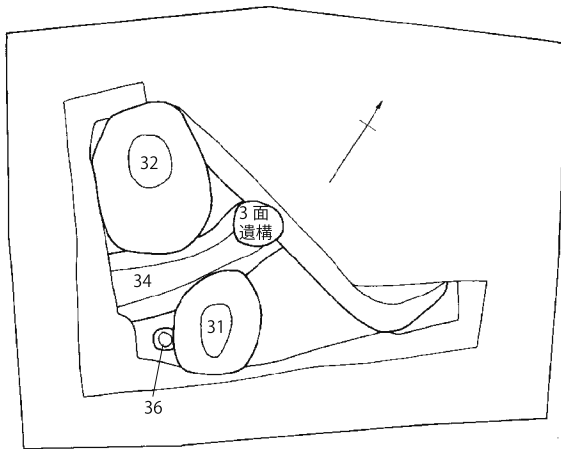
● x-75896.3747  
A y-26013.9525

< 第3面全測図 >

B x-75891.5714

● y-26016.9522

x-75895.000



y-26015.000

● x-75896.3747  
A y-26013.9525

< 第4面全測図 >

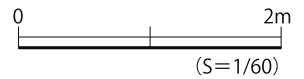


図5 第3面・第4面全測図

### 第三章 発見された遺構と遺物

本調査では現地表から約 60cm 下まで重機によって表土掘削を行ない、その後は人力によって遺構の発見・記録をした。調査区は南北 3.0m×東西 4.0m で、本報告では 4 面とした。報告の際の遺構番号は遺構確認時点もしくは整理段階で付したものであり、遺構の新旧を表すものではない。本文内では各面の特徴的な遺構・遺物出土のある遺構のみを説明しており、その他は各面ごとの遺構観察表にまとめて提示した。

出土遺物は遺物整理箱に総数 11 箱（うち木製品 4 箱）である。各面で発見した遺物の詳細は出土遺物観察表にまとめ、その他の遺物の様相は遺物破片数表を提示した。以下、発見した遺構は上層から下層の順に第 1 面から第 4 面・最終トレンチと分けて調査日誌を参考に事実記載を記した。調査開始前現地表の海拔は 7.4～7.5m 前後である。

#### 第 1 節 第 1 面の遺構と遺物（図 4・6～9）

地表下約 60cm（海拔 6.8～6.9m）の表土層直下で版築のように硬く締まる泥岩粒多量・炭化物多量・玉石を含む暗褐色弱粘質土を検出し、遺構の精査を試みた。しかし中世遺物は混入するものの、遺構の検出が伴わず、更に 40cm 掘り下げた海拔 6.5m 前後で検出の大型泥岩・泥岩粒多量・炭化物・玉石少量を含む硬く締まった暗褐色弱粘質土上を第 1 面とした。検出遺構は 8 基だが、大型土坑の遺構 2・8 以外は覆土等を確認しても明確に遺構とは言い難い。

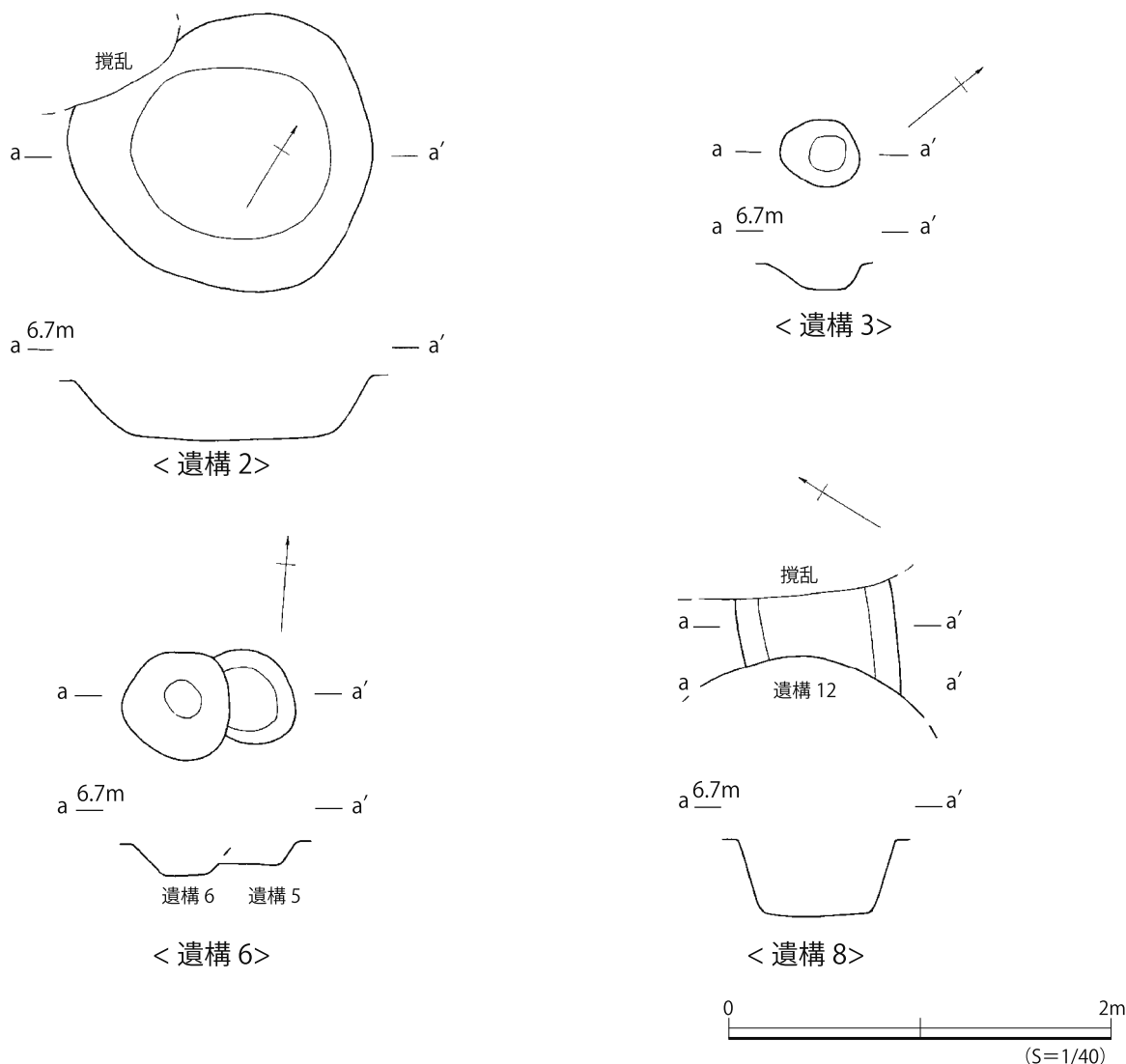


図 6 第 1 面各遺構

## 遺構 2 (図 6～7)

調査区北部で検出された楕円形状の大型土坑。遺構 8 を切る。検出規模は長軸 159×短軸 145cm、確認面からの深さ 33cm (海拔 6.2m) 前後を測る。覆土は炭化物・玉石を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-24° -W を示す。

出土遺物：図 7-1 は小型かわらけ。2 はかわらけ質の小型短頸壺。胎土は焼成良好な砂の少ない粉質土。3 は青磁鎗連弁文碗。4～8 は常滑諸製品。4 は片口鉢Ⅱ類で、口縁端部は方形で平坦面をもつタイプである。5 は口径 20 cm 強となるため、大型広口壺とした。6～7 は甕。6 は口縁部が N 字状を呈する。8 は常滑甕の転用研磨陶片。

## 遺構 3 (図 6～7)

調査区南西部で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸 42cm×短軸 35cm、確認面からの深さ 13cm (海拔 6.4m) 前後を測る。覆土は砂質土混入・炭化物微量を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-49° -W を示す。

出土遺物：図 7-9 は瀬戸卸皿底部片。未調整の平底で、内底面の灰釉は一部飴色となる。10 は口縁部が N 字状を呈する常滑甕口縁部片。

## 遺構 6 (図 6～7)

調査区中央部で検出された円形状小ピット。遺構 5 を切る。検出規模は長軸 56cm×短軸 56cm、確認面からの深さ 15cm (海拔 6.35m) 前後を測る。覆土は砂質土混入・泥岩・泥岩粒微量の炭化物を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-36° -W を示す。

出土遺物：図 7-11 は常滑甕の底部片。12 は瓦器碗の底部片で、内底面見込みに菊花状の暗文。13 は鉄釘。

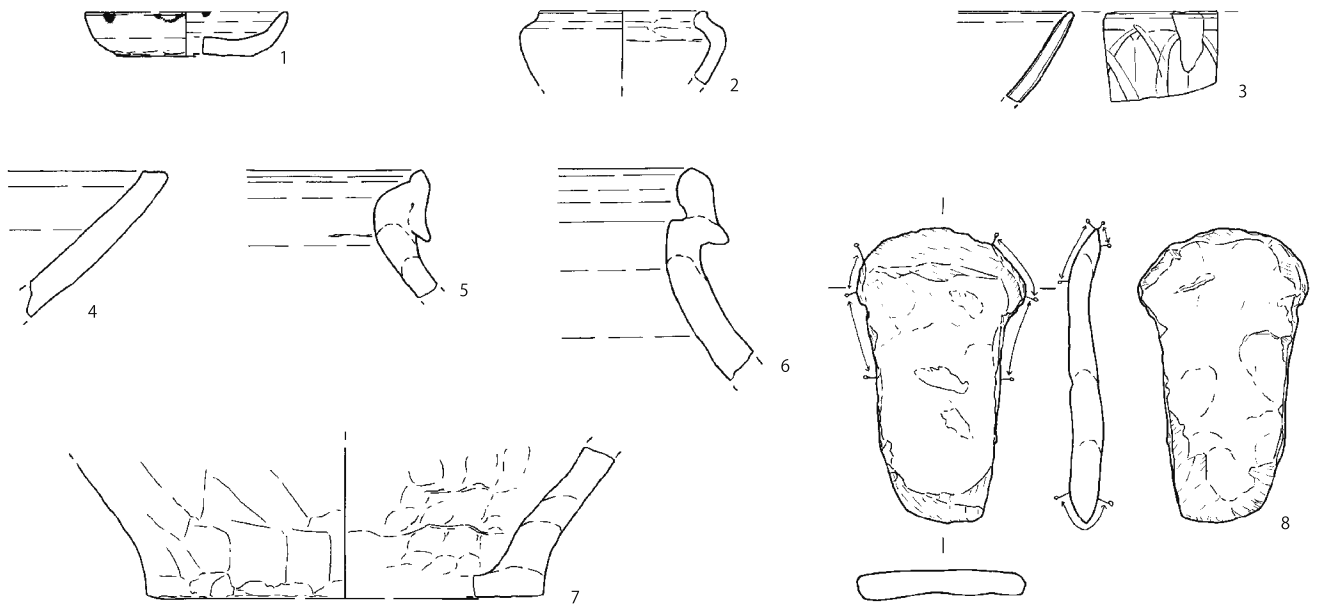
## 遺構 8 (図 6～7)

調査区北東部で検出された楕円形状土坑。遺構 2 に切られる。検出規模は長軸 70cm 以上×短軸 80cm、確認面からの深さ 40cm (海拔 6.1m) 前後を測る。覆土は炭化物・玉石を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-51° -E を示す。調査時は第 2 面遺構としたが、遺構 2 調査中に大型泥岩混入を覆土とした遺構の重複を確認。その状況は攪乱 1 の断面からも確認できた為、第 1 面下の遺構と考え、ここに示した。

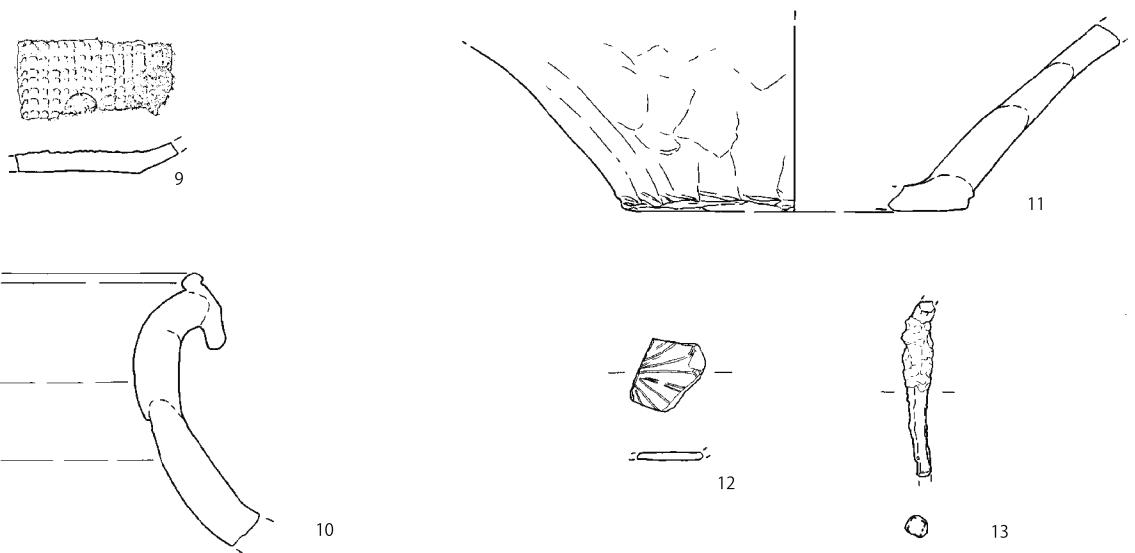
出土遺物：図 7-14 は大型かわらけ。体部下位に強い稜をもつ器壁は、やや内弯しながら立ちがある。15 は青磁の無文皿。16 は常滑片口鉢Ⅰ類の口縁部片。17～18 は金属製品。17 は鉄釘で、両端部欠損。18 は刀子 (小刀か)。厚い錆ぶくれで砂粒・砂礫が付着し、目釘穴は確認できない。かわらけ小片や数本の釘が刀子を挟むように重なっていた為、著しい腐蝕となっていた。わずかに薄い木片のような繊維質と刃部に紐を巻き付けたような痕跡あり。紐らしき部分は、土中で分解されたのか青灰色の砂粒となって消失か。木製の鞘部分が筒状ではなく、挟み込み紐で巻き付けるタイプの可能性も考えられる。

表 1-1 第 1 面遺構観察表

遺構No.	覆土		長軸	短軸	深さ
遺構1	暗褐色弱粘質土	砂質土・炭化物微量	28	27	20
遺構2	暗褐色弱粘質土	泥岩多量・泥岩粒・炭化物・玉石	159	145	33
遺構3	暗褐色弱粘質土	炭化物微量・砂質土混入	42	35	13
遺構4	暗褐色弱粘質土	泥岩・炭化物・玉石・貝(アカニシ)多量	47	4.2	19
遺構5	暗褐色弱粘質土	泥岩多量・炭化物微量・玉石	50	34	10
遺構6	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・砂質土	56	56	15
遺構7	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒	35	30	13
遺構8	暗褐色弱粘質土	大型泥岩・安山岩・炭化物微量	(70)	80	40

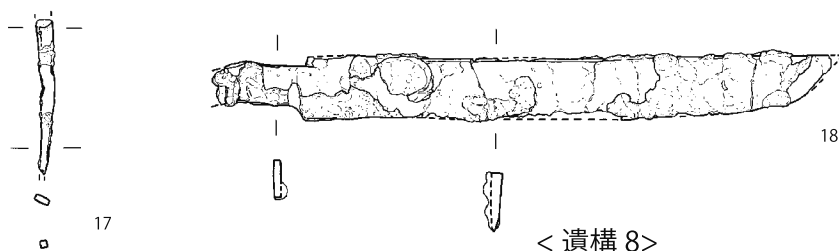
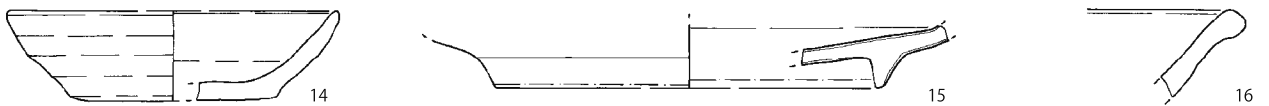


<遺構 2>



<遺構 3>

<遺構 6>



<遺構 8>

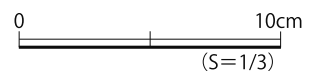


図7 第1面各遺構・出土遺物



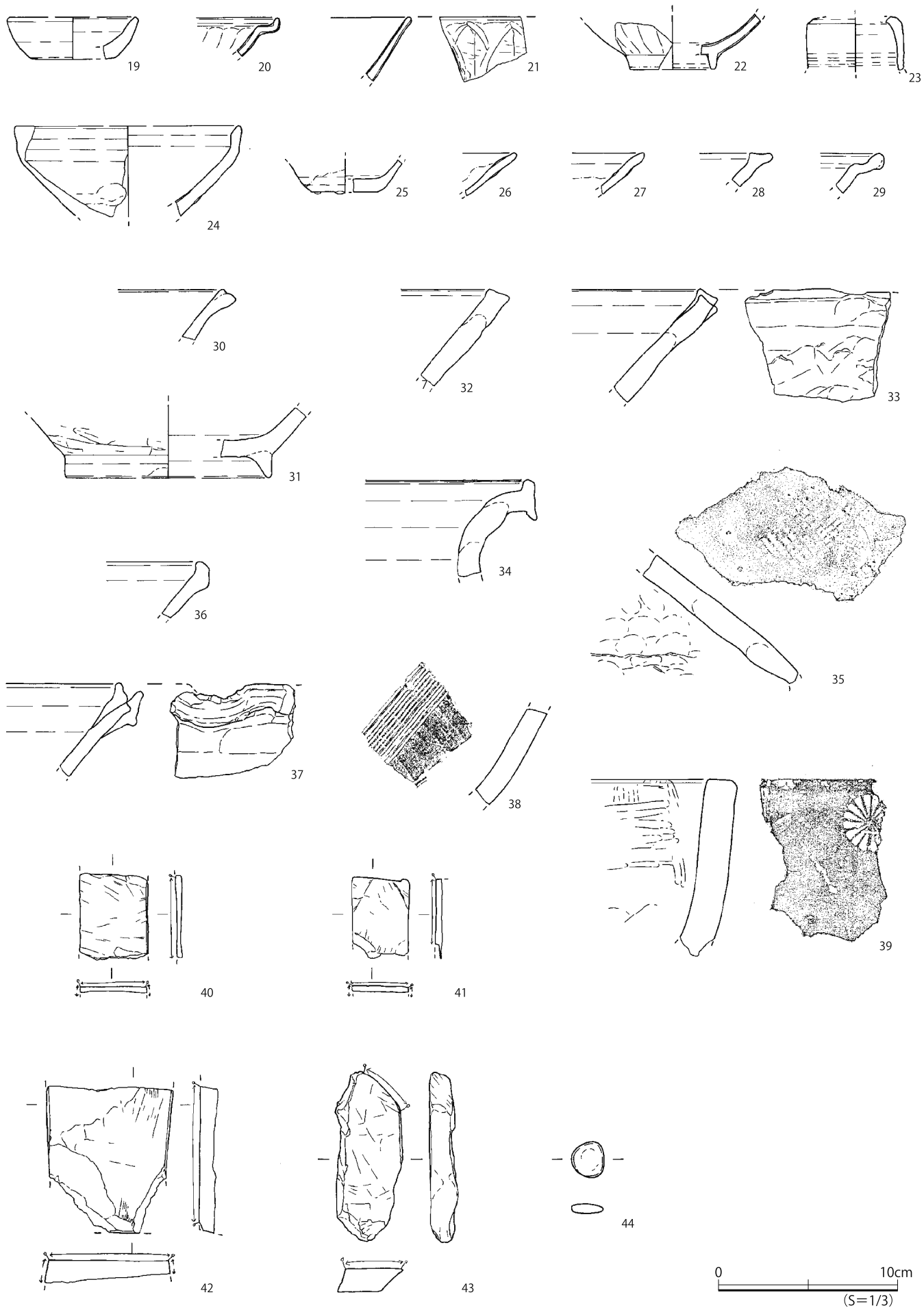


图8 第1面面上・出土遺物

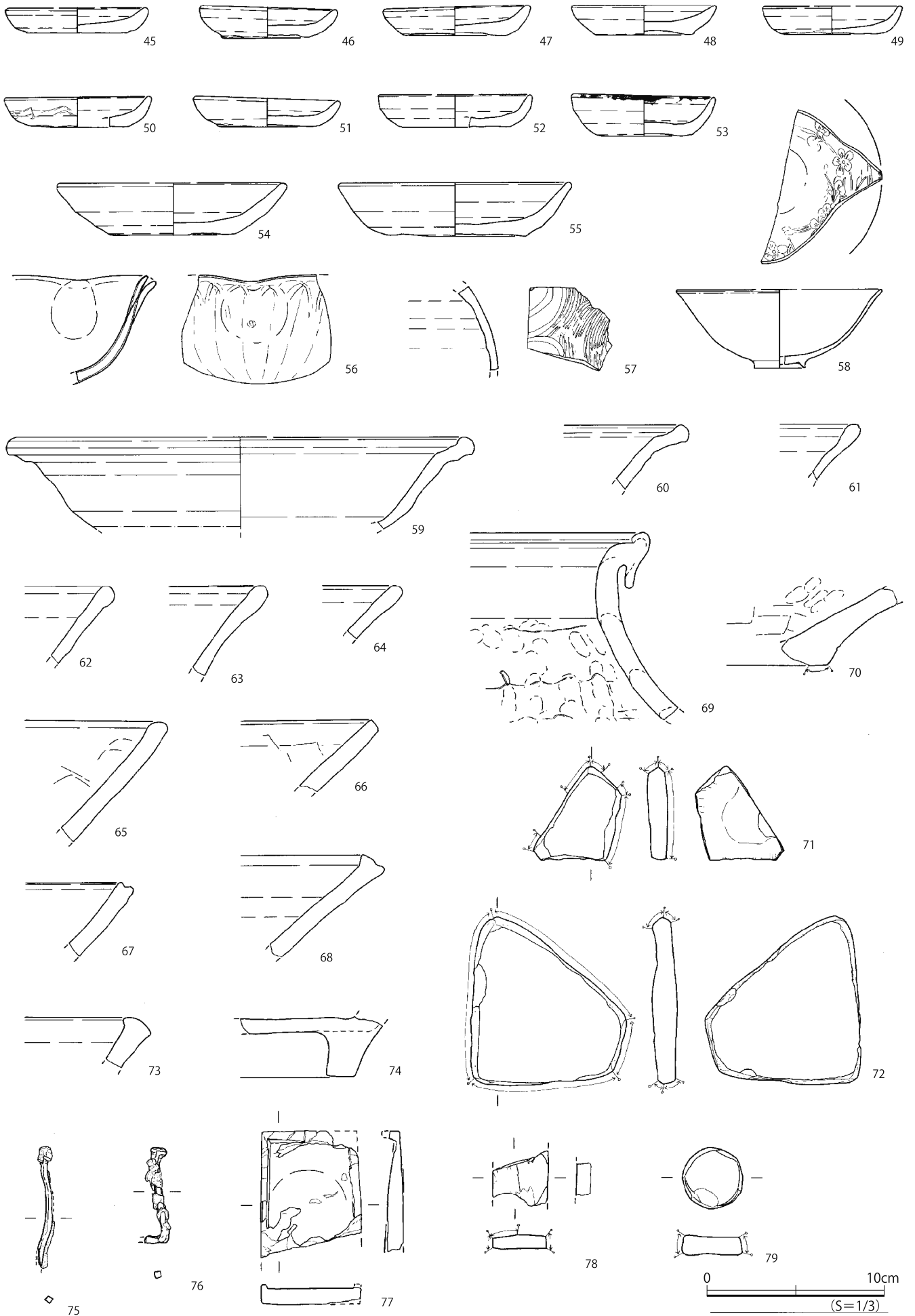


图9 第1面構成土・出土遺物

## 第1面面上・構成土・出土遺物（図8～9）

図8-19～44は面上出土遺物。19は小型かわらけ。20は青磁折縁鉢、21～22は青磁鎚連弁文碗、23は青白磁梅瓶の蓋。24～29は瀬戸窯諸製品。24は天目茶碗。鉄釉を厚く漬け掛け。25は器形的に輪花型の入子とした。体部内外面は淡灰緑色を呈する自然釉が掛かる。26は緑釉、27は鉄釉の縁釉小皿。内外面口縁部に厚く漬け掛けし、体部～底部は露胎。28は卸皿、29は折縁深皿。概ね瀬戸窯は後期前半か。30～35は常滑窯諸製品。30～31は片口鉢Ⅰ類。31は口唇部に沈線のような陵が巡る。32は内面の摩滅顕著。32～33は片口鉢Ⅱ類、34～35は甕。36～37は東播系こね鉢、38は備前すり鉢。条線は11本確認できる。39は瓦器質輪花型火鉢、40～42は鳴滝産仕上砥、42～43は赤間ヶ石産硯転用の研磨製品。44は基石か。

図9-45～79は構成土出土遺物。45～53は小型、54～55は大型かわらけ。56は青磁鎚連弁文碗。暗灰緑色不透明釉をやや厚く施釉し、内外面に細かな貫入（氷裂文様を意識したか）が入る。口縁部内外面の凹凸は輪花状（6弁）に成形した可能性も示唆する。57は青白磁梅瓶。58は内面に梅花文を配する白磁口元印花文碗。新安枢府様式系の碗かと鎌倉市教育委員会玉林美男氏にご教示頂く。59～60は瀬戸折縁深皿。61は尾張型山茶碗。62～72は常滑諸製品。62～64は片口鉢Ⅰ類、65～68は片口鉢Ⅱ類。69～70は甕。70の甕底部に磨り痕あり。71～72は転用研磨製品。73～74は瓦質～瓦器質火鉢。75～76は鉄釘。77は鳴滝産長方硯。78は砥石仕上砥、79は円盤状土製品。

## 第2節 第2面の遺構と遺物（図4・10～12）

第2面に向けて掘り下げるものの、明確な層の違いが判らずに少しずつ掘り下げて調査を行った。その結果、第2面は海拔6.3～6.4m前後で検出された褐色砂質土多量・泥岩・泥岩粒少量・炭化物・有機質土・貝砂を含む暗（茶）褐色弱粘質土上とした。狭い調査区の中で大型の方形状土坑が切りあい、概ね暗茶褐色砂質土を覆土とした土坑6基・ピット3穴を検出した。遺構13の南側で13世紀後半と推定できる合わせ口かわらけが構成土中から出土している（図4の★印＝出土地点）。合わせ口かわらけに伴う遺構を見逃した可能性は大きい。合わせ口の中は土のみで、特殊なものは含まれていない。

### 遺構9（図4・10～11）

調査区北西部で検出された楕円形状土坑。遺構14より新しく、東側は攪乱に切られる。検出規模は長軸85×短軸66cm、確認面からの深さ23cm（海拔6.1m）前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒多量・炭化物・貝砂を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN-60°-Eを示す。

出土遺物：図8-80～82はかわらけ。80は小型の手づくね、81は小型、82は大型。83は青磁連弁文碗。

### 遺構10（図10～11）

調査区中央部で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸88cm×短軸66cm、確認面からの深さ18cm（海拔6.15m）前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物多・貝砂・砂質土を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN-30°-Wを示す。

出土遺物：図10-84～85は小型かわらけ。

### 遺構11（図10～11）

調査区中央部で検出された楕円形状小ピット。第1面遺構に切られる。検出規模は長軸47cm×短軸30cm、確認面からの深さ25cm（海拔6.05m）前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物・玉石を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN-17°-Wを示す。

出土遺物：図11-86は小型かわらけ。

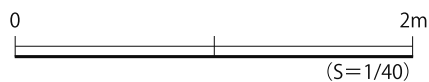
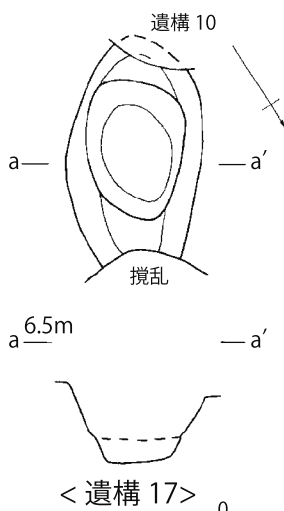
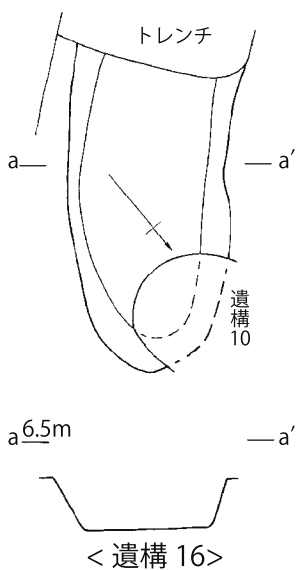
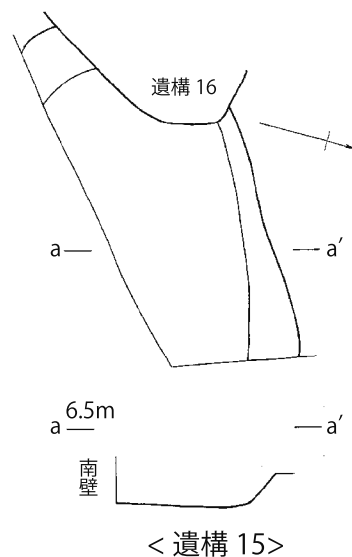
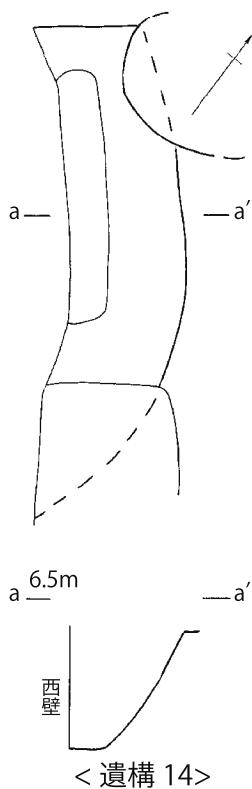
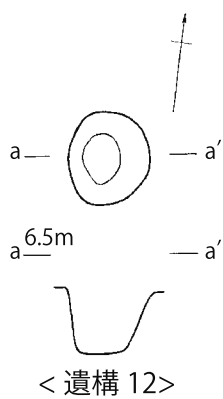
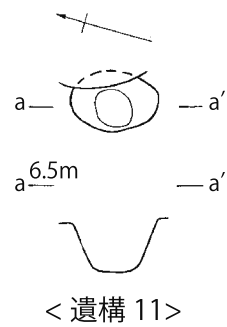
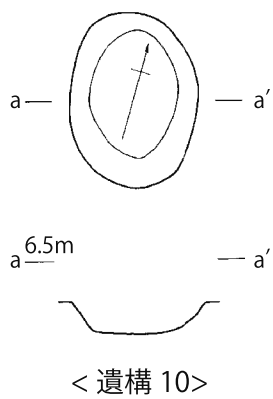
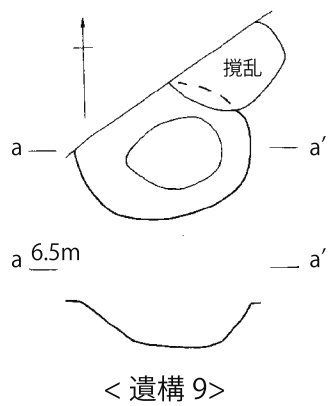


図 10 第 2 面各遺構

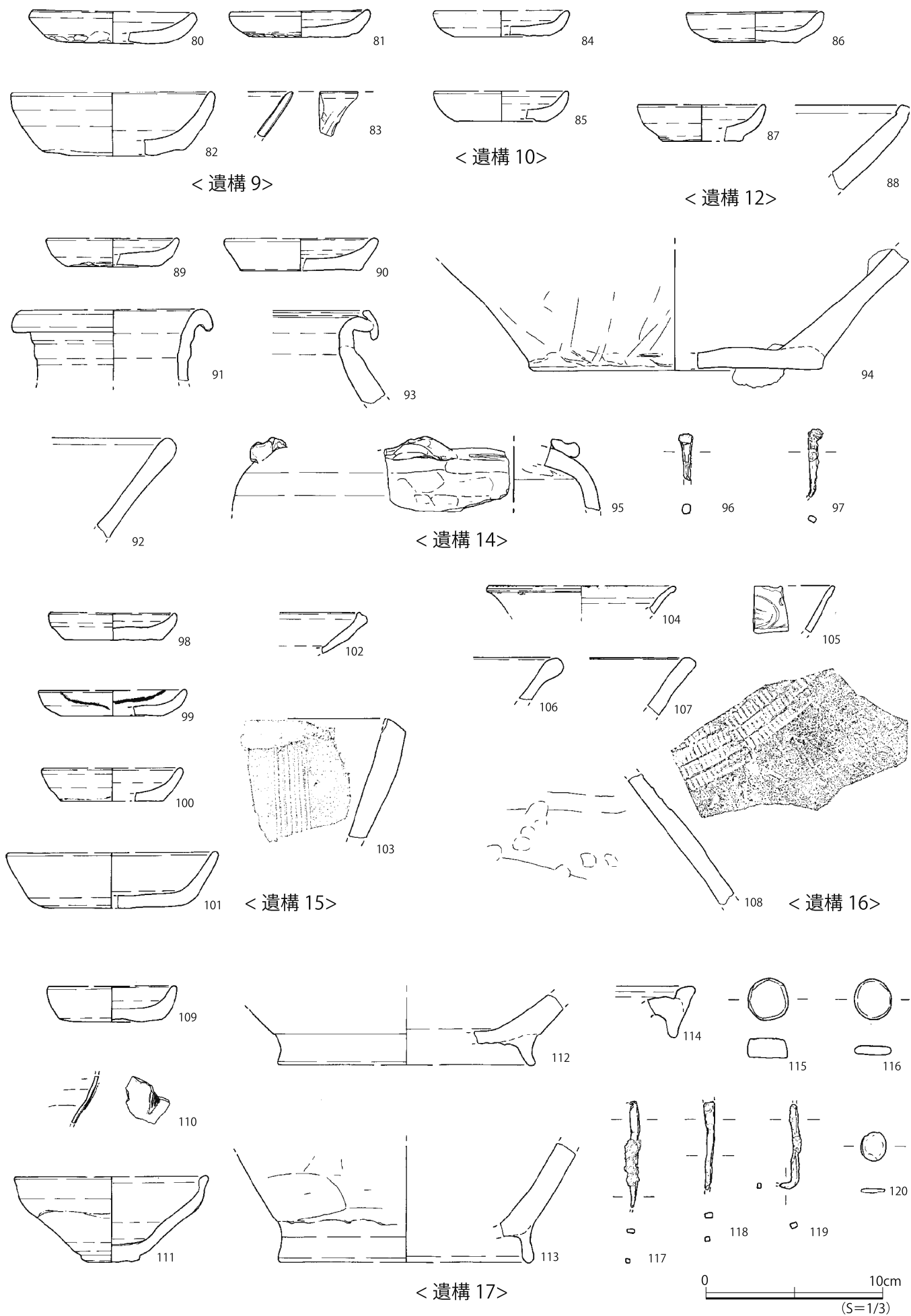


图 11 第 2 面各遺構・出土遺物

**遺構 1 2 (図 1 0 ~ 1 1)**

調査区北中央部で検出された楕円形状ピット。検出規模は長軸 45cm 以上×短軸 40cm、確認面からの深さ 30cm (海拔 6.1m) 前後を測る。覆土は大型泥岩・炭化物多・玉石を含む暗褐色弱粘質土。遺構底面には破碎泥岩が密につき、根固めの可能性もあり。南北軸方位は N-15° -W を示す。

出土遺物：図 11-87 は小型かわらけ。88 は常滑片口鉢Ⅱ類。

**遺構 1 4 (図 1 0 ~ 1 1)**

調査区西部で検出された方形状大型土坑。遺構の西半分は壁にかかる。検出規模は長軸 250cm 以上×短軸 68cm 以上、確認面からの深さ 18cm (海拔 6.0m) 前後を測る。覆土は砂質土混入・泥岩・泥岩粒微量の炭化物を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-37° -W を示す。

出土遺物：図 11-89~90 は小型かわらけ。91 は白磁壺。92 は常滑片口鉢Ⅰ類。93~94 は常滑甕。95 は産地不明陶器の四耳壺。常滑四耳壺を模倣した中世窯の製品と推測される。96~97 は鉄釘。

**遺構 1 5 (図 1 0 ~ 1 1)**

調査区南東部で検出された方形状大型土坑。遺構 16 に切られる。検出規模は長軸 183cm 以上×短軸 84cm 以上、確認面からの深さ 15cm (海拔 6.35m) 前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒多・泥岩・固く締まる砂質土が混入する暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-60° -E を示す。

出土遺物：図 11-98~101 はかわらけ。98~100 は小型、101 は大型。102 は瀬戸卸皿。103 は備前播鉢。

**遺構 1 6 (図 1 0 ~ 1 1)**

調査区南西部で検出された楕円形状大型土坑。西側はトレンチ、東側は遺構 10 に切られる。検出規模は長軸 154cm×短軸 80cm、確認面からの深さ 27cm (海拔 6.05m) 前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒多・炭化物・貝砂・砂質土を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-39° -E を示す。

出土遺物：図 7-104~105 は青磁舶載品。104 は皿、105 は画花文碗。106~108 は常滑窯諸製品。106 は片口鉢Ⅰ類、107 は片口鉢Ⅱ類、108 は甕肩部の押印文。

**遺構 1 7 (図 1 0 ~ 1 1)**

調査区西部で検出された楕円形状土坑。西側は遺構 10、東側は攪乱 1 に切られる。検出規模は長軸 110cm×短軸 70cm、確認面からの深さ 30cm (海拔 6.0m) 前後を測る。更に遺構底面直下から 3 面までの遺構を検出。検出規模は長軸 70cm×短軸 50cm、確認面からの深さ 10cm (海拔 5.9m) 前後を測る。共に覆土は泥岩・泥岩粒。炭化物・貝砂を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-38° -E を示す。

出土遺物：図 17-109 は小型かわらけ。110 は青白磁器種不明品。草花文様の貼付壺または水注等の袋物か。気泡多く、失透気味。111 は舶載天目茶碗。黒褐釉を厚く施釉している。112~113 は常滑窯諸製品。112~113 は片口鉢Ⅰ類、114 は甕。112 の内面の摩滅痕は顕著。共に第 6a~6b 型式の製品と推測できる。115 はかわらけ転用の円盤状土製品。116 は石製品の基石か。117~119 は鉄釘。120 は骨製品の基石か。

表 1-2 第 2 面遺構観察表

遺構No.	覆土		長軸	短軸	深さ
遺構9	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒多量・炭化物・貝砂	85	66	23
遺構10	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物多量・貝砂・砂質土	88	66	18
遺構11	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・玉石	47	30	25
遺構12	暗褐色弱粘質土	大型泥岩・炭化物多量・玉石	45	40	30
遺構13	暗褐色弱粘質土	泥岩粒多量・炭化物・貝砂・砂質土	40	30	12
遺構14	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・玉石多量・固く締まる	(250)	(68)	59
遺構15	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒多量・炭化物・固く締まる	(183)	(84)	18
遺構16	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒多量・炭化物・貝砂・砂質土	(154)	80	27
遺構17	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・貝砂少量	(110)	70	30

## 第2面面上・構成土・出土遺物（図12）

図12-121~127は面上出土遺物。121は小型かわらけ。122~123は瀬戸卸皿。123の卸目は深く鋭く、使用の痕跡はみられない。共に体部中位まで灰釉を施し、底部は露胎となる。概ね中期頃の製品か。124は常滑片口鉢I類。125~126は鉄釘。127は鳴滝産仕上砥。

図12-128~140は構成土出土遺物。128~130は小型、131~132は図4の★印より合わせ口で出土した大型かわらけ。これに伴う遺構を見逃した可能性は大きい。かわらけは泥岩粒・砂粒を含む粗土気味な胎土で、口径が小型化し全体的にぼってりとしている。概ね13世紀後半代と考えられる。合わせ口の中は土のみで、特殊的なもの含まれていない。133~134は青磁鎚連弁文碗。135は白磁口兀碗か皿。136は常滑甕の押印文で、巴文を呈する。137は瓦質火鉢。138は鉄釘。139はU字型の原体を切り取った後の獣骨の加工骨。140は土師器の相模型甕。口縁部はヨコナデ、内面頸部にヘラミガキ調整あり。

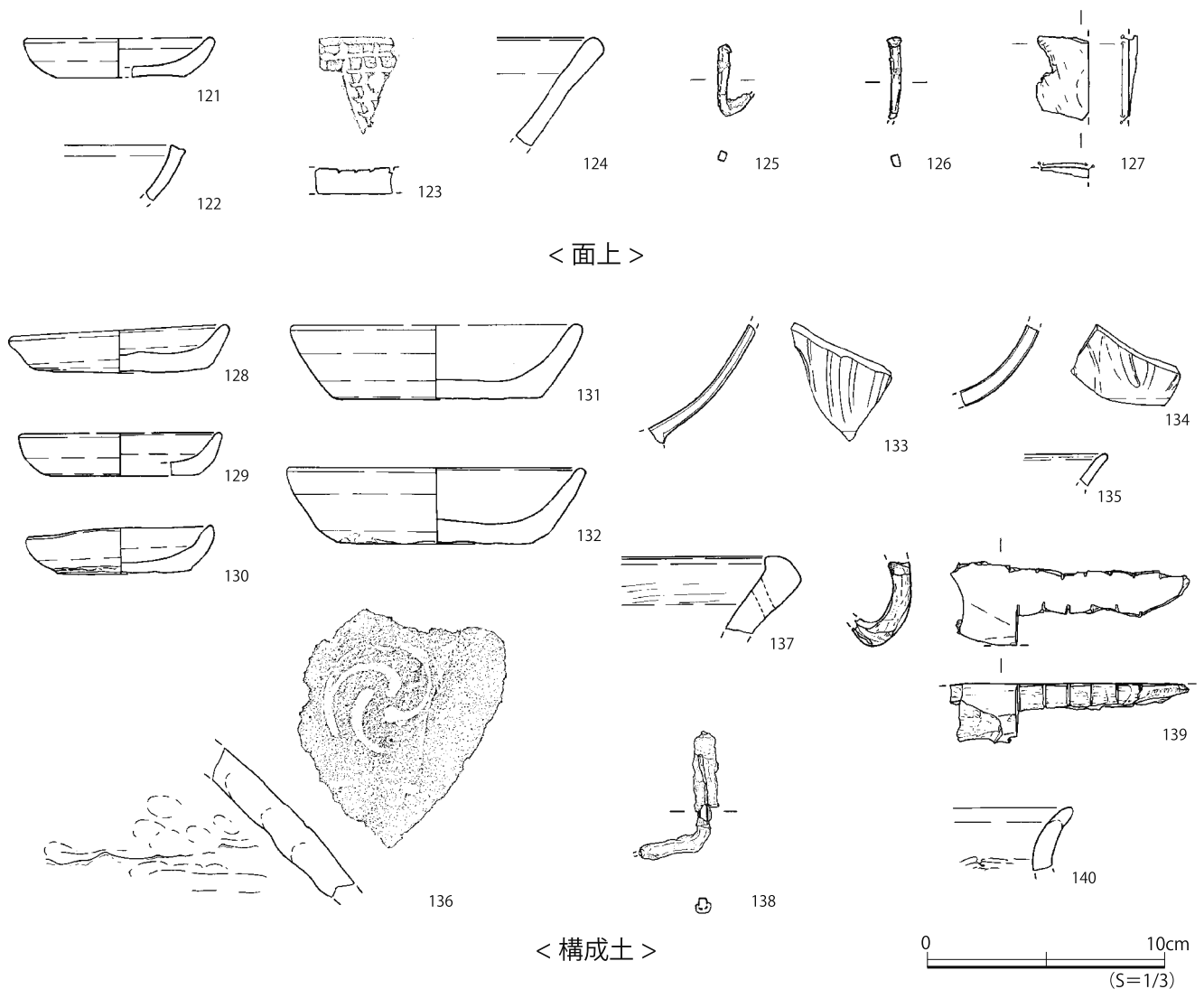


図12 第2面面上・構成土・出土遺物

### 第3節 第3面の遺構と遺物（図5・13～16）

第3面は海拔6.1～6.2m前後で検出された泥岩粒・炭化物・貝砂含む、部分的に上層硬化した黄褐色砂質土上とした。板壁かと思われる側板を伴う建築址2軒の切り合いを中心に土坑3基、ピット7穴を検出し、本調査の中で最も遺構密度の高い生活面となる。概ね覆土は3種類に分類され、新しい順から暗褐色弱粘質土→褐色弱粘質土→黒褐色弱粘質土と新旧が分けられる。構成土中には炭化物・焼痕の残る木製品や遺構22に伴う部材もみられる。ここでは遺構の番号順ではなく、建物址を中心に説明していく。

#### 遺構22・25（図5・13～15）

遺構22は調査区北部で検出された板壁かと思われる側板を伴う方形竪穴建物。北側は調査区外・東側は遺構25に切られるため、全体の形状・規模は不明。当初の遺構検出時においては遺構22が遺構25を切っていたが、東西セクションにより遺構22の上方に別の遺構の堆積土を確認し、遺構25に切られることが判明した。遺構22の北壁・東壁は攪乱の為、上方に検出した遺構の様相は確認できなかった。板壁かと思われる横板は、上面の削平や廃棄の際に抜かれたものか遺存状況は良くない。杭と杭の間に横板を挟んでいた様相があり、杭Bを見る限り杭に伴う掘り込みや礎板はなく、先端を加工し尖らせていたことから打ち込まれた可能性がある。また北東側にやや平行して検出された横板は、遺構22の上方で検出された遺構に伴うと考えられる。検出規模は長軸220cm以上×短軸64cm以上、遺構深度22cm（海拔5.65m）前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物・貝砂・有機質土・遺物片を含む黒褐色弱粘質土。南北軸方位はN-97°-Eを示す。

遺構25は調査区北東部で検出された方形竪穴建物。遺構22を切る。調査区外に広がるため、全体の形状・規模は不明。検出規模は長軸204×短軸130cm、遺構深度68cm（海拔5.17m）前後を測る。覆土は泥岩塊多量・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む褐色弱粘質土。南北軸方位はN-79°-Wを示す。両遺構は第3面遺構35と新旧関係にあり、短期間での作り替えが考えられる。下層より基盤層の可能性のある青灰色砂質土を確認。

出土遺物：図14-141～158は遺構22出土遺物。141～144は小型、145は大型かわらけ。146は青磁皿もしくは浅型碗か。147～153は常滑窯諸製品。147は片口碗、148は山茶碗、149～150は片口鉢Ⅰ類、151～152は片口鉢Ⅱ類。153は甕の押印文。154～158は木製品。154は下駄、155は篋状木製品。156～157は杭、158は柱。その他に大型・小型かわらけ、青磁鎚連弁文碗・無文碗、白磁碗、常滑片口鉢Ⅰ・Ⅱ類、尾張型山茶碗、火鉢、獣骨が出土。

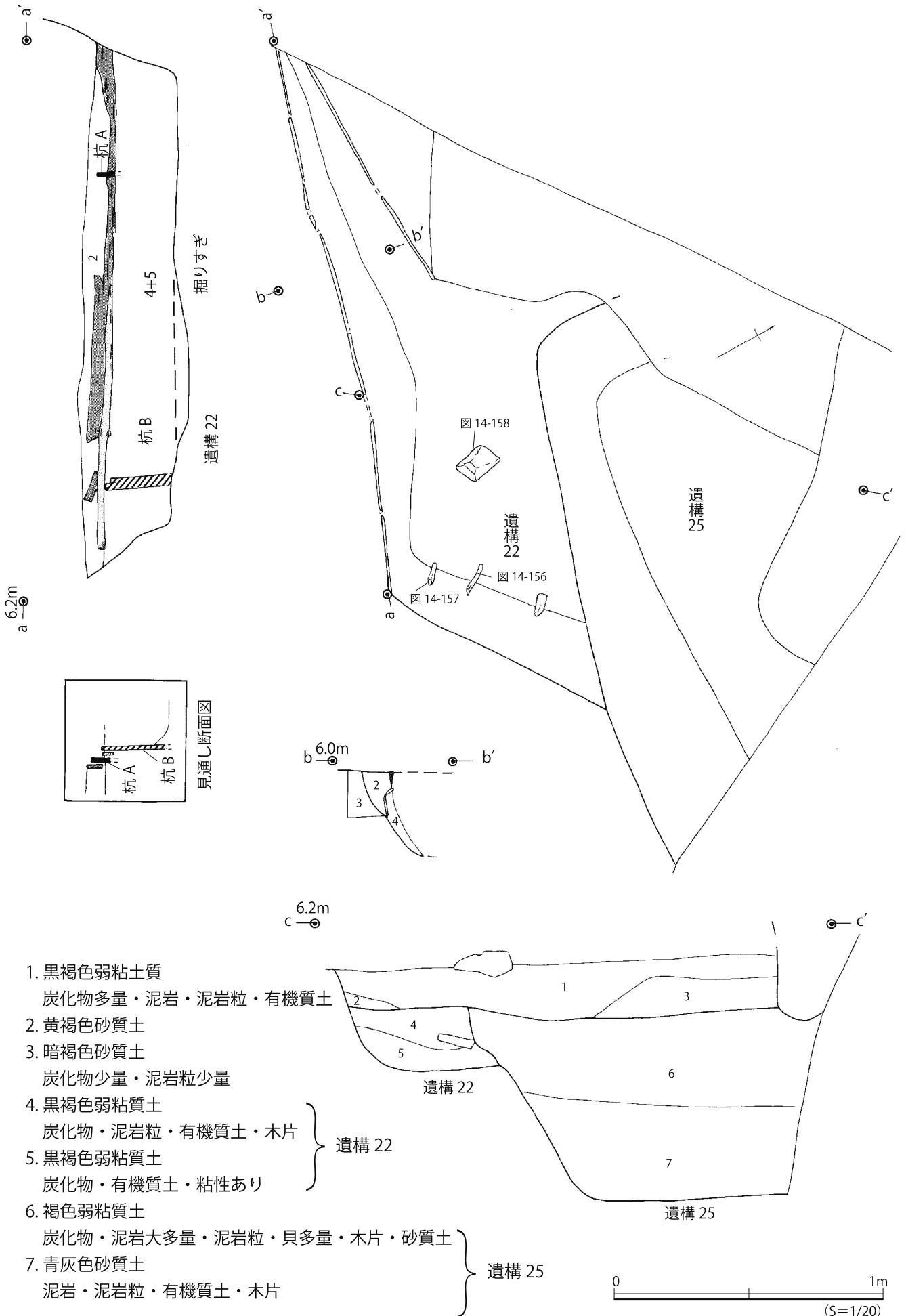
図15-159～171は遺構25出土遺物。159は大型手づくね、160～161は小型かわらけ。162は青磁鎚連弁文碗。163～164は産地不明（瀬戸美濃窯か）の筒状容器の蓋と身で対の可能性あり。共に胎土は黒色微砂を少量含む精良土で、全体的に丁寧なナデ調整、蓋の天井部は回転ヘラ削り調整が施される。接合できない破片は別遺物として集計した。165～168は常滑諸製品。165は片口鉢Ⅱ類、166は甕、167～168は甕転用研磨製品。169～171は木製品。169は箸状、170～171は用途不明。

#### 柱穴列—遺構21・24・29・30（図5・16）

調査区南西部で検出された円形～楕円形状のピット群。遺構24以外は礎板を伴う為、調査区西側または南側に展開する掘立柱建物址を想定して提示した。検出規模は南北×東西1間で、海拔5.8～5.9m前後に検出される礎板の柱間距離は遺構21-29・29-33は1.0m、遺構21-24は1.45m、遺構24-30は1.2mである。遺構30のみ、礎板の下に海拔5.7m前後で礎石を検出しており、下の遺構が絡んでいる可能性もある。覆土は砂質土混入・泥岩・泥岩粒微量の炭化物を含む暗褐色～黒褐色弱粘質土。柱穴列の南北軸方位はN-38°-Eを示す。

出土遺物：図16-178は遺構21出土の瓦器質火鉢。





- 1. 黒褐色弱粘土質  
炭化物多量・泥岩・泥岩粒・有機質土
- 2. 黄褐色砂質土
- 3. 暗褐色砂質土  
炭化物少量・泥岩粒少量
- 4. 黒褐色弱粘質土  
炭化物・泥岩粒・有機質土・木片
- 5. 黒褐色弱粘質土  
炭化物・有機質土・粘性あり
- 6. 褐色弱粘質土  
炭化物・泥岩大多量・泥岩粒・貝多量・木片・砂質土
- 7. 青灰色砂質土  
泥岩・泥岩粒・有機質土・木片

図 13 第 3 面遺構 22・25

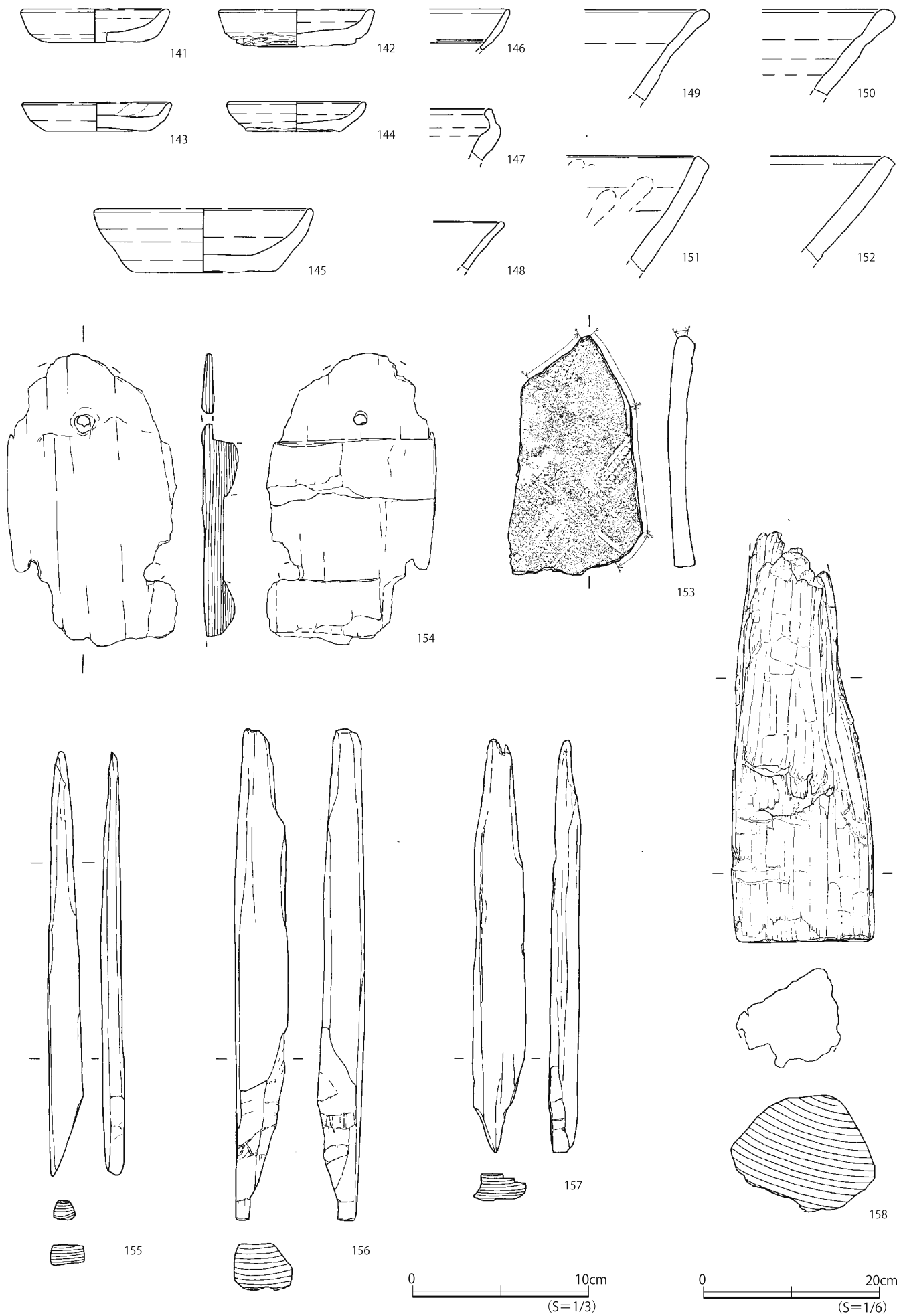


图 14 第 3 面遺構 22・出土遺物

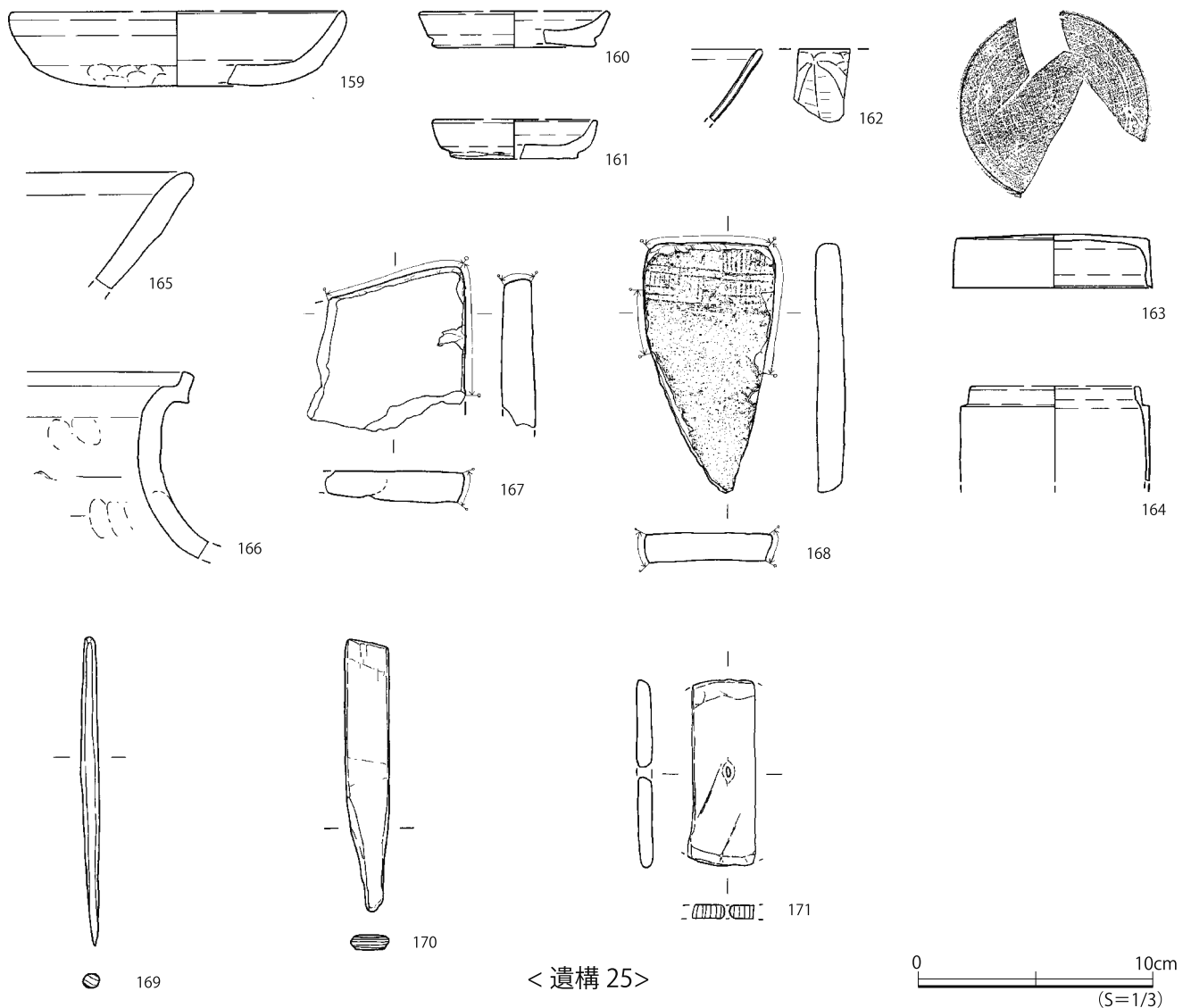


図15 第3面遺構25・出土遺物

**遺構18 (図5・16)**

調査区南部で検出された方形状土坑。南側は調査区南壁にかかる。検出規模は長軸 89cm 以上×短軸 82cm、確認面からの深さ 39cm (海拔 5.65m) 前後を測る。更に遺構底面直下から4面までの遺構を検出。検出規模は長軸 52cm 以上×短軸 40cm、確認面からの深さ 12cm (海拔 5.5m) 前後を測る。覆土は黄褐色弱粘質土～暗褐色弱粘質土で、底面下遺構は木片・有機質土を含む。南北軸方位は N-30° -W を示す。

出土遺物：図 16-172 は大型かわらけ。173 は器種不明の近世舶載陶器。盤であろうか。調査区南壁に接した遺構の為、調査区外表土からの混入と考える。

**遺構19 (図5・16)**

調査区北西部で検出された楕円形状土坑。西側は調査区外、北側は遺構 20 を切る。検出規模は長軸 89cm ×短軸 67cm 以上、確認面からの深さ 30cm (海拔 5.8m) 前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物少・貝砂少・木片を含む底面硬土な暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-42° -E を示す。遺構底面南東部に 15cm 内外の小ピットを伴う。

出土遺物：図 16-174 は小型かわらけ。175 は青磁無文碗。176 は渥美片口碗、177 は渥美壺。

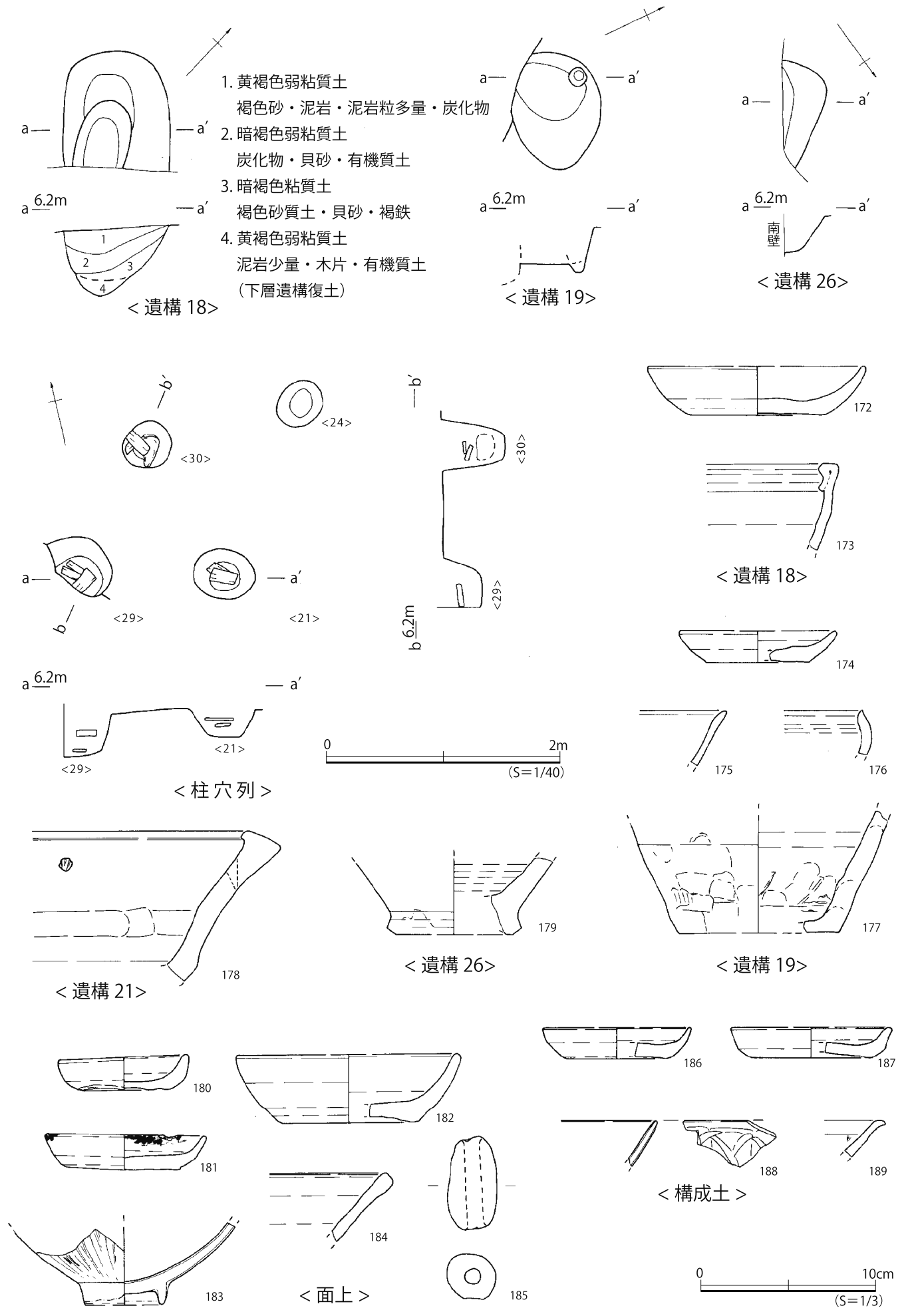


图 16 第 3 面各遺構出土遺物

### 遺構 26 (図 5・16)

調査区南東部で検出された方形状土坑。東側・北側は調査区外に広がる。検出規模は長軸 70cm 以上×短軸 38cm 以上、確認面からの深さ 30cm (海拔 5.85m) 前後を測る。覆土は泥岩粒多・有機質土・黄褐色砂質土を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-122° -W を示す。

出土遺物：図 16-179 は白磁四磁壺の底部片。

### 第 3 面面上・構成土・出土遺物 (図 16)

図 16-180~185 は面上出土遺物。180~181 は大型、182 は小型糸切りかわらけ。181 は口唇部に油煤痕があり、灯明皿とする。183 は青磁鎗連弁文碗。184 は常滑片口鉢 I 類。185 は土錘。

図 16-186~189 は構成土出土遺物。186~187 は小型糸切りかわらけ。188 は青磁鎗連弁文碗。189 は白磁皿か。

表 1-3 第 3 面遺構観察表

遺構No.	覆土		長軸	短軸	深さ
遺構 18	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・木片・有機質土・貝砂少・玉石 ・底面粘土質多	89	82	39(50)
遺構 19	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物少・貝砂少・木片・底面硬土	90	(67)	33
遺構 20	暗褐色弱粘質土	炭化物多・有機質土多・貝砂・木片	(47)	(34)	23
遺構 21	黒褐色弱粘質土	泥岩粒多・泥岩・貝砂・木片	46	38	23
遺構 22	黒褐色弱粘質土	泥岩粒少・炭化物多・貝砂多・有機質土多・遺物多	(220)	(64)	22(37)
遺構 23	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物少	30	29	7
遺構 24	暗褐色弱粘質土	泥岩多・炭化物多・有機質土・遺物なし	37	33	7
遺構 25	褐色弱粘質土	泥岩塊多・泥岩粒・炭化物少・貝砂	(204)	(130)	68(83)
遺構 26	暗褐色弱粘質土	泥岩粒多・有機質土・黄褐色砂質土	(70)	(38)	20
遺構 27	黒褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩少・炭化物・貝砂多	40	(27)	23
遺構 28	欠番				
遺構 29	黒褐色弱粘質土	泥岩・炭化物多・貝砂・有機質土・遺物なし	54	(40)	32
遺構 30	黒褐色弱粘質土	炭化物・貝砂・有機質土・黄褐色砂・礎石礎板あり	37	34	45(18)

### 第 4 節 第 4 面の遺構と遺物 (図 5・17)

第 4 面は残土の関係で南西部のみを掘り下げ、海拔 5.9~6.0m 前後で検出された炭化物少量・貝砂・褐色砂を含む粘性の強い黒褐色弱粘質土上とした。上面に炭化物多量・貝砂多量・褐鉄・黄褐色砂多量を含む黄褐色弱粘質土の硬化面が部分的に広がる。検出遺構は方形竪穴建物址 1 軒、溝状遺構 1 条、土坑 2 基、ピット 1 穴を検出した。

### 遺構 31 (図 5・17)

調査区北部で検出された楕円形状の大型土坑。遺構 8 を切る。検出規模は長軸 159×短軸 145cm、確認面からの深さ 33cm (海拔 6.2m) 前後を測る。覆土は炭化物・玉石を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位は N-32° -W を示す。

出土遺物：図 17-190~191 は大型の手づくねと糸切り。190 は底面裏に貫通しない穿孔途中の痕跡あり。192 は縦線の押印文が施された渥美甕。193 は鉄釘。

### 遺構 34 (図 5・17)

調査区西部で検出された溝状土坑。遺構 31・32・35 に切られる。検出規模は長軸 130cm 以上×短軸 50cm、確認面からの深さ 29~41cm (海拔 5.2m) 前後を測る。覆土は 3 層にわかれ (表 4 参照)、暗褐色砂質土~弱粘質土を呈する。南北軸方位は N-32° -E を示す。本調査内で最も古い遺構となるが、測溝を間に西壁堆積土層と照合できない。

出土遺物：図 17-194 は鉄製品。195 は箸状、196 は不明木製品。197 は須恵器坏蓋。

### 遺構 35 (図 5)

調査区東部で検出された方形状土坑。遺構 22・32 に切られ、遺構 34 を切る。遺構 22 と新旧関係のある方形状穴建物。遺構の半分以上が調査区外であるが、南壁に検出された杭により南壁沿いに遺構上場がまわると推測できる。検出規模は長軸 246cm 以上×短軸 67cm、確認面からの深さ 33cm (海拔 5.35m) 前後を測る。覆土は泥岩粒・有機質土・褐鉄を含む暗褐色弱粘質土を呈する。南北軸方位は N-105° -E を示す。

### 第 4 面面上・出土遺物 (図 17)

図 17-198 は青磁鎚連弁文碗。

表 1-4 第 4 面遺構観察表

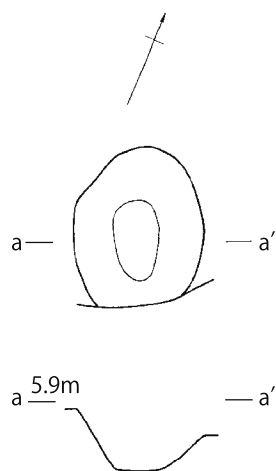
遺構No.	覆土		長軸	短軸	深さ
遺構31	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・有機質土・木片・焼痕多	80	65	31
遺構32	黒褐色弱粘質土	炭化物・有機質土・木片・灰褐色砂少・縮まりあり	112	85	32
遺構34-1	暗褐色砂質土	貝砂・有機質土	(130)	45~50	29~41
-2	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・灰褐色砂			
-3	暗褐色砂質土	泥岩粒・炭化物微・古代須恵器出土			
遺構35	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・有機質土・褐鉄	(246)	(67)	33
遺構36	暗褐色弱粘質土	泥岩粒	17	16	10

### 第 5 節 最終トレンチ・表採出土遺物 (図 3・17)

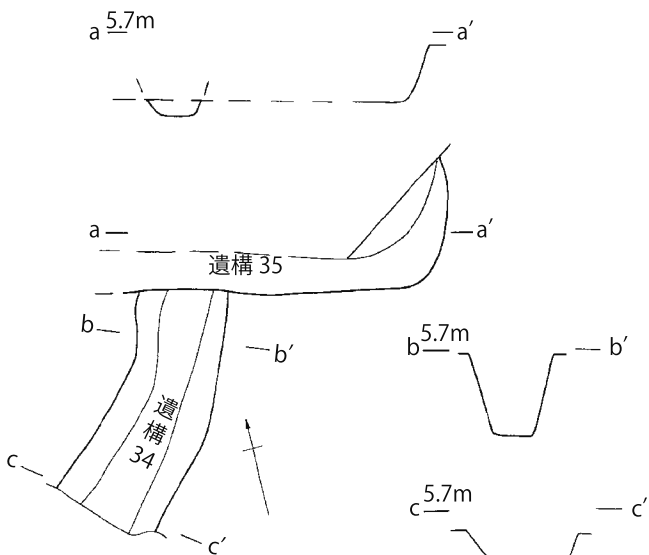
第 4 面検出後の下層堆積を確認するため調査区南西側にトレンチを設け、海拔 4.5m 前後まで掘り下げた。ほぼ水平な第 44 層～第 47 層と東から西に傾斜する第 48 層を検出。東壁遺構 25 の下層より検出された基盤層の可能性のある第 49 層の青灰色砂質土は確認できなかった。

### 表採出土遺物 (図 17)

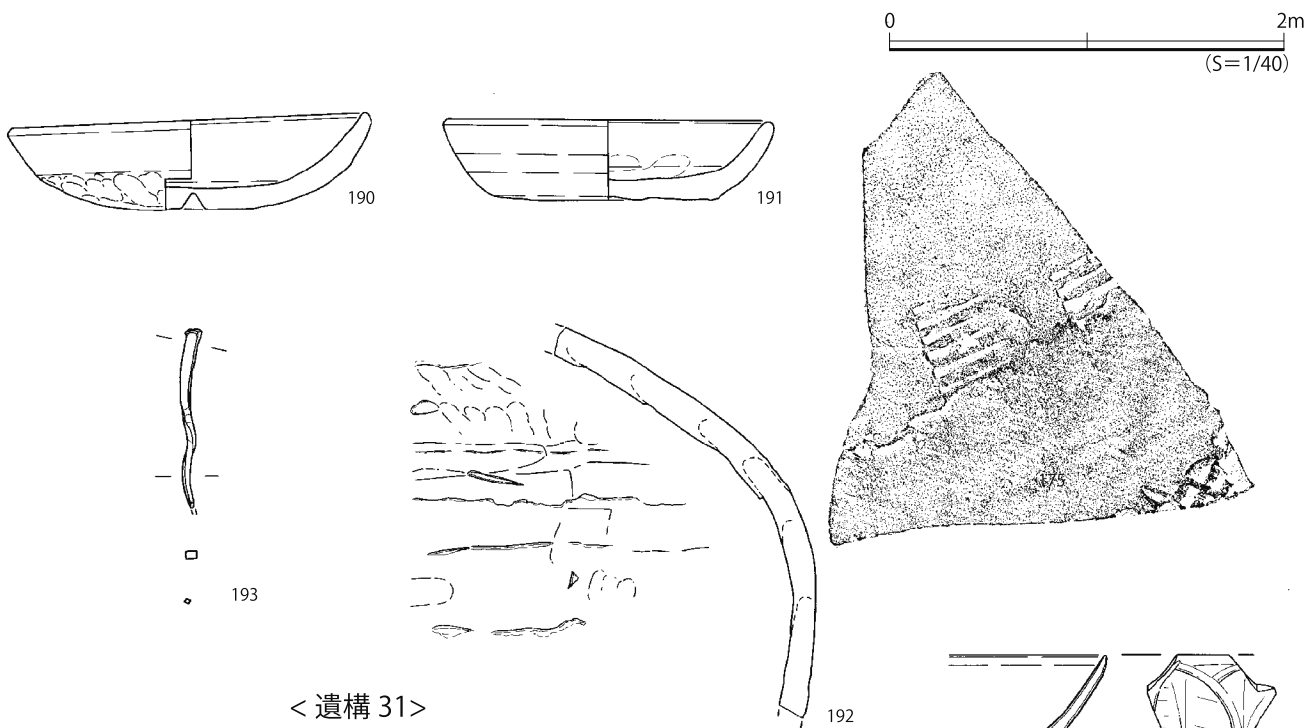
図 17-199～200 は小型、201 は大型かわらけ。



< 遺構 31 >

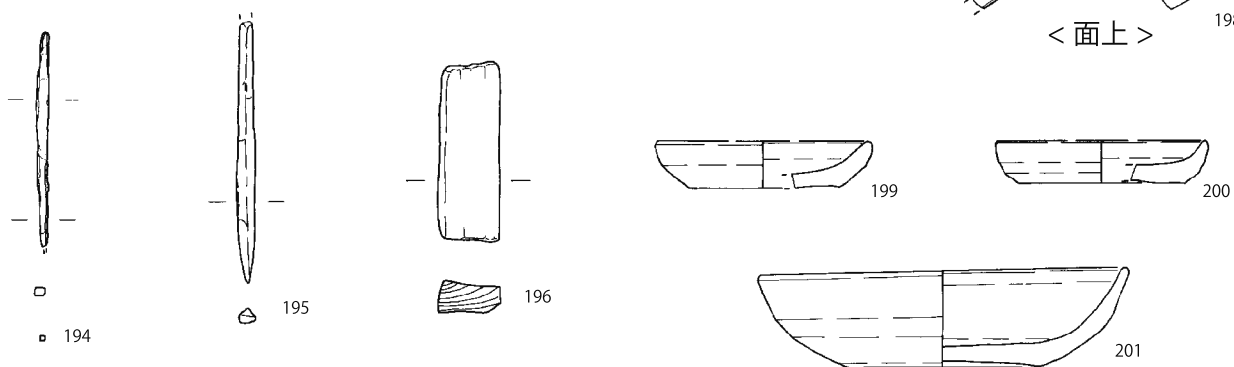


< 遺構 34・35 >



< 遺構 31 >

< 面上 >



< 表採 >

< 遺構 34 >

図 17 第 4 面各遺構・面上・表採・出土遺物

## 第四章 まとめ

本調査地点は砂丘間の後背湿地状の窪地と考えられる県道鎌倉葉山線（旧国道 134 号線）に沿った一帯に位置し、砂層は僅かに確認されたのみで、粘質土ないし土壌化した砂質土を中心に堆積していた。調査前の現地表海拔は 7.4m 前後のほぼ平坦な土地を形成していた。現地表から約 60cm の深さで堆積していた表土層を重機によって掘り下げ、層直下で版築のように硬く締まる泥岩粒多量・炭化物多量・玉石を含む暗褐色弱粘質土上（海拔 6.8～6.9m）で遺構精査を試みたものの遺構検出が伴わず、更に 40cm 掘り下げた大型泥岩・泥岩粒多量・炭化物・玉石少量を含む硬く締まった暗褐色弱粘質土（海拔 6.5m 前後）上で第 1 面とした。検出遺構は 8 基だが、大型土坑の遺構 2・8 以外は遺構とは言い難い。第 2 面は褐色砂質土多量・泥岩・泥岩粒少量・炭化物・有機質土・貝砂を含む暗（茶）褐色弱粘質土上（海拔 6.3～6.4m 前後）で、矮小な調査区内で土坑 6 基・ピット 3 穴を検出し、密に遺構が切り合う。第 3 面は泥岩粒・炭化物・貝砂を含む、部分的に上層硬化した黄褐色砂質土上（海拔 6.1～6.2m 前後）とした。板壁かと推測される側板を伴う建物址 2 軒と方形竪穴建物の切り合いを中心に、3 種類の覆土で新旧が分類される土坑 3 基・ピット 7 穴を検出している。第 4 面は調査区南西部のみを調査し、炭化物少量・貝砂・褐色砂を含む粘性の強い黒褐色弱粘質土上（海拔 5.9～6.0m 前後）とした。上面に炭化物多量・貝砂多量・褐鉄・黄褐色砂多量を含む黄褐色弱粘質土の硬化面が部分的に広がる。検出遺構は方形竪穴建物 1 軒、溝状遺構 1 条、土坑 2 基、ピット 1 穴。遺構 35 の建物址は 2 面で検出された遺構 22・25 と新旧関係にあり、短期間の間に少なくとも 4 回の建て替えが行われている。

後背湿地状の影響を受けて低い土地を数時期にわたって埋め立てる際に生じた堆積は、その後に建築される建物あまり重量のない方形竪穴建物か板壁建物を中心とするという調査地周辺の様相と一致する。また東壁遺構 25 下層より海拔 5.1m 前後で検出された基盤層の可能性のある青灰色砂質土は、調査区南西側に設けたトレンチを海拔 4.5m 前後まで掘り下げても確認できなかった。県道鎌倉葉山線を挟んで本調査地点北側に位置する図 1-地点 25 は海拔 6.6～6.7m 前後で黄褐色砂層、本調査地点南側に位置する図 1-地点 6 は海拔 4.9m、地点 7 は海拔 3.9m で青灰色砂層の基盤層を確認している。これは県道鎌倉葉山線を境に北側と南側の海拔差は現地表に於いては殆どないが、中世遺構検出海拔高は 100 cm 以上の差があり、砂丘の影響で中世期には南にむかって海拔高が下がる後背湿地状に形成された特徴を裏付けした結果と言える。

本調査地点の遺物出土点数は、接合後の破片数で 2,264 点（遺物整理箱総数 11 箱）を数える。出土遺物の傾向としては 50% 弱をロクロかわらけが占め、大型が主流である。25% 程度を 5～8 型式の常滑窯製品、15% 程度を自然遺物類で、他は舶載陶磁器、瀬戸窯製品、金属製品となる。舶載品は天目茶碗や輪花状の可能性のある青磁鎚連弁文碗、新安枢府様式系の可能性のある白磁口元印花文碗など多様である。瀬戸窯製品は中期～後期前半頃の遺物が出土している。第 2 面構成土より出土した合わせ口かわらけや備前すり鉢・東播系こね鉢も踏まえて、本遺跡の年代は概ね 13 世紀後半～14 世紀代と幅広い年代を与えたい。



表2 出土遺物観察表

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別 器種	観察内容			
			口径/長さ 単位:cm/( )	底径/幅 復元値	器高/厚さ 残存値	
図7-1	第1面 遺構2	かわらけ	(7.4)	(5.4)	(1.6)	a:成形調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考 a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針や 多い泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:灯明皿 内外面口唇部に 油煤痕
-2		かわらけ質 小型短頸壺	(6.1)		[2.8]	a:ロクロ 全体的に横ナデ・内面頸部指頭ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒 粉質気味良土 c:淡褐色 e:良好 f:口縁～体部1/6片
-3		青磁 鏡連弁文碗				a:ロクロ b:灰白色 精良緻密土 d:灰緑色半透明釉をやや厚く施釉 e:堅緻 f:口 縁部片 g:龍泉窯系Ⅱ-b類
-4		常滑 片口鉢Ⅱ類				a:輪積み 口縁部横ナデ b:暗灰色 微砂・白色粒多・黒色粒・長石 c:暗赤褐色 d:内面に厚く自然釉 f:口縁部片 g:第6b型式
-5		常滑 広口壺		縁部部2.6		a:輪積み b:暗灰褐色 微砂・白色粒多・黒色粒・長石 c:暗赤褐色 d:内面口縁 部にわずかに自然釉 f:口縁部片 g:第8型式
-6		常滑 壺		縁部部2.6		a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c:暗赤褐色 d:内面上部・外面縁部下 部・肩部に自然釉 f:口縁部片 g:第6a～b型式
-7		常滑 壺		(15.0)	[5.7]	a:輪積み 外面体部タテ・ナメ位のヘラナデ・外底部に離れ砂付着 b:砂粒・黒灰 色・白色砂礫 c:暗褐色 d:内面に斑状に自然釉 e:硬質 f:底部1/6片
-8		常滑壺 転用研磨品	11.1	6.3	1.1	a:すり常滑 両側面に抉りのような意図的な加工痕 b:淡灰褐色 白色粒・小石粒 f:肩部片転用 g:内外面上下先端に使用による顕著な磨り痕
-9	第1面 遺構3	瀬戸 御皿				a:ロクロ 平底で糸切り痕 b:灰色 砂粒・やや良土 c:灰色 d:暗灰緑色(灰釉)を 内底面と体部に漬け掛け? e:硬質 f:底部片 g:内底面に目跡痕・二次焼成? 中 期後半～後期前半?
-10		常滑 壺		縁部部2.85		a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石多・石英 c:暗赤褐色 d:口縁部・肩 部に自然釉 f:口縁部片 g:第6b型式
-11	第1面 遺構6	常滑 片口鉢Ⅱ類		(13.0)	[7.0]	a:輪積み 外面体部タテ位のヘラナデ・外底部に離れ砂付着 b:暗灰色 砂粒・白 色砂礫やや多い c:暗赤褐色 e:硬質 f:底部1/6片 g:内面顕著な磨りによる使 用痕
-12		瓦器 碗				a:外底面指頭無調整・内面磨き b:灰白色 微砂・黒色粒・良土 c:内外面黒色処 理 e:硬質 f:底部片 g:見込み部に菊花状の暗文
-13		鉄製品 釘	[6.6]	0.6	0.5	a:断面方形状に鑄造 f:両端部欠損 g:錆の付着激しい
-14	第1面 遺構8	かわらけ	(12.3)	(7.8)	(3.4)	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・白 色粒・砂礫僅か やや粗土 c:淡褐色 e:良好 f:1/4 g:内面に融着物付着
-15		青磁 無文皿		(14.6)	[2.3]	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒僅かに含む精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや厚 く施釉 僅かに気孔・細かな貫入 畳付部分の掻きとり e:堅緻 f:底部片 g:龍泉窯 系
-16		常滑 片口鉢Ⅰ類				a:輪積み b:灰色 砂粒多・白色粒・黒色粒・長石・石英 c:灰色 d:口縁部に自然 釉(淡灰緑色) f:口縁部片 g:第6a型式
-17		鉄製品 釘	[5.8]	0.6	0.3	a:断面方形状に鑄造 f:両端部欠損 g:錆の付着激しい
-18		鉄製品 刀子(小刀)	刀身部[19.7] 基部[3.5]	刀身部[2.5] 基部[1.6]	刀身部[0.5] 基部[0.3]	f:刀身～茎で全長[23.2] g:錆の付着激しく、目釘穴確認できず
図8-19	第1面 面上	かわらけ	(6.9)	(4.8)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒・砂粉質気味やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
-20		青磁 鉢				a:ロクロ b:灰白色 黒色粒 わずかに黒色粒 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや厚 く施釉 e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系Ⅲ-3b類
-21		青磁 碗				a:ロクロ b:灰白色 黒色粒 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや厚く施釉 e:堅緻 f:口縁部片 g:内外面共にキズあり 龍泉窯系ⅢⅡ類
-22		青磁 碗		(4.6)		a:ロクロ b:白色粒 黒色粒 精良緻密土 d:緑灰色不透明釉をやや厚く施釉 畳付け部分は露胎 e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系ⅢⅢ類 高台畳付の接地面 に磨り痕?
-23		青白磁 梅瓶蓋	肩部最大径 (5.2)			b:灰白色 黒色粒 精良緻密土 d:淡青灰色不透明釉を薄く施釉 f:1/6 g:気孔あ り
-24		瀬戸 天目茶碗	(12.0)			a:ロクロ b:灰～灰褐色 白色粒・黒色粒 良土 c:灰色 d:暗褐色(鉄釉)を厚く漬 け掛け 内外面体部下位～底部露胎 e:硬質 f:1/6 g:中期後半～後期前半
-25		瀬戸 輪花型入子		(3.6)		a:ロクロ b:灰色 白色粒・黒色粒・良土 c:灰色 d:体部内外面に淡灰緑色を呈す る自然釉 e:硬質 f:底部1/4 g:外底面に重ね焼き痕あり 後期前半
-26		瀬戸 緑釉小皿				a:ロクロ b:灰色 白色粒・黒色粒・やや良土 c:黄灰色 d:淡緑色(灰釉)をやや厚 く漬け掛け e:硬質 f:口縁部片 g:後期前半
-27		瀬戸 緑釉小皿				a:ロクロ b:灰黄色 白色粒・黒色粒・やや良土 c:黄灰色 d:暗茶褐色釉(鉄釉)を やや厚く漬け掛け e:硬質 f:口縁部片 g:後期前半
-28		瀬戸 御皿				a:ロクロ b:灰色 白色粒・黒色粒・やや粗土 d:淡緑色(灰釉)を漬け掛け e:硬質 f:口縁部片 g:後期前半
-29		瀬戸 折縁深皿				a:ロクロ b:淡黄色 白色粒・黒色粒 粉質気味な粗土 d:淡灰緑色(灰釉)を薄くハ ケ塗り 部分的に二次焼成で被火 e:やや軟質 f:口縁部片 g:中期後半
-30		常滑 片口鉢Ⅰ類				a:輪積み 口縁部に沈線のような陵が巡る b:灰色 砂粒多・白色粒・黒色粒・長 石・石英 c:灰色 e:硬質 f:口縁部片 g:第5～6a型式
-31		常滑 片口鉢Ⅰ類		(11.0)		a:輪積み 貼付高台 b:灰色 白色砂粒・小石粒多い c:灰色 e:硬質 f:底部1/3 g:内面顕著な磨滅 第5～6a型式
-32		常滑 片口鉢Ⅱ類				a:輪積み b:茶褐色 砂粒・白色粒多・黒色粒・小石粒 c:茶褐色 e:硬質 f:口縁 部片 g:7～8型式
-33		常滑 片口鉢Ⅱ類				a:輪積み b:茶褐色 砂粒・白色粒多・黒色粒・小石粒 c:暗赤褐色 e:硬質 f:口 縁部片 g:7～8型式
-34		常滑 壺		縁部幅2.2		a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:暗茶褐色 e:硬質 f:口縁 部片 g:6a～6b型式
-35		常滑 壺				a:輪積み b:灰褐色 砂粒・小石粒・長石・石英 c:灰褐色 d:暗緑色(自然釉) e: 硬質 f:肩部片 g:外面格子状のスタンプ文
-36		東播系 こね鉢				a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:灰色 e:硬質 f:口縁部片 g:Ⅶ期?(13c後葉～14c前半)
-37		東播系 こね鉢				a:輪積み b:暗灰色 砂粒・黒色粒多 c:暗灰色 d:外面口唇部に自然釉 e:硬質 f:口縁部片 g:Ⅶ期?(13c後葉～14c前半)
-38		備前 撞鉢				a:輪積み b:暗赤褐色 白色粒・黒色粒 c:暗赤褐色 e:硬質 f:体部片 g:条線 11本確認
-39		瓦器質 火鉢				a:輪積み 内面口縁～胴部縦→横位のミガキ・下部ヘラナデ・外面縦位のミガキ b:灰色 白色粒・黒色粒・小石粒・粗土 c:暗灰～黒色(黒色処理) e:軟質 f:口縁 ～体部片 g:輪花状を呈し、体部外面に菊花文スタンプ・Ⅲ類
-40		石製品 砥石・仕上砥	[4.7]	3.8	0.4	a:砥面1面、側面2面・小口1面切り出し・折りとり痕 b:流紋岩質細粒凝灰岩 c:赤 褐色 g:鳴滝産
-41		石製品 砥石・仕上砥	[4.4]	3.1	0.4	a:側面2面・小口1面切り出し痕 b:流紋岩質細粒凝灰岩 c:赤褐色 g:鳴滝産
-42		石製品 硯	[8.0]	7.0	[1.3]	b:紫金石 c:暗赤褐色 g:赤間産 g:硯として使用後、砥石として使用か?

表2 出土遺物観察表

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別 器種	口径/長さ		底径/幅		器高/厚さ		観察内容
			単位:cm	():復元値	単位:cm	():復元値	単位:cm	():復元値	
図8-43	第1面 面上	石製品 硯転用研磨具	[9.3]		[3.6]		[1.4]		a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考 b:紫金石 c:暗赤褐色 g:赤間ヶ関産 欠損後砥石として転用 使用痕顕著 側面 の磨り痕から手持ちでも使用か?
-44		石製品 基石?	1.9		1.7		0.5		a:全体を簡易的に磨って成形? c:灰黒色 g:基石の黒として使用か?
図9-45	第1面 構成土	かわらけ	(7.6)		(5.7)		1.4		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
-46		かわらけ	7.3		4.8		1.7		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・白色粒・海 綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形 g:外面融着物付着
-47		かわらけ	8.0		5.7		1.6		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:外面融着物付着 器形の歪み 著しい
-48		かわらけ	7.9		5.6		1.7		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕顕著・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨 針・泥岩粒多 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:外面融着物あり
-49		かわらけ	(7.6)		(5.8)		1.6		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 や や粗土 c:黄褐色 e:やや甘い f:1/3 g:内面融着物あり
-50		かわらけ	7.9		5.6		1.7		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒やや多い やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い f:ほぼ完形 g:口縁部外面の一部 ササ状のものでナデた痕あり
-51		かわらけ	7.9		5.7		1.6		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 や やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い f:ほぼ完形 g:外面融着物付着
-52		かわらけ	(8.3)		(6.2)		1.8		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥 岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:内外面融着物付着
-53		かわらけ	(7.8)		(5.4)		2.2		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂微量・赤色粒・雲母・海綿骨 針・泥岩粒多・小石粒 粉質気味やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:内外面口 唇部に油煤痕
-54		かわらけ	(13.0)		(7.6)		2.9		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・海綿骨針・赤色粒・ 白色粒・泥岩粒多 砂質粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
-55		かわらけ	12.6		7.7		3.0		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥 岩粒多 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い f:2/3
-56		青磁 鉢連弁文碗	(15.8)				[6.0]		a:ロクロ b:灰白色 黒色粒・精良緻密土 d:暗灰緑色不透明釉をやや厚く施釉 e: 堅緻 f:口縁部片 g:外面に鉢連弁文+内面から外面への凸み→口縁を輪花状 (6弁)に成形か?内外面に細かな貫入(氷裂文様を意識か?)あり・南宋
-57		青白磁 梅瓶蓋							a:ロクロ b:白色 黒色粒・精良緻密土 d:水青色不透明釉をやや厚く施釉 e:堅 緻 f:肩部片 g:細かな貫入あり
-58		白磁口元 印花文碗	(11.4)		(2.9)		4.4		a:ロクロ・型押し b:白色 精良緻密土 d:乳白色不透明釉を薄く施釉 e:堅緻 f: 1/3 g:内面に梅花?を主とした陽刻文を施す(新安府様式と言われる型式の碗 か?玉林氏ご教示)
-59		瀬戸 折縁深皿							a:ロクロ b:淡黄褐色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗土 d:淡灰緑色釉(灰釉)を薄 くハケ塗り e:良好・硬質 f:口縁部片 g:後期前半
-60		瀬戸 折縁深皿	(24.8)						a:ロクロ b:明灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗土 d:淡灰緑色釉(灰釉)を薄く 漬け掛け e:良好・硬質 f:口縁部1/8 g:中期後半~後期前半
-61		尾張型 山茶碗							a:輪積み 内外面ヨコナデ調整 b:明灰色 砂粒多・白色粒多・黒色粒 c:灰色 d: 口唇部から内面にかけて淡緑色(自然釉)e: f:口縁部片 g:6型式
-62		常滑 片口鉢I類							a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石 c:灰色 e:硬質 f:口縁部片 g: 6a型式
-63		常滑 片口鉢I類							a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・長石多 c:灰色 d:内外面淡緑色(自然釉) e: 硬質 f:口縁部片 g:6b型式
-64		常滑 片口鉢I類							a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒多・黒色粒 c:灰色 e:硬質 f:口縁部片 g:6b型 式
-65		常滑 片口鉢II類							a:輪積み 口縁端部が隅丸方形 b:暗灰色 砂粒・白色粒多・小石粒・長石 c:暗赤 褐色 e:硬質 f:口縁部片 g:6a型式
-66		常滑 片口鉢II類							a:輪積み b:褐色 砂粒・白色粒多・黒色粒・小石粒 c:赤褐色 e:硬質 f:口縁部 片 g:6b型式
-67		常滑 片口鉢II類							a:輪積み 口縁端部が方形で、平坦面の中央部が凹むもの b:灰黒~淡橙褐色 砂粒・白色粒・小石粒・長石 c:暗赤褐色 e:硬質 f:口縁部片 g:7型式
-68		常滑 片口鉢II類							a:輪積み 口縁端部がやや肥厚し、下端はわずかに引き出されるもの b:淡灰褐色 ~淡橙褐色 砂粒・白色粒・小石粒多・長石 c:暗赤褐色 e:硬質 f:口縁部片 g: 8~9型式
-69		常滑 甕			縁帯幅 3.1cm				a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒・小石粒・長石 c:灰褐色 d:縁帯口唇部~外面 に白濁した淡緑色の自然釉 e:硬質 f:口縁部片 g:6b~7型式
-70		常滑 甕							a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒・小石粒・長石 c:暗赤褐色 d:内面に白濁した 淡緑色の自然釉 e:硬質 f:底部片 g:甕底部に磨り痕あり、転用陶片か?
-71		常滑甕 転用研磨品	5.2		4.9		1.1		b:灰褐色 砂粒・白色粒多・黒色粒 c:灰褐色 e:硬質 f:胴部片 g:転用陶片
-72		常滑甕 転用研磨品	9.4		8.7		1.4		b:暗橙褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒多 c:暗赤褐色 e:硬質 f:胴部片 g: 転用陶片
-73		瓦質 火鉢							a:内外面口縁部ヨコナデ・外部口縁下縦位のハケメ+指頭痕 b:灰色 微砂・黒色 粒・砂礫 c:灰色 e: f:口縁部片 g:IC類
-74		瓦器質 火鉢							a:炭素吸着による黒色処理 器面のミガキ調整は磨滅著しく不鮮明 外底面は砂底 b:灰白色 砂粒・小石粒多く・粗土 c:暗灰色 e:軟質 f:脚部片 g:皿類・輪花状 か?
-75		鉄製品 釘	[6.3]		0.3		0.3		a:断面方形形状に鑄造 f:先端部わずかに欠損 g:錆の付着激しい
-76		鉄製品 釘	[6.3]		0.4		0.4		a:断面方形形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい
-77		石製品 硯	[7.0]		(5.6)		0.9		b:黒色粘板岩 c:黒色 f:陸の下半分が欠損 g:鳴滝産?長方形 縁0.3cm幅で巡 らすだが、ほぼ欠損。
-78		石製品 砥石・仕上げ砥	[3.0]		3.1		[0.8]		a:砥面1面? b:流紋岩質細粒凝灰岩 c:赤褐色 g:鳴滝産仕上げ砥・剥離後も部分 的に砥面として使用か?
-79		かわらけ転用 円盤状土製品	3.4		3.4		1.1		a:ロクロ糸切り底面転用 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・良土 c:暗黄褐色 g:裏 面は被火による黒色に変化・泥面子等の遊具か?
図11-80	第2面 遺構9	かわらけ	(8.9)		(7.9)		1.8		a:手づくね・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨針・泥岩粒少量 やや 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
-81		かわらけ	7.5		5.7		1.5		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 砂質やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
-82		かわらけ	(11.0)		(7.8)		3.5		a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒多い やや粗土 c:暗褐色 e:良好 f:1/3
-83		青磁 鉢連弁文碗							a:ロクロ b:灰白色 黒色微砂 精良緻密土 d:灰緑色半透明釉をやや薄く施釉 e:堅緻 f:口縁部小片 g:龍泉窯系碗II-b類?

表2 出土遺物観察表

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容	
			単位:cm/( ):復元値	L:残存値	a:成形調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考		
図11-84	第2面 遺構10	かわらけ	(7.3)	(5.4)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨針・白色粒 砂質粗土 c:赤褐色 e:やや甘い・胎芯ナマ焼け f:1/3	
		かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ不明瞭 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・白色粒多・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4	
	第2面 遺構11	かわらけ	7.4	5.1	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒多・海綿骨針・泥岩粒多・鉄分附着 砂質気味やや粗土 c:橙色～赤褐色 e:良好 f:完形	
		かわらけ	(7.0)	(4.4)	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 粉質気味やや良土 全体的に夾雑物少ない c:橙色 e:良好 f:1/6	
	第2面 遺構14	常滑 片口鉢Ⅱ類					a:輪積み b:暗灰褐色 砂粒・白色粒・長石多 c:暗茶褐色 d:内面に白濁した淡緑色の自然釉 f:口縁部片 g:6a型式
		かわらけ	(7.1)	(4.9)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨針・泥色粒 c:黄褐色 e:良好 f:1/2	
		かわらけ	(8.3)	(6.9)	1.8	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥色粒 粉質気味 c:黄灰色 e:良好 f:1/6	
		白磁 壺	(10.0)				a:ロクロ b:灰白色 黒色砂粒 精良緻密土 d:淡灰緑色半透明釉をやや薄く施釉 気孔あり e:堅緻 f:口縁部片
		常滑 片口鉢Ⅰ類					a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石多 c:灰色 f:口縁部片 e:硬質 g:6b型式か?
		常滑 壺		縁帯幅 2.8cm			a:輪積み b:灰褐色 黒色粒・白色粒・小石粒 c:暗赤褐色 d:外面肩部に灰緑色(自然釉) e:硬質 f:口縁部片 g:広口壺6a～7型式の可能性あり
		常滑 大口壺		(16.6)	[6.8]		a:輪積み b:暗灰色 白色砂粒・砂礫多い c:暗褐色 d:内面見込みに暗灰緑色の自然釉と溶解附着物 e:硬質 f:底部片 g:底裏に粘土塊の融着物附着
		産地不明 四耳壺			[4.0]		a:耳貼り付け b:茶～茶褐色 砂粒・白色粒・赤色粒 c:暗茶褐色 e:硬質 f:肩部片 g:外面肩部に線刻あり 常滑四耳壺を模倣した中世窯か?
鉄製品 釘		[2.6]	0.4	0.5		a:断面方形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい	
鉄製品 釘		[3.8]	0.3	0.4		a:断面方形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい	
第2面 遺構15	かわらけ	(6.8)	(5.2)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/5		
	かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/4 g:口縁部内外面～底面油煤痕附着		
	かわらけ	(7.7)	(5.9)	1.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4		
	かわらけ	(11.0)	(7.4)	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 砂質気味やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4		
	瀬戸 御皿					a:ロクロ b:灰黄色 黒色粒・良土 d:淡緑色釉薄く刷毛塗り e:良好・硬質 f:口縁部片 g:中期Ⅱ～Ⅲ期	
	備前 播鉢					a:輪積み b:暗赤灰色 長石・白色粒・砂粒多 c:暗灰色 e:良好・硬質 f:口縁～胴体部片 g:7本の条線	
	第2面 遺構16	青磁 皿	(10.3)				a:ロクロ b:灰白色 精良緻密土 d:灰緑色透明釉をやや薄く施釉 僅かに気孔 e:堅緻 f:口縁部片 g:口唇部に煤附着
		青磁 劃花文碗					a:ロクロ b:暗灰白色 精良緻密土 d:灰緑色半透明釉をやや薄く施釉 e:堅緻 f:口縁部片 g:椀Ⅰ-2類
		常滑 片口鉢Ⅰ類					a:輪積み b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒・小石粒多い c:灰色 d:淡緑色(自然釉) f:口縁部片 g:6a型式
		常滑 片口鉢Ⅱ類					a:輪積み b:黒褐色～淡橙褐色 砂粒・白色粒・砂礫 c:暗赤褐色 d:淡緑灰色(自然釉) f:口縁部片 g:6b型式
第2面 遺構17	常滑 壺 押印文					a:輪積み b:灰褐色 黒色粒・白色粒・砂礫多い c:黄褐色 f:肩部片 g:縦線文+横線2本(縦長長方格子)の押印文	
	かわらけ	(7.0)	(6.0)	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切後にナデ?・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥色粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3		
	青白磁 器種不明					a:ロクロ b:白色 黒色粒・精良緻密土 d:水青色半透明釉を薄く施釉・気泡多い e:堅緻 f:胴部片 g:草花?文様を貼付した壺・水注等か。	
	舶載黒褐釉 天目茶碗	(10.6)	3.2	4.7	a:ロクロ・削り出し高台 b:灰色 白色粒・精良緻密土 d:黒褐色釉を厚く施釉 外面体部中位～高台内まで露胎 e:堅緻 f:1/3 g:細かい気泡多い・内底面に目跡痕あり		
	常滑 片口鉢Ⅰ類		(14.4)			a:輪積み・貼付高台 b:灰～淡灰褐色 微砂・白色粒・長石全て多い c:淡灰褐色 f:1/5底部片 g:内面の摩滅痕顕著 第6a～b型式	
	常滑 片口鉢Ⅰ類		(14.3)			a:輪積み・削り出し高台 b:灰色 微砂・白色粒・長石全て多い c:灰色 f:1/5底部片 g:内面使用により摩滅・剥離 第6a～b型式	
	常滑 壺					a:輪積み b:暗灰褐色 白色粒 c:暗灰褐色 d:淡緑灰色(自然釉) f:口縁部片 g:第6a～b型式	
	かわらけ転用 円盤状土製品	2.4	2.2	1.0		a:かわらけ底部を転用し、円盤状に削りを施す b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い	
	石製品 基石	2.3	2.1	0.5		a:円盤状に削りを施す g:黒色	
	鉄製品 釘	[5.9]	0.4	0.2		a:断面方形状に鑄造 f:両端部欠損 g:錆の付着激しい	
鉄製品 釘	[4.9]	0.5	0.3		a:断面方形状に鑄造 f:両端部欠損 g:錆の付着激しい		
鉄製品 不明鉄製品	[4.6]	0.4	0.2		a:断面方形状に鑄造 f:両端部欠損 g:錆の付着激しい 鋳か?		
加工骨 基石?	1.6	1.3	0.2		a:円盤状に削りを施す f:二次焼成を受けている		
図12-121	2面面上	かわらけ	(7.6)	(5.5)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒・やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4	
		瀬戸 御皿				a:ロクロ b:灰色 黒色粒・良土 d:淡灰緑色の灰釉を薄く刷毛塗り e:良好・やや軟質 f:口縁部片 g:二次焼成あり 中期前半	
	瀬戸 御皿					a:ロクロ b:淡黄白色 微砂・白色粒・やや粗土 d:底部内外面露胎 e:良好・軟質 f:底部片(糸切り) g:御目は未使用 中期	
	常滑 片口鉢Ⅰ類					a:輪積み成形 b:灰色 微砂・白色粒多・小石粒 c:灰色 d:口唇部～内面に淡緑色(自然釉) f:口縁部片 g:第6b型式	
	鉄製品 釘	[4.0]	0.4	0.3		a:断面方形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい	
	鉄製品 釘	[3.4]	0.3	0.5		a:断面方形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい	
	石製品 砥石・仕上砥	[3.5]	[2.2]	[0.4]		a:砥面1面、他は欠損・剥離で不明 b:流紋岩質細粒凝灰岩 c:暗赤褐色 g:鳴滝産	

表2 出土遺物観察表

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容	
			単位:cm / ):復元値	L:復元値	L:残存値		
図12-128	第2面 構成土	かわらけ	8.8	7.2	1.8	a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考 a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母少・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒・やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形 g:歪みあり・融着物の付着 や汚れあり	
		-129	(8.2)	(6.5)	1.8	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針極わず か粉質気味やや良土 c:黄褐色 e:やや甘い f:1/6	
		-130	7.6	5.7	1.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ顯著? b:微砂多・雲母・赤色粒多・白 色粒・海綿骨針・小石粒多 砂質気味やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:完形 g: 歪みあり	
		-131	(11.8)	(8.7)	(3.1)	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿 骨針・泥岩粒多・やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3 g:合わせ口かわらけ・融着 物付着	
		-132	かわらけ	12.1	8.2	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨針・ 泥岩粒 粉質気味やや良土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:合わせ口かわらけ・ 融着物付着
		-133	青磁 鏡蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰白色 精良緻密土 d:青緑色不透明釉を厚く施釉 僅かに気孔あり e:堅緻 f:体部~底部片 g:龍泉窯系碗Ⅲ-2C類
		-134	青磁 鏡蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰色 精良緻密土 d:淡灰緑色不透明釉をやや薄く施釉 僅かに気孔 あり e:堅緻 f:体部片 g:龍泉窯系碗Ⅱ類
		-135	白磁 口元皿か碗				a:ロクロ b:白色 黒色粒・精良緻密土 d:淡青灰色不透明釉を薄く施釉 貫入・二 次焼成で失透 口唇部露胎 e:堅緻 f:口縁部片
		-136	常滑 壺押印文				a:輪積み 口縁下に穿孔あり b:暗灰褐色 砂粒・白色粒・砂礫多い 泥岩粒 c:黒 褐色 d:緑灰色(自然釉) f:肩部片 g:巴文叩き
		-137	瓦質 火鉢				b:灰色 砂粒・白色砂礫・黒色粒 c:灰~暗灰色 f:口縁部片 g:lc類
		-138	鉄製品 釘	[7.4]	0.4	0.3	a:断面方形状に鑄造 f:先端部欠損 g:鏽の付着激しい
		-139	加工骸骨 用途不明	[10.0]	3.5	2.5	a:U字型原体を約1cm幅で両側に切り取った後の加工骨 b:ウシ? g:刀装品の果 形を作った残骸か
		-140	土師器 甕				a:粘土紐積み上げ成形 内外面横ナデ→内面頸部へラミガキ b:微砂・雲母・海綿 骨針・白色粒 c:淡褐色 e:良好 f:口縁部片 g:相模型
		図14-141	第3面 遺構22	かわらけ	(8.0)	(6.4)	1.9
-142	かわらけ			(8.4)	(6.4)	2.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・白色粒・ 海綿骨針・泥岩粒 砂質気味やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:部分的に黒く 変色
-143	かわらけ			(8.1)	(5.8)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿 骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
-144	かわらけ			7.7	5.5	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・白色粒・ 海綿骨針多・泥岩粒 砂質気味やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
-145	かわらけ			(12.0)	(8.2)	3.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・ 白色粒 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:融着物付着
-146	青磁 皿か碗						a:ロクロ b:暗灰白色 精良緻密土 d:緑灰色透明釉を薄く施釉 気孔あり e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系皿又は浅形碗か
-147	常滑 片口碗						a:輪積み b:暗灰~黄灰色 微砂・白色粒・小石粒 c:暗茶褐色 d:内面に自然釉 f:口縁部片 g:第4~5型式
-148	尾張型 山茶碗						a:輪積み b:灰色 白色粒・黒色粒 c:灰色 d:内外面共に厚く自然釉 f:口縁部 片 g:第6~7型式か
-149	常滑 片口鉢Ⅰ類						a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:灰色 d:口唇部に自然釉 f: 口縁部片 g:第6a型式
-150	常滑 片口鉢Ⅰ類						a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c:灰色 d:口唇部自然釉 f:口縁部片 g:第6a型式
-151	常滑 片口鉢Ⅱ類						a:輪積み b:暗灰色 砂粒多・白色粒・長石 c:暗茶褐色 d:口唇部~内面に自然 釉 f:口縁部片 g:第6a型式
-152	常滑 片口鉢Ⅱ類						a:輪積み b:灰褐色 砂粒多・白色粒・長石 c:暗茶褐色 d:口唇部に自然釉 f:口 縁部片 g:第6a型式
-153	常滑 壺押印文						a:輪積み b:灰色 白色粒・砂礫多い c:茶褐色 d:体部に自然釉 f:肩部片 g: 縦線文+横線3本(格子)の押印文
-154	木製品 下駄			[16.3]	[9.6]	0.3~1.9	g:柾目材使用 部分的に欠損
-155	木製品 籠状木製品			24.0	1.0~2.0	1.0	a:先端に削りをいれて籠状に成形 g:柾目材使用 持ち手側は摩耗
-156	木製品 杭			27.8	1.9~3.0	2.6	a:先端はつり痕か? g:柾目材使用
-157	木製品 杭			23.3	2.4~2.9	1.5	a:先端はつり痕か? g:柾目材使用 転用品か?
-158	木製品 柱			[46.4]	16.0	[13.0]	a:全面はつり痕。下位は3面取りか? f:部分的に欠損
図15-159	第3面 遺構25	かわらけ	(13.9)	(12.2)	3.1	a:手握ね・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒・粉質気味やや良土 c:淡褐 色 e:良好 f:1/4	
		-160	かわらけ	(7.9)	(7.0)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母多・赤色粒・白色粒・泥 岩粒 c:褐色 e:良好 f:1/4
		-161	かわらけ	(6.4)	(5.0)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕強・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒多・白色 粒・海綿骨針・泥岩粒 砂質気味やや粗土 c:淡褐色 e:良好 f:1/3
		-162	青磁 鏡蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰白色 僅かに 黒色粒 精良緻密土 d:青緑色不透明釉をやや厚く 施釉 失透し、気孔あり e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系碗Ⅱ類
		-163	産地不明 筒状容器蓋	8.5		2.3	a:ロクロ 回転ナデ・天井部回転へラクスリ b:黄灰色 砂粒僅かな精良土 d:部分 的に自然降灰? e:良好・硬質 f:3/4 g:163の共蓋か?瀬戸美濃窯?
		-164	産地不明 筒状容器身	(7.2)		4.0	a:ロクロ 回転ナデ b:黄灰色 微砂・黒色粒 良土 e:良好・硬質 f:1/5 g:164の 共筒か?瀬戸美濃窯?
		-165	常滑 片口鉢Ⅰ類				a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒 c:灰色 d:口唇部~内面に自然釉 f:口縁部片 g:第4~5型式か?
		-166	常滑 広口壺				a:輪積み b:灰褐~灰黒色 砂粒・白色粒 c:暗赤褐色 d:口唇部+外面肩部に自 然釉 f:口縁部片 g:第5~6a型式
		-167	常滑 壺転用研磨品	7.0	6.7	1.5	a:すり常 b:暗灰~黄灰色 微砂・白色粒・小石粒 c:黄灰色
		-168	常滑 壺転用研磨品	10.6	5.6	1.3	a:すり常 b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒多・長石 c:淡茶褐色 g:縦線文+横線4 本(格子)の押印文壺転用陶片
		-169	木製品 箸状木製品	13.2	0.7	0.5	g:先端、細く削る

表2 出土遺物観察表

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別 器種	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位:cm/ ():復元値	L:残存値	J:残存値	
図15-170	第3面 遺構25	木製品 不明木製品	11.5	1.9	0.6	g:板目材使用 先端、細く削る
-171		木製品 不明木製品	[2.6]	8.4	0.6	g:板目材使用 全体が円盤状になるか? 周囲に削りを施し、中央に穿孔あり
図16-172	第3面 遺構18	かわらけ	(12.1)	(8.0)	2.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨針・泥岩粒 粉質気味 c:黄褐色 e:良好 f:1/4 g:内面に融着物付着
-173		近世舶載陶器 器種不明				b:暗茶褐色 微砂・白色粒多・良土 d:褐色 内外面薄く施釉 e:硬質 f:口縁部片 g:盤か? 3面上に同一遺物あり、表土からの混ざり込み遺物と思われる
-174	第3面 遺構19	かわらけ	(8.7)	(5.8)	1.8	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨針・泥岩粒 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
-175		青磁 無文碗				a:ロクロ b:暗灰白色 黒色微砂・精良緻密土 d:灰緑色半透明釉を薄く施釉 気孔僅かにあり e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系Ⅰ類
-176		渥美 片口碗				a:輪積み b:灰色 微砂・僅かに小石粒 c:灰色 d:肩部に自然釉 f:口縁部片 g:第2a型式?
-177		渥美 盃		(9.2)		a:輪積み b:灰色 微砂・石英・僅かに小石粒 c:暗褐色 d:胴部外面・内底部に自然釉 f:胴～底部片1/5
-178	第3面 遺構21	瓦質 火鉢				a:輪積み b:灰色 砂粒多・白色粒・小石粒 c:黒灰～黄灰色 f:口縁～体部片 g:焼成前に内側から外側に0.7mmの刺突、僅かに貫通
-179	第3面 遺構26	白磁 四耳壺		(7.6)		a:ロクロ b:暗灰白色 黒色粒僅か 精良緻密土 d:乳白色不透明釉をやや厚く施釉 底部脇～暈付けは露胎 e:堅緻 f:体部～底部片1/6
-180	第3面 面上	かわらけ	7.2	5.3	1.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨針 c:淡褐色 e:良好 f:1/2 g:歪みあり
-181		かわらけ	8.9	6.8	1.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒僅かな良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:口唇部一部打ち欠き+油煤痕、灯明皿
-182		かわらけ	(12.5)	(8.0)	3.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒多 砂質気味やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
-183		青磁 鎗蓮弁文碗		(4.3)		a:ロクロ b:暗灰白色 黒色粒僅か 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉を厚く施釉 僅かに気孔あり 暈付露胎 e:堅緻 f:体部1/4～高台 g:龍泉窯系Ⅲ～2C類
-184		常滑 片口鉢Ⅰ類				a:輪積み成形 b:灰色 砂粒・白色粒多・長石多・小石粒 c:灰色 d:口唇部に自然釉 f:口縁部片 g:第6a型式か?
-185		土製品 土鉢	5.3	3.3	2.6	b:微砂・雲母多量・赤色粒・白色粒・海綿骨針 c:赤褐色 e:良好 g:穿孔径φ0.9
-186	第3面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.1)	1.8	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母多・赤色粒・白色粒・海綿骨針やや多い 泥岩粒多 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
-187		かわらけ	(8.8)	(7.2)	1.8	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・赤色粒・雲母やや多い、海綿骨針少ない・泥岩粒多・粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4 g:融着物付着
-188		青磁 鎗蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰白色 僅かに黒色粒 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや厚く施釉 部分的に失透 e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系Ⅱ類
-189		白磁 皿				a:ロクロ b:灰白色 僅かに黒色粒 精良緻密土 d:乳白色不透明釉をやや薄く施釉 気孔あり e:堅緻 f:口縁部片 g:内面に鷲描き文?
図17-190	第4面 遺構31	かわらけ	13.3	11.9	3.4	a:手づくね・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒多 粉質気味やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3 g:焼成前、底裏φ0.8mmの穿孔途中の痕跡
-191		かわらけ	12.1	8.6	2.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕強・内底ナデ強 b:微砂多・雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒海綿骨針・泥岩粒 砂質気味やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形 g:外面・口縁一部煤+融着物付着
-192		渥美 甕				a:輪積み b:灰褐～暗灰色 僅かに黒色粒・白色砂礫 c:暗灰色 d:外面肩部に白濁した灰釉 f:肩部片 g:縦線文の押印文
-193		鉄製品 釘	[6.7]	0.3	0.4	a:断面方形状に鑄造 f:先端部僅かに欠損 g:錆の付着激しい
-194	第4面 遺構34	鉄製品 不明鉄製品	[8.0]	0.5	0.3	a:断面方形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい
-195		木製品 箸状木製品	[9.9]	0.7	0.5	g:板目材使用 先端、細く削る
-196		木製品 不明木製品	6.8	2.3	1.2	g:板目材使用 部材か?
-197		須恵器 坏蓋	(11.6)		[2.1]	a:ロクロ 回転ナデ b:灰色 微砂・白色粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:1/8 g:7c後半か? 坏身の可能性あり
-198	第4面 面上	青磁 鎗蓮弁文碗				a:ロクロ b:暗灰色 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや厚く施釉 気孔あり e:堅緻 f:口縁部片 g:龍泉窯系Ⅱ-b類
-199	表採	かわらけ	(7.8)	(6.2)	(1.6)	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母多・赤色粒・黒色粒・海綿骨針 砂質気味 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
-200		かわらけ	(7.9)	(5.7)	1.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒多・白色粒・海綿骨針多 良土 c:淡褐色 e:良好 f:1/4
-201		かわらけ	13.6	7.9	3.5	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨針 良土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形

表3 遺物破片数表

遺物 遺構	かわらけ				青磁				白磁				青白磁			
	ロク口		手づくね		劃花文 碗・皿	蓮弁文 碗	無文 碗・皿類	鉢類	口兀 碗・皿	碗・皿類	壺類	皿	合子	梅瓶・ 梅瓶蓋	不明	
	糸大	糸小	内折	手大												手小
表土・採集	29	7					1									
1面上	86	33				7	4	1						1(蓋)		
1面遺構	50	11				2	2		1					1		
1面構成土	82	29				3	3	3	2		1		1	3		
2面上	54	12				1							1	1		
2面遺構	241	41		5	4	6	3			1				1	2	
2面構成土	56	20			2	3	2		2	1(皿)	1					
3面上	36	4				1										
3面遺構	145	62	1	6	1	1	1	1(皿)		1				2		
3面構成土	43	9		9		1		1(皿)			1					
4面上	1	1				1										
4面遺構	13	2		3	4		1									
4面構成土	1	1														
最終トレンチ																
合計	837	232	1	23	11	4	26	14	6	3	3	3	1	9	2	
%	36.97	10.25	0.04	1.02	0.49	0.18	1.15	0.62	0.27	0.13	0.13	0.13	0.04	0.40	0.09	

遺物 遺構	船載陶器				瀬戸				瀬戸美濃?				渥美			
	天目 茶碗	二彩? 盤	褐釉 壺	天目 茶碗	平碗	折縁 深皿	御皿	線釉 小皿	入子	壺	瓶子	筒状容器		壺	片口碗	
												蓋	身			
表土・採集																
1面上			1	1	2	1	1	3	1	6						
1面遺構						2	1									
1面構成土						2				3						
2面上		1					2				1					
2面遺構	1			1	1	1	1									
2面構成土																
3面上				1												
3面遺構													2	1	1	
3面構成土										1						
4面上																
4面遺構													1			
4面構成土																
最終トレンチ																
合計	1	1	1	3	3	6	5	3	1	10	2	2	2	1	1	
%	0.04	0.04	0.04	0.13	0.13	0.27	0.22	0.13	0.04	0.44	0.09	0.09	0.09	0.04	0.04	

表3 遺物破片数表

遺物 遺構	常滑										土器・土製品					
	甕	壺	片口鉢		片口碗	転用品 (すり帯)	尾張型 山茶碗	不明 常滑 模倣?	備前 播鉢	東播系 鉢	小壺	円盤状	土錘	伊勢系 土鍋	瓦器・瓦質	
			I類	II類											火鉢	平瓦
表土・採集	8		1												1	
1面上	69	1	12	11				1	2						8	
1面遺構	29	1	6	2	1	1				1				3		
1面構成土	52		8	15	4	1					1			6		
2面上	20		4			1										
2面遺構	49	20	10	5			1	2			1		1	6	2	
2面構成土	35	1	8	1										3		
3面上	15		3									1				
3面遺構	85	3	16	8	2	1								2	5	
3面構成土	18		2													
4面上																
4面遺構	2					1										
4面構成土						1										
最終トレンチ																
合計	382	26	70	42	2	7	6	3	2	2	1	2	1	4	32	2
%	16.87	1.15	3.09	1.86	0.09	0.31	0.27	0.13	0.09	0.04	0.04	0.09	0.04	0.18	1.41	0.09

遺物 遺構	瓦器 碗	金属製品				石製品				自然遺物					骨製品		
		鉄釘	刀子 (小刀)	鉄滓	不明	滑石鍋	砥石	硯 転用品	碁石	玉石	鳴滝石	滑石	貝	獸骨	獸骨 加工骨	骨製品	
																火鉢	平瓦
表土・採集																	
1面上		1		5		2		1	1	1		3	14	5			
1面遺構	1	3	1		1				9			2	2	4			
1面構成土		2		1		1			17			3	3	3			
2面上		2		1					2			1	1	2			
2面遺構		8						1	83			3	3	9	1		
2面構成土		2							4			8	5	1			
3面上									2		1	2	3				
3面遺構	1	2			1				6			63	8				
3面構成土									1			29	2				
4面上																	
4面遺構		1										5	2				
4面構成土																	
最終トレンチ																	
合計	2	21	1	7	2	2	4	1	159	1	1	133	54	2			
%	0.09	0.93	0.04	0.31	0.09	0.09	0.18	0.04	7.02	0.04	0.04	5.87	2.39	0.09			

表3 遺物破片数表

遺物 遺構	漆器		木製品										近世		古代		
	椀・皿	草履芯	下駄	簪	簪状	篋状	桜 樹皮	建築 部材	不明	壺	器種 不明	甕	坏	壺・甕	須惠器 坏蓋	不明	
表土・採集				2						4							
1面面上												1					
1面遺構																	
1面構成土																1	
2面上																	
2面遺構											1			1			
2面構成土	1										1						
3面面上													1				
3面遺構	1	4	2	7	1	1	1	4	7			4					
3面構成土												1	1				
4面面上																	
4面遺構	2				1				1							1	
4面構成土																	
最終トレンチ																	
合計	4	4	2	9	2	1	1	4	12	0.53	0.04	0.04	0.18	0.09	0.09	0.04	
%	0.18	0.18	0.09	0.40	0.09	0.04	0.04	0.18	0.53		0.04	0.13	0.18	0.09	0.09	0.04	

遺物 遺構	合計	%
表土・採集	76	3.36
1面面上	309	13.65
1面遺構	135	5.96
1面構成土	244	10.78
2面上	107	4.73
2面遺構	517	22.84
2面構成土	158	6.98
3面面上	75	3.31
3面遺構	465	20.54
3面構成土	122	5.39
4面面上	3	0.13
4面遺構	44	1.94
4面構成土	3	0.13
最終トレンチ	6	0.27
合計	2264	100.00
%	100.00	





△1. 第1面全景(南から)



△2. 第2面全景(南から)



△3. 第2面全景(西から)



△4. 第3面全景(南から)



△5. 第3面全景(北から)



△6. 第3～4面全景(南から)



△7. 第4面全景(南から)



△8. 最終トレンチ(北から)



△ 1. 調査区西壁①(東から)



△ 2. 調査区西壁②(東から)



△ 3. 調査区西壁③(東から)



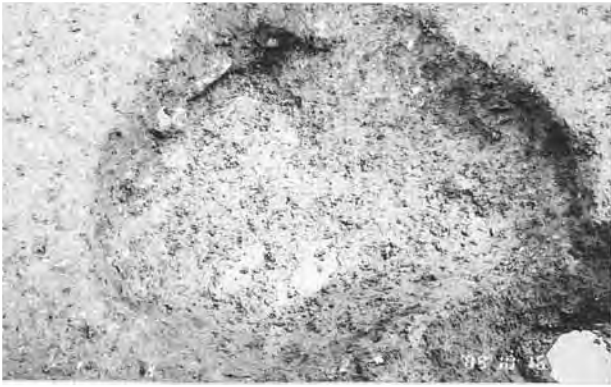
△ 4. 調査区西壁④(東から)



△ 5. 調査区南壁①(北から)



△ 6. 調査区南壁②(北から)



△1. 第1面遺構 22(東から)



△2. 第1面遺構 3~7(南から)



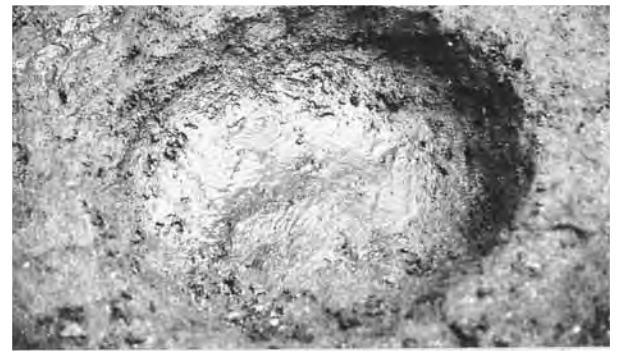
△3. 第2面遺構 8(北から)



△4. 第2面遺構 15.16(西から)



△5. 第3面遺構 21(北から)



△6. 第3面遺構 24(南から)



△7. 第3面遺構 29(東から)



△7. 第3面遺構 33(南から)



△1. 第3面遺構 22(東から)



△2. 第3面遺構 22 側板・杭(北から)



△3. 第3面遺構 22(南から)



△4. 第3面遺構 22(北から)



△5. 第3面遺構 22(東から)



△6. 第4面遺構 31 下駄(東から)

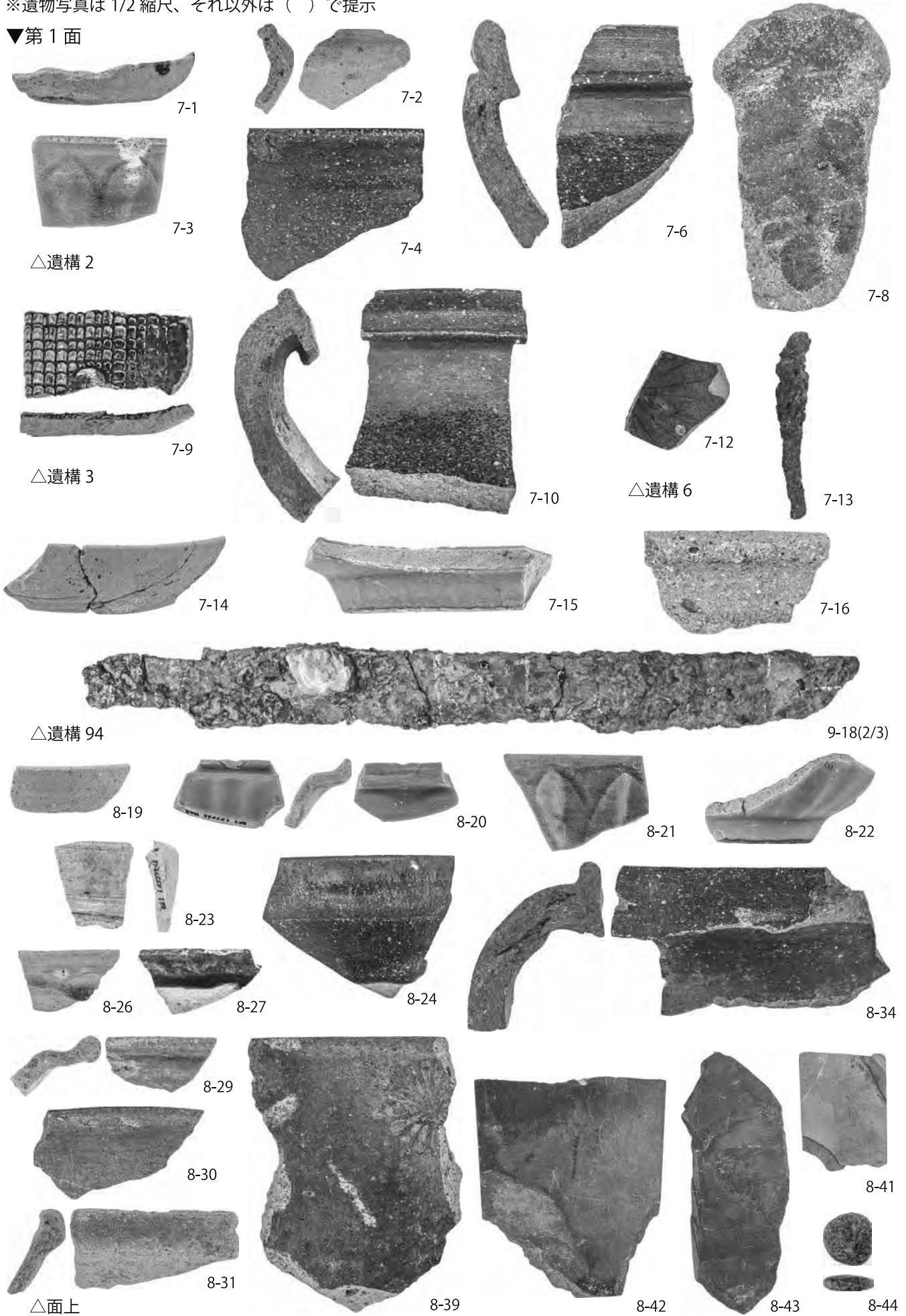


△7. 第4面遺構 34(西から)

図版 5

※遺物写真は 1/2 縮尺、それ以外は ( ) で提示

▼第 1 面

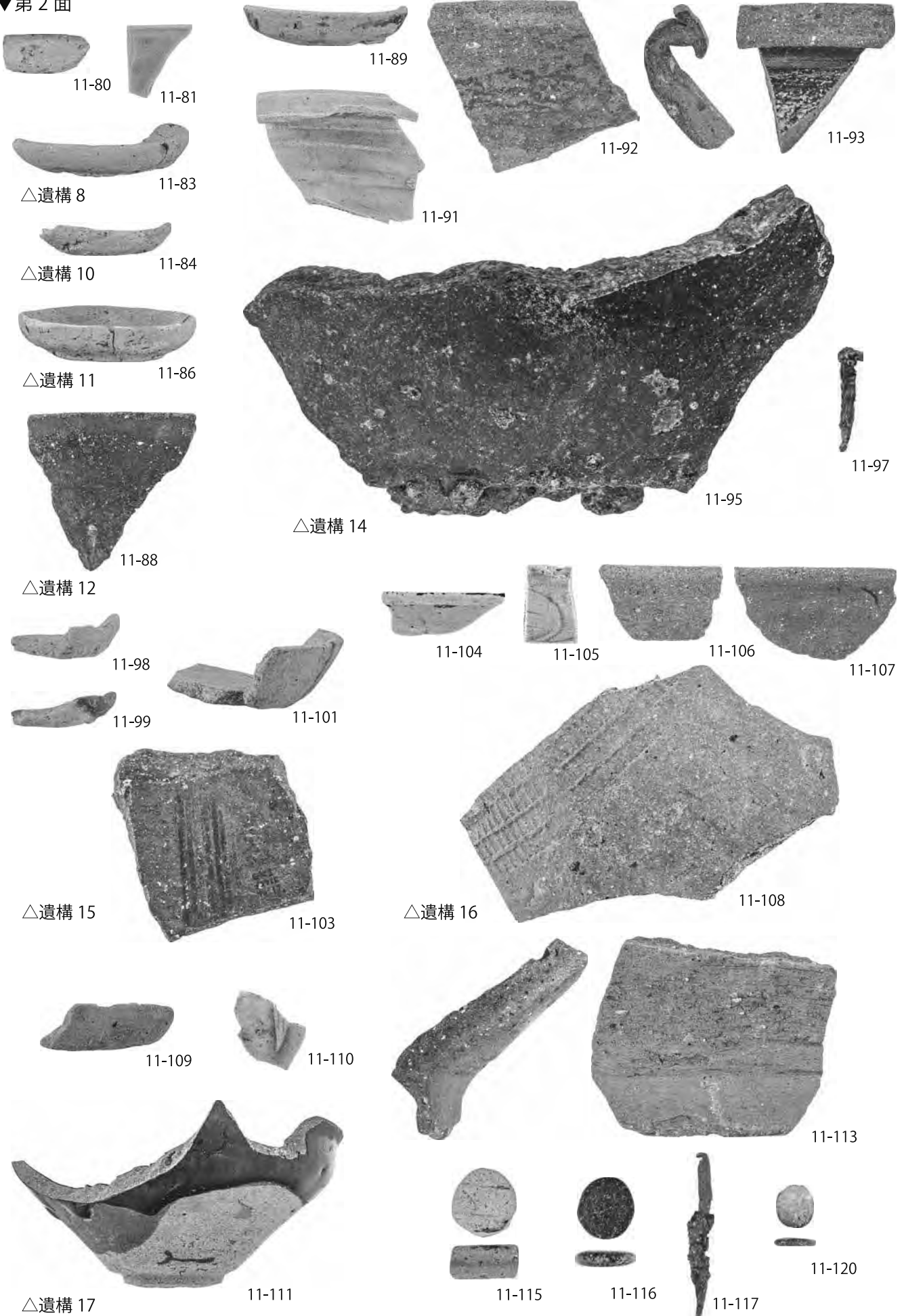


▼第 1 面



図版 7

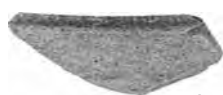
▼第 2 面



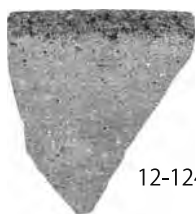
▼第 2 面



12-121



12-122



12-124

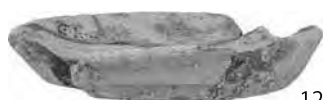


12-125



12-127

△面上



12-128



12-130



12-133



12-134



12-131



12-132



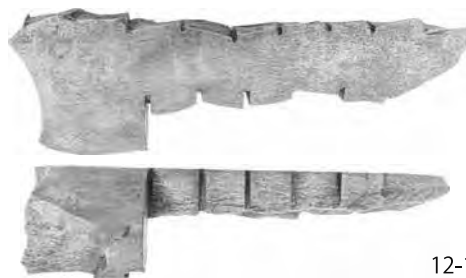
12-137

△構成土

▼第 3 面



12-136



12-139



12-145



14-142



14-143



14-144



14-145



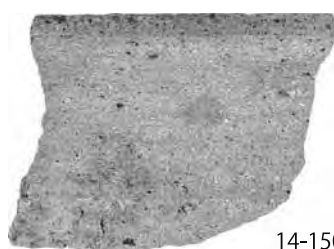
14-146



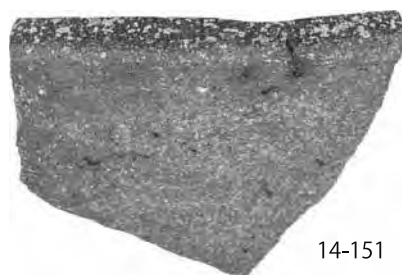
14-147



14-148



14-150



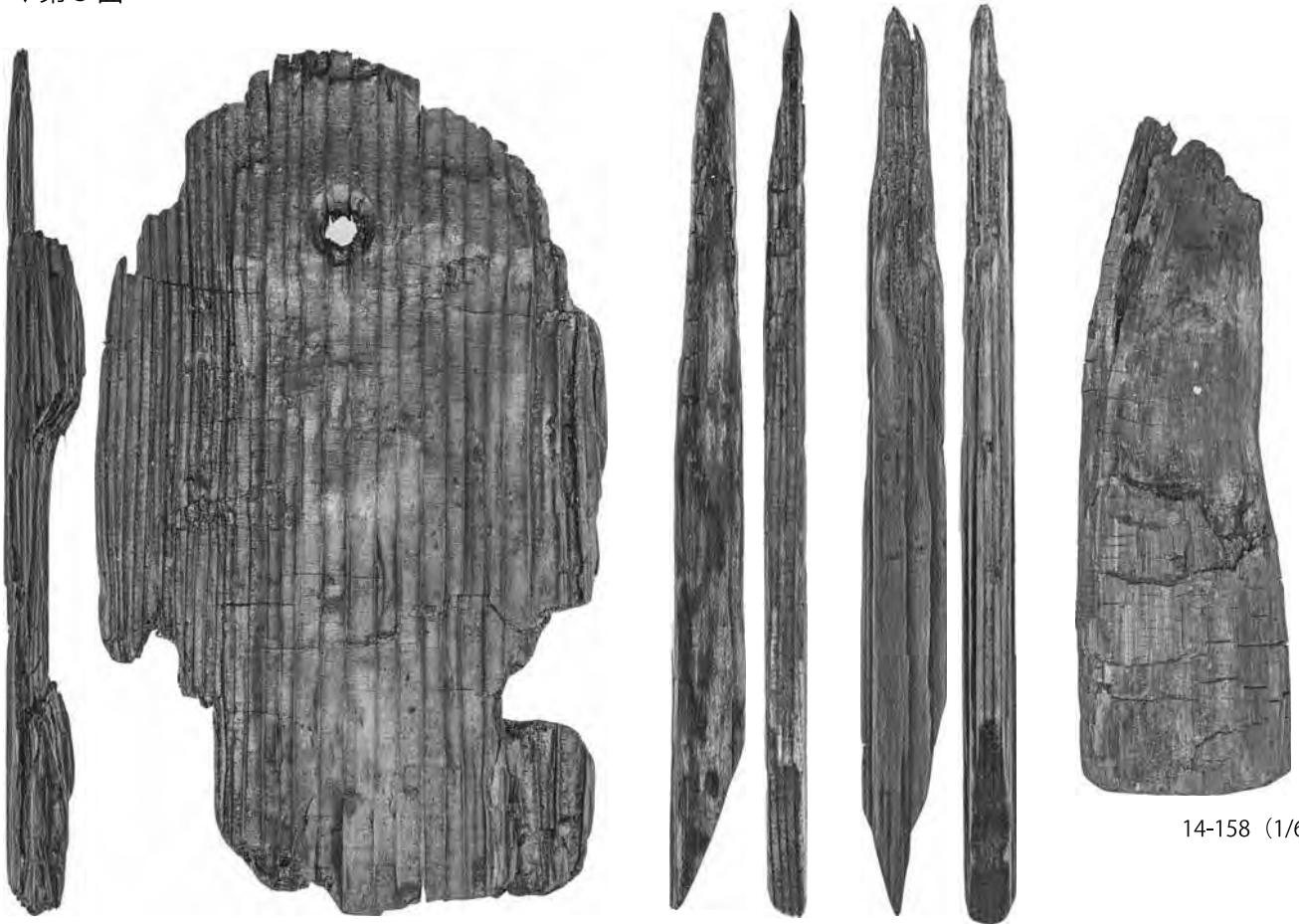
14-151



14-153

△遺構 22





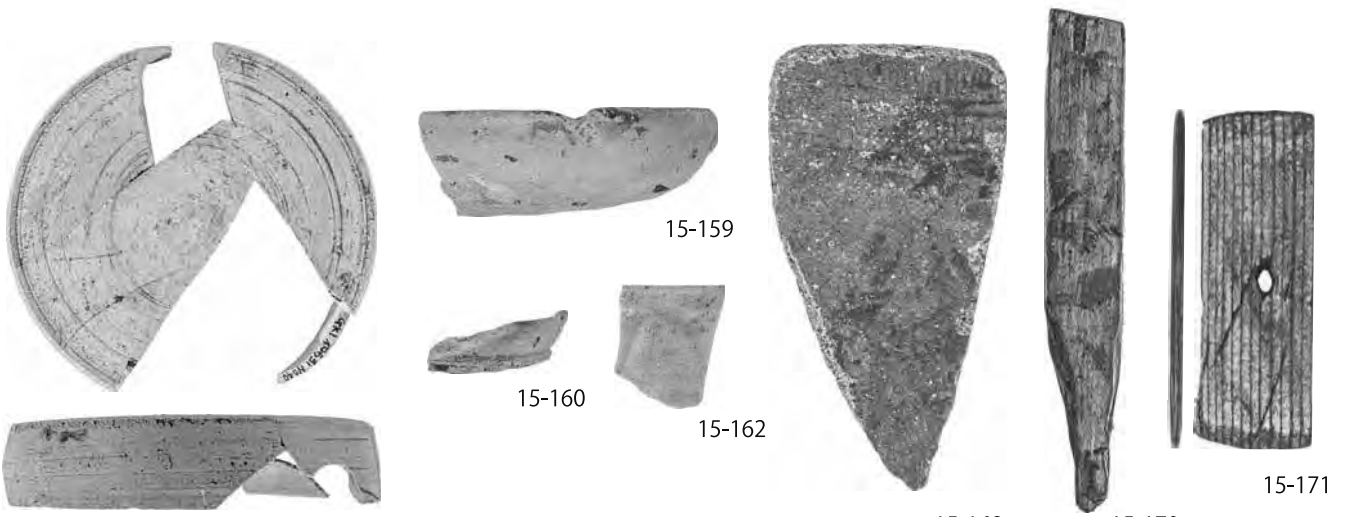
14-154

14-155

14-157

14-158 (1/6)

△遺構 22



15-159

15-160

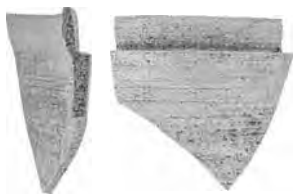
15-162

15-163

15-168

15-170

15-171



15-164



15-166



15-172

△遺構 25

▼第3面



16-172

△遺構 18

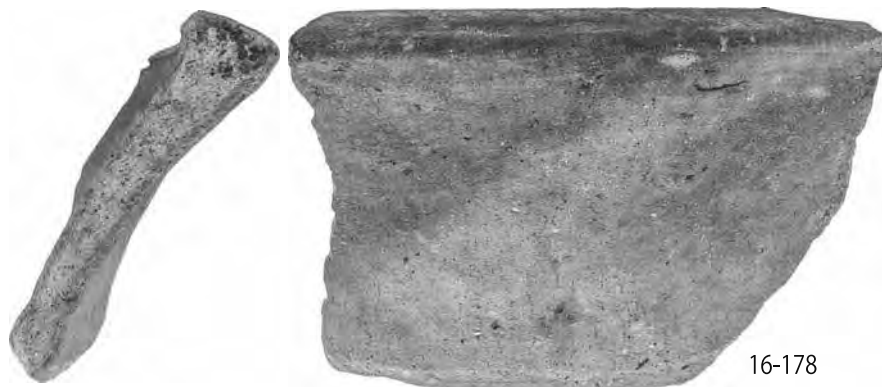


16-173



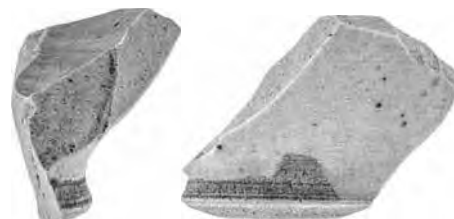
16-176

△遺構 19



16-178

△遺構 26



16-179

△遺構 21



16-180



16-181



16-182

△面上



16-183



16-185



△構成土



16-186



16-187



16-188

▼第4面



17-190



17-191

△遺構 31



17-192



17-193



17-197

△遺構 34



17-198

△面上



17-201

△表採



# 川越重頼邸 (No.270)

浄明寺五丁目 423 番 1 外地点

## 例言

1. 本書は鎌倉市浄明寺五丁目 423 番 1 外地点における個人住宅建設に伴う発掘調査報告書である。調査面積は 45 m<sup>2</sup>である。

2. 調査は平成 22 年 7 月 1 日から同年 8 月 26 日にかけて実施した。

3. 調査体制は以下の通りである。

主任調査員 伊丹まどか

調査員 現地：榎岡ケイト・渡邊美佐子

測量：小野夏菜・須佐仁和

整理作業：岩崎卓治・清水由加里・菅野知子・須佐直子・鍋島昌代

渡邊美佐子

調査作業員 清水政利・鈴木啓之・吉沢巧・渡辺輝彦

4. 本報作成分担は以下の通りである。

遺物実測 岩崎卓治・須佐直子・鍋島昌代

遺構図版作成 清水由加里

遺物図版作成 清水由加里

グリッド図作成 清水由加里

遺物観察表 清水由加里・渡邊美佐子

破片遺物集計表 清水由加里

遺構計測表 清水由加里

遺構写真 伊丹まどか

遺物写真 須佐仁和

写真図版作成 吉田桂子

執筆・編集 伊丹まどか・渡邊美佐子

5. 出土品等発掘調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が管理している。

6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通りである。

遺構全測図：1/50 個別遺構図：1/40 遺物実測図：1/3（\* 銭は原寸）

なお各挿図にはスケールを表示してある。

7. 検出した遺構の計測値・実測遺物観察・実測できなかった遺物を含む総出土点数は表にまとめて掲載した。

# 目次

## 本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	375
1. 歴史的環境	
2. 遺跡位置とグリッド配置	
3. 堆積土層	
第二章 発見された遺構と遺物	381
第1節 第1a面の遺構と遺物	
第2節 第1b面の遺構と遺物	
第3節 第2面の遺構と遺物	
第4節 第3面の遺構と遺物	
第三章 まとめ	400
(1) 検出した遺構と遺物	
(2) まとめ	

## 表目次

遺構計測表	402
遺物観察表	404
遺物破片数表	414

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	376	図11 第1b面・出土遺物	390
図2 遺跡位置とグリッド配置	379	図12 第1a面・1b面・構成土出土遺物	392
図3 堆積土層図	380	図13 第2面・全測図	394
図4 第1a面・全測図	381	図14 第2面・個別遺構・面上出土遺物	395
図5 第1a面・個別遺構・出土遺物	383	図15 第3面全測図	396
図6 第1a面・面上(遺構24)出土遺物(1)	384	図16 第3面・個別遺構・構成土出土遺物	397
図7 第1a面・面上(遺構24)出土遺物(2)	385	図17 表土採集遺物(1)	398
図8 第1a面・面上出土遺物	386	図18 表土採集遺物(2)	399
図9 第1b面・全測図	388		
図10 第1b面・個別遺構	389		

## 図版目次

図版1 I区・II区第1a面/遺構120・121・130	415	図版5 I区東壁堆積土層	419
図版2 I区・II区第1b面	416	図版6 II区西壁・南壁堆積土層	420
図版3 I区・II区第2面/遺構212	417	図版7 I区南壁堆積土層・II区北壁堆積土層	
図版4 I区・II区第3面		・最終確認トレンチ	421
/I区・II区最終確認トレンチ	418		

## 図版目次

図版8 第1a面遺構(6・116・125・127・128・129 ・130・132・24)出土遺物 . . . . . 422	図版11 第1 b 面遺構(155・156・157・159・161・163・ 167)遺物/第2面面上出土遺物 . . . . . 425
図版9 第1a面遺構24出土遺物 . . . . . 423	図版12 第3面構成土出土遺物/表土採集遺物 . . . 426
図版10 第1 a 面面上出土遺物/第1 b 面遺構(32・33 ・34・51・58・139・147・153)出土遺物 . . 424	図版13 高師小僧 . . . . . 427

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 1. 歴史的環境（図1）

本調査地は鎌倉市街地の東、浄明寺五丁目 423 番 1 外地点に位置する。調査地の北東にあたる朝比奈切通し辺りの谷を水源とし鎌倉市街地を南北に走り相模湾に流れ出る滑川と、六浦道（現県道金沢鎌倉線）と呼ぶ中世鎌倉の幹線道路が調査地北側を東西に走っている。六浦道は北条泰時によって仁治元年（1240）に道路の敷設が決められ、翌年に着工されたことが『吾妻鏡』に記されており、六浦道が政治的に大きな意味を持っていたと考えられる。また、運送路としても大きな役割を担っており、武蔵国久良岐郡六浦津（現横浜市金沢区）で陸揚げされた品物や、六浦付近で生産される塩等の商品を、朝比奈切通しを超えて、十二所・浄明寺・大倉辻・大倉幕府の南側・筋違橋を経由して鎌倉市中に運んでいた。筋違橋・大倉辻は鎌倉時代中期に幕府によって商業地域として指定されている。また、六浦津は鎌倉の外港として機能し房総半島方面への交通路としての役割もあった。調査地点周辺から北東に約 1100m 行った峠村（現横浜市金沢区）から朝比奈切通しを超えて鎌倉に入った辺りには小字関上があり、かつて関所が置かれたことが推察される。調査地と六浦道・滑川を挟んだ泉水橋北側は公方屋敷の字名が残り、足利尊氏の旧宅で、代々の関東公方が住した屋敷跡があったと考えられている。関東公方とは関東の重要性を考えて室町幕府が設置した鎌倉府の首長で足利基氏・氏満・満兼・持氏・成氏の五代を言い、鎌倉御所・鎌倉公方・関東御所・鎌倉殿とも呼ばれた。調査地辺りが境界の地として重要視されたことがわかる。真偽は定かではないが調査地周辺には梶原景時や大江広元の屋敷跡と伝承の残る場所もあり、室町期までは武家屋敷が立ち並ぶ地域であった。また、調査地周辺には廃寺となった寺院址を含め多くの仏閣がある。北東 650m 辺りに位置する光触寺は時宗、岩蔵山と号し、開山は一遍と伝わるが、位牌等では弘安元年（1278）作阿の開祖といわれる。本尊の阿弥陀如来は頬焼阿弥陀として知られ、寺蔵の頬焼阿弥陀縁起絵巻（国指定重要文化財）では元は比企ヶ谷岩蔵寺の本尊といい、奥書に文和四年（1355）には十二所道場があったことが記されている。寺伝では岩蔵寺は当寺の前身で真言宗であったという。寺内には六浦の塩売りが商いの初穂として塩を供えると帰りには塩が無くなっていたとも、地蔵が光を放ったときに塩売りが塩を嘗めさせたところ光が止んだ等の伝承が残る塩嘗地蔵と呼ばれる石造地蔵像が地蔵堂に安置されている。同じく北東 300m 辺りに位置する明王院は真言宗御室派。通称は五大堂。嘉禎元年（1235）藤原頼経創建の寺で、初代の別当は元鶴岡八幡宮別当定豪。当院の別当職は鶴岡八幡宮・永福寺・勝長寿院の別当と並ぶ地位にあり、大きな力を有していた。その明王院の東側一帯にあったとされるのが廃寺となった大倉御堂とも呼ばれた大慈寺である。宗旨未詳。源実朝が君恩父徳に報いるために開創した寺で、『吾妻鏡』によると、建暦二年（1212）四月十八日に立柱・上棟し、七月に惣門を建立し、建保二年（1214）七月二十七日に開堂供養を行っている。導師は明庵栄西、実朝はじめ政子も臨席している。正嘉元年（1257）に大規模な修理を御行ったことが『吾妻鏡』に記されており、境内域は河あり山あり、水木ともにその便を得、地形の勝絶、おそらくは仙室というべき勝地であり、加えて境内を川が流れていたらしいなど、美しく整備された広い寺域の様子が記されている。大慈寺と滑川を挟んだ南側、光触寺の南に広がる谷戸は明石谷とよばれ、谷上の山を明石山という。一般的には現兵庫県播磨海岸の地名を模して名付けられたとみられ、当谷一帯が景勝の地であったと思われる。その他の廃寺には能満寺・昌楽寺・月輪寺・一心院がある。調査地の東の谷には約 20 穴からなる東泉水やぐらと呼ばれるやぐら群が残っている。その内 2 穴に壁刻が遺存し、1 穴は奥壁に三基、左壁に一基の五輪塔、



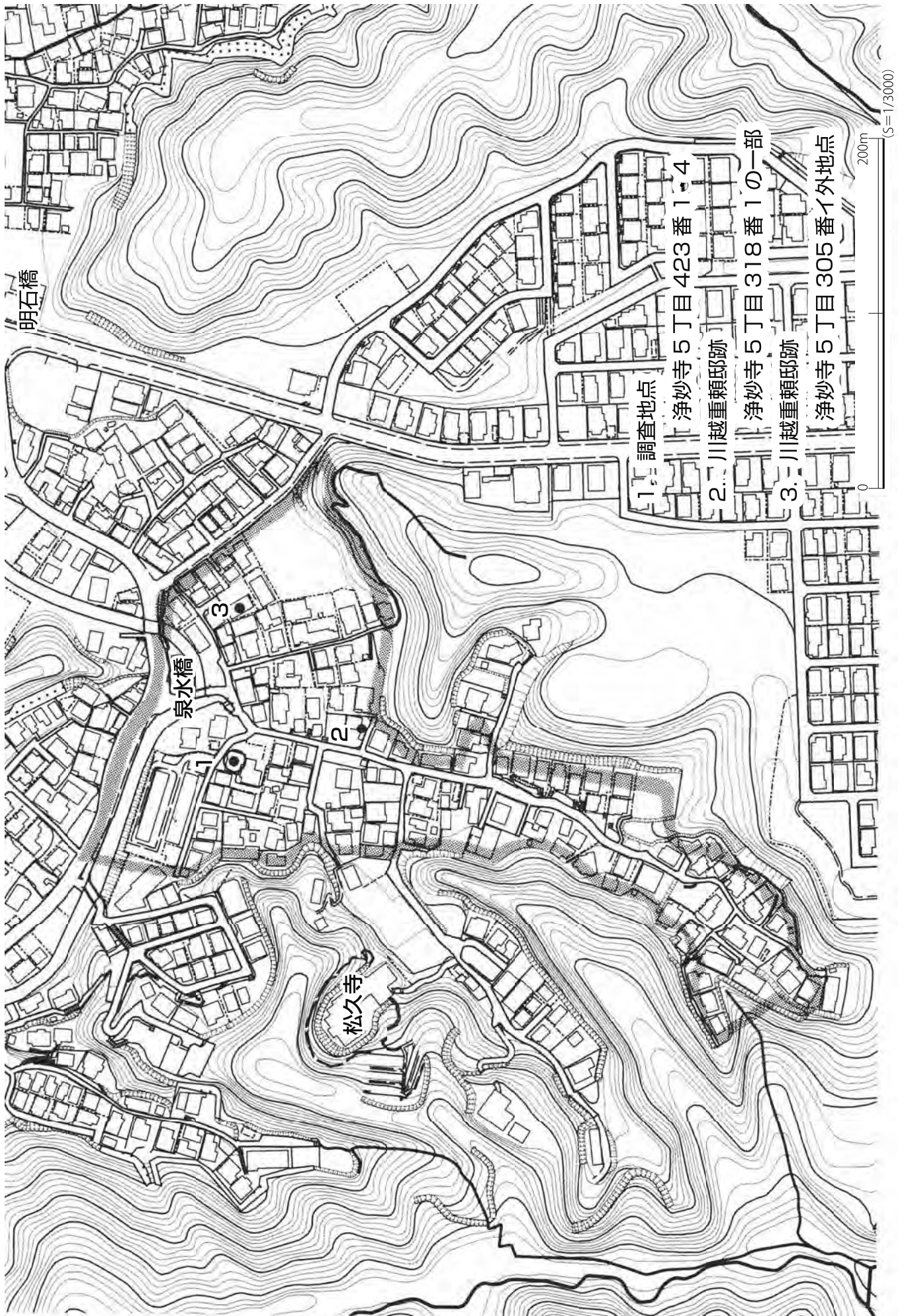


図1 調査地点と周辺の遺跡

右壁に層塔が半肉彫されている。層塔の彫刻は他のやぐらに例を見ない珍しいものである。他の一穴には五輪塔とともに奥壁に宝篋印塔が刻まれている。覚園寺百八やぐら群中に宝篋印塔の壁刻を見るが遺存状況は悪く、当地のやぐらは塔の細部や稜が失われておらず貴重なものとなっている。南の谷にある松久寺は曹洞宗。長盛山松久禅寺と号し、東京都港区芝白金より昭和四十一年現在地に移転した寺である。遺跡名の由来となる「河越重頼」の祖父重隆は武蔵国入間郡河肥荘の荘司として勢力を持ち。重頼の妻は頼家の乳母であり、娘は頼朝の媒介により義経の妻となり、重頼自身は頼朝挙兵以来信任を厚くし、数々の戦勝もたて伊勢国香取五ヶ郷の地頭職に命ぜられ頼朝に重用されていたが、時が過ぎ頼朝と義経が不和となると、義経との縁が逆に災いをもたらし、文治元年（1185）所領は没収され、誅されている。調査地周辺は鎌倉・室町期に鎌倉の境界として重要視され、武家屋敷・仏閣の並ぶ一帯であったが、近世になると農村の様相を見せる地域となった。

## 2. 遺跡位置とグリッド配置（図2）

調査開始にあたり調査区に任意の方眼軸を設け、基準点Aと、見返り点Bを設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基準点Aと、見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系（座標 AREA 9）の国土座標値を使用しているため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB版 TKY2JGD」で世界測地系IX形に変換し、図2に表記した。

## 3. 堆積土層（図3）

本調査では4枚の生活面を発見した。調査前の現地表海拔高は19.60mで、ほぼ平坦な造成が行われていた。調査区南壁・東壁で観察した土層堆積を用いて調査区の堆積状況を上層より説明する。

最上層は調査前まで建っていた家屋の造成土である。重機によって造成土を約40cm掘り下げたところ、調査区南側で広範囲にかわらけが撒布している状態を発見し、第1面として遺構の検出を行った。第1面は現代埋土によって攪乱され、削平を受けていたために複数の生活面上の遺構を同一面上で検出し、重複が多いため第1a面・第1b面と分けて報告している。第1a面構成土は明茶褐色弱粘質土。泥岩・泥岩粒を多く含む地業層であるが、現代埋土により削平を受け平坦な地業面を検出することはできなかった。第1a面検出海拔高は19.40m～19.10m。第1b面構成土は茶褐色弱粘質土。泥岩・泥岩粒を多く含み、炭化物・褐色有機質土を含み堅く締まる。第1b面検出海拔高は19.20m。第1面検出後から第2面検出までは約50cmの厚さで泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色有機質土・褐鉄を含み、多くの高師小僧を発見した暗茶褐色弱粘質土が厚く堆積していた。第2面は、上層の堆積土同様に鉄分を含む堅く締まった地業層であった。第2面構成土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐色有機質土と褐鉄を多く含み固く締まる。第2面検出海拔高は約18.60mである。第3面は第1面・第2面に比べて遺構の検出数が減少する。第3面構成土は茶褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・泥岩と第2面同様に褐鉄を多く含んだ堅く締まった地業層である。第3面構成土からも高師小僧を多く発見している。第3面検出海拔高は18.40mである。

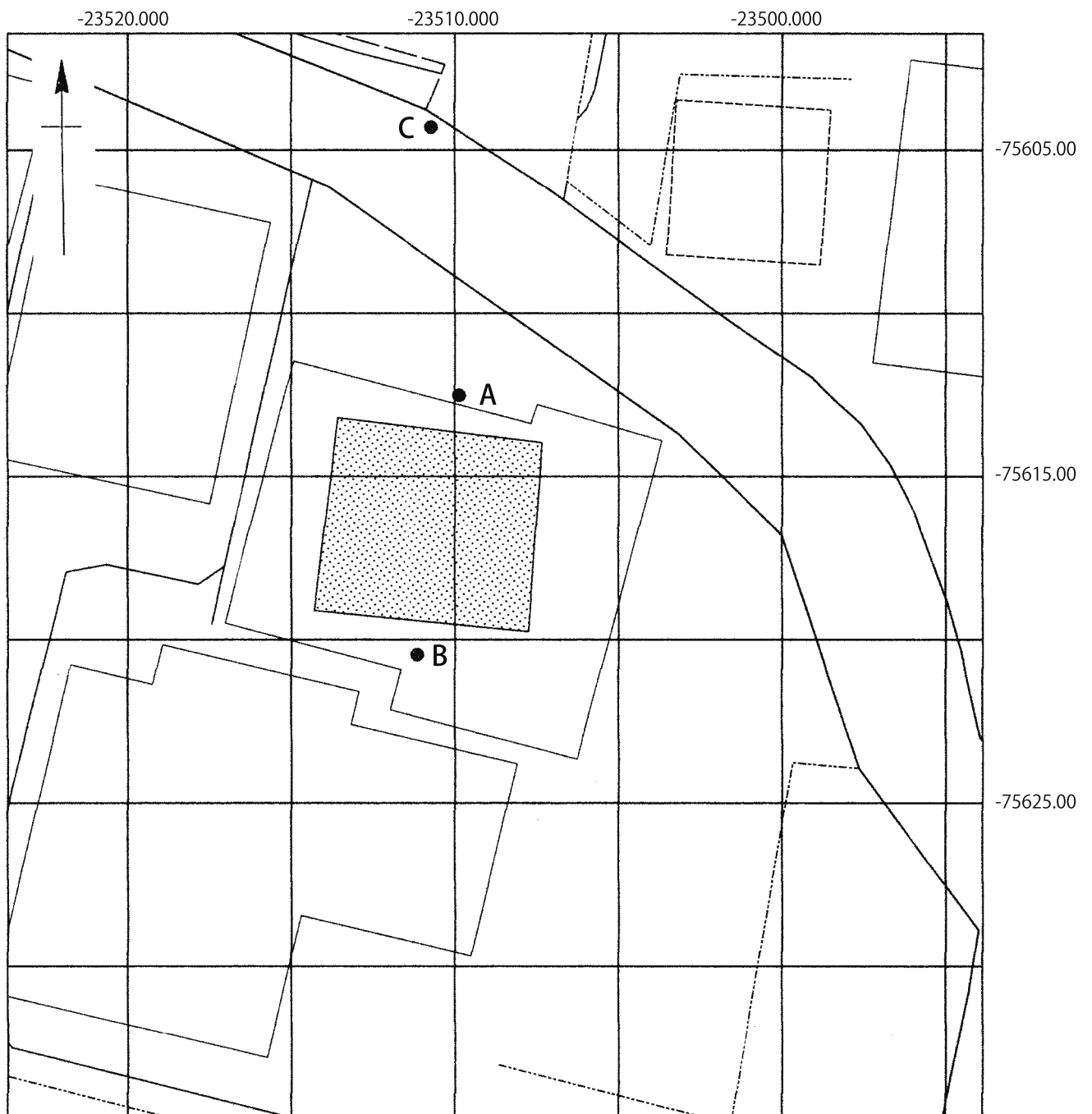
### <参考文献>

- ・『日本歴史大系 14 巻』 「神奈川県の名」 平凡社 1984 年
- ・『鎌倉市史 総説編』 高柳光寿 吉川弘文館 1959 年

- ・『鎌倉市史 考古編』 赤星直忠 吉川弘文館 1967年
- ・『鎌倉市史 社寺編』 高柳光寿・佐藤榮智・川副竹胤・貫達人 吉川弘文館 1972年
- ・『鎌倉事典』 東京堂出版 平成4年 白井永二
- ・『廃寺事典』 有隣堂 貫達人・川副竹胤 1980年

<調査区東壁・南壁 土層注記>

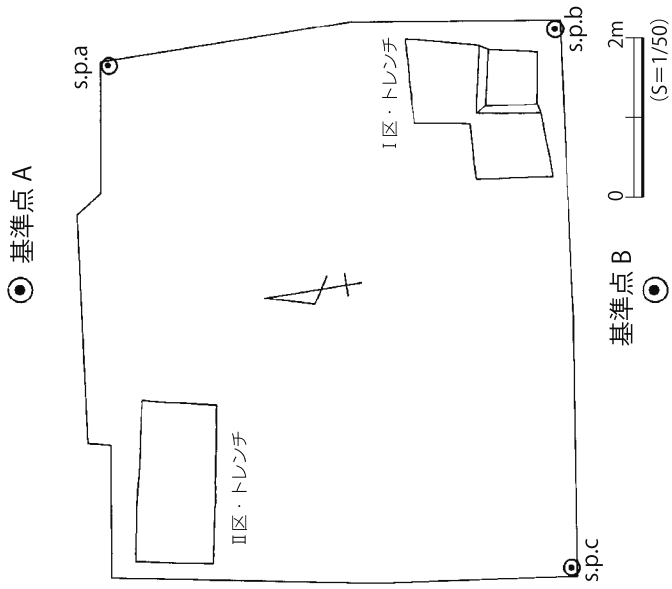
層位No.	土色	注記
1	暗褐色弱粘質土	玉石・ガラス・タイル・泥岩・泥岩粒 現代埋土
2	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色有機質土 中世遺物包含層
3	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物 凝灰質砂岩塊 褐鉄 第1a面構成土
4	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒多・炭化物・褐鉄
5	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色有機質土 褐鉄 第1b面構成土
6	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・褐鉄多
7	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・褐鉄多
8	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・褐鉄多
9	暗茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄
10	暗茶褐色弱粘質土	褐色粘質土・褐鉄
11	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物多
12	暗茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・炭化物多
13	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色有機質土
14	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物多・褐鉄
15	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物多・褐鉄
16	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物多・褐鉄
17	暗褐色弱粘質土	泥岩粒多・炭化物多・褐鉄
18	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒多・炭化物多・褐鉄
19	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色有機質土・褐鉄多・高師小僧多
20	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・暗褐色粘土・褐鉄多 19層に近似
21	灰褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・灰褐色砂質土多
22	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・暗褐色粘土・褐鉄
23	明茶褐色砂質土	暗褐色粘土
24	茶褐色粘質土	炭化物・褐鉄多 第2面構成土
25	暗褐色粘質土	炭化物・褐色有機質土多・褐鉄多 第2面構成土
26	茶褐色粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・褐鉄多 第3面構成土
27	黒褐色粘質土	炭化物・褐色砂質土
28	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物多
29	灰茶褐色弱粘質土	褐色砂質土・炭化物・褐鉄
30	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐鉄多



世界測地系

	X	Y
A	-75612.530	-23509.870
B	-75620.458	-23511.159
C	-75604.307	-23510.724

図2 遺跡位置とグリッド配置図



<最終トレンチ位置図>  
<セクションポイント位置図>

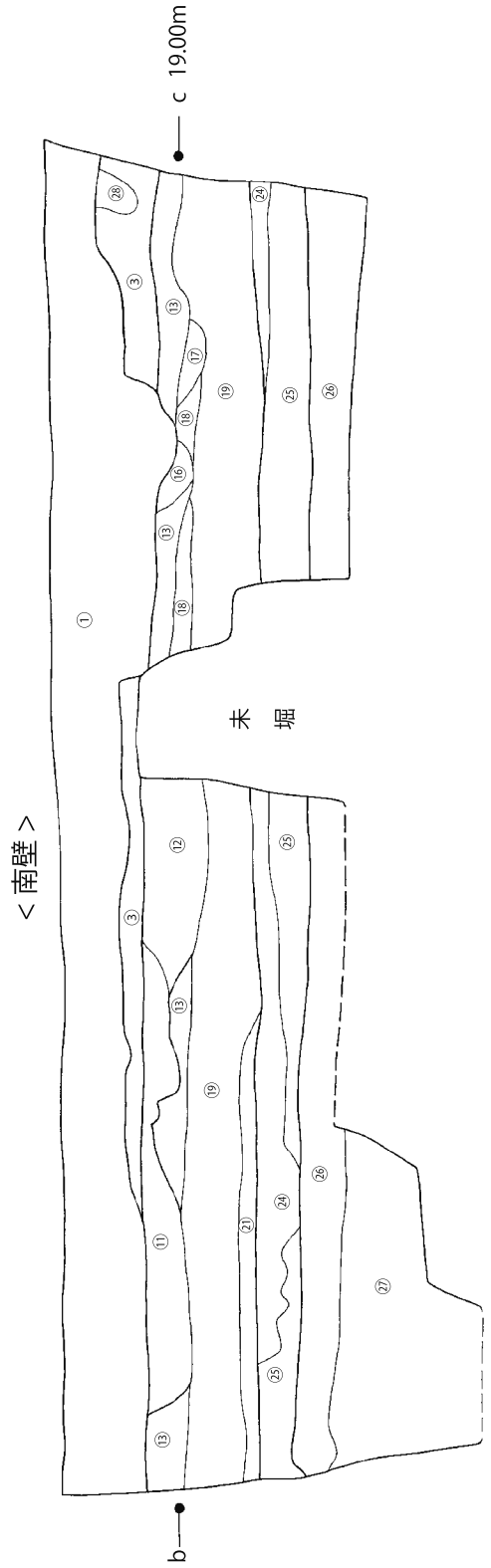
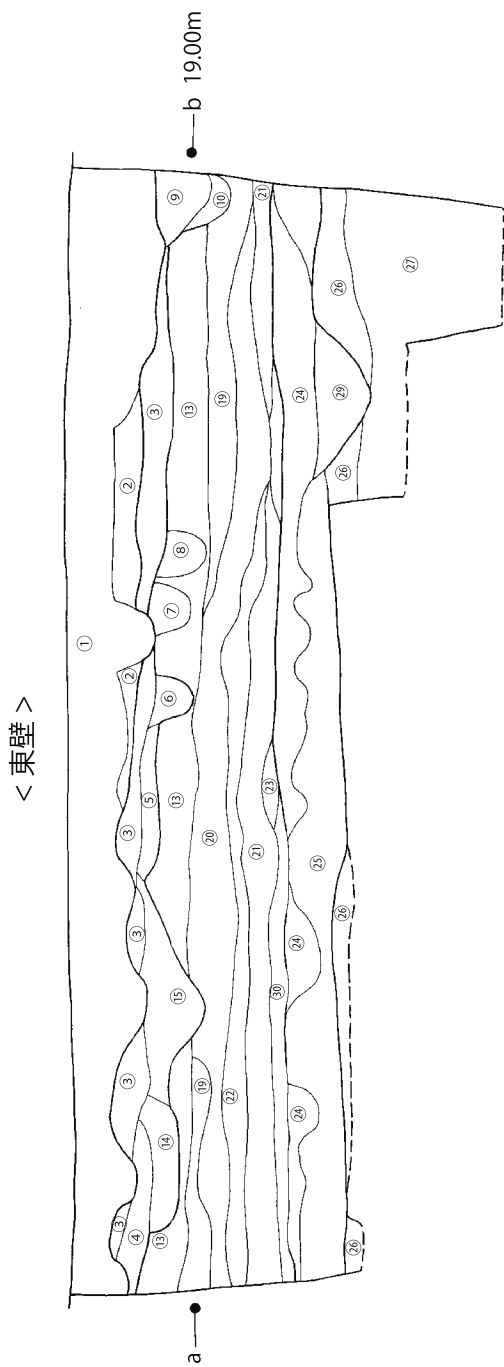


図3 調査区壁堆積土層図

## 第二章 発見された遺構と遺物

重機によって表土を約 40 cm 取り除き、調査区南側で広範囲にかわらけが撒布している状況を確認し、第 1 面として調査を開始した。第 1 面は現代埋土による削平・攪乱の影響を受け、遺構の重複が激しいため 2 枚の生活面に分けて報告している。第 1 面以下の生活面は狭い調査区内で廃土の処理を行うために、調査区を分割して調査を行った。第 1 面の遺構を確認した堆積層上層に一部ではあるが中世遺物包含層を調査区壁で確認しているが遺構は確認できなかった。本報告では第 1a 面・第 1b 面・第 2 面・第 3 面の 4 枚の生活面を報告している。以下、層位毎に発見した順に遺構・遺物の説明を加えていく。また、遺構 No. は調査時に作業を簡便に進めるために付しており遺構の新旧を示すものではない。個別に図示していない遺構は全測図で形状を、遺構計測表で規模を参考にさせていただきたい。実測遺物は観察表に報告し本文中では詳細を省いている。

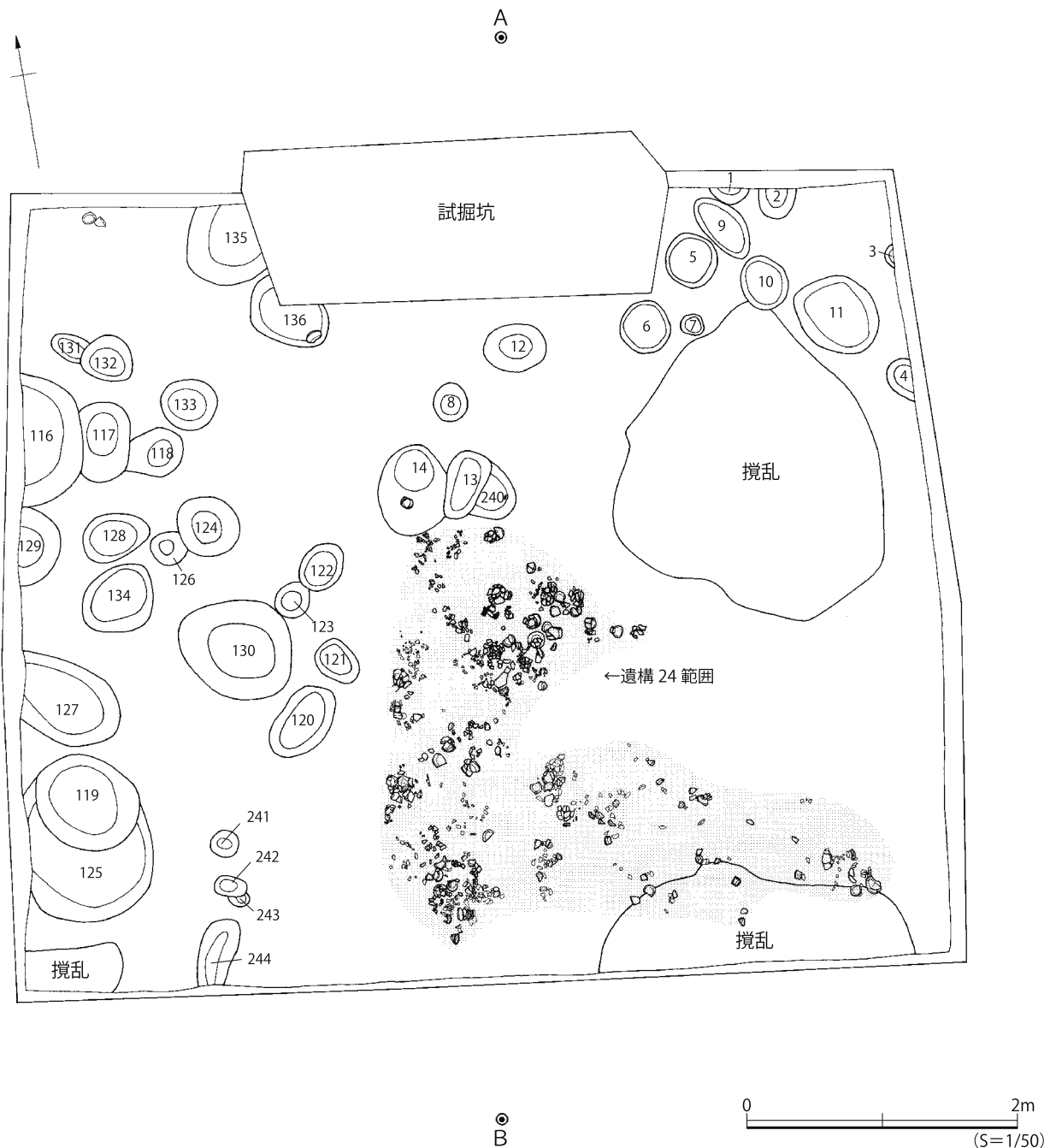


図 4 第 1a 面全測測図

## 第 1 節 第 1a 面の遺構と遺物(図 5～図 8)

第 1a 面は明茶褐色弱粘質土上で遺構を検出した。調査区東側は現代埋土によって大きく攪乱・削平を受けていたが、南側でかわらけ廃棄が広がる様子を確認できた。検出した遺構は北側・西側に偏って発見されており、東側・南側は空閑地だった様子である。第 1a 面は遺構覆土の観察から 2 時期の遺構に分かれると考えている。発見した遺構は土坑 11 基・ピット 29 穴・かわらけ廃棄遺構である。遺構検出海拔高は 19.40～19.10m である。

### ・遺構 6(図 5)

円形を呈するピットである。覆土は茶褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒を含む。

### ・出土遺物(図 5)

1・2 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

### ・遺構 14(図 5)

不正円形を呈する土坑である。遺構 13 に切られる。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒を含む。

### ・出土遺物(図 5)

3 はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

### ・遺構 116(図 5)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。土坑である。遺構 117 を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物多・泥岩粒を含む。

### ・出土遺物(図 5)

4・5 はかわらけ。6 は土器質火鉢。7 は瓦・平瓦。その他に常滑甕・瓦器質火鉢が破片で出土している。

### ・遺構 125(図 5)

楕円形を呈する土坑である。遺構 119 に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩塊を含む。遺構 119 に切られる。

### ・出土遺物(図 5)

8・9 はかわらけ。その他に常滑甕が破片で出土している。

### ・遺構 127(図 5)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

### ・出土遺物(図 5)

10 は常滑片口鉢Ⅱ類。その他にかわらけが破片で出土している。

### ・遺構 128(図 5)

不正円形を呈するピットである。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒多・炭化物多を含む

### ・出土遺物(図 5)

11・12 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

### ・遺構 129(図 5)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒多・炭化物・泥岩塊を含む。

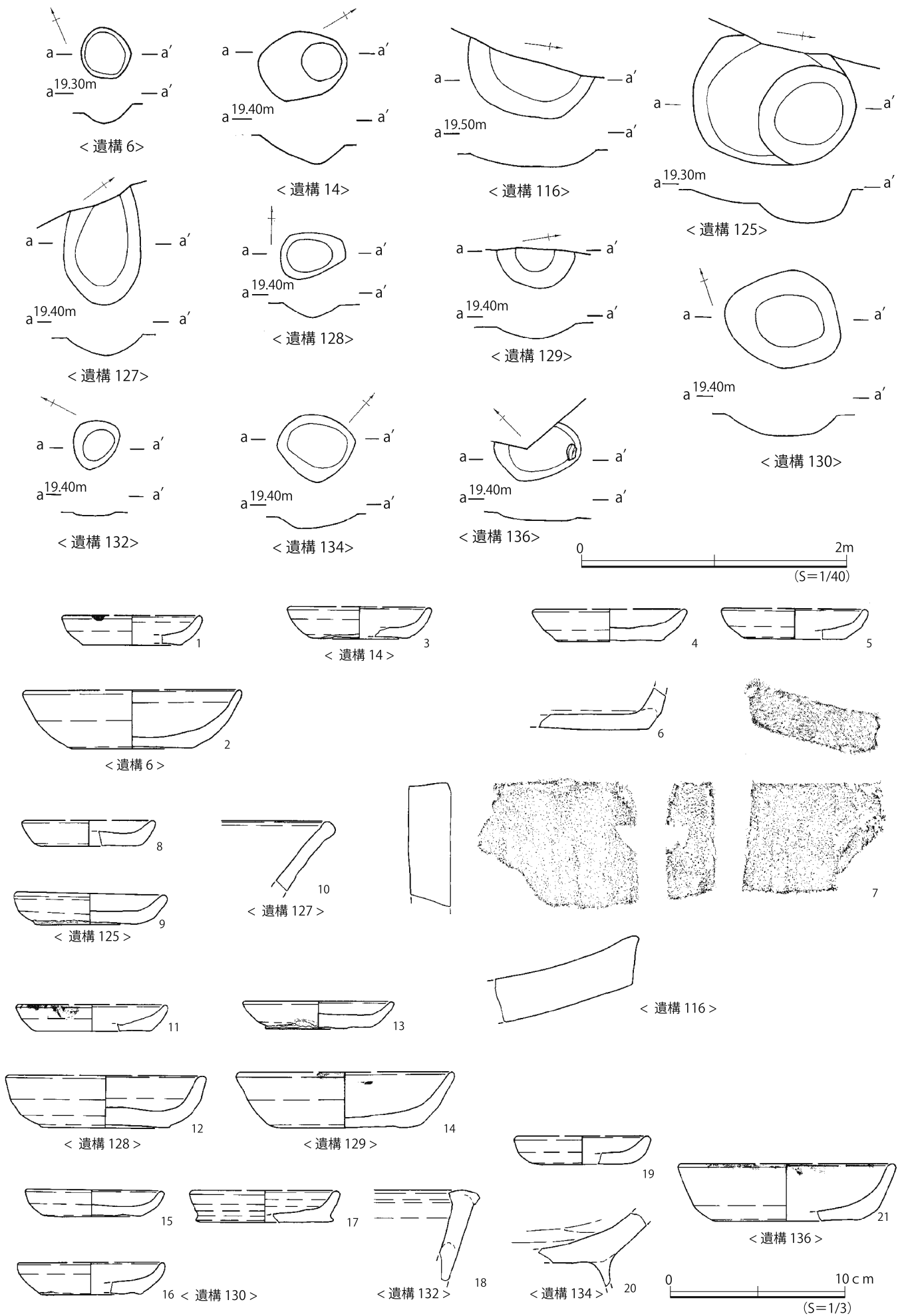


图5 第1a面個別遺構・出土遺物



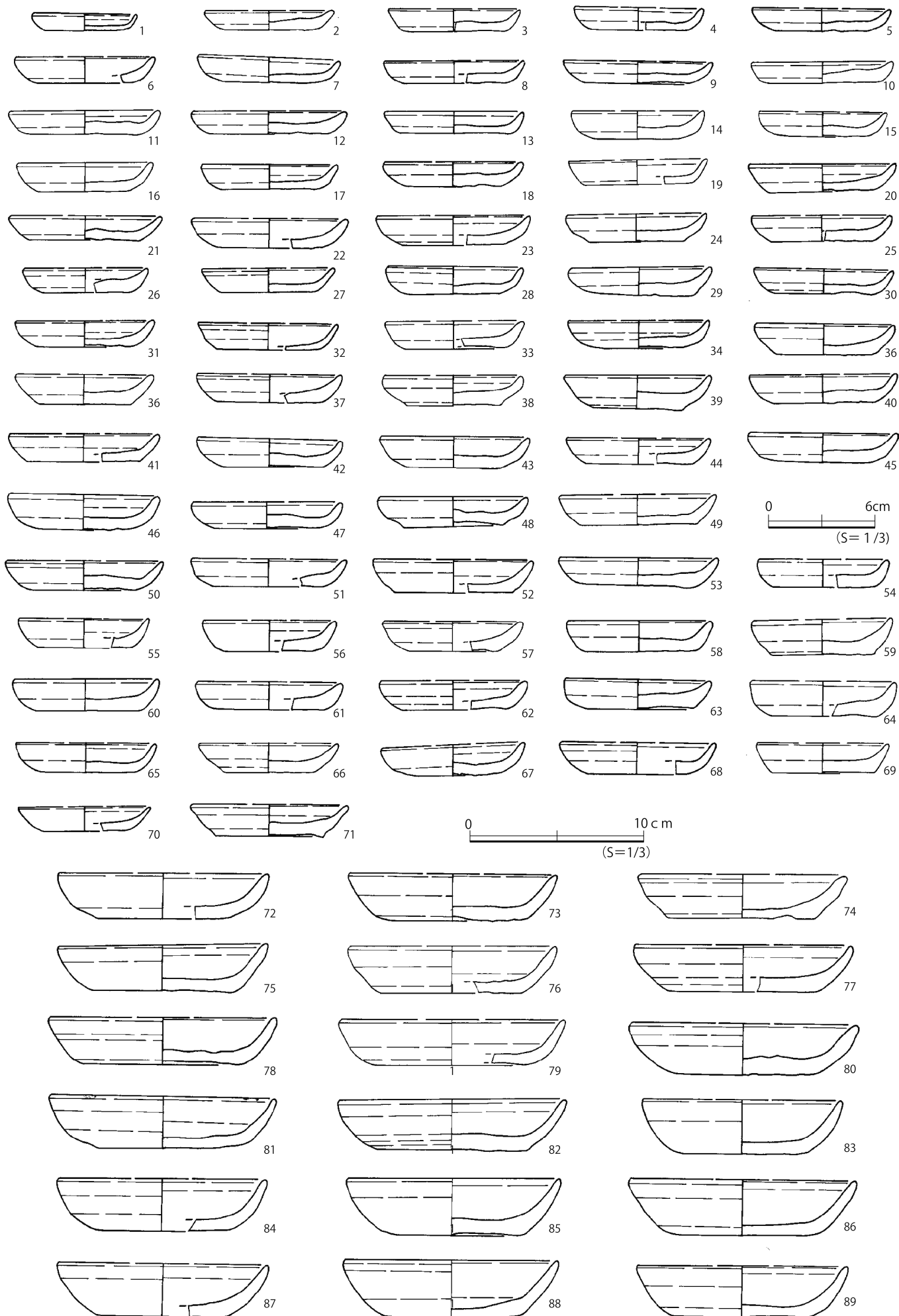


图6 第1a面面上(遺構24)出土遺物(1)

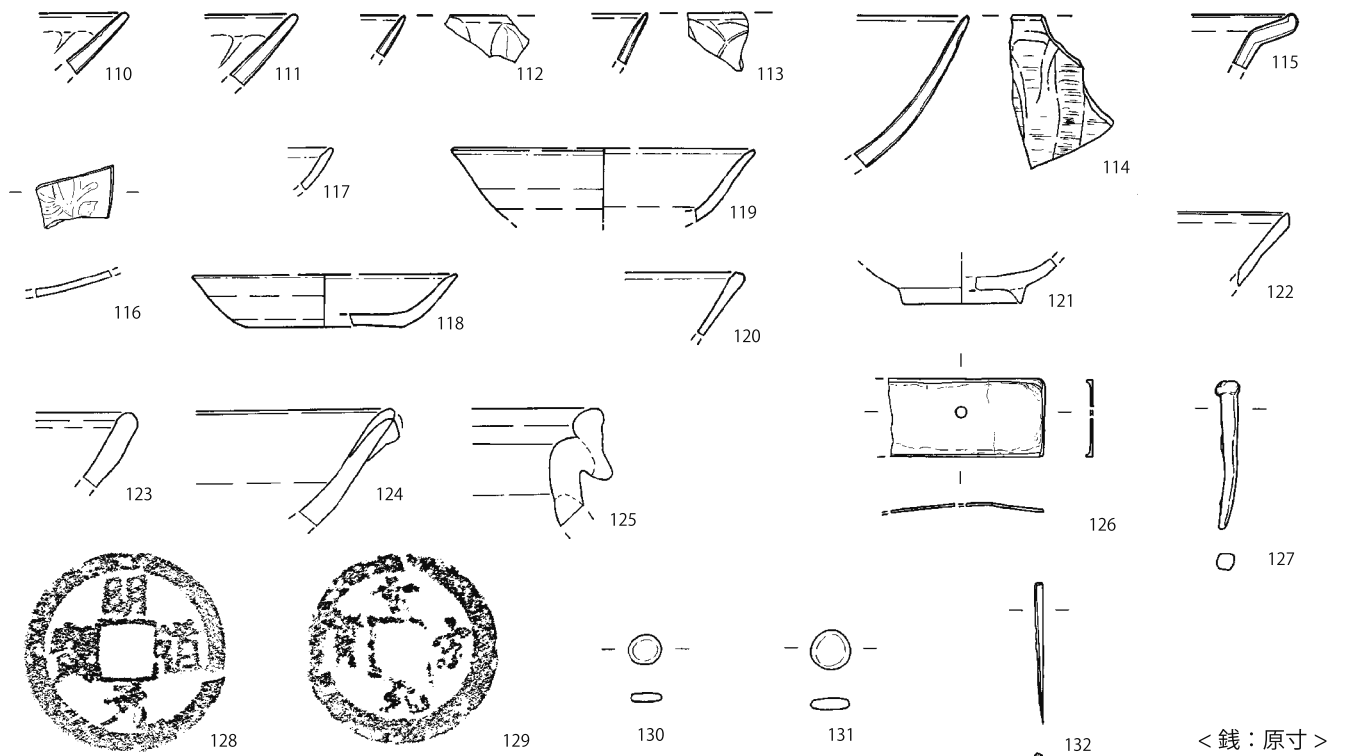
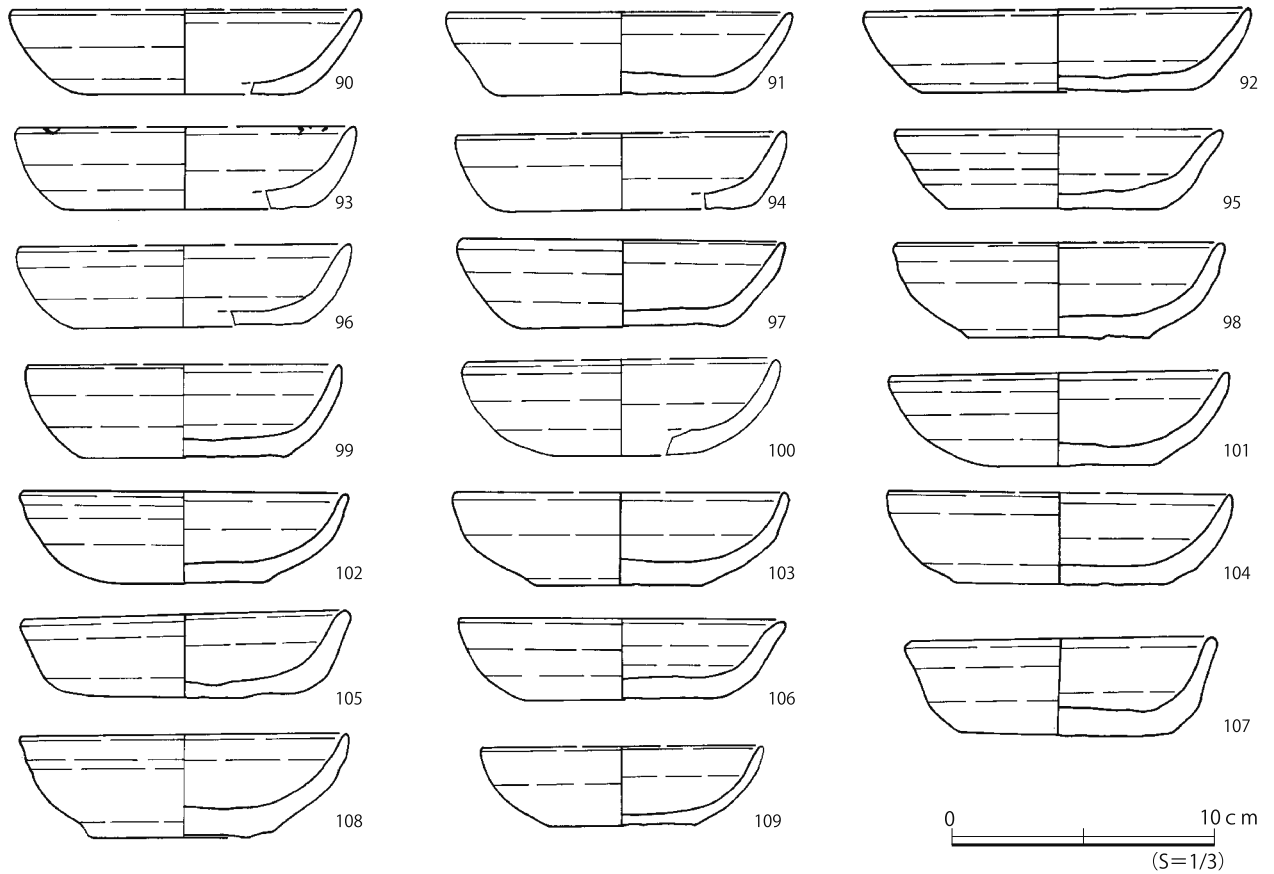


図7 第1a面面上（遺構24）出土遺物（2）

・出土遺物(図5)

13・14はかわらけ。その他に滑石片が出土している。

・遺構130(図5)

不正円形を呈する土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒多・炭化物を含む。

・出土遺物(図 5)

15~17 はかわらけ。その他に常滑甕・常滑片口鉢 I 類が破片で出土している。

・遺構 132(図 5)

不正円形を呈するピットである。遺構 131 を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物多を含む。

・出土遺物(図 5)

18 は土器質火鉢。その他にかわらけ・常滑片口鉢 I 類が破片で出土している。

・遺構 134(図 5)

不正円形を呈する土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物多を含む。

・出土遺物(図 5)

19 はかわらけ。20 は常滑片口鉢 I 類。その他に遺物は出土していない。

・遺構 136(図 5)

土坑である。試掘坑に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒多・炭化物多を含む。

・出土遺物(図 5)

21 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

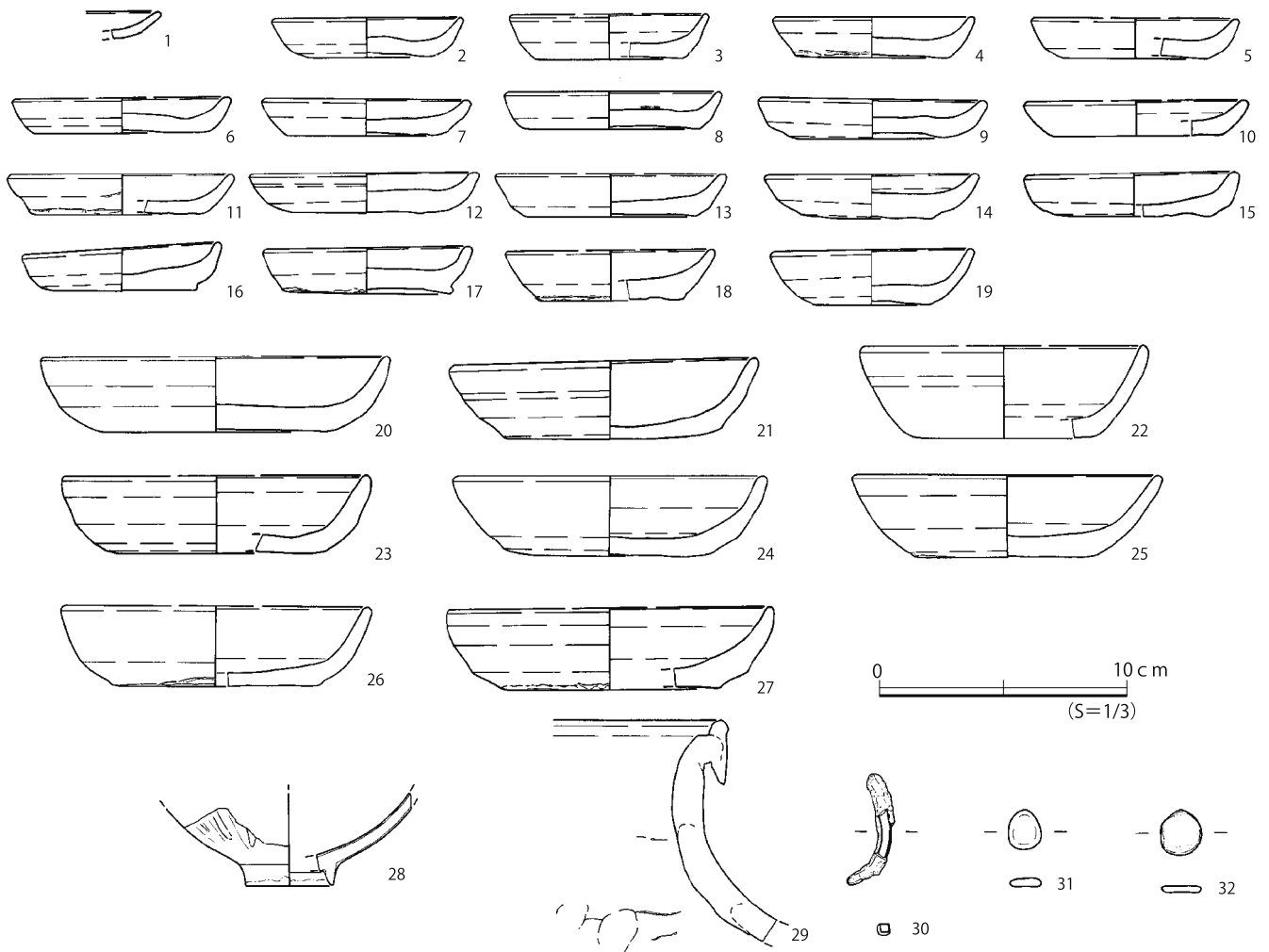


図 8 第 1 a 面面上出土遺物

・第 1 面面上(遺構 24)出土遺物(図 4・図 6~図 7)

第 1 面精査時に、面上に多くのかわらけが撒布(廃棄)して出土したため、撒布範囲を実測し、遺構

名を付けて採集し、後述する面上出土遺物とは分けて報告することにした。地業の一環としてかわらけを用いたとも考えたが、採集したかわらけに完形品が多いことや、限られた範囲のみで出土し、かわらけが撒布している場所でピット等の遺構を検出していないため、空閑地にかわらけを廃棄することになんらかの意味があったのかもしれないと考えている。実測したかわらけは 109 点であるが、破片数ではかわらけ（大）554 点、（小）214 点が出土している。採集した範囲は図 4 に示した。

1～109 はかわらけ。1 は内折れかわらけ。110・111 は青磁蓮弁文鉢。112～114 は青磁鎬蓮弁文碗。115 は青磁折縁鉢。116 は白磁碗。117～119 は白磁口元皿。120 は青白磁皿。121 は瀬戸器種不明。122 は山茶碗。123・124 は常滑片口鉢 I 類。125 は常滑甕。126 は銅製品種別不明。127 は金属製品釘。128～129 は金属製品銭。130～131 は石製品基石か。132 は木製品用途不明。

#### ・第 1a 面面上出土遺物(図 8)

第 1a 面精査時に出土した遺物である。前述した遺構 24 とは別に掲載した。

1～27 はかわらけ。28 は青磁鎬蓮弁文碗。29 は常滑甕。30 は金属製品釘。31～32 は石製品基石。

### 第 2 節 第 1b 面の遺構と遺物 (図 9～図 12)

第 1a 面では調査区東側と南側が空閑地であったが、第 1b 面では調査区全体に遺構が広がる様子を確認している。第 1b 面は泥岩粒・炭化物・褐色有機質土・褐鉄を多く含む堅く締まった茶褐色弱粘質土の地業層上で遺構を検出した。遺構の切り合い、覆土の観察から少なくとも 2 時期の遺構を発見している。発見した遺構は土坑 20 基・ピット 67 穴である。第 1b 面検出海拔高は 19.20m である。

#### ・遺構 15(図 10)

円形を呈するピットである。土坑 58 を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

#### ・出土遺物(図 11)

1 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

#### ・遺構 18(図 10)

円形を呈する土坑である。遺構 17 に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む。

#### ・出土遺物(図 11)

2 はかわらけ。その他に手づくね成形白かわらけ・常滑甕が破片で出土している。

#### ・遺構 21(図 10)

円形を呈するピットである。遺構 19 に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### ・出土遺物(図 11)

3 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

#### ・遺構 28(図 10)

円形を呈するピットである。遺構 33 を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・凝灰質砂岩を含む。

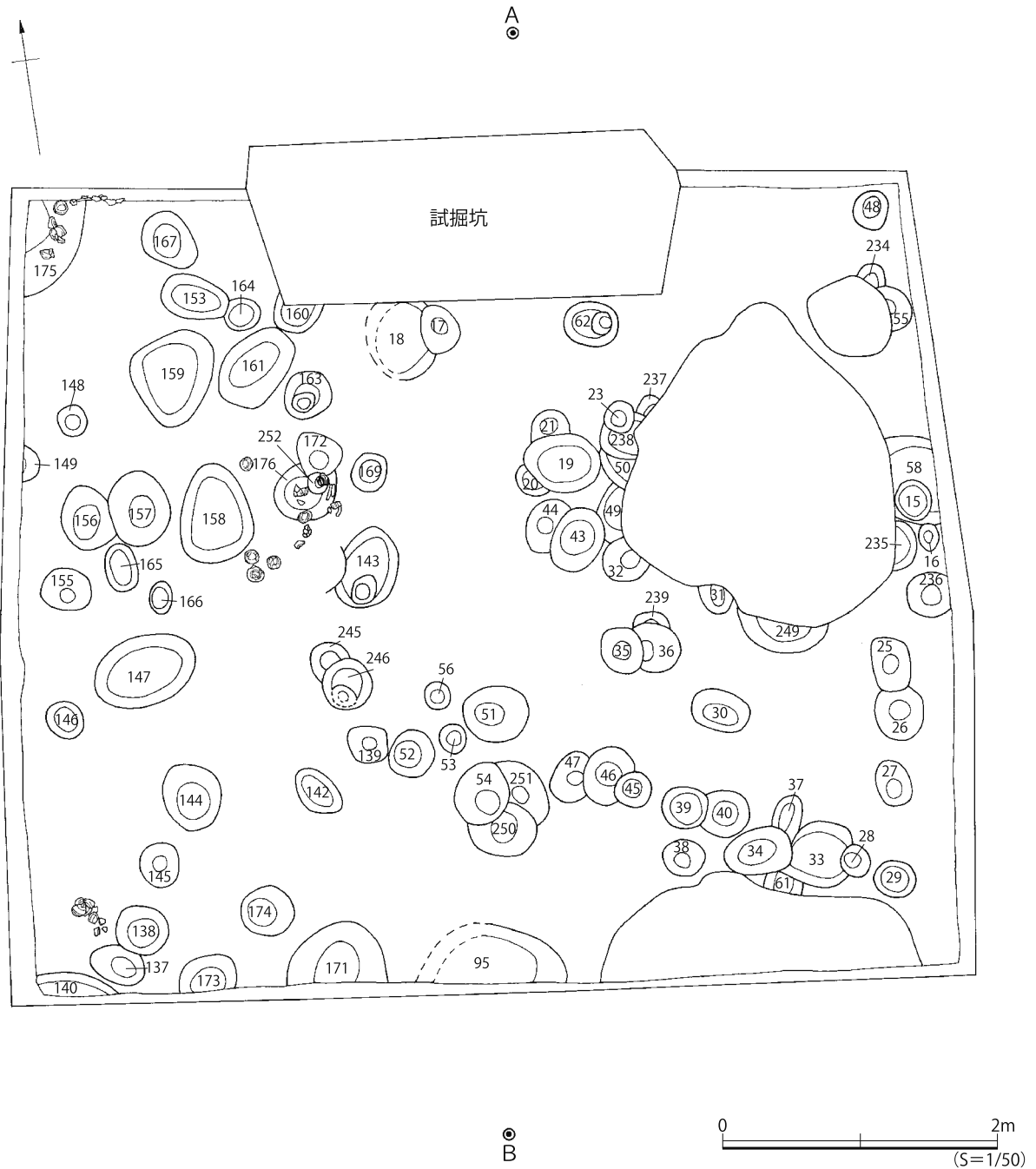


図9 第1b面全測図

・出土遺物(図11)

4はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・遺構32(図10)

円形を呈するピットである。攪乱に切られ規模は不明。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。

・出土遺物(図11)

5はかわらけ。6は常滑甕。その他に手づくね成形かわらけ・ロクロ成形内折れかわらけ・瀬戸碗・金属製品釘が破片で出土している。

・遺構33(図10)

円形を呈する土坑である。遺構28・遺構34に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。褐鉄・炭化物・泥岩粒を含む。

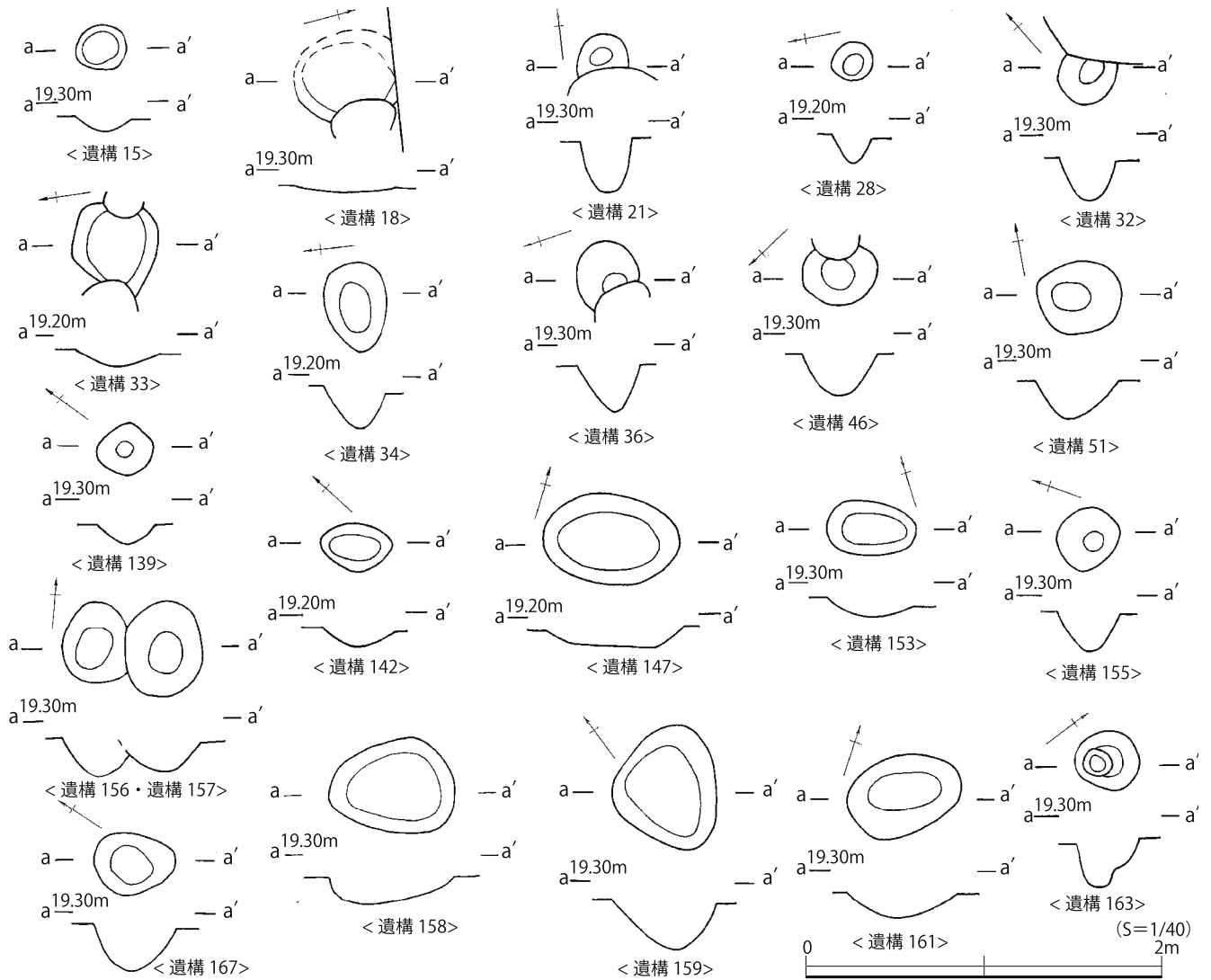


図 10 第 1b 面個別遺構図

・出土遺物(図 11)

7 は青白磁皿。その他にかわらけが破片で出土している。

・遺構 34(図 10)

楕円形を呈するピットである。遺構 33・遺構 37・遺構 61 を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。

・出土遺物(図 11)

8 はかわらけ。9 は金属製品釘。その他に常滑甕が破片で出土している。

・遺構 36(図 10)

円形を呈するピットである。遺構 35 に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物(図 11)

10 は手づくね。11 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・遺構 46(図 10)

楕円形を呈するピットである。遺構 47 を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物(図 11)

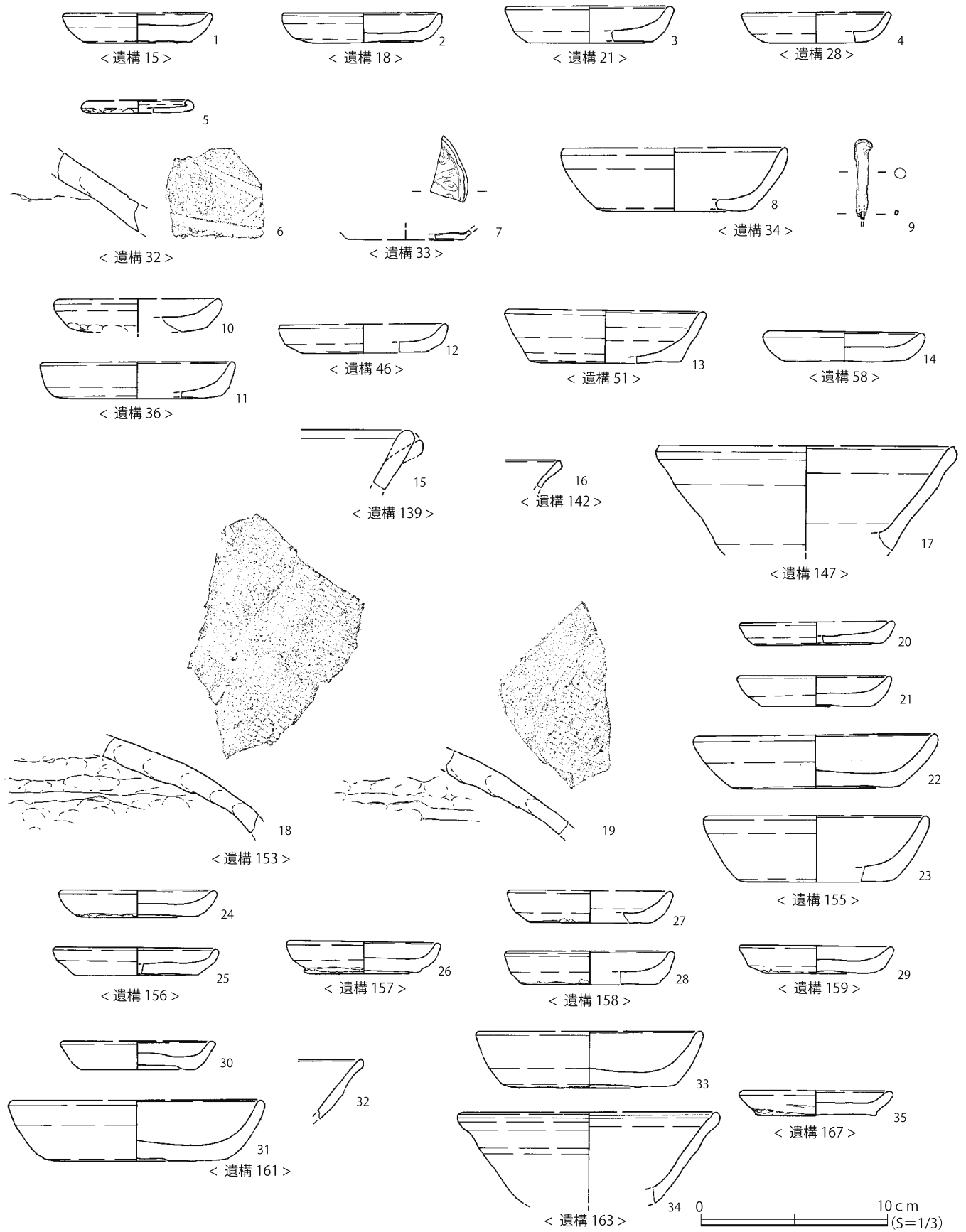


図 11 第 1b 面出土遺物

12 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・遺構 51(図 10)

円形を呈するピットである。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物多・泥岩粒・褐鉄を含む。

・**出土遺物(図 11)**

13 はかわらけ。その他に滑石片が出土している。

・**遺構 58 出土遺物(図 9)**

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。土坑である。個別に図面は掲載していない。遺構 15 に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

・**出土遺物(図 11)**

14 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 139(図 10)**

方形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。泥岩粒・炭化物多・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

15 は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかかわらけが破片で出土している。

・**遺構 142(図 10)**

不正円形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。泥岩粒・炭化物・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

16 は山茶碗。その他にかかわらけが破片で出土している。

・**遺構 147(図 10)**

楕円形を呈する土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土。泥岩粒多・炭化物多を含む。

・**出土遺物(図 11)**

17 は山茶碗。その他にかかわらけが破片で出土している。

・**遺構 153(図 10)**

楕円形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

18・19 は常滑甕。その他にかかわらけ・瀬戸縁釉小皿が破片で出土している。

・**遺構 155(図 10)**

円形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

20～23 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 156(図 10)**

楕円形を呈する土坑である。遺構 157 に切られる。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒多・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

24～25 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 157(図 10)**

楕円形を呈する土坑である。遺構 156 を切る。暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒多・褐色粘土・泥岩塊を含む。

・**出土遺物(図 11)**

26 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 158 出土遺物(図 10)**

不正円形を呈する土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒・褐色粘土を含む。



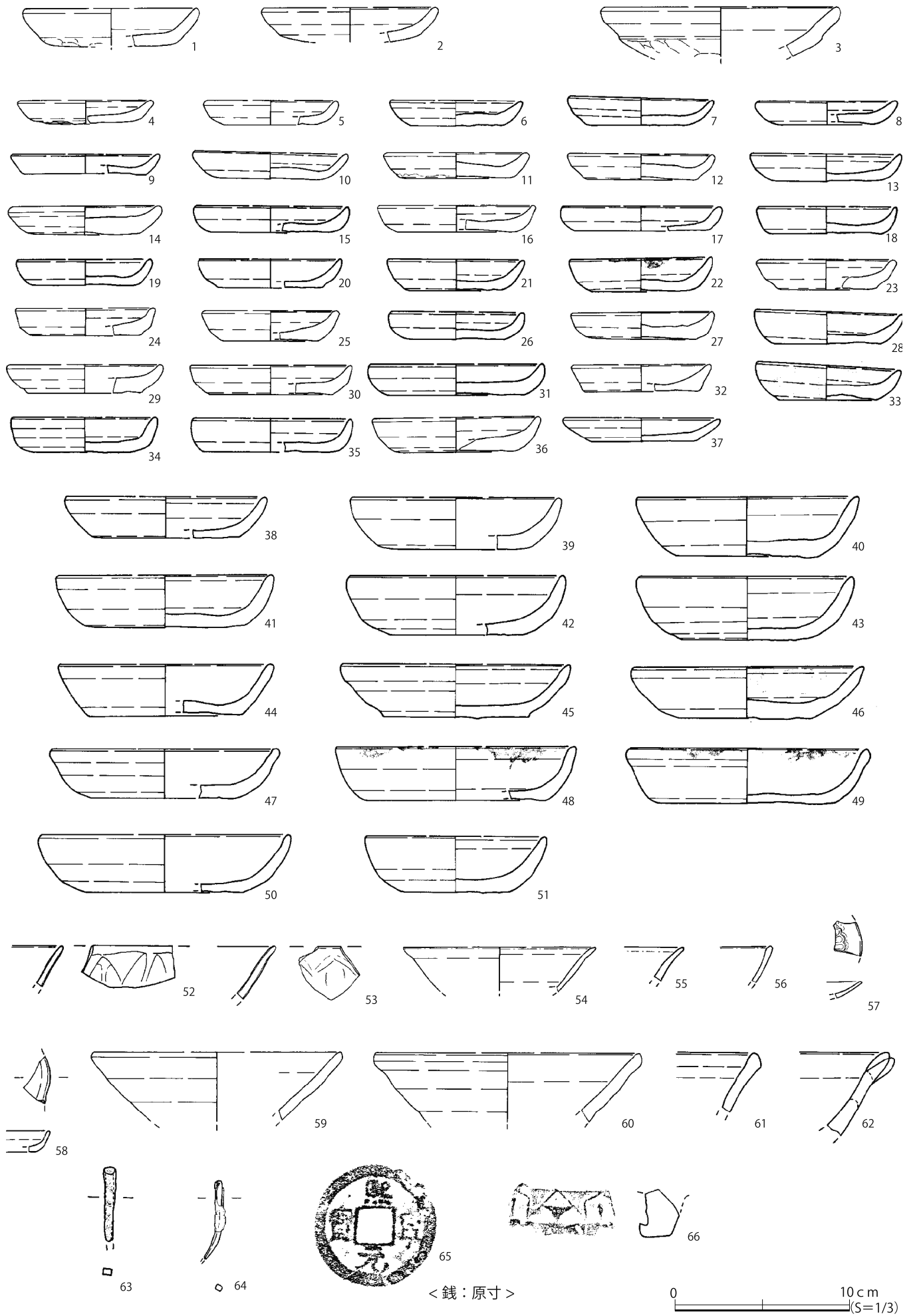


图 12 第 1a 面・第 1b 面構成出土遺物

・**出土遺物(図 11)**

27～28 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 159(図 10)**

不正円形を呈する土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒・褐色粘土を含む。

・**出土遺物(図 11)**

29 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 161(図 10)**

楕円形を呈する土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒多・褐色粘土・泥岩塊を含む。

・**出土遺物(図 11)**

30～31 はかわらけ。32 は山茶碗。その他に遺物は出土していない。

・**遺構 163(図 10)**

円形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒・褐色粘土多を含む。

・**出土遺物(図 11)**

33 はかわらけ。34 は山茶碗。その他に常滑片口鉢 I 類が破片で出土している。

・**遺構 167(図 10)**

不正円形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒多を含む。

・**出土遺物(図 11)**

35 はかわらけ。その他に常滑鉢が破片で出土している。

・**第 1a 面・1b 面構成土出土遺物(図 12)**

第 1a 面・第 1b 面の遺構検出土後、第 2 面までの堆積層中で発見した遺物である。

1～3 は手づくね。4～51 はかわらけ。52・53 は青磁鑄蓮弁文碗。54 は白磁口元皿。55・56 は白磁口元碗。57 は青白磁皿。58 は瀬戸入子。59・60 は山茶碗。61・62 は常滑片口鉢 I 類。63・64 は金属製品釘。65 は金属製品銭。66 は瓦・宇瓦。

### 第 3 節 第 2 面の遺構と遺物 (図 13～図 14)

第 1 面の遺構検出後、第 2 面検出層の間には約 50 cm の厚さで褐鉄を多く含む堅く締まった土が堆積していた。特に 19 層 (図 3) では、高師小僧を多く採集し、鉄分を多く含んだ土であったことがわかる。第 2 面は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐色有機質土・褐鉄を多く含む地業層上で遺構を発見した。発見した遺構覆土内を含め、第 2 面では遺物の出土量が大きく減少する。発見した遺構は土坑 10 基・ピット 74 穴である。若干ではあるが、遺構検出数は調査区西側が多くなる。

・**遺構 70(図 14)**

円形を呈する土坑である。遺構 7 I を切る。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄・褐色砂質土を含む。遺物は出土していない。

・**遺構 71(図 14)**

円形を呈するピットである。遺構 70 に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物多・褐鉄を含む。



図 13 第 2 面全測図

遺物は出土していない。

・遺構 72(図 14)

楕円形を呈するピットである。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。

・遺構 85(図 14)

円形を呈する土坑である。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄を含む。遺物は出土していない。

・遺構 86(図 14)

円形を呈するピットである。遺構 87 に切られる。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄・褐色砂質土を含む。遺物は出土していない。

・遺構 87(図 14)

円形を呈するピットである。遺構 86 を切る。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄を含む。遺物は

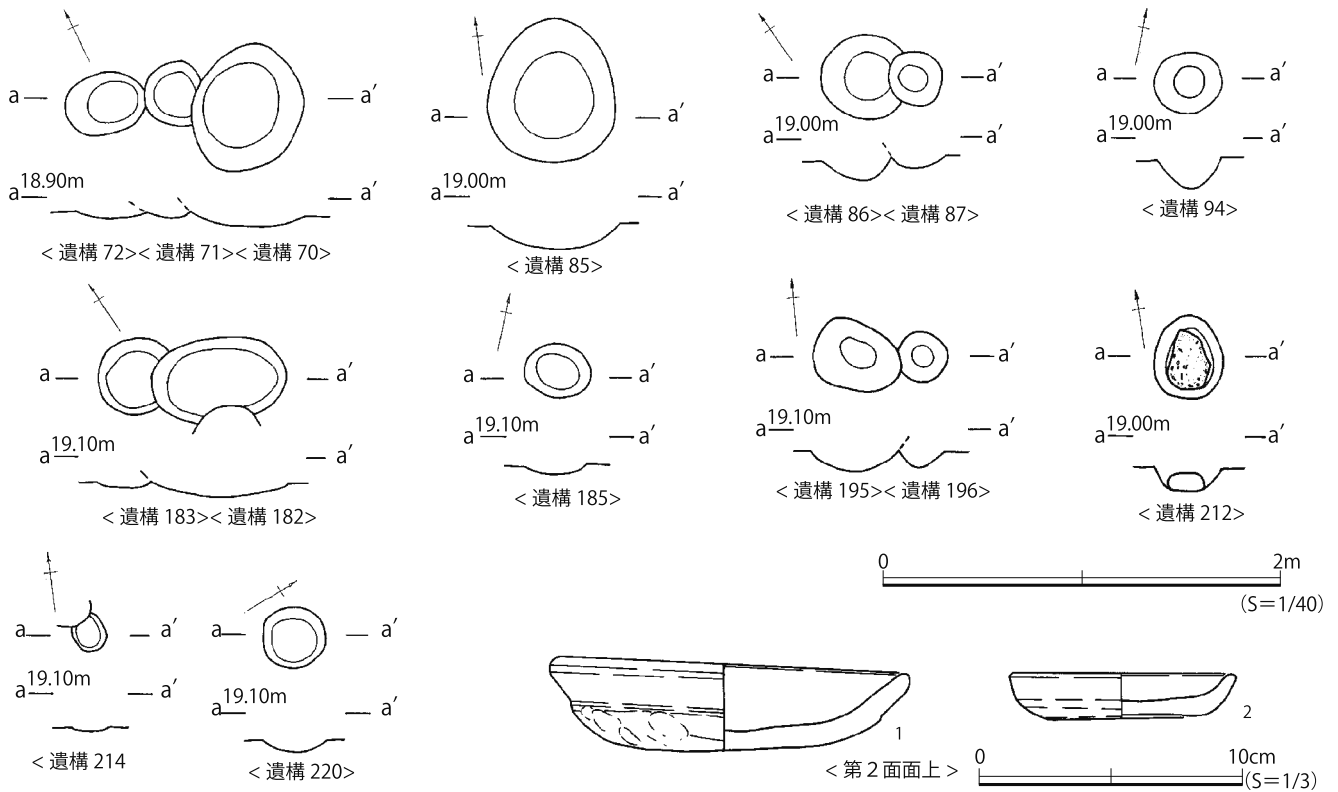


図 14 第 2 面個別遺構・面上出土遺物

わらけが破片で出土している。

・遺構 94(図 14)

円形を呈するピットである。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄を含む。遺物は出土していない。

・遺構 182(図 14)

楕円形を呈する土坑である。遺構 183 を切る。覆土は褐色砂質土。炭化物多・褐鉄・泥岩粒多を含む。遺物は出土していない。

・遺構 183(図 14)

円形を呈するピットである。遺構 182 に切られる。覆土は褐色弱粘質土。炭化物多・褐鉄・泥岩粒を含む。遺物は出土していない。

・遺構 185(図 14)

円形を呈するピットである。遺構 212・遺構 214 を切る。覆土は褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物を含む。遺物は出土していない。

・遺構 195(図 14)

楕円形を呈する土坑である。遺構 196 に切られる。覆土は褐色弱粘質土。炭化物多・泥岩粒多・褐鉄を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。

・遺構 196(図 14)

円形を呈するピットである。遺構 195 を切る。覆土は褐色弱粘質土。褐鉄・炭化物・泥岩粒を含む。遺物は出土していない。

・遺構 212(図 14)

楕円形を呈するピットである。遺構底面に礎石が遺存していた。遺構 185・遺構 204 に切られる。覆土は茶褐色弱粘質土。褐色砂質土・炭化物・褐鉄多を含む。遺物は出土していない。

・遺構 214(図 14)

楕円形を呈するピットである。遺構 185 に切られる。覆土は茶褐色弱粘質土。褐鉄・炭化物を含む。遺物は出土していない。

・遺構 220(図 14)

円形を呈するピットである。覆土は茶褐色弱粘質土。褐鉄・炭化物・褐色砂質土を含む。遺物は出土していない。

・第 2 面面上出土遺物(図 14)

第 2 面遺構精査時に面上で発見した遺物である。遺構覆土を含めて出土遺物は大きく減少する。1 は手づくね。2 はかわらけ。第 2 面構成土からは遺物が出土していない。

第 4 節 第 3 面の遺構と遺物 (図 15～図 16)

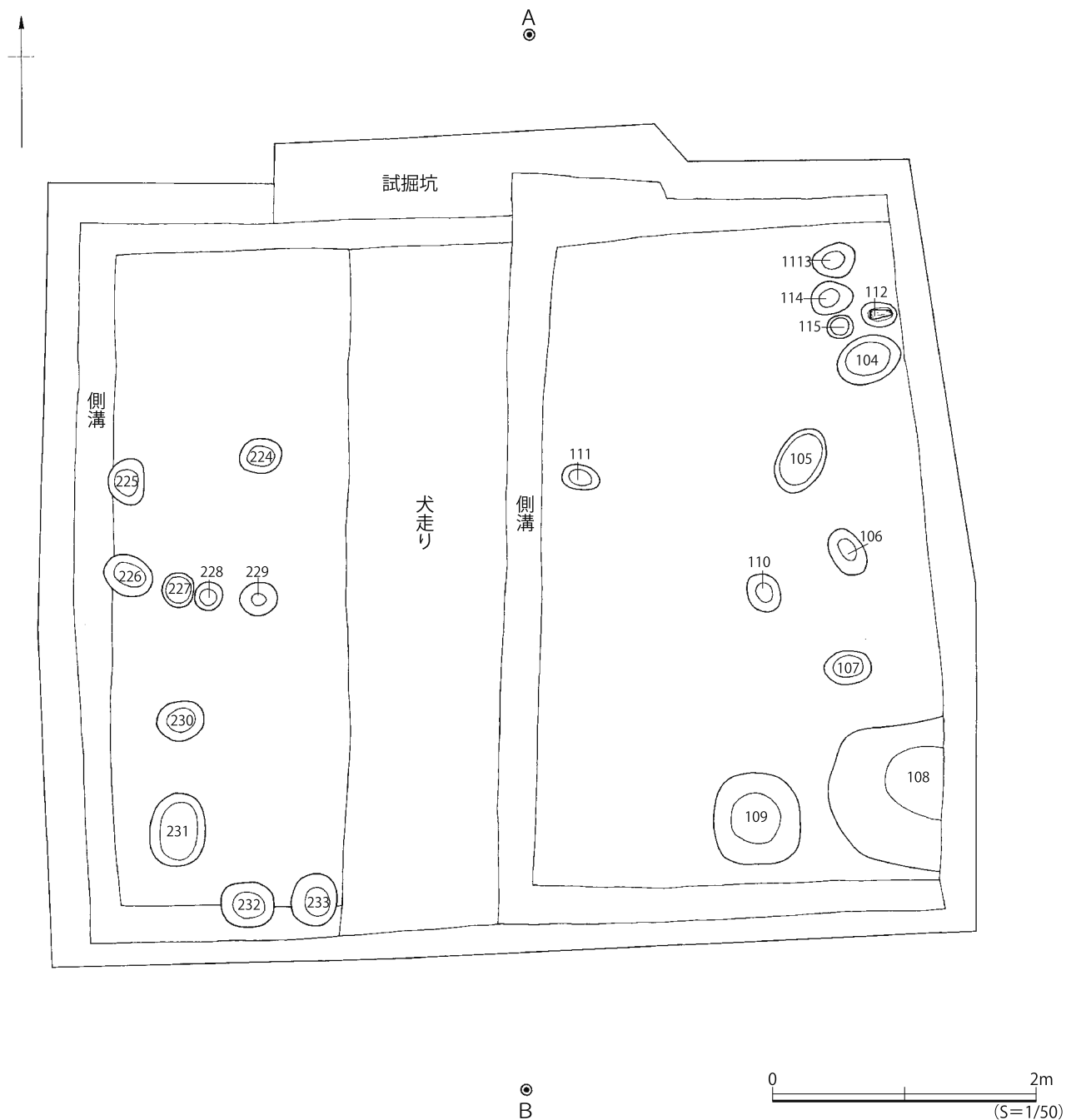


図 15 第 3 面全測図

泥岩粒・褐鉄を多く含む堅く締まった第2面構成土を除去し、平坦に堆積する茶褐色弱粘質土上で第3面を検出した。発見した遺構は土坑2基・ピット20穴であるが、上層の堆積に削平を受けているためか深さ10cm前後を測る深度の浅い遺構が大半であった。また、調査区東側(I区)で発見した遺構の覆土は弱粘質土であったが、西側(II区)で発見した遺構の覆土は砂質土を主体とする遺構覆土が大半である。西側(II区)の砂質土を覆土主体とする遺構は、深度や堆積状況などから遺構として比定するにはやや希薄な印象を受ける。第2面同様に遺構覆土内からの出土遺物はなく、堆積土内からの出土遺物も僅かであった。

・遺構 105(図 16)

楕円形を呈するピットである。覆土は黒褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄・植物遺体を含む。遺物は出土していない。

・遺構 108(図 16)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。土坑である。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄多を含む。遺物は出土していない。

・遺構 109(図 16)

円形を呈する土坑である。覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄多を含む。遺物は出土していない。

・遺構 224(図 16)

楕円形を呈するピットである。覆土は褐鉄多・黒色粘土・泥岩粒を含む灰褐色砂質土。遺物は出土していない。

・遺構 230(図 16)

楕円形を呈するピットである。覆土は褐鉄多・黒色粘土・泥岩粒を含む灰褐色砂質土。遺物は出土していない。

・第3面構成土出土遺物(図 16)

第3面遺構検出後、第3面の地業構成土となる、褐色砂質土・泥岩粒・褐鉄を含む茶褐色粘質土から出土した遺物である。図示した遺物の他には、自然遺物の木片が少量出土しているが中世遺物は発見していない。

1は須恵器坏。

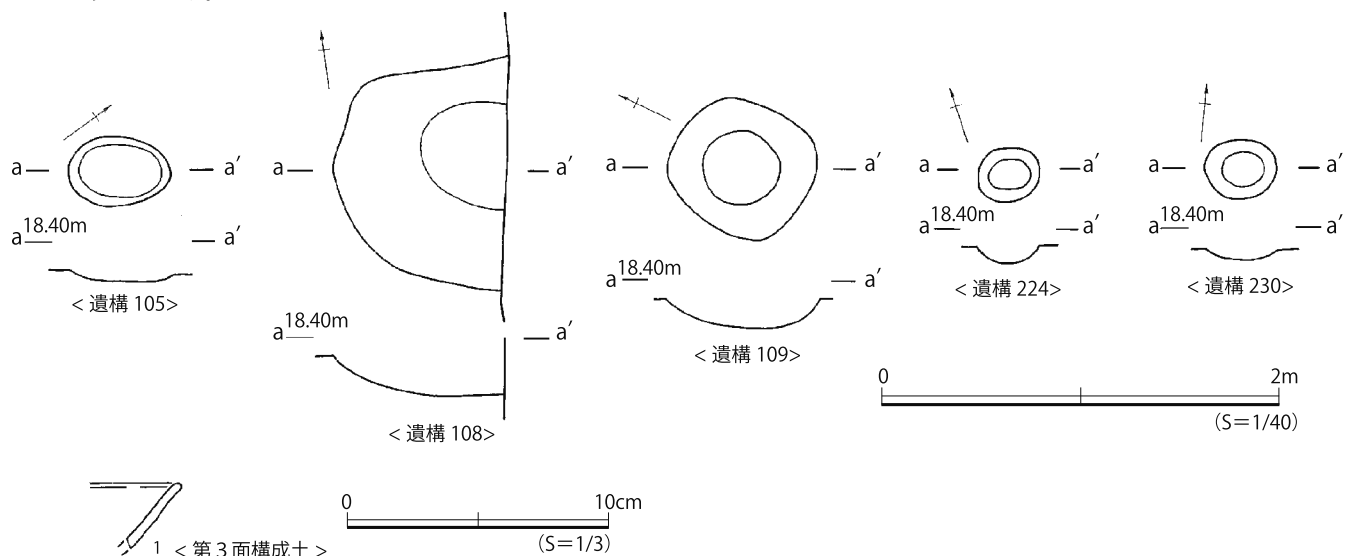


図 16 第3面個別遺構・構成出土遺物

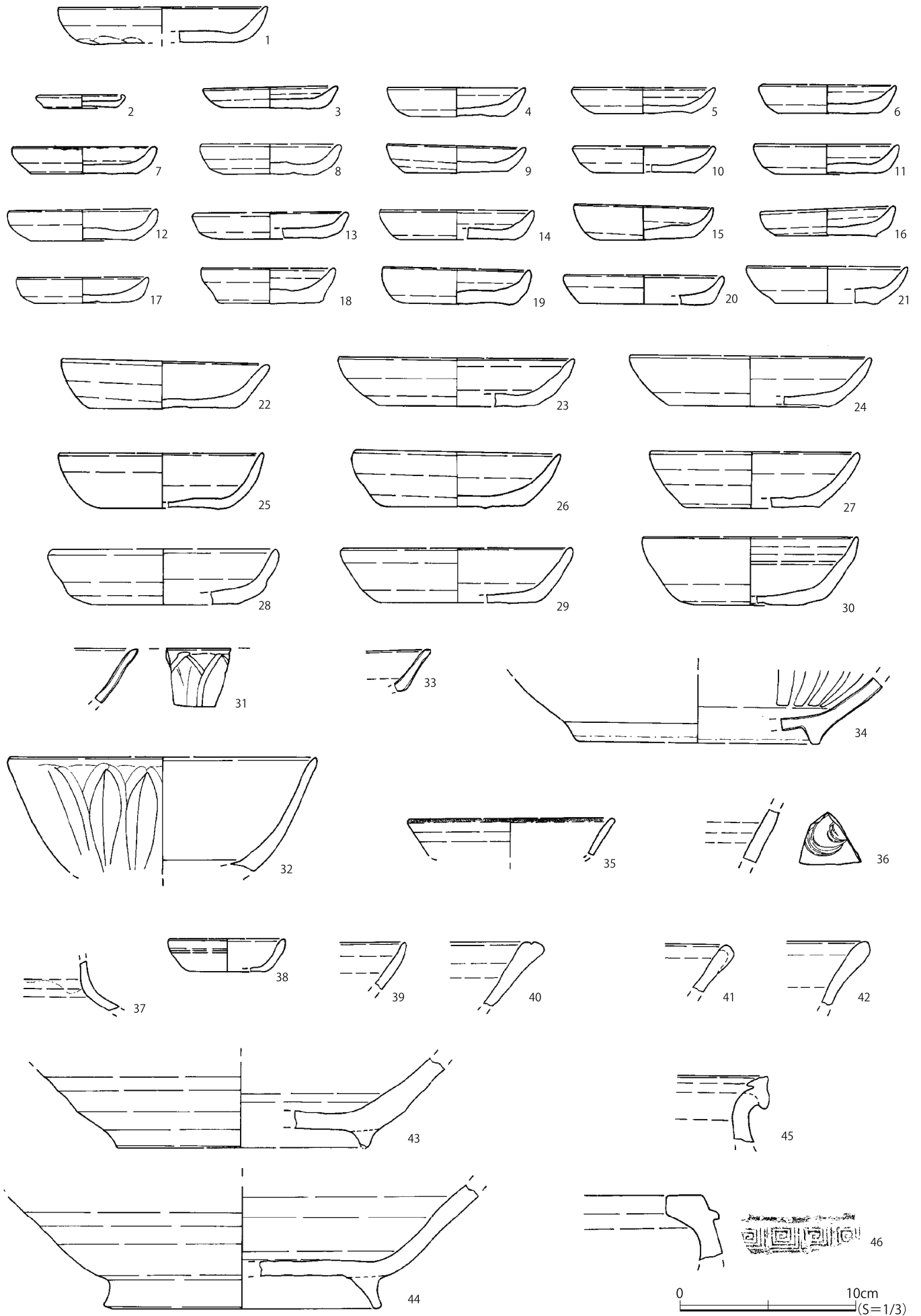


图 17 表土採集遺物

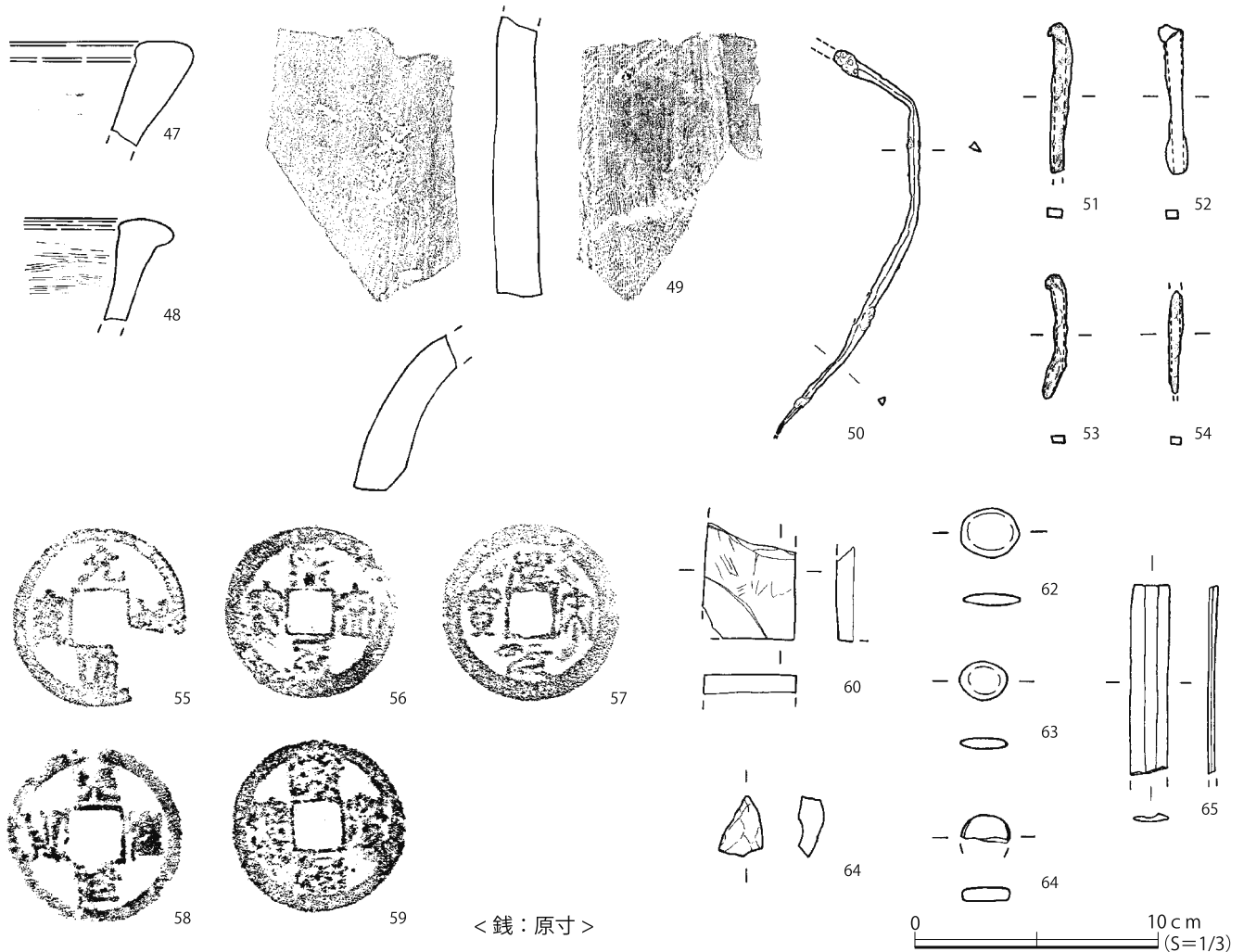


図 18 表土採集遺物

### 第 5 節 最終確認トレンチ (図 3)

掘削深度に制限があったため、I 区・II 区ともに第 3 面の遺構検出後にトレンチを設け下層の堆積を確認した。現地表下約 150cm で調査地は湧水する。第 3 面構成土下層は、I 区・II 区ともに茶色有機質土と炭化物を含む黒褐色粘質土が約 80cm 堆積していることを確認した。堆積土に遺物は含まれていなかった。トレンチ位置は図 3 に報告している。

### 第 6 節 表土採集遺物 (図 17～図 18)

調査前現地表から第 1 面検出層までの堆積土で発見した遺物である。調査前の段階で地表面には多数の中世遺物片が散布しており、現代の造成土が大きく遺構面を削平していたことが推察される。

1 は手づくね成形の白かわらけ。2～30 はかわらけ。31～32 は青磁鎚蓮弁文碗。33 は青磁折腰鉢。34 は青磁蓮弁文鉢。35 は白磁口元皿。36 は青白磁梅瓶。37 は緑釉・器種不明。38 は瀬戸入子。39 は瀬戸碗。40 は瀬戸片口鉢。41～44 は常滑片口鉢 I 類。45 は常滑甕。46 は瓦器質火鉢。47～48 は土器質火鉢。49 は瓦・丸瓦。50～59 は金属製品。50 は鉄製品火箸。51～54 は鉄製品釘。55～59 は銭。60 は石製品砥石。61 はチャート。62～63 は石製品基石。64 は骨製品双六の駒。65 は骨製品筭。



### 第三章 まとめ

本調査地を含め「川越重頼邸跡」に指定された遺跡地での調査例は僅か3例(図1)である。調査地の約40m北には中世の幹線道路であった六浦道と、道路に並行して流れる滑川が東西に走る。川と道路を挟んだ対面は「公方屋敷跡」と推定され、調査地を含む六浦道に沿った一帯は武家屋敷の立ち並ぶ場所だったと推定される。川越重頼は頼朝率いる幕府に重用されていた武将であったため、それなりに大きな館を構えていたと考えられるが、過去の調査では川越重頼邸跡を推定できる資料は発見されていない。

#### (1) 検出した遺構と遺物

重機によって表土を約40cm取り除き、調査区南側で広範囲にかわらけが撒布している状況を確認し第1面とした。第1面は現代埋土による削平・攪乱の影響を受け、遺構の重複が激しく複数の生活面を同時に検出し、若干の遺物の混乱もあったため、報告では第1a面・第1b面の2面に分けた。第1a面は、調査区の南側で広範囲にかわらけが撒布していたが、遺構は北側・西側に偏って発見され、かわらけが撒布された南側・東側は空閑地だった様子である。撒布されたかわらけは完形の物が多く、空閑地に意識的に廃棄したと考えている。第1a面で発見した遺構は2時期に分かれる。第1b面では調査区全体に遺構が広がる。多くの遺構を検出したが建物址を推定することはできず、遺構の性格も判断できなかった。第1b面も2時期に分かれると考えている。第1面は遺構の重複・遺物の混乱から幅広く14世紀から15世紀前半の年代を与えている。

第1面の遺構検出後、第2面検出層の間には約50cmの厚さで褐鉄を多く含む堅く締まった土が堆積し、堆積土の中からは高師小僧を多く採集している。高師小僧とは、地下水中の鉄分が葦等の根の周りに水酸化鉄として管状、紡錘状に沈殿してできた鉱物である。現在の調査地一帯は葦の生息するような湿地帯ではないが、約40m北には滑川が流れており、ある時期、調査地一帯が湿地の様相を呈していたと考えられる。第1b面同様に、第2面でも多くの遺構を発見した。礎石を伴うピットを検出しているが建物址は推定できなかった。また、面上出土として報告したロクロ成形かわらけ1点、手づくね成形かわらけ1点の他には、破片でロクロ成形かわらけ(大)36片・(小)9片しか出土していない。第2面は出土遺物が少なく年代の比定が困難であるが14世紀代の年代を考えている。

第2面検出後、第3面検出層の間には、上層の堆積土と同様に砂礫・泥岩粒・褐鉄・高師小僧を含む堅く締まった土が堆積していた。第3面検出層は平坦で固く締まった堆積層であったが地業層ではない。また、調査区西側(Ⅱ区)で発見した遺構は砂質土と褐鉄を主体とした覆土を持ち、深度や、堆積状況から遺構ではなく、大半が浅い落ち込みであった可能性もある。東側(Ⅰ区)では礎板を伴う遺構を検出しているが、建物址を推定することはできなかった。遺構覆土・面上からの出土遺物は無く、ロクロ成形かわらけ(大)の破片が1片であった。第3面構成土からは、須恵器坏の口縁部片のみ出土している。第2面同様に第3面も年代を比定する根拠となるべき出土遺物がなく、年代の比定が困難であるが13世紀半ばから後半の年代を考えている。

第3面検出後、Ⅰ区・Ⅱ区ともにトレンチを設け下層の堆積を確認した。両区ともに地業層を観察することはできなかったが、腐食した自然遺物・茶色有機質土と炭化物・褐色砂質土を含む黒褐色粘質土が現地表から約210cm(海拔高17.5m)下層まで堆積していた事を確認している。トレンチ内堆積土から遺物は出土しておらず、自然堆積土であったと思われる。

## (2)まとめ

本調査では遺跡名の由来となる川越重頼邸に関する資料・遺構の発見は出来なかった。また、調査地の年代は、第1面が現代の造成土によって地業構成土・遺構が大きく削平を受けており、遺構・遺物ともに混乱してしまったことや、第1面以下の生活面からは出土遺物がほとんどないために遺跡地の年代の比定には、やや無理があるかもしれない。第1面から第2面までの間の、特に19層(図3)からは沼地に生えていた葦の根などに水酸化鉄が沈殿して生成される高師小僧を多く採集しており、調査地を含む周辺は北方40mに位置する東西に流れる滑川の氾濫原となり、一時期浅い沼地であったと考えられる。出土遺物の少なさ等はそれも一因かもしれない。

周辺の調査成果からは、概ね13世紀後半から15世紀半ばごろにかけて遺構・遺物が発見されている。本調査地も半ば湿地帯であった土地を造成し、13世紀代から15世紀前半にかけて生活が営まれていたと考えている。

遺構計測表

面	遺構No.	長軸	短軸	深さ	面	遺構No.	長軸	短軸	深さ
1a	1	(30)	(12)	6	1b	39	33	32	9
1a	2	(23)	27	6	1b	40	(31)	33	22
1a	3	(17)	(7)	4	1b	43	48	36	14
1a	4	(20)	(28)	8	1b	44	41	(22)	26
1a	5	39	38	17	1b	45	27	27	14
1a	6	38	37	15	1b	46	44	(26)	23
1a	7	18	16	9	1b	47	38	(26)	25
1a	8	29	25	12	1b	48	28	25	17
1a	9	56	28	6	1b	49	(44)	(17)	17
1a	10	40	35	17	1b	50	(36)	(24)	15
1a	11	67	57	11	1b	51	48	41	22
1a	12	47	37	21	1b	52	36	32	18
1a	13	52	32	32	1b	53	23	19	7
1a	14	68	(50)	21	1b	54	47	40	13
1a	116	99	(40)	15	1b	55	(35)	(19)	24
1a	117	58	(34)	20	1b	56	21	20	9
1a	118	(42)	37	11	1b	58	(63)	(33)	10
1a	119	81	67	21	1b	61	(42)	(14)	20
1a	120	63	36	19	1b	62	40	33	20
1a	121	36	26	14	1b	95	(62)	(39)	7
1a	122	40	31	20	1b	137	42	(26)	10
1a	123	(27)	25	12	1b	138	38	35	10
1a	124	48	44	16	1b	139	33	29	11
1a	125	(53)	(89)	8	1b	140	(57)	(16)	7
1a	126	(24)	25	11	1b	142	42	27	11
1a	127	(75)	58	16	1b	143	60	(41)	23
1a	128	50	35	12	1b	144	49	43	13
1a	129	(58)	(30)	12	1b	145	32	29	45
1a	130	85	73	15	1b	146	30	27	8
1a	131	(25)	19	4	1b	147	77	52	12
1a	132	39	35	4	1b	148	23	22	25
1a	133	42	37	9	1b	149	24	(12)	10
1a	134	55	49	11	1b	153	50	31	11
1a	135	(60)	(53)	25	1b	155	36	32	24
1a	136	(65)	(34)	6	1b	156	46	(35)	22
1a	240	(29)	38	4	1b	157	54	44	16
1a	241	23	21	9	1b	158	72	53	13
1a	242	24	15	14	1b	159	70	60	28
1a	243	(10)	(8)	3	1b	160	(23)	33	6
1a	244	(50)	28	11	1b	161	66	45	14
1b	15	31	25	9	1b	163	37	33	27
1b	16	19	15	10	1b	164	27	23	6
1b	17	35	28	29	1b	165	35	25	8
1b	18	70	(25)	4	1b	166	25	18	8
1b	19	56	42	18	1b	167	47	37	28
1b	20	25	(14)	21	1b	169	29	25	13
1b	21	(21)	30	30	1b	171	(45)	(68)	15
1b	23	24	21	9	1b	172	35	34	22
1b	25	40	28	22	1b	173	45	(25)	13
1b	26	(36)	35	29	1b	174	38	35	21
1b	27	34	26	19	1b	175	(70)	(40)	18
1b	28	24	21	16	1b	176	(30)	43	10
1b	29	32	25	7	1b	234	(19)	(17)	4
1b	30	43	28	20	1b	235	(35)	(15)	3
1b	31	(20)	(23)	17	1b	236	(32)	31	8
1b	32	(27)	32	24	1b	237	(13)	(17)	15
1b	33	59	48	11	1b	238	(27)	34	19
1b	34	50	35	24	1b	239	26	(9)	10
1b	35	39	32	26	1b	245	(18)	30	13
1b	36	(29)	35	24	1b	246	39	38	11
1b	37	(29)	21	11	1b	249	67	(21)	7
1b	38	31	27	16	1b	250	(34)	40	17

遺構計測表

面	遺構No.	長軸	短軸	深さ	面	遺構No.	長軸	短軸	深さ
1b	251	(55)	(28)	23	2	192	(27)	33	8
1b	252	17	15	57	2	193	(45)	34	14
2	63	21	18	6	2	194	(36)	(35)	8
2	64	20	18	9	2	195	44	34	11
2	65	25	24	7	2	196	25	24	9
2	66	42	31	11	2	197	(22)	30	10
2	68	15	14	5	2	198	41	(33)	8
2	69	32	28	8	2	199	29	24	3
2	70	68	54	7	2	200	52	(45)	8
2	71	33	(25)	4	2	201	41	28	9
2	72	42	31	2	2	202	(34)	38	9
2	73	43	38	12	2	203	28	24	9
2	74	19	17	6	2	204	28	27	10
2	75	36	25	4	2	205	24	19	4
2	76	26	23	6	2	206	25	(18)	5
2	77	61	33	7	2	207	(39)	39	3
2	78	19	18	6	2	208	49	43	7
2	79	29	23	4	2	209	19	15	5
2	80	30	(21)	9	2	210	18	13	5
2	81	22	18	7	2	212	41	36	12
2	82	23	22	8	2	213	23	19	9
2	83	43	34	5	2	214	(17)	17	2
2	84	38	33	12	2	216	27	18	6
2	85	72	65	13	2	217	27	22	8
2	86	(35)	43	10	2	218	32	29	5
2	87	29	28	6	2	219	34	31	10
2	88	(28)	(7)	5	2	220	33	32	6
2	89	(33)	34	4	2	221	20	19	3
2	90	43	34	6	2	222	35	26	5
2	91	28	25	10	2	247	34	27	10
2	92	37	30	18	2	248	35	(28)	5
2	93	38	32	16	3	104	50	36	6
2	94	33	32	17	3	105	53	34	6
2	96	44	42	13	3	106	38	24	8
2	97	(66)	39	9	3	107	36	25	8
2	98	31	28	19	3	108	(87)	116	19
2	99	28	(15)	19	3	109	70	67	14
2	100	30	27	18	3	110	32	25	8
2	101	28	27	20	3	111	29	20	4
2	102	(40)	(15)	17	3	112	28	19	7
2	103	25	22	12	3	113	33	26	10
2	178	36	35	8	3	114	32	24	9
2	179	23	21	9	3	115	20	18	5
2	180	(24)	27	9	3	224	33	28	9
2	181	35	34	5	3	225	36	27	10
2	182	68	(35)	7	3	226	38	30	5
2	183	(28)	37	3	3	227	27	24	8
2	184	32	29	9	3	228	23	21	5
2	185	35	27	5	3	229	30	25	7
2	187	47	(33)	10	3	230	36	30	6
2	188	29	27	8	3	231	54	42	2
2	189	28	27	18	3	232	40	34	14
2	190	37	29	6	3	233	40	35	13
2	191	34	32	9					

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
				( )=復元値 [ ]=残存値			
5	1	1a面 遺構6	かわらけ	(7.7)	(5.7)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4 g:口唇部一部油煤痕
5	2	1a面 遺構6	かわらけ	(12.1)	(7.4)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
5	3	1a面 遺構14	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好 f:1/4
5	4	1a面 遺構116	かわらけ	(8.5)	(6.2)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石 粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
5	5	1a面 遺構116	かわらけ	(8.1)	(6.0)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+弱い板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5 g:内外面黒色に変色
5	6	1a面 遺構116	土器質 火鉢	-	-	-	b:淡灰褐色 砂粒・黒色粒・白色粒 c:灰色 e:良好 f:底部片 g:底裏ヘラによる調 整痕 I類
5	7	1a面 遺構116	瓦 平瓦	-	-	2.6	a:凹面黒色微砂の離れ砂付着 縦位ナデ 凸面黒色微砂の離れ砂付着 狭端面・ 側面ヘラケズリ b:灰色 砂粒多 c:灰色 e:良好
5	8	1a面 遺構125	かわらけ	(7.3)	(5.8)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石 粒・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
5	9	1a面 遺構125	かわらけ	8.3	6.2	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針 良 土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
5	10	1a面 遺構127	常滑 片口鉢II類	-	-	-	a:ロクロ b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:暗赤褐色 降灰部淡緑色 e:良 好・硬質 f:口縁部片
5	11	1a面 遺構128	かわらけ	(8.4)	(6.8)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂多い・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 や や粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/5 g:内外面口唇部厚く油煤痕 器壁剥離
5	12	1a面 遺構128	かわらけ	(11.0)	(7.4)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
5	13	1a面 遺構129	かわらけ	8.3	6.0	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
5	14	1a面 遺構129	かわらけ	(12.1)	(8.6)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母少量・赤色粒・海綿骨針・ 泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:内面・口唇部黒色に変色
5	15	1a面 遺構130	かわらけ	7.6	5.6	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒・小石粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
5	16	1a面 遺構130	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.8	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母少量・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良 好 f:1/4
5	17	1a面 遺構130	かわらけ	(8.1)	(6.4)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
5	18	1a面 遺構132	土器質 火鉢	-	-	-	a: b:灰色 砂粒・白色粒 c:黄褐色 e: f:口縁部片 I類
5	19	1a面 遺構134	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:粉質・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好 f:1/2
5	20	1a面 遺構134	常滑 片口鉢I類	-	-	-	a:ロクロ b:灰色 砂粒・長石粒多 粗土 c:灰色 e:良好 f:底部片 g:6a型 貼付け 高台 内面摩耗
5	21	1a面 遺構136	かわらけ	(12.1)	(8.6)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3 g:口唇部油煤痕
6	1	1a面 遺構24	かわらけ	5.7	4.8	1.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針 良土 c:黄灰 色 e:良好 f:完形 g:丁寧な整形 口唇部内折れ
6	2	1a面 遺構24	かわらけ	(7.0)	(4.6)	1.1	a:ロクロ・内底強クナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小 石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	3	1a面 遺構24	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	4	1a面 遺構24	かわらけ	(7.2)	(5.4)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗 土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
6	5	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	5.2	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
6	6	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/5
6	7	1a面 遺構24	かわらけ	7.9	5.5	1.4	a:ロクロ・内底強クナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5
6	8	1a面 遺構24	かわらけ	(7.9)	(5.8)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針 やや 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
6	9	1a面 遺構24	かわらけ	(8.4)	(6.2)	1.3	a:ロクロ・内底強クナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
6	10	1a面 遺構24	かわらけ	7.9	6.3	1.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
6	11	1a面 遺構24	かわらけ	8.4	6.2	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	12	1a面 遺構24	かわらけ	(8.6)	(6.7)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒 砂質気味 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	13	1a面 遺構24	かわらけ	7.8	6.0	1.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗 土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
6	14	1a面 遺構24	かわらけ	(7.3)	(5.2)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	15	1a面 遺構24	かわらけ	(7.2)	(5.1)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
6	16	1a面 遺構24	かわらけ	7.4	5.2	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:5/6
6	17	1a面 遺構24	かわらけ	7.5	5.2	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:5/6
6	18	1a面 遺構24	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
				( )=復元値 [ ]=残存値			
6	19	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(6.2)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	20	1a面 遺構24	かわらけ	8.1	6.1	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:5/6
6	21	1a面 遺構24	かわらけ	(8.5)	(6.2)	1.4	a:ロクロ・内底強クナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
6	22	1a面 遺構24	かわらけ	(8.6)	(6.0)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	23	1a面 遺構24	かわらけ	(8.5)	(6.2)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	24	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
6	25	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	26	1a面 遺構24	かわらけ	(7.0)	(5.0)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/5
6	27	1a面 遺構24	かわらけ	(7.4)	5.4	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
6	28	1a面 遺構24	かわらけ	7.5	6.1	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
6	29	1a面 遺構24	かわらけ	7.9	5.9	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
6	30	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
6	31	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	32	1a面 遺構24	かわらけ	(8.0)	(5.6)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
6	33	1a面 遺構24	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	34	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	5.0	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
6	35	1a面 遺構24	かわらけ	7.7	5.4	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
6	36	1a面 遺構24	かわらけ	(7.6)	5.4	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:3/4
6	37	1a面 遺構24	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
6	38	1a面 遺構24	かわらけ	(7.6)	(5.3)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
6	39	1a面 遺構24	かわらけ	8.1	4.9	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:5/6
6	40	1a面 遺構24	かわらけ	(8.2)	(5.6)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:3/5
6	41	1a面 遺構24	かわらけ	(8.3)	(6.3)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5
6	42	1a面 遺構24	かわらけ	8.1	6.1	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
6	43	1a面 遺構24	かわらけ	8.2	5.4	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	44	1a面 遺構24	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
6	45	1a面 遺構24	かわらけ	8.2	5.4	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	46	1a面 遺構24	かわらけ	8.2	6.2	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:4/5
6	47	1a面 遺構24	かわらけ	(8.3)	(6.0)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
6	48	1a面 遺構24	かわらけ	8.2	5.8	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
6	49	1a面 遺構24	かわらけ	(8.8)	(6.8)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	50	1a面 遺構24	かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒多・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3
6	51	1a面 遺構24	かわらけ	(8.5)	(6.4)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/5
6	52	1a面 遺構24	かわらけ	(9.0)	(6.8)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	53	1a面 遺構24	かわらけ	8.8	5.8	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	54	1a面 遺構24	かわらけ	(7.2)	(6.0)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 c:橙色 e:良好 f:1/3
6	55	1a面 遺構24	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/5
6	56	1a面 遺構24	かわらけ	(7.4)	(4.9)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/2
6	57	1a面 遺構24	かわらけ	(7.7)	(5.1)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
				( )=復元値 [ ]=残存値			
6	58	1a面 遺構24	かわらけ	8.0	6.0	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 芯 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	59	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.9)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	60	1a面 遺構24	かわらけ	8.0	5.6	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	61	1a面 遺構24	かわらけ	(8.0)	(6.5)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	62	1a面 遺構24	かわらけ	8.0	6.0	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 c:黄灰色 e:良 好 f:2/3
6	63	1a面 遺構24	かわらけ	8.2	6.0	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
6	64	1a面 遺構24	かわらけ	(8.0)	(6.4)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・白色粒・海綿骨 針・泥岩粒多 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
6	65	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	5.6	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
6	66	1a面 遺構24	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	67	1a面 遺構24	かわらけ	8.0	5.6	1.8	a:ロクロ・内底強いナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海 綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:4/5
6	68	1a面 遺構24	かわらけ	(8.6)	(5.8)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/5
6	69	1a面 遺構24	かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底平行糸切り+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿 骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
6	70	1a面 遺構24	かわらけ	(7.4)	4.6	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良 好 f:1/3
6	71	1a面 遺構24	かわらけ	(8.7)	6.0	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/5 g:見込み中央黒色に変色
6	72	1a面 遺構24	かわらけ	(11.7)	(7.6)	2.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/5
6	73	1a面 遺構24	かわらけ	(11.7)	(9.0)	2.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・ 泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
6	74	1a面 遺構24	かわらけ	(11.5)	(8.4)	2.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
6	75	1a面 遺構24	かわらけ	11.6	8.6	2.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
6	76	1a面 遺構24	かわらけ	(11.6)	(8.0)	2.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5
6	77	1a面 遺構24	かわらけ	(12.2)	(8.4)	2.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
6	78	1a面 遺構24	かわらけ	(12.6)	(9.2)	2.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海 綿骨針・泥岩粒多 粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
6	79	1a面 遺構24	かわらけ	(12.6)	(9.0)	2.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5
6	80	1a面 遺構24	かわらけ	(12.5)	(8.4)	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:4/5
6	81	1a面 遺構24	かわらけ	12.7	7.1	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:9/10 g:口唇部油煤痕
6	82	1a面 遺構24	かわらけ	12.7	8.6	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
6	83	1a面 遺構24	かわらけ	(11.1)	(7.6)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
6	84	1a面 遺構24	かわらけ	(11.5)	(8.0)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩 粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/5
6	85	1a面 遺構24	かわらけ	12.0	7.9	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:5/6
6	86	1a面 遺構24	かわらけ	(12.6)	(8.4)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:3/4
6	87	1a面 遺構24	かわらけ	(11.7)	(7.2)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
6	88	1a面 遺構24	かわらけ	12.0	7.7	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
6	89	1a面 遺構24	かわらけ	(11.8)	(8.0)	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
7	90	1a面 遺構24	かわらけ	(12.8)	(8.7)	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/5
7	91	1a面 遺構24	かわらけ	12.8	8.8	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:5/6
7	92	1a面 遺構24	かわらけ	(14.4)	(10.4)	3.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒・小石粒 粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
7	93	1a面 遺構24	かわらけ	(12.6)	(9.8)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩 粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5 g:口唇部油煤痕
7	94	1a面 遺構24	かわらけ	(12.2)	(9.9)	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
7	95	1a面 遺構24	かわらけ	12.1	8.1	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨 針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
7	96	1a面 遺構24	かわらけ	(12.4)	(9.0)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨 針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
				( )=復元値 [ ]=残存値			
7	97	1a面 遺構24	かわらけ	12.0	7.7	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
7	98	1a面 遺構24	かわらけ	(12.0)	6.8	3.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
7	99	1a面 遺構24	かわらけ	(11.5)	7.5	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:内外面黒色に変色
7	100	1a面 遺構24	かわらけ	(11.6)	(5.6)	3.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
7	101	1a面 遺構24	かわらけ	12.6	6.8	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:3/4
7	102	1a面 遺構24	かわらけ	12.0	6.5	3.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:4/5
7	103	1a面 遺構24	かわらけ	(12.4)	(6.0)	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒多 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
7	104	1a面 遺構24	かわらけ	(12.7)	(8.0)	3.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
7	105	1a面 遺構24	かわらけ	12.0	8.8	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:2/3
7	106	1a面 遺構24	かわらけ	12.1	7.2	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
7	107	1a面 遺構24	かわらけ	11.2	8.2	3.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
7	108	1a面 遺構24	かわらけ	12.1	6.8	3.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒多 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
7	109	1a面 遺構24	かわらけ	(10.4)	5.4	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
7	110	1a面 遺構24	青磁 蓮弁文鉢	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:明灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:内面蓮弁文 外面無文
7	111	1a面 遺構24	青磁 蓮弁文鉢	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒多 精良堅緻 d:明灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:内面蓮弁文 外面無文
7	112	1a面 遺構24	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:明灰緑色 e:良好 f:口縁部片 外面蓮弁文 内面無文
7	113	1a面 遺構24	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:明灰緑色 e:良好 f:口縁部片
7	114	1a面 遺構24	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:緑灰色 e:良好 f:口縁部片 g:蓮弁文に横方向の櫛目状の削りが入る
7	115	1a面 遺構24	青磁 折縁鉢	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:明灰緑色 e:良好 f:口縁部片
7	116	1a面 遺構24	白磁 碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:明乳白色 e:良好 f:胴部片 g:内面印花文の型押し
7	117	1a面 遺構24	白磁 口元皿	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片
7	118	1a面 遺構24	白磁 口元皿	(9.8)	(6.0)	2.0	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:底部1/3口縁部片
7	119	1a面 遺構24	白磁 口元皿	(11.3)	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片 g:口唇部油煤痕
7	120	1a面 遺構24	青白磁 皿	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒極微量 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片 g:口唇部露胎
7	121	1a面 遺構24	瀬戸 器種不明	-	(4.6)	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒微量 精良土 軟質 c:黄灰色 e:良好 f:底部1/2 g:貼付高台
7	122	1a面 遺構24	山茶碗	-	-	-	a:ロクロ b:黒褐色 白色粒多 c:褐色 降灰部灰緑色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式
7	123	1a面 遺構24	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒 c:灰色 降灰部灰緑色 e: f:口縁部片 g:6型式
7	124	1a面 遺構24	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒・小石粒 c:灰色 e: f:口縁部片 g:6型式
7	125	1a面 遺構24	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:黒褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・石英少量・長石少量 c:黒褐色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6b型
7	126	1a面 遺構24	銅製品 種別不明	[5.9]	[2.9]	[0.3]	c:青銅色 f:板状の一片破損 g:径0.4cmの穿孔あり
7	127	1a面 遺構24	金属製品 釘	[5.5]	[0.7]	[0.6]	a:鍛造 断面四角形 f:先端部わずかに欠損 g:錆の付着が著しい
7	128	1a面 遺構24	金属製品 銅銭	外径2.5・孔幅0.65×0.65			g:明道元宝 北宋1032年 真書
7	129	1a面 遺構24	金属製品 銅銭	外径2.4・孔幅0.7×0.7			g:聖宋元宝 北宋1101年 行書
7	130	1a面 遺構24	石製品 用途不明	[1.1]	[1.2]	[0.3]	c:乳白色 f: g:基石か
7	131	1a面 遺構24	石製品 用途不明	[1.5]	-	[0.5]	b:黒色頁岩 c: f: g:基石か
7	132	1a面 遺構24	木製品 用途不明	[5.3]	[0.3]	[0.15]	g:繊細に形を切り出されている 爪楊枝型 先端は針状
8	1	1a面 面上	かわらけ	-	-	-	a:てづくね b: 雲母・海綿骨芯 c:白色 e:良好 f:口縁部片 g:白かわらけ
8	2	1a面 面上	かわらけ	7.5	5.1	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
8	3	1a面 面上	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4

単位 (cm)



出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
				( )=復元値 [ ]=残存値			
8	4	1a 面上	かわらけ	7.9	6.3	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・海綿骨針・小石粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:2/3
8	5	1a 面上	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
8	6	1a 面上	かわらけ	(8.5)	(7.1)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
8	7	1a 面上	かわらけ	8.1	6.3	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部打ち掛け痕2か所
8	8	1a 面上	かわらけ	8.4	7.2	1.5	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:赤色粒・雲母多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内面一部黒色に変色
8	9	1a 面上	かわらけ	8.8	6.3	1.6	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切 b:赤色粒・雲母・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
8	10	1a 面上	かわらけ	(8.7)	(6.8)	1.4	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・黒色粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/6
8	11	1a 面上	かわらけ	8.8	6.7	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:歪み著しい
8	12	1a 面上	かわらけ	8.8	6.4	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針多 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部油煤痕
8	13	1a 面上	かわらけ	(9.0)	(6.9)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3 g:内外面黒色に変色 内面一部に鉄分付着
8	14	1a 面上	かわらけ	8.3	5.4	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:赤色粒多・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
8	15	1a 面上	かわらけ	8.2	6.4	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒多・雲母・海綿骨針・石英 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:5/6 g:歪み激しい
8	16	1a 面上	かわらけ	7.8	5.8	1.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
8	17	1a 面上	かわらけ	8.1	6.8	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1完形
8	18	1a 面上	かわらけ	(8.1)	(5.8)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
8	19	1a 面上	かわらけ	7.9	4.8	2.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針多・小石粒 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:完形
8	20	1a 面上	かわらけ	(13.7)	(9.6)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:赤色粒多・雲母・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
8	21	1a 面上	かわらけ	11.9	8.8	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針多・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:糸切痕を意図的にナデ消しか
8	22	1a 面上	かわらけ	(11.0)	(7.3)	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/6
8	23	1a 面上	かわらけ	(12.0)	(8.8)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4 g:口唇部わずかに黒色に変色
8	24	1a 面上	かわらけ	12.4	8.4	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 糸切り痕を意図的にナデ消しか b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:4/5
8	25	1a 面上	かわらけ	12.1	7.4	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針多・泥岩粒多・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5
8	26	1a 面上	かわらけ	(12.0)	(8.4)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4 g:内外面黒色に変色
8	27	1a 面上	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母多・海綿骨針多・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
8	28	1a 面上	青磁 鑲蓮弁文碗	-	(3.5)	[3.6]	b:白色 精良堅緻 気孔あり d:緑灰色 e: f:底部片 g:外面蓮弁文
8	29	1a 面上	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒・石英 c:暗褐色 d:自然釉(暗緑色) e: f:口縁部片 g:6a型
8	30	1a 面上	金属製品 釘	4.4	0.4	0.4	a:鍛造 断面方形 f:錆の付着が著しい
8	31	1a 面上	石製品 基石	1.6	1.3	0.4	
8	32	1a 面上	石製品 基石	1.8	1.6	0.3	
11	1	1b 遺構15	かわらけ	(7.7)	(5.4)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・黒色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
11	2	1b 遺構18	かわらけ	(8.2)	6.9	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針 良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
11	3	1b 遺構21	かわらけ	(8.6)	(6.8)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
11	4	1b 遺構28	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/5
11	5	1b 遺構32	かわらけ	(5.3)	(5.9)	0.7	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭によるナデ b:緻密な粉質の微細粒 良土 c:灰白色 e:良好 f:1/4 g:白かわらけ・口縁部内折れ
11	6	1b 遺構32	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石 c:灰色 降灰部淡緑色 e:良好・硬質 f:胴部片 g:へらによる線刻窯印か
11	7	1b 遺構33	青白磁 皿	-	-	-	b:白色 精良堅緻 d:水青色 e:良好 f:底部片 g:型打ちによる双鱼蓮花文か
11	8	1b 遺構34	かわらけ	(11.6)	(8.2)	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
11	9	1b 遺構34	金属製品 釘	[4.2]	[0.6]	[0.5]	a:鍛造 断面方形 f:先端部欠損

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ( )=復元値 [ ]=残存値
				( )=復元値 [ ]=残存値			
11	10	1b面 遺構36	てづくね	(8.5)	-	1.8	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭ナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
11	11	1b面 遺構36	かわらけ	(10.1)	(9.0)	1.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好 f:1/6
11	12	1b面 遺構46	かわらけ	(8.7)	(7.0)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5
11	13	1b面 遺構51	かわらけ	(10.2)	(8.0)	2.8	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
11	14	1b面 遺構58	かわらけ	8.1	6.7	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形
11	15	1b面 遺構139	常滑 片口鉢I類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石粒多 c:灰色 自然釉(淡緑色) e:良好 f:口縁部片 g:6a型
11	16	1b面 遺構142	山茶碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰色 砂粒・長石多 c:灰色 自然釉(淡緑色) e:良好・硬質 f:口縁部片
11	17	1b面 遺構147	山茶碗	(15.7)	-	[5.5]	a:ロクロ b:灰色 砂粒多・白色粒・長石・砂礫 粗土 c: e:良好・硬質 f:口縁部片
11	18	1b面 遺構153	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・石英・長石 c:暗褐色 e:良好・硬質 f:胴部片 g:格子文の押印
11	19	1b面 遺構153	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:褐色 砂粒・長石多・石英多 やや粗土 c:暗褐色 e:良好・硬質 f:胴部片 g:格子文の押印
11	20	1b面 遺構155	かわらけ	(8.1)	(7.0)	1.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
11	21	1b面 遺構155	かわらけ	7.9	6.0	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
11	22	1b面 遺構155	かわらけ	(12.7)	(9.0)	2.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4 g:内外面黒色に変色 器壁剥離
11	23	1b面 遺構155	かわらけ	(11.6)	(8.3)	3.5	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3 g:外面一部黒色に変色
11	24	1b面 遺構156	かわらけ	(8.0)	(6.5)	1.4	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:2/3
11	25	1b面 遺構156	かわらけ	(8.5)	(6.6)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:2/3 g:内外面一部黒色に変色
11	26	1b面 遺構157	かわらけ	7.9	6.2	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
11	27	1b面 遺構158	かわらけ	(8.5)	(6.6)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
11	28	1b面 遺構158	かわらけ	(8.7)	(7.4)	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
11	29	1b面 遺構159	かわらけ	8.0	6.0	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針少量 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:完形
11	30	1b面 遺構161	かわらけ	(8.0)	(6.2)	1.5	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3 g:内外面黒色に変色
11	31	1b面 遺構161	かわらけ	(13.0)	(9.7)	3.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2 g:内外面黒色に変色
11	32	1b面 遺構161	山茶碗	-	-	-	a:ロクロ b:砂粒・白色粒・長石多・石英多 粗土 c:灰色 e:良好 f:口縁部片
11	33	1b面 遺構163	かわらけ	(11.8)	(9.0)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
11	34	1b面 遺構163	山茶碗	(13.4)	-	-	a:ロクロ b:砂粒・白色粒・黒色粒 良土 c:灰色 e:良好 f:口縁部片
11	35	1b面 遺構167	かわらけ	(7.8)	(6.4)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3 g:底部粘土版貼り付け
12	1	1面 構成土	てづくね	(9.6)	-	(2.1)	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭・ナデ b:雲母・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/6
12	2	1面 構成土	てづくね	(9.7)	(8.0)	1.9	a:てづくね・内底ナデ b:赤色粒・海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好 f:1/4
12	3	1面 構成土	てづくね	(13.2)	-	(2.8)	a:てづくね・内底ハケによるナデ・外底指頭・ナデ b:雲母・海綿骨針・小石粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/6
12	4	1面 構成土	かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.3	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
12	5	1面 構成土	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.3	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
12	6	1面 構成土	かわらけ	(7.4)	(5.1)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
12	7	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4
12	8	1面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
12	9	1面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.8)	1.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
12	10	1面 構成土	かわらけ	(8.5)	(5.7)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:内外面黒色に変色
12	11	1面 構成土	かわらけ	(7.9)	(6.5)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針少量・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
12	12	1面 構成土	かわらけ	(8.1)	(6.0)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒多・雲母多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ( )=復元値 [ ]=残存値
				( )=復元値 [ ]=残存値			
12	13	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
12	14	1面 構成土	かわらけ	8.3	6.4	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形 g:内面油煤痕
12	15	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
12	16	1面 構成土	かわらけ	(8.7)	(6.8)	1.5	a:ロクロ・内底強クナデ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4 g:内面に黒色物質付着
12	17	1面 構成土	かわらけ	(8.8)	(7.7)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
12	18	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/2
12	19	1面 構成土	かわらけ	(7.5)	(6.0)	1.4	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	20	1面 構成土	かわらけ	(7.9)	(6.0)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好 f:1/3
12	21	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
12	22	1面 構成土	かわらけ	7.9	5.6	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内外面口唇部油煤痕
12	23	1面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.7)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
12	24	1面 構成土	かわらけ	(7.7)	(6.5)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・小石粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/6
12	25	1面 構成土	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒多・雲母・海綿骨針少量・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	26	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
12	27	1面 構成土	かわらけ	7.9	6.3	1.5	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
12	28	1面 構成土	かわらけ	8.3	6.0	1.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
12	29	1面 構成土	かわらけ	(8.6)	(6.6)	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	30	1面 構成土	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・白色粒・雲母・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4 g:全体に黒色に変色
12	31	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
12	32	1面 構成土	かわらけ	(7.7)	(6.4)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底静止糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
12	33	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内外面黒色に変色
12	34	1面 構成土	かわらけ	(8.0)	(5.5)	2.0	a:ロクロ・内底強クナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/5
12	35	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	36	1面 構成土	かわらけ	(9.3)	(7.2)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:赤色粒・雲母多・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
12	37	1面 構成土	かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2 g:全体に磨耗
12	38	1面 構成土	かわらけ	(11.0)	(8.2)	2.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
12	39	1面 構成土	かわらけ	(11.7)	(8.8)	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
12	40	1面 構成土	かわらけ	12.4	8.0	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
12	41	1面 構成土	かわらけ	(12.0)	(9.0)	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:見込み・底部中央黒色に変色
12	42	1面 構成土	かわらけ	(11.9)	(7.6)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕ナデ消され不明瞭 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
12	43	1面 構成土	かわらけ	11.8	6.9	3.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
12	44	1面 構成土	かわらけ	(11.9)	(8.6)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4 g:内外面一部黒色に変色
12	45	1面 構成土	かわらけ	(12.8)	8.2	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:暗褐色 e:良好 f:1/2
12	46	1面 構成土	かわらけ	12.8	8.0	2.9	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:3/4 g:内外面口縁～底部黒色に変色
12	47	1面 構成土	かわらけ	(12.5)	(8.2)	2.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕ナデ消され不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
12	48	1面 構成土	かわらけ	(13.3)	(10.0)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:淡黄灰色 e:良好 f:1/3 g:内外面口唇部油煤痕 灯明皿として使用
12	49	1面 構成土	かわらけ	(13.2)	(9.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒多・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:内外面口唇部油煤痕 灯明皿
12	50	1面 構成土	かわらけ	(13.8)	(8.9)	3.3	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ( )=復元値 [ ]=残存値
				( )=復元値 [ ]=残存値			
12	51	1面 構成土	かわらけ	(10.0)	(6.0)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
12	52	1面 構成土	青磁 鎚蓮弁文碗	-	-	-	b:灰色 精良堅緻 d:暗灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:細かな貫入あり
12	53	1面 構成土	青磁 鎚蓮弁文碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 精良堅緻 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:外面蓮弁文
12	54	1面 構成土	白磁 口元皿	(10.8)	-	[2.5]	b:白色 精良堅緻 d:乳白色 e:良好 f:口縁部片 g;口唇部露胎
12	55	1面 構成土	白磁 口元碗	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片
12	56	1面 構成土	白磁 口元碗	-	-	-	b:白色 精良堅緻 d:淡青灰色 e:良好 f:口縁部片 g:口唇部露胎
12	57	1面 構成土	青白磁 皿	-	-	-	a:ロクロ b:白色 精良堅緻 d:水青色 e:良好 f:口縁部片 g:型押し 内面蓮弁文
12	58	1面 構成土	瀬戸 入子	-	-	-	a:ロクロ b:灰色 黒色粒微量 精良土 e:良好 f: 輪花型
12	59	1面 構成土	山茶碗	(13.0)	-	-	a: b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 やや粗土 c:灰色 e:良好・やや軟質 f:1/5 g:6型式
12	60	1面 構成土	山茶碗	(14.9)	-	-	a:ロクロ b:砂粒・白色粒・小石粒 やや粗土 c:灰色 e:良好 f:口縁部片 g:6a類か?
12	61	1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c:灰色 降灰部灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:6a型式
12	62	1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒多・小石粒 c:灰色 降灰部灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:6a型式
12	63	1面 構成土	金属製品 釘	(4.2)	0.5	0.3	a:鍛造 断面長方形 f:下端部欠損
12	64	1面 構成土	金属製品 釘	(4.4)	0.4	0.4	a:鍛造 断面方形 f:先端部欠損
12	65	1面 構成土	金属製品 銅銭	外径2.4・孔幅0.7×0.7			g:熙寧元宝 北宋1068年 真書
12	66	1面 構成土	瓦 字瓦	-	-	-	b:淡灰白色 砂粒多 c:灰黒色 e:良好 g:瓦当面微砂粒多に付着 上向剣頭文・三つ鱗文 瓦当貼付け
14	1	2面 面上	てづくね	13.0	-	3.3	a:てづくね・内底ナデ・外底指頭・ナデ b:雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3 g:歪みあり
14	2	2面 面上	かわらけ	8.1	6.1	1.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母多・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
16	1	3面 構成土	須恵器 坏	-	-	-	a:ロクロ b:灰色 白色粒・海綿骨針 良土 c: e:良好 f:口縁部片 g:南比企8c代
17	1	表土採集	白かわらけ	(11.6)	-	2.0	a:てづくね・外底指頭ナデ消し・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・小石粒 やや粗土 c:乳白色 e:良好 f:1/4
17	2	表土採集	かわらけ	4.6	3.6	0.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c: 橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内折れ極小かわらけ
17	3	表土採集	かわらけ	7.3	5.4	1.2	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c: 橙色 e:良好 f:1/2
17	4	表土採集	かわらけ	7.6	5.2	1.6	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c: 橙色 e:良好 f:2/3
17	5	表土採集	かわらけ	(7.8)	5.4	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好 f:1/5
17	6	表土採集	かわらけ	(7.5)	(5.8)	1.6	a:ロクロ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/3
17	7	表土採集	かわらけ	7.8	6.0	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:3/4 g:内外面口唇部に油煤痕
17	8	表土採集	かわらけ	(7.7)	5.4	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好 f:2/3
17	9	表土採集	かわらけ	7.7	5.8	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:2/3
17	10	表土採集	かわらけ	(7.7)	(6.0)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e:良好 f:1/3
17	11	表土採集	かわらけ	8.0	5.9	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針 良土 c: 黄灰色 e:良好 f:3/4
17	12	表土採集	かわらけ	(8.0)	(5.7)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e:良好 f:1/3
17	13	表土採集	かわらけ	(8.5)	(6.5)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・赤色粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e:良好 f:1/4
17	14	表土採集	かわらけ	(8.4)	(6.4)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e:良好 f:1/3
17	15	表土採集	かわらけ	7.8	5.0	1.9	a:ロクロ・内底強クナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:3/4
17	16	表土採集	かわらけ	7.3	5.6	1.5	a:ロクロ・内底強クナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c: 黄灰色 e:良好 f:3/4
17	17	表土採集	かわらけ	(7.3)	(5.6)	1.5	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e:良好 f:1/3
17	18	表土採集	かわらけ	(7.4)	(5.5)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e:良好 f:1/2
17	19	表土採集	かわらけ	(8.2)	(6.0)	2.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c: 黄灰色 e:良好 f:1/3
17	20	表土採集	かわらけ	(8.8)	(7.4)	1.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転糸切+板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針 やや粗土 c: 黄灰色 e:良好 f:1/3

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
				( ) = 復元値 [ ] = 残存値			
17	21	表土採集	かわらけ	(9.0)	(5.8)	2.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
17	22	表土採集	かわらけ	11.4	8.3	2.6	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:3/4
17	23	表土採集	かわらけ	(13.2)	(8.8)	2.7	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
17	24	表土採集	かわらけ	(13.4)	(9.0)	2.7	a:ロクロ・内底強くナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
17	25	表土採集	かわらけ	(11.2)	(6.9)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5 g:内外面僅かに黒色に変色
17	26	表土採集	かわらけ	11.4	7.8	3.0	a:ロクロ・内底回転ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:3/4
17	27	表土採集	かわらけ	(11.6)	(7.5)	3.2	a:ロクロ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
17	28	表土採集	かわらけ	(12.4)	(8.2)	3.1	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切痕をナデ消し b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 良土 c:褐色 e:良好 f:1/3
17	29	表土採集	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 良土 c:褐色 e:良好 f:1/3 g:内外面僅かに黒色に変色
17	30	表土採集	かわらけ	(11.8)	(6.0)	3.8	a:ロクロ・内底ナデ・外底回転系切+板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
17	31	表土採集	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片
17	32	表土採集	青磁 鎗蓮弁文碗	(17.1)	-	-	b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:淡灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:内底面に沈線巡る 蓮弁文横位の削りによる調整
17	33	表土採集	青磁 折腰鉢	-	-	-	b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片
17	34	表土採集	青磁 蓮弁文鉢	-	(13.6)	-	b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:暗灰緑色 e:良好 f:高台部片 g:内面蓮弁文・外面無文 高台底部露胎 高台内部施釉
17	35	表土採集	白磁 口兀皿	(11.4)	-	-	a:ロクロ b:淡灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片 g:口縁部内外面に厚く油煤痕
17	36	表土採集	青白磁 梅瓶	-	-	-	a:ロクロ b:灰白色 黒色粒 精良堅緻 d:水青色 e:良好 f:体部片
17	37	表土採集	緑釉 壺・甕類	-	-	-	b:灰白色 黒色粒・褐色砂粒 やや粗土 d:緑色 e: f:体部片 g:外面銀化している 体部小片の為器種は定かではない
17	38	表土採集	瀬戸 入子	(6.4)	(4.3)	1.8	a:ロクロ b:灰色 精良土 c: e:良好 d:自然釉(灰緑色) f:1/4
17	39	表土採集	瀬戸 碗	-	-	-	a:ロクロ b:淡黄灰色 黒色砂粒 精良土 c: d:淡黄灰色 e:良好 軟質 f:口縁部片
17	40	表土採集	瀬戸 片口鉢	-	-	-	a:輪積み b:淡赤褐色 砂粒・長石粒・白色粒・小石粒 c:淡赤褐色 e:良好・硬質 f:口縁部片
17	41	表土採集	常滑 片口鉢 I 類	-	-	-	a:輪積み b:暗灰褐色 砂粒・長石粒・石英粒多 c:暗赤褐色 d:自然釉(暗緑色) e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型
17	42	表土採集	常滑 片口鉢 I 類	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・石英粒 良土 c:灰褐色 d:自然釉(灰緑色) e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型
17	43	表土採集	常滑 片口鉢 I 類	-	(14.0)	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・長石粒・石英粒・小石粒 c:灰色 e:良好・硬質 f:高台部片 g:貼付け高台 6a型
17	44	表土採集	常滑 片口鉢 I 類	-	(14.7)	-	a:輪積み b:淡赤褐色 砂粒・石英粒・長石粒・小石粒やや多い c:淡赤褐色 e:良好・硬質 f:1/4 g:貼付け高台 6a型
17	45	表土採集	常滑 甕	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒やや多い c:暗赤褐色 降灰部灰緑色 e:良好・硬質 f:口縁部片
17	46	表土採集	瓦器質 火鉢	-	-	-	a:輪積み b:淡橙灰色 砂粒多・雲母・白色粒 c:黄褐色 e: f:口縁部片 g:内面黒色に変色 V類
18	47	表土採集	土器質 火鉢	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒多・白色粒・雲母 c:暗灰色 e: f:口縁部片 g:内外面横位のヘラナデ 内面黒色に変色 I類
18	48	表土採集	土器質 火鉢	-	-	-	a:輪積み b:灰色 砂粒 c:暗灰色 e: f:口縁部片 g:内外面横位のヘラナデ I類
18	49	表土採集	瓦 丸瓦	-	-	1.8	a:凹面離れ砂若干付着 布目痕 縦位ナデ 凸面離れ砂若干付着 網目叩き 縦位ナデにより不鮮明 叩き板幅不明 側面ケズリ 側縁幅広のケズリ b:灰白色 砂粒・若干小石粒 c:灰色 e:良好
18	50	表土採集	金属製品 火箸	(18.5)	0.5	0.4	a:鍛造 断面三角形 f:上下先端欠損 錆の付着が著しい
18	51	表土採集	金属製品 釘	(6.0)	0.55	0.35	a:鍛造 断面長方形
18	52	表土採集	金属製品 釘	(6.0)	0.4	0.3	a:鍛造 断面長方形
18	53	表土採集	金属製品 釘	(5.0)	0.5	0.3	a:鍛造 断面長方形
18	54	表土採集	金属製品 釘	(4.2)	0.4	0.3	a:鍛造 断面長方形
18	55	表土採集	金属製品 銅銭	外径2.5・孔幅0.7×0.7			g:元祐通寶 北宋1086年 行書
18	56	表土採集	金属製品 銅銭	外径2.4・孔幅0.6×0.6			g:熈寧元宝 北宋1068年 篆書
18	57	表土採集	金属製品 銅銭	外径2.4・孔幅0.6×0.6			g:聖宋元宝 北宋1101年 篆書
18	58	表土採集	金属製品 銅銭	外径2.3・孔幅0.8×0.8			g:天聖元宝 北宋1023年 篆書

出土遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ( )=復元値 [ ]=残存値
				( )=復元値 [ ]=残存値			
18	59	表土採集	金属製品 銅銭	外径2.3・孔幅0.7×0.7			g:熙寧元宝 北宋1068年 篆書
18	60	表土採集	石製品 砥石	[3.8]	[3.7]	[0.7]	c:淡黄白色 f:破片 g:鳴滝産仕上砥 頁岩 上面のみ細かな擦痕(刃物痕)あり 砥面1面 側面切り出し痕遺存
18	61	表土採集	石製品 火打石	-	-	-	f:破片 g:石英
18	62	表土採集	石製品 基石	2.4	2.0	0.45	c:暗緑灰色 f:完形
18	63	表土採集	石製品 基石	1.9	1.6	0.4	c:黒色 f:完形
18	64	表土採集	骨製品 駒	2.0	1.0	0.5	c:白色 f:1/2 g:双六の駒
18	65	表土採集	骨製品 筭	[7.6]	1.5	0.3	f:1/4

単位 (cm)

出土遺物破片数表

KGS 川越重頼邸遺跡		表土遺物集計	1面遺物集計	1b面遺物集計	2面遺物集計	3面遺物集計	最終トレンチ遺物集計	合計	%	
かわらけ	系大	639	2810	260	36	2		3747	73.0	
	系小	127	760	73	9			969	18.9	
	系極小	1						1	0.0	
	手大	2	13	1	1			17	0.3	
	手小		3	1				4	0.1	
	白かわらけ	3	9	7				19	0.4	
	内折かわらけ			1				1	0.0	
	用途不明 転用品		1					1	0.0	
船載陶磁器	青磁	蓮弁文碗	7	22	2				31	0.6
		蓮弁文小型碗		1					1	0.0
		碗	15	5					20	0.4
		折縁皿		1					1	0.0
		皿	3						3	0.1
		器種不明		2					2	0.0
	米色青磁	蓮弁文碗		1					1	0.0
		梅瓶	2	1					3	0.1
		小型皿		1	1				2	0.0
		碗		1					1	0.0
	青白磁	染付碗		1					1	0.0
		器種不明		1					1	0.0
		皿		2					2	0.0
		碗		1					1	0.0
	白磁	口兀皿		6					6	0.1
		口兀碗		1					1	0.0
口兀		8	2					10	0.2	
染付		1						1	0.0	
盤		2	3					5	0.1	
瓶子		1						1	0.0	
彩釉陶磁器	緑釉		1					1	0.0	
	緑青釉		1					1	0.0	
国産陶器	瀬戸	碗	3	2	1			6	0.1	
		折縁皿		1				1	0.0	
		入子	1	1					2	0.0
		盤		1					1	0.0
		瓶子	1						1	0.0
		縁釉小皿			1				1	0.0
	常滑	器種不明		1					1	0.0
		壺	50	41	10				101	2.0
		片口鉢Ⅰ類	19	16	4				39	0.8
		片口鉢Ⅱ類		6	1				7	0.1
		山茶碗	1	3	2		1		7	0.1
		山茶皿		1	1				2	0.0
	鉢			1				1	0.0	
	不明陶器	1						1	0.0	
土製品	丸瓦	1						1	0.0	
	平瓦		2					2	0.0	
	軒平瓦		1					1	0.0	
瓦質製品	火鉢	9	5	1				15	0.3	
土器質製品	火鉢		1					1	0.0	
	器種不明		1					1	0.0	
石製品	砥石	4	2					6	0.1	
	碁石	3	2					5	0.1	
滑石製品	鍋	3	1					4	0.1	
	器種不明		1	1				2	0.0	
金属製品	鉄釘	8	14	2				24	0.5	
	銅銭	10	2					12	0.2	
	器種不明	1						1	0.0	
	玉石		14	1				15	0.3	
自然遺物	木片	1	1			2	5	9	0.2	
	貝	1						1	0.0	
	炭化材			1				1	0.0	
	果核	5						5	0.1	
	骨		1					1	0.0	
	獣骨	1	2					3	0.1	
	高師小僧					1		1	0.0	
合計	合計	934	3772	373	47	5	5	5136	100.0	
%	%	18.2	73.4	7.3	0.9	0.1	0.1	100.0		



◀ I 区  
第 1a 面 (北から)



▲  
II 区  
第 1a 面 (北から)



▲ II 区 遺構 120・121・130 (南から)



◀ I 区  
第 1a 面  
かわらけ出土状況  
(西から)





◀ I区  
第1b面（北から）



▲  
II区  
第1b面（北から）



▲ I区 1b面南東隅



◀ II区  
第1b面  
遺構検出状況



◀ I 区  
第 2 面 (北から)



▲ II 区 第 2 面 (北から)



▲ II 区 第 2 面 (北から)



◀ 第 2 面  
遺構 212 (西から)



▲ II区 第3面 (北から)



▲ I区 第3面 (北から)



▲ II区 最終確認トレンチ



▲ I区 最終確認トレンチ



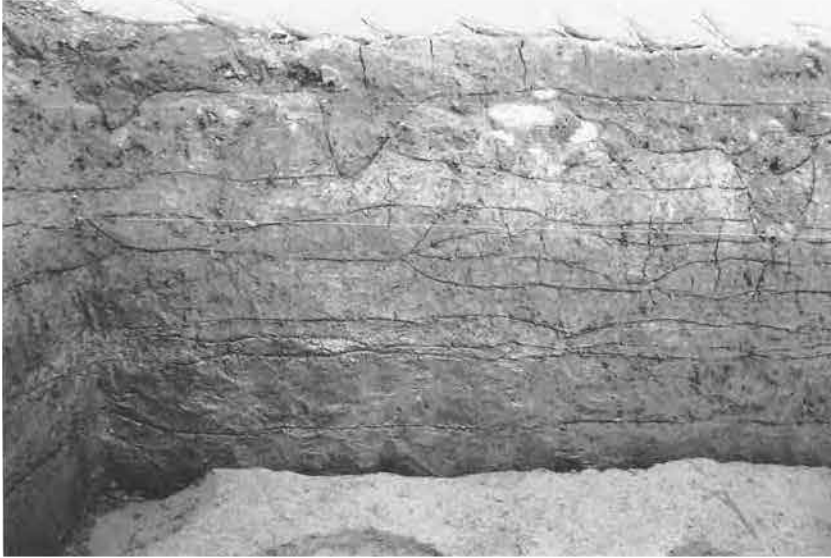
▲ I 区 東壁堆積土層（北側）



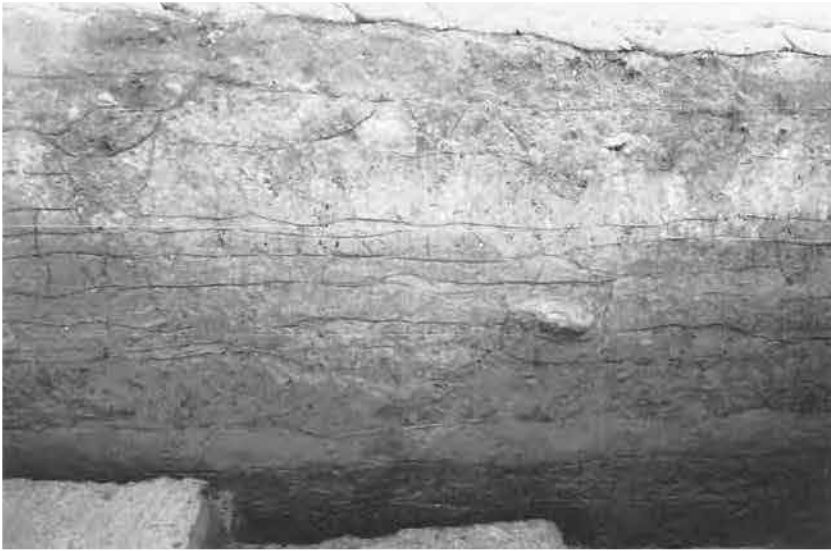
▲ I 区 東壁堆積土層（中央）



▲ I 区 東壁堆積土層（南側）



▲ II区 西壁堆積土層 (南側)



▲ II区 西壁堆積土層



▲ II区 南壁堆積土層



◀ I区 南壁



◀ II区 北壁



◀最終確認トレンチ



5-1

▲第 1a 面遺構 6



5-4



5-7



5-8

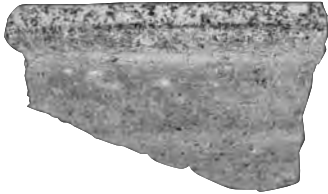


5-9

▲第 1a 面遺構 125



▲第 1a 面遺構 116



5-10

▲第 1a 面遺構 127



5-13

▲第 1a 面遺構 129



5-18

▲第 1a 面遺構 132



6-1



5-11

▲第 1a 面遺構 128



5-17

▲第 1a 面遺構 130



6-7



6-10



6-11



6-13



6-16



6-17



6-20



6-28



6-29



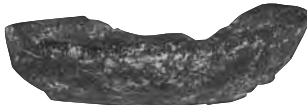
6-34



6-35



6-37



6-39



6-40



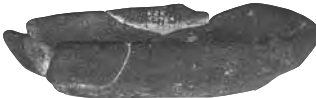
6-42



6-43



6-45



6-48



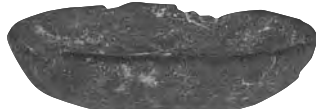
6-53



6-56



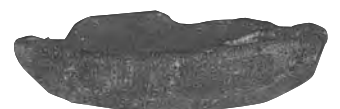
6-58



6-60



6-62



6-63



6-64



6-67

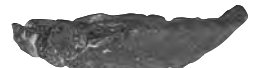


6-69

▲第 1a 面遺構 24



6-70



6-71



6-75



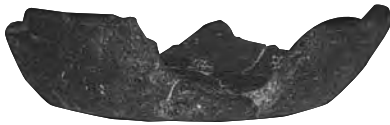
6-81



6-82



6-85



6-86



6-88



7-91



7-95



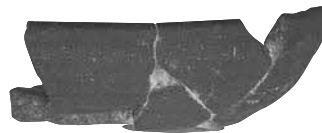
7-97



7-101



7-102



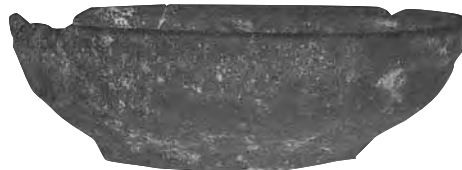
7-104



7-106



7-107



7-108



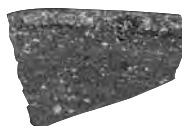
7-110



7-119



7-120



7-123



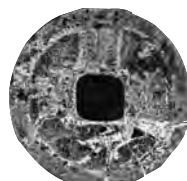
7-124



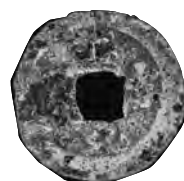
7-125



7-126



7-128



7-129



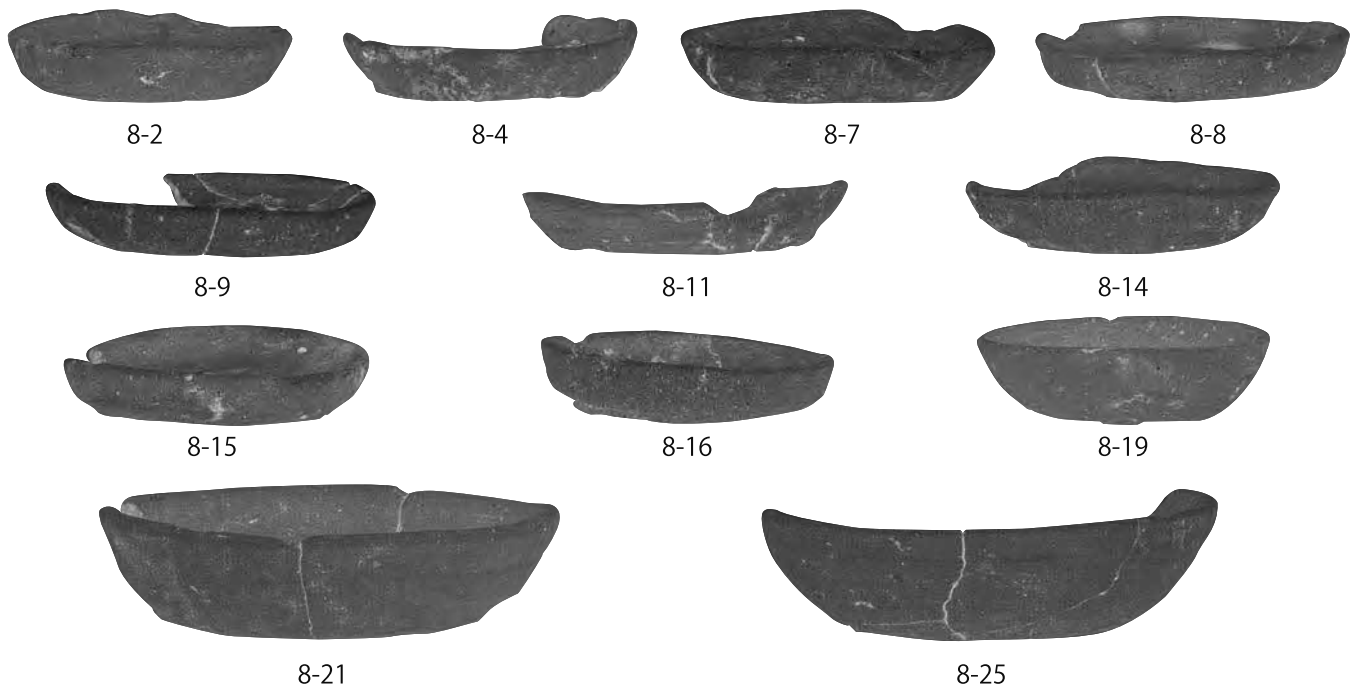
7-131



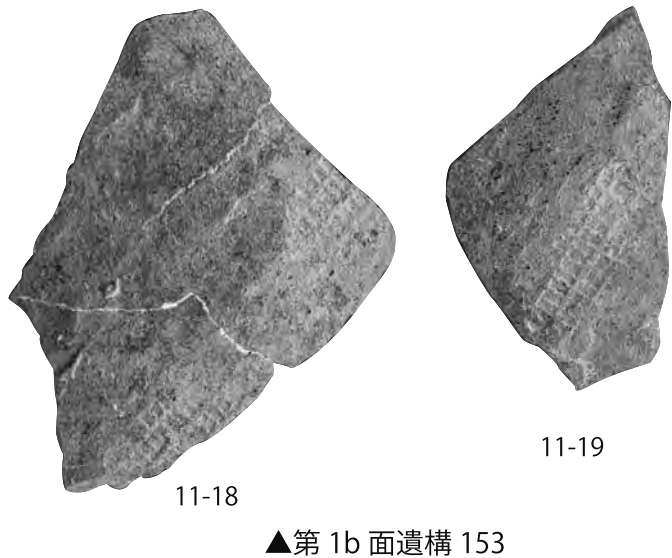
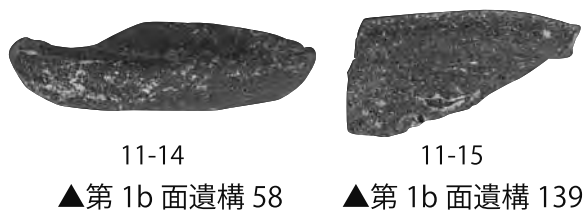
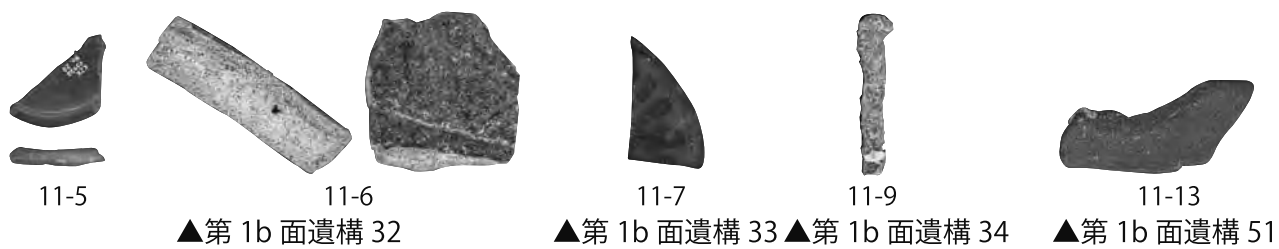
7-132

▲第 1a 面遺構 24





▲第 1a 面面上出土遺物



図版 11



11-21

▲第 1b 面遺構 155



11-22



11-24



11-25

▲第 1b 面遺構 156



11-26

▲第 1b 面遺構 157



11-29

▲第 1b 面遺構 159



11-31

▲第 1b 面遺構 161



11-34

▲第 1b 面遺構 163



11-35

▲第 1b 面遺構 167



12-2



12-7



12-8



12-9



12-11



12-12



12-13



12-14



12-21



12-22



12-27



12-28



12-31



12-33



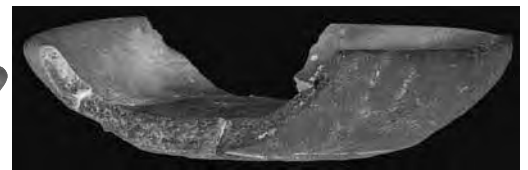
12-40



12-43



12-45



12-46



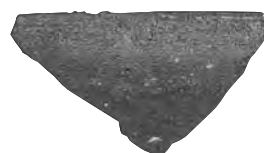
12-48



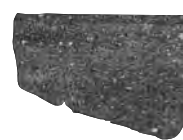
12-55



12-57



12-60



12-61



12-62



12-65



12-66

▲第 1 面構成土



14-1

▲第 2 面上



14-2

図版 12



16-1



17-1



17-3



17-4



17-6

▲第3面構成土



17-7



17-9



17-11



17-14



17-15



17-16



17-22



17-26



17-29



17-30



17-32



17-33



17-34



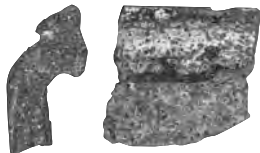
17-35



17-38



17-41



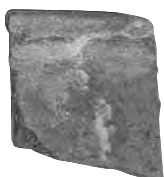
17-45



17-46



18-47



18-48



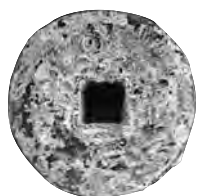
18-51



18-55



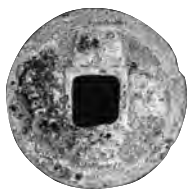
18-50



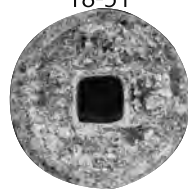
18-56



18-57



18-58



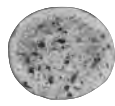
18-59



18-60



18-61

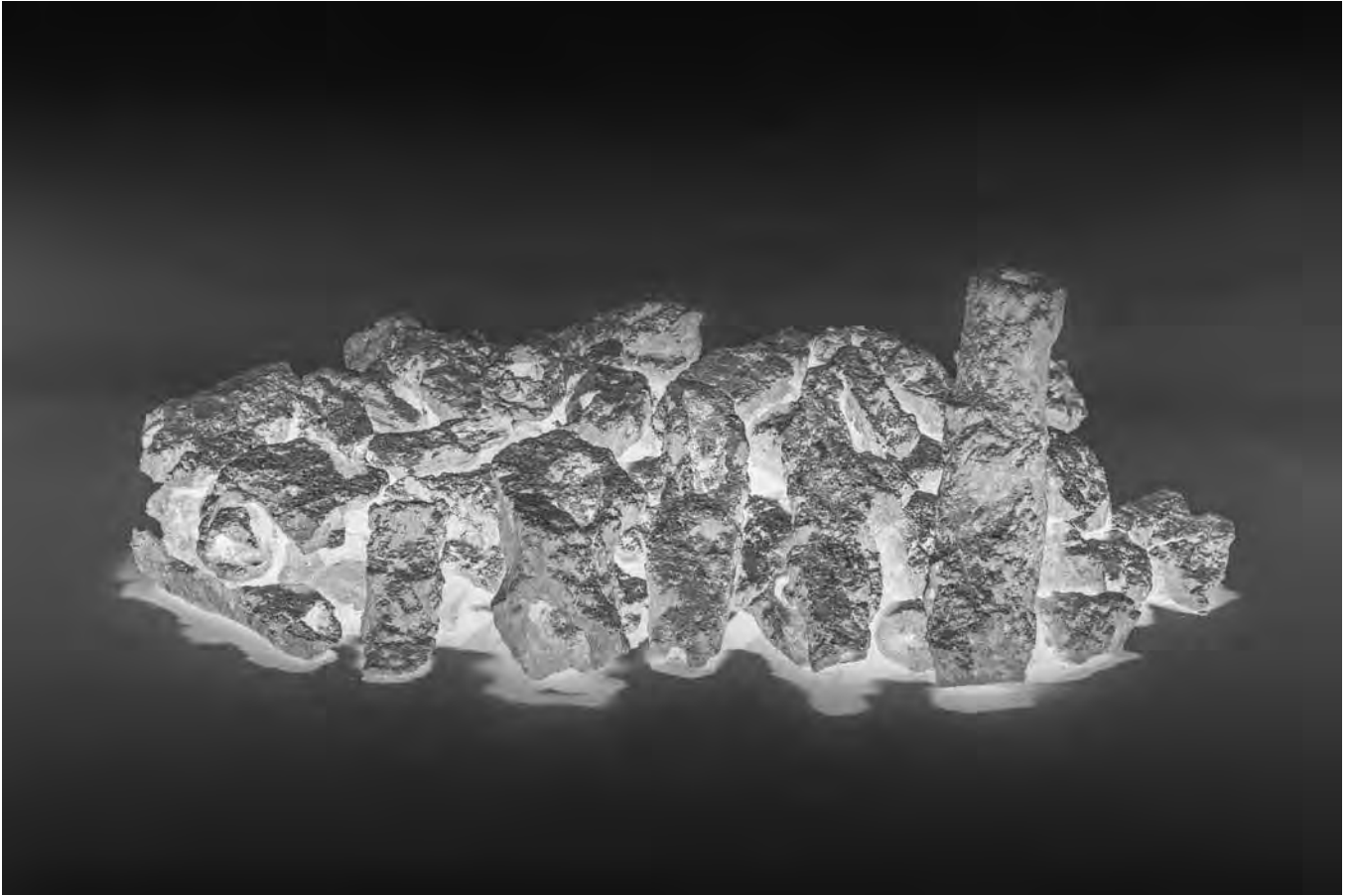


18-62

▲表土採集



18-65



▲出土した高師小僧(一部)



## 桑ヶ谷療病院跡(No.294)

長谷三丁目 630 番 1 地点

## 例言

- 1 本報は桑ヶ谷療病院跡（神奈川県遺跡台帳 No.294）に所在する鎌倉市長谷三丁目 630 番 1 地点における個人専用住宅の建設に伴う緊急発掘調査報告である。調査面積は約 107 m<sup>2</sup>である。
- 2 調査は平成 23 年 1 月 28 日から同年 4 月 28 日にかけて実施した。
- 3 調査体制は以下の通りである。

主任調査員	原廣志・伊丹まどか
調査員	梅岡ケイト・根本志保・平井里永子・渡邊美佐子
調査作業員	浅香文保・牛嶋道夫・宇都宮和信・江津兵太・佐藤淳一・杉浦永章・中須洋二 根市真古人・宝珠山秀雄(鎌倉市シルバー人材センター)
- 4 本報作成分担は以下の通りである。

遺物実測	清水由加里
遺構図版作成	吉田桂子
遺物図版作成	伊丹まどか
遺物観察表	伊丹まどか・渡邊美佐子
遺構計測表	伊丹まどか
遺構写真	根本志保・原廣志・須佐仁和・伊丹まどか
遺物写真	須佐仁和
写真図版作成	小野夏菜・吉田桂子
執筆・編集	伊丹まどか
- 5 出土品等発掘調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が管理している。
- 6 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通りである。

遺構全測図	: 1/50	個別遺構図	: 1/40	遺物実測図	: 1/3	* 銭は原寸
-------	--------	-------	--------	-------	-------	--------

なお各挿図にはスケールを表示してある。
- 7 検出した遺構の計測値は表にまとめて掲載した。
- 8 復原して実測した遺物は計測値の欄に還元値は（ ）を、残存値は[ ]を付して表した。
- 9 「かわらけ」と記載したものは回転ロクロ成形の物を指し、手づくね成形の物は「手づくね」と記載している。
- 10 ロクロ整形のかわらけの底径は回転糸切りの外径部分で計測し、手づくね成形のかわらけは底径を記載していない。
- 11 出土遺物に関しては、生産地での編年を参考に観察表に年代を示したが、破片の為に不安の残るものに関しては割愛した。常滑製品は中野晴久氏。瀬戸製品は藤澤良祐氏。火鉢は河野眞知郎氏の編年に基づいて分類した。
- 12 発掘調査及び報告書作成に際して以下の方よりご教授、ご協力を賜りました。記して深謝いたします。  
(五十音順・敬称略)  
小野夏菜・松尾宜方・馬淵和雄・山口正紀

# 目次

## 本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	432
第1節 歴史的環境(図1)	
第2節 遺跡位置とグリッド配置図(図2)	
第3節 堆積土層(図3)	
第二章 発見された遺構と遺物	440
第1節 第1面の遺構と遺物	
第2節 第2面の遺構と遺物	
第3節 第3面の遺構と遺物	
第三章 まとめ	456
第1節 検出した遺構と遺物	
第2節 まとめ	

## 表目次

遺構計測表	458
遺物観察表	460

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	433	図11 第2面構成土出土遺物	446
図2 遺跡位置とグリッド配置	435	図12 第3面個別遺構図(1)	448
図3 調査区堆積土層図	436	図13 第3面個別遺構図(2)	449
図4 第1面全測図	437	図14 第3面個別遺構図(3)	450
図5 第2面全測図	438	図15 第3面個別遺構図(4)	451
図6 第3面全測図	439	図16 第3面遺構出土遺物(1)	452
図8 第1面個別遺構・出土遺物	440	図17 第3面遺構出土遺物(2)	453
図8 第1面遺構106・堀方出土遺物	422	図18 第3面面上・構成土出土遺物	454
図9 第1面面上・構成土出土遺物	443	図19 表土採集遺物	455
図10 第2面個別遺構・遺構出土遺物	445		

## 図版目次

図版1	469	図版5	473
I区第1面全景・遺構106石垣(II区部分)		第1面遺構(遺構2・遺構104・遺構105遺構106)・第1面 面上・第1面構成土・第2面遺構(遺構112)出土遺物	
図版2	470	図版6	474
I区・II区第2面全景・II区石列検出状況		第2面構成土・第3面遺構(遺構30・遺構31)出土遺物	
図版3	471	図版7	475
I区・II区第3面全景・遺構30検出状況		第3面遺構(遺構41・遺構115・遺構118)・ 第3面面上・第3面構成土出土遺物	
図版4	472	図版8	476
I区・II区最終確認トレンチ・I区南壁土層堆積		第3面構成土・表土出土遺物	



# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 第1節 歴史的環境(図1)

本調査地は鎌倉市長谷三丁目 630 番 1 に所在する。鎌倉市街地の西端に位置し、JR 鎌倉駅から西南に 1600 m、江ノ電長谷駅から北へ約 400m、高德院大仏殿から南西に 300m の位置となる。東南に向かって開口する桑ヶ谷と呼ばれる谷戸のほぼ中心に位置し、開口部には現在の県道藤沢鎌倉線が南北に走る。この道路は高德院大仏殿の北西方の丘陵を笛田方面に超える道となる旧大仏切通しの下を明治 12 年 (1879) に掘削し鎌倉の中心部から深沢・藤沢方面に抜ける隧道を通していている。旧大仏坂切通しは掘割道になっている部分が多い道であり、現在でも往時の険しさを遺す道である。大仏坂は極楽寺坂、仮粧坂、亀ヶ谷坂、巨福呂坂、朝比奈(峠坂)、名越の切通しと合わせ、鎌倉七口と呼ばれる。中世鎌倉において「鎌倉中」と呼ばれ、鎌倉の「内」であると考えられていたのは、この七口の内であるが、鎌倉の内と外を分ける境の位置については諸説あり、元仁元年(1224)十二月二十六日、疫病が流行ったので幕府は四角四境の鬼気祭を行い、このときの四境は、東は六浦、南は小壺、西は稲村、北は山の内であったとされている。四境祭とは鎌倉の外で行う祭事である。遡って治承四年(1180)十月十一日・頼朝妻北条政子が伊豆国の阿岐戸郷から到着した際には、日次がよくないとのことで稲瀬川辺の民屋に止宿し鎌倉の内に入ることを禁じられている。この稲瀬川辺は調査地の南に位置する現在の長谷付近を指し、調査地辺は鎌倉中ではなかったことを示していると考えられる。また、調査地の北に位置する高德院大仏殿は暦仁元年 (1238) 三月二十三日、浄光が勧進となり相州深沢里大仏堂建立事始めが行われ、同年五月十八日に頭部を上げた記事が『吾妻鏡』に見え、仁治二年(1241)三月二十七日の条にも「深沢の大仏殿」の上棟の儀があったと記している。この記事では深沢を「相模国深沢」とし調査地付近が深沢里に属していた事がわかる。また「鎌倉の深沢」とは言っておらず、深沢が鎌倉の内では無かったことを想像させ、この記事もまた、調査地辺が鎌倉中でなかったことを示すと考えられる。調査地の位置する桑ヶ谷という谷戸は、極楽寺を開山した忍性が弘安十年(1287)に癩病患者を中心とする療病所を建てており、遺跡名の「桑ヶ谷療病院跡」の由来となる。この療病所では 20 年間に癒ゆる者 46800 人、死するもの 10450 人であったと伝わり、多くの患者を助けている。その他に忍性は社会事業の一環として施薬非田院・馬病舎・癩宿・薬湯寮等の施設を開いており、極楽寺での活動以前には「関東往還記」に弘長二年 (1262) 五月一日、叡尊が鎌倉滞在中に忍性と頼玄という二人の高僧が二か所の非田で病者や貧者に食を与え十善戒を授けたとある。この二か所の非田とは前浜 (由比ガ浜一帯) と調査地辺にある大仏坂である。また、文永元年(1264)、新宮の跡で非人施行を三千余人に対して行い、極楽寺においては療病所の他に、文永十一年(1274)に大仏谷で飢饉に苦しむ人たちを集めて施粥を行い、永仁六年(1298)には調査地の南西に位置する坂の下で馬の病舎を建てている。また、忍性の伝記である『性公大徳譜』によると非人三千人分に馬衣や帷子を与えた事、189 箇所橋を作ったこと、71 箇所道を作ったこと、井戸を 33 箇所掘り、63 箇所に殺生禁断を行い、浴室・病室・非人所を 5 箇所建てたこと等が述べられている。

桑ヶ谷に関する記事では『日蓮聖人註画讃』に、建治三年 (1277) 六月、龍象房なる僧が「大仏殿門西桑ヶ谷」に法筵を開き日夜法を講じていたところ、僧日真 (三位房) がまみえて論議に及んだと記され、「桑ヶ谷問答」として知られている。

調査地北方、大谷戸と称する谷戸の開口部には先に述べた大仏を有する高德院がある。大異山高徳院清浄泉寺と号し、浄土宗。元光明寺奥の院。開山・開基は未詳である。南隣の谷奥には光則寺がある。日蓮宗。

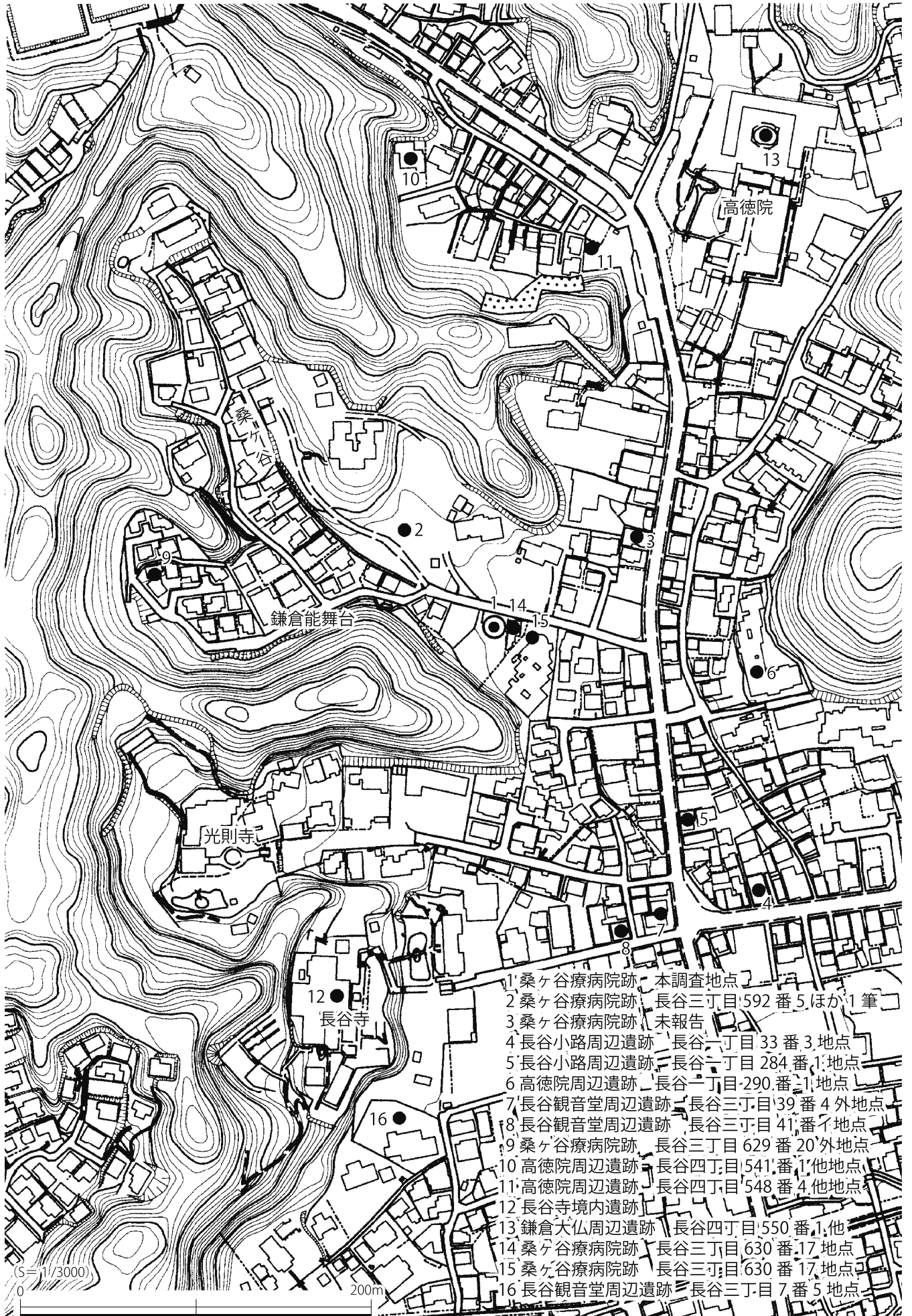


図1 調査地点と周辺の遺跡

行時山光則寺と号する。開山日朗、開基は北条時頼の近臣宿谷（屋）光則、寺域は光則の居宅跡。元妙本寺末。創建は文永十一年（1274）と伝える。光則寺の南側支谷には長谷寺がある。海光山慈照院と号し、元浄土宗光明寺末。開山徳道、開基藤原房前。天平八年（736）の創建と伝えるが、大和長谷寺の縁起に倣ったもので明確な開創年次は不明とされ、文永元年（1264）七月に物部季重が鑄造した当寺鐘銘に「新長谷寺 当寺住真光 勸進沙門浄物」とあるため、鎌倉時代末期には成立したことがわかっている。

「桑ヶ谷療病院跡」では、本調査地点の東隣、地点 14 と地点 15 で 13 世紀後半から 14 世紀前半にかけての 3 時期のわたる生活面を発見し、谷戸中央を東西に走る道路に沿った石垣による溝、谷戸開口部に向かって傾斜する地形を泥岩による石垣によってひな壇状に造成した様子を報告している。道路を挟んだ北側の地点 2 では泥岩を用いたひな壇状の造成を検出し、13 世紀前半から 16 世紀代の 5 期にわたる生活の痕跡を検出している。谷戸奥地点 9 でも 2 時期にわたる生活面とともに泥岩による石垣を使ったひな壇状の造成が発見され、ある時期に谷戸全体で大掛かりな造成が行われたと想像できる。

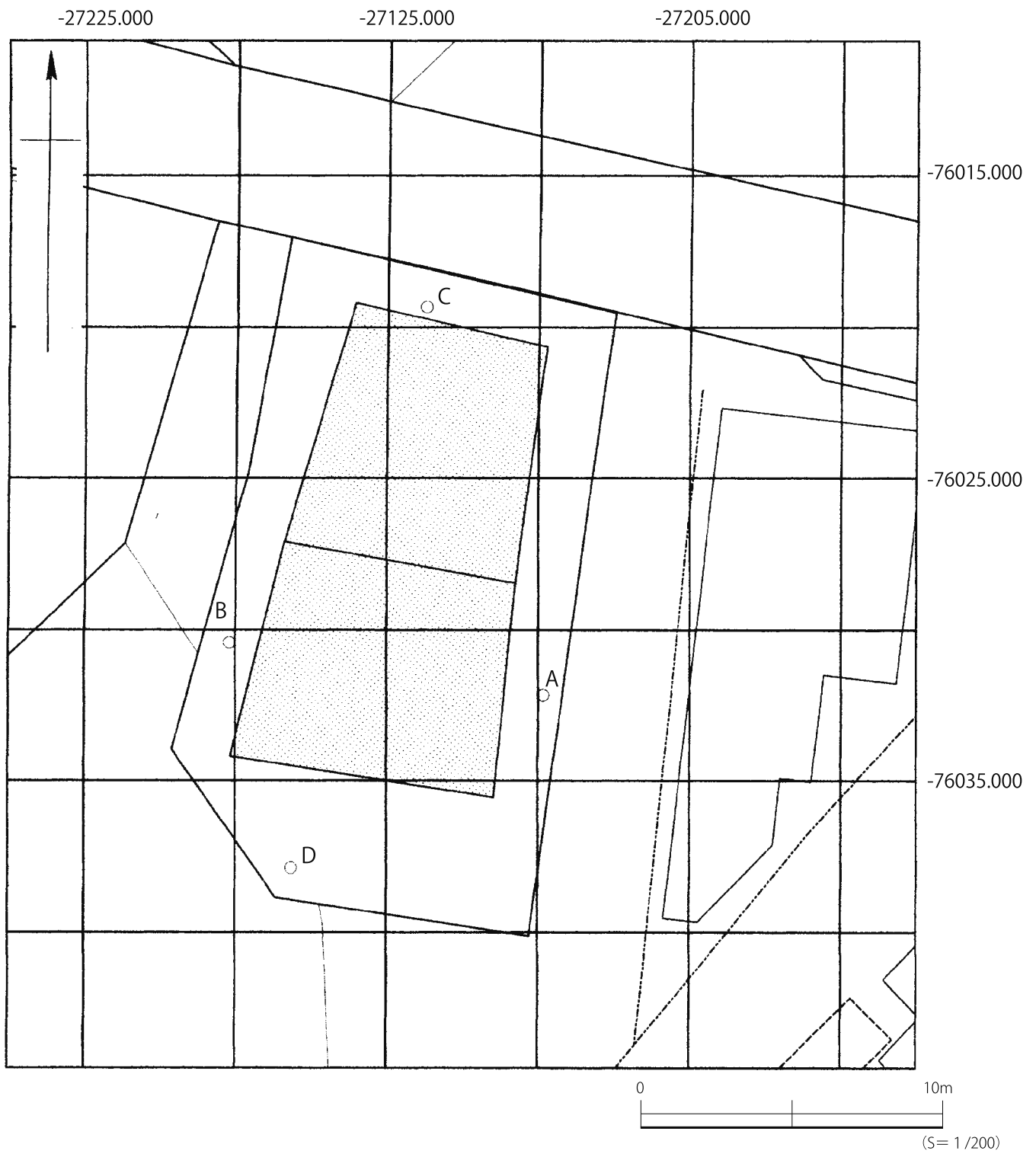
現在までに谷戸内での調査事例は少ないが、今後調査を重ねることによって、遺跡名となった「桑ヶ谷療病院」に関する諸々が明らかになることが期待される。桑ヶ谷の現在は、『鎌倉能舞台』のある谷として知られ閑静な住宅街となっている。

## 第 2 節 遺跡位置とグリッド配置(図 2)

調査区内で廃土を処理する場所を確保するために、調査地を I 区・II 区に分け、ともに任意の方眼軸を調査区に設けて調査を開始した。両区に設定した基準点の内、調査区の南北軸となる基準点 A と、基準点 B を使い調査地の位置とグリッドの配置を図面に示した。基準点 A と、基準点 B は鎌倉市 4 級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系（座標 AREA 9）の国土座標値を使用しているため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB 版 TKY2JGD」で世界測地系 IX 形に変換し、図 2 に表記した。

## 第 3 節 堆積土層(図 3)

本調査では 3 枚の生活面を発見した。調査前の現地表海拔高は 12.30m～11.20m で、南から北・西から東に向かってやや傾斜する地形であった。調査区西壁・南壁で観察した土層堆積図を用いて調査地の様相を上層より説明する。調査は、廃土の処理を調査区内で行うために I 区（調査区南側）・II 区（調査地北側）に分けて調査を行ったため、西壁土層図は中央付近に若干の空間を残す。現地表は南から北に向かって緩やかな傾斜を見るが、調査区北側は大きく現代埋土によって攪乱され大きく傾斜している。第 1 面検出海拔高は 11.50m。I 区・II 区ともに大きく現代埋土によって攪乱を受けていた。II 区北側では石垣の溝を検出している。第 1 面構成土は炭化物・褐鉄・泥岩・破碎泥岩を多く含む暗茶褐色弱粘質土。第 2 面は第 1 面同様に破碎泥岩による地業層上で遺構を検出した。調査区東端で南北に延びる石垣を検出しており、石垣を境にひな壇状の造成を行っている第 2 面構成土は泥岩・破碎泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。南壁、海拔高 10.50m 辺で第 2 面構成土は黒色粘土・青灰色砂がブロック状に混入し、堆積層が混乱していることを観察しており、洪水、あるいは津波の影響ではないかと指摘を受けた。第 3 面は I 区・II 区ともに平坦な地業層上で遺構を検出した。第 3 面構成土は褐鉄・泥岩・泥岩粒・破碎泥岩を多く含む青灰色弱粘質土。

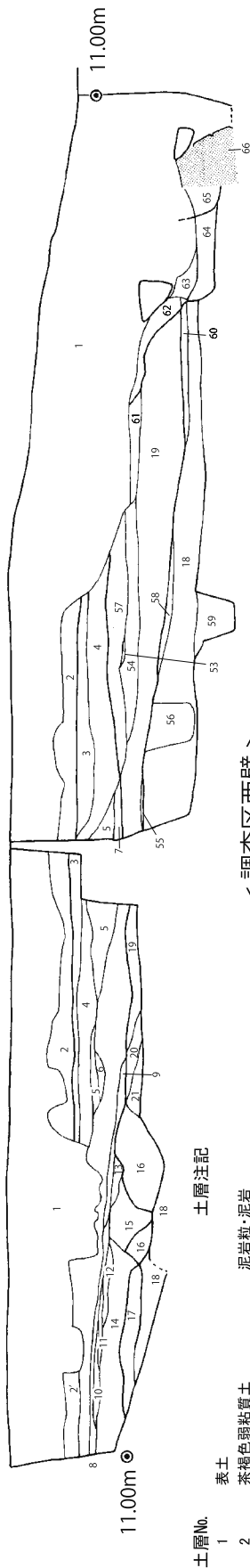


地点	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-76388.936	-26916.439	-76032.1593	-27209.8412
B	-76387.193	-26926.792	-76030.4159	-27220.1936
C	-76376.100	-26920.330	-76019.3233	-27213.316
D	-76394.653	-26924.751	-76037.8758	-27218.1530

図2 遺跡位置とグリッド配置図

I 区

II 区



土層No.

表土

1	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
2	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩(第1面構成土)
3	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物・褐鉄(第1面構成土)
4	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩(第1面構成土)
5	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐鉄
6	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩(第1面構成土)
7	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐鉄
8	暗褐色弱粘質土	灰褐色粘土
9	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐鉄
10	暗褐色弱粘質土	泥岩粒
11	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐鉄
12	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物
13	茶褐色弱粘質土	暗褐色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・黑色粘土粒
14	暗褐色泥岩層	泥岩粒・泥岩
15	明褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
16	青灰色弱粘質土	泥岩・褐鉄・黑色粘土
17	青灰色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐鉄(第3面構成土)
18	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩(第2面構成土)
19	暗褐色弱粘質土	泥岩粒
20	暗褐色弱粘質土	泥岩粒
21	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
22	黑色粘土	褐色砂質土微量
23	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・黑色粘土
24	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色粘土
25	暗褐色泥岩層	暗褐色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・黑色粘土粒
26	暗褐色泥岩層	泥岩塊
27	暗褐色泥岩層	明茶褐色弱粘質土
28	暗褐色泥岩層	褐色粘土
29	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
30	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・黑色粘土
31	暗褐色泥岩層	黑色粘土塊
32	暗褐色弱粘質土	灰褐色粘土
33	褐色泥岩層	灰褐色粘土
34	褐色泥岩層	青灰色砂
35	青灰色泥岩層	泥岩粒・炭化物・褐鉄・黑色粘土
36	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
37	明茶褐色弱粘質土	泥岩

土層注記

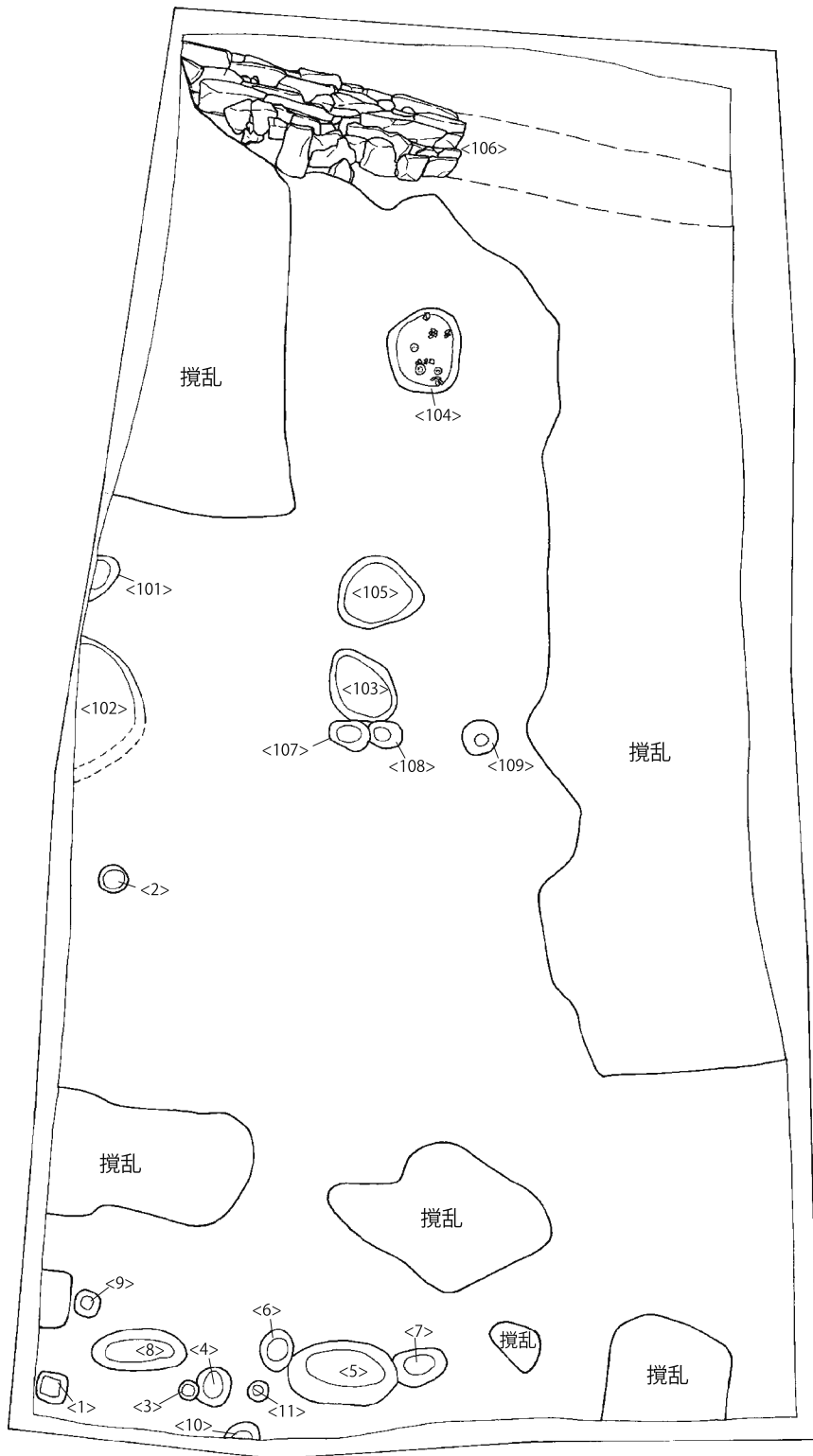
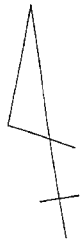
< 調査区西壁 >

< 調査区南壁 >



38	黑褐色弱粘質土	泥岩粒・褐鉄・黑褐色粘土
39	黑褐色弱粘質土	泥岩粒・褐鉄・黑褐色粘土
40	青灰色泥岩層	泥岩粒
41	青灰色泥岩層	泥岩粒
42	黑色弱粘質土	泥岩粒・青灰色泥岩
43	黑色粘土	泥岩粒
44	灰青色粘土	泥岩粒
45	青灰色泥岩層	黑色粘土塊
46	青灰色粘土	黑色粘土塊
47	青灰色粘土	褐色鉄
48	茶褐色粘土	黑色粘土塊
49	青灰色粘土	黑色粘土塊
50	黑色粘土	黑色粘土塊
51	青灰色泥岩層	黑色粘土塊
52	青灰色泥岩層	黑色粘土塊
53	暗褐色弱粘質土	褐色砂質土
54	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
55	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
56	黑褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
57	暗褐色弱粘質土	泥岩
58	暗褐色土	泥岩粒・泥岩
59	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐鉄
60	茶褐色弱粘質土	泥岩粒
61	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
62	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
63	茶褐色弱粘質土	泥岩粒
64	暗茶褐色弱粘質土	泥岩塊
65	暗茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩塊

図 3 調査区壁堆積土層図



0 2m  
(S=1/50)

图4 第1面全测图

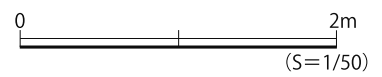
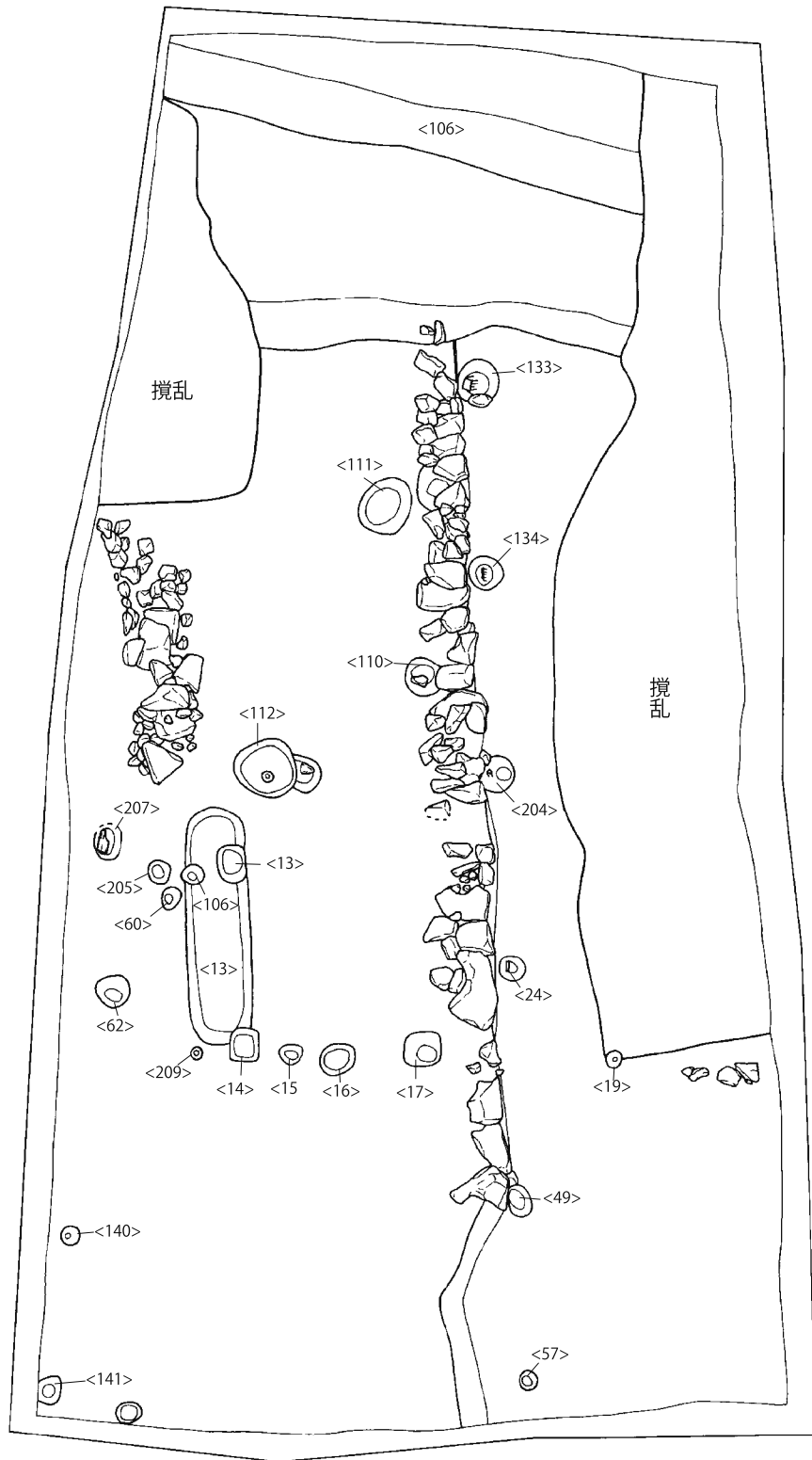


图5 第2面全测图

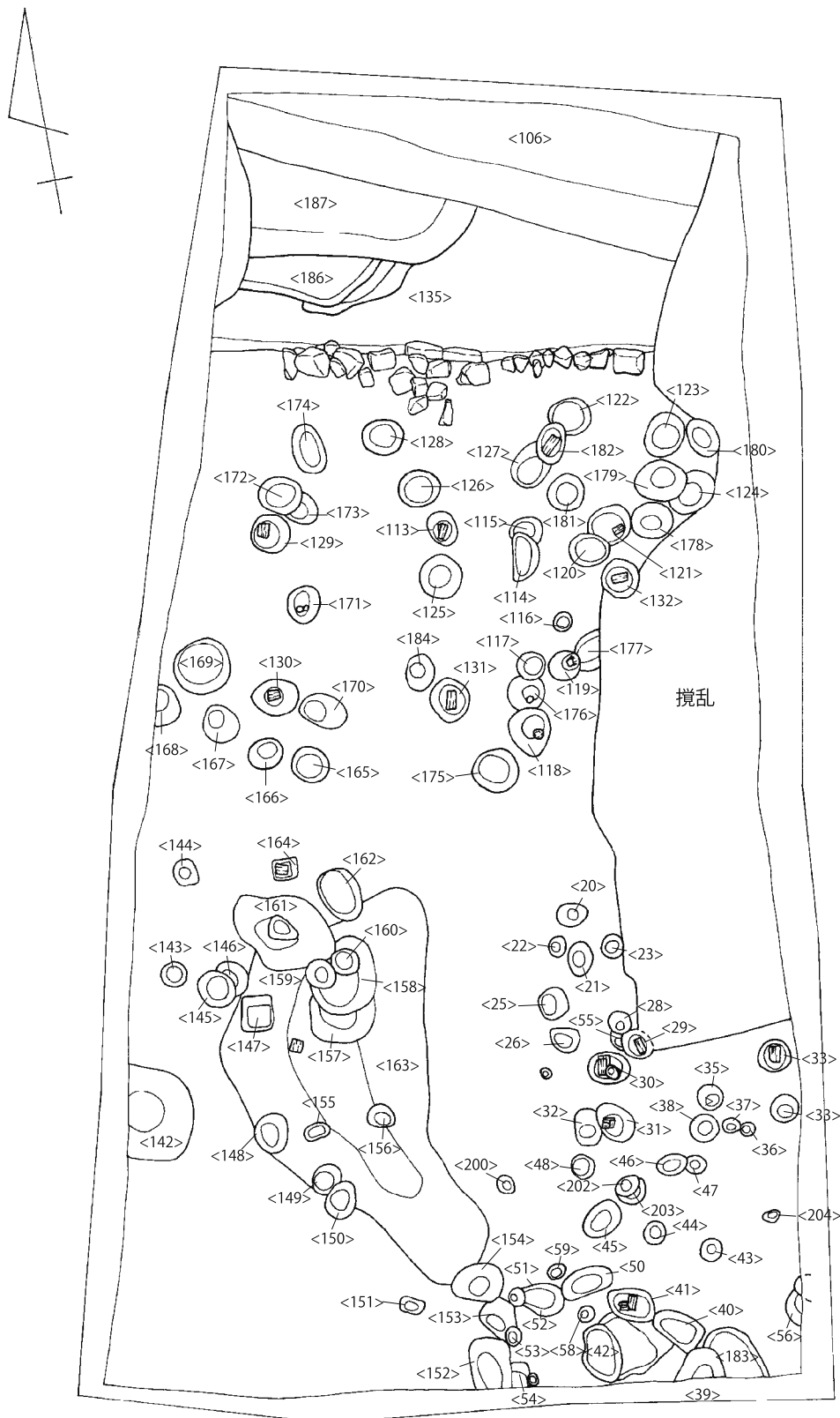
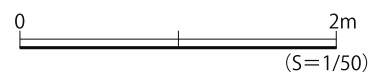


图6 第3面全测图





## 第二章 発見された遺構と遺物

### 第1節 第1面の遺構と遺物(図4・図7～図9)

表土から約90cmを重機によって除去し、泥岩塊・泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土の地業層上で第1面を検出した。地業層は現代の攪乱によって大きく削平を受けており、発見した遺構はわずかである。精査・遺構プラン確認時に大型の泥岩塊を覆土に多く含む遺構を発見したが、その多くは地業の一環として地業に混入した泥岩塊の抜き取り痕であった。同様に調査区南側で報告している数穴の遺構も泥岩の抜き取り痕が含まれている可能性が否めない。調査区北側では東西に延びる溝を発見している。発見した溝は南壁に石垣を伴うが、遺構の東側は現代の攪乱によって大きく削平を受けていた。

第1面の遺構覆土からは大型の泥岩とともに、概ね15世紀代の遺物が混入していた。第1面構成土は、第1面を確認した暗褐色弱粘質土下層に薄く炭化物層が広がり、その下層は褐鉄を含む堅く締まった黒褐色粘質土が堆積していることを確認した。第1面で発見した遺構は溝1条・土坑6基・ピット13穴である。

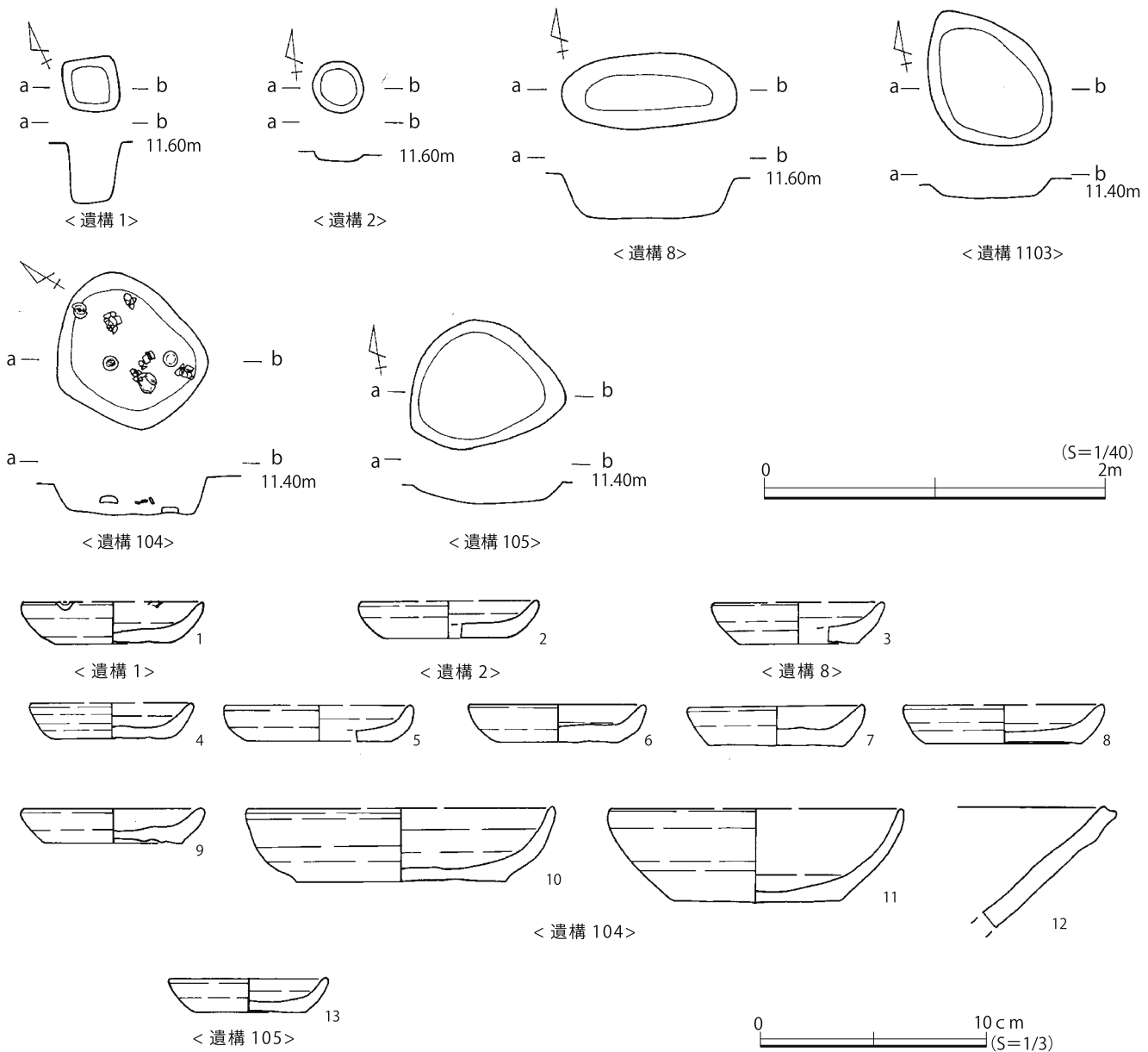


図7 第1面個別遺構・出土遺物

### 遺構 1(図 7)

方形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む明茶褐色弱粘質土。

#### ・出土遺物(図 7)

1 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

### 遺構 2(図 7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。

#### ・出土遺物(図 7)

2 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

### 遺構 8(図 7)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む明茶褐色弱粘質土。

#### ・出土遺物(図 7)

3 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

### 遺構 103(図 7)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

### 遺構 104(図 7)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む明褐色弱粘質土。覆土内にはかわらけが多く廃棄されていた。

#### ・出土遺物(図 7)

4～11 はかわらけ。12 は常滑片口鉢Ⅱ類。実測したかわらけは 8 点だが、破片で(大)117 片・(小)46 片が出土している。その他に金属製品釘が破片で出土した。

### 遺構 105(図 7)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・泥岩・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。

#### ・出土遺物(図 7)

13 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

### 遺構 106(図 8)

調査区北側で発見した東西に走る溝である。溝壁は不整形な泥岩を使った石垣によって護岸されているが、溝北側は調査区外に遺構が伸びていたため南壁の石垣のみが遺存していた。また、その南側石垣も遺構の東側を現代の攪乱により削平されていたため、調査・記録が出来たのは検出した遺構の西半分である。遺存する上段の石から溝底面までは深さ約 160 cm、幅は調査区内に遺存している部分だけで約 150 cm を測り、大型の溝であったことがわかる。断面は逆台形である。遺存している部分だけで判断することは危ういが、不整形な泥岩を使用した乱層積みの石垣は、溝底面から上 3～4 段までは大型の切石を使用し、不整形ではあるが石面は正面を意識して整形した切石で積まれている。その上段部分は不整形な泥岩を乱雑に積み、使用した石の大きさは小型で不揃いである。使用した石の形状、積み方から少なくとも二時期の溝改修があったのではないかと考えている。現在、調査地の北側には遺構 106 上端の海拔高から約 100 cm 下方で、谷戸内を突き抜ける道路が並行して走っている。

#### ・出土遺物(図 8)

1 は常滑片口鉢Ⅱ類。掲載した遺物は 1 点だが、その他にかわらけ・瓦器質火鉢の破片とともに、染付の皿・徳利・水滴・蕎麦猪口等の近世遺物が多く出土した。

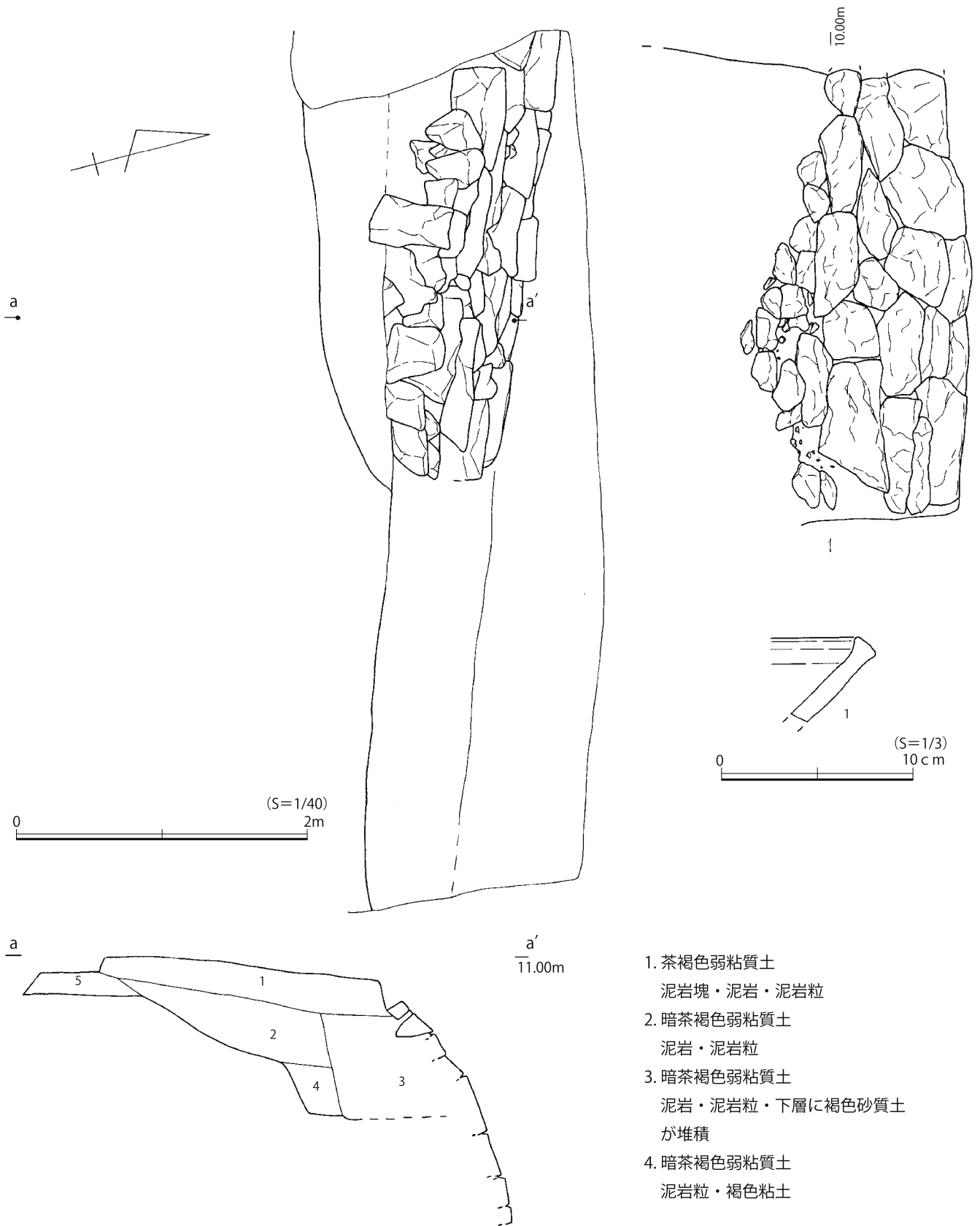


图8 第1面遺構 106・堀方出土遺物

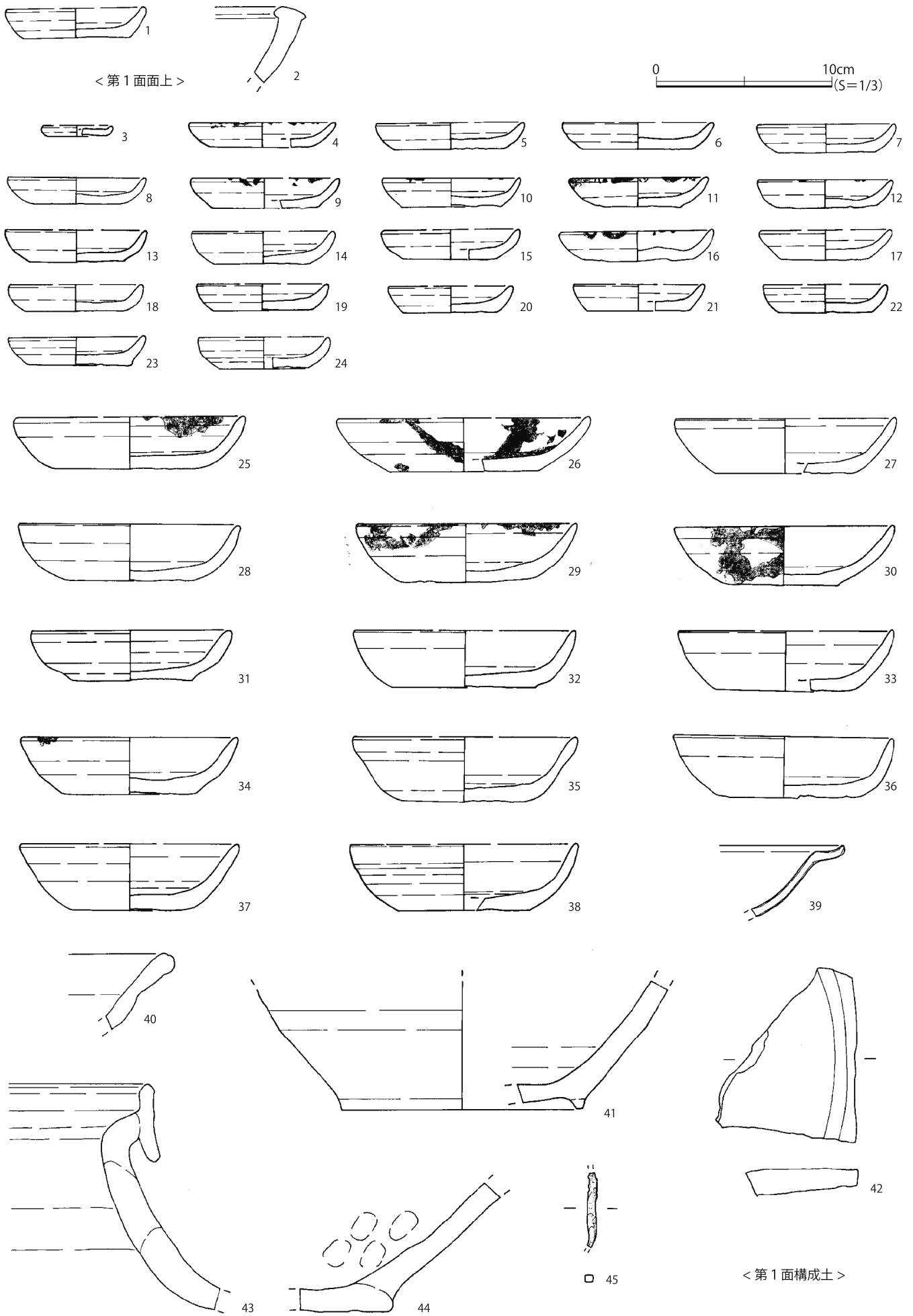


図9 第1面面上・構成土出土遺物

### ・第1面面上出土遺物(図9)

第1面面上精査時に発見した遺物である。1はかわらけ。2は土器質火鉢。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・瓦器質火鉢・金属製品釘・獣骨が破片で出土している。

### ・第1面構成土出土遺物(図9)

第1面遺構検出後、第2面検出までの堆積土から出土した遺物である。3～38はかわらけ。39は青磁折縁深皿。40～41は常滑片口鉢Ⅰ類。42は常滑片口鉢転用品。43～44は常滑甕。45は金属製品釘。その他に遺物は出土していない。

## 第2節 第2面の遺構と遺物(図5・図10～図11)

第2面は泥岩粒・破碎泥岩・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土の地業層上で遺構を検出した。Ⅰ区・Ⅱ区を通して南北に石列が並び、石列を境に東西で段差が形成され、石列東側は約40cm低くなる。この段差は本調査地の東に隣接する調査においても同様に東に向かって下がる段差を発見しており、谷戸内でひな壇状造成をしたことが示唆されている。この石列は北側で約30cmの高低差を持つ段差によって切られ、南は調査区外に遺構が延びている。また、西側段上全体には泥岩による地業土が広がっていたと考えられ、調査区西端でやや大きめの破碎泥岩の広がりを確認し図示している。(図5)、調査区中央付近に数穴の遺構を確認しているが、建物址などは推定できなかった。発見した遺構は段状遺構・土坑1基・ピット25穴である。また、第1面同様に出土した遺物は少ない。

### 遺構13(図10)

楕円形を呈する土坑である。ピット14・ピット18・ピット206に切られる。遺構覆土は泥岩・泥岩粒を含む茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

### 遺構14(図10)

円形を呈するピットである。遺構13を切る。遺構覆土は泥岩粒を含む暗褐色粘土。遺物は出土していない。

### 遺構18(図10)

楕円形を呈するピットである。遺構13を切る。遺構覆土は泥岩粒を含む暗褐色粘土。遺物は出土していない。

### 遺構111(図10)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む暗褐色粘質土。遺構底面に腐食した木質が遺存しており礎板であった可能性を考えている。遺物は破片でかわらけが出土している。

### 遺構112(図5)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩を多く含む暗褐色粘質土。遺構中央に木質を覆土に多く含む小型のピットを伴い、杭痕であった可能性を考えている。

### ・出土遺物(図10)

1～2はかわらけ。その他に常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

### 段状遺構・柱穴列(遺構57・遺構49・遺構24・遺構204・遺構134・遺構133)(図10)

調査区ほぼ中央で南北に延びる不整形の泥岩による石列を発見した。北側は約30cmの高低差を持つ段差に切られ、南側は調査区外に遺構が延びる。石列は東面が正位置になるように並べられている。石列を境に

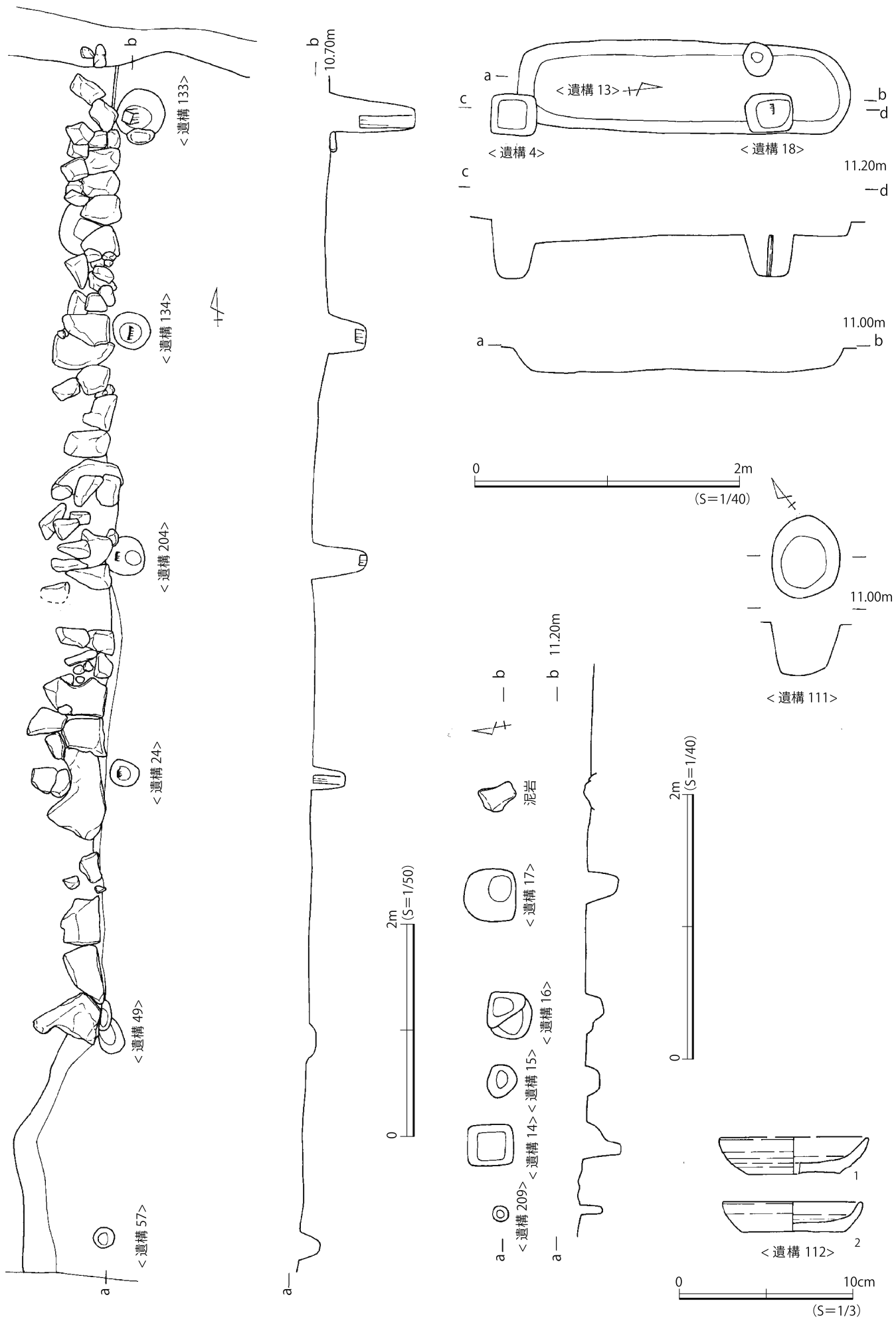


图 10 第 2 面個別遺構・遺構出土遺物

約 40 cm 石列の東側が低くなり、石列下に並行する柱穴列を伴う。石列の泥岩下層には細かく砕いた破碎泥岩と礫を敷き上部の泥岩を固定していた。前述したように、調査地の東隣の調査でも同様の石列を伴う段状の遺構が発見されており、「段状遺構」「ひな壇造成」と報告されている。また一部ではあるが、泥岩・破碎泥岩の広がりをも第 2 面検出層西端で発見し図示している(図 5)が、石列の西側全体に不整形な泥岩と破碎泥岩による地業が広がっていたと考えている。

柱穴列の柱間は北側から、遺構 133 と遺構 134 の芯芯の距離 165cm、遺構 134 と遺構 204 の芯芯の距離 170cm、遺構 204 と遺構 24 の芯芯の距離 165cm、遺構 24 と遺構 49 の芯芯の距離 197cm、遺構 49 と遺構 57 の芯芯の距離 155cm であった。それぞれの柱穴をつなぐ距離に統一性はないが、遺構 133 は礎板と柱材が、遺構 134・遺構 204・遺構 24 には柱材が遺存しており、段状遺構に伴う柵あるいは土留めのための柱穴列であったと考えている。

遺構 133 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。遺構 134 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・泥岩を含む茶褐色弱粘質土。遺構 204 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。遺構 24 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む暗褐色弱粘質土。遺構 49 は楕円形を呈する。覆土は泥岩粒・茶色有機質土を含む暗褐色弱粘質土。遺構 57 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・茶色有機質土を含む黒褐色弱粘質土。どの遺構からも遺物は出土していない。

### 柱穴列<遺構 209・遺構 14・遺構 15・遺構 16・遺構 17>(図 10)

調査区やや南で発見した東西に並ぶ柱穴列である。

遺構 209 は円形を呈する。遺構 14 は方形を呈する。遺構 15 は不正円形を呈する。遺構 16 はピットが切り合っているが円形を呈すると思われる。遺構 17 は不正円形を呈する。それぞれの遺構覆土は粘性の強い暗褐色粘土であり近似していた。それぞれの柱間は芯芯で 50cm を測った。柵列であった可能性を考えている。どの遺構からも遺物は出土していない。

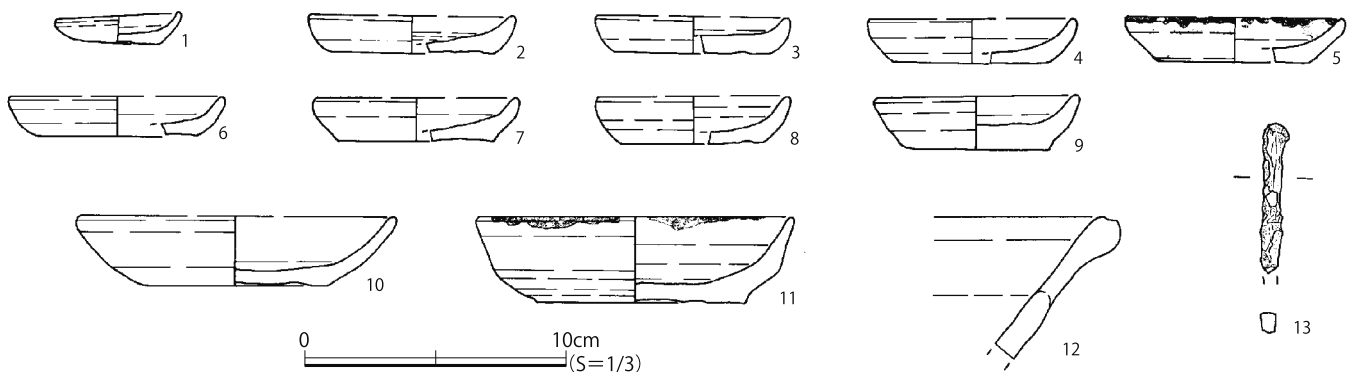


図 11 第 2 面構成土出土遺物

### ・第 2 面構成土出土遺物(図 11)

第 2 面遺構検出後、第 3 面検出までの堆積土から出土した遺物である。第 2 面では遺物出土量が少なく、第 2 面の面上精査時にも出土遺物がなかった。

1~11 はかわらけ。12 は常滑片口鉢 I 類。13 は金属製品釘。その他に青磁碗・常滑甕が破片で出土している。

## 第 3 節 第 3 面の遺構と遺物(図 6・図 12~図 18)

第 3 面は I 区・II 区ともに破碎泥岩による平坦な地業層上で遺構を検出した。

第3面では多くの遺構を発見している。発見したピットの多くには礎板・柱材が遺存し、建物址の存在を窺わせた。調査区北側で東西に延びる不整形な泥岩による石列を発見した。石列に使用した泥岩は不整形ではあるが北面を正位置に並べ、北側に向かって約30cmの高低差を持つ段差が形成されている。この段差は第2面で発見したひな壇造成を形作る南北に延びる石列と同様に、土留めの機能を持つと考えている。段差北側には第1面で発見した東西に延びる溝（遺構106）堀方との間に土坑を発見している。土坑は現代の攪乱によって削平されており、図面上は土坑として報告したが遺構106同様に東西に延びる溝であった可能性を考えている。第3面構成土は褐鉄・泥岩・泥岩粒・破碎泥岩を多く含む青灰色弱粘質土であり、遺構覆土はすべて粘性の強い黒色粘質土を含んでいた。発見した遺構は段状遺構・土坑8基・ピット97穴である。

第3面検出後、調査区南端にトレンチを入れ下層の堆積を確認した。

調査区西側で表土から130cm、東側で表土から250cmで黒色粘土の層（図3-22層）が西から東に下がる様子を確認した。粘土層上層（図3-35・51・52層）には、黒色粘土と青灰色砂、茶褐色弱粘質土が混乱して堆積している状況を土層観察から確認しており、津波、あるいは洪水によって堆積土が混乱したのではないかと指摘を受けた。（写真図版No.4）

#### **遺構115(図6)**

円形を呈するピットである。遺構114に切られる。個別に遺構図は報告していない。遺構覆土は泥岩粒を含む茶褐色弱粘質土。

#### **・出土遺物(図17)**

12～14はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

#### **遺構117(図6)**

円形を呈するピットである。遺構176を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。

#### **・出土遺物(図17)**

15はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

#### **遺構118(図6)**

不正円形を呈するピットである。個別に遺構図は報告していない。遺構覆土は泥岩・泥岩粒を含む茶褐色弱粘質土。

#### **・出土遺物(図17)**

16～19はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

#### **遺構122(図12)**

円形を呈するピットである。遺構182に切られる。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。遺構覆土中央に固まって茶色有機質土が遺存しており、柱材であった可能性を考えている。遺物はかわらけが破片で出土している。

#### **遺構124(図12)**

楕円形を呈するピットである。遺構179に切られる。遺構覆土は泥岩粒を含む黒褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

#### **遺構128(図12)**

円形を呈するピットである。遺構覆土は覆土上層に泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけ・常滑壺が破片で出土している。



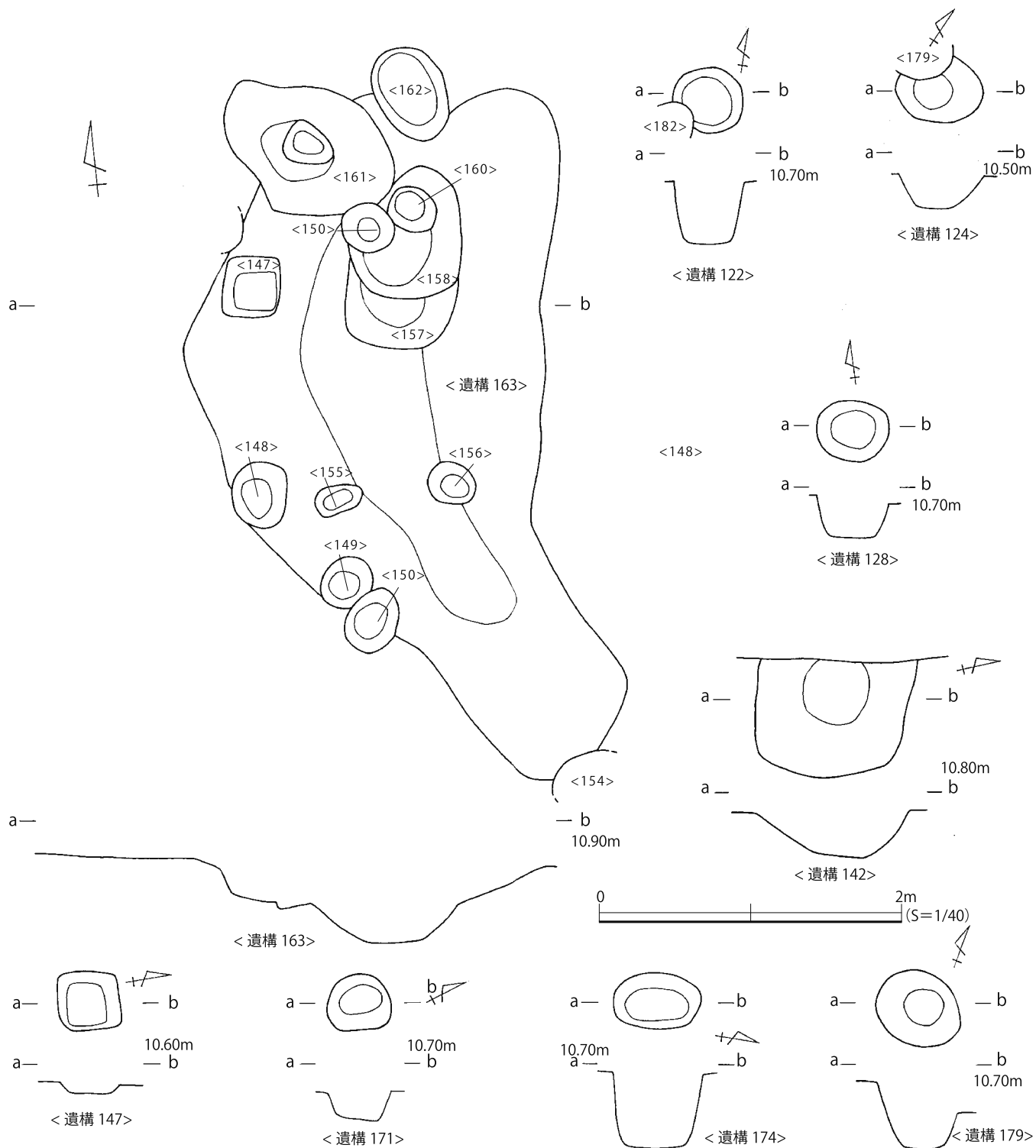


図 12 第 3 面個別遺構図 (1)

**遺構 142(図 12)**

調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

**遺構 147(図 12)**

方形を呈するピットである。遺構 163 を切る。遺構覆土は暗褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

**遺構 163(図 12)**

土坑である。当初は大型の円形を呈する土坑と考え検出したが、地業の一環であったと考えている。覆土は泥岩塊・泥岩・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。遺構 163 の上層でも、同位置で大きな土坑状の落ち込み

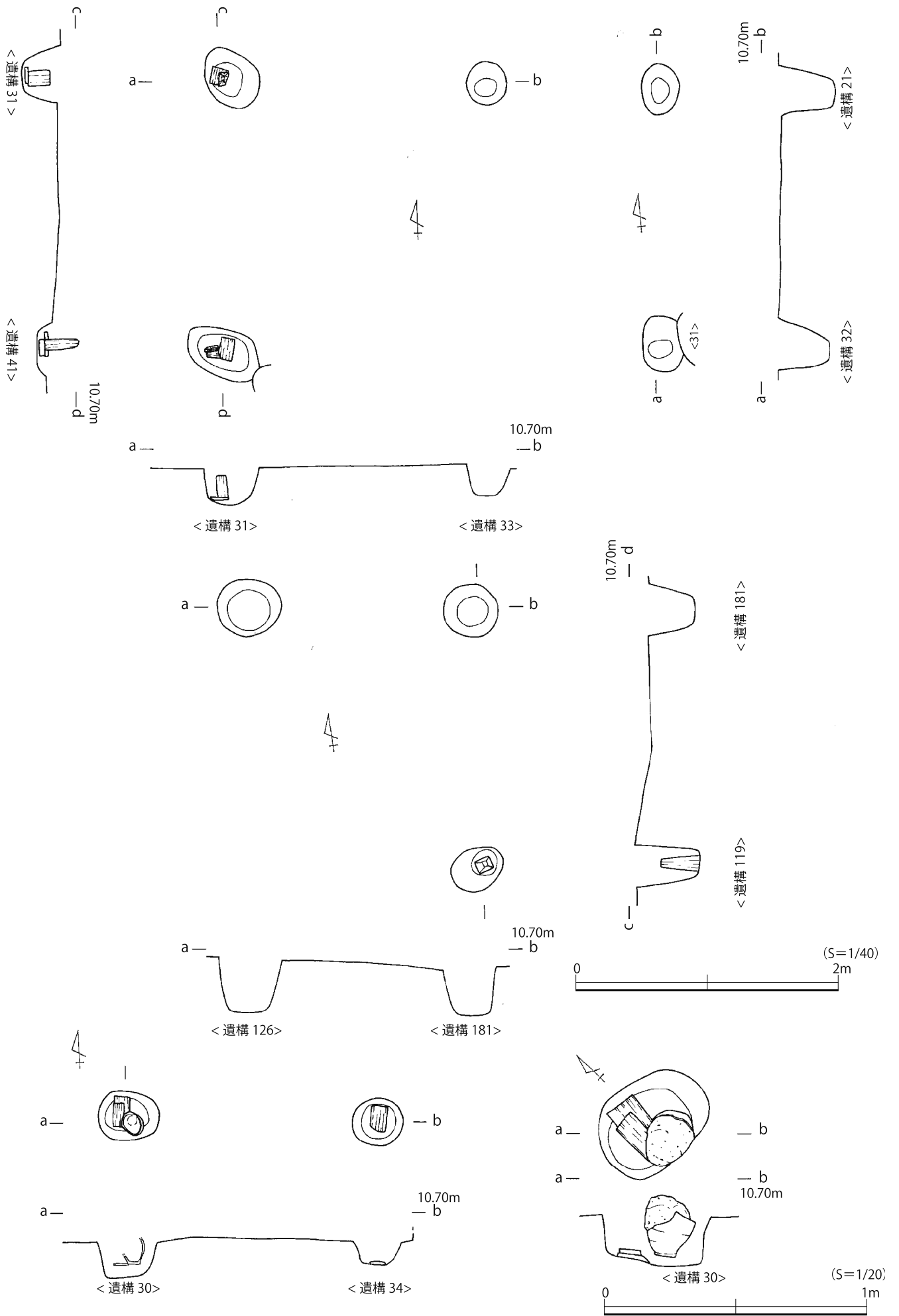


图 13 第 3 面個別遺構図 (2)

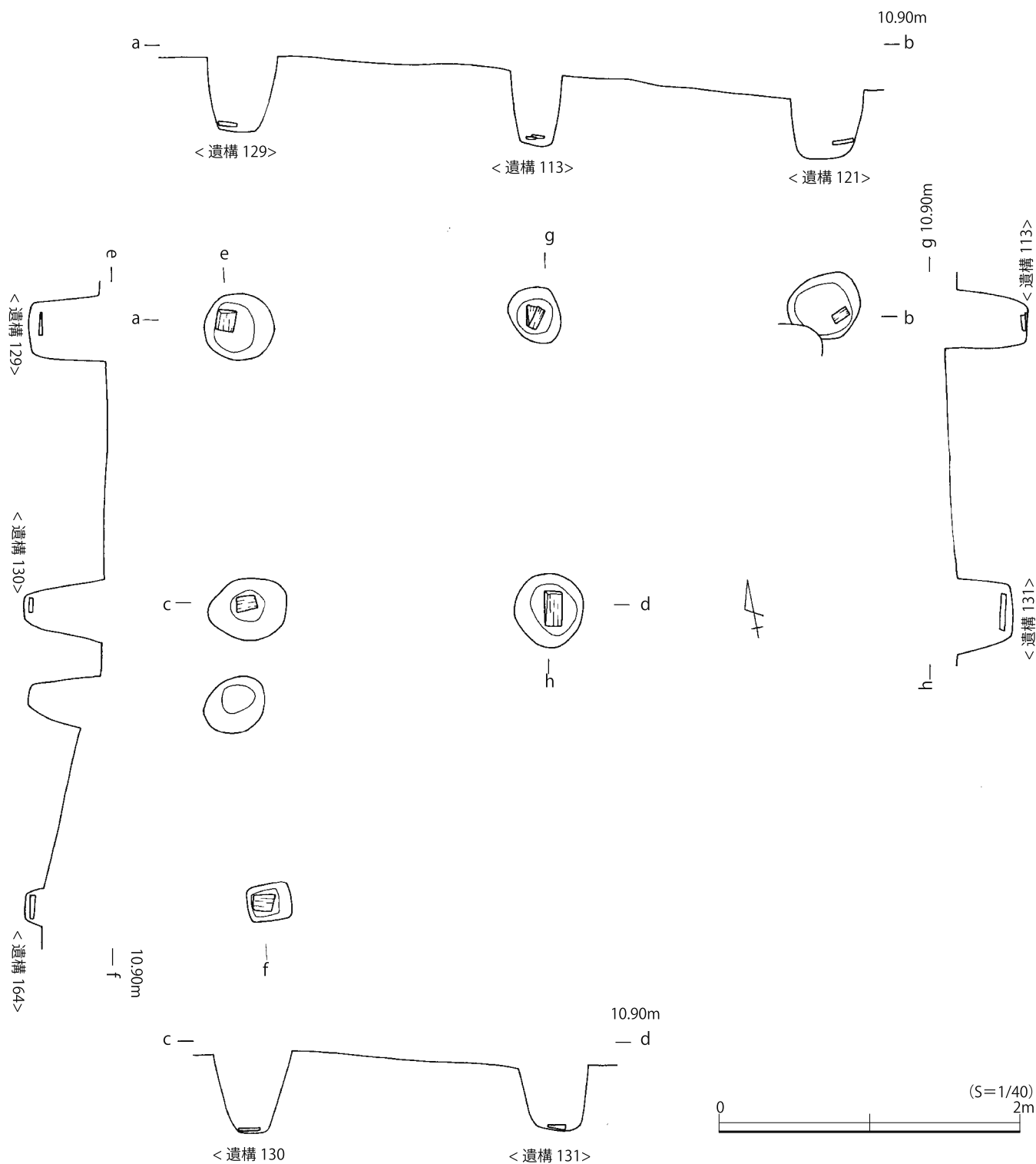


図14 第3面個別遺構図(3)

を発見している。遺物は出土していない。

**遺構 171(図12)**

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩塊を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

**遺構 174(図12)**

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

**遺構 179(図12)**

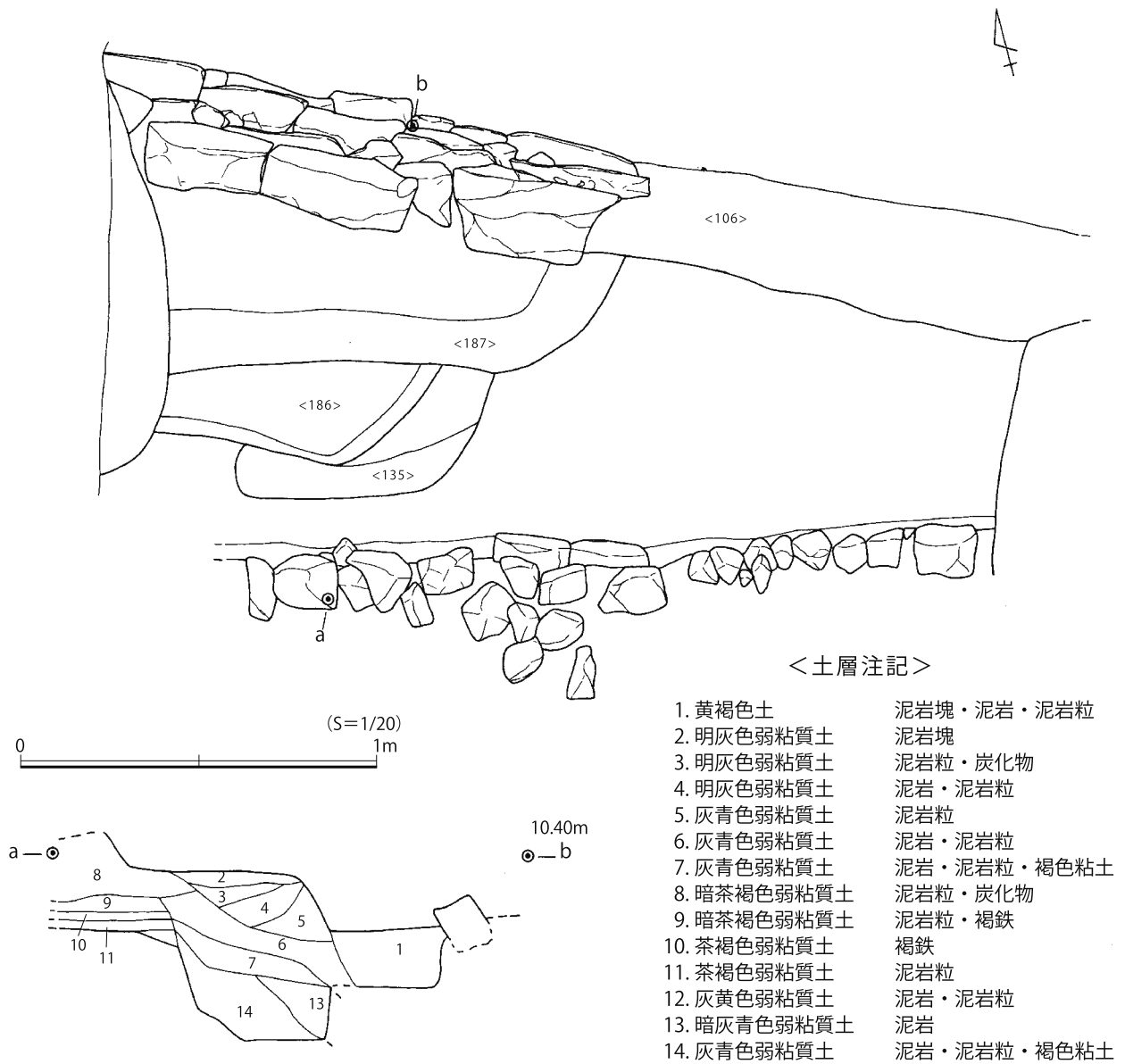


図 15 第 3 面個別遺構図 (4)

円形を呈するピットである。遺構 124 を切る。遺構覆土は泥岩を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

#### 柱穴列<遺構 31・遺構 33・遺構 41>(図 13)

調査区南東側で発見した掘立柱建物の柱穴列である。検出した柱穴は、調査区外に遺構が延び 1 間×1 間である。柱間は芯芯で東西に 205 cm。南北に 210cm を測った。

遺構 31 は不正円形を呈する。覆土は泥岩・泥岩粒・褐鉄を含む茶褐色弱粘質土。遺構 33 は円形を呈する。覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。遺構 41 は楕円形を呈する。覆土は泥岩粒を含む黒褐色弱粘質土。遺構 31・遺構 41 は礎板の上に柱材が遺存していた。

#### ・出土遺物(図 16・図 17)

5~7 は遺構 31 出土。礎板である。その他に常滑甕が破片で出土している。8~11 は遺構 41 出土。8~10 は礎板。11 は柱材。その他に遺物は出土していない。遺構 33 は遺物が出土していない。

#### 柱穴列<遺構 21・遺構 32>(図 13)

調査区南側で発見した南北に延びる柱穴列である。柱間は芯芯で 200cm を測った。調査区外に遺構が延

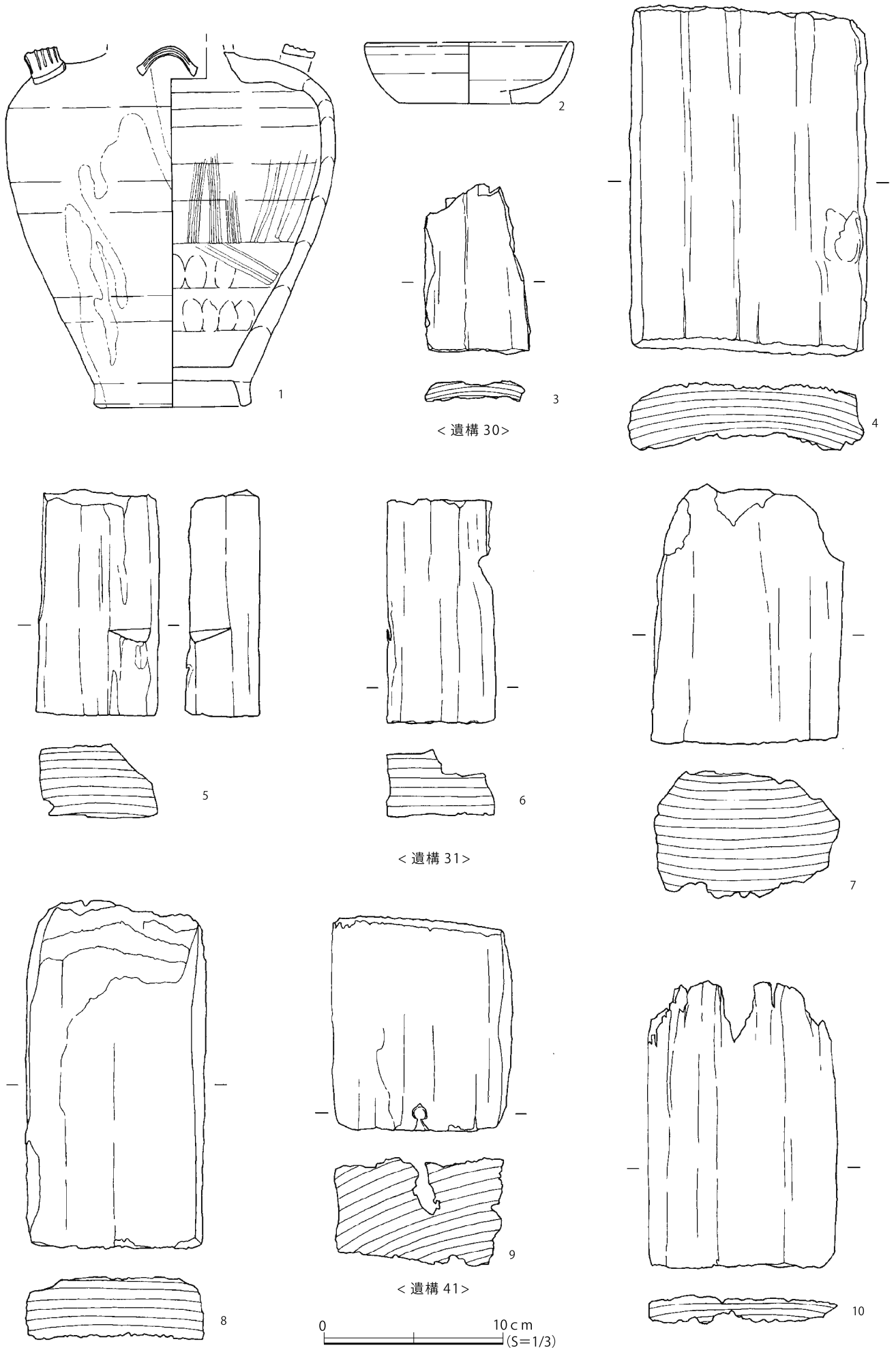


图 16 第 3 面遺構出土遺物 (1)

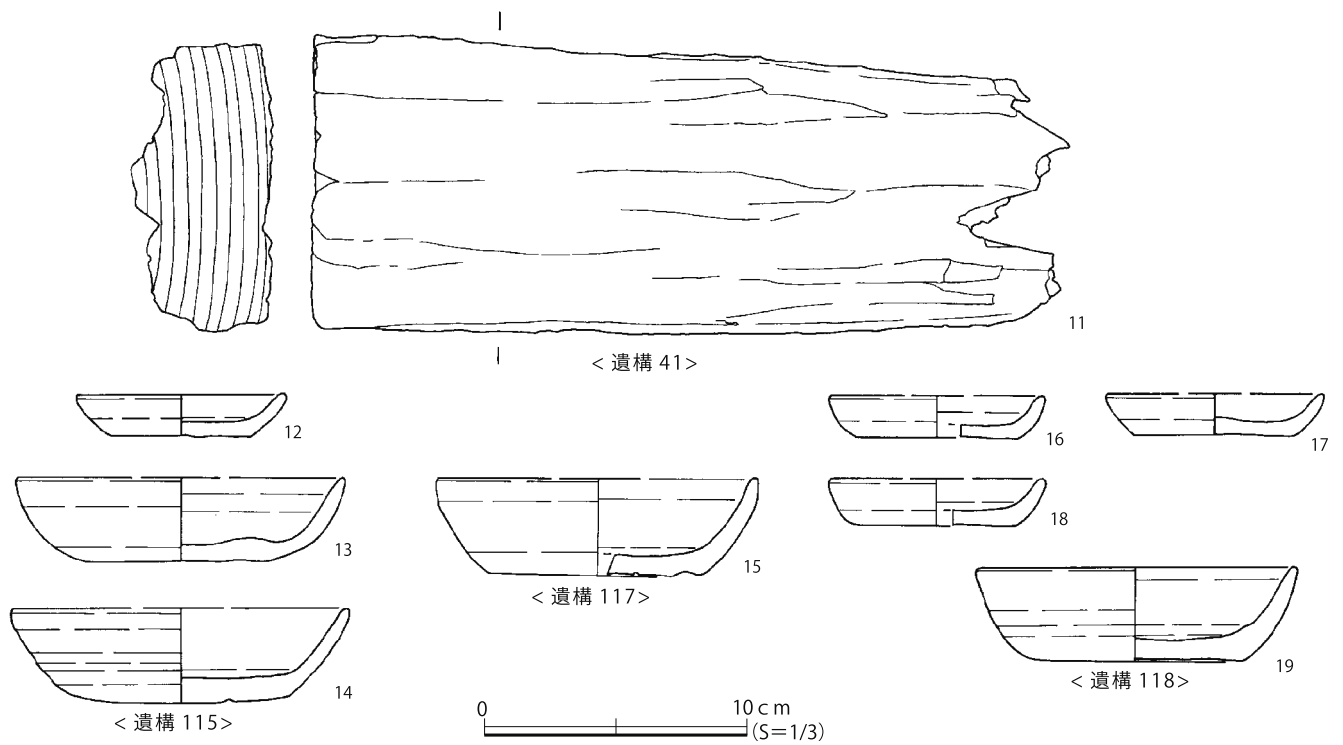


図 17 第 3 面遺構出土遺物 (2)

び、攪乱によって削平を受けている。遺構 21 は楕円形を呈する。覆土は泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土。遺物は木製品用途不明が破片で出土している。遺構 32 は楕円形を呈する。覆土は泥岩・泥岩粒・褐鉄を含む。遺物は出土していない。

#### 柱穴列〈遺構 119・遺構 126・遺構 181〉(図 13)

調査区北側で発見した柱穴列である。遺物は常滑甕が破片で出土している。それぞれの柱間は芯芯で 200cm を測る。遺構 119 は楕円形を呈する。覆土は泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。柱材が遺存していた。遺物はかわらけが破片で出土している。遺構 126 は円形を呈する。覆土は泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物はない。遺構 181 は円形を呈する。覆土は泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。出土遺物はない。

#### 柱穴列〈遺構 30・遺構 34〉(図 13)

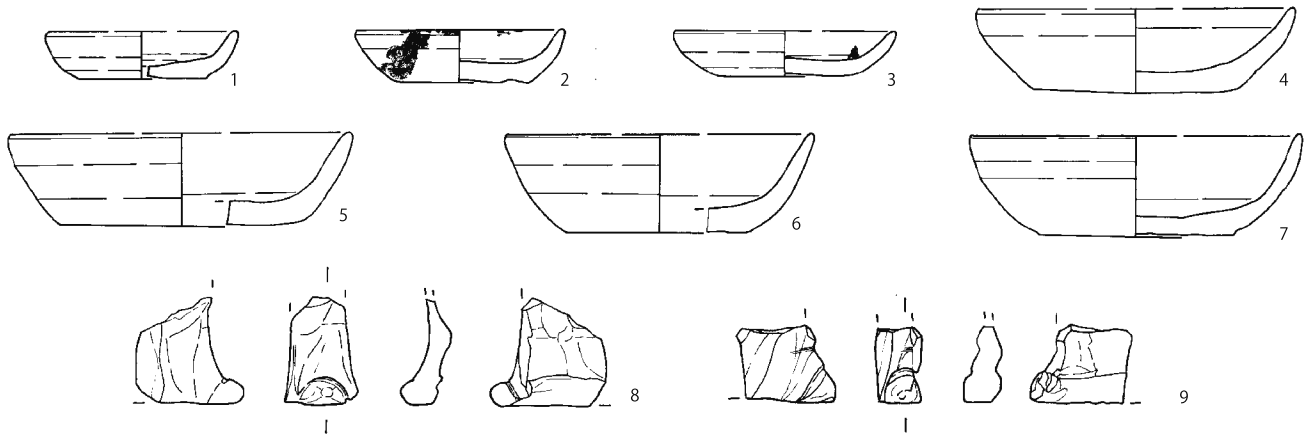
調査区南側で発見した柱穴列である。柱間は芯芯で 200cm を測る。遺構 30 は円形を呈する。遺構底面に礎板が遺存し、覆土内には四耳壺が埋納されていた。四耳壺内に人骨、あるいは襖等が埋納されている可能性も考えて堆積する覆土を採集し観察したが、特徴的な遺物・堆積物を発見することはできなかった。また四耳壺は肩から上の部分を欠いている。覆土は泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土。遺構 30 はやや拡大して埋納状況のわかる図面を別に掲載した。遺構 34 は円形を呈する。遺構底面に礎板が遺存する。覆土は泥岩粒・泥岩・褐鉄を含む茶褐色弱粘質土。

#### ・出土遺物(図 16)

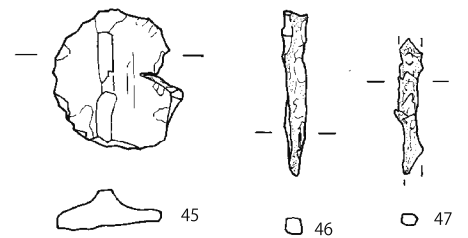
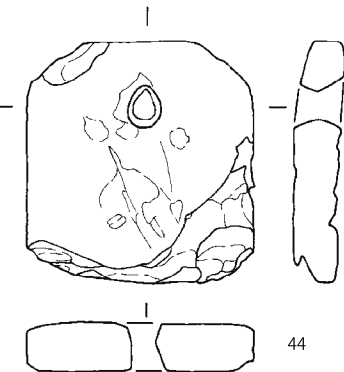
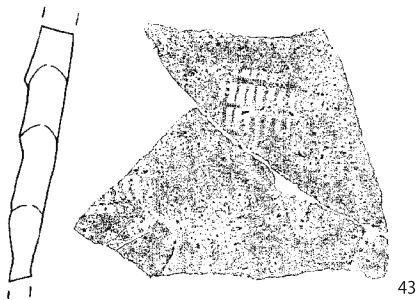
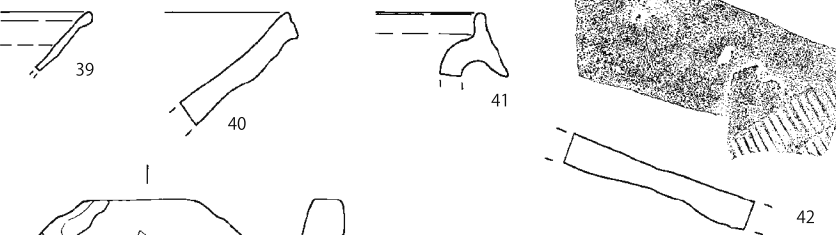
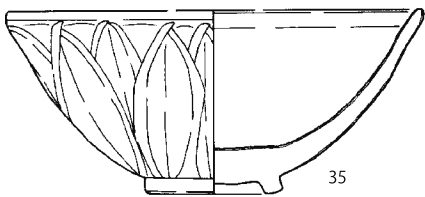
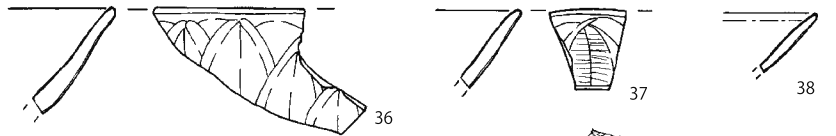
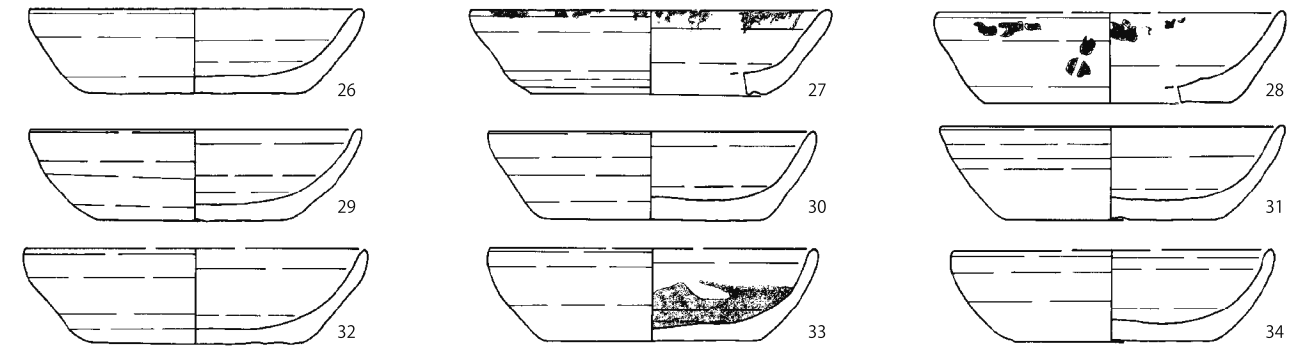
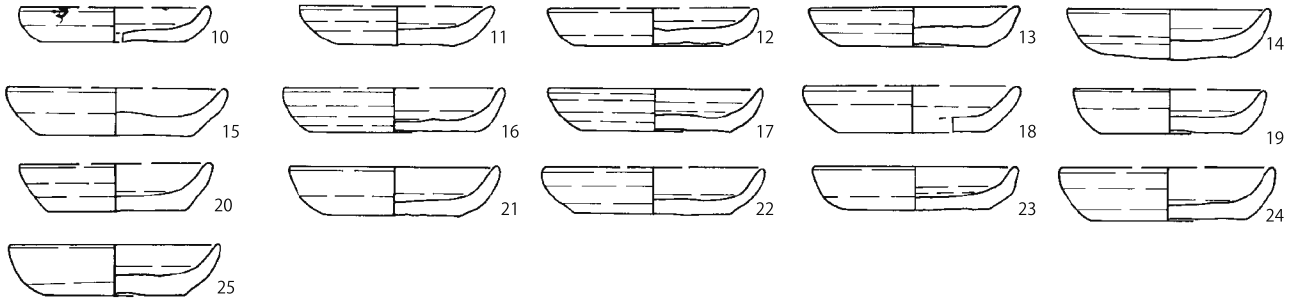
1～4 は遺構 30 出土遺物である。1 は瀬戸四耳壺。2 はかわらけ。3～4 は礎板。その他に遺物は出土していない。遺構 34 は遺物が出土していない。

#### 建物址〈遺構 113・遺構 121・遺構 129・遺構 130・遺構 131・遺構 164〉(図 14)

調査区北側で発見した掘立柱建物の柱穴列である。検出した柱穴は 2 間×2 間。柱間は芯芯で 200cm を測った。それぞれの柱穴には底面に礎板が遺存している。採集した礎板は接合を試みたが、それぞれ廃材を再活用したらしく接合する礎板はなかった。遺構 113 は不正円形を呈する。遺構底面に礎板が遺存する。遺構



<第3面構成土>



<第3面構成土>



图 18 第3面面上・構成土出土遺物

覆土は泥岩・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。遺構 121 は不正円形を呈する。遺構覆土は泥岩塊・泥岩を含む茶褐色弱粘質土。遺構 121 には礎板と柱材も遺存していた。泥岩塊は根固めのために使用している。遺物はかわらけが破片で出土している。遺構 129 は円形を呈する。遺構覆土は泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗褐色弱粘質土。遺物は出土していない。遺構 130 は楕円形を呈する。遺構覆土は泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗褐色弱粘質土。遺物は出土していない。遺構 131 は円形を呈する。覆土内に礎板と柱材が遺存していた。遺構覆土は泥岩・炭化物・黒色粘土を含む暗褐色弱粘質土。遺物は出土していない。遺構 164 は方形を呈する。覆土内に礎板が遺存していた。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

### 遺構 135(図 15)

土坑である。遺構 186・遺構 187 に切られ規模は不明である。遺構覆土は泥岩・泥岩粒を含む暗灰青色土。遺構プラン確認時には後述する遺構 186・遺構 187 とともに、上層で検出した遺構 106 の掘り方覆土、あるいは遺構 106 以前の溝覆土の可能性も考えて調査を進めたが、遺構の東端が調査区内で完結しており、大型の土坑であったと思われる。遺物はかわらけが破片で出土している。

### 遺構 186(図 15)

土坑である。遺構 187 に切られ、遺構 135 を切る。前述したように、当初は上層遺構 106 の掘り方の可能性を考えて掘り進めたが、遺構の東端が調査区内で完結しているため、土坑であったと考えている。遺物は出土していない。

### 遺構 187(図 15)

土坑である。遺構 186 を切る。遺構覆土は大・中・小の泥岩で構成される黄褐色土。遺構 135・遺構 186・遺構 187 は遺構の東を現代の攪乱によって削平を受けており、調査時の図面は土坑として報告しているが、第 1 面で発見した溝(遺構 106)同様に東西に延びる溝であった可能性を考えている。遺物は出土していない。

## 第 3 面面上出土遺物(図 18)

第 3 面遺構精査時に出土した遺物である。1～7 はかわらけ。8～9 は土製品人形。その他に青磁碗・白磁口元皿・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・漆器皿・獣骨が破片で出土している。

## 第 3 面構成土出土遺物(図 18)

第 3 面遺構検出後、下層の堆積・遺構を確認するために任意で設けたトレンチから出土した遺物である。10～34 はかわらけ。35 は青磁蓮弁文碗。36～37 は青磁鎬蓮弁文碗。38 は白磁口元碗。39 は山茶碗。40 は常滑片口鉢Ⅱ類。41～43 は常滑甕。44 は石製品温石。45 は金属製品用途不明。46～47 は金属製品釘。その他に出土遺物はない。

## 表土採集遺物(図 19)

調査区内、表土及び現代埋土から出土した遺物である。1～2 はかわらけ。3 は常滑甕。4 は常滑片口鉢Ⅱ類。5 は金属製品釘。

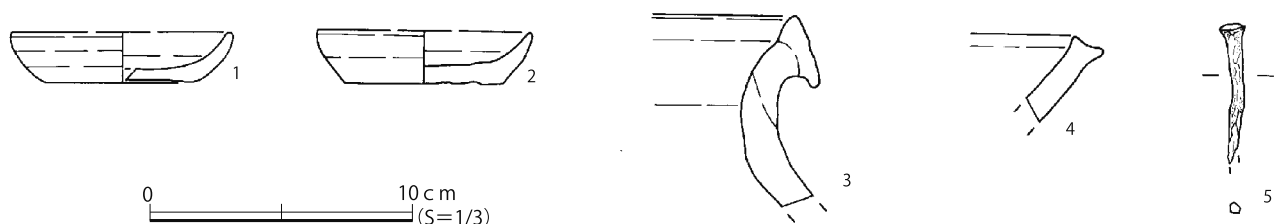


図 19 表土採集遺物



## 第三章 まとめ

本調査地が所在する「桑ヶ谷」は、極楽寺を開山した忍性が弘安十年(1287)に癩病患者を中心とする療病所を建てた谷戸として知られており、本調査では遺跡名の由来ともなる「桑ヶ谷療病院跡」の所在を立証する成果が期待された。谷戸の開口部前には観光地としても有名な高德院大仏殿前を通り、鎌倉七口の一つ「大仏坂の切通し」下を抜ける隧道を通る県道藤沢鎌倉線が南北に走る。観光客で溢れ喧騒とした県道を西に入る調査地一帯は閑静な住宅街が広がっている。

### 第1節 発見した遺構と遺物

第1面地業層は現代の攪乱によって大きく削平を受けており発見した遺構は少ない。また、第1面遺構を検出した地業は多くの泥岩を用いていたが、その大半は細かく砕いた破碎泥岩ではなく、大型の泥岩塊であった。第1面で発見した主たる遺構は、調査区北側で発見した護岸に石垣を用いた東西に延びる溝(遺構 106)である。調査区外に遺構が延び、さらに遺構の大半を現代の攪乱によって壊されていたために、石垣は一部しか検出できなかった。溝覆土からは中世の遺物とともに近世の染付などの遺物も出土しているが、遺構の大半を攪乱によって失い遺物の採集が混乱してしまったこともあり、溝の存続時期を推定することは難しい。1点のみの出土ではあるが、溝の堀方から出土した常滑片口鉢Ⅱ類の年代観から、溝の構築年代は14世紀中頃～15世紀初頭ではないかと考えているが、第1面構成土に15世紀代の遺物が混入していたため、第1面は15世紀代の年代を与えた。

第2面も泥岩を多く含む地業層で遺構を検出したが、第2面地業土に混入する泥岩は細かく砕いた破碎泥岩が主となる。第2面では不整形な泥岩による土留めの石列が南北に並び、石列を境に東西でひな壇状の造成をしている様子を確認した。また、その石列は北側で東西に延びる高低差約30cmの段差によって切られていた。北側の高低差では土留めの石列を伴っていない。この東西に延びる段状遺構は、南北に延びる段状遺構よりも新しい遺構である。第2面は面上・遺構出土遺物がほとんどなく、出土遺物から年代を与えることが困難であった。

第3面は破碎泥岩による平坦な地業層で多くの遺構を発見した。柱材・礎板等が遺存するピットを多く発見し、調査時及び整理作業時に建物址の復元を試みている。柱穴間の芯芯の距離は200cmを主とし、200cmから210cmを測った。調査区の北側では不整形な泥岩による土留めの石列が東西に延び、南北で約30cmの高低差を持つ造成が形成されている。この造成は上層の第2面でもほぼ同位置に構築されている。段差の北側、第1面で発見した溝(遺構 106)堀方との間に切り合う土坑を3基発見している。土坑は西が調査区外に延び、東を現代の攪乱によって削平されていたために図面上は土坑として報告しているが、遺構 106以前の溝として東西に延びる可能性を考えている。第3面は構成土から14世紀中頃～15世紀に比定される常滑片口鉢Ⅱ類が出土しており、14世紀後半の年代を与えたい。

第3面検出後に調査区南端でトレンチを掘り下層の堆積を確認したところ、調査区西側で表土から130cm、東側で表土から250cm下で地山と考える黒色粘土の層が西から東に下がる様子を確認し、粘土層上層の堆積土からは黒色粘土と青灰色砂、茶褐色弱粘質土がブロック状に混入しており、津波、あるいは洪水によって堆積土が混乱したのではないかと指摘を受けた。全ての生活面は、泥岩塊・破碎泥岩を多く混入する固く締まった地業上で発見している。

## 第2節 まとめ

鎌倉市街地は北・東西の三方を低い丘陵に囲まれ、南は相模湾に面して開いている。防御には適した地形であるが、居住に適した平坦な土地が狭いため周囲の丘陵裾部を削り、切り拓き、丘陵を削った際に出る大小の泥岩・凝灰岩を使い低地を埋め、平坦地を造るという鎌倉の特色ともいえる造成を繰り返している。また、丘陵の間には小谷が入り組み複雑な地形もつ「谷戸」が広がり、低地のみならず谷戸の開発・造成も盛んに行われてきた。

本調査地点と道路を挟んだ北側の地点2の調査成果では、13世紀前半～16世紀頃までの痕跡と斜面地に平場を作るために大量の泥岩を用いて数段の雛壇造成を行い、土留めのための石垣状の構築物を築いていた事がわかっている。また、東に隣接する地点14・15の調査成果では13世紀後半か～14世紀前半にかけての痕跡と土留めのための石垣状の構築物とひな壇状の造成が同様に発見されており、調査地の位置する「桑ヶ谷」の谷戸全体で、開口部に向かって傾斜している土地に石垣による土留めを組み、平場を幾段にもわたって造成していたと想像できる。本調査地で発見した3枚の生活面上でも、近隣の調査成果と同様に泥岩による地業と、土留めのための石垣状の構築物とひな壇状の造成を確認した。泥岩は軟質なため、ほとんど削り出したままで利用され加工・整形されることはまれで、通常はある程度細かく砕いて利用される。本文でも触れているが本調査地で検出した地業、あるいは石垣・土留めには削り出したままの様な大きい泥岩塊を利用している。本調査では第1面から第2面までは主に地業層の検出にとどまり、遺跡の性格を考える遺構の発見は出来なかったが、第3面は様相が変わり、建物址の存在を窺わせる礎板あるいは柱材が遺存するピットを多く検出している。

調査全体で出土遺物の量が少ないため年代を比定することが難しく、漠然とした年代観しか示すことが出来なかったが、14世紀後半から15世紀にかけての遺構の変遷を確認した。調査地辺は弘安十年(1287)に忍性によって療病所が開かれた谷と言われ、調査地で発見した造成遺構が無関係であるとは考えられないが、出土遺物等からは療病院が存在した時期にずれがある。また、近隣の調査成果では出土した遺物から中世以前の生活痕を示唆されているが、本調査では確認できなかった。

### <参考資料>

- ・『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』「桑ヶ谷療病院跡 長谷三丁目630番4・17地点」田代郁夫・木村美代治 1990年
- ・『桑ヶ谷療病院跡発掘調査報告書』「長谷三丁目592番他1筆」(株)斎藤建設 降矢順子 2017年3月
- ・『日本歴史大系14巻』「神奈川県地名」平凡社 1984年
- ・『鎌倉市史 総説編』高柳光寿 吉川弘文館 1959年
- ・『鎌倉市史 考古編』赤星直忠 吉川弘文館 1967年
- ・『鎌倉市史 社寺編』高柳光寿・佐藤栄智・川副竹胤・貫達人 吉川弘文館 1972年
- ・『鎌倉事典』東京堂出版 平成4年 白井永二
- ・『廃寺事典』有隣堂 貫達人・川副竹胤 1980年
- ・『中世瀬戸窯の研究』高志書院 藤澤良祐 2008年
- ・『愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系』愛知県 常滑・中野晴久 2012年
- ・『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』太宰府市教育委員会 2000年
- ・『考古論叢 神奈川第2集』「中世火鉢考」神奈川県考古学会 河野真知郎 1993年

遺構計測表

遺構No.	面	長軸	短軸	深さ	遺構No.	面	長軸	短軸	深さ
1	1	32	32	34	39	3	57	(35)	18
2	1	29	29	5	40	3	60	38	15
3	1	21	20	10	41	3	53	38	12
4	1	45	38	10	42	3	67	45	38
5	1	117	67	20	43	3	25	24	15
6	1	46	37	23	44	3	26	24	13
7	1	56	38	25	45	3	47	35	17
8	1	104	44	24	46	3	35	24	19
9	1	29	27	20	47	3	23	(21)	3
10	1	37	(18)	9	48	3	28	27	6
11	1	24	23	16	50	3	59	31	14
101	1	47	(26)	12	51	3	(47)	40	13
102	1	(75)	(71)	19	52	3	22	17	32
103	1	93	68	9	53	3	21	18	21
104	1	90	78	17	54	3	(37)	(23)	6
105	1	91	75	11	55	3	(25)	(14)	30
106	1	(608)	(137)	160	56	3	(42)	(27)	39
107	1	(33)	29	26	58	3	18	18	26
108	1	42	32	24	59	3	22	17	14
109	1	39	39	40	113	3	40	33	46
13	2	252	70	12	114	3	58	30	18
14	2	35	30	46	115	3	38	(30)	48
15	2	26	22	10	116	3	21	18	34
16	2	35	35	25	117	3	31	30	58
17	2	41	38	29	118	3	49	46	18
18	2	36	28	45	119	3	41	33	48
19	2	17	15	54	120	3	50	37	39
24	2	27	24	33	121	3	(44)	44	43
49	2	(35)	27	7	122	3	43	(37)	43
60	2	22	18	11	123	3	50	42	40
62	2	36	34	28	124	3	53	(33)	22
110	2	38	38	12	125	3	47	45	47
111	2	60	52	39	126	3	49	42	41
112	2	66	63	4	127	3	(54)	36	46
133	2	48	44	79	128	3	48	38	25
134	2	37	36	34	129	3	45	45	52
204	2	15	14	9	130	3	52	43	53
205	2	25	24	12	131	3	52	46	38
206	2	25	22	15	132	3	46	43	24
207	2	(29)	28	13	135	3	130	(18)	41
209	2	11	11	17	142	3	100	(77)	25
20	3	34	29	11	143	3	28	28	11
21	3	39	29	40	144	3	31	27	21
22	3	23	20	8	145	3	42	39	23
23	3	27	(24)	7	146	3	40	(19)	24
25	3	35	33	30	147	3	40	37	18
26	3	35	29	8	148	3	44	36	32
28	3	27	26	24	149	3	36	(29)	12
29	3	(37)	(32)	38	150	3	45	34	10
30	3	47	38	28	151	3	29	19	14
31	3	52	37	29	152	3	(53)	46	6
32	3	42	(26)	39	153	3	42	40	16
33	3	31	29	23	154	3	59	50	35
34	3	38	36	18	155	3	31	19	13
35	3	31	27	14	156	3	33	27	35
36	3	18	18	9	157	3	71	(33)	23
37	3	21	17	6	158	3	88	74	34
38	3	32	32	10	159	3	36	32	32

単位 (cm)

遺構計測表

遺構No.	面	長軸	短軸	深さ	遺構No.	面	長軸	短軸	深さ
160	3	32	29	42	176	3	49	(37)	15
161	3	122	88	44	177	3	37	(32)	19
162	3	65	45	39	178	3	46	40	23
163	3	450	236	45	179	3	57	48	42
164	3	28	25	18	180	3	48	32	20
165	3	43	43	40	181	3	42	32	41
166	3	40	35	35	182	3	41	41	35
167	3	42	38	48	183	3	(61)	(57)	12
168	3	43	(28)	43	184	3	42	33	37
169	3	63	62	10	186	3	(100)	(52)	(85)
170	3	57	35	28	187	3	(250)	(70)	(80)
171	3	42	36	15	200	3	35	27	15
172	3	48	42	35	201	3	22	22	16
173	3	36	(23)	59	202	3	39	22	37
174	3	58	37	51	203	3	33	(13)	22
175	3	51	50	14					

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
7	1	1面 遺構1	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.8	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:口唇部一部打ち掻き痕・内面一部黒色に変色
7	2	1面 遺構2	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
7	3	1面 遺構8	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.8	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
7	4	1面 遺構104	かわらけ	(7.0)	(5.0)	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/4
7	5	1面 遺構104	かわらけ	(8.2)	(6.4)	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/5
7	6	1面 遺構104	かわらけ	7.6	5.4	1.7	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:完形
7	7	1面 遺構104	かわらけ	7.6	6.0	1.8	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:完形
7	8	1面 遺構104	かわらけ	(8.6)	(6.8)	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/2
7	9	1面 遺構104	かわらけ	7.8	6.0	1.5	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:完形
7	10	1面 遺構104	かわらけ	(13.4)	(9.2)	3.2	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/3
7	11	1面 遺構104	かわらけ	(12.8)	7.4	4.1	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:4/5
7	12	1面 遺構104	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒多・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6b型式
7	13	1面 遺構105	かわらけ	6.8	5.0	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:ほぼ完形
8	1	1面 遺構106 石垣裏込	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒・小石粒 良土 c:暗褐色 d:明茶褐色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:8形式
9	1	1面 面上	かわらけ	(7.6)	(6.0)	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/2
9	2	1面 面上	土器質 火鉢	—	—	—	b:微砂・黒色粒・白色粒 c:灰色 d:炭素吸着し黒色 e:良好 f:口縁部片 g:Ic類
9	3	1面 構成土	かわらけ	(3.8)	(3.4)	0.6	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒 やや良土 c:赤褐色 e:良好 f:1/4 g:極少の器形 口唇部内折れ
9	4	1面 構成土	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.4	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4 g:口唇部油煤痕
9	5	1面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.2)	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 内面黒色に変色
9	6	1面 構成土	かわらけ	(8.4)	(6.2)	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
9	7	1面 構成土	かわらけ	7.6	5.4	1.6	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形
9	8	1面 構成土	かわらけ	7.6	5.4	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
9	9	1面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.0)	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:口唇部油煤痕
9	10	1面 構成土	かわらけ	(7.6)	5.6	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4 g:口唇部油煤痕
9	11	1面 構成土	かわらけ	7.6	4.6	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部油煤痕
9	12	1面 構成土	かわらけ	7.4	5.8	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
9	13	1面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.8	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:淡褐色 e:良好 f:1/3
9	14	1面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.8	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:淡褐色 e:良好 f:3/4
9	15	1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
9	16	1面 構成土	かわらけ	8.4	6.4	1.7	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:口唇部油煤痕
9	17	1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.7	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 内底ナデ b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
9	18	1面 構成土	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/5
9	19	1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.4)	1.5	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
9	20	1面 構成土	かわらけ	(6.8)	(5.2)	1.5	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
9	21	1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.8)	1.5	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
9	22	1面 構成土	かわらけ	(6.8)	(5.4)	1.6	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
9	23	1面 構成土	かわらけ	7.6	5.8	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
9	24	1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.8	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/4
9	25	1面 構成土	かわらけ	(12.6)	(8.6)	3.0	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:内面黒色に変色
9	26	1面 構成土	かわらけ	(14.0)	(8.4)	3.0	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3 g:内外面黒色に変色
9	27	1面 構成土	かわらけ	(12.2)	(7.8)	3.1	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c:赤褐色 e:良好 f:1/4
9	28	1面 構成土	かわらけ	12.2	7.2	3.2	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
9	29	1面 構成土	かわらけ	12.1	7.6	3.3	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:内外面黒色に変色

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
9	30	1面 構成土	かわらけ	12.2	6.4	3.4	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:3/4 g:外面黒色に変色
9	31	1面 構成土	かわらけ	(11.0)	6.8	2.8	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
9	32	1面 構成土	かわらけ	(12.2)	(8.0)	3.2	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
9	33	1面 構成土	かわらけ	(12.0)	(8.0)	3.4	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/4
9	34	1面 構成土	かわらけ	(12.0)	7.6	3.2	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4 g:口唇部一部黒色に変色
9	35	1面 構成土	かわらけ	(12.6)	(7.0)	3.6	a:クワロ・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3 g:内面摩耗
9	36	1面 構成土	かわらけ	12.2	8.0	3.4	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5
9	37	1面 構成土	かわらけ	(12.2)	(6.4)	3.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
9	38	1面 構成土	かわらけ	(12.6)	(7.4)	3.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/3
9	39	1面 構成土	青磁 折縁深皿	—	—	—	a:クワロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰緑色 f:口縁部片 g:内外面無文 g:竜泉窯 Ⅲ類
9	40	1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒多・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a形式
9	41	1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	(13.6)	—	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:底部片 g:高台貼り付け 内面摩耗
9	42	1面 構成土	常滑片口鉢 加工品	(9.5)	(8.7)	1.3	a:輪積み b:砂粒・白色粒多・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:型式不明 体部意図的に磨っている 用途不明 内面摩耗 片口鉢
9	43	1面 構成土	常滑 壺	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒多・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:7形式
9	44	1面 構成土	常滑 壺	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒・小石粒 やや粗土 c:暗褐色 e:良好・硬質 f:底部片
9	45	1面 構成土	金属製品 釘	(4.2)	(0.5)	0.5	g:断面方形 鍛造
10	1	2面 遺構112	かわらけ	(8.4)	(5.0)	2.1	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/2
10	2	2面 遺構112	かわらけ	7.8	5.8	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:完形
11	1	2面 構成土	かわらけ	4.6	3.2	1.3	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c:赤橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:極少の器形 口唇部内折れ
11	2	2面 構成土	かわらけ	(7.6)	(6.2)	1.4	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
11	3	2面 構成土	かわらけ	(7.2)	(6.0)	1.4	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
11	4	2面 構成土	かわらけ	(7.6)	(6.0)	1.7	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/2
11	5	2面 構成土	かわらけ	(8.2)	(5.4)	1.7	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4 g:口唇部厚く油煤痕
11	6	2面 構成土	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.5	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/5
11	7	2面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.8)	1.6	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
11	8	2面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.4)	1.8	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤橙色 e:良好 f:1/4
11	9	2面 構成土	かわらけ	7.6	5.6	2.1	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:4/5
11	10	2面 構成土	かわらけ	(12.0)	(6.8)	2.6	a:クワロ・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
11	11	2面 構成土	かわらけ	11.8	7.9	3.3	a:クワロ・回転系切り・板状圧痕 内底ナデ b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:完形 g:口唇部黒色に変色
11	12	2面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6b形式
11	13	2面 構成土	金属製品 釘	(5.6)	(1.0)	(0.9)	g:断面方形 鍛造
16	1	3面 遺構30	瀬戸 四耳壺	—	8.8	—	a:輪積み b:微砂 良土 c:灰色 d:灰緑色 e:良好・軟質 f:胴部～底部 g:高台貼り付け 肩部に四耳・2か所遺存
16	2	3面 遺構30	かわらけ	(11.4)	(7.8)	3.4	a:クワロ・回転系切り不明瞭・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
16	3	3面 遺構30	木製品 礎板	(9.4)	(5.8)	1.1	
16	4	3面 遺構30	木製品 礎板	19.2	13.1	3.6	
16	5	3面 遺構31	木製品 礎板	12.4	6.8	4.1	
16	6	3面 遺構31	木製品 礎板	12.3	6.0	3.6	
16	7	3面 遺構31	木製品 柱	(14.3)	10.7	7.0	
16	8	3面 遺構41	木製品 礎板	19.1	10.0	3.5	
16	9	3面 遺構41	木製品 礎板	11.8	10.0	5.9	
16	10	3面 遺構41	木製品 礎板	15.8	10.4	1.5	
17	11	3面 遺構41	木製品 柱	(28.4)	11.1	5.5	

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
17	12	3面 遺構115	かわらけ	7.8	5.2	1.6	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや良土 c:灰黄色 e:良好 f:3/4
17	13	3面 遺構115	かわらけ	(12.4)	7.0	3.2	a:クロク・回転系切り・内底ナデ b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
17	14	3面 遺構115	かわらけ	(12.6)	(8.2)	3.6	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
17	15	3面 遺構117	かわらけ	(12.0)	(8.2)	3.7	a:クロク・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
17	16	3面 遺構118	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a:クロク・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
17	17	3面 遺構118	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4
17	18	3面 遺構118	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.8	a:クロク・回転系切り不明瞭・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
17	19	3面 遺構118	かわらけ	12.0	8.0	3.6	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形
18	1	3面 面上	かわらけ	(7.0)	(4.8)	1.8	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/3
18	2	3面 面上	かわらけ	7.8	5.0	2.0	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:完形 g:内外面・口唇部油煤痕
18	3	3面 面上	かわらけ	(8.2)	(5.0)	1.7	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 内底油煤痕
18	4	3面 面上	かわらけ	(11.8)	(7.8)	3.2	a:クロク・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/3
18	5	3面 面上	かわらけ	(12.6)	(9.2)	3.5	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
18	6	3面 面上	かわらけ	(11.4)	(7.0)	3.7	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
18	7	3面 面上	かわらけ	(12.4)	(7.4)	3.8	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
18	8	3面 面上	土製品 人形	(4.0)	(2.5)	(4.2)	a:形押し b:硬質 精良 e:良好 g:右脚部分 衣が足先までかぶる 18-8と18-9は両方とも右足部分が遺存しており、二体の人形であった。表面に採色の痕は残っていない。
18	9	3面 面上	土製品 人形	(2.9)	(1.3)	(3.5)	a:形押し b:硬質 精良 e:良好 g:右脚部分 衣が足先までかぶる
18	10	3面 構成土	かわらけ	(7.0)	(5.4)	1.3	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:1/3
18	11	3面 構成土	かわらけ	(7.2)	(4.4)	1.5	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
18	12	3面 構成土	かわらけ	(7.8)	6.0	1.4	a:クロク・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:4/5
18	13	3面 構成土	かわらけ	7.8	5.6	1.5	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形 内面に鉄分付着
18	14	3面 構成土	かわらけ	7.6	5.2	1.7	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
18	15	3面 構成土	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.8	a:クロク・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4
18	16	3面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.4)	1.7	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:2/3
18	17	3面 構成土	かわらけ	8.0	5.6	1.6	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:完形
18	18	3面 構成土	かわらけ	(8.0)	(5.6)	1.8	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4
18	19	3面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.7	a:クロク・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
18	20	3面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.8	a:クロク・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3 器壁摩耗
18	21	3面 構成土	かわらけ	7.8	5.2	1.9	a:クロク・回転系切り不明瞭・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:4/5
18	22	3面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.0)	1.8	a:クロク・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
18	23	3面 構成土	かわらけ	7.6	5.6	1.6	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形
18	24	3面 構成土	かわらけ	(8.0)	(5.8)	2.0	a:クロク・回転系切り b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
18	25	3面 構成土	かわらけ	7.8	5.4	1.9	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
18	26	3面 構成土	かわらけ	12.4	8.2	3.2	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
18	27	3面 構成土	かわらけ	(13.4)	(8.8)	3.2	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:1/4 g:口唇部油煤痕
18	28	3面 構成土	かわらけ	(13.0)	(9.2)	3.4	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:内外面鉄分付着
18	29	3面 構成土	かわらけ	12.4	7.6	3.5	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・小石粒・海綿骨芯 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:外面鉄分付着
18	30	3面 構成土	かわらけ	12.2	8.6	3.4	a:クロク・回転系切り不明瞭 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:3/4 g:器壁摩耗
18	31	3面 構成土	かわらけ	12.8	8.0	3.5	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
18	32	3面 構成土	かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.6	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:2/3
18	33	3面 構成土	かわらけ	(12.2)	(8.0)	3.5	a:クロク・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3 g:内面黒色に変色 外面油煤痕と鉄分付着
18	34	3面 構成土	かわらけ	(12.0)	7.5	3.4	a:クロク・回転系切り・板状圧痕。内底ナデ b:微砂・雲母・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c:黄灰色 e:良好 f:4/5
18	35	3面 構成土	青磁 蓮弁文碗	(15.6)	5.2	6.9	a:クロク b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰緑色 f:2/3 g:内面無文・内面見込みに草花文の印刻 外面蓮弁文(鏤不明瞭) 高台部露胎 竜泉窯 II類

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	枝番	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
18	36	3面 構成土	青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	—	a:口クロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰緑色 f:口縁部片 g:内面無文・外面鎗蓮 弁文 竜泉窯 III類
18	37	3面 構成土	青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	—	a:口クロ b:精良堅緻 c:灰白色 d:灰緑色 f:口縁部片 g:内面無文・外面鎗蓮 弁文 竜泉窯 III類
18	38	3面 構成土	白磁 口兀碗	—	—	—	b:精良堅緻 c:灰白色 d:透明 f:口縁部片 g:内外面無文 IX類 口唇部口兀 口唇部油煤痕
18	39	3面 構成土	山茶碗	—	—	—	a:口クロ b:精良堅緻 c:明白色 d:灰色 e:良好 f:口縁部片 g:東濃型
18	40	3面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒多・小石粒 良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6b型式
18	41	3面 構成土	常滑 壺	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒・小石粒 良土 c:灰褐色 d:暗褐色 e:良好・硬質 f: 口縁部片 g:6a型式
18	42	3面 構成土	常滑 壺	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒 良土 c:灰色 d:暗褐色 e:良好・硬質 f:胴部片 g: 格子の叩き文
18	43	3面 構成土	常滑 壺	—	—	—	a:輪積み b:砂粒・白色粒 良土 c:灰色 d:灰緑色 e:良好・硬質 f:胴部片 g: 格子の叩き文
18	44	3面 構成土	石製品 温石	9.1	8.5	1.8	g:滑石製 滑石鍋胴部加工品 端部に孔があく
18	45	3面 構成土	金属製品 用途不明	5.2	4.9	1.5	g:ほぼ円形を呈する 中央に摘み状の突起あり 蓋か 遺存状態悪
18	46	3面 構成土	金属製品 釘	(6.2)	(0.9)	(0.8)	g:断面方形 鍛造
18	47	3面 構成土	金属製品 釘	(5.0)	(0.8)	(0.6)	g:断面方形 鍛造
19	1	表土	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.9	a:口クロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや粗 土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
19	2	表土	かわらけ	(8.0)	(6.0)	2.0	a:口クロ・回転系切り・板状圧痕 b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 c:黄褐色 やや 粗土 e:良好 f:1/2
19	3	表土	常滑 壺	—	—	—	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰色 d:暗褐色 e:良好 f:口縁部片 g:6 a形式
19	4	表土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰色 d:暗褐色 e:良好 f:口縁部片 g:9 形式
19	5	表土	金属製品 釘	(5.7)	(0.4)	(0.4)	g:断面方形 鍛造

単位 (cm)



市内遺跡発掘調査花粉等分析業務委託  
報告書

2012年5月

株式会社 パレオ・ラボ  
Paleo Labo Co.,Ltd

### 1. はじめに

珪藻は、10~500  $\mu$ mほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている (小杉, 1988 ; 安藤, 1990)。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても、わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などに生育する珪藻種 (陸生珪藻) が知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

桑ヶ谷療病院跡 (No. 294) は、鎌倉市長谷三丁目地内に所在する13世紀後半~14世紀代の遺跡である。調査では、ひな壇状の造成、大型泥岩敷きの地業等の遺構が検出されている。ここでは、堆積物の堆積環境を検討するために珪藻化石群集を調べた。

### 2. 試料と方法

試料は、南壁において採取された堆積物5試料である (表1)。

表1 珪藻分析を行った試料と特徴

分析No.	位置	層位	時期	堆積物の特徴
1	南壁	22層	13世紀後半 ~14世紀代	黒色 (2.5Y2/1) 土壌 (シルト質粘土)
2		47層		黒褐色 (2.5Y3/2) 粘土
3		50層		黒色 (2.5Y2/1) 粘土
4		51層		暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘土
5		52層		暗オリーブ色 (5Y4/3) 粘土質シルト (固結)

各試料について、以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

(1) 湿潤重量約1g程度を取り出し、秤量した後ビーカーに移して30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3) 残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作製したプレパラートを顕微鏡下600~1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。珪藻殻は、完形と非完形 (半分以上残っている殻) に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。また、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物1g当たりの殻数を計算した。

### 3. 珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉 (1988) および安藤 (1990) が設定した環境指標種群に基づい

た。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種 (W) として、海水～汽水種は不明種 (?) としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明 (?) として扱った。以下に、小杉 (1988) が設定した汽水～海水域における環境指標種群と安藤 (1990) が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

〔外洋指標種群 (A) 〕 : 塩分濃度が35‰以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。

〔内湾指標種群 (B) 〕 : 塩分濃度が26～35‰の内湾水中を浮遊生活する種群である。

〔海水藻場指標種群 (C1) 〕 : 塩分濃度が12～35‰の水域の海藻や海草 (アマモなど) に付着生活する種群である。

〔海水砂質干潟指標種群 (D1) 〕 : 塩分濃度が26～35‰の水域の砂底 (砂の表面や砂粒間) に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミニナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。

〔海水泥質干潟指標種群 (E1) 〕 : 塩分濃度が12～30‰の水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミニナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。

〔汽水藻場指標種群 (C2) 〕 : 塩分濃度が4～12‰の水域の海藻や海草に付着生活する種群である。

〔汽水砂質干潟指標種群 (D2) 〕 : 塩分濃度が5～26‰の水域の砂底 (砂の表面や砂粒間) に付着生活する種群である。

〔汽水泥質干潟指標種群 (E2) 〕 : 塩分濃度が2～12‰の水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。

〔上流性河川指標種群 (J) 〕 : 河川上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

〔中～下流性河川指標種群 (K) 〕 : 河川の中～下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

〔最下流性河川指標種群 (L) 〕 : 最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになるためである。

〔湖沼浮遊生指標種群 (M) 〕 : 水深が約1.5m以上で、岸では水生植物が見られるが、水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。

〔湖沼沼沢湿地指標種群 (N) 〕 : 湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群である。

〔沼沢湿地付着生指標種群 (O) 〕 : 水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地において、付着の状態でも優勢な出現が見られる種群である。

〔高層湿原指標種群 (P) 〕 : 尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

〔陸域指標種群 (Q) 〕 : 上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である (陸生珪藻と呼ばれている) 。

#### 4. 珪藻化石の特徴と堆積環境およびその変遷

5試料から検出された珪藻化石は、海水種が8分類群6属6種、淡水種が6分類群5属6種であった。これらの珪藻化石は、海水域において1環境指標種群 (B)、淡水域において2環境指標種群 (O、Q) に分類された (表2)。以下に、各地点の堆積物の珪藻化石群集の特徴と堆積環境について述べる。

分析No. 1 (22層) と分析No. 3 (50層) では、検出された珪藻化石は少ないものの、陸域指標種群 (Q) の *Hantzschia amphioxys* などが特徴的に出現した。

したがって、22層と50層の堆積時には、ジメジメとした湿った陸域環境であったと推定される。なお、分析No. 1は、イネ科植物の葉身に形成されるプラント・オパール化石が多産すること、堆積物が黒色土壌であることから、旧地表面であったと考えられる。

その他の分析No. 2 (47層)、No. 4 (51層)、No. 5 (52層) では、海水種珪藻化石は検出されるものの、淡水種珪藻化石はほとんど含まれていなかった。検出された海水種珪藻化石は基盤層に含まれる珪藻化石の再堆積と考えられる。47層、51層、52層の堆積当時は、珪藻が繁茂することができない乾いた環境あるいは堆積速度が速い環境であったと考えられる。

#### 5. おわりに

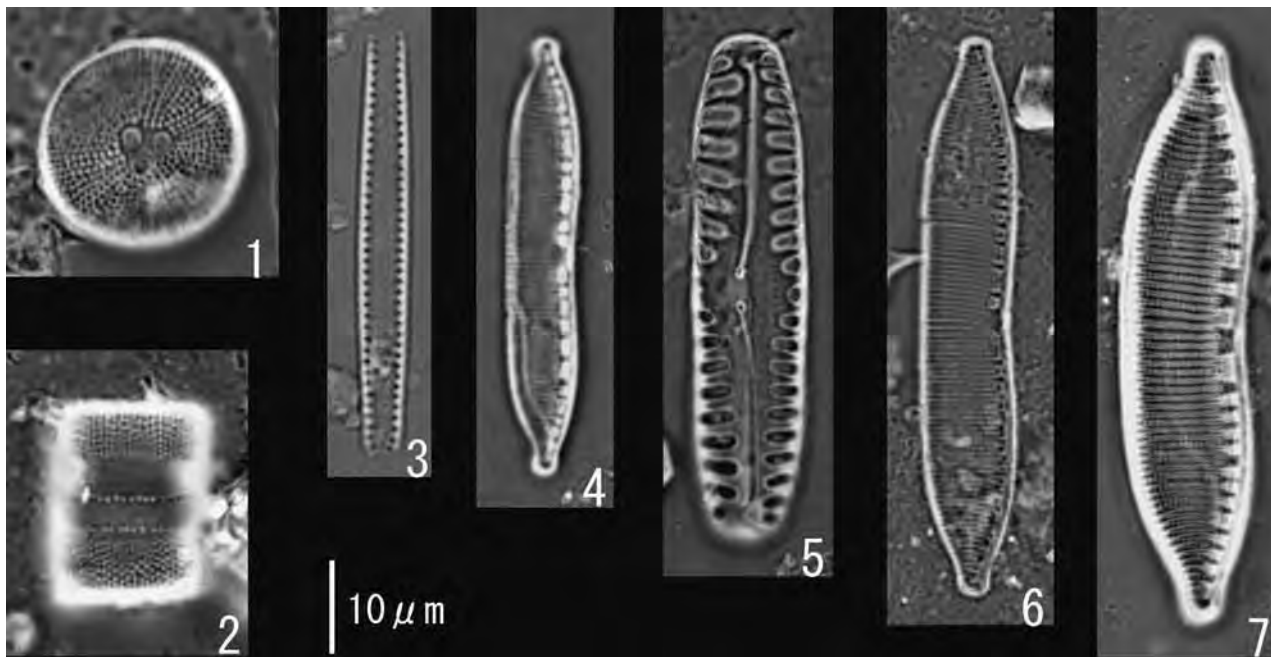
南壁において採取された堆積物5試料について珪藻化石を調べた。その結果、分析No. 1 (22層) と分析No. 3 (50層) の堆積時にはジメジメとした湿った陸域環境であったと推定された。分析No. 2 (47層)、No. 4 (51層)、No. 5 (52層) の堆積時は、珪藻が繁茂することができない乾いた環境か堆積速度が速い環境であったと推定された。

#### 引用文献

- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.  
 小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.

表2 堆積物中の珪藻化石

分類群	種群	1	2	3	4	5	
<i>Actinoptychus</i>	<i>senarius</i>	?	1		1	4	
<i>Coscinodiscus</i>	<i>marginatus</i>	?		2		1	
<i>Coscinodiscus</i>	spp.	?	2			1	
<i>Grammatophora</i>	<i>macilenta</i>	?				1	
<i>Navicula</i>	<i>lyra</i>	?		1			
<i>Thalassionema</i>	<i>nitzschioides</i>	B		1		10	
<i>Thalassiosira</i>	<i>excentrica</i>	B			1		
<i>Thalassiosira</i>	spp.	?			1	1	
<i>Hantzschia</i>	<i>amphioxys</i>	Q	23		10		
<i>Melosira</i>	<i>roeseana</i>	Q	2				
<i>Navicula</i>	<i>contenta</i>	Q	1				
<i>Navicula</i>	<i>mutica</i>	Q	3				
<i>Stauroneis</i>	<i>phoenicenteron</i>	O				1	
<i>Pinnularia</i>	<i>borealis</i>	Q	6		2		
	Unknown	?	2				
	内湾指標種群 (B)		0	1	0	1	10
	海水不明種 (?)		3	3	0	2	8
	沼沢湿地付着生指標種群 (O)		0	0	0	1	0
	陸域指標種群 (Q)		35	0	12	1	0
	不明種 (?)		2	0	0	0	0
	合計		40	4	12	5	18



図版1 堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真

1・2. *Melosira roeseana* (No. 1) 3. *Thalassionema nitzschioides* (No. 5)

4. *Hantzschia amphioxys* (No. 3) 5. *Pinnularia borealis* (No. 1)

6. *Hantzschia amphioxys* (No. 1) 7. *Hantzschia amphioxys* (No. 3)



▲ I 区 第 1 面・泥岩塊による地業の状況



▲ I 区 第 1 面 (南から)



▲ II 区 遺構 106 石垣



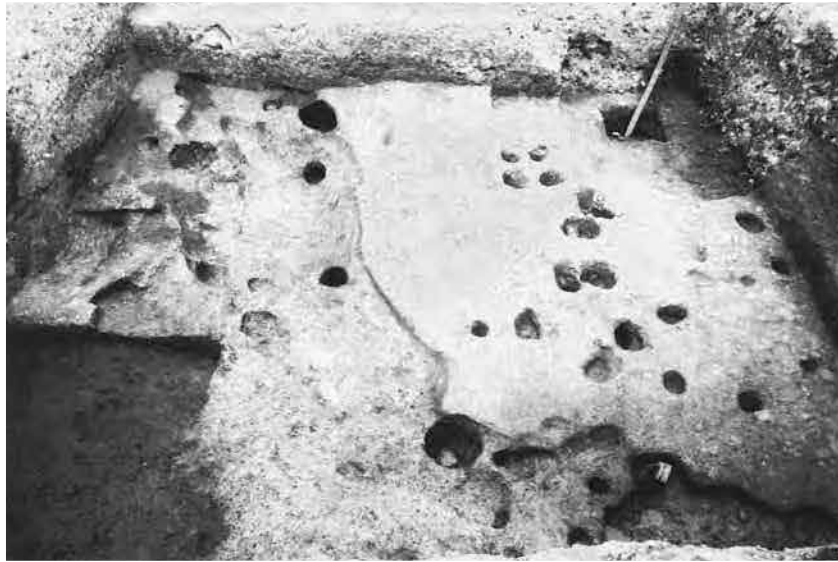
◀ I 区  
第 2 面 (北から)



◀ II 区  
第 2 面石列検出状況 (南から)



◀ II 区  
第 2 面 (西から)



▲ I区 第3面 (南から)



▲ II区 第3面 (東から)



▲ 第3面遺構 30 検出状況





▲ I 区 最終確認トレンチ（南から）



▲ I 区 南壁土層堆積（西側）



▲ I 区 南壁土層堆積（東側）



7-2

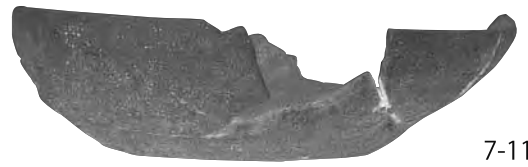
▲第1面遺構 2



7-7



7-9



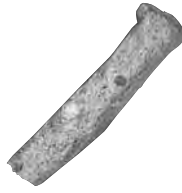
7-11

▲第1面遺構 104



7-13

▲第1面遺構 105



8-1

▲第1面遺構 106 石垣裏込



9-2

▲第1面面上



9-5



9-6



9-7



9-8



9-11



9-12



9-16



9-23



9-28



9-29



9-30



9-34



9-36

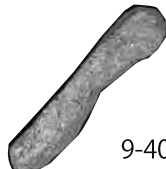


9-43

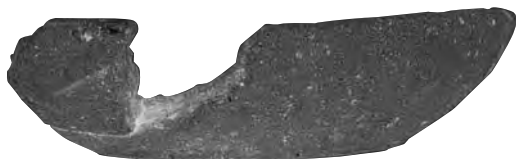
▲第1面構成土



9-39



9-40

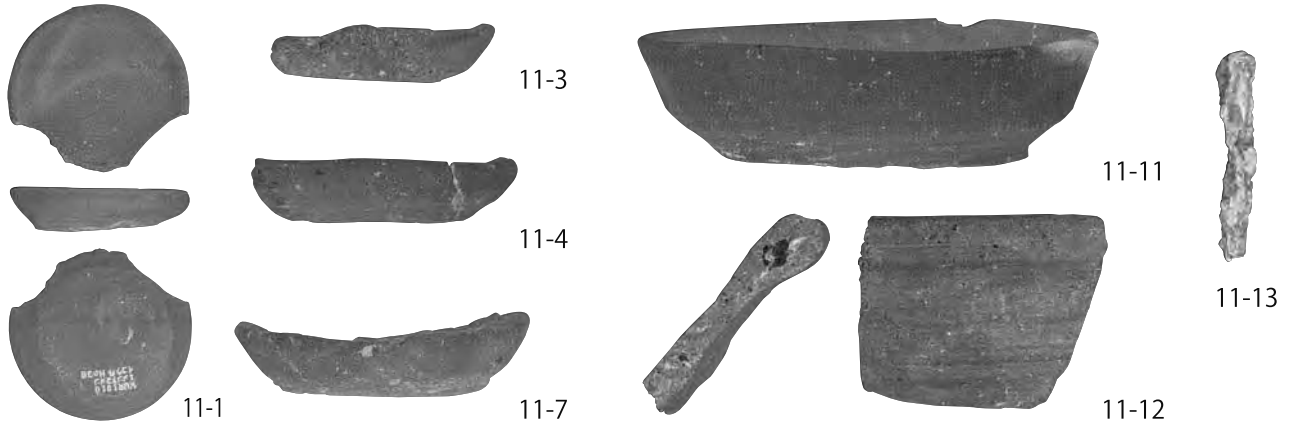


10-1

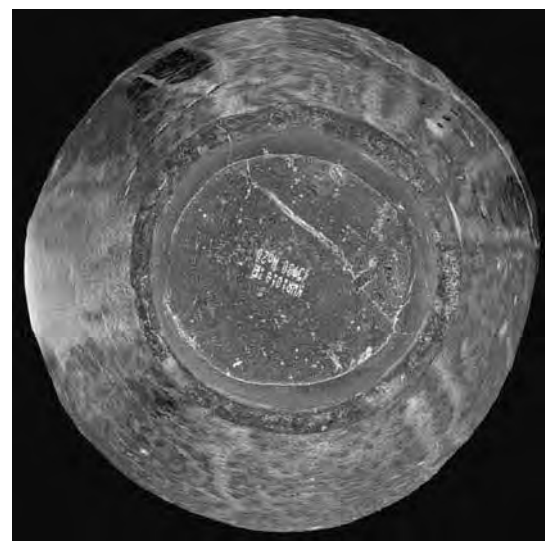
▲第2面遺構 112



10-2



▲第 2 面構成土



▲第 3 面遺構 30

▲第 3 面遺構 31



16-9



16-10



17-11

▲第3面遺構 41



17-12



17-16



17-13



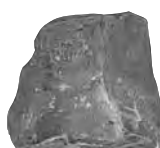
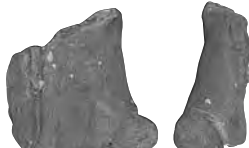
17-19

▲第3面遺構 115

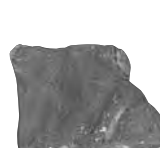
▲第3面遺構 118



18-1



18-8



18-9

▲第3面上



18-13



18-14



18-17



18-23

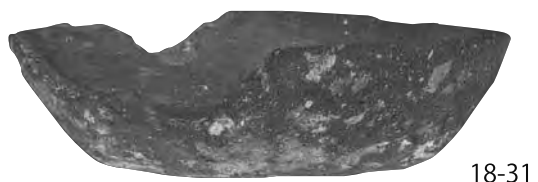
▲第3面構成土



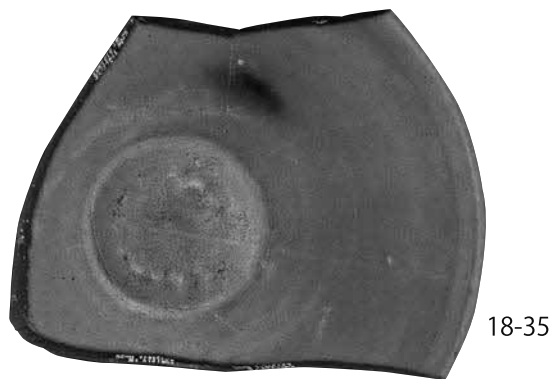
18-26



18-28



18-31



18-35

▲第3面構成土



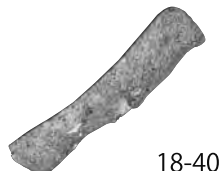
18-36



18-37



18-39



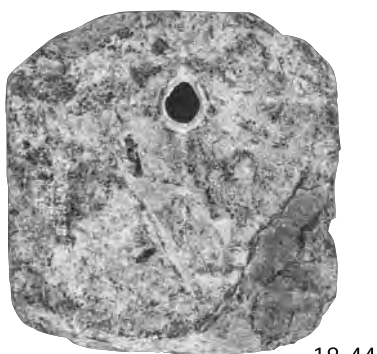
18-40



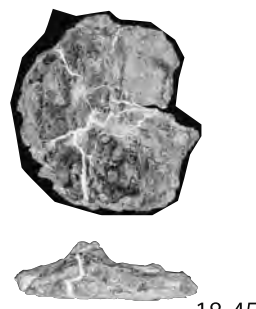
18-42



18-43



18-44



18-45



18-46

▲第3面構成土



19-1



19-2



19-3



19-4



19-5

▲表土

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	平成30年度調査報告							
巻次	35 (第1分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	福田 誠/押木弘己/押木弘己/田畑衣理/伊丹まどか/伊丹まどか							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦2019年3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				(㎡)	
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	神奈川県鎌倉市 大町三丁目 1230番4、7、10	14204	231	35° 18' 52"	139° 33' 27"	20060213 ～ 20060228	5.00	個人専用住宅 (鋼管杭工事)
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 二階堂字荏柄 3番6外	14204	49	35° 19' 24"	139° 33' 47"	20061030 ～ 20070115	122.40	個人専用住宅 (柱状改良工事)
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 二階堂字荏柄 3番6外	14204	49	35° 19' 24"	139° 33' 47"	20080228 ～ 20080423	54.00	個人専用住宅 (柱状改良工事)
げばしゅうへんいせき 下馬周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜二丁目 113番5、9	14204	200	35° 18' 56"	139° 32' 50"	20091013 ～ 20091113	12.00	自己用店舗併用住宅 (柱状改良工事)
かわごえしげよりていあと 川越重頼邸跡	神奈川県鎌倉市 浄明寺五丁目 423番1、4	14204	270	35° 19' 05"	139° 34' 29"	20100701 ～ 20100826	45.00	個人専用住宅 (表層改良工事)
くわがやつりょうびょういんあと 桑ヶ谷療病院跡	神奈川県鎌倉市 長谷三丁目 630番1	14204	294	35° 18' 51"	139° 32' 01"	20110128 ～ 20110428	107.00	店舗併用住宅 (鋼管杭工事)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	城館跡	古墳時代・中世	溝、柱穴	土師器、かわらけ、国産陶器	柱穴や溝等中世の生活痕跡を検出。
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	都市遺跡	中世	道路状遺構、掘立柱建物、土坑、溝、ピット	弥生土器、かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、瓦、金属製品、石製品、土製品	12世紀末～14世紀前葉の遺構を確認。12世紀末～13世紀初頭の縁のつく掘立柱建物、13世紀第2四半期～14世紀前葉に存続する道路を検出。道路は現在の荏柄天神社参道に並行。
おおくらばくふしゅうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	都市遺跡				
げばしゅうへんいせき 下馬周辺遺跡	都市遺跡	中世	土坑、ピット、方形堅穴建物、溝状遺構、	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、木製品、金属製品、石製品、骨製品	13世紀後半～14世紀の遺構を確認。建物は短期間に4回建替えられていた。
かわごえしげよりていあと 川越重頼邸跡	城館跡	中世	土坑、ピット、かわらけ廃棄遺構、	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、瓦、木製品、金属製品、石製品、骨製品、須恵器	13世紀～15世紀前半の生活面を確認。第1面でかわらけ廃棄遺構を検出。
くわがやつりょうびょういんあと 桑ヶ谷療病院跡	病院跡 遺物散布地	中世	溝、土坑、ピット、石列、柱穴列、掘立柱建物	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、金属製品、石製品	14世紀後半～15世紀の3面の地業層を確認。谷を雛壇状に造成した形跡。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 35

平成30年度発掘調査報告

(第1分冊)

発行日 平成31年3月29日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印刷 文一堂印刷株式会社